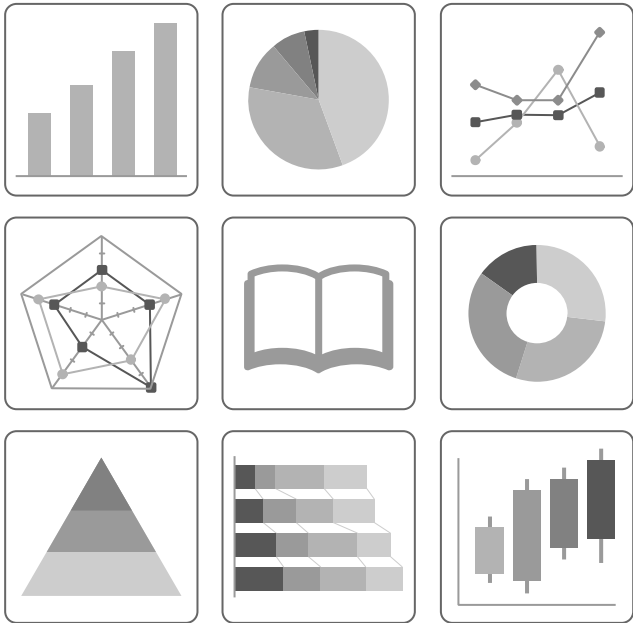


松戸市 障害者計画策定のためのアンケート調査 調査結果報告書



令和5年1月

松戸市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	2
4	調査方法	2
5	回収状況	2
6	調査結果の表示方法	2
II	調査結果	5
1	障害者（18歳以上）調査	5
	（1）回答者属性	5
	（2）コミュニケーション手段について	11
	（3）健康と医療について	14
	（4）日常生活について	17
	（5）障害福祉サービスの利用について	27
	（6）相談支援について	37
	（7）住まいや生活について	39
	（8）日中の過ごし方について	41
	（9）外出（社会参加等）について	54
	（10）地域活動や文化・スポーツ活動、交流などについて	62
	（11）障害のある人への権利擁護について	71
	（12）防災対策について	79
	（13）相談、情報提供や今後望まれる施策などについて	87
2	障害児（18歳未満）調査	101
	（1）回答者属性	101
	（2）コミュニケーション手段について	109
	（3）健康と医療について	114
	（4）日常生活について	117
	（5）障害福祉サービスの利用について	123
	（6）相談支援について	135
	（7）現在や将来の生活について	138

(8) 日中の過ごし方について	139
(9) 外出（社会参加等）について	147
(10) 地域活動や文化・スポーツ活動、交流などについて	153
(11) 障害のある人への権利擁護について	161
(12) 防災対策について	169
(13) 相談、情報提供や今後望まれる施策などについて	177
3 市民調査	191
(1) 回答者属性	191
(2) 障害のある人との交流などについて	192
(3) 障害者相談支援について	203
(4) 地域での福祉活動について	206
(5) 福祉のまちづくりについて	212
(6) 障害のある人への福祉について	214
(7) 「手話」について	216
4 医療的ケア児実態・ニーズ調査	223
(1) 医療的ケアが必要なお子様について	223
(2) ご家族について	236
(3) 医療的ケアに伴う家族の不安等について	244
(4) サービス利用について	246
(5) ホームヘルパー等による医療的ケアについて	253
(6) 医療的ケア児に対する教育・保育支援について	255
(7) 災害時・緊急時の対策について	261
5 障害福祉サービス事業所調査	271
(1) 貴事業所の概要について	271
(2) 事業所の運営状況等について	285
(3) サービス提供について	293
(4) 障害のある人の虐待防止について	305
(5) 災害時の対策について	306
(6) 感染症対策について	308
(7) 障害のある人の差別解消について	310
(8) 医療的ケア児への支援の実施について	311
(9) 看護師による医療的ケア児への支援の実施について	316
(10) 介護職員による医療的ケアの実施について	317
(11) その他の医療的ケア児支援について	319
(12) 医療的ケア児の相談支援について	320
(13) 市への要望等について	327
Ⅲ 調査結果のまとめ	331
1 地域共生社会の実現に向けた相互理解の促進	331
(1) 市民意識について	331

(2) 地域福祉活動について	331
(3) 権利擁護について	331
2 ライフステージに応じた切れ目のない支援	332
(1) 療育について	332
(2) 教育について	332
(3) 医療的ケア児について	332
3 生きがいをもった社会参加の促進について	333
(1) 障害者の就労について	333
(2) 地域とつながるスポーツ・文化活動等について	334
4 自立した地域生活の支援	334
(1) 障害の発症予防について	334
(2) 障害福祉サービスについて	335
(3) 生活の安定のための支援について	335
(4) 相談支援について	335
(5) 情報アクセシビリティについて	336
5 安全・安心なまちづくりの推進	336
(1) 生活しやすいまちづくり	336
(2) 防犯・防災及び感染症について	337
(3) 感染症対策について	337

I 調査の概要

1 調査の目的

今後の障害者施策の推進を図るため、現行の障害者計画を見直し、令和6年度から始まる次期計画の策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

区分	調査対象	対象数
①障害者 (18歳以上)調査	市内在住の18歳以上の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者、難病指定を受けている方	4,000人
②障害児 (18歳未満)調査	市内在住の18歳未満の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者、難病指定を受けている方	1,000人
③市民調査	市内在住の①障害者調査、②障害児調査、④医療的ケア児実態・ニーズ調査に該当しない方	1,000人
④医療的ケア児 実態・ニーズ調査	市内の医療的ケア児およびその保護者	85人
⑤障害福祉サービス 事業所調査	障害福祉サービス等を提供している市内の全事業所	287カ所

区分	調査の目的
①障害者 (18歳以上)調査	障害者の現在の生活の実態や課題、障害福祉サービス等の利用状況や利用意向、障害者施策に対する意見・要望等を把握する。
②障害児 (18歳未満)調査	障害児の現在の生活の実態や課題、障害福祉サービス等の利用状況や利用意向、障害者施策に対する意見・要望等を把握する。
③市民調査	障害福祉に対する意識や意向、福祉のまちづくりに向けた意見等を把握する。
④医療的ケア児 実態・ニーズ調査	本市に居住する医療的ケア児及びその家族の現状や支援ニーズ、教育・保育の現状・課題、災害時等の支援等について把握する。
⑤障害福祉サービス 事業所調査	サービスを実施している各事業所の運営状況・サービスの提供状況等の実態や課題、医療的ケアに係る取組意向や災害時の対策等について把握する。

3 調査期間

令和4年9月20日から令和4年10月7日

4 調査方法

郵送による配布・回収

インターネットによる回答


5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
障害者 (18歳以上)調査	4,000通	2,534通	63.4%
障害児 (18歳未満)調査	1,000通	599通	59.9%
市民調査	1,000通	520通	52.0%
医療的ケア児 実態・ニーズ調査	85通	43通	50.6%
障害福祉サービス 事業所調査	287通	145通	50.5%

※あて所なしで返戻となった数は以下となります。

障害者：31件、市民：3件、事業所：13件

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。また、「わからない」の選択肢の集計結果は省いています。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

障害者(18歳以上)

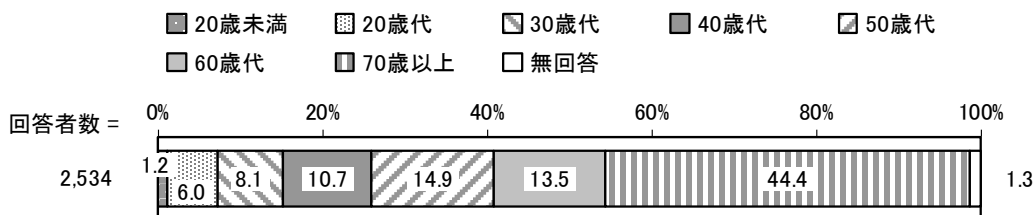
Ⅱ 調査結果

1 障害者（18歳以上）調査

（1）回答者属性

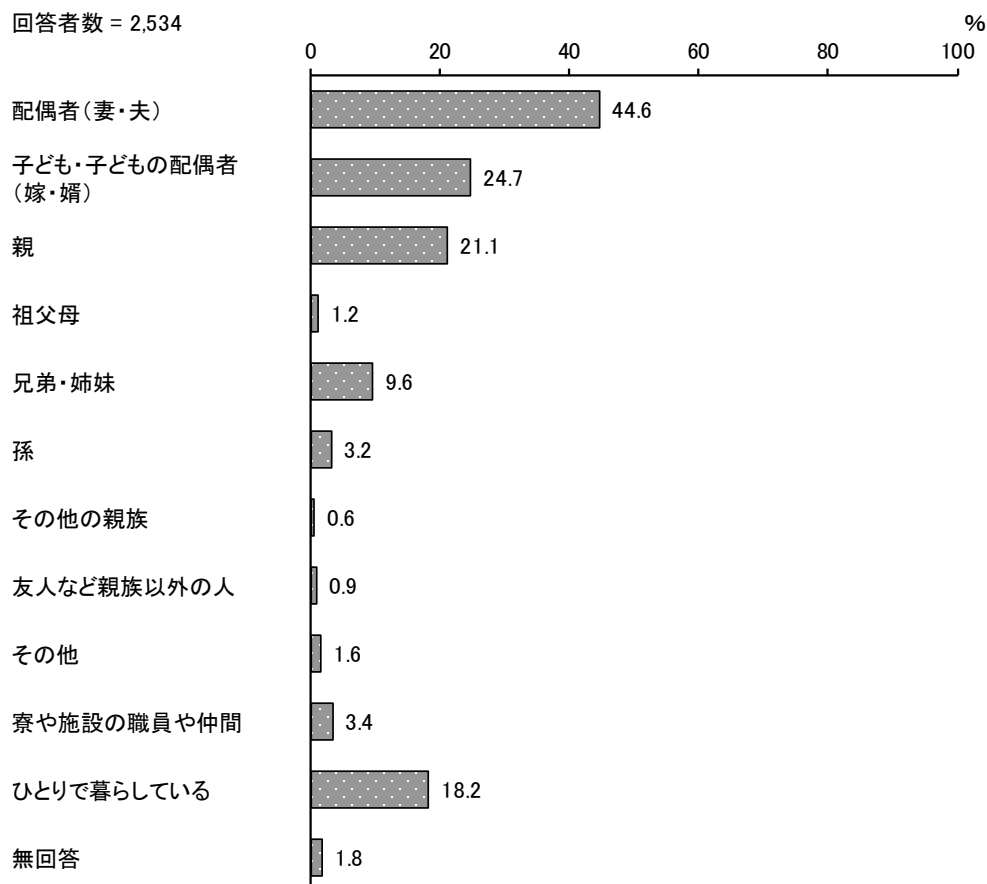
問1. あなたの年齢（口の中に数字を記入）

「70歳以上」の割合が44.4%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が14.9%、「60歳代」の割合が13.5%となっています。



問2. 現在一緒に住んでいる方はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

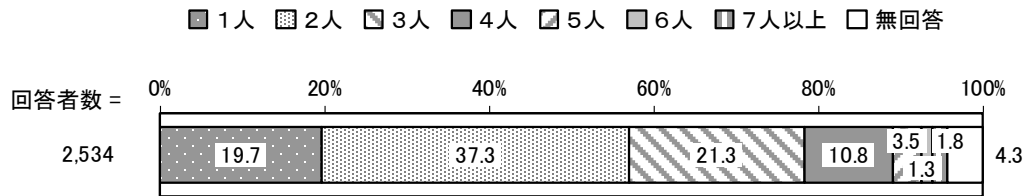
「配偶者（妻・夫）」の割合が44.6%と最も高く、次いで「子ども・子どもの配偶者（嫁・婿）」の割合が24.7%、「親」の割合が21.1%となっています。



障害者

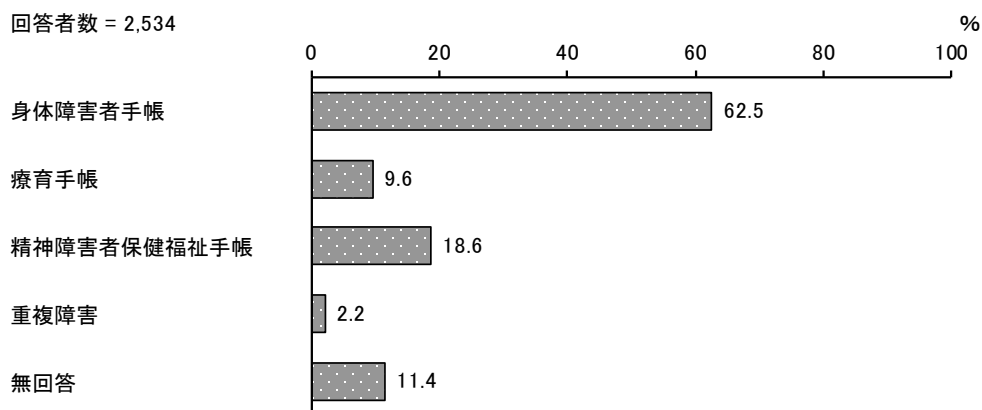
問3. 現在、一緒に住んでいる方は何人ですか。あなたご自身を含めた人数を記入してください。

「2人」の割合が37.3%と最も高く、次いで「3人」の割合が21.3%、「1人」の割合が19.7%となっています。



問4. どの手帳をお持ちですか。お持ちの手帳の種類と等級もしくは障害の程度をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

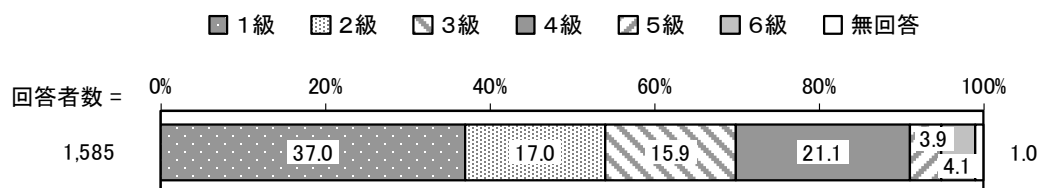
「身体障害者手帳」の割合が62.5%と最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」の割合が18.6%となっています。



※ 各手帳所持者の数値には、重複障害者の数値も含まれています。

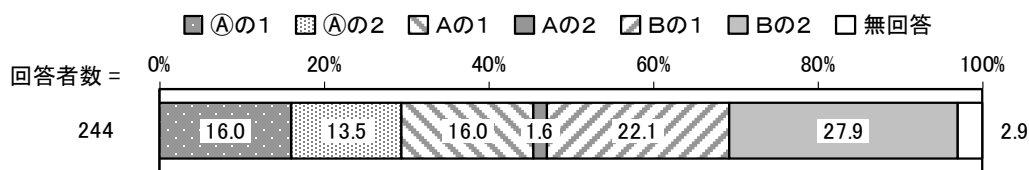
身体障害者手帳の等級

「1級」の割合が37.0%と最も高く、次いで「4級」の割合が21.1%、「2級」の割合が17.0%となっています。



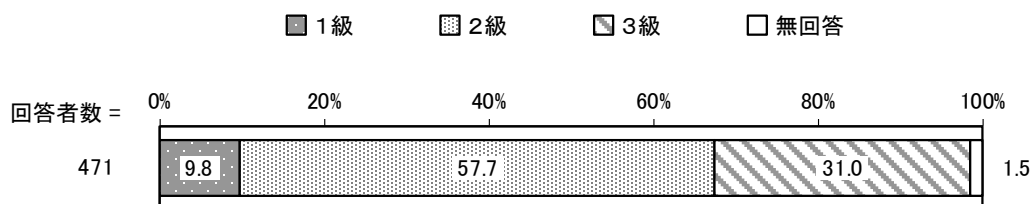
療育手帳の等級

「Bの2」の割合が27.9%と最も高く、次いで「Bの1」の割合が22.1%、「Aの1」、「Aの1」の割合が16.0%となっています。



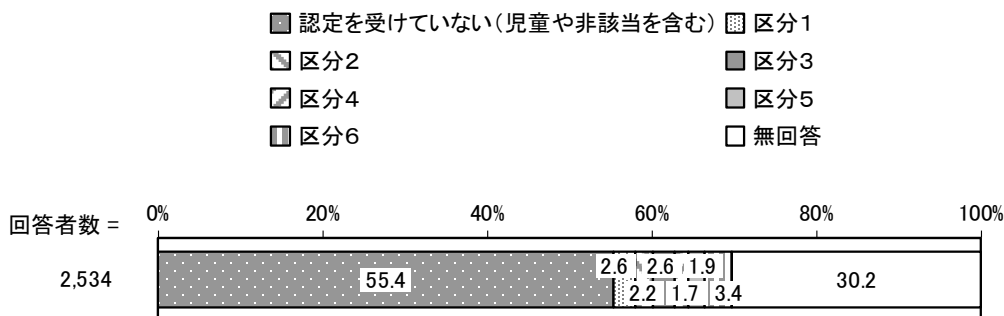
精神障害者保健福祉手帳の等級

「2級」の割合が57.7%と最も高く、次いで「3級」の割合が31.0%となっています。



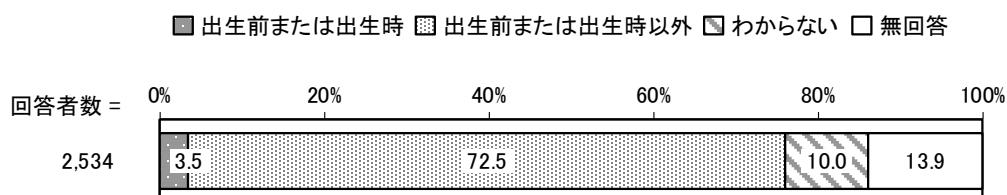
問5. あなたの障害者総合支援法での障害支援区分は、次のどれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「認定を受けていない（児童や非該当を含む）」の割合が55.4%と最も高くなっています。



問6. あなたに障害があるとわかったのはいつごろですか。（1つに○）

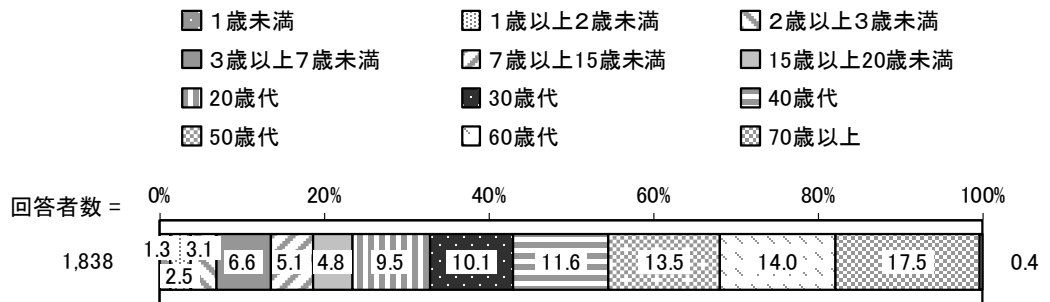
「出生前または出生時以外」の割合が72.5%と最も高く、次いで「出生前または出生時」の割合が3.5%となっています。



障害者

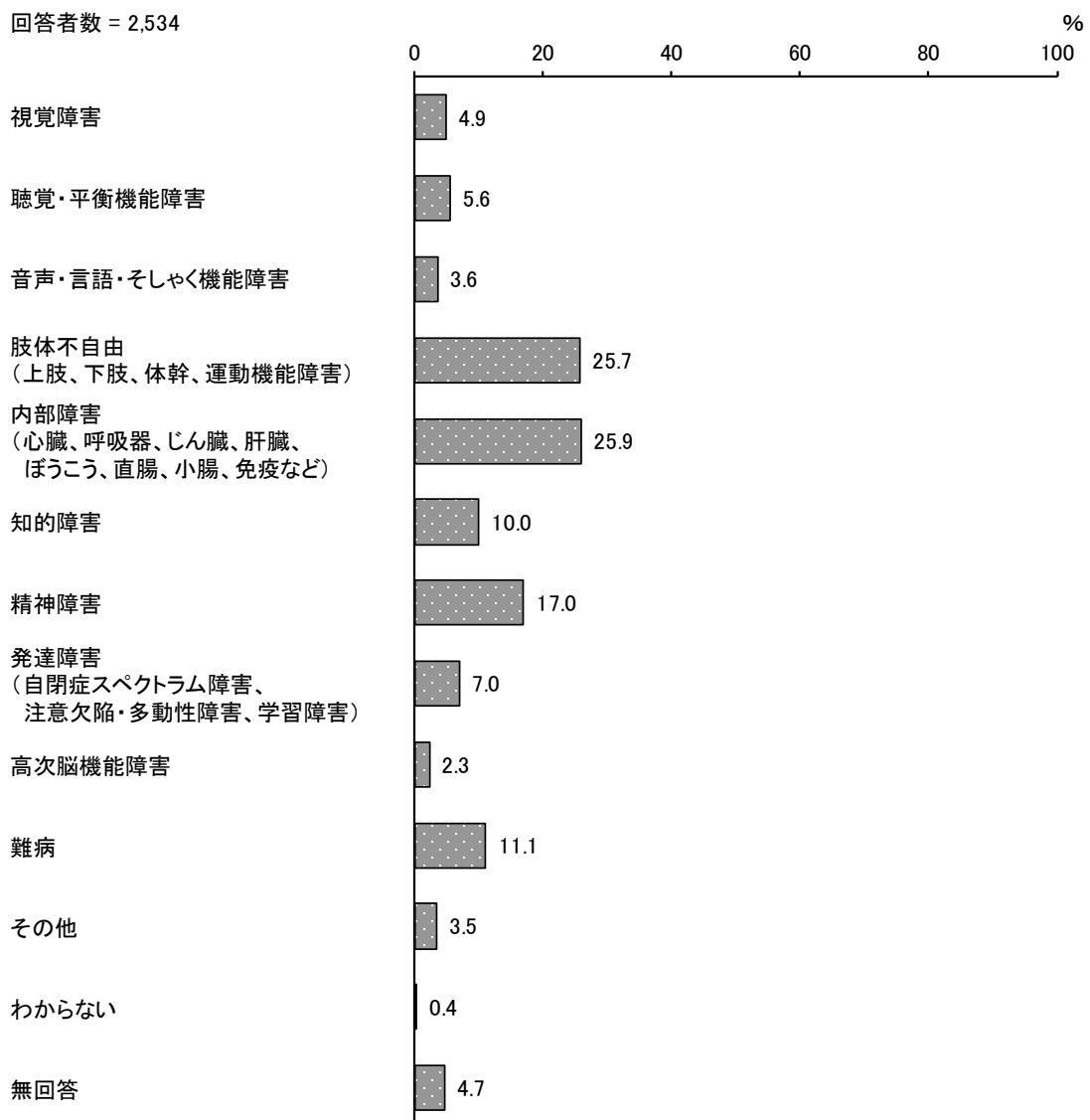
障害があるとわかった時期

「70歳以上」の割合が17.5%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が14.0%、「50歳代」の割合が13.5%となっています。



問7. あなたの障害や病気の種類は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

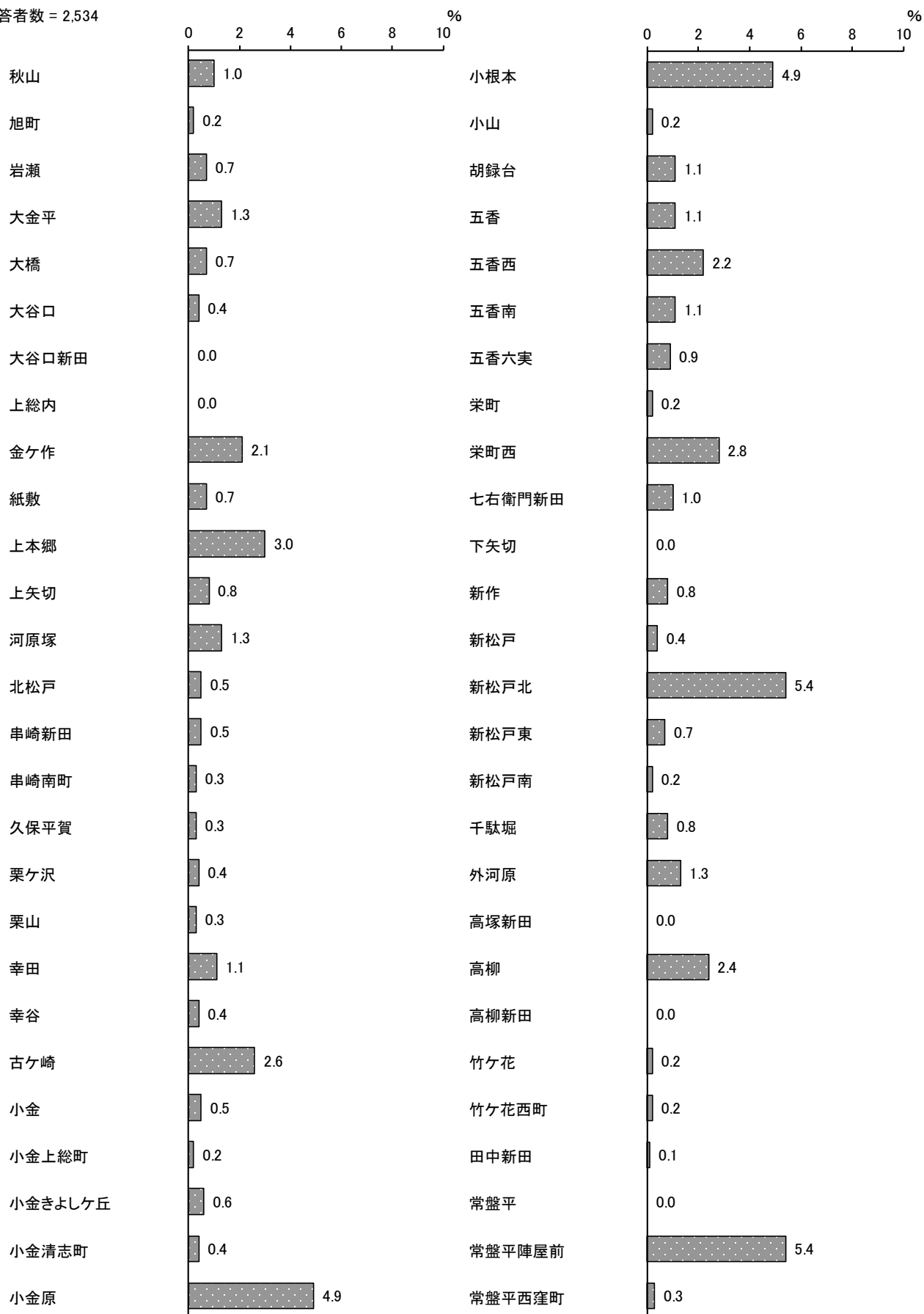
「内部障害（心臓、呼吸器、じん臓、肝臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫など）」の割合が25.9%と最も高く、次いで「肢体不自由（上肢、下肢、体幹、運動機能障害）」の割合が25.7%、「精神障害」の割合が17.0%となっています。



問8. あなたのお住まいの地域を教えてください。(1つに○)

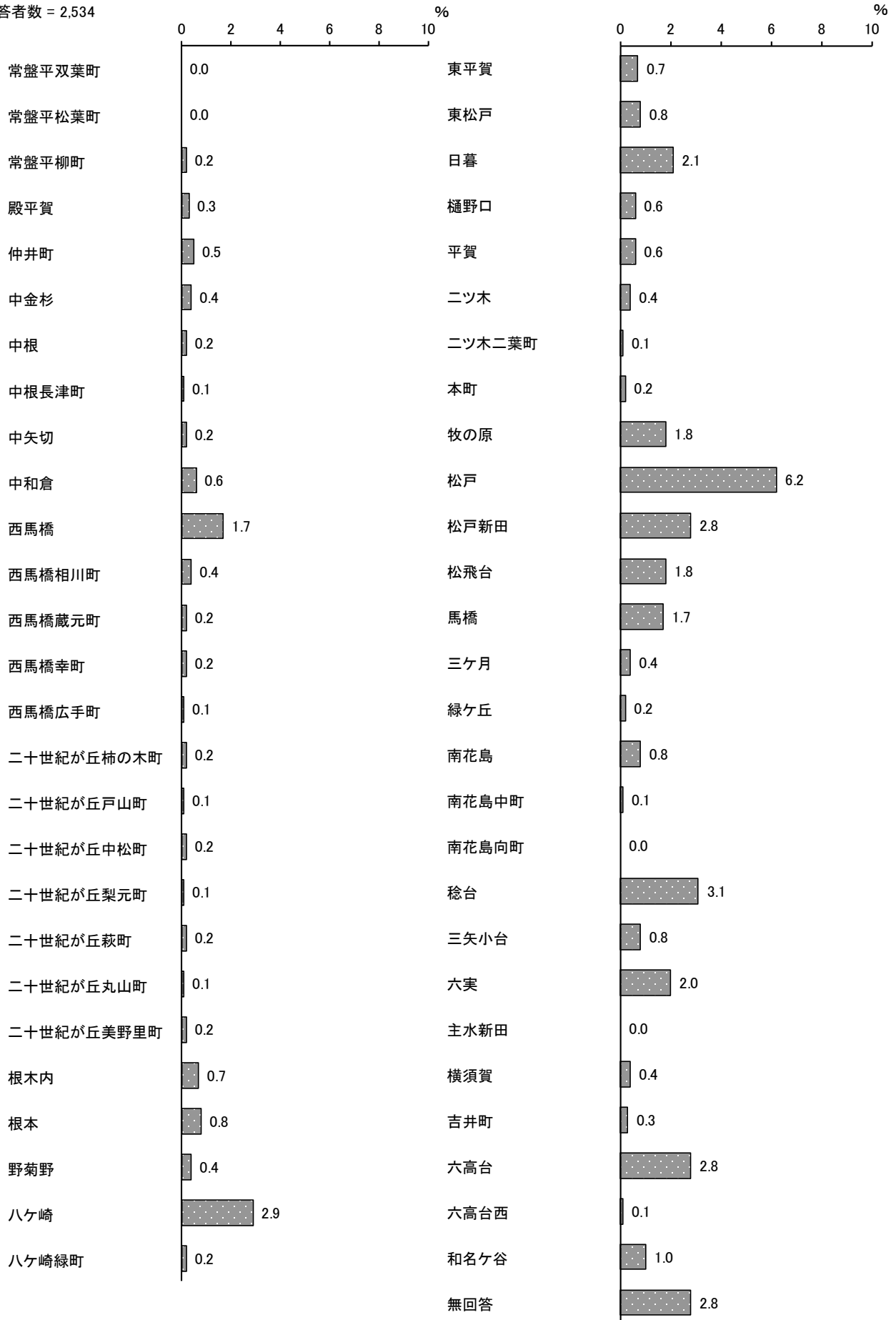
「松戸」の割合が6.2%と最も高く、次いで「新松戸北」「常盤平陣屋前」の割合が5.4%、となっています。

回答者数 = 2,534



障害者

回答者数 = 2,534

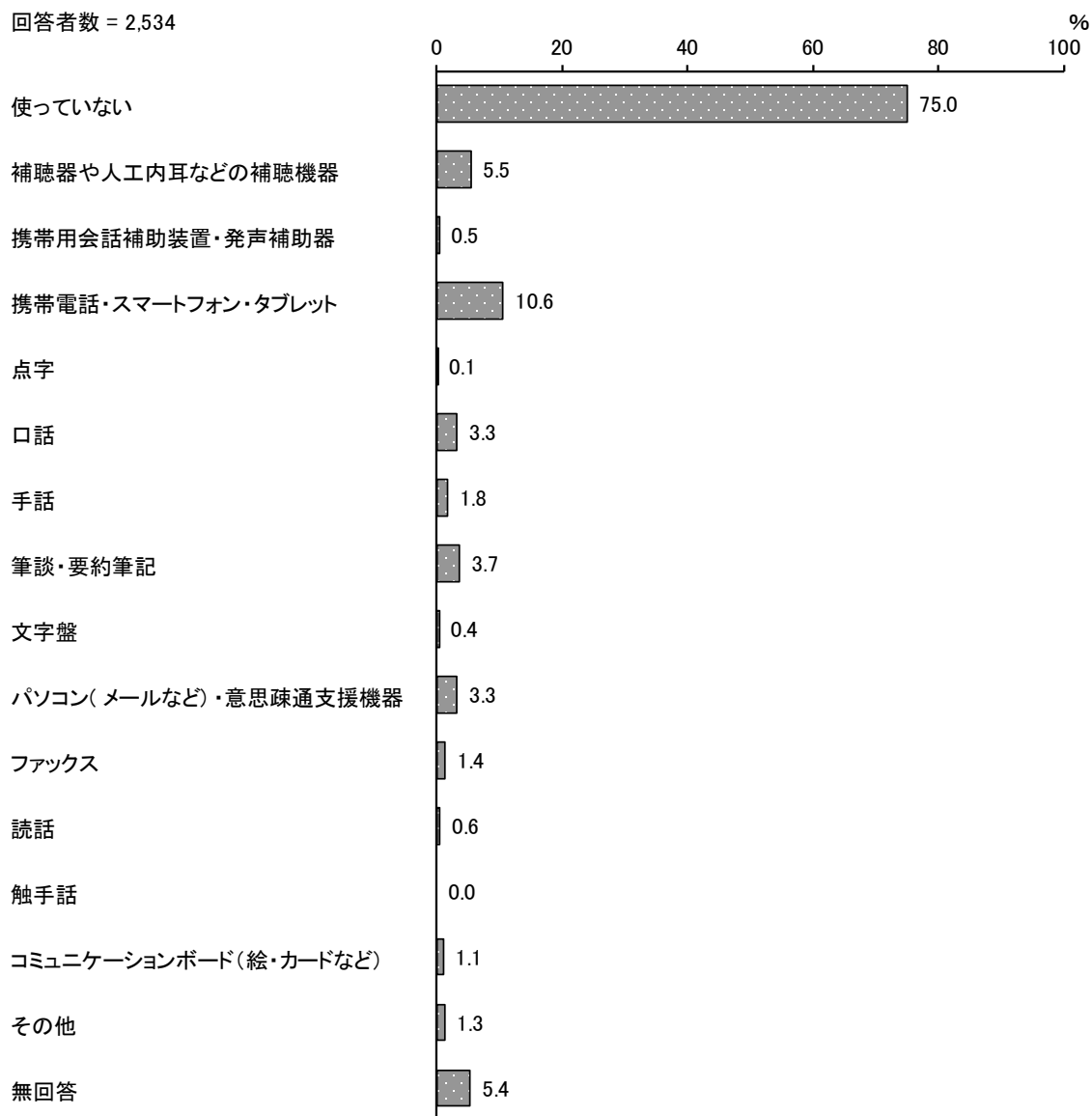


(問8 続き)

(2) コミュニケーション手段について

問9. あなたは、意思の伝達を図る場合、特別な技術や用具を使っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「使っていない」の割合が75.0%と最も高く、次いで「携帯電話・スマートフォン・タブレット」の割合が10.6%となっています。



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、聴覚・平衡機能障害で「補聴器や人工内耳などの補聴機器」「携帯電話・スマートフォン・タブレット」「口話」「手話」「筆談・要約筆記」「パソコン(メールなど)・意思疎通支援機器」「ファックス」の割合が高くなっています。

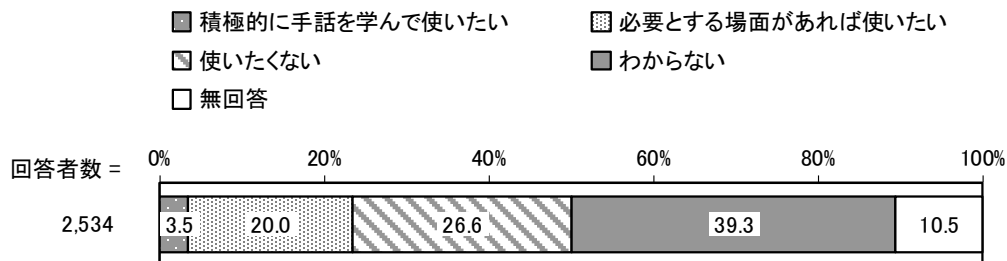
単位：％

区分	回答者数(件)	使っていない	補聴器や人工内耳などの補聴機器	携帯用会話補助装置・発声補助器	携帯電話・スマートフォン・タブレット	点字	口話	手話	筆談・要約筆記
視覚障害	124	70.2	4.0	1.6	16.9	2.4	3.2	—	0.8
聴覚・平衡機能障害	143	14.7	57.3	2.8	27.3	—	16.8	25.2	31.5
音声・言語・そしゃく機能障害	92	53.3	4.3	5.4	10.9	—	8.7	—	18.5
肢体不自由(上肢、下肢、体幹、運動機能障害)	652	79.0	2.1	0.3	8.6	—	2.6	0.3	2.8
内部障害(心臓、呼吸器、じん臓、肝臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫など)	657	79.9	4.4	0.6	9.7	—	1.4	0.3	1.4
知的障害	253	77.1	0.8	—	8.7	—	5.5	2.0	2.4
精神障害	430	77.2	0.5	—	15.6	—	3.5	0.2	3.3
発達障害(自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害)	177	73.4	0.6	—	10.7	—	5.6	—	4.5
高次脳機能障害	58	74.1	1.7	—	8.6	—	3.4	—	6.9
難病	281	78.3	1.4	0.4	8.9	—	2.8	0.4	1.1
その他	89	66.3	6.7	2.2	14.6	—	4.5	4.5	5.6

区分	文字盤	疎通支援機器(パソコン(メールなど)・意思)	ファックス	読話	触手話	カード(絵・ボード)など	その他	無回答
視覚障害	—	5.6	0.8	—	0.8	0.8	4.0	4.0
聴覚・平衡機能障害	1.4	12.6	14.0	7.7	0.7	4.2	3.5	2.8
音声・言語・そしゃく機能障害	2.2	6.5	—	1.1	1.1	5.4	5.4	2.2
肢体不自由(上肢、下肢、体幹、運動機能障害)	0.5	3.1	0.8	0.3	—	0.6	1.8	4.8
内部障害(心臓、呼吸器、じん臓、肝臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫など)	0.2	1.5	1.4	0.3	—	0.2	0.9	5.2
知的障害	1.2	1.6	0.4	0.4	—	5.9	2.8	4.0
精神障害	—	5.6	0.2	—	—	0.2	0.7	3.7
発達障害(自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害)	—	6.8	0.6	—	—	1.7	1.7	4.5
高次脳機能障害	—	3.4	—	—	—	3.4	3.4	6.9
難病	0.7	2.8	0.7	—	0.4	0.4	1.8	7.8
その他	1.1	3.4	1.1	2.2	—	2.2	2.2	5.6

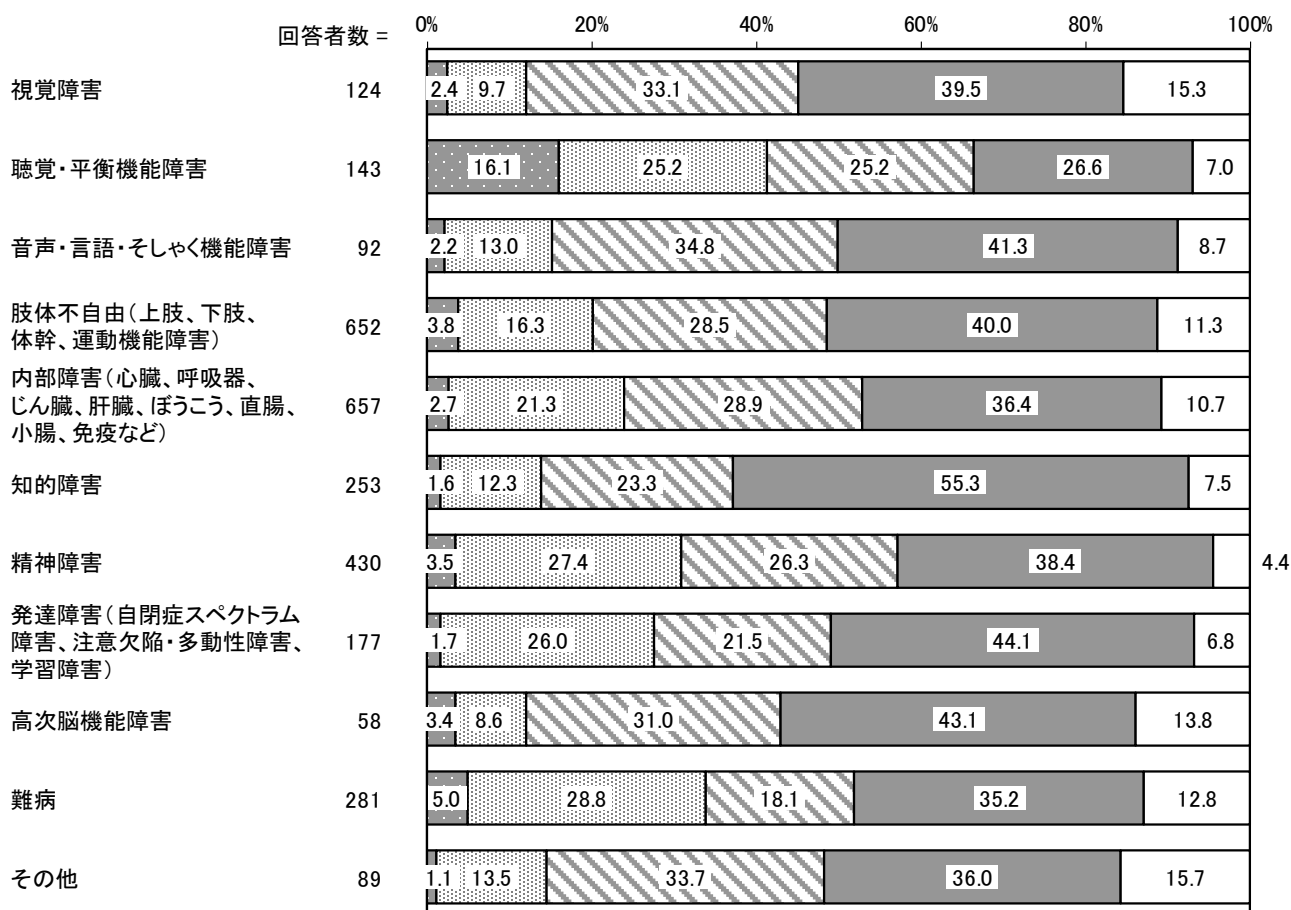
問 10. あなたはコミュニケーションの手段として手話を使ってみたいと思いますか。
(1つに○)

「使いたくない」の割合が26.6%、「必要とする場面があれば使いたい」の割合が20.0%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、聴覚・平衡機能障害で「積極的に手話を学んで使いたい」の割合が高くなっています。

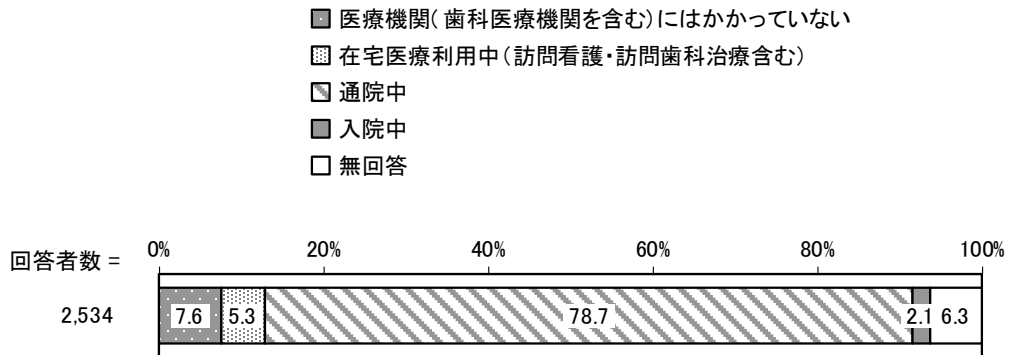


障害者

(3) 健康と医療について

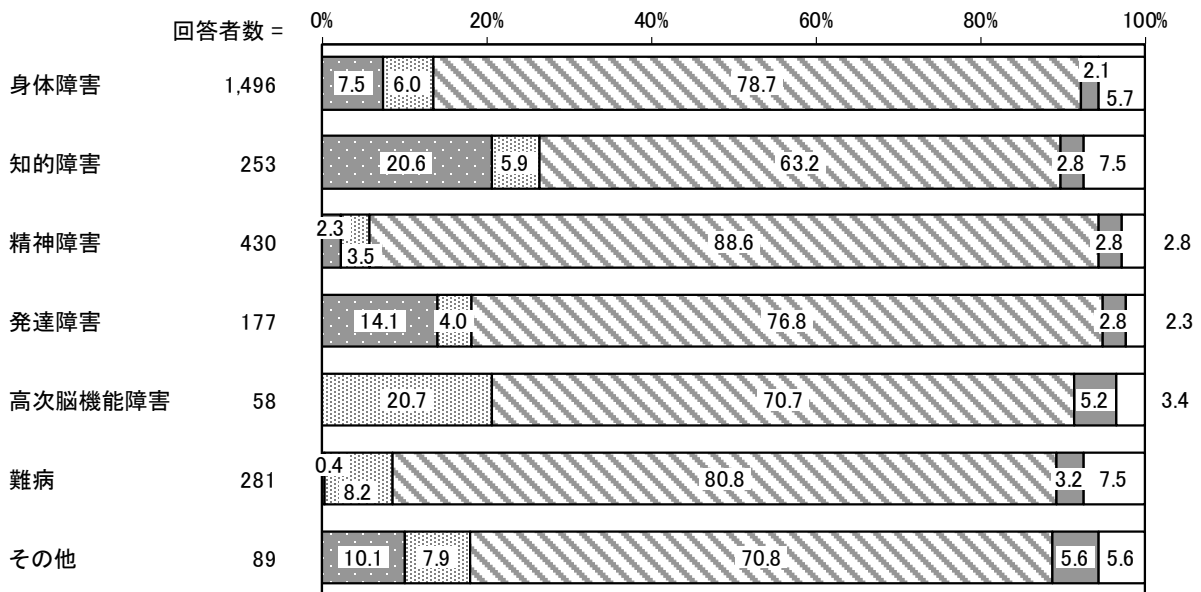
問 11. あなたの医療機関の利用状況は次のうちどれですか。(1つに○)

「通院中」の割合が78.7%と最も高くなっています。



【障害別】

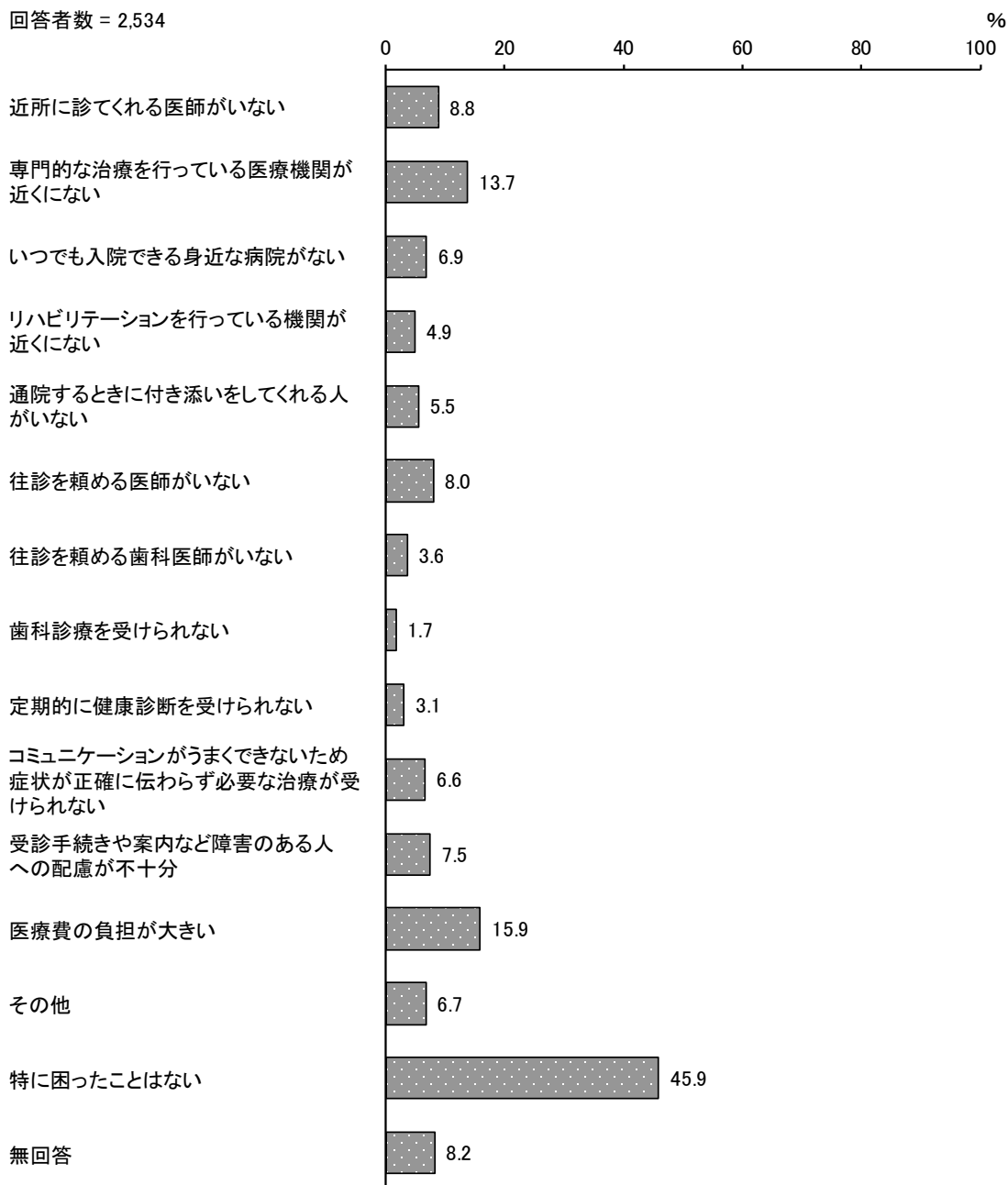
障害別でみると、他に比べ、知的障害で「医療機関(歯科医療機関を含む)にはかかっていない」の割合が、精神障害で「通院中」の割合が高くなっています。また、高次脳機能障害で「在宅医療利用中(訪問看護・訪問歯科治療含む)」の割合が高くなっています。



問 12. あなたは、健康管理や医療について困ったり、不便に思うことがありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「特に困ったことはない」の割合が 45.9%と最も高く、次いで「医療費の負担が大きい」の割合が 15.9%、「専門的な治療を行っている医療機関が近くにない」の割合が 13.7%となっています。

回答者数 = 2,534



障害者

【障害別】

障害別でみると、「コミュニケーションがうまくできないため症状が正確に伝わらず必要な治療が受けられない」について、知的障害者、発達障害者が、「専門的な治療を行っている医療機関が近くにない」について、発達障害者、難病者にて回答割合が高いことが分かります。

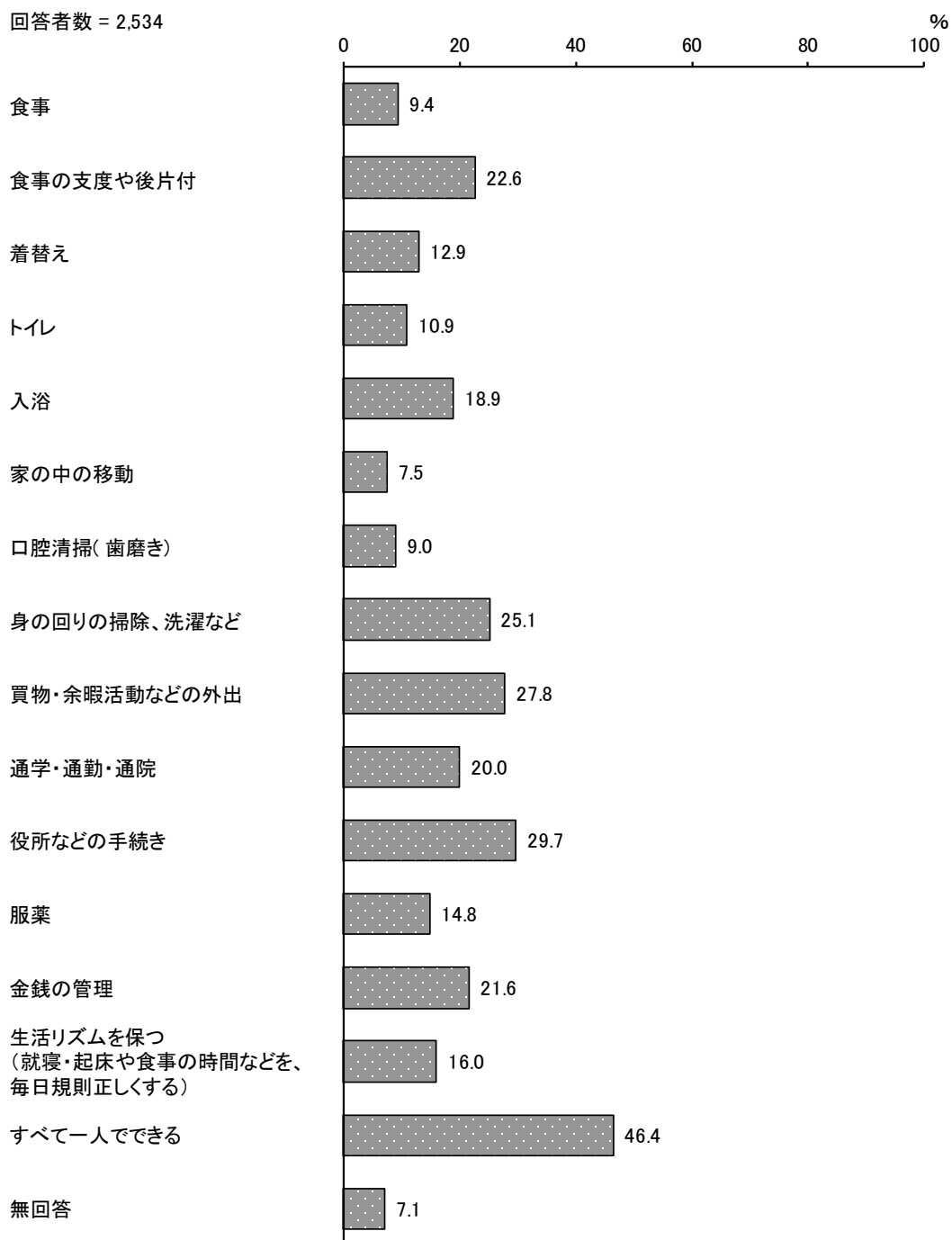
単位：％

区分	回答者数 (件)	近所に診てくれる医師がいない	専門的な治療を行っている医療機関が近くにない	いつでも入院できる身近な病院がない	リハビリテーションを行っている機関が近くにない	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない	往診を頼める医師がいない	往診を頼める歯科医師がいない	歯科診療を受けられない	定期的に健康診断を受けられない	コミュニケーションがうまくできないため症状が正確に伝わらず必要な治療を受けられない	配慮が不十分	受診手続きや案内など障害のある人への	医療費の負担が大きい	その他	特に困ったことはない	無回答
身体障害	1,496	7.3	12.0	6.5	6.3	5.8	8.6	4.3	1.5	1.7	3.7	6.5	13.0	6.6	48.6	8.4	
知的障害	253	9.5	15.0	9.1	4.7	5.1	8.3	4.3	2.0	6.3	21.3	14.2	12.6	5.5	39.5	6.7	
精神障害	430	12.8	16.7	10.0	3.5	4.7	9.5	3.7	3.3	6.7	10.7	11.4	20.7	9.8	38.6	5.6	
発達障害	177	14.7	22.0	10.7	5.1	4.5	10.2	2.8	2.8	9.0	27.1	21.5	21.5	5.1	32.2	4.0	
高次脳機能障害	58	10.3	13.8	8.6	10.3	5.2	10.3	5.2	3.4	5.2	12.1	12.1	17.2	8.6	44.8	5.2	
難病	281	13.9	28.1	8.5	7.1	6.8	8.5	3.2	1.1	1.8	2.5	3.9	29.2	7.5	35.9	8.9	
その他	89	7.9	6.7	5.6	1.1	3.4	2.2	3.4	1.1	2.2	9.0	4.5	14.6	11.2	51.7	10.1	

(4) 日常生活について

問 13. 次の中で、誰かに手伝ってもらわなければならない項目はありますか。なお、補装具や特別な技術、用具などを使用してできる場合、「一人でできる」とします。
(あてはまるものすべてに○)

「すべて一人でできる」の割合が 46.4%と最も高く、次いで「役所などの手続き」の割合が 29.7%、「買物・余暇活動などの外出」の割合が 27.8%となっています。



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「食事の支度や後片付」「着替え」「トイレ」「入浴」「家の中の移動」「買物・余暇活動などの外出」「通学・通勤・通院」の割合が、知的障害で「口腔清掃(歯磨き)」「服薬」「金銭の管理」の割合が高くなっています。

単位：％

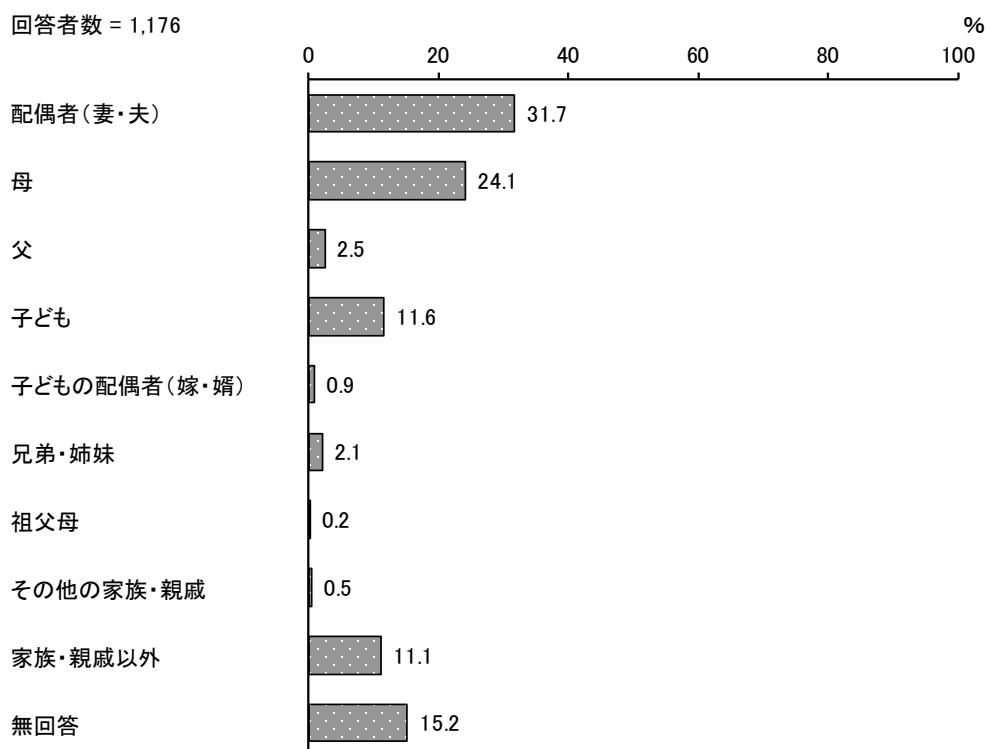
区分	回答者数 (件)	食事	食事の支度や後片付	着替え	トイレ	入浴	家の中の移動	口腔清掃(歯磨き)	身の回りの掃除、洗濯など	買物・余暇活動などの外出	通学・通勤・通院	役所などの手続き	服薬	金銭の管理	生活リズムを保つ(就寝・起床や食事の時間などを、毎日規則正しくする)	すべて一人でできる	無回答
身体障害	1,496	10.0	23.5	15.4	12.8	21.9	9.4	9.0	23.9	28.7	21.1	27.4	13.4	17.4	12.6	49.5	7.6
知的障害	253	19.8	47.0	23.7	23.3	31.6	10.3	30.8	52.6	50.6	44.3	68.8	44.7	67.2	41.5	16.2	5.1
精神障害	430	6.7	20.5	5.1	5.1	10.5	3.5	6.0	24.4	23.5	14.9	25.3	12.3	20.9	20.0	43.5	5.6
発達障害	177	10.7	35.6	9.0	10.2	17.5	2.8	15.8	40.7	31.1	26.6	58.2	26.0	46.3	40.7	22.0	2.8
高次脳機能障害	58	22.4	56.9	48.3	37.9	58.6	27.6	22.4	53.4	60.3	56.9	67.2	37.9	56.9	37.9	12.1	5.2
難病	281	13.2	24.2	18.5	15.7	21.4	11.0	8.5	25.6	27.4	20.6	25.3	15.3	15.7	14.6	54.8	6.8
その他	89	12.4	33.7	20.2	14.6	21.3	11.2	13.5	30.3	30.3	29.2	39.3	21.3	28.1	19.1	42.7	1.1

問 13 で何らかの手助けを受けていると答えた方（「1. 食事」～「14. 生活リズムを保つ（就寝・起床や食事の時間などを、毎日規則正しくする）」のうち1つでも○と答えた方）におたずねします。

問 14. 普段、主にあなたの介助（手助け）をしている方はどなたですか。介助時間の長い方から順に、下の欄から2人まで選び、次の口に番号を記入してください。

①一番長い方

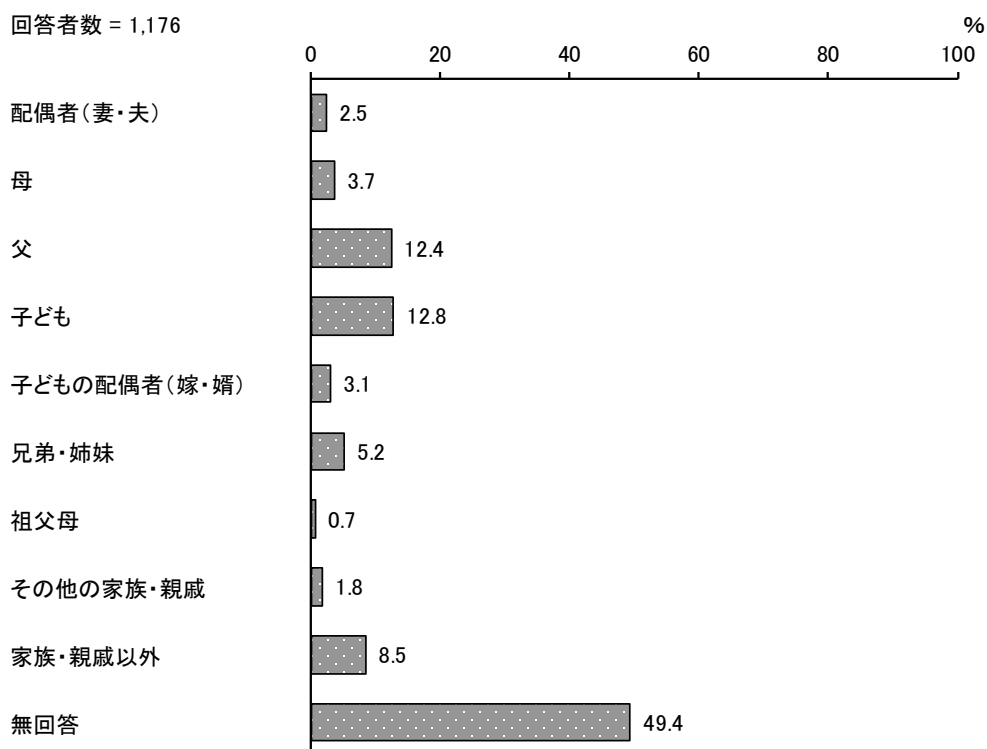
「配偶者（妻・夫）」の割合が 31.7%と最も高く、次いで「母」の割合が 24.1%、「子ども」の割合が 11.6%となっています。



障害者

②次に長い方

「子ども」の割合が12.8%と最も高く、次いで「父」の割合が12.4%となっています。

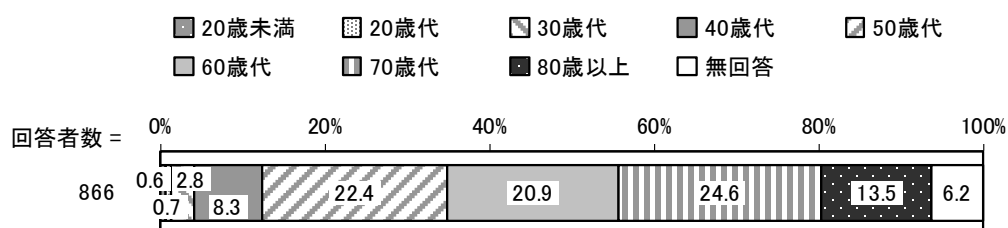


問14で①または②において、「1. 配偶者(妻・夫)」～「8. その他の家族・親戚」に○をつけた方におたずねします。

問15. 介助をしている方は何歳代ですか。あてはまるものをそれぞれ選び、次の□の中に番号を記入してください。

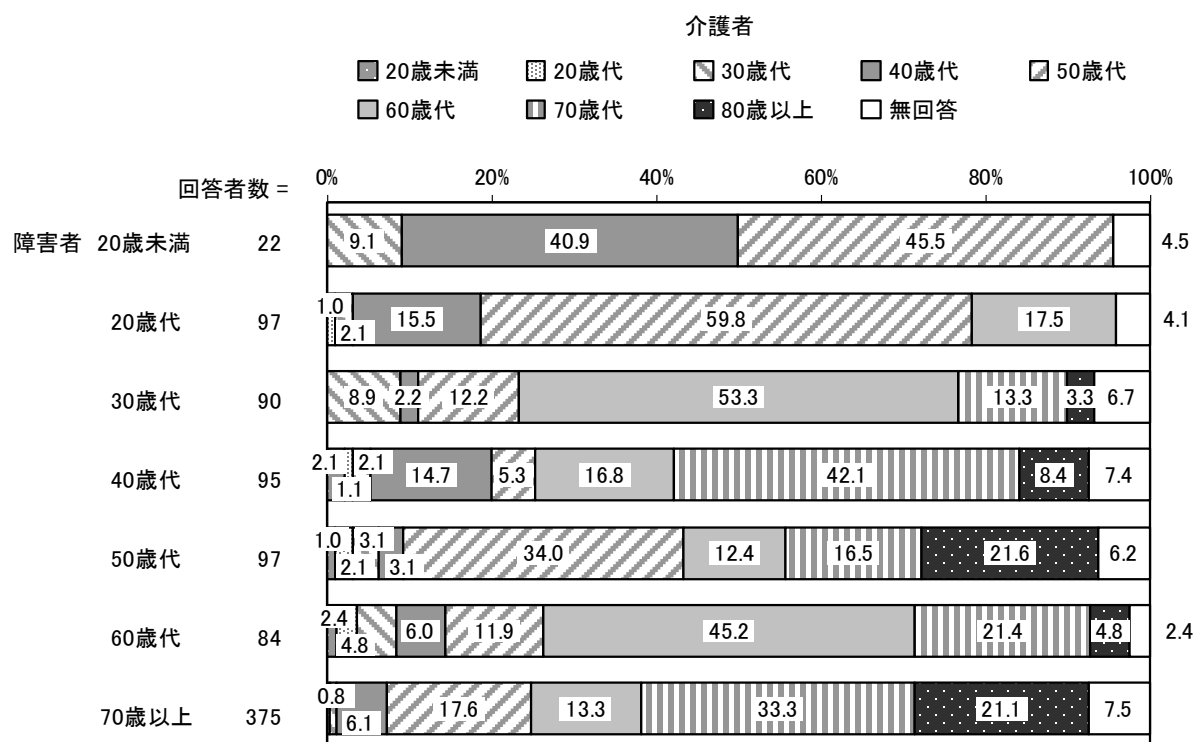
問14で①に記入した方

「70歳代」の割合が24.6%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が22.4%、「60歳代」の割合が20.9%となっています。



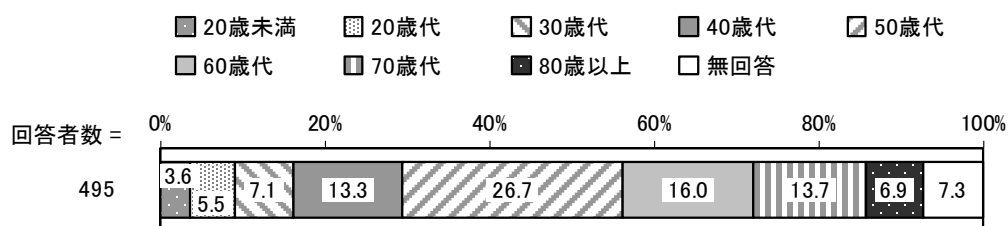
【年齢別】

年齢別でみると、60歳代以上の障害者の介護者で60歳以上の人の割合は約7割となっており、老々介護が顕著となっています。



②に記入した方

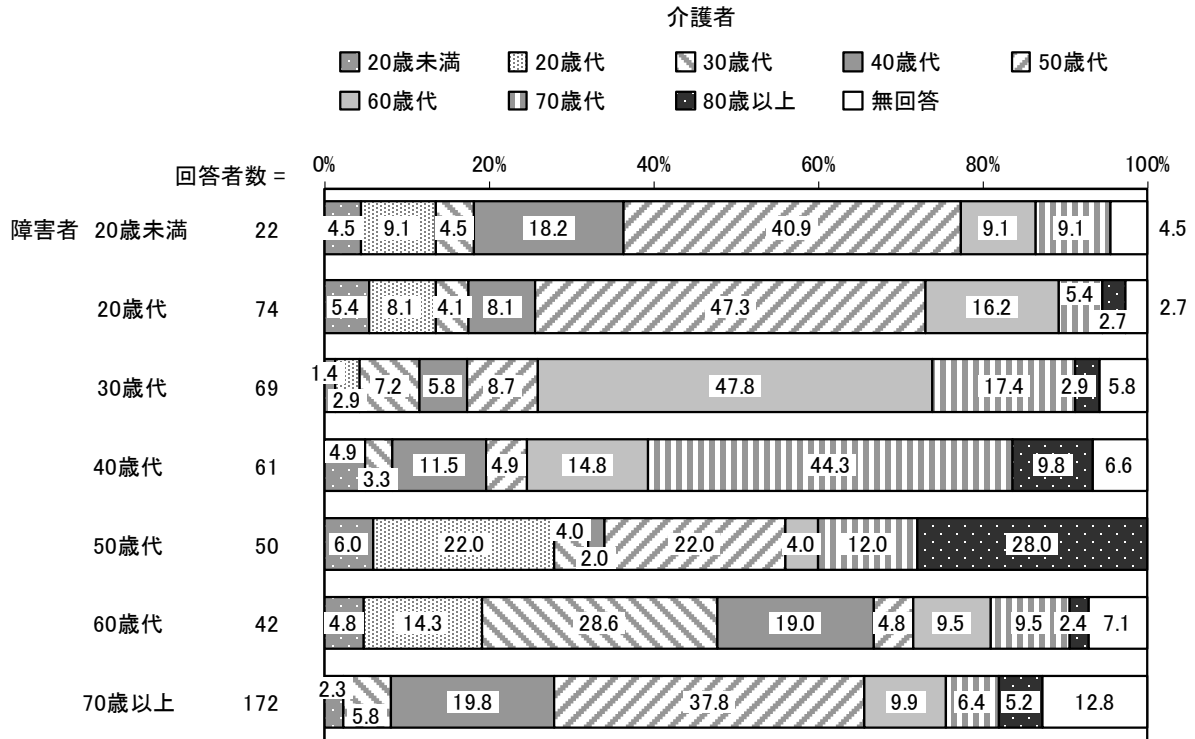
「50歳代」の割合が26.7%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が16.0%、「70歳代」の割合が13.7%となっています。



障害者

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、50歳代で「20歳代」の割合が、30歳代で「60歳代」の割合が高くなっています。また、40歳代で「70歳代」の割合が高くなっています。また、各年代で20歳未満で介護している人がいることがうかがえます。

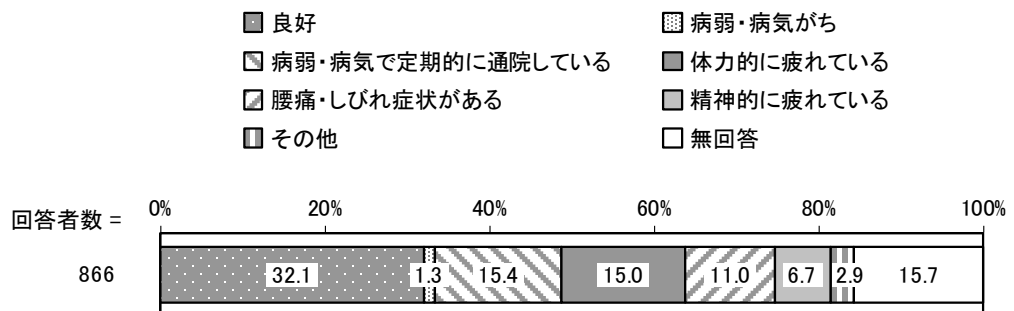


問14で①または②において、「1. 配偶者（妻・夫）」～「8. その他の家族・親戚」に○をつけた方におたずねします。

問16. 介助をしている方の健康状態はいかがですか。あてはまるものをそれぞれ選び、次の口の中に番号を記入してください。

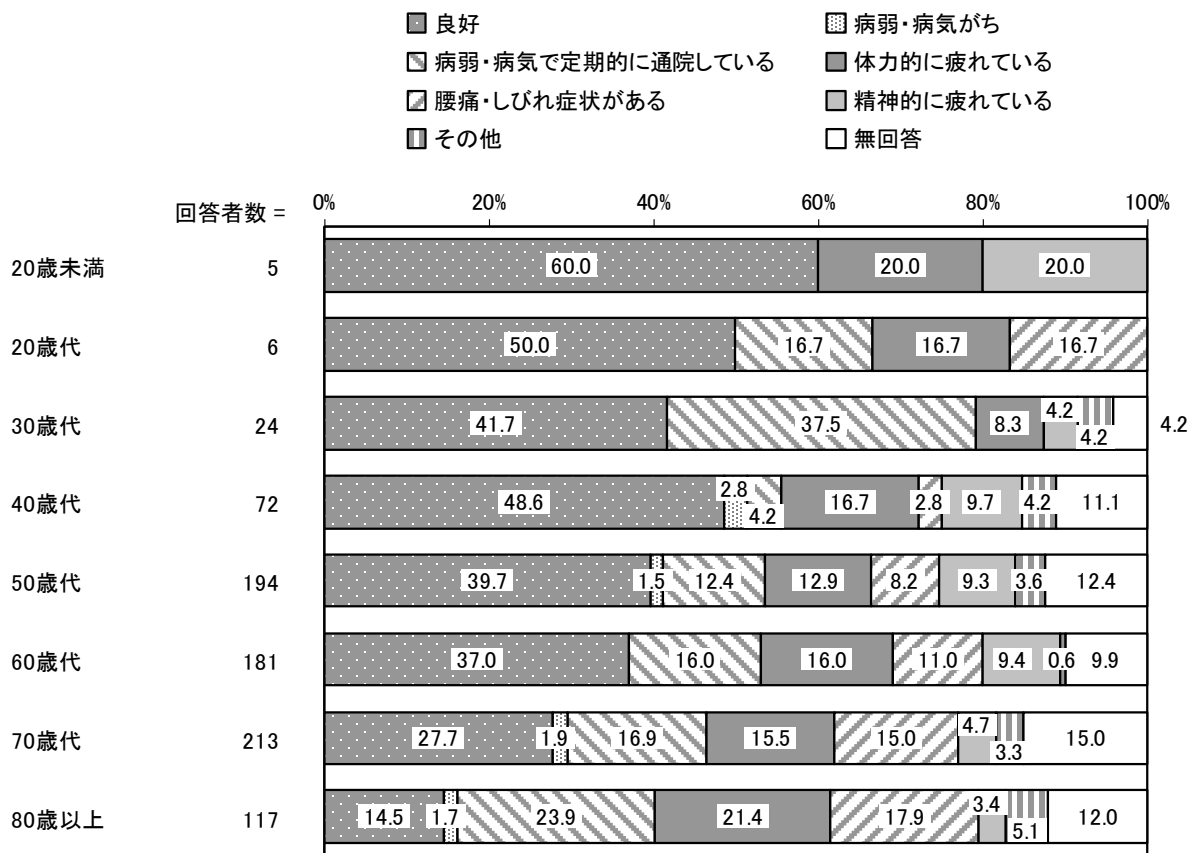
問14で①に記入した方

「良好」の割合が32.1%と最も高く、次いで「病弱・病気で定期的に通院している」の割合が15.4%、「体力的に疲れている」の割合が15.0%となっています。



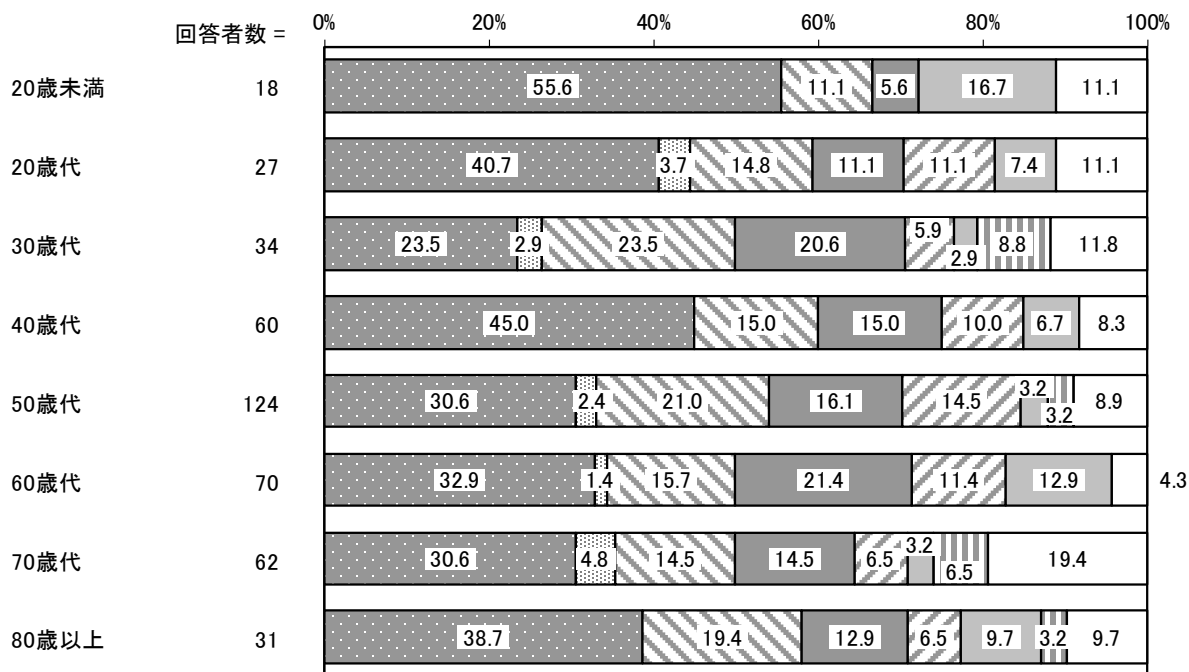
【介助時間が一番長い方の年齢別】

介助時間が一番長い方の年齢別でみると、年齢が上がるにつれ、「良好」の割合が減少し「病弱・病気で定期的に通院している」「体力的に疲れている」等の割合が高くなっています。



【介助時間が次に長い方の年齢別】

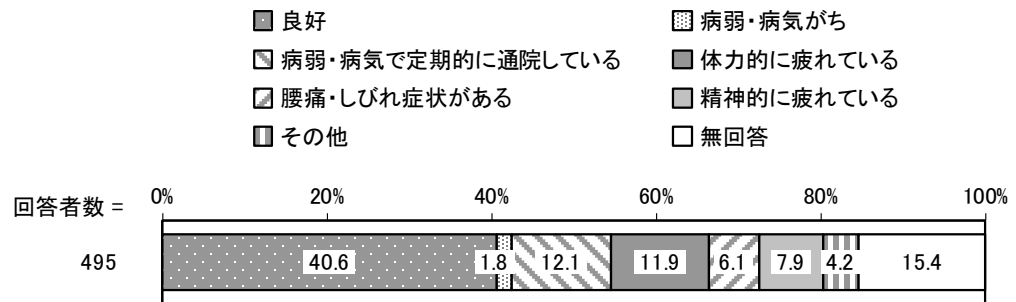
介助時間が次に長い方の年齢別でみると、他に比べ、20歳未満で「良好」の割合が、30歳代で「病弱・病気で定期的に通院している」の割合が高くなっています。



障害者

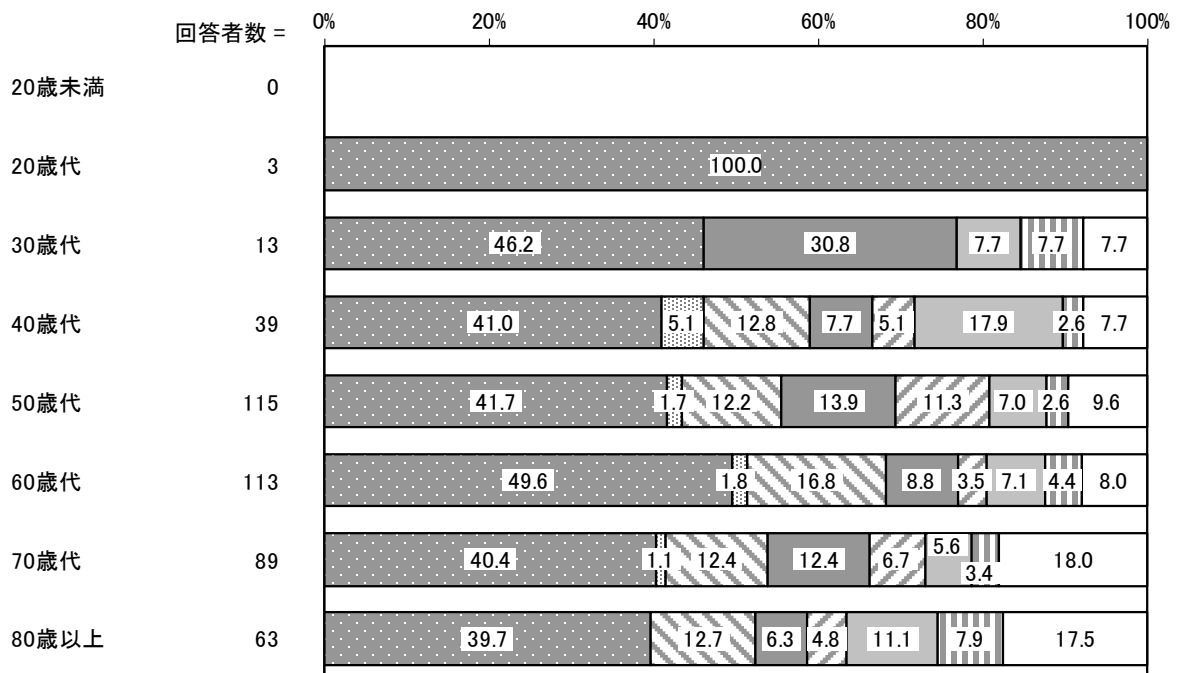
②に記入した方

「良好」の割合が40.6%と最も高く、次いで「病弱・病気で定期的に通院している」の割合が12.1%、「体力的に疲れている」の割合が11.9%となっています。



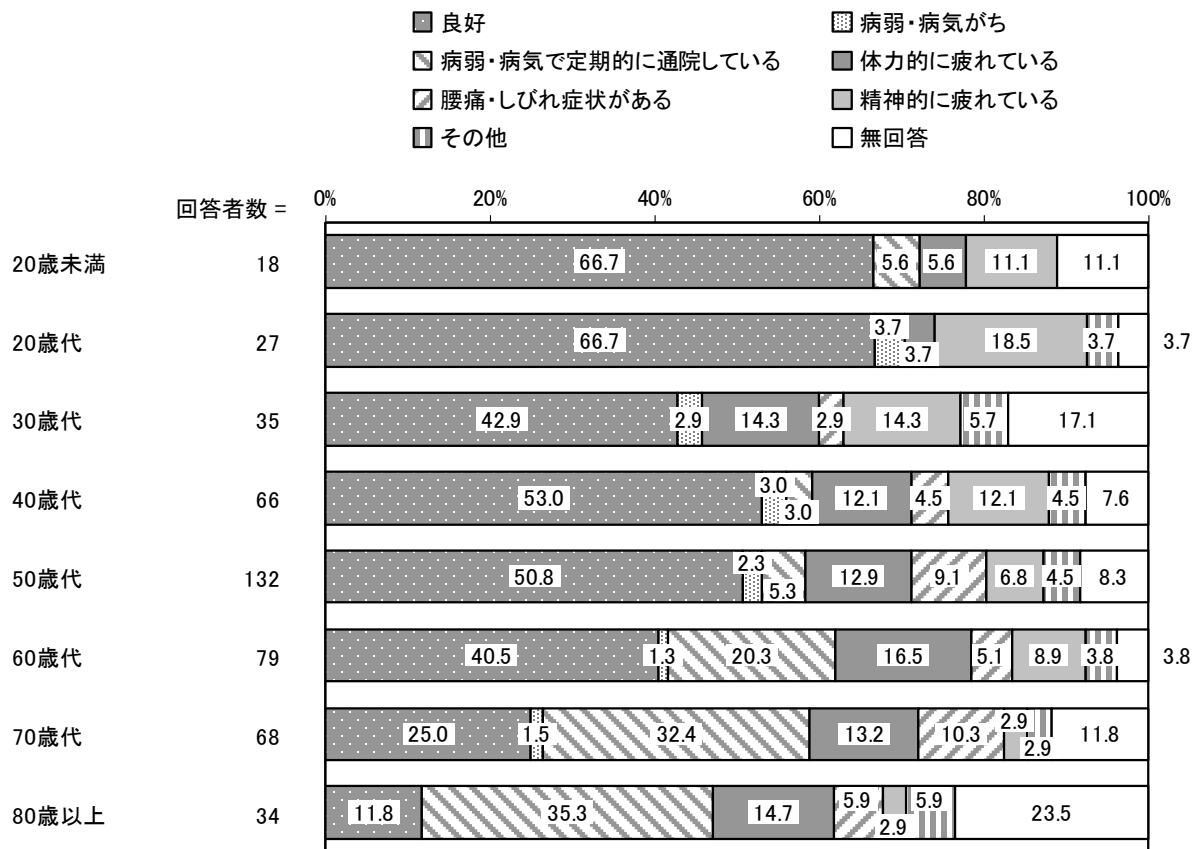
【介助時間が一番長い方の年齢別】

介助時間が一番長い方の年齢別でみると、他に比べ、30歳代で「体力的に疲れている」の割合が、40歳代で「精神的に疲れている」の割合が高くなっています。



【介助時間が次に長い方の年齢別】

介助時間が次に長い方の年齢別でみると、他に比べ、20歳未満、20歳代で「良好」の割合が、70歳代、80歳以上で「病弱・病気で定期的に通院している」の割合が高くなっています。

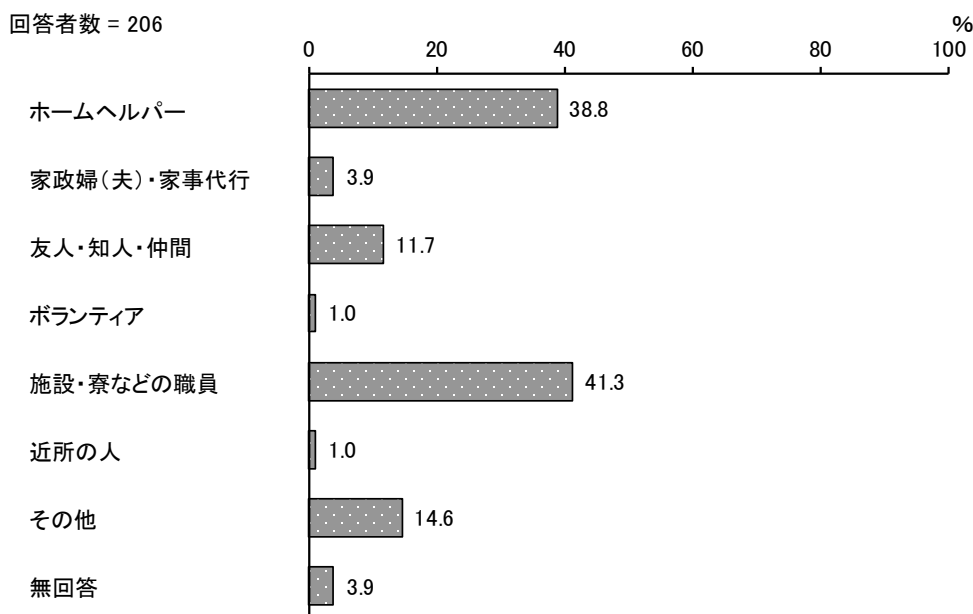


障害者

問 14 で「9. 家族・親戚以外」に○をつけた方におたずねします。

問 17. 介助をしている方はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「施設・寮などの職員」の割合が 41.3%と最も高く、次いで「ホームヘルパー」の割合が 38.8%、「友人・知人・仲間」の割合が 11.7%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病で「ホームヘルパー」の割合が、知的障害で「施設・寮などの職員」の割合が高くなっています。

単位：%

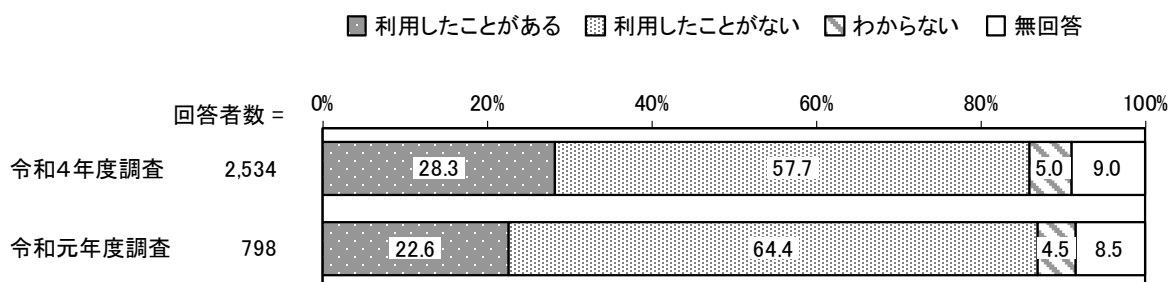
区分	回答者数 (件)	ホームヘルパー	家政婦(夫)・家事代行	友人・知人・仲間	ボランティア	施設・寮などの職員	近所の人	その他	無回答
身体障害	131	46.6	5.3	6.9	0.8	45.0	1.5	13.7	2.3
知的障害	31	22.6	—	3.2	—	77.4	—	3.2	3.2
精神障害	45	31.1	—	24.4	2.2	17.8	—	24.4	6.7
発達障害	17	11.8	—	23.5	—	47.1	—	23.5	5.9
高次脳機能障害	10	30.0	—	10.0	—	40.0	—	20.0	10.0
難病	18	55.6	5.6	11.1	—	33.3	—	22.2	5.6
その他	8	37.5	12.5	12.5	—	62.5	—	12.5	—

(5) 障害福祉サービスの利用について

問 18. 過去 1 年の間に、障害福祉サービス等を利用したことがありますか。

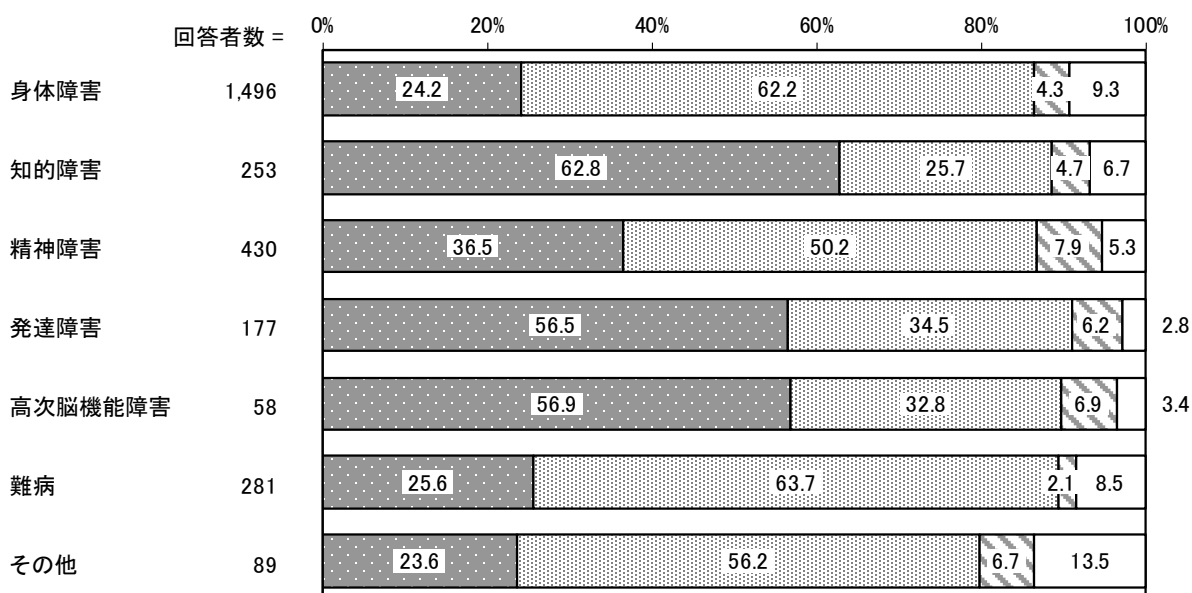
「利用したことがない」の割合が 57.7%と最も高く、次いで「利用したことがある」の割合が 28.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「利用したことがある」の割合が増加しています。一方、「利用したことがない」の割合が減少しています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。



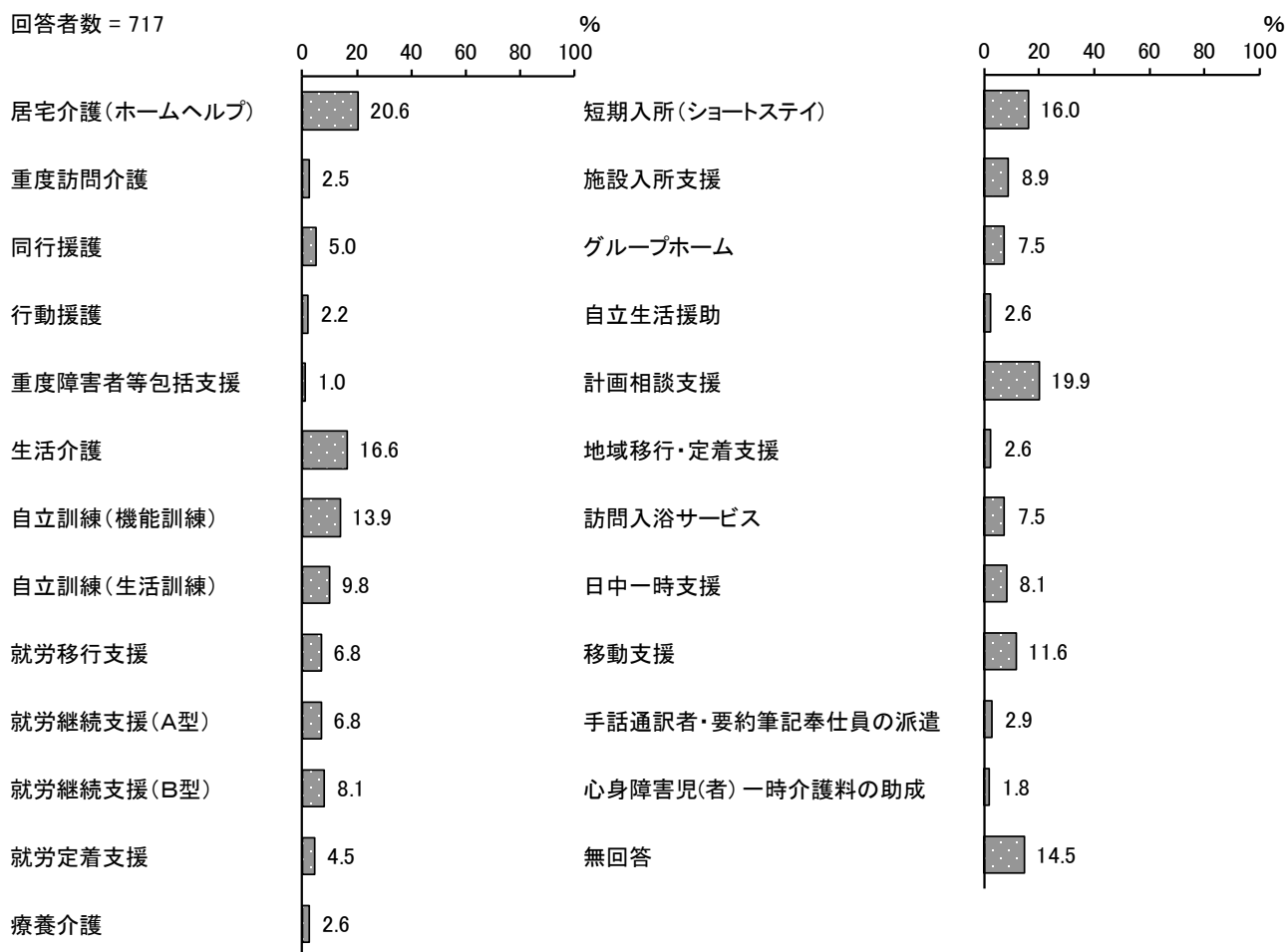
障害者

問 19. A・B・C欄について、以下のとおりそれぞれ教えてください。

問 18 で「1. 利用したことがある」に○をつけた方におたずねします。

A欄：現在(過去1年の間)、利用しているサービスを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

「居宅介護(ホームヘルプ)」の割合が20.6%と最も高く、次いで「計画相談支援」の割合が19.9%、「生活介護」の割合が16.6%となっています。



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「生活介護」「計画相談支援」「移動支援」の割合が、難病で「自立訓練（機能訓練）」の割合が高くなっています。また、精神障害で「就労継続支援（A型）」の割合が、高次脳機能障害で「短期入所（ショートステイ）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障害者等 包括支援	生活介護	自立訓練 (機能訓練)	自立訓練 (生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援 (A型)	就労継続支援 (B型)	就労定着支援
身体障害	362	27.6	3.6	8.0	2.8	1.1	19.9	19.9	9.9	1.9	1.7	1.4	0.3
知的障害	159	12.6	1.9	3.1	3.1	1.3	42.8	5.0	6.3	5.7	7.5	18.9	2.5
精神障害	157	15.3	1.9	0.6	0.6	1.3	1.3	4.5	9.6	16.6	20.4	13.4	10.2
発達障害	100	4.0	1.0	4.0	3.0	—	17.0	3.0	8.0	17.0	8.0	16.0	11.0
高次脳機能障害	33	24.2	—	6.1	3.0	3.0	15.2	24.2	12.1	3.0	—	6.1	6.1
難病	72	37.5	11.1	6.9	2.8	4.2	22.2	30.6	12.5	—	1.4	2.8	1.4
その他	21	28.6	—	9.5	4.8	—	23.8	19.0	4.8	—	9.5	4.8	—

区分	療養介護	短期入所 (ショートステイ)	施設入所支援	グループホーム	自立生活援助	計画相談支援	地域移行・定着支援	訪問入浴サービス	日中一時支援	移動支援	手話通訳者・要約筆記 奉仕員の派遣	心身障害児(者)一時介護料 の助成	無回答
身体障害	3.9	17.1	10.5	4.1	3.9	16.3	2.2	11.9	8.6	13.3	4.4	2.8	16.3
知的障害	2.5	30.8	10.1	18.9	1.9	44.0	1.3	4.4	18.2	23.9	1.3	4.4	6.3
精神障害	0.6	4.5	3.2	5.1	0.6	15.9	2.5	1.3	2.5	3.2	—	1.3	12.1
発達障害	1.0	19.0	5.0	15.0	2.0	33.0	6.0	1.0	15.0	12.0	—	3.0	9.0
高次脳機能障害	—	36.4	9.1	3.0	6.1	15.2	3.0	9.1	—	12.1	—	6.1	9.1
難病	11.1	15.3	15.3	4.2	2.8	25.0	2.8	19.4	9.7	18.1	1.4	2.8	11.1
その他	9.5	4.8	28.6	9.5	—	14.3	—	19.0	4.8	9.5	4.8	—	14.3

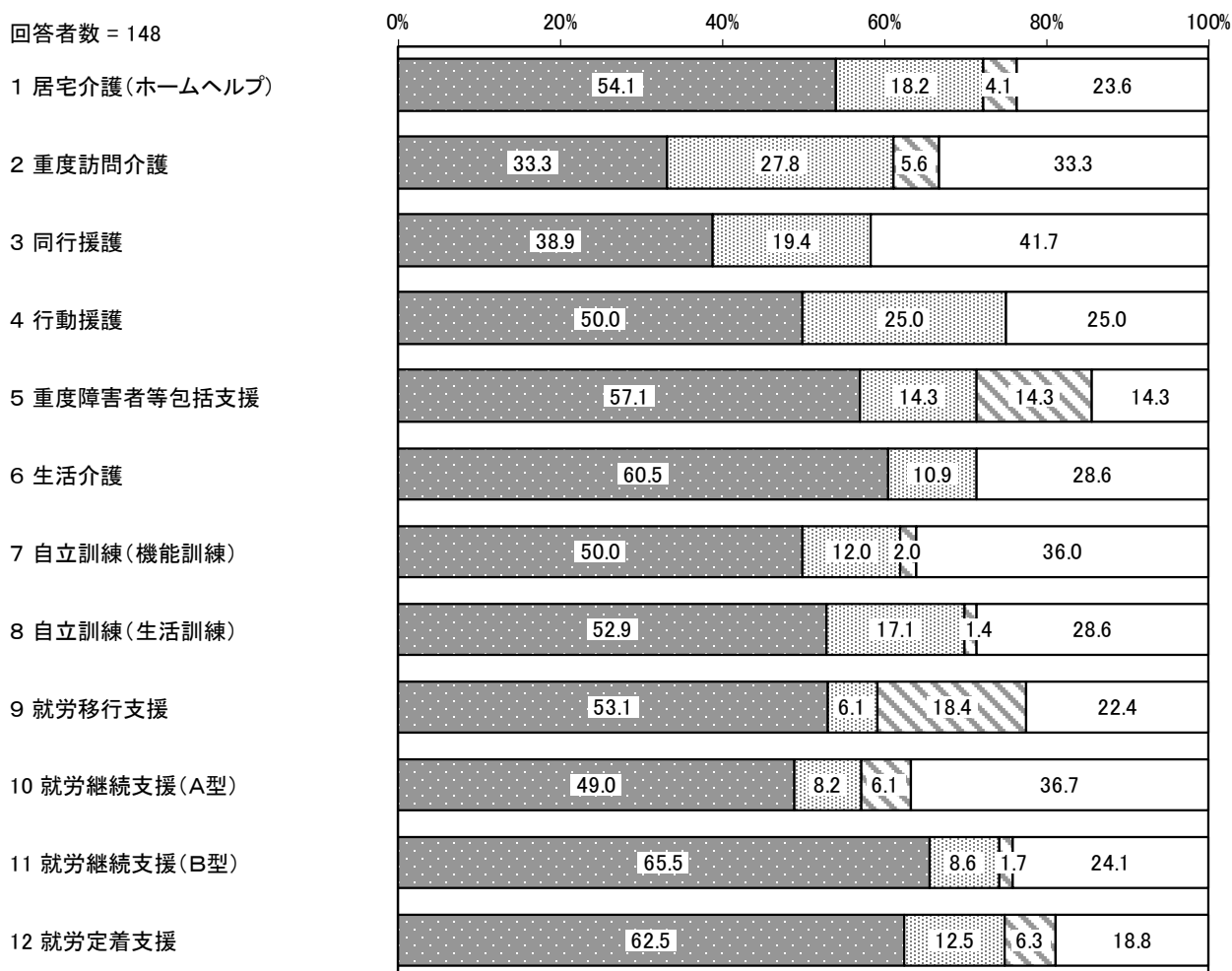
障害者

B欄：現在使用しているサービスで、今後3年間、どのくらい利用したいですか。
(各項目1つに○)

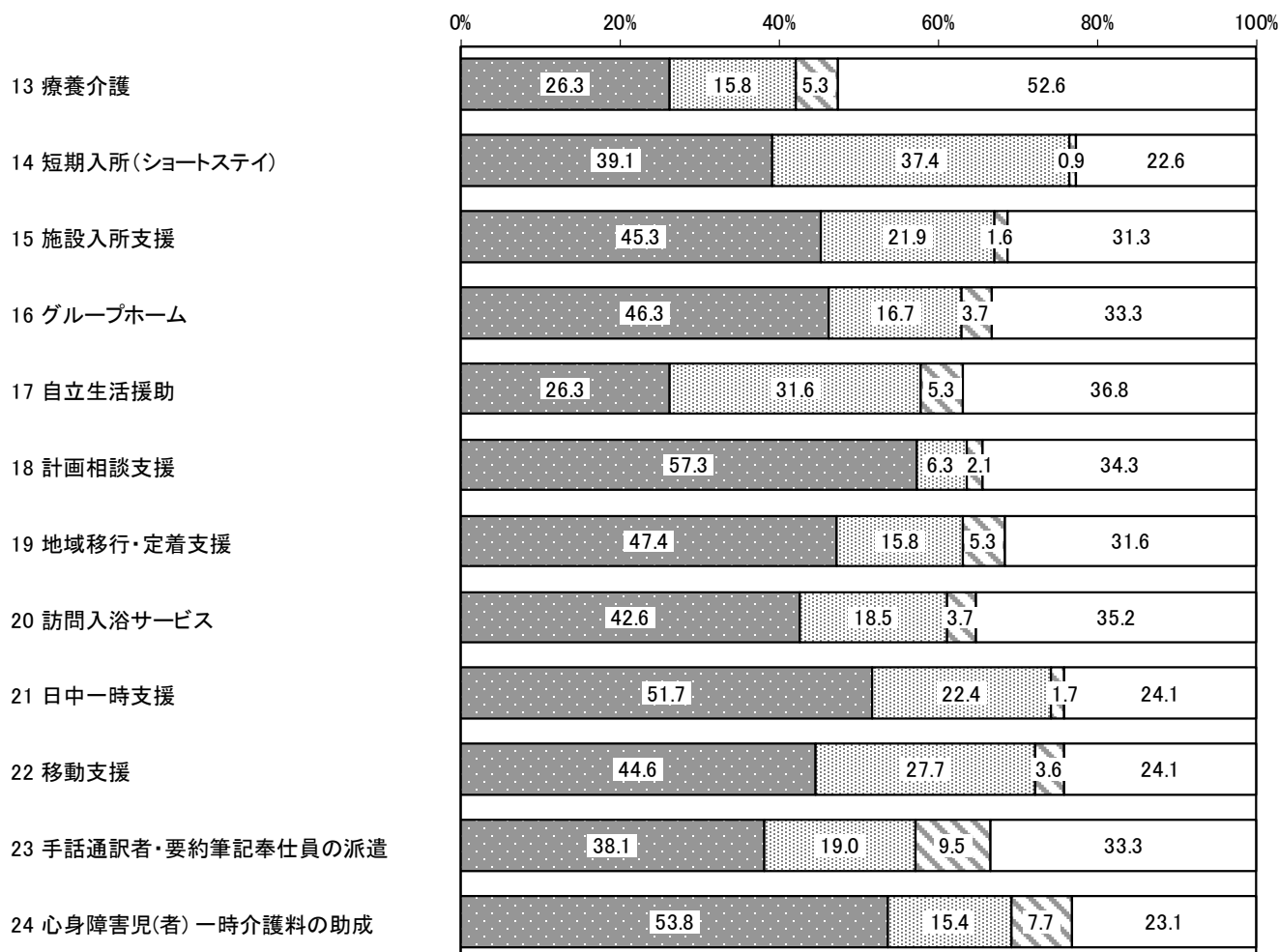
各障害福祉サービス等について今後利用を増やしたい意向があり、特に『14 短期入所（ショートステイ）』『17 自立生活援助』で「増やしたい」の割合が高くなっています。

■ 同じ程度 ▨ 増やしたい ▩ 減らしたい □ 無回答

回答者数 = 148



■ 同じ程度 ▨ 増やしたい ▩ 減らしたい □ 無回答



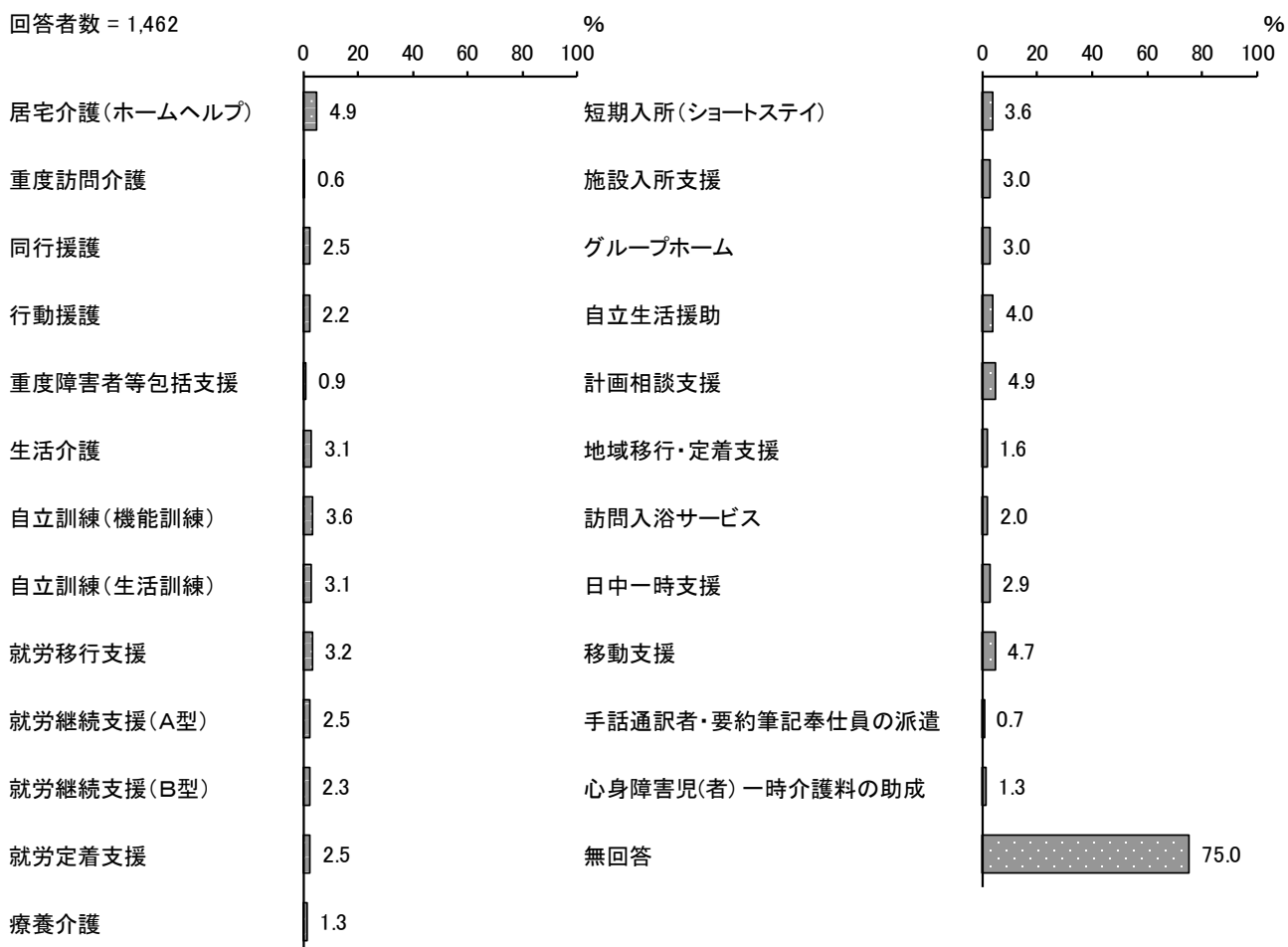
(問 19B 続き)

障害者

問 18 で「2. 利用したことがない」に○をつけた方におたずねします。

C 欄：現在利用していないサービスで、今後利用したいサービスを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

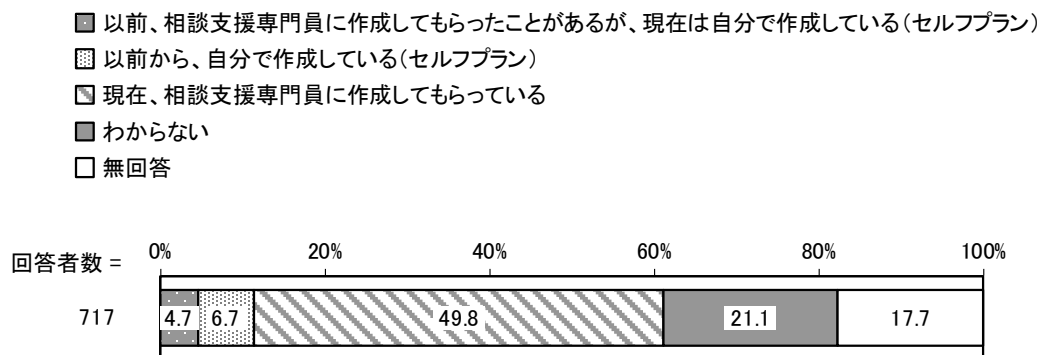
「居宅介護（ホームヘルプ）」、「計画相談支援」の割合が 4.9%と最も高くなっています。



問 18 で「1. 利用したことがある」に○をつけた方におたずねします。

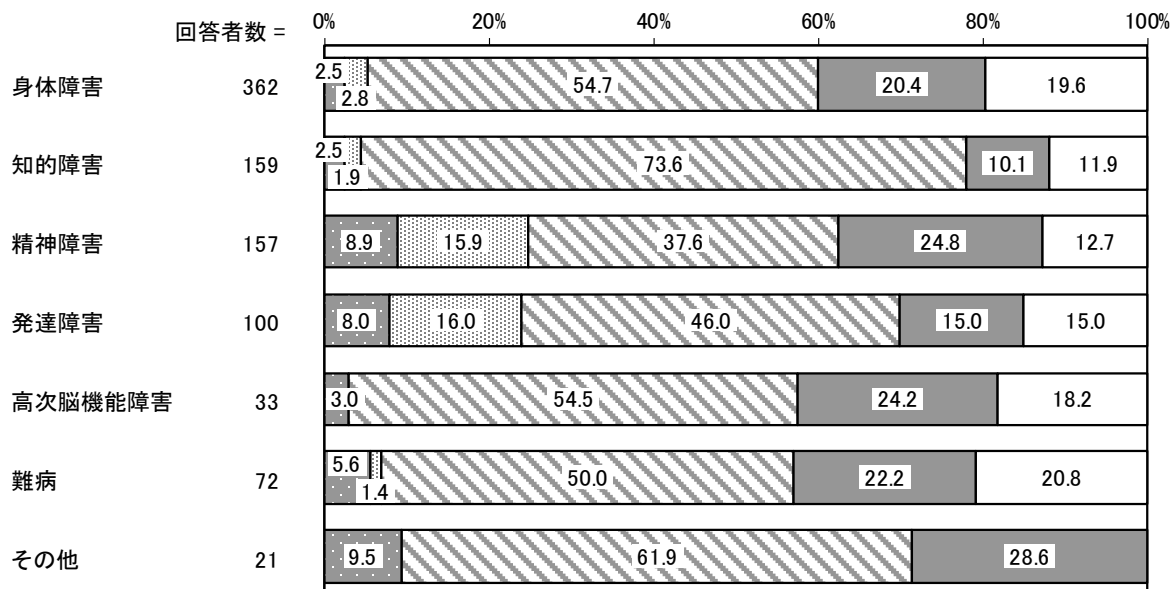
問 20. 障害福祉サービス（8 ページ 1～24 のサービス）を利用するにあたっては、サービス等利用計画の作成が必要になります。あなたは、どのようにサービス等利用計画を作成していますか。（1つに○）

「現在、相談支援専門員に作成してもらっている」の割合が 49.8%と最も高く、次いで「以前から、自分で作成している（セルフプラン）」の割合が 6.7%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「現在、相談支援専門員に作成してもらっている」の割合が高くなっています。

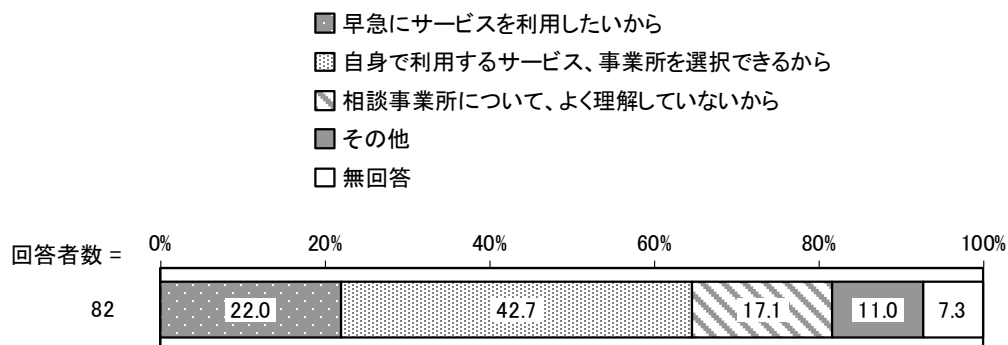


障害者

問 20 で「1. 以前、相談支援専門員に作成してもらったことがあるが、現在は自分で作成している（セルフプラン）」「2. 以前から、自分で作成している（セルフプラン）」に○をつけた方におたずねします。

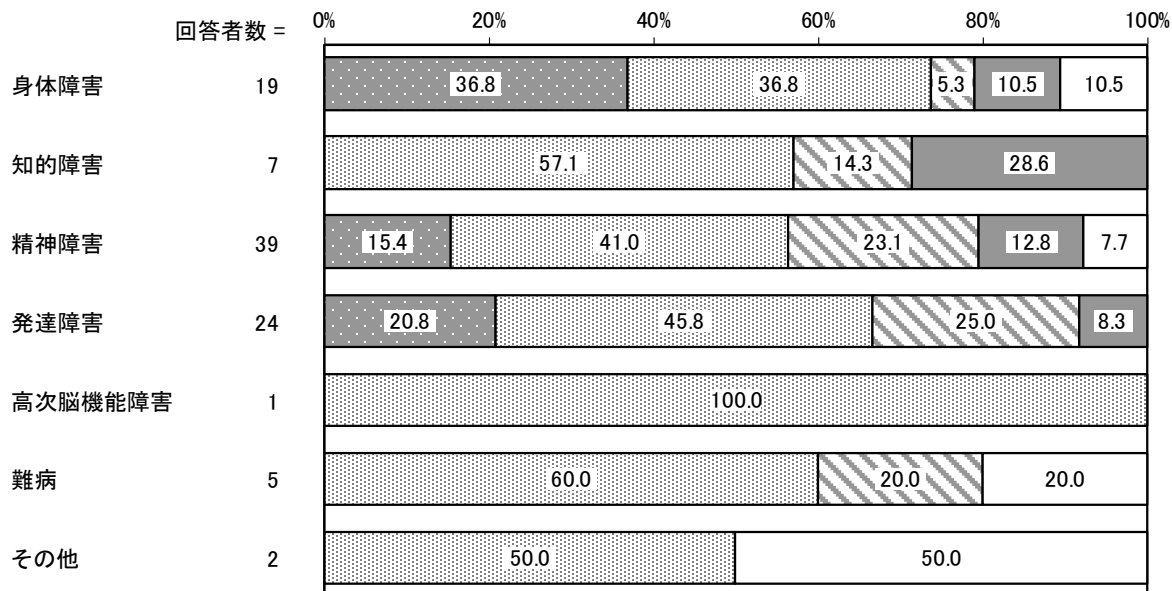
問 21. セルフプランを作成している理由は何ですか。（1つに○）

「自身で利用するサービス、事業所を選択できるから」の割合が 42.7%と最も高く、次いで「早急にサービスを利用したいから」の割合が 22.0%、「相談事業所について、よく理解していないから」の割合が 17.1%となっています。



【障害別】

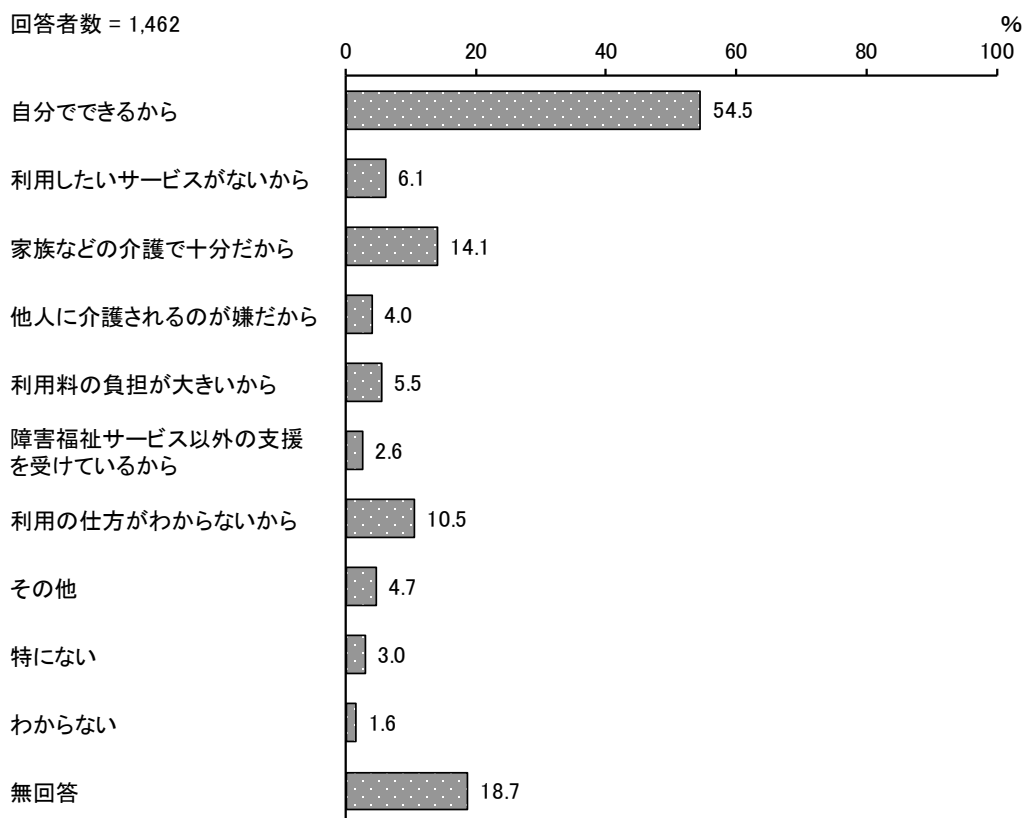
障害別でみると、他に比べ、身体障害で「早急にサービスを利用したいから」の割合が高くなっています。



問 18 で「2. 利用したことがない」に○をつけた方におたずねします

問 22. あなたが障害福祉サービス等（8 ページ 1～24 のサービス）を利用していない理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「自分でできるから」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「家族などの介護で十分だから」の割合が 14.1%、「利用の仕方がわからないから」の割合が 10.5%となっています。



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病で「自分でできるから」の割合が、高次脳機能障害で「利用したいサービスがないから」「利用料の負担が大きいため」「障害福祉サービス以外の支援を受けているから」「その他」の割合が高くなっています。また、知的障害で「家族などの介護で十分だから」の割合が高くなっています。

単位：％

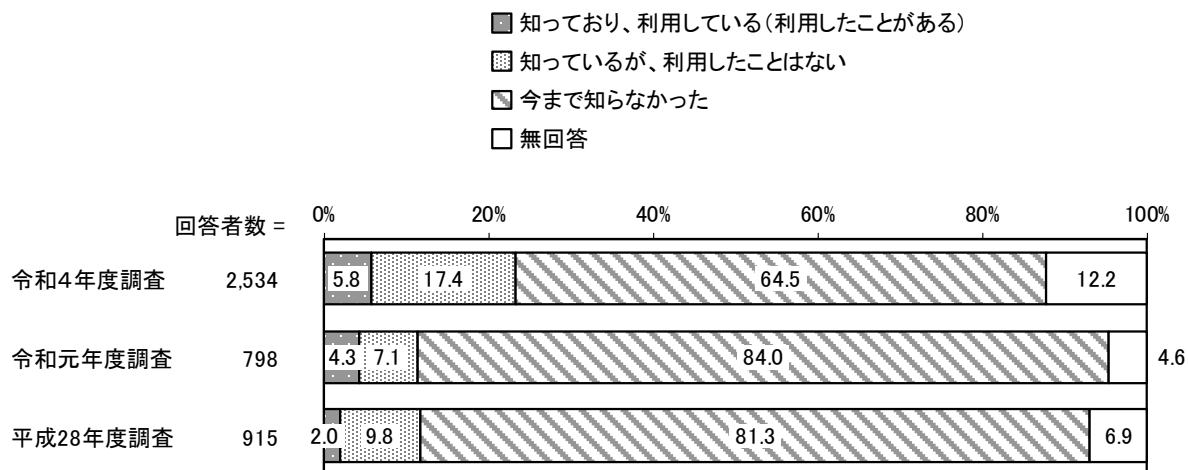
区分	回答者数 (件)	自分でできるから	利用したいサービスがないから	家族などの介護で十分だから	他人に介護されるのが嫌だから	利用料の負担が大きいため	障害福祉サービス以外の支援を受けているから	利用の仕方がわからないから	その他	特になし	わからない	無回答
身体障害	931	58.4	5.7	13.4	3.5	5.2	3.2	8.4	3.9	2.6	1.6	17.5
知的障害	65	32.3	6.2	33.8	6.2	9.2	1.5	24.6	3.1	7.7	—	18.5
精神障害	216	34.3	11.1	10.6	7.4	8.3	2.8	18.1	8.8	7.4	3.2	22.7
発達障害	61	29.5	6.6	27.9	6.6	11.5	3.3	26.2	13.1	6.6	—	14.8
高次脳機能障害	19	21.1	21.1	26.3	21.1	21.1	15.8	21.1	26.3	5.3	—	10.5
難病	179	66.5	4.5	11.7	1.7	4.5	2.2	7.8	0.6	1.1	1.7	17.9
その他	50	54.0	4.0	12.0	2.0	4.0	2.0	6.0	10.0	—	—	20.0

(6) 相談支援について

問 23. 松戸市では障害者等から虐待・差別を含む障害分野の相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行う窓口として基幹相談支援センターを設置しています。あなたはお住まいの地域の基幹相談支援センターを知っていますか。(1つに○)

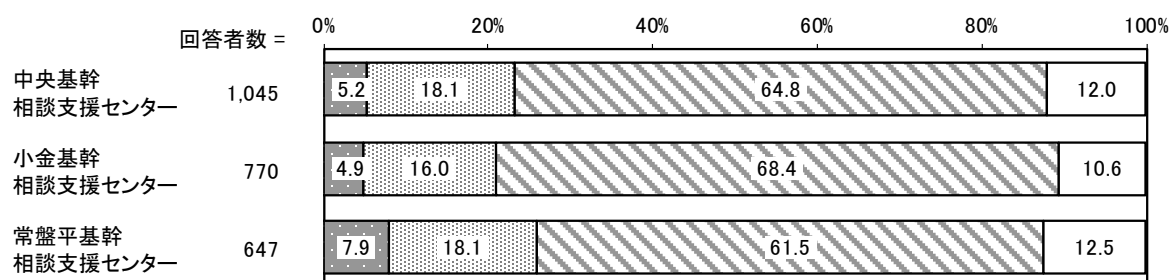
「今まで知らなかった」の割合が64.5%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」の割合が17.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「知っているが、利用したことはない」の割合が増加しています。一方、「今まで知らなかった」の割合が減少しています。



【基幹別】

基幹別でみると、他に比べ、小金基幹相談支援センターで「今まで知らなかった」の割合が高くなっています。

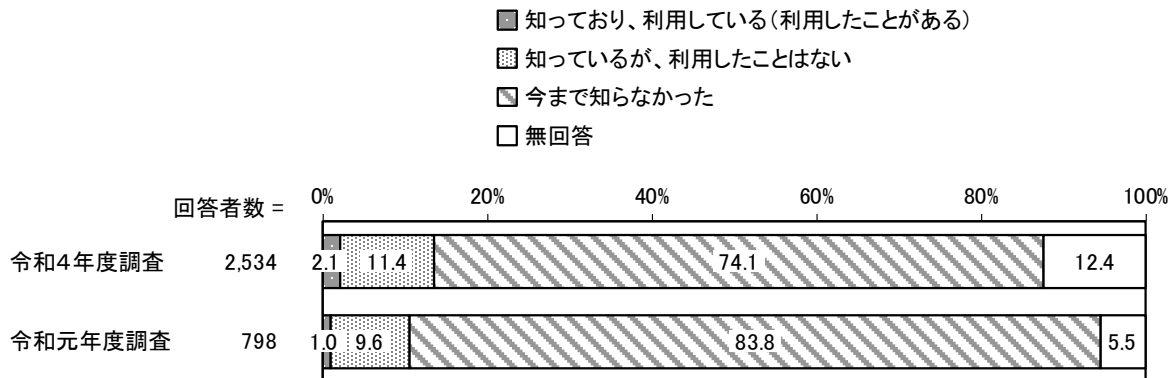


障害者

問 24. 松戸市では、高齢者総合相談窓口を拡充し、平成 30 年度から「福祉まるごと相談窓口」を設置しています。福祉に関する困りごと（ダブルケアの相談・サービスや制度を知りたい・どこに相談してよいかわからないなど）の相談窓口です。専門職と一緒に考え、必要なサービスを紹介したり、担当の課におつなぎしたりしています。あなたは、「福祉まるごと相談窓口」を知っていますか。（1つに○）

「今まで知らなかった」の割合が 74.1%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」の割合が 11.4%となっています。

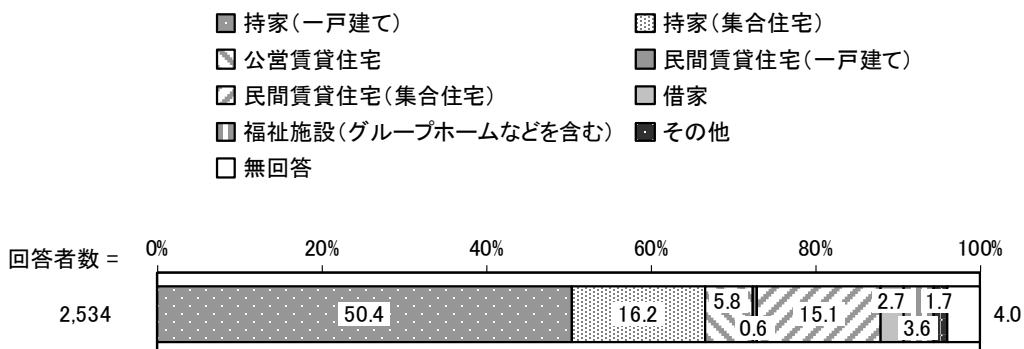
令和元年度調査と比較すると、「今まで知らなかった」の割合が減少しています。



(7) 住まいや生活について

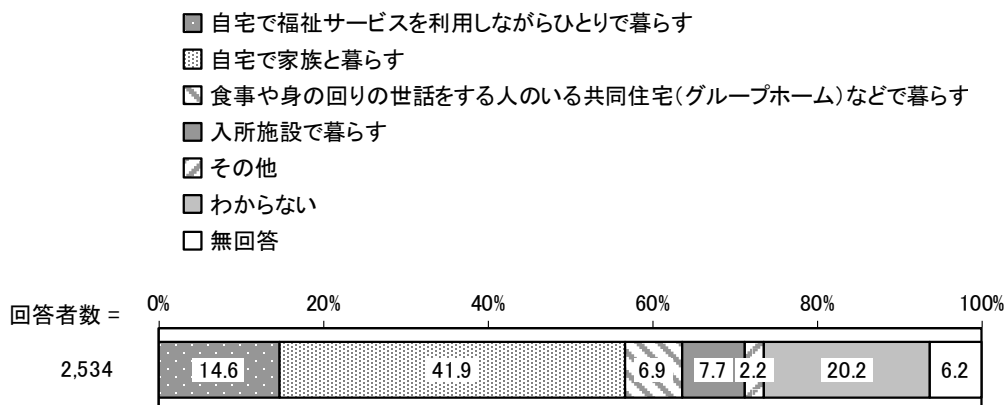
問 25. 現在、あなたがお住まいの場所は次のどれですか。病院に入院している方は入院前のお住まいについてお答えください。(1つに○)

「持家(一戸建て)」の割合が50.4%と最も高く、次いで「持家(集合住宅)」の割合が16.2%、「民間賃貸住宅(集合住宅)」の割合が15.1%となっています。



問 26. 将来、あなたはどのような生活をしたいと思いますか。(もっともあてはまるもの1つに○)

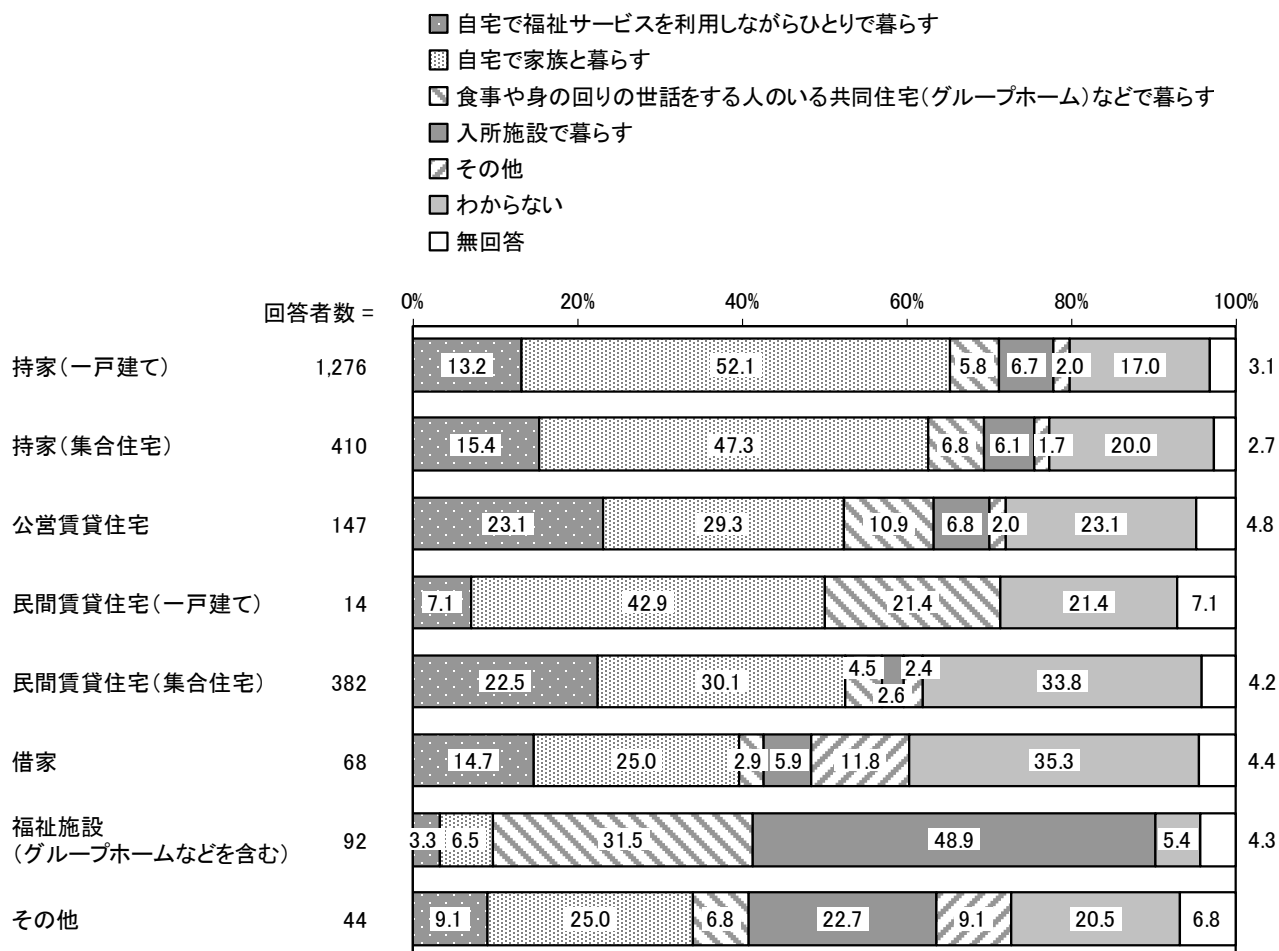
「自宅で家族と暮らす」の割合が41.9%と最も高く、次いで「自宅で福祉サービスを利用しながらひとりで暮らす」の割合が14.6%となっています。



障害者

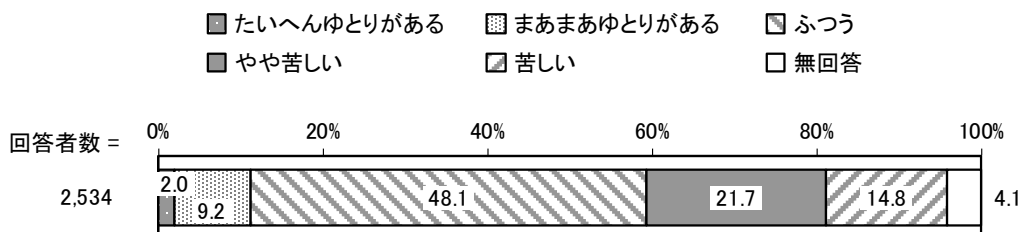
【住まい別】

住まい別でみると、福祉施設（グループホームなどを含む）に入所している人で自宅での暮らしを希望する人は1割程度となっています。



問 27. あなたは、現在の暮らしの状況（家計の状況）について、どのように感じていますか。（1つに○）

「たいへんゆとりがある」と「まあまあゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”の割合が、11.2%、「ふつう」の割合が48.1%、「やや苦しい」と「苦しい」をあわせた“苦しい”の割合が36.5%となっています。

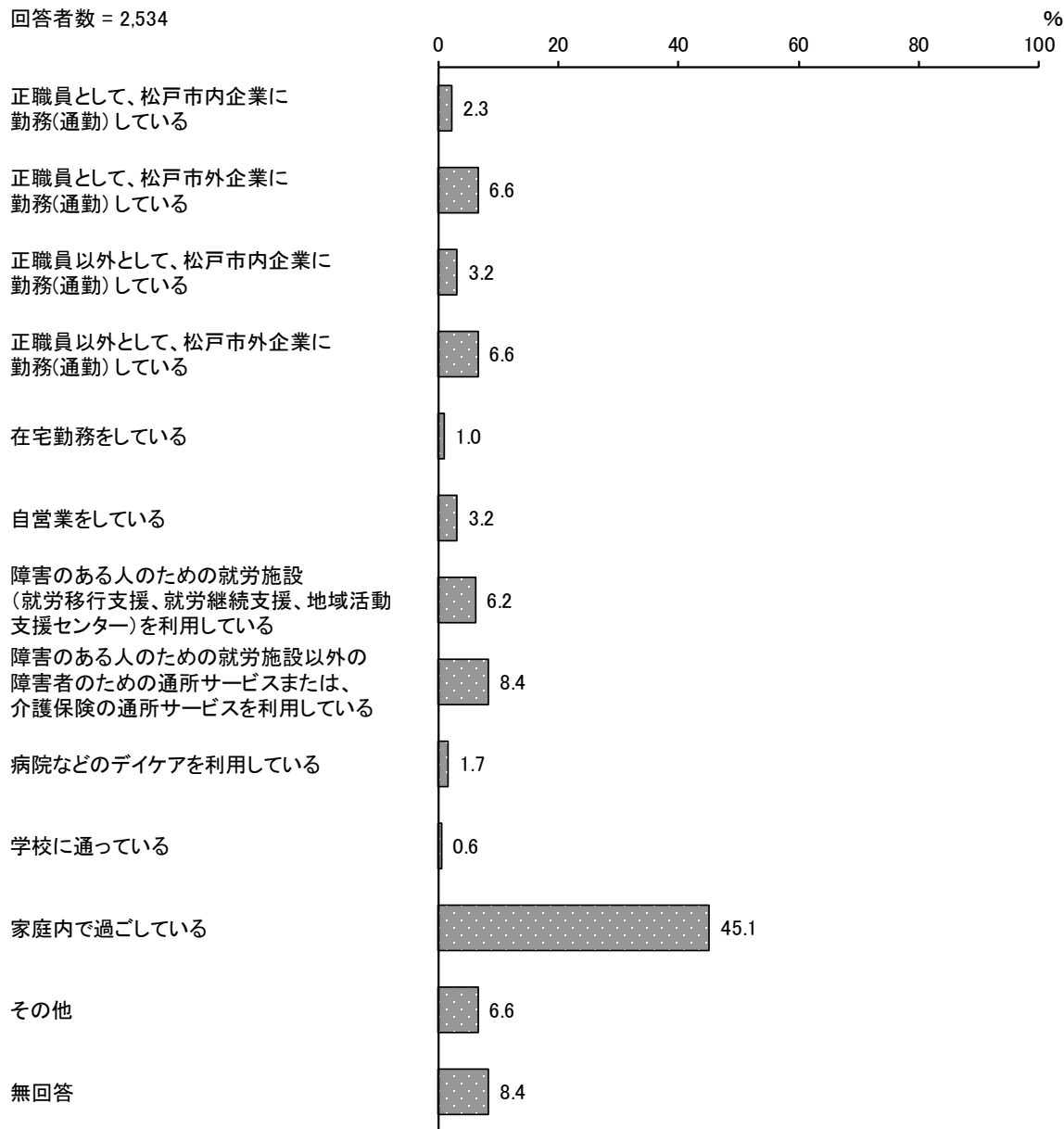


(8) 日中の過ごし方について

問 28. 現在、あなたは日中を主にどのように過ごしていますか。
(もっともあてはまるもの1つに○)

「家庭内で過ごしている」の割合が 45.1%と最も高くなっています。

回答者数 = 2,534



障害者

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20歳代で「障害のある人のための就労施設（就労移行支援、就労継続支援、地域活動支援センター）を利用している」の割合が、20歳未満で「障害のある人のための就労施設以外の障害者のための通所サービスまたは、介護保険の通所サービスを利用している」「学校に通っている」の割合が高くなっています。また、60歳代、70歳以上で「家庭内で過ごしている」の割合が高くなっています。

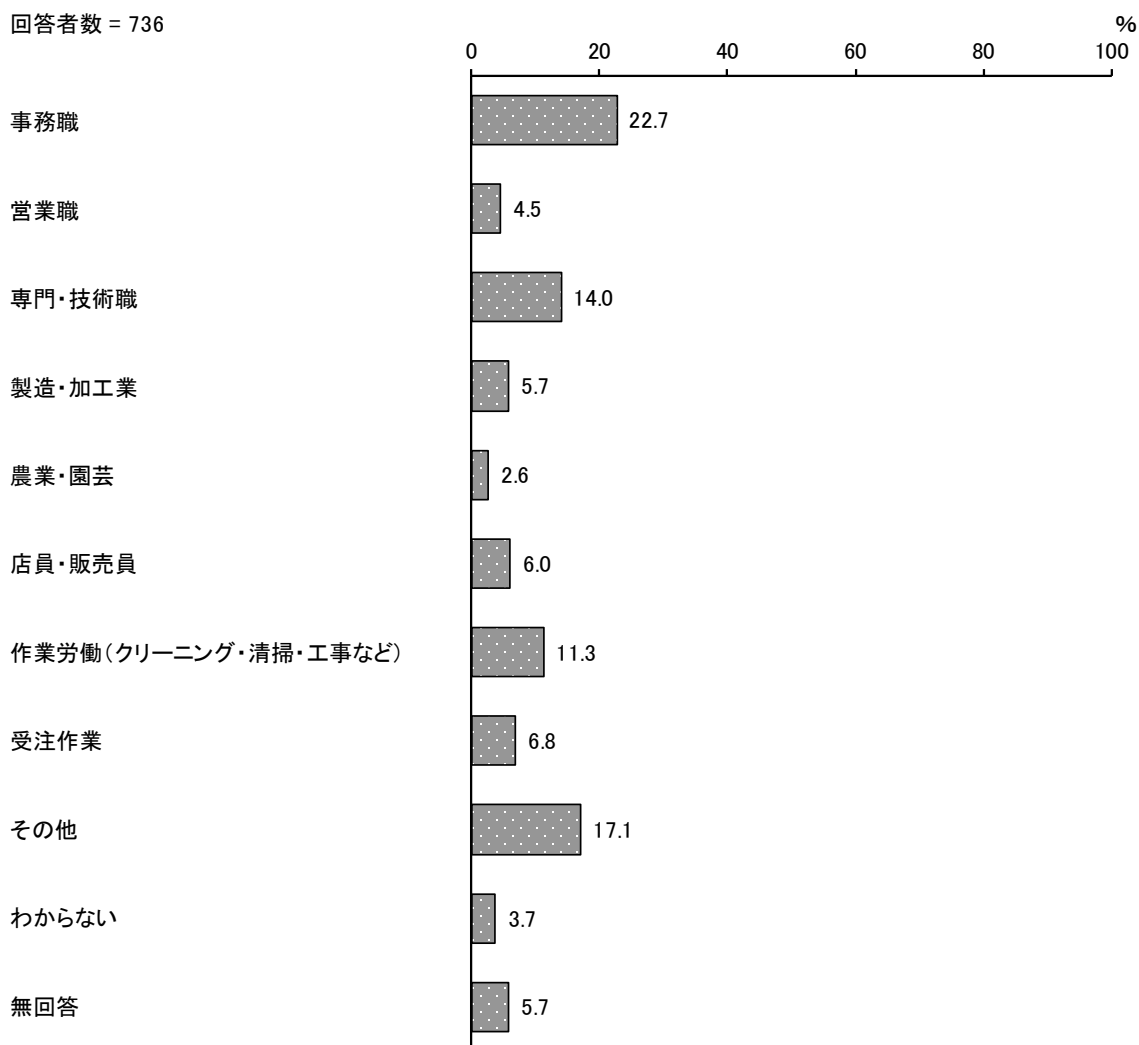
単位：％

区分	回答者数 (件)	正職員として、 松戸市内企業に勤務 (通勤)している	正職員として、 松戸市外企業に勤務 (通勤)している	正職員以外として、 松戸市内企業に勤務 (通勤)している	正職員以外として、 松戸市外企業に勤務 (通勤)している	在宅勤務を している	自営業を している	障害のある人のための 就労施設(就労移行支援、 就労継続支援、地域活動 支援センター)を利用 している	障害のある人のための 就労施設以外の障害者の ための通所サービス または、介護保険の通所 サービスを利用している	病院などの デイケアを利用 している	学校に 通っている	家庭内 で過ご している	その他	無 回答
20歳未満	30	—	—	6.7	13.3	—	—	6.7	30.0	—	30.0	13.3	—	—
20歳代	152	3.3	8.6	3.3	14.5	2.6	0.7	22.4	21.1	—	3.3	13.8	3.9	2.6
30歳代	204	2.5	14.2	3.9	13.7	2.5	1.5	16.7	10.8	1.5	—	26.0	3.4	3.4
40歳代	270	5.2	14.4	7.0	10.0	1.1	2.6	12.2	5.6	3.0	—	29.6	5.2	4.1
50歳代	378	6.1	16.1	4.2	9.8	1.9	1.3	9.0	5.8	2.1	—	32.3	4.8	6.6
60歳代	342	2.6	5.3	5.6	7.6	1.2	5.8	2.9	5.0	0.9	—	50.3	7.6	5.3
70歳以上	1124	0.2	0.6	1.1	1.9	0.2	4.1	0.5	8.4	1.9	—	60.5	8.3	12.5

問 28 で「1. 正職員として、松戸市内企業に勤務(通勤)している」～「7. 障害のある人のための就労施設(就労移行支援、就労継続支援、地域活動支援センター)を利用している」に○をつけた方におたずねします。

問 29. あなたの仕事の内容は次のどれですか。(1つに○)

「事務職」の割合が 22.7%と最も高く、次いで「専門・技術職」の割合が 14.0%、「作業労働(クリーニング・清掃・工事など)」の割合が 11.3%となっています。



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病で「店員・販売員」の割合が、知的障害で「受注作業」の割合が高くなっています。

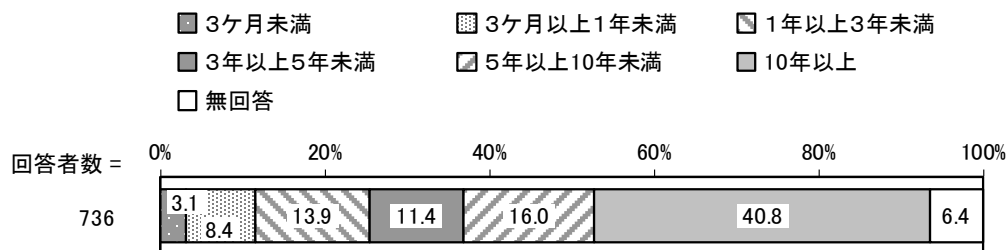
単位：％

区分	回答者数 (件)	事務職	営業職	専門・技術職	製造・加工業	農業・園芸	店員・販売員	作業労働(クリーニング・清掃・工事など)	受注作業	その他	わからない	無回答
身体障害	353	27.5	7.9	20.1	4.2	1.1	5.1	8.2	2.0	16.7	2.0	5.1
知的障害	113	4.4	—	0.9	9.7	8.0	8.0	16.8	28.3	14.2	4.4	5.3
精神障害	155	21.3	1.3	8.4	3.2	1.3	3.9	16.8	7.1	21.3	8.4	7.1
発達障害	92	16.3	—	5.4	8.7	4.3	4.3	16.3	17.4	14.1	5.4	7.6
高次脳機能障害	15	26.7	—	—	—	6.7	6.7	6.7	6.7	20.0	13.3	13.3
難病	86	20.9	3.5	18.6	8.1	1.2	14.0	3.5	4.7	18.6	—	7.0
その他	21	28.6	4.8	9.5	4.8	4.8	—	4.8	4.8	38.1	—	—

問 28 で「1. 正職員として、松戸市内企業に勤務(通勤)している」～「7. 障害のある人のための就労施設(就労移行支援、就労継続支援、地域活動支援センター)を利用している」に○をつけた方におたずねします。

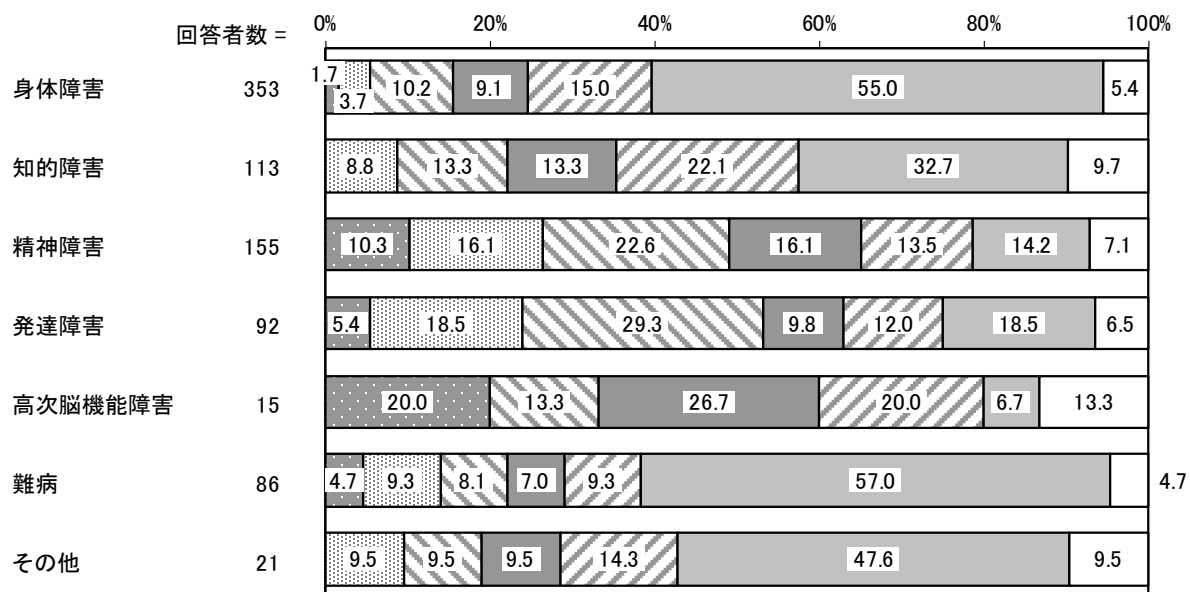
問 30. どれくらいの期間、現在のお仕事を継続して行っていますか。(1つに○)

「10年以上」の割合が40.8%と最も高く、次いで「5年以上10年未満」の割合が16.0%、「1年以上3年未満」の割合が13.9%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「3ヶ月未満」「3年以上5年未満」の割合が、発達障害で「1年以上3年未満」の割合が高くなっています。

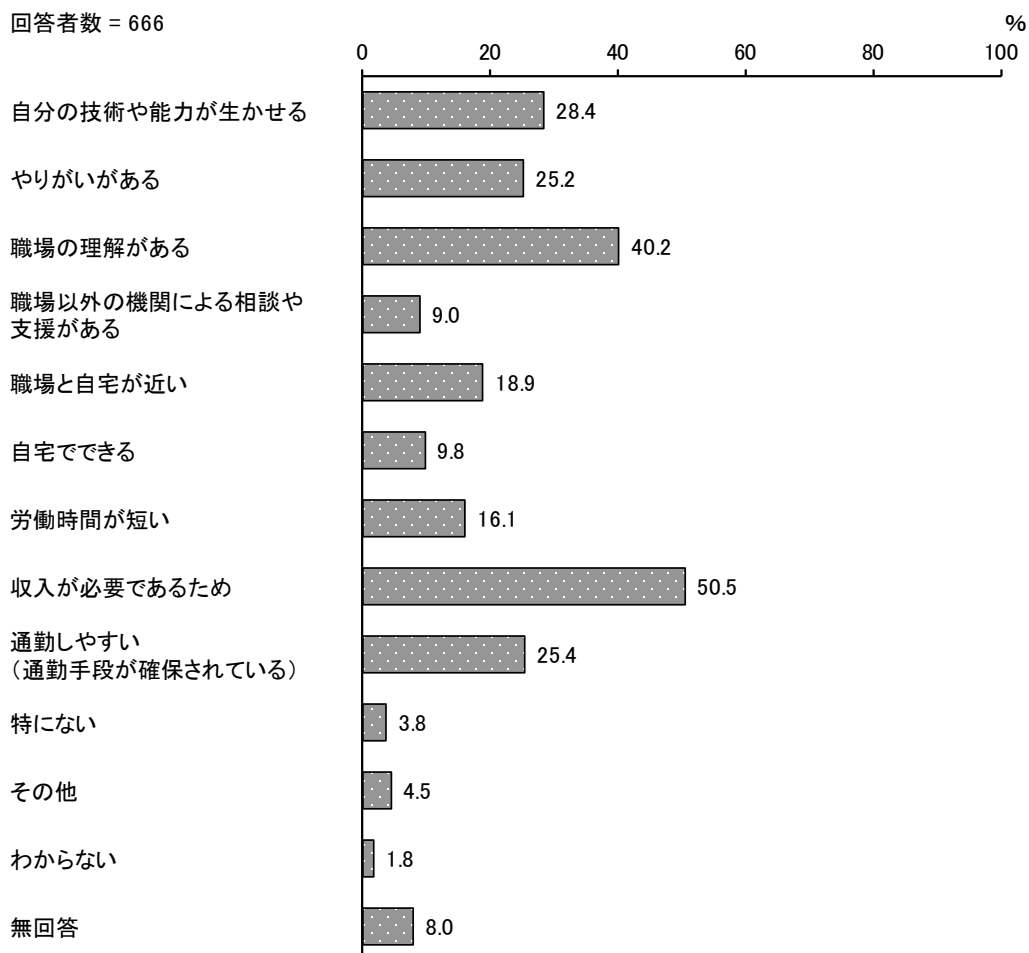


障害者

問 30 で「2. 3ヶ月以上1年未満」～「6. 10年以上」に○をつけた方におたずねします。

問 31. 継続できている理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「収入が必要であるため」の割合が 50.5%と最も高く、次いで「職場の理解がある」の割合が 40.2%、「自分の技術や能力が活かせる」の割合が 28.4%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、発達障害で「やりがいがある」「職場の理解がある」「通勤しやすい（通勤手段が確保されている）」の割合が、精神障害で「労働時間が短い」の割合が高くなっています。また、難病で「収入が必要であるため」の割合が高くなっています。

単位：％

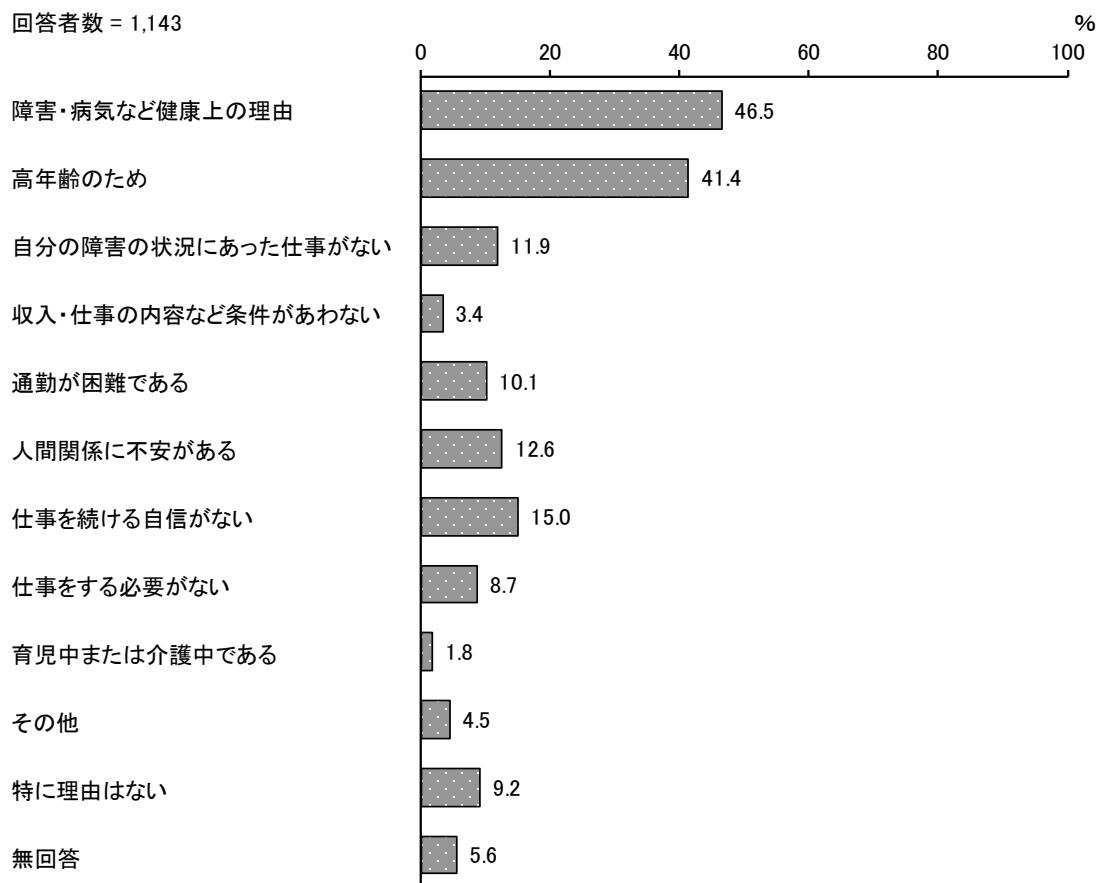
区分	回答者数 (件)	自分の技術や能力が生かせる	やりがいがある	職場の理解がある	職場以外の機関による相談や支援がある	職場と自宅が近い	自宅のできる	労働時間が短い	収入が必要であるため	通勤しやすい (通勤手段が確保されている)	特にない	その他	わからない	無回答
身体障害	328	36.3	23.2	35.4	2.7	13.1	12.2	9.5	52.4	18.0	3.4	4.0	0.9	8.8
知的障害	102	13.7	27.5	59.8	21.6	23.5	1.0	19.6	32.4	38.2	5.9	2.9	4.9	5.9
精神障害	128	21.1	29.7	45.3	21.9	27.3	12.5	34.4	50.8	33.6	0.8	9.4	2.3	9.4
発達障害	81	12.3	35.8	72.8	23.5	30.9	9.9	14.8	44.4	48.1	—	6.2	2.5	3.7
高次脳機能障害	10	10.0	—	40.0	—	10.0	10.0	10.0	50.0	20.0	—	—	20.0	—
難病	78	33.3	26.9	24.4	—	23.1	7.7	16.7	64.1	19.2	7.7	6.4	1.3	7.7
その他	19	42.1	15.8	36.8	5.3	10.5	21.1	5.3	47.4	21.1	—	10.5	—	21.1

障害者

問 28 で「11. 家庭内で過ごしている」に○をつけた方におたずねします。

問 32. その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「障害・病気など健康上の理由」の割合が 46.5%と最も高く、次いで「高年齢のため」の割合が 41.4%、「仕事を続ける自信がない」の割合が 15.0%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、発達障害で「自分の障害の状況にあった仕事がない」「通勤が困難である」「仕事を続ける自信がない」の割合が高くなっています。

単位：%

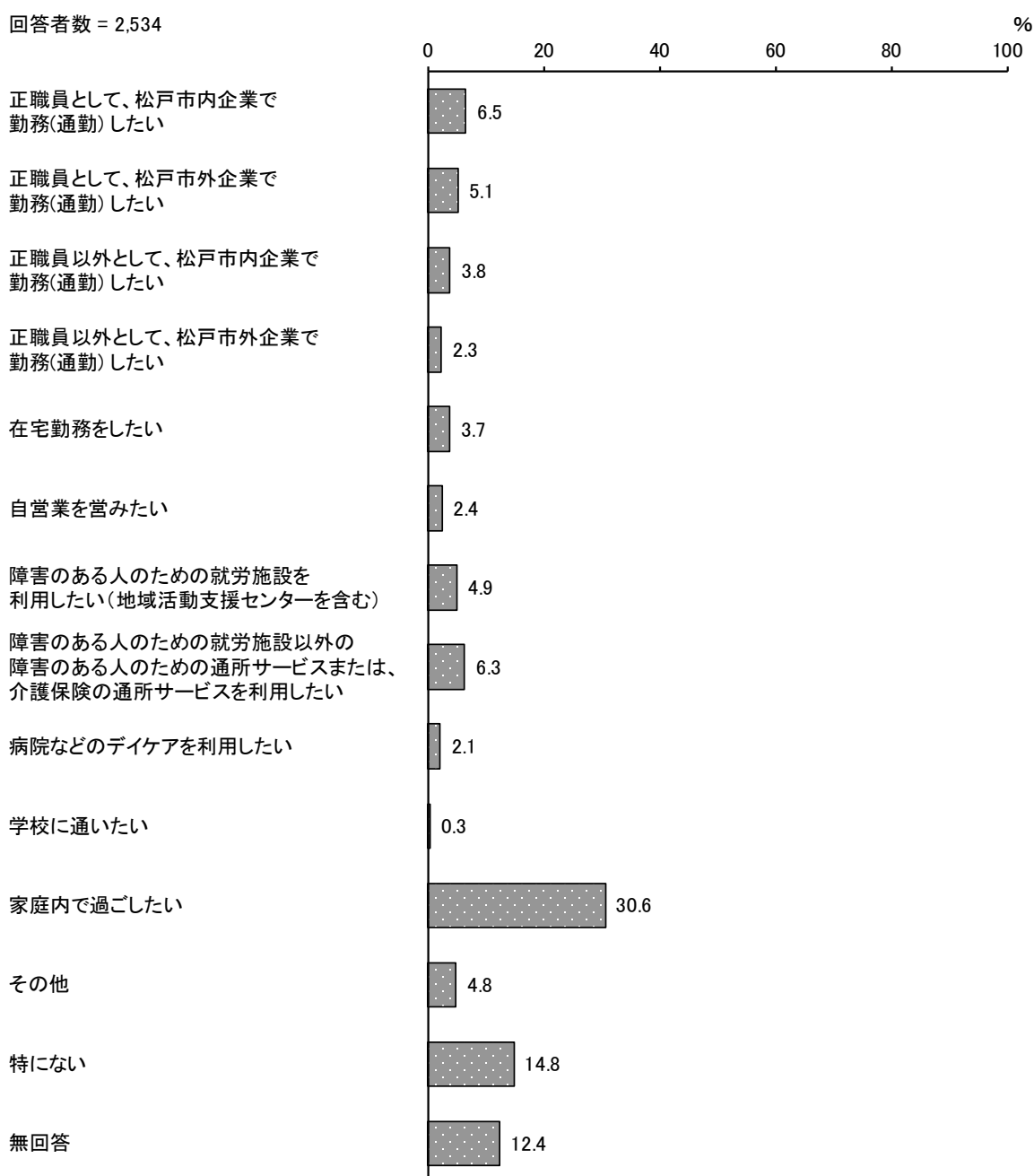
区分	回答者数 (件)	障害・病気など健康上の理由	高年齢のため	自分の障害の状況にあった仕事がない	収入・仕事の内容など条件があわない	通勤が困難である	人間関係に不安がある	仕事を続ける自信がない	仕事をする必要がない	育児中または介護中である	その他	特に理由はない	無回答
身体障害	743	42.0	50.5	9.8	1.7	7.1	4.2	8.3	11.6	1.2	4.2	9.6	5.2
知的障害	34	41.2	2.9	11.8	—	20.6	29.4	17.6	5.9	5.9	8.8	8.8	11.8
精神障害	203	75.9	8.9	22.7	9.4	23.2	46.3	42.9	0.5	2.5	5.9	4.4	3.0
発達障害	32	75.0	—	28.1	12.5	34.4	50.0	56.3	3.1	3.1	12.5	—	6.3
高次脳機能障害	19	52.6	21.1	15.8	5.3	15.8	5.3	5.3	5.3	—	10.5	10.5	10.5
難病	132	56.1	40.9	15.2	6.1	9.1	9.1	14.4	5.3	2.3	2.3	3.8	5.3
その他	50	40.0	48.0	—	—	2.0	10.0	8.0	10.0	2.0	12.0	14.0	8.0

障害者

全員がお答えください。

問 33. あなたは、将来日中をどのように過ごしたいですか。
(もっともあてはまるもの1つに○)

問 28 で、「松戸市内企業で勤務している」と回答した人の合計割合は 5.5%であったのに対し、本設問で今後の希望として「松戸市内企業で勤務したい」と回答した人の合計割合は 10.3%となった。一方で、「松戸市外企業で勤務している」と回答した人の合計割合は 13.2%であったのに対し、今後の希望として「松戸市外企業で勤務したい」と回答した人の合計割合は 7.4%であった。このことから市内企業での勤務希望者割合が高いことが分かった。



【現在の日中の過ごし方別】

現在の日中の過ごし方と将来の日中の過ごし方の希望をクロス集計した結果、現在は「家庭内で過ごしている」と回答したもののうち、17.2%は就労、通所等を将来希望していることが分かりました（縦軸：問 28 回答結果 横軸：問 33 回答結果）。

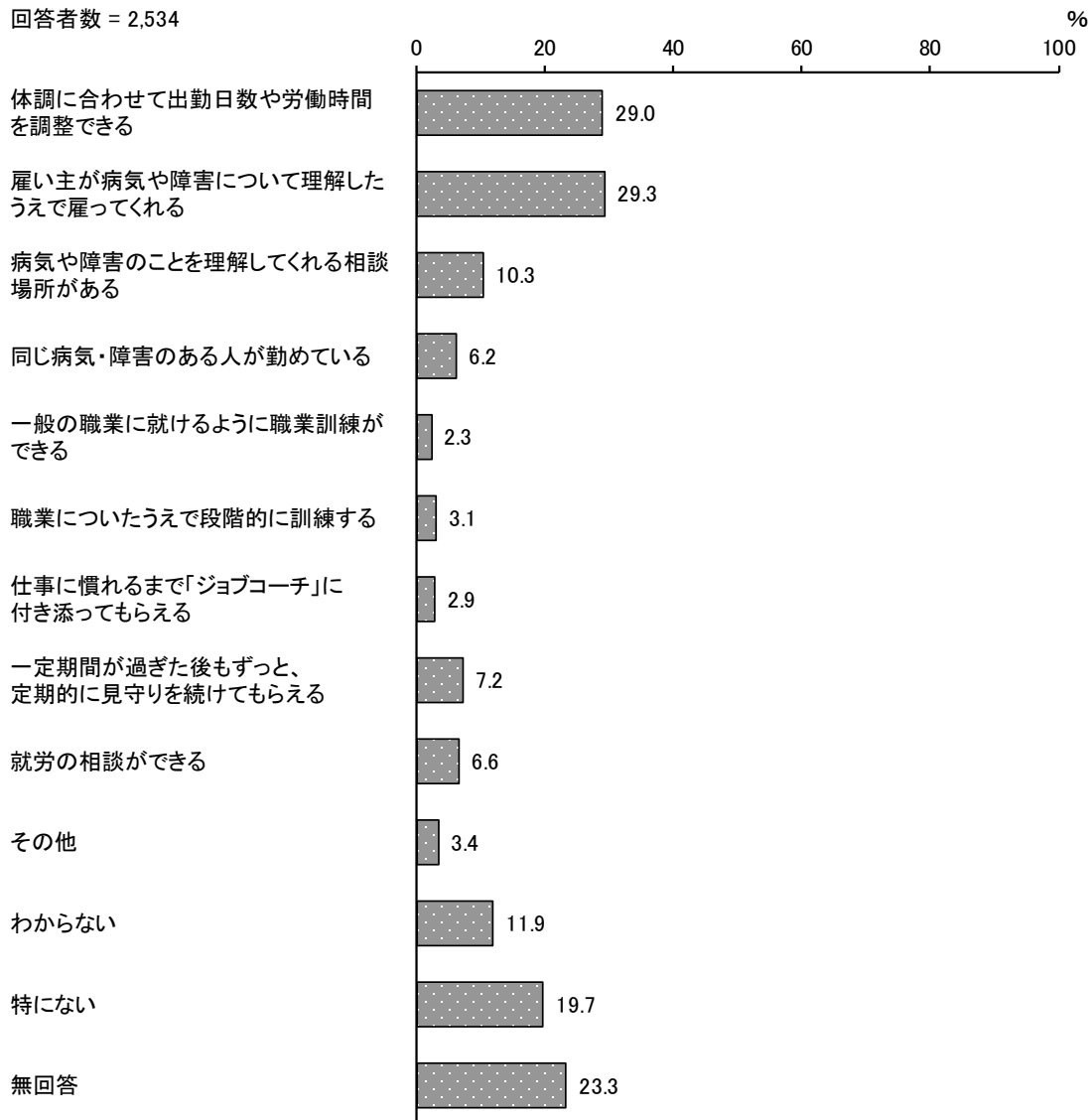
単位：%

区分	回答者数（件）	勤務(通勤)したい 正職員として、松戸市内企業で	勤務(通勤)したい 正職員として、松戸市外企業で	勤務(通勤)したい 正職員以外として、松戸市内企業で	勤務(通勤)したい 正職員以外として、松戸市外企業で	在宅勤務をしたい	自営業を営みたい	センターを含む 障害のある人のための就労施設を利用したい（地域活動支援センターを含む）	障害のある人のための就労施設以外の障害のある人のための通所サービスまたは、介護保険の通所サービスを利用したい	病院などのデイケアを利用したい	学校に通いたい	家庭内で過ごしたい	その他	特にない	無回答
正職員として、松戸市内企業に勤務(通勤)している	58	65.5	—	6.9	—	3.4	1.7	1.7	—	—	—	6.9	1.7	6.9	5.2
正職員として、松戸市外企業に勤務(通勤)している	167	13.8	39.5	3.0	1.8	7.8	1.2	1.2	0.6	—	0.6	10.2	4.2	12.6	3.6
正職員以外として、松戸市内企業に勤務(通勤)している	82	18.3	2.4	42.7	1.2	2.4	1.2	1.2	1.2	—	—	8.5	6.1	7.3	7.3
正職員以外として、松戸市外企業に勤務(通勤)している	166	10.8	17.5	10.8	27.1	4.2	0.6	1.8	—	0.6	—	6.0	5.4	9.0	6.0
在宅勤務をしている	25	8.0	4.0	4.0	—	52.0	8.0	—	—	—	—	12.0	—	4.0	8.0
自営業をしている	82	1.2	—	1.2	—	2.4	50.0	2.4	—	—	—	17.1	6.1	11.0	8.5
障害のある人のための就労施設(就労移行支援、就労継続支援、地域活動支援センター)を利用している	156	10.9	5.1	5.1	1.3	5.1	0.6	47.4	2.6	—	0.6	3.2	3.8	7.7	6.4
障害のある人のための就労施設以外の障害者のための通所サービスまたは、介護保険の通所サービスを利用している	214	2.8	—	0.9	—	0.9	0.5	4.2	51.4	3.3	—	13.1	3.3	11.2	8.4
病院などのデイケアを利用している	44	6.8	—	2.3	—	—	—	2.3	4.5	36.4	—	6.8	9.1	13.6	18.2
学校に通っている	15	13.3	33.3	—	6.7	6.7	6.7	6.7	—	—	13.3	—	6.7	6.7	—
家庭内で過ごしている	1,143	2.5	1.0	1.7	0.5	3.2	0.9	2.1	2.8	2.2	0.3	54.2	4.1	16.1	8.5
その他	168	4.8	2.4	1.8	—	2.4	—	1.8	4.2	2.4	—	19.0	16.1	39.3	6.0

障害者

問 34. どのような条件が整えば、働きやすくなると思いますか。現在勤めている方も、さらに働きやすくなるための条件をお答えください。（3つまでに○）

「雇い主が病気や障害について理解したうえで雇ってくれる」の割合が 29.3%と最も高く、次いで「体調に合わせて出勤日数や労働時間を調整できる」の割合が 29.0%、「特にない」の割合が 19.7%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「体調に合わせて出勤日数や労働時間を調整できる」の割合が、発達障害で「雇い主が病気や障害について理解したうえで雇ってくれる」「病気や障害のことを理解してくれる相談場所がある」「一定期間が過ぎた後もずっと、定期的に見守りを続けてもらえる」の割合が高くなっています。

単位：%

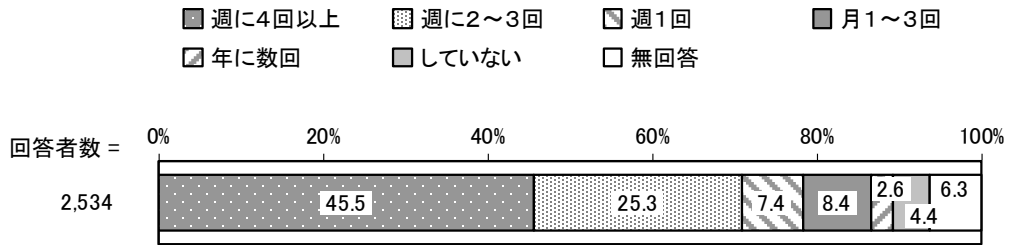
区分	回答者数 (件)	体調に合わせて出勤日数や 労働時間を調整できる	雇い主が病気や障害について 理解したうえで雇ってくれる	病気や障害のことを理解して くれる相談場所がある	同じ病気・障害のある人が勤めて いる	一般の職業に就けるように 職業訓練ができる	職業についてうえで段階的に 訓練する	仕事に慣れるまで「ジョブコーチ」 に付き添ってもらえる	一定期間が過ぎた後もずっと、 定期的に見守りを続けてもらえる	就労の相談ができる	その他	わからない	特にない	無回答
身体障害	1,496	23.7	23.1	6.6	4.4	1.3	1.7	1.5	4.1	4.8	3.1	12.5	24.6	26.9
知的障害	253	24.1	39.9	15.8	15.0	3.6	3.2	10.3	20.9	6.3	2.0	14.6	7.5	19.4
精神障害	430	47.2	46.0	17.4	9.5	4.9	7.2	5.8	13.0	10.7	5.1	12.8	7.0	11.6
発達障害	177	40.1	51.4	26.6	12.4	4.0	9.6	8.5	26.0	11.9	3.4	10.2	2.3	13.0
高次脳機能障害	58	8.6	20.7	1.7	6.9	3.4	5.2	3.4	8.6	5.2	5.2	19.0	17.2	29.3
難病	281	40.6	33.1	13.9	5.3	1.8	1.4	1.1	3.9	7.1	4.3	10.0	17.4	21.4
その他	89	22.5	13.5	9.0	3.4	3.4	3.4	—	2.2	6.7	6.7	11.2	29.2	23.6

障害者

(9) 外出（社会参加等）について

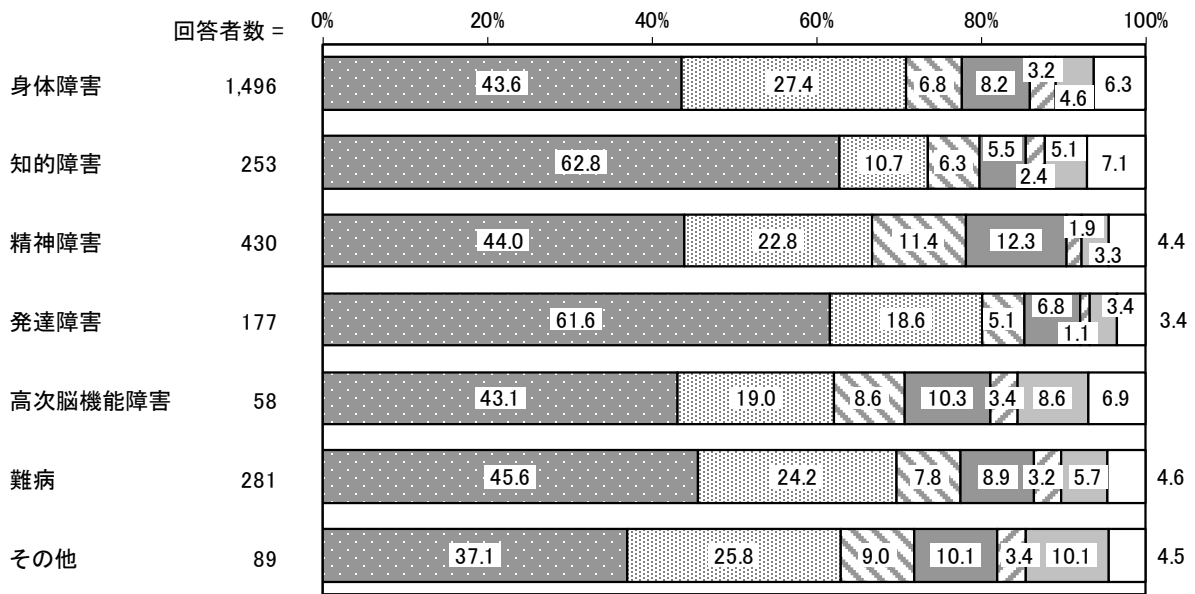
問 35. あなたが外出する頻度はどれくらいですか。隣近所へ行く、買い物、通院などを含みます。（1つに〇）

「週に4回以上」の割合が45.5%と最も高く、次いで「週に2～3回」の割合が25.3%となっています。



【障害別】

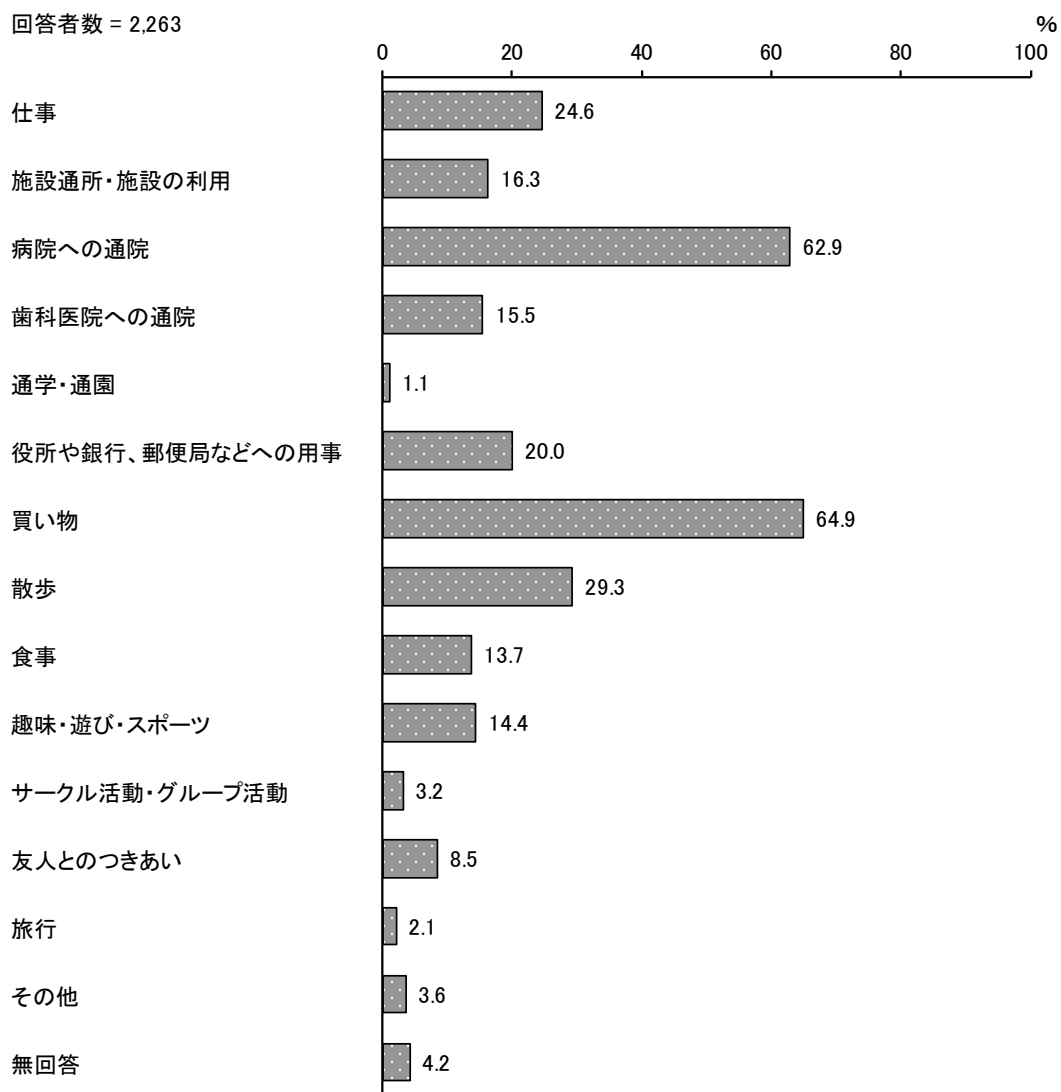
障害別でみると、他に比べ、知的障害、発達障害で「週に4回以上」の割合が高くなっています。



問 35 で「1. 週に4回以上」～「5. 年に数回」に○をつけた方におたずねします。

問 36. どのような用事や目的で外出することが多いですか。(4つまでに○)

「買い物」の割合が64.9%と最も高く、次いで「病院への通院」の割合が62.9%、「散歩」の割合が29.3%となっています。



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「施設通所・施設の利用」の割合が、精神障害で「病院への通院」の割合が高くなっています。また、発達障害で「趣味・遊び・スポーツ」の割合が高くなっています。

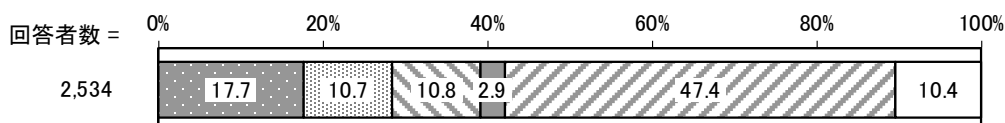
単位：％

区分	回答者数 (件)	仕事	施設通所・施設の利用	病院への通院	歯科医院への通院	通学・通園	役所や銀行、郵便局などへの用事	買い物	散歩	食事	趣味・遊び・スポーツ	サークル活動・グループ活動	友人とのつきあい	旅行	その他	無回答
身体障害	1,333	20.8	15.1	65.1	16.1	1.0	20.4	63.3	28.8	13.7	14.0	3.8	7.8	2.4	3.5	4.6
知的障害	222	32.9	46.8	39.2	17.6	0.9	5.9	57.7	36.0	19.4	21.2	3.6	4.1	2.3	3.6	2.7
精神障害	397	25.4	15.4	72.5	14.6	0.8	23.4	66.5	25.9	13.4	11.3	1.0	8.1	1.0	3.3	5.3
発達障害	165	37.0	31.5	49.1	13.3	4.2	12.1	66.7	29.7	18.2	27.9	2.4	8.5	—	4.2	3.0
高次脳機能障害	49	16.3	40.8	57.1	20.4	2.0	6.1	44.9	32.7	20.4	12.2	2.0	2.0	—	—	2.0
難病	252	29.0	11.5	67.1	15.1	1.2	21.0	70.2	28.2	13.9	11.1	3.6	11.1	2.4	4.0	5.6
その他	76	27.6	13.2	68.4	21.1	—	19.7	72.4	39.5	21.1	5.3	2.6	9.2	5.3	5.3	—

問 37. あなたは、外出をするときに支援が必要ですか。(1つに○)

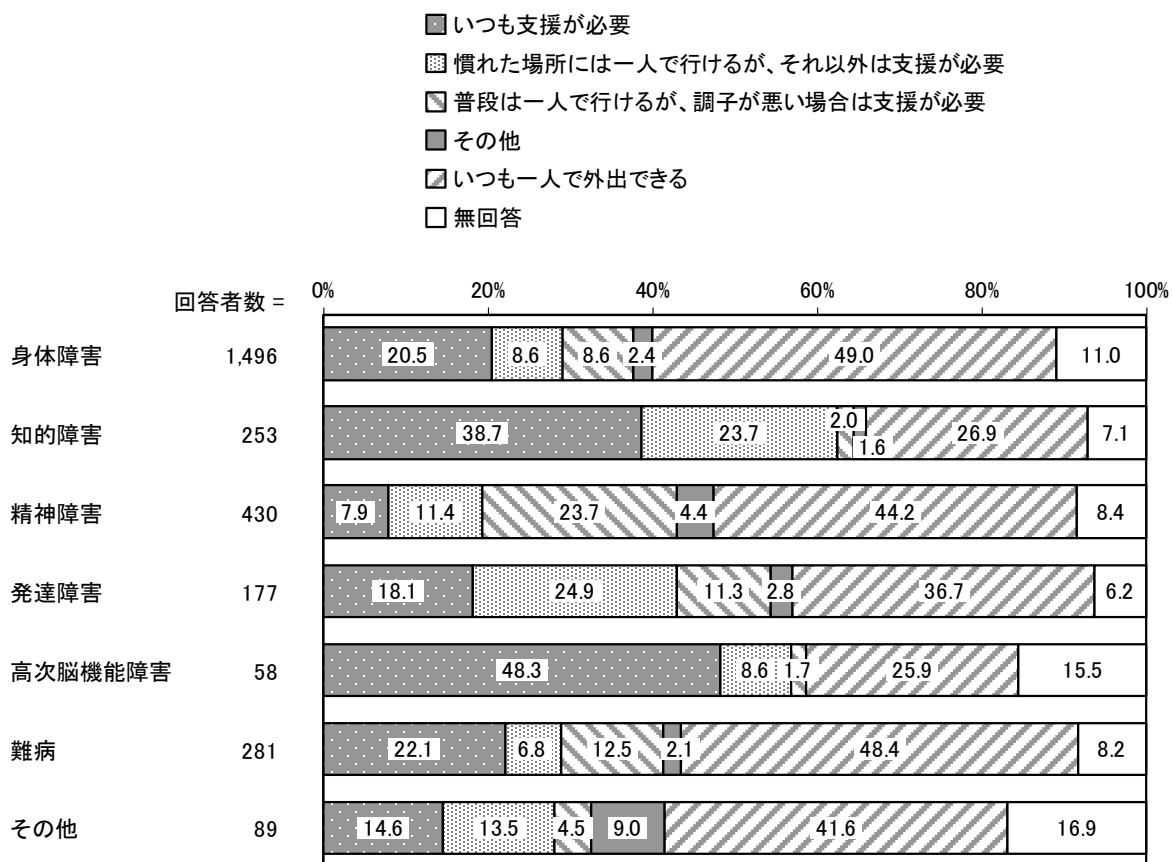
「いつも一人で外出できる」の割合が47.4%と最も高く、次いで「いつも支援が必要」の割合が17.7%、「普段は一人で行けるが、調子が悪い場合は支援が必要」の割合が10.8%となっています。

- いつも支援が必要
- 慣れた場所には一人で行けるが、それ以外は支援が必要
- 普段は一人で行けるが、調子が悪い場合は支援が必要
- その他
- いつも一人で外出できる
- 無回答



【障害別】

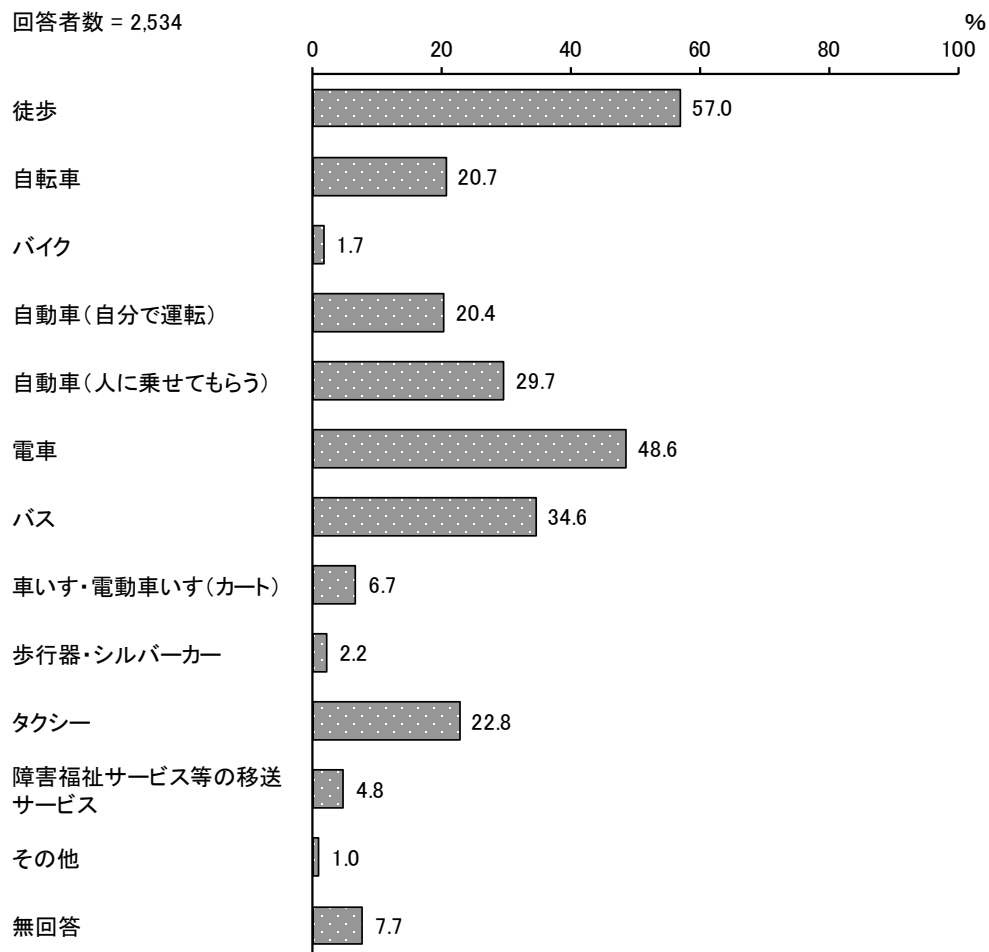
障害別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「いつも支援が必要」の割合が、精神障害で「普段は一人でできるが、調子が悪い場合は支援が必要」の割合が高くなっています。



障害者

問 38. あなたが外出するときに利用している交通手段は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「徒歩」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「電車」の割合が 48.6%、「バス」の割合が 34.6%となっています。



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、発達障害で「電車」の割合が、高次脳機能障害で「車いす・電動車いす（カート）」の割合が高くなっています。

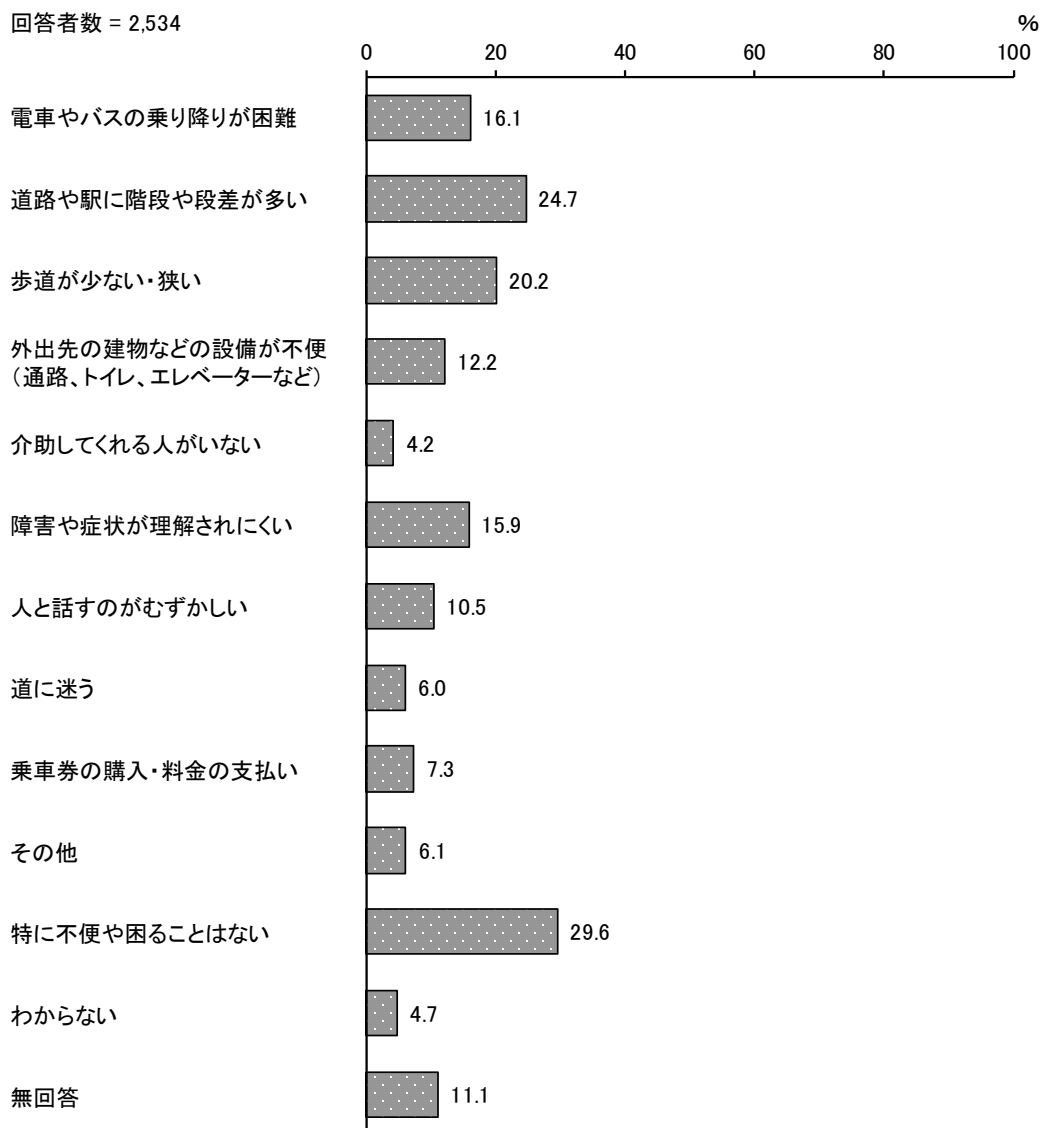
単位：％

区分	回答者数 (件)	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せてもらう)	電車	バス	車いす・ 電動車いす (カート)	歩行器・ シルバーカー	タクシー	障害福祉サービス 等の移送サービス	その他	無回答
身体障害	1,496	50.1	17.4	1.5	25.2	29.8	41.4	30.2	10.0	2.9	27.3	6.1	1.2	8.2
知的障害	253	65.2	19.0	—	0.4	47.4	56.1	37.2	8.7	—	13.4	9.1	—	7.9
精神障害	430	73.7	30.0	3.5	11.6	25.6	68.1	46.7	0.5	—	16.5	0.9	0.9	5.6
発達障害	177	78.5	28.8	1.7	7.3	38.4	74.0	49.2	1.1	—	10.2	5.6	—	5.6
高次脳機能障害	58	44.8	10.3	1.7	5.2	43.1	32.8	22.4	17.2	—	24.1	19.0	3.4	12.1
難病	281	55.2	19.9	2.5	26.0	32.7	46.6	32.7	12.1	3.9	21.4	9.3	1.1	6.8
その他	89	55.1	13.5	1.1	14.6	29.2	41.6	37.1	5.6	—	24.7	3.4	3.4	14.6

障害者

問 39. 外出のとき、困ることがありますか。ここでは、特に市内のことについて教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「特に不便や困ることはない」の割合が 29.6%と最も高く、次いで「道路や駅に階段や段差が多い」の割合が 24.7%、「歩道が少ない・狭い」の割合が 20.2%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「乗車券の購入・料金の支払い」の割合が高くなっています。

単位：％

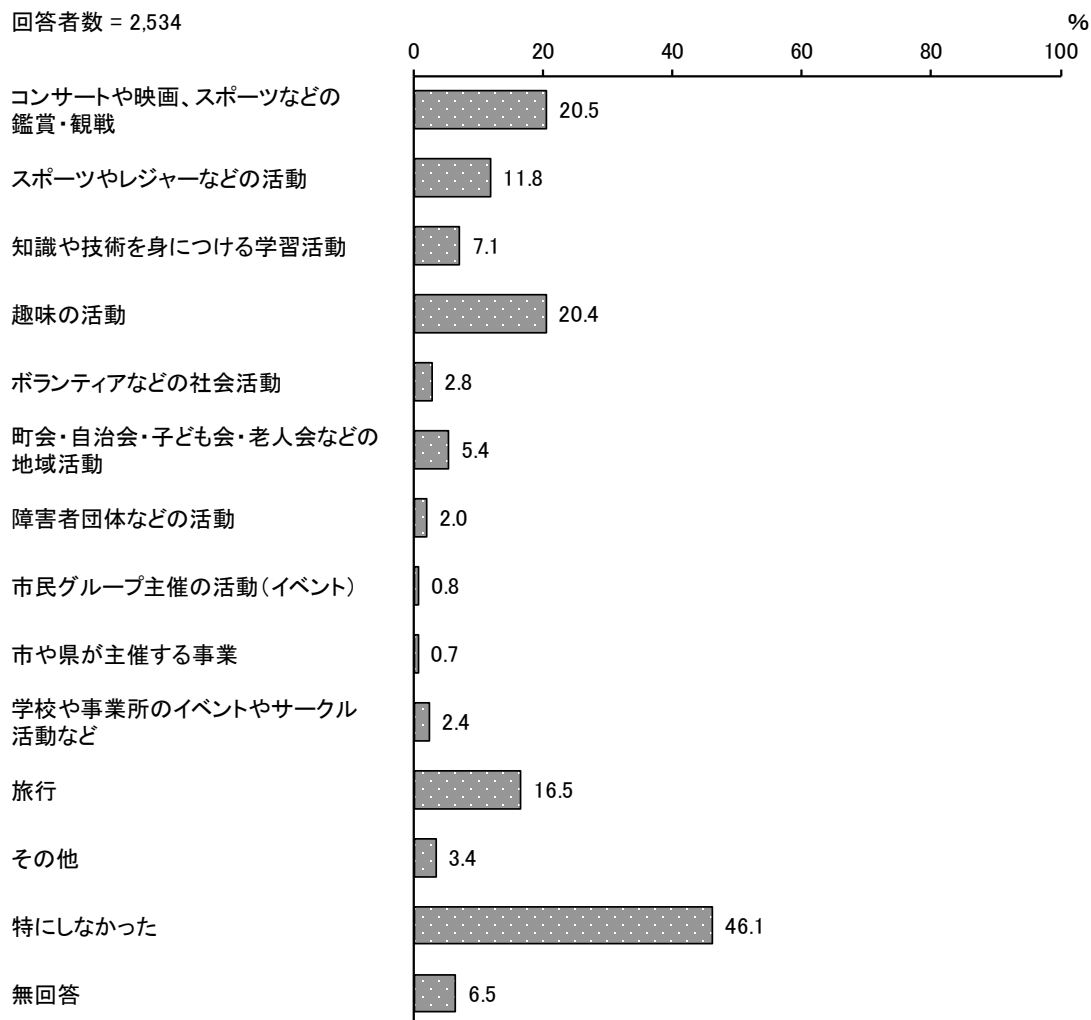
区分	回答者数 (件)	電車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	歩道が少ない・狭い	外出先の建物などの設備が不便 (通路、トイレ、エレベーターなど)	介助してくれる人がいない	障害や症状が理解されにくい	人と話すのがむずかしい	道に迷う	乗車券の購入・料金の支払い	その他	特に不便や困ることはない	わからない	無回答
身体障害	1,496	20.4	31.4	23.9	15.2	3.9	14.0	7.6	3.0	6.3	5.8	28.5	3.7	11.5
知的障害	253	10.3	13.0	23.7	11.1	8.7	28.1	30.8	9.1	21.3	4.7	18.2	8.7	12.3
精神障害	430	10.0	16.0	15.8	8.1	4.7	25.6	15.6	16.0	5.6	9.1	29.8	5.1	7.0
発達障害	177	6.2	6.2	15.8	7.9	4.5	32.2	32.8	16.9	13.0	9.0	22.6	7.9	7.9
高次脳機能障害	58	20.7	34.5	22.4	15.5	5.2	25.9	29.3	8.6	12.1	1.7	10.3	8.6	17.2
難病	281	19.6	32.0	23.1	19.6	4.3	16.0	3.9	5.3	5.0	8.9	28.8	3.9	10.3
その他	89	21.3	16.9	18.0	10.1	5.6	14.6	10.1	7.9	10.1	14.6	23.6	4.5	18.0

障害者

(10) 地域活動や文化・スポーツ活動、交流などについて

問 40. この1年間に、あなたは趣味や学習、スポーツなどの活動をしましたか。
(あてはまるものすべてに○)

「特にしなかった」の割合が46.1%と最も高く、次いで「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・観戦」の割合が20.5%、「趣味の活動」の割合が20.4%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、発達障害で「趣味の活動」の割合が高くなっています。

単位：％

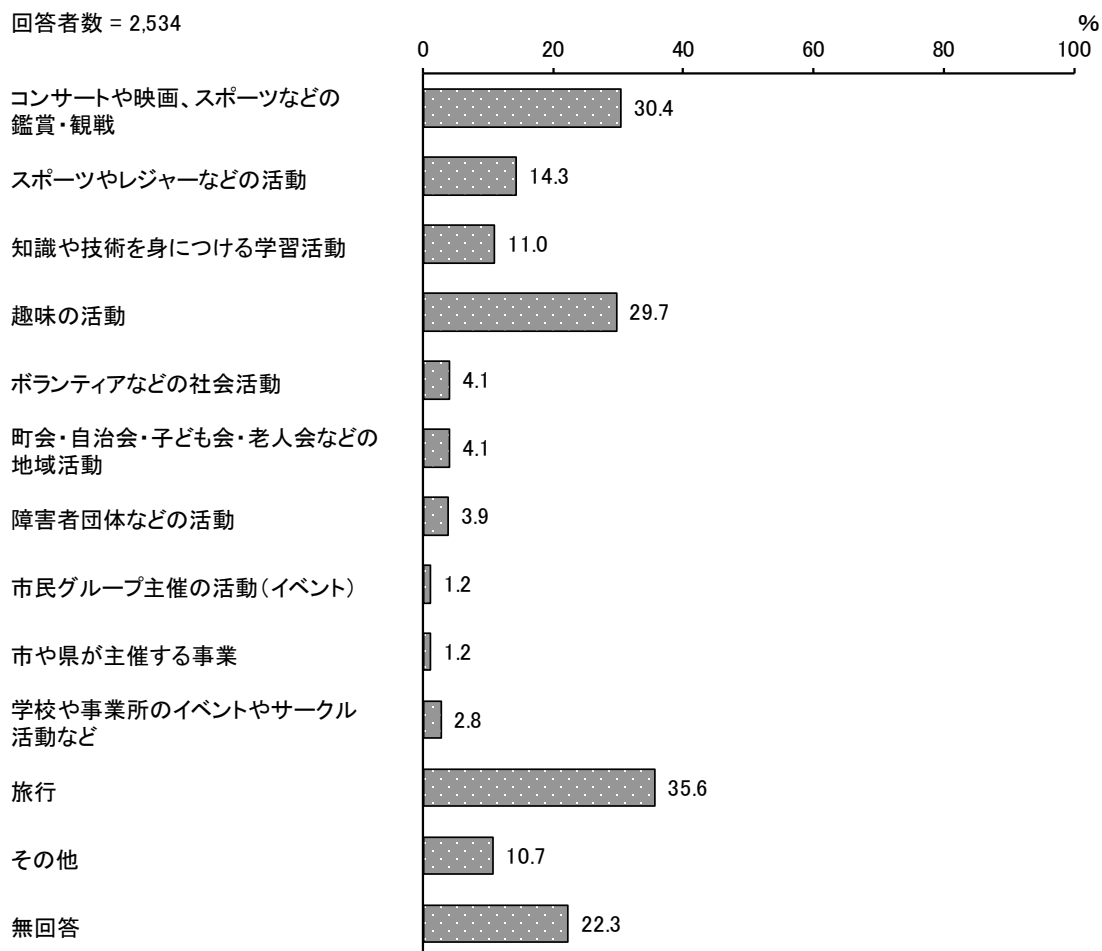
区分	回答者数 (件)	コンサートの鑑賞・観戦	スポーツやレジャーなどの活動	知識や技術を身につける学習活動	趣味の活動	ボランティアなどの社会活動	町会・自治会・子ども会・老人会などの地域活動	障害者団体などの活動	市民グループ主催の活動 (イベント)	市や県が主催する事業	学校や事業所のイベントやサークル活動など	旅行	その他	特にしなかった	無回答
身体障害	1,496	18.4	12.2	5.9	18.2	3.3	6.2	1.9	1.1	0.9	1.6	17.5	3.1	49.3	6.4
知的障害	253	22.5	15.0	2.8	17.0	—	1.6	4.3	1.6	0.8	8.3	13.8	2.4	43.1	4.7
精神障害	430	24.0	10.0	14.7	26.5	2.6	2.8	1.4	0.5	0.7	2.1	12.8	4.0	42.8	4.7
発達障害	177	29.4	18.1	15.3	35.6	1.1	3.4	4.0	2.3	0.6	7.3	18.6	2.3	30.5	2.3
高次脳機能障害	58	29.3	5.2	3.4	19.0	1.7	—	5.2	1.7	—	—	12.1	6.9	43.1	6.9
難病	281	23.1	13.2	5.0	22.8	4.6	7.8	2.1	0.7	0.4	2.5	16.7	4.6	45.2	3.9
その他	89	16.9	2.2	3.4	18.0	—	3.4	—	1.1	1.1	3.4	11.2	10.1	51.7	5.6

障害者

問 41. 今後はどのような活動をしたいと思いますか。現在から引き続き行う場合も含めてお答えください。(3つまでに○)

「旅行」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・観戦」の割合が 30.4%、「趣味の活動」の割合が 29.7%となっています。

回答者数 = 2,534



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「スポーツやレジャーなどの活動」の割合が高くなっています。

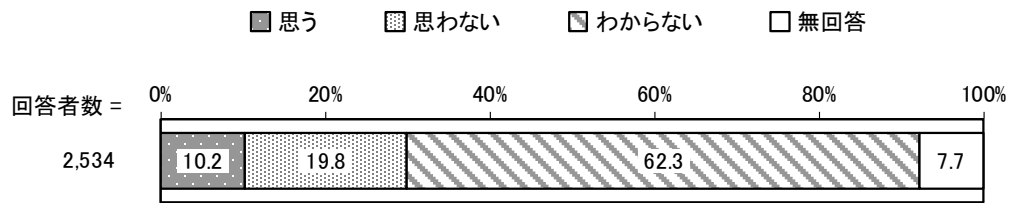
単位：％

区分	回答者数(件)	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・観戦	スポーツやレジャーなどの活動	知識や技術を身につける学習活動	趣味の活動	ボランティアなどの社会活動	町会・自治会・子ども会・老人会などの地域活動	障害者団体などの活動	市民グループ主催の活動(イベント)	市や県が主催する事業	学校や事業所のイベントやサークル活動など	旅行	その他	無回答
身体障害	1,496	27.5	14.1	8.8	27.7	3.8	5.3	2.8	1.1	1.3	1.4	36.4	10.6	24.1
知的障害	253	35.6	22.5	5.5	23.3	1.6	1.6	9.9	0.8	1.6	17.4	36.4	9.5	16.2
精神障害	430	38.6	15.8	21.4	38.4	6.5	0.9	6.7	0.9	0.9	2.6	32.1	10.7	15.6
発達障害	177	35.0	17.5	23.7	40.7	4.0	1.7	9.0	1.1	1.7	9.6	32.2	5.6	16.4
高次脳機能障害	58	29.3	10.3	3.4	17.2	1.7	1.7	3.4	—	1.7	—	39.7	12.1	31.0
難病	281	35.2	15.3	10.3	32.4	5.0	5.0	2.1	2.1	1.1	1.1	44.1	9.3	19.2
その他	89	28.1	6.7	10.1	27.0	1.1	3.4	3.4	2.2	—	3.4	32.6	20.2	18.0

障害者

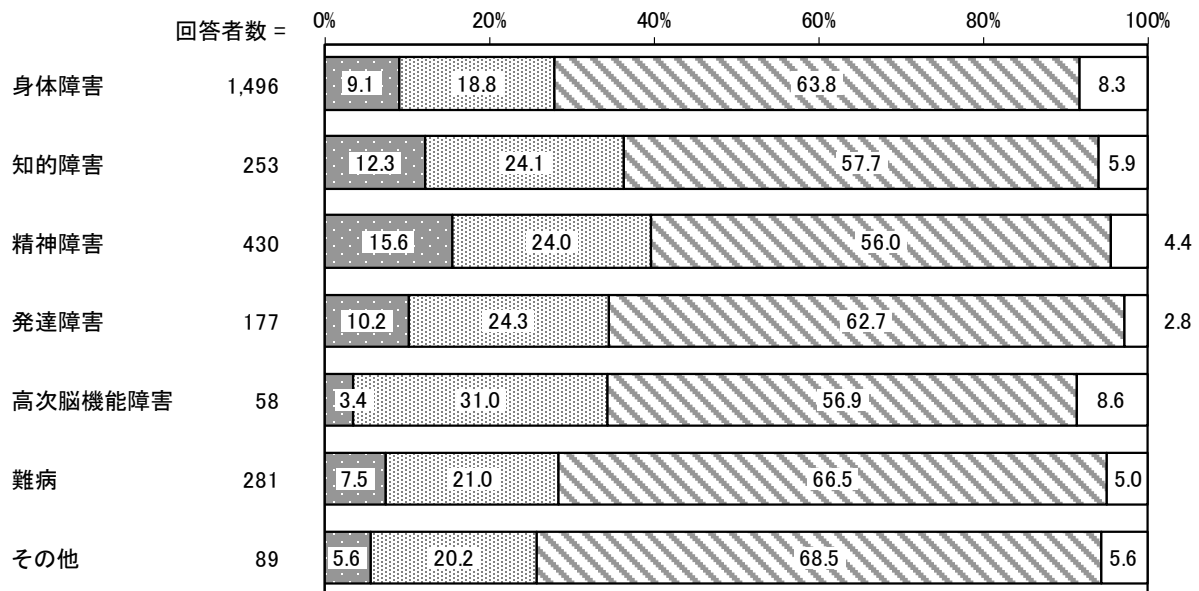
問 42 障害のある人が気軽に外出したり、地域の行事に参加できるなど、松戸市は「障害のある人にとって社会参加しやすいまち」だと思いますか。(1つに○)

「思わない」の割合が19.8%、「思う」の割合が10.2%となっています。



【障害別】

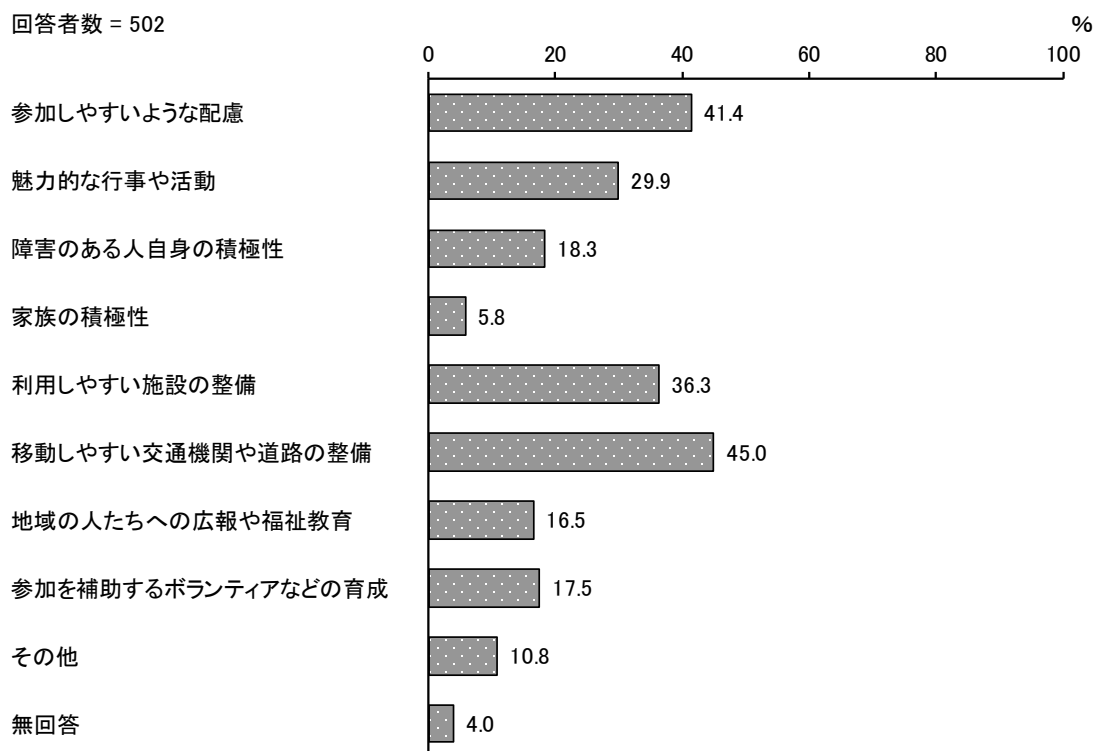
障害別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「思わない」の割合が高くなっています。



問 42 で「2. 思わない」に○をつけた方におたずねします。

問 43 「障害のある人にとって社会参加しやすいまち」だと思わない理由として、充実していないことや不足していることは何ですか。(3つまでに○)

「移動しやすい交通機関や道路の整備」の割合が 45.0%と最も高く、次いで「参加しやすいような配慮」の割合が 41.4%、「利用しやすい施設の整備」の割合が 36.3%となっています。



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病で「移動しやすい交通機関や道路の整備」の割合が、知的障害で「参加を補助するボランティアなどの育成」の割合が高くなっています。

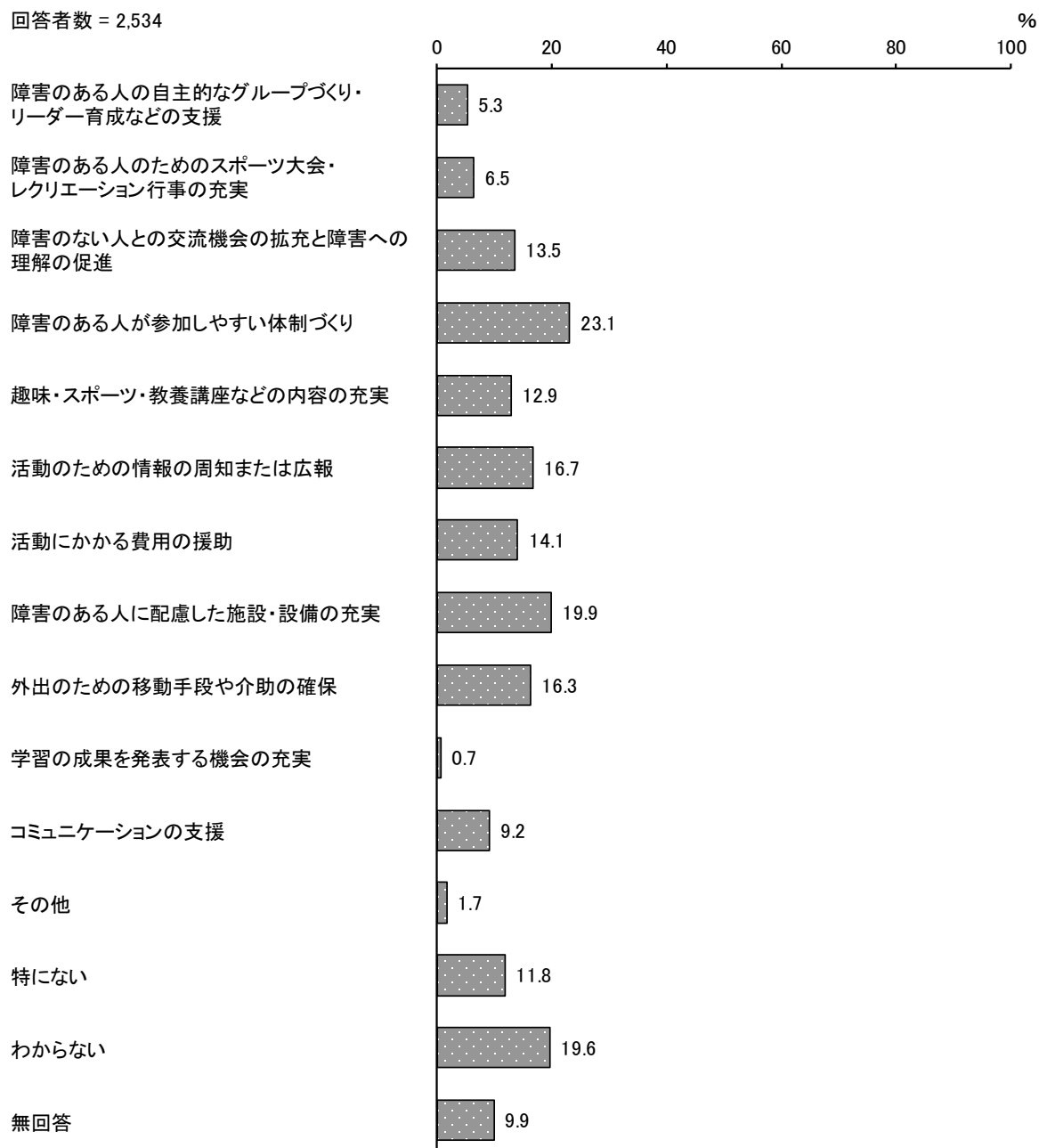
単位：％

区分	回答者数 (件)	参加しやすいような配慮	魅力的な行事や活動	障害のある人自身の積極性	家族の積極性	利用しやすい施設の整備	移動しやすい交通機関や道路の整備	地域の人たちへの広報や福祉教育	参加を補助するボランティアなどの育成	その他	無回答
身体障害	281	40.2	23.1	16.0	4.3	44.5	51.2	12.8	19.6	7.5	5.0
知的障害	61	55.7	44.3	13.1	14.8	32.8	19.7	32.8	29.5	4.9	3.3
精神障害	103	40.8	37.9	26.2	1.9	23.3	39.8	18.4	12.6	22.3	2.9
発達障害	43	60.5	46.5	14.0	9.3	37.2	18.6	27.9	18.6	9.3	—
高次脳機能障害	18	44.4	11.1	27.8	16.7	44.4	38.9	16.7	22.2	5.6	—
難病	59	44.1	23.7	15.3	5.1	33.9	62.7	15.3	23.7	13.6	—
その他	18	33.3	33.3	16.7	5.6	33.3	44.4	16.7	22.2	27.8	—

問 44. 障害のある人の文化・スポーツ活動などをより一層活発にするために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

「障害のある人が参加しやすい体制づくり」の割合が23.1%と最も高く、次いで「障害のある人に配慮した施設・設備の充実」の割合が19.9%、「活動のための情報の周知または広報」が16.7%となっています。

回答者数 = 2,534

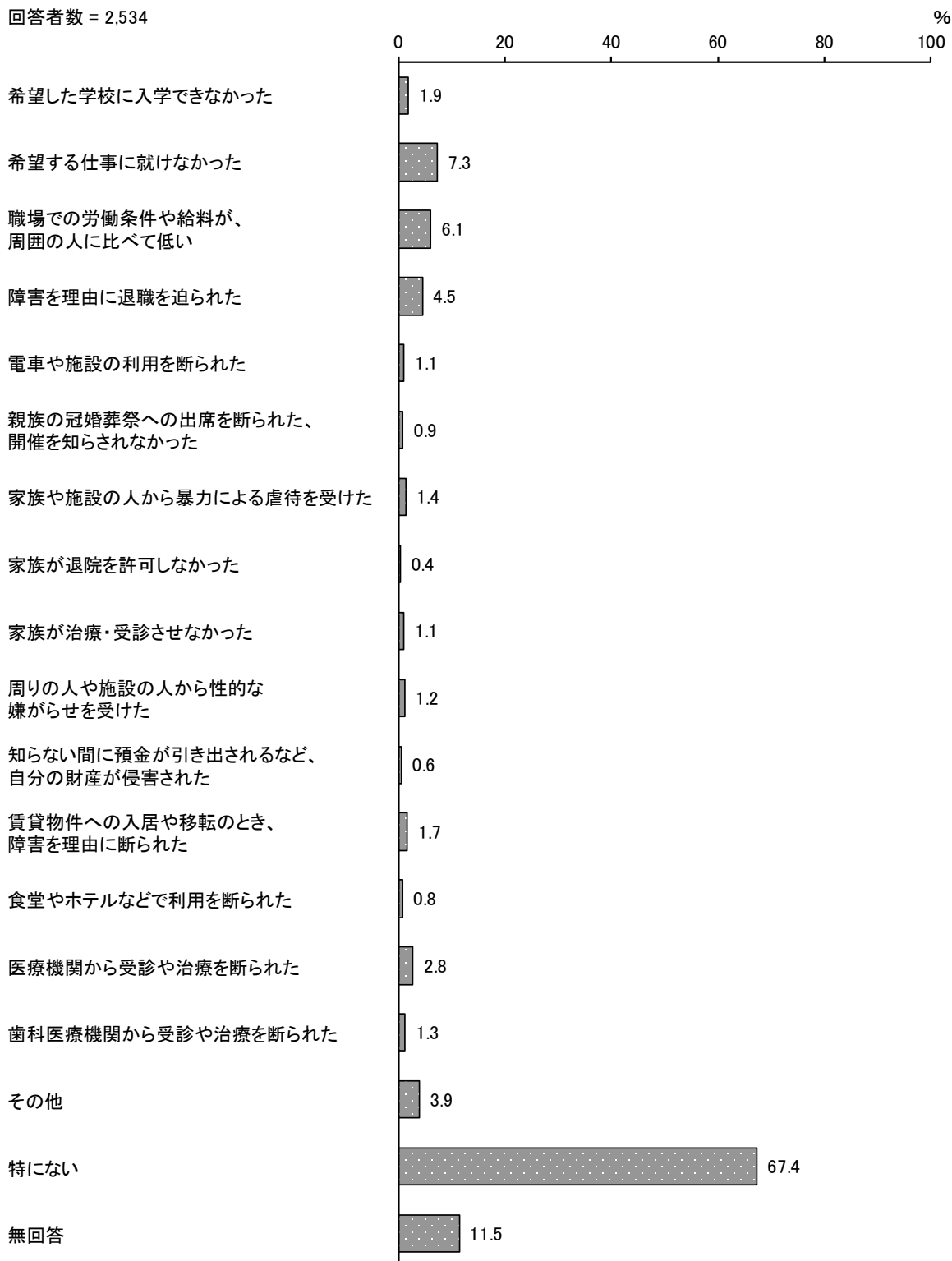


(11) 障害のある人への権利擁護について

問 45. あなたは、障害があることが原因で、日常生活の中で下記のような人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

日常生活の中で人権を損なう扱いを受けた経験のある人の割合は21.1%となっています。

回答者数 = 2,534



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、発達障害で「医療機関から受診や治療を断られた」の割合が高くなっています。

単位：％

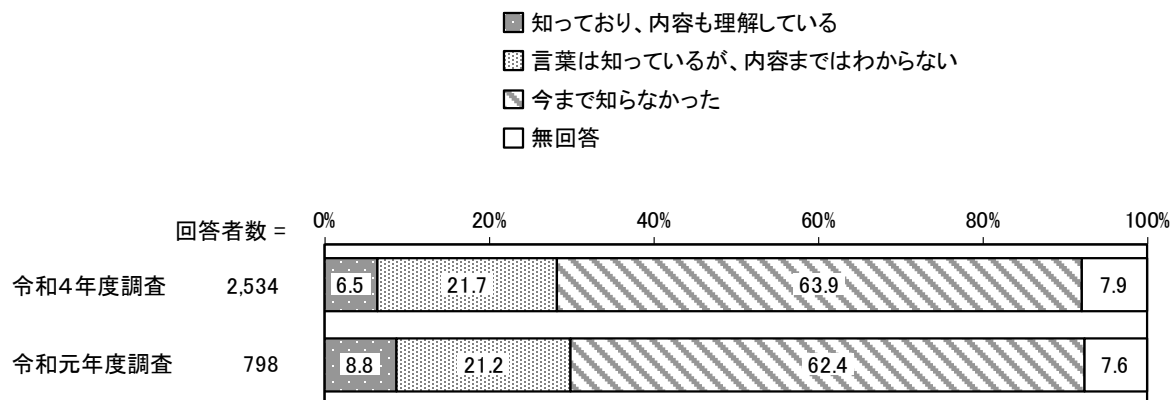
区分	回答者数 (件)	希望した学校に 入学できなかった	希望する仕事に 就けなかった	職場での労働条件や 給料が、周囲の人に 比べて低い	障害を理由に退職を 迫られた	電車や施設の利用を 断られた	親族の冠婚葬祭への 出席を断られた、開催 を知らされなかった	家族や施設の人か ら暴力による虐待を 受けた	家族が退院を 許可しなかった	家族が治療・受診させ なかった
身体障害	1,496	1.5	5.8	3.7	3.3	1.3	0.6	0.5	0.2	0.4
知的障害	253	4.7	7.1	11.9	3.6	1.2	1.2	2.8	—	0.4
精神障害	430	3.3	16.0	11.9	12.6	1.4	2.6	4.4	2.1	4.4
発達障害	177	6.2	11.9	14.7	8.5	2.8	0.6	6.2	1.1	5.1
高次脳機能障害	58	3.4	8.6	1.7	12.1	—	—	3.4	1.7	3.4
難病	281	1.1	5.3	2.5	2.8	0.4	0.4	1.1	0.4	1.4
その他	89	3.4	7.9	7.9	1.1	1.1	—	3.4	1.1	3.4

区分	周りの人や施設の 人から性的な嫌がらせ を受けた	知らない間に預金が引 き出されるなど、自分 の財産が侵害された	転のとき、障害を理由 に断られた	賃貸物件への入居や移 転のとき、障害を理由 に断られた	食堂やホテルなどで 利用を断られた	医療機関から受診や 治療を断られた	歯科医療機関から 受診や治療を断られた	その他	特にな い	無回 答
身体障害	0.6	0.5	1.3	1.0	2.1	1.3	2.1	72.6	11.9	
知的障害	0.4	0.4	0.8	1.2	4.0	1.6	5.9	60.5	6.7	
精神障害	3.7	2.3	5.6	0.7	4.4	1.4	8.6	51.6	7.0	
発達障害	4.5	1.1	2.3	1.1	10.7	3.4	10.2	52.5	6.2	
高次脳機能障害	1.7	3.4	3.4	3.4	3.4	1.7	5.2	62.1	10.3	
難病	—	0.4	1.1	1.1	4.3	1.1	3.9	67.6	14.6	
その他	3.4	1.1	5.6	2.2	2.2	—	4.5	69.7	6.7	

問 46. 平成 28 年 4 月 1 日から「障害者差別解消法」が施行されました。この法律では、国や市区町村といった行政機関や、会社やお店などの民間事業者が、「障害を理由とする差別」をなくし、すべての人が障害のあるなしにかかわらず、お互いに人格と個性を尊重しあいながら共に生きる社会をつくることを目指しています。あなたは、「障害者差別解消法」を知っていますか。(1つに○)

「今まで知らなかった」の割合が 63.9%と最も高く、次いで「言葉は知っているが、内容まではわからない」の割合が 21.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

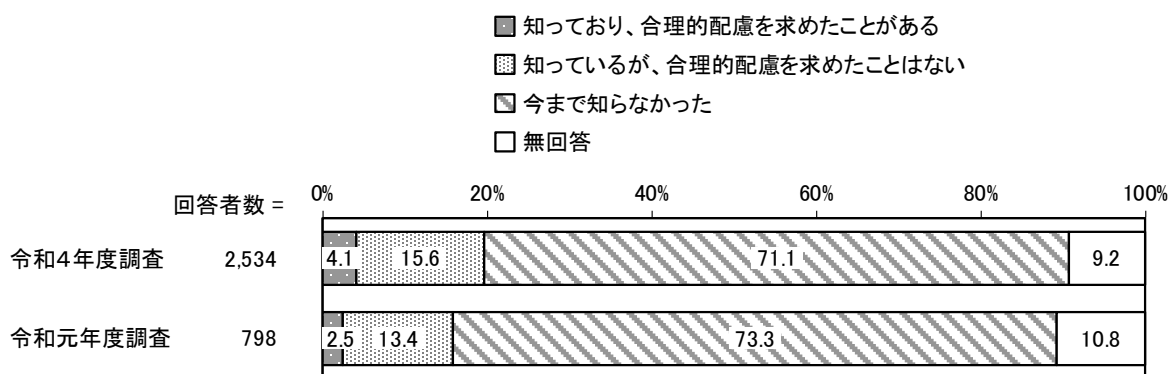


障害者

問 47. 障害者差別解消法では、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること（合理的配慮の提供）を求めています。あなたは、合理的配慮を知っていますか。また、合理的配慮を求めたことがありますか。（1つに○）

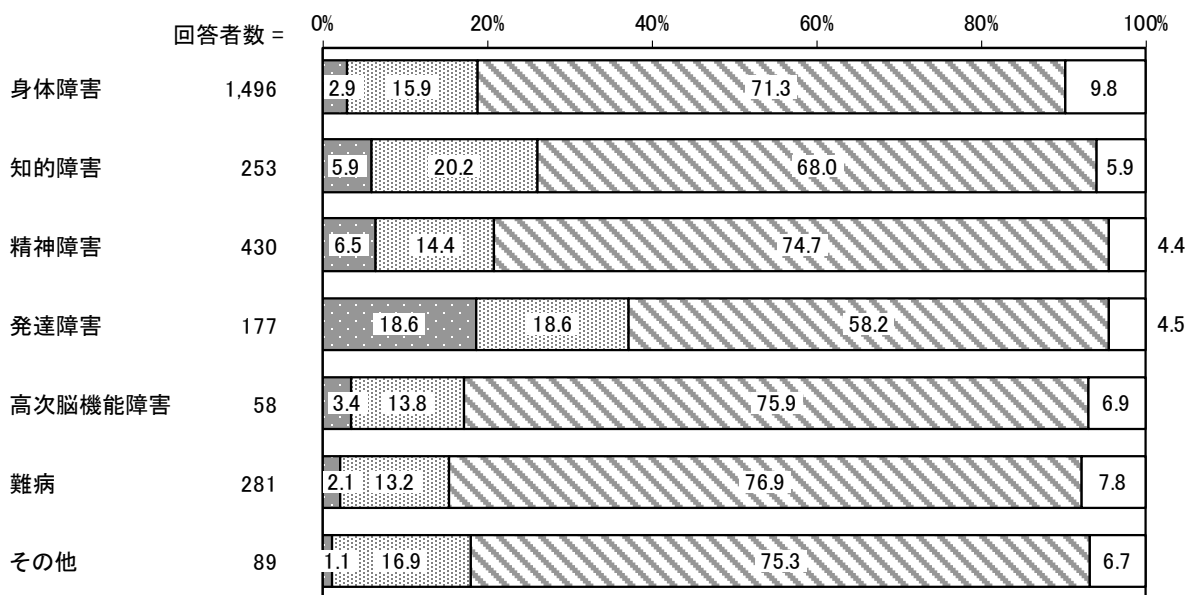
「今まで知らなかった」の割合が71.1%と最も高く、次いで「知っているが、合理的配慮を求めたことはない」の割合が15.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害別】

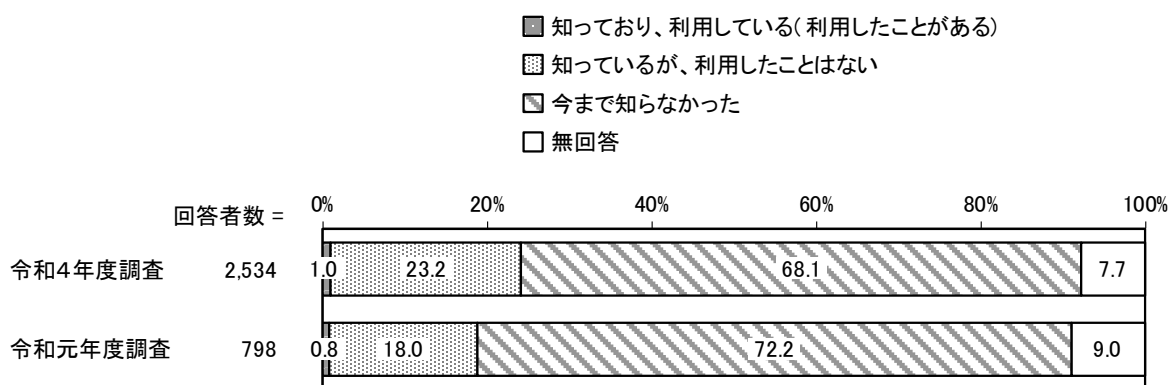
障害別でみると、他に比べ、発達障害で「知っており、合理的配慮を求めたことがある」の割合が高くなっています。



問 48. 松戸市では、障害者虐待防止・障害者差別相談センターを設置し、障害のある人に対する虐待や差別の相談を受け付けています。あなたは、通報・相談窓口について知っていますか。(1つに○)

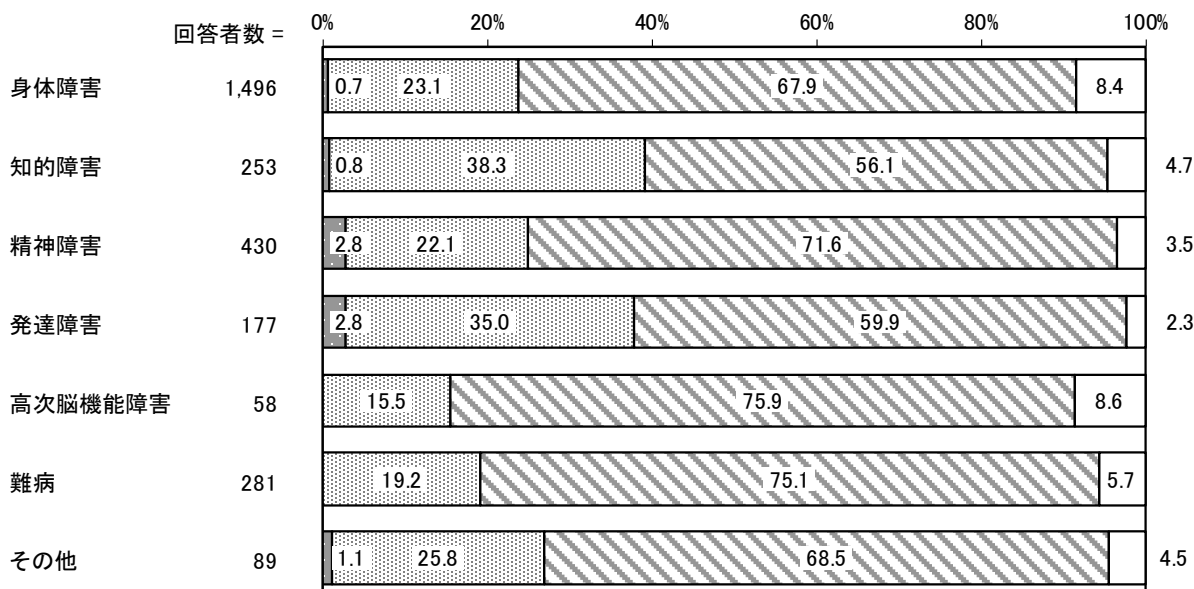
「今まで知らなかった」の割合が68.1%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」の割合が23.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「知っているが、利用したことはない」の割合が増加しています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害、発達障害で「知っているが、利用したことはない」の割合が高くなっています。

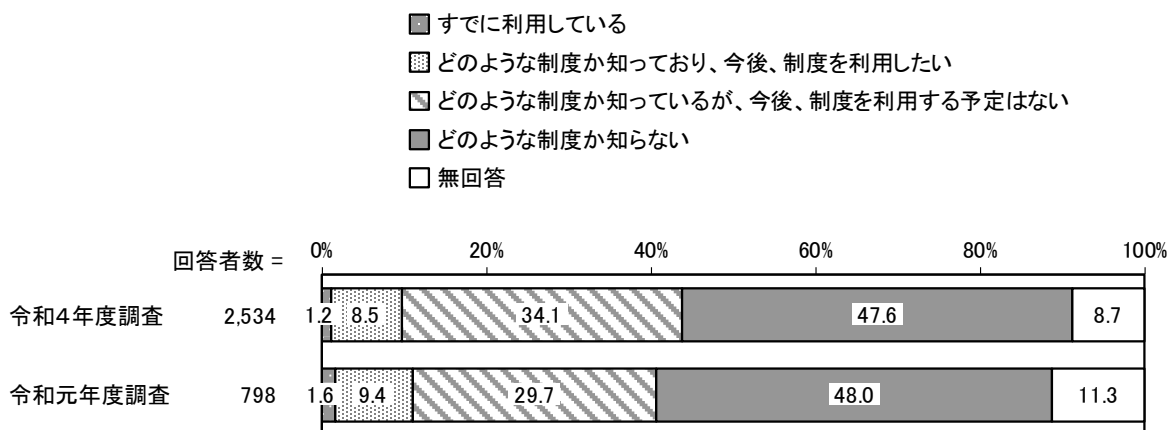


障害者

問 49. 障害や加齢などにより判断能力が十分でない人の権利を守る「成年後見制度」を知っていますか。また、利用したいですか。(1つに○)

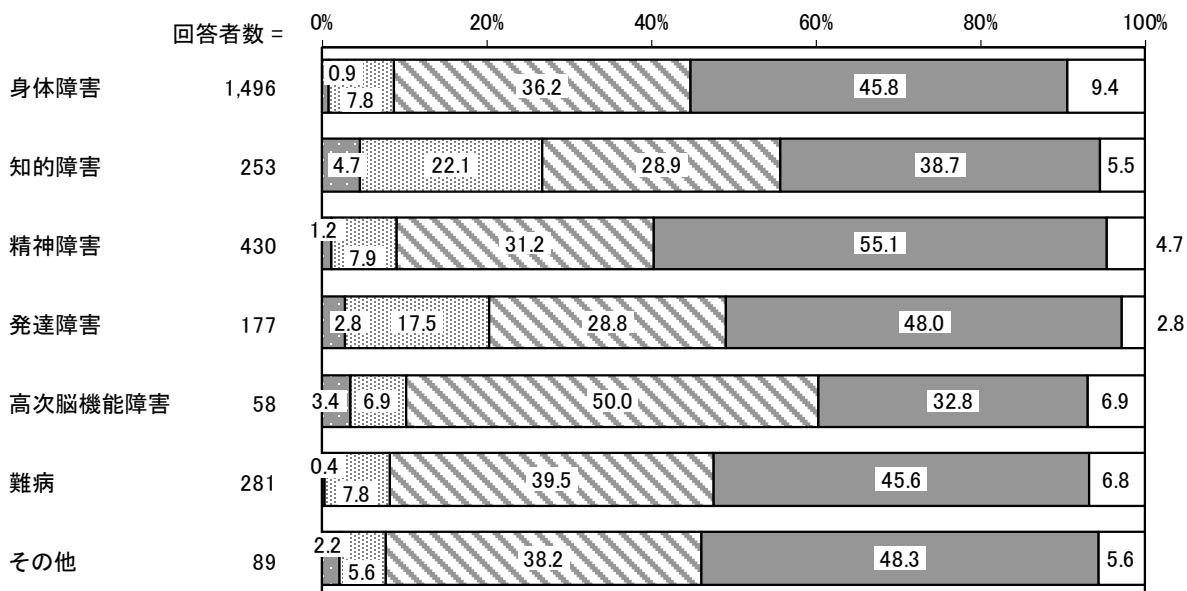
「どのような制度か知らない」の割合が47.6%と最も高く、次いで「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」の割合が34.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」の割合が、精神障害で「どのような制度か知らない」の割合が高くなっています。

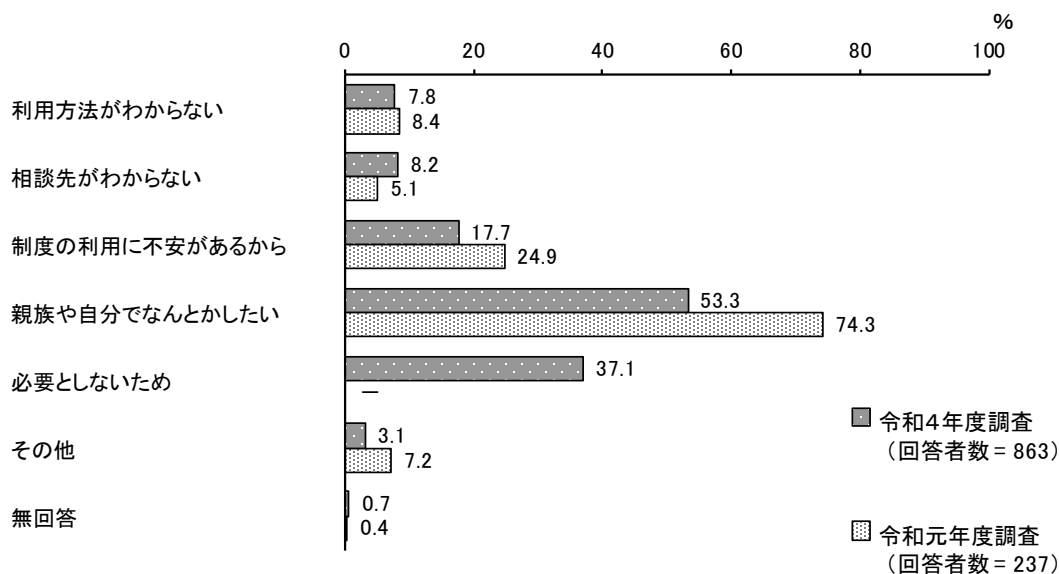


問 49 で「3. どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」に○をつけた方におたずねします。

問 50. 利用しない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

「親族や自分でなんとかしたい」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「必要としないため」の割合が 37.1%、「制度の利用に不安があるから」の割合が 17.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「相談先がわからない」の割合が増加しています。一方、「制度の利用に不安があるから」「親族や自分でなんとかしたい」の割合が減少しています。



※前回、「必要としないため」の選択肢はありませんでした。

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「親族や自分でなんとかしたい」の割合が高くなっています。

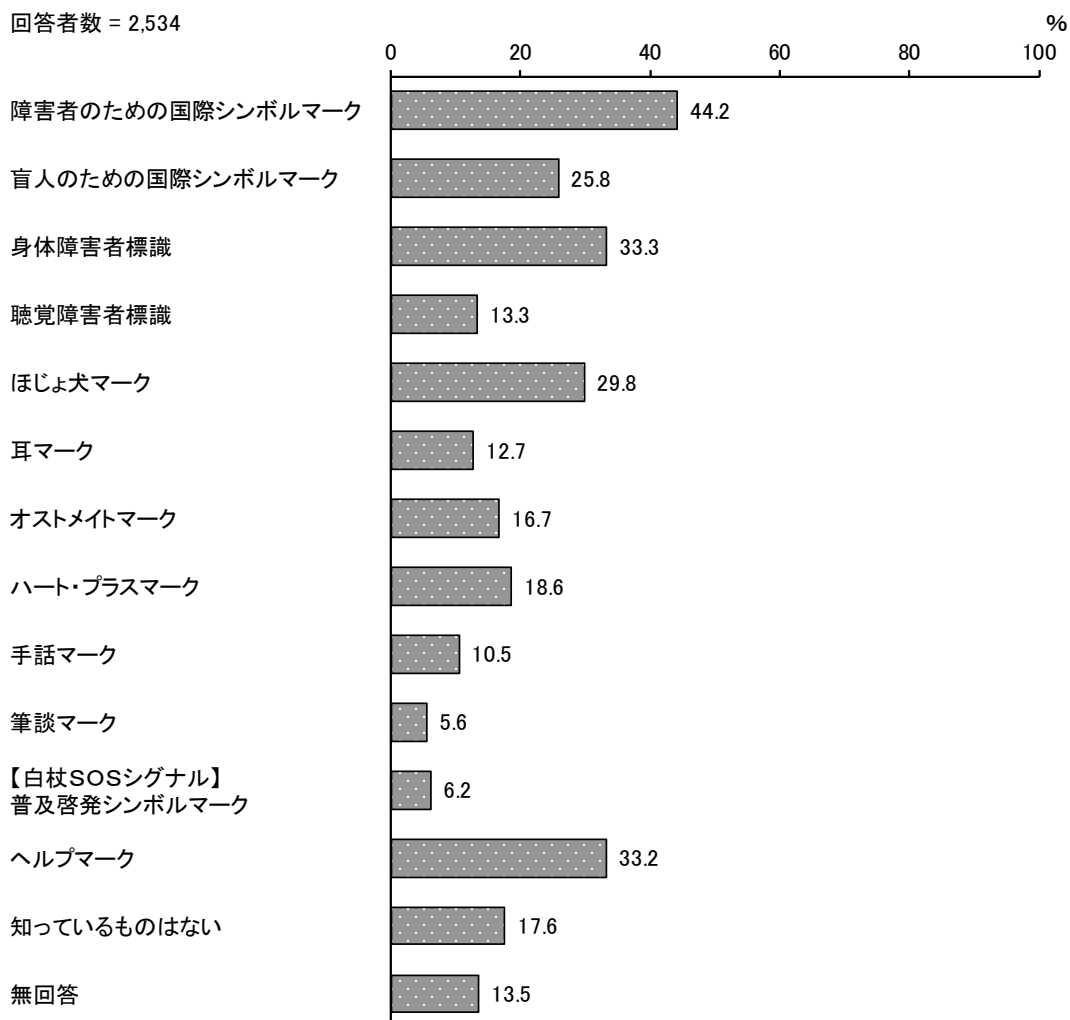
単位：%

区分	回答者数 (件)	利用方法がわからない	相談先がわからない	制度の利用に不安があるから	親族や自分でなんとかしたい	必要としないため	その他	無回答
身体障害	541	5.9	7.0	14.2	54.5	36.8	3.1	0.9
知的障害	73	12.3	12.3	43.8	68.5	16.4	1.4	1.4
精神障害	134	14.9	13.4	23.9	47.8	38.1	4.5	—
発達障害	51	17.6	19.6	39.2	49.0	35.3	2.0	—
高次脳機能障害	29	—	—	20.7	55.2	34.5	3.4	—
難病	111	2.7	2.7	19.8	55.0	39.6	2.7	—
その他	34	2.9	8.8	20.6	47.1	38.2	2.9	—

障害者

問 51 障害のある人に関するマーク・標識で知っているものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

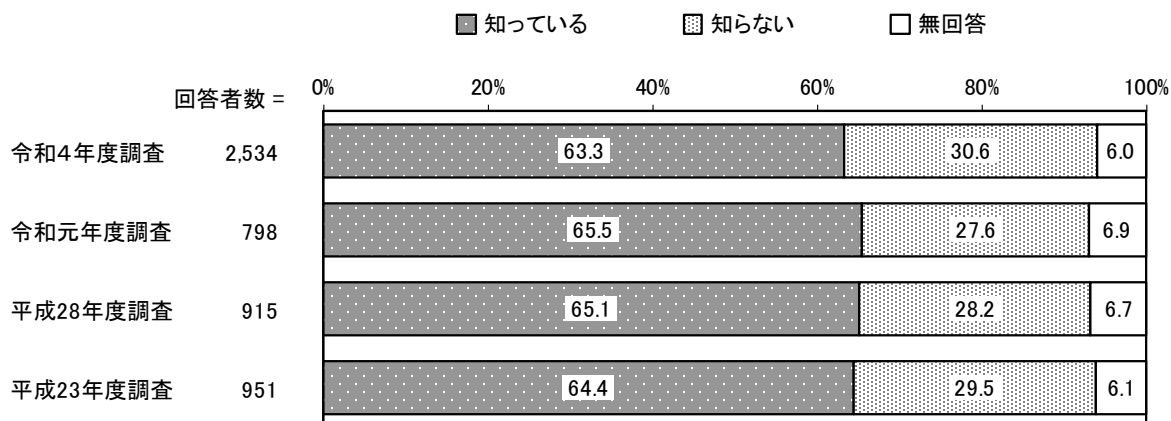
「障害者のための国際シンボルマーク」の割合が 44.2%と最も高く、次いで「身体障害者標識」の割合が 33.3%、「ヘルプマーク」の割合が 33.2%となっています。



(12) 防災対策について

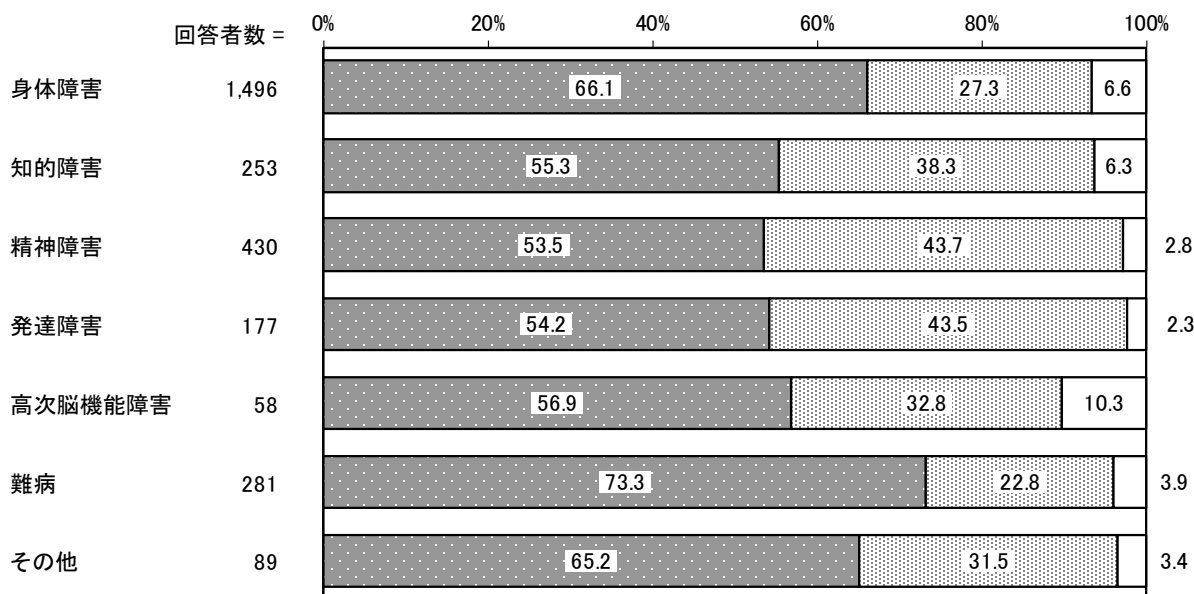
問 52. あなたは、災害時（火事や地震などのとき）の避難所・避難場所を知っていますか。（どちらかに○）

「知っている」の割合が63.3%、「知らない」の割合が30.6%となっています。
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害別】

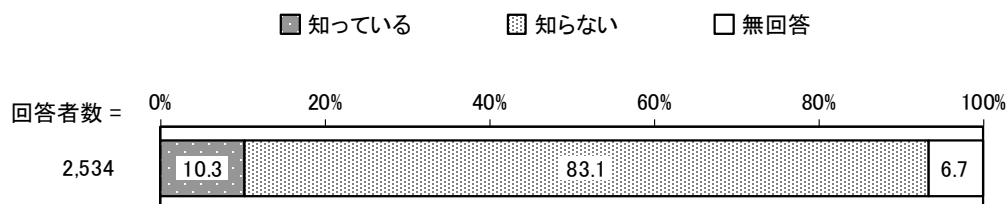
障害別でみると、他に比べ、難病で「知っている」の割合が高くなっています。



障害者

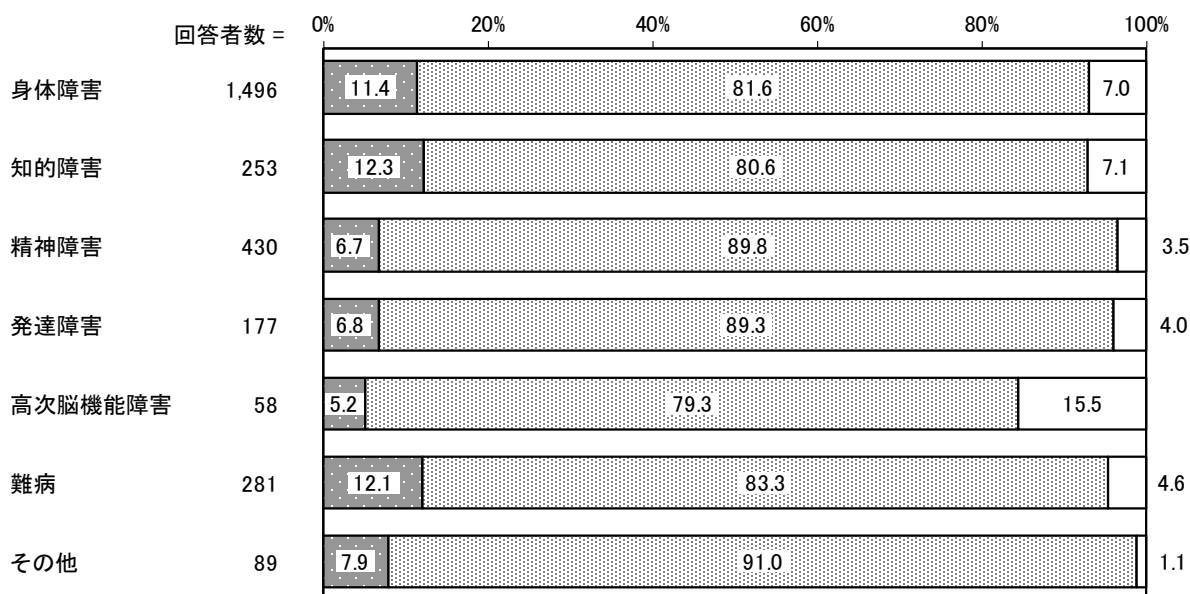
問 53. あなたは、福祉避難所の所在を知っていますか。(どちらかに○)

「知っている」の割合が 10.3%、「知らない」の割合が 83.1%となっています。



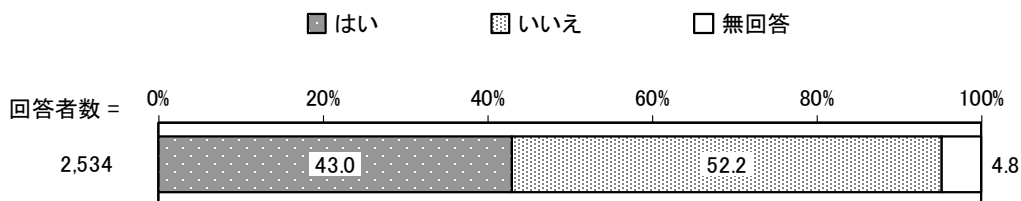
【障害別】

障害別でみると、他に比べ、精神障害、発達障害、その他で「知らない」の割合が高くなっています。



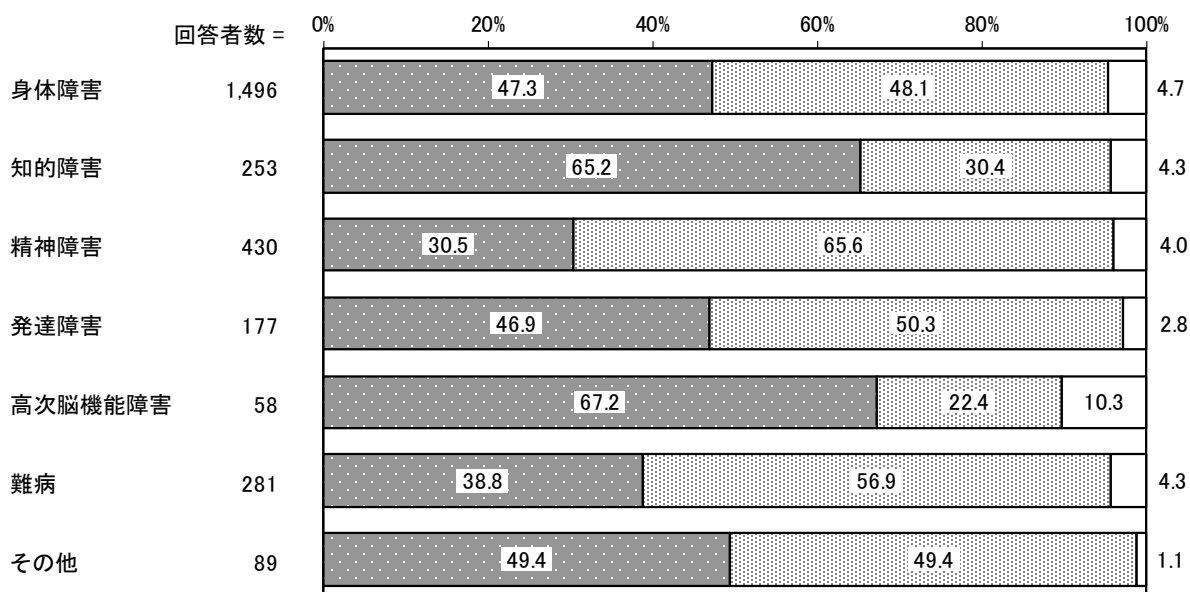
問 54. 避難するときに支援が必要ですか。(どちらかに○)

「はい」の割合が43.0%、「いいえ」の割合が52.2%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害、高次脳機能障害で「はい」の割合が、精神障害で「いいえ」の割合が高くなっています。



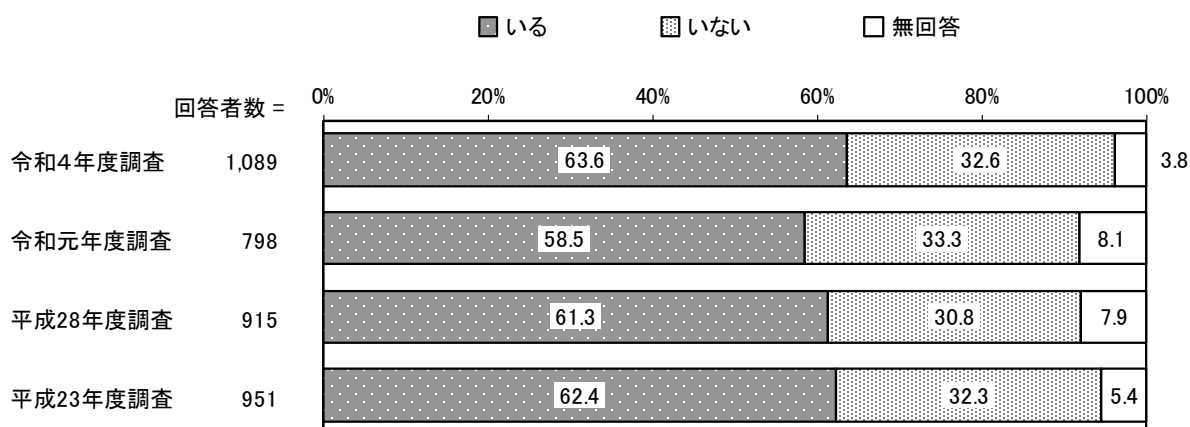
障害者

問 54 で「1. はい」に○をつけた方におたずねします。

問 55. あなたは、災害時に一緒に避難してくれる人がいますか。
(昼間と夜間について、それぞれどちらかに○)

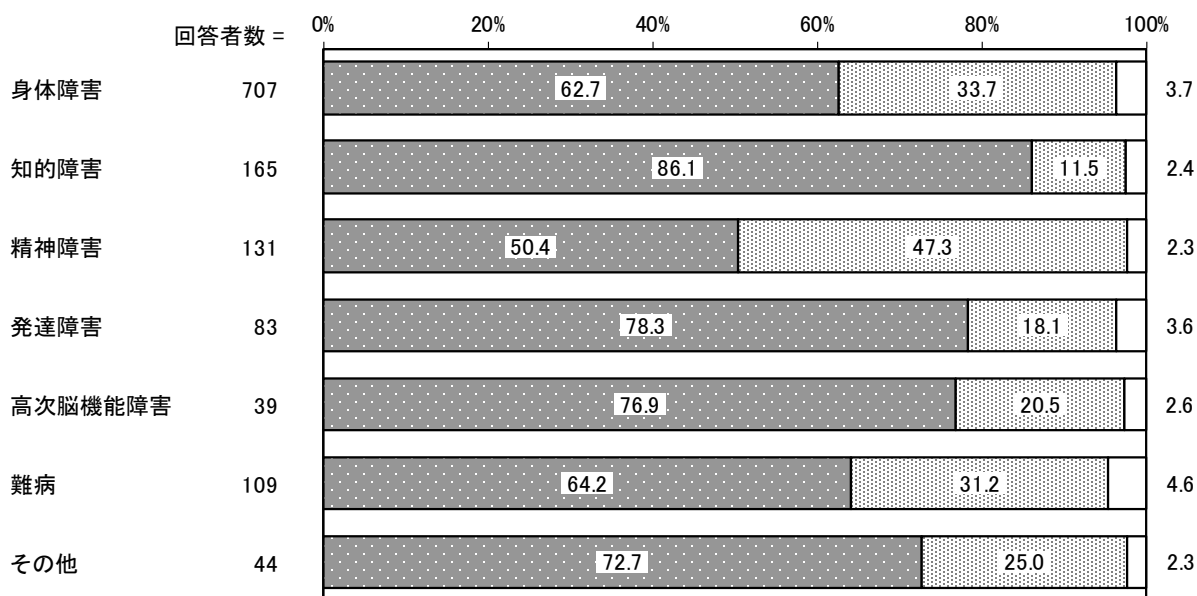
[昼間]

「いる」の割合が63.6%、「いない」の割合が32.6%となっています。
令和元年度調査と比較すると、「いる」の割合が増加しています。



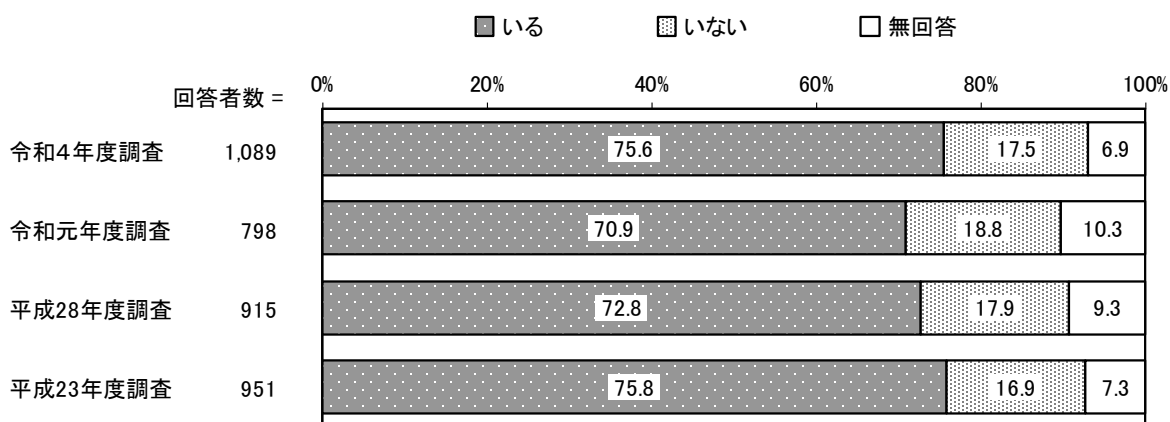
【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「いる」の割合が、精神障害で「いない」の割合が高くなっています。



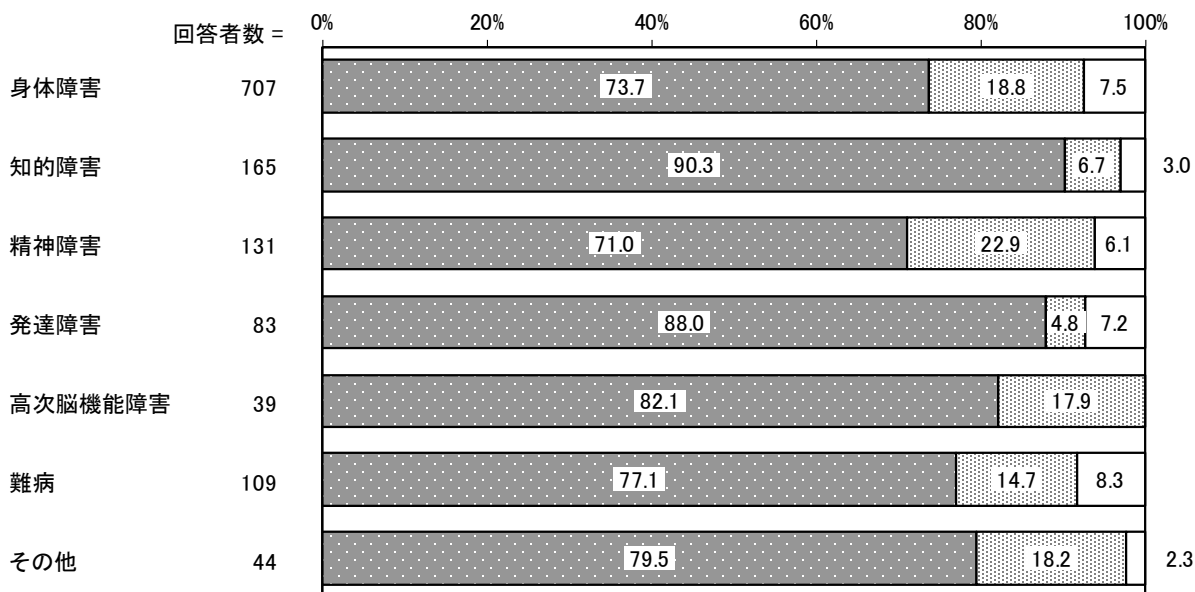
〔夜間〕

「いる」の割合が75.6%、「いない」の割合が17.5%となっています。
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害別】

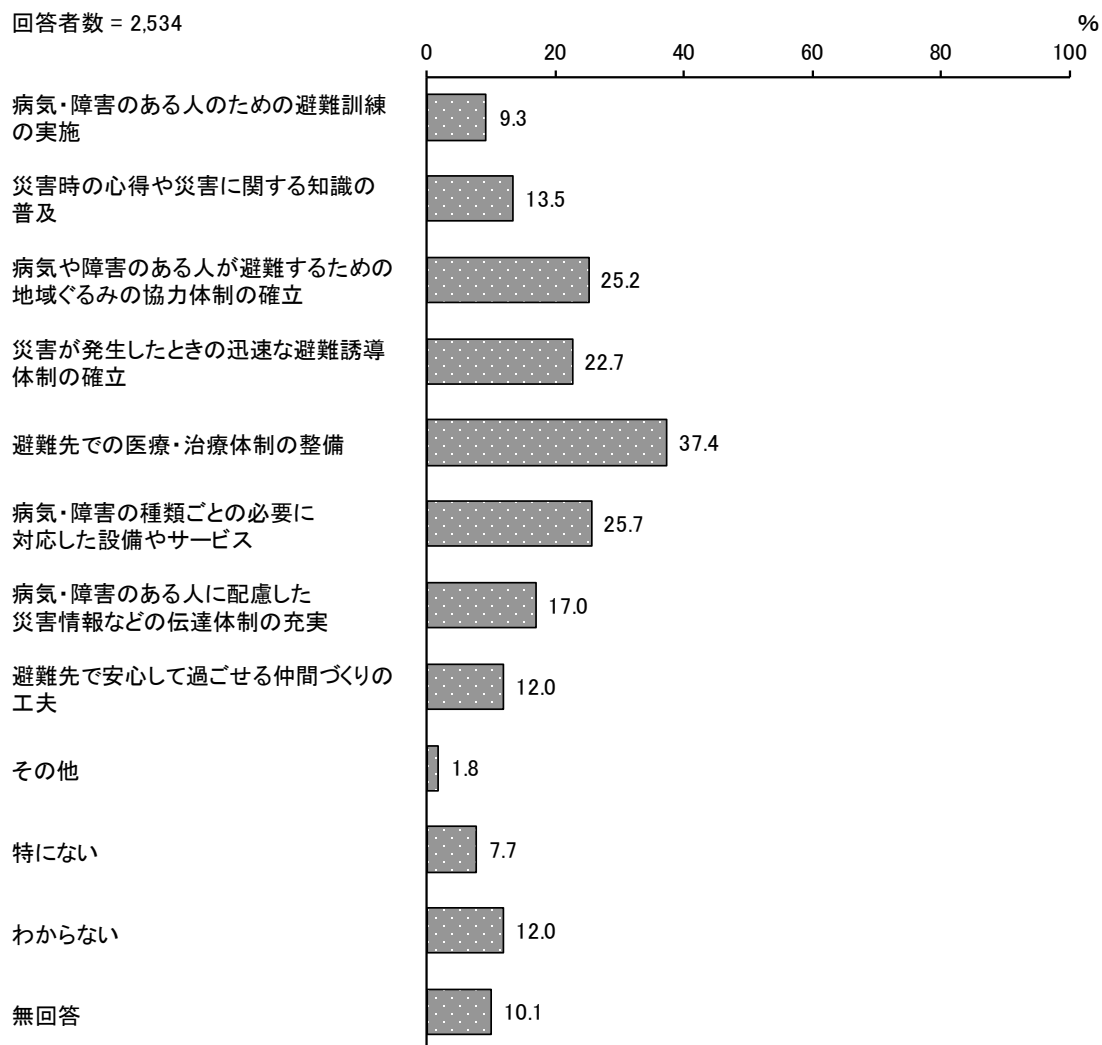
障害別で見ると、他に比べ、知的障害、発達障害で「いる」の割合が高くなっています。



障害者

問 56. あなたは、災害時に備えてどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。
(3つまでに○)

「避難先での医療・治療体制の整備」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「病気・障害の種類ごとの必要に対応した設備やサービス」の割合が 25.7%、「病気や障害のある人が避難するための地域ぐるみの協力体制の確立」の割合が 25.2%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、発達障害で「災害時の心得や災害に関する知識の普及」の割合が、知的障害で「病気や障害のある人が避難するための地域ぐるみの協力体制の確立」の割合が高くなっています。また、発達障害で「病気・障害のある人に配慮した災害情報などの伝達体制の充実」の割合が高くなっています。

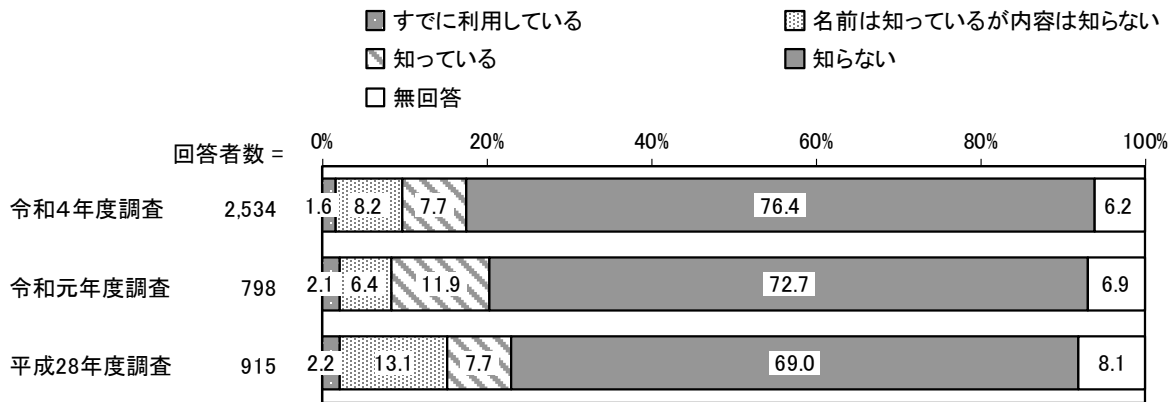
単位：％

区分	回答者数 (件)	避 難 訓 練 の 実 施	病 気 ・ 障 害 の あ る 人 の た め の	災 害 時 の 心 得 や 災 害 に 関 す る 知 識 の 普 及	災 害 時 の 心 得 や 災 害 に 関 す る 知 識 の 普 及	病 気 や 障 害 の あ る 人 が 避 難 す る た め の 地 域 ぐ る み の 協 力 体 制 の 確 立	避 難 誘 導 体 制 の 確 立	災 害 が 発 生 し た と き の 迅 速 な 避 難 誘 導 体 制 の 確 立	避 難 先 で の 医 療 ・ 治 療 体 制 の 整 備	病 気 ・ 障 害 の 種 類 ご と の 必 要 に 対 応 し た 設 備 や サ ー ビ ス	病 気 ・ 障 害 の あ る 人 に 配 慮 し た 災 害 情 報 な ど の 伝 達 体 制 の 充 実	避 難 先 で 安 心 し て 過 ご せ る 仲 間 づ く り の 工 夫	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
身体障害	1,496	8.8	12.2	26.6	25.0	39.2	25.5	16.5	9.1	1.1	7.9	10.6	10.8			
知的障害	253	11.1	7.1	34.8	16.6	27.3	35.6	18.2	27.7	0.8	3.6	14.6	10.7			
精神障害	430	8.8	18.1	17.4	15.3	37.9	25.6	14.7	14.4	4.2	8.6	18.4	6.7			
発達障害	177	11.9	23.2	27.7	19.8	32.2	35.6	25.4	28.2	1.7	4.0	7.3	6.8			
高次脳機能障害	58	5.2	3.4	24.1	12.1	36.2	27.6	20.7	6.9	—	3.4	19.0	15.5			
難病	281	8.2	11.7	28.5	26.7	51.2	32.0	18.1	8.9	2.5	4.6	9.6	9.6			
その他	89	7.9	9.0	28.1	25.8	38.2	27.0	15.7	11.2	4.5	7.9	12.4	5.6			

障害者

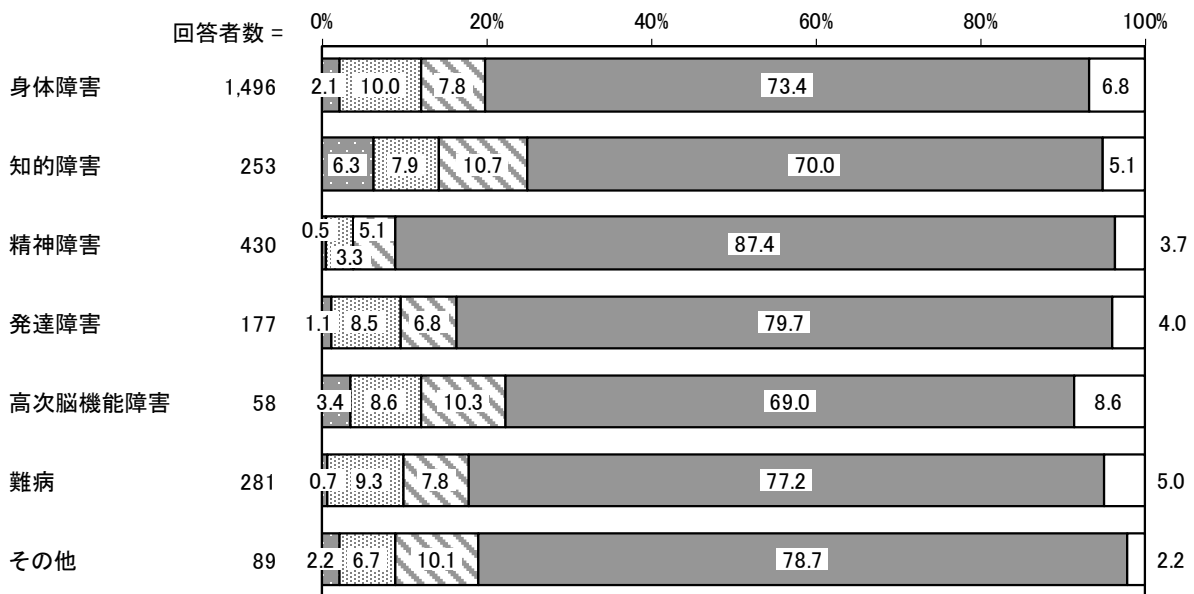
問 57. あなたは、避難行動要支援者避難支援制度を知っていますか。(1つに○)

「知らない」の割合が76.4%と最も高くなっています。
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害別】

障害別で見ると、他に比べ、精神障害で「知らない」の割合が高くなっています。

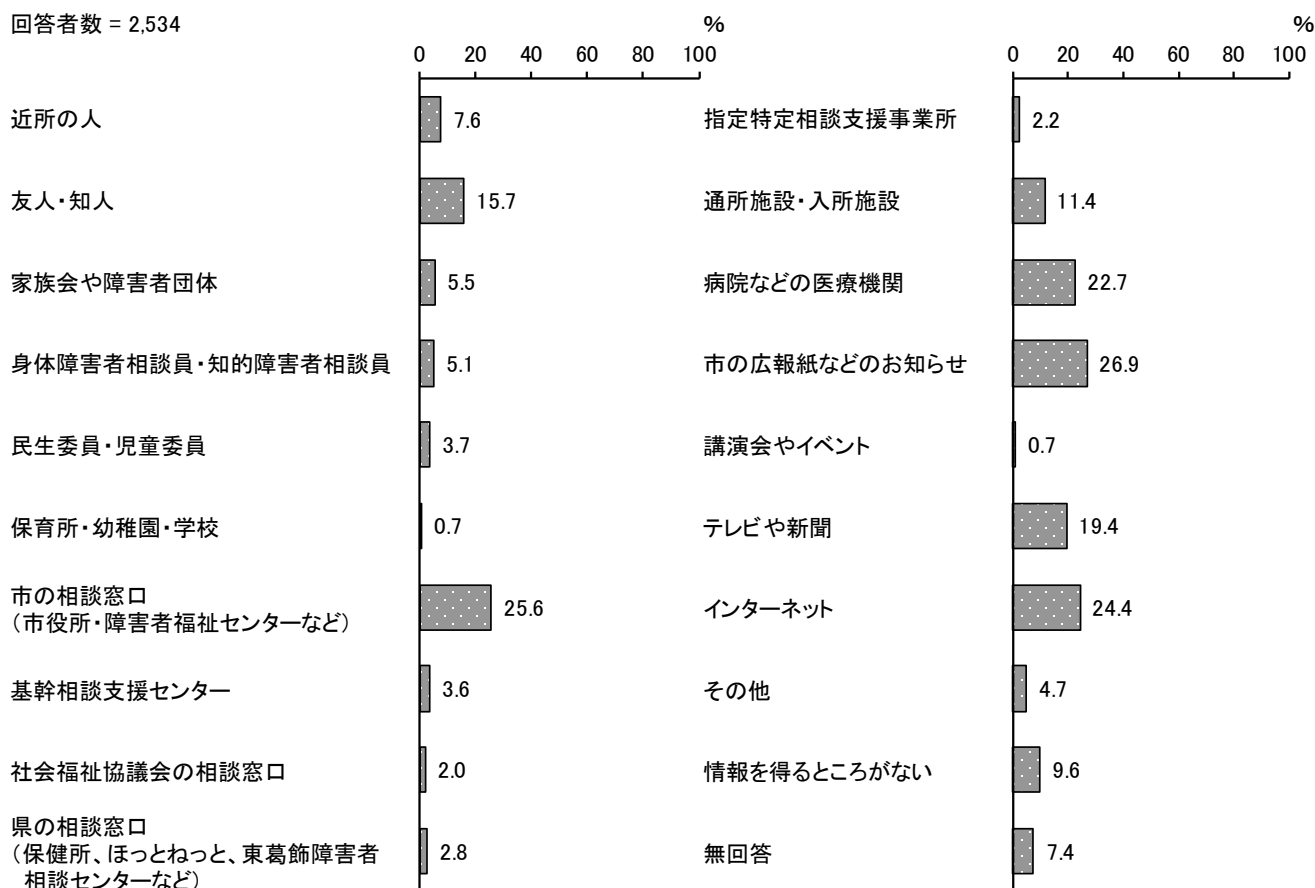


(13) 相談、情報提供や今後望まれる施策などについて

問 58. あなたやご家族の方は、福祉サービスに関し、必要な情報をどこで得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

「市の広報紙などのお知らせ」の割合が 26.9%と最も高く、次いで「市の相談窓口（市役所・障害者福祉センターなど）」の割合が 25.6%、「インターネット」の割合が 24.4%となっています。

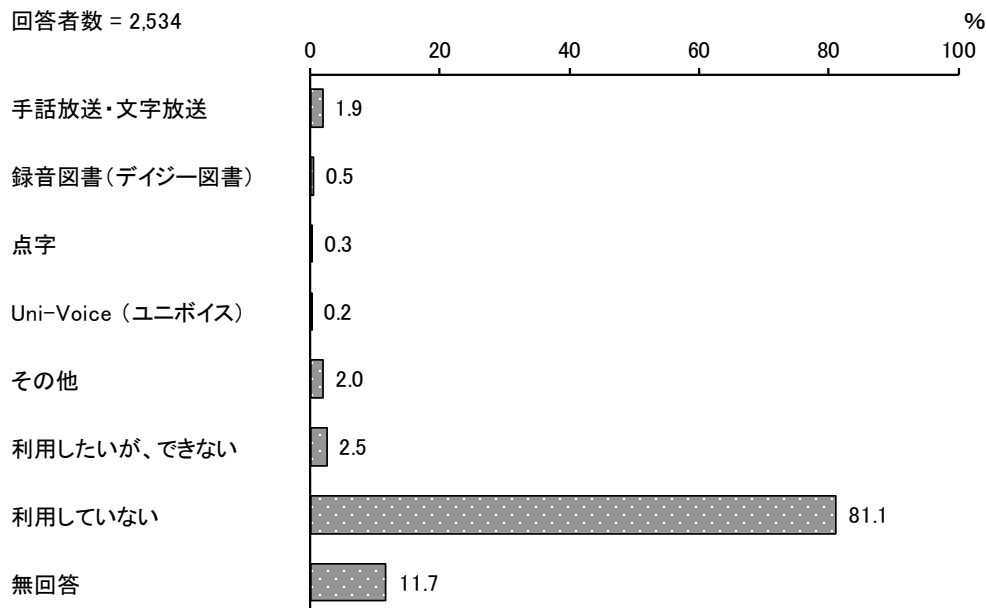
回答者数 = 2,534



障害者

問 59. あなたが障害福祉サービスに関し、必要な情報を得る際、利用している（したことがある）媒体・サービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

「利用していない」の割合が81.1%と最も高くなっています。



【障害別】

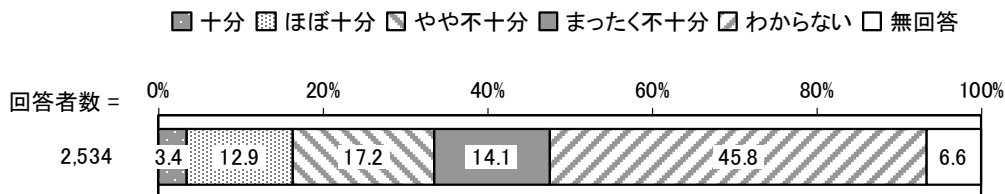
障害別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	手話放送・文字放送	録音図書(デージー図書)	点字	Uni-Voice (ユニボイス)	その他	利用したいが、できない	利用していない	無回答
身体障害	1,496	2.9	0.7	0.5	0.2	2.4	2.7	78.3	12.6
知的障害	253	0.4	—	—	—	0.8	3.2	84.6	11.1
精神障害	430	0.2	0.5	—	0.2	1.6	2.1	89.3	6.3
発達障害	177	0.6	—	—	—	1.7	2.8	87.6	7.3
高次脳機能障害	58	1.7	—	—	—	1.7	—	84.5	12.1
難病	281	0.4	0.4	—	0.4	2.5	3.2	84.0	9.3
その他	89	2.2	—	—	—	4.5	2.2	83.1	7.9

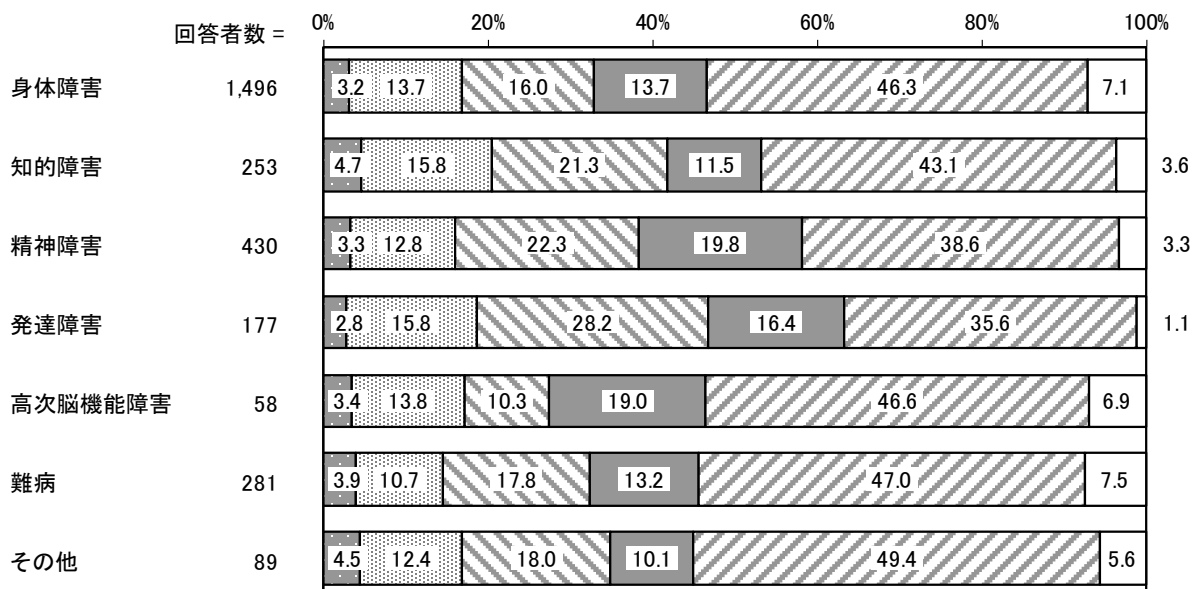
問 60 現在、障害者の福祉に関する情報の入手方法は、あなたにとって十分ですか。
(1つに○)

「十分」と「ほぼ十分」をあわせた“十分”の割合が 16.3%、「やや不十分」と「まったく不十分」をあわせた“不十分”の割合が 31.3%となっています。



【障害別】

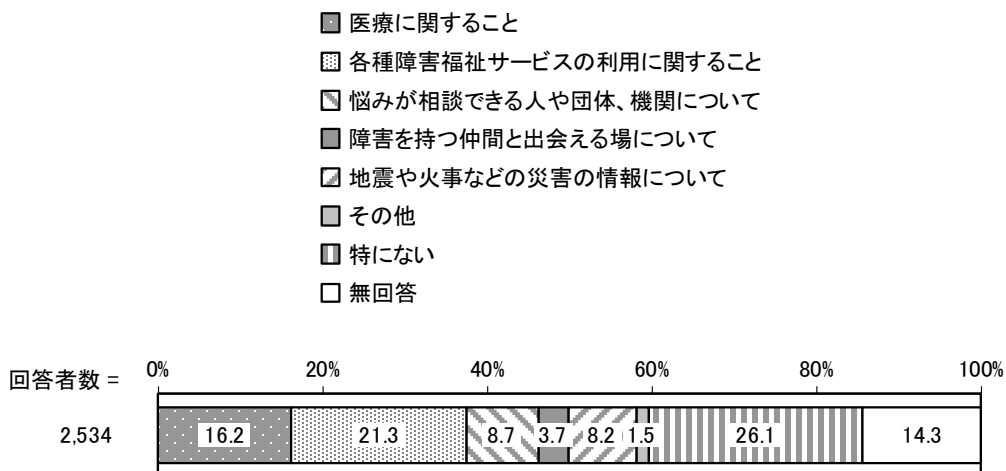
障害別で見ると、他に比べ、精神障害、発達障害で“不十分”の割合が高くなっています。



障害者

問 61 あなたが現在、知りたい情報は何ですか。(もっともあてはまるもの1つに○)

「特にない」の割合が26.1%と最も高く、次いで「各種障害福祉サービスの利用に関すること」の割合が21.3%、「医療に関すること」の割合が16.2%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病で「医療に関すること」の割合が、知的障害で「各種障害福祉サービスの利用に関すること」の割合が高くなっています。また、発達障害で「障害を持つ仲間と出会う場について」の割合が高くなっています。

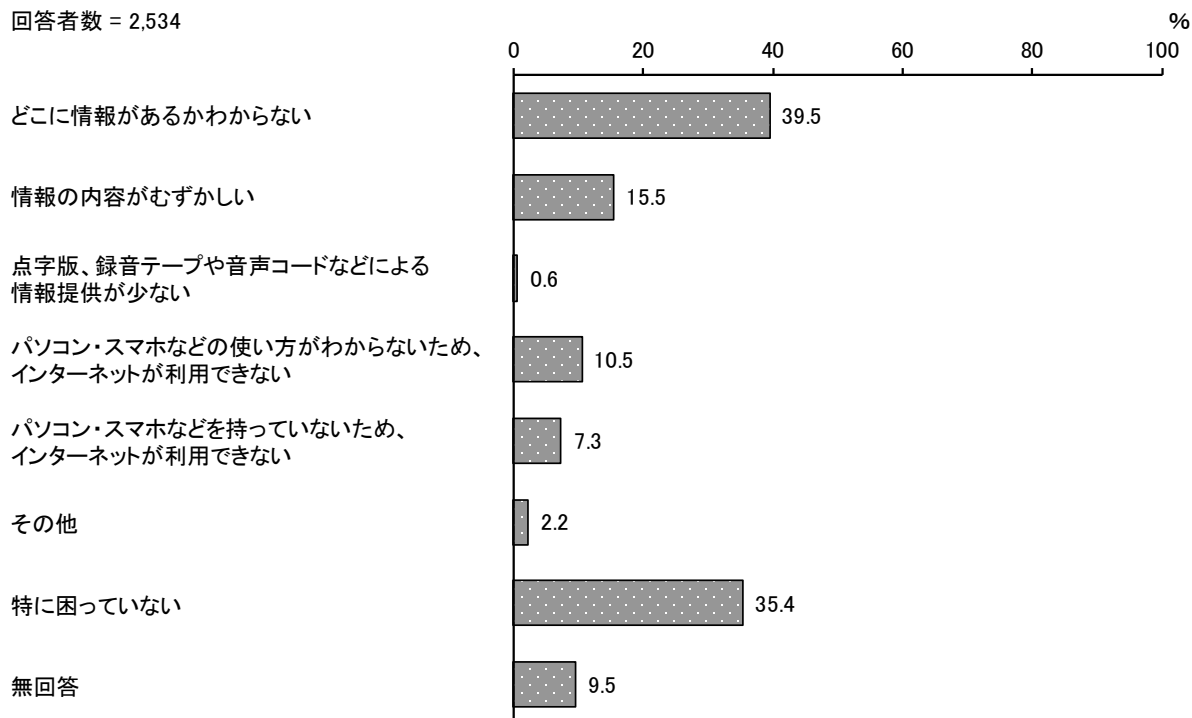
単位：%

区分	回答者数(件)	医療に関すること	各種障害福祉サービスの利用に関すること	悩みが相談できる人や団体、機関について	障害を持つ仲間と出会う場について	地震や火事などの災害の情報について	その他	特にない	無回答
身体障害	1496	17.5	21.7	5.3	2.3	8.8	1.0	27.8	15.6
知的障害	253	7.1	30.8	12.3	6.7	5.9	1.6	22.9	12.6
精神障害	430	13.0	20.9	17.0	6.7	7.2	3.7	20.2	11.2
発達障害	177	10.2	24.3	19.8	13.0	4.5	2.3	16.9	9.0
高次脳機能障害	58	8.6	19.0	6.9	3.4	5.2	1.7	32.8	22.4
難病	281	28.8	17.4	7.1	2.5	7.5	1.1	21.7	13.9
その他	89	13.5	19.1	7.9	4.5	11.2	5.6	32.6	5.6

問 62 福祉に関する情報の入手についてあなたが困っていることはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「どこに情報があるかわからない」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「特に困っていない」の割合が 35.4%、「情報の内容がむずかしい」の割合が 15.5%となっています。

回答者数 = 2,534



障害者

【障害別】

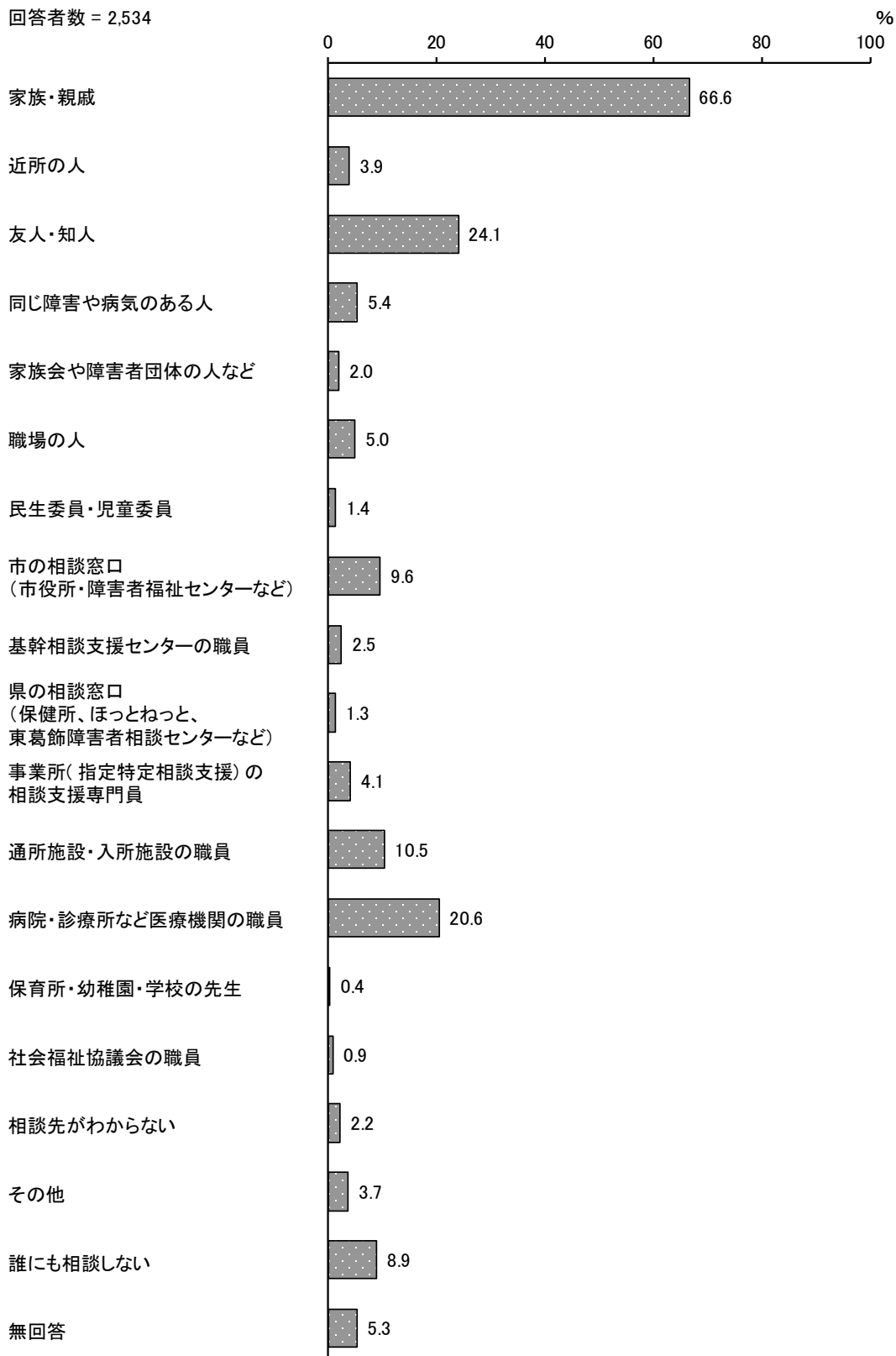
障害別でみると、他に比べ、精神障害で「どこに情報があるかわからない」の割合が、発達障害で「情報の内容がむずかしい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	どこに情報があるかわからない	情報の内容がむずかしい	点字版、録音テープや音声コードなどによる情報提供が少ない	パソコン・スマホなどの使い方がわからないため、インターネットが利用できない	パソコン・スマホなどを持っていないため、インターネットが利用できない	その他	特に困っていない	無回答
身体障害	1496	37.0	12.1	1.1	11.0	8.3	1.8	37.8	10.6
知的障害	253	33.6	26.9	—	11.1	6.3	1.6	36.0	9.1
精神障害	430	54.2	23.7	0.2	9.3	5.1	4.2	26.0	4.2
発達障害	177	48.6	37.3	1.1	6.8	5.6	1.7	25.4	5.6
高次脳機能障害	58	36.2	13.8	—	8.6	1.7	3.4	36.2	10.3
難病	281	39.1	16.0	0.4	13.5	4.3	2.1	40.6	6.0
その他	89	38.2	12.4	—	12.4	6.7	5.6	38.2	5.6

問 63. あなたは、ふだん、心配事について誰（どこ）に相談していますか。
（あてはまるものすべてに○）

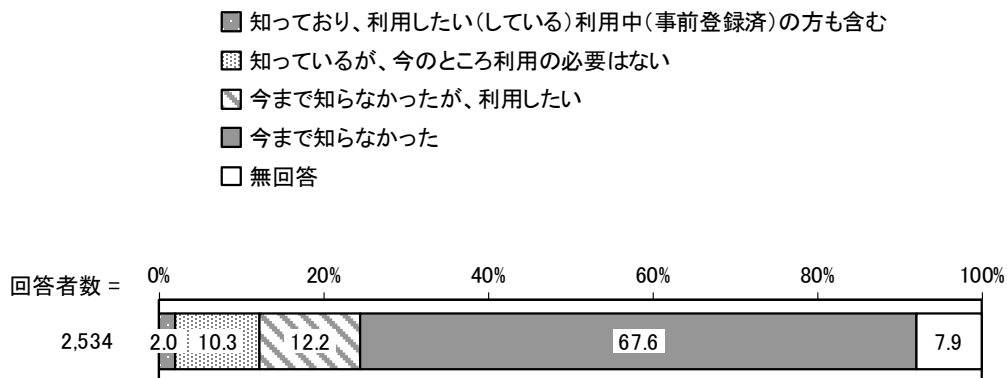
「家族・親戚」の割合が66.6%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が24.1%、「病院・診療所など医療機関の職員」の割合が20.6%となっています。



障害者

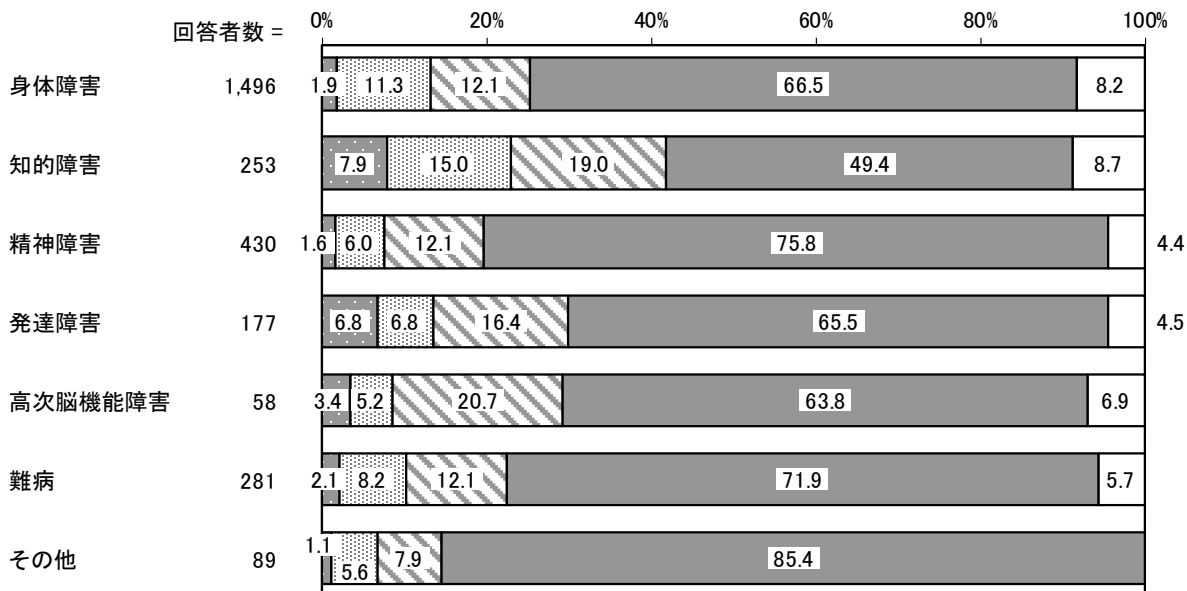
問 64 市では、緊急事態への対応として、介護者（ご家族等）の急病や事故などの、やむを得ない理由により、残された本人が生活を維持できない場合などの緊急時に、事前登録をしている方に対し、概ね1週間、短期入所等へ入所できる「緊急一時支援」を行っています。知っていますか。（1つに○）

「今まで知らなかった」の割合が67.6%と最も高く、次いで「今まで知らなかったが、利用したい」の割合が12.2%、「知っているが、今のところ利用の必要はない」の割合が10.3%となっています。



【障害別】

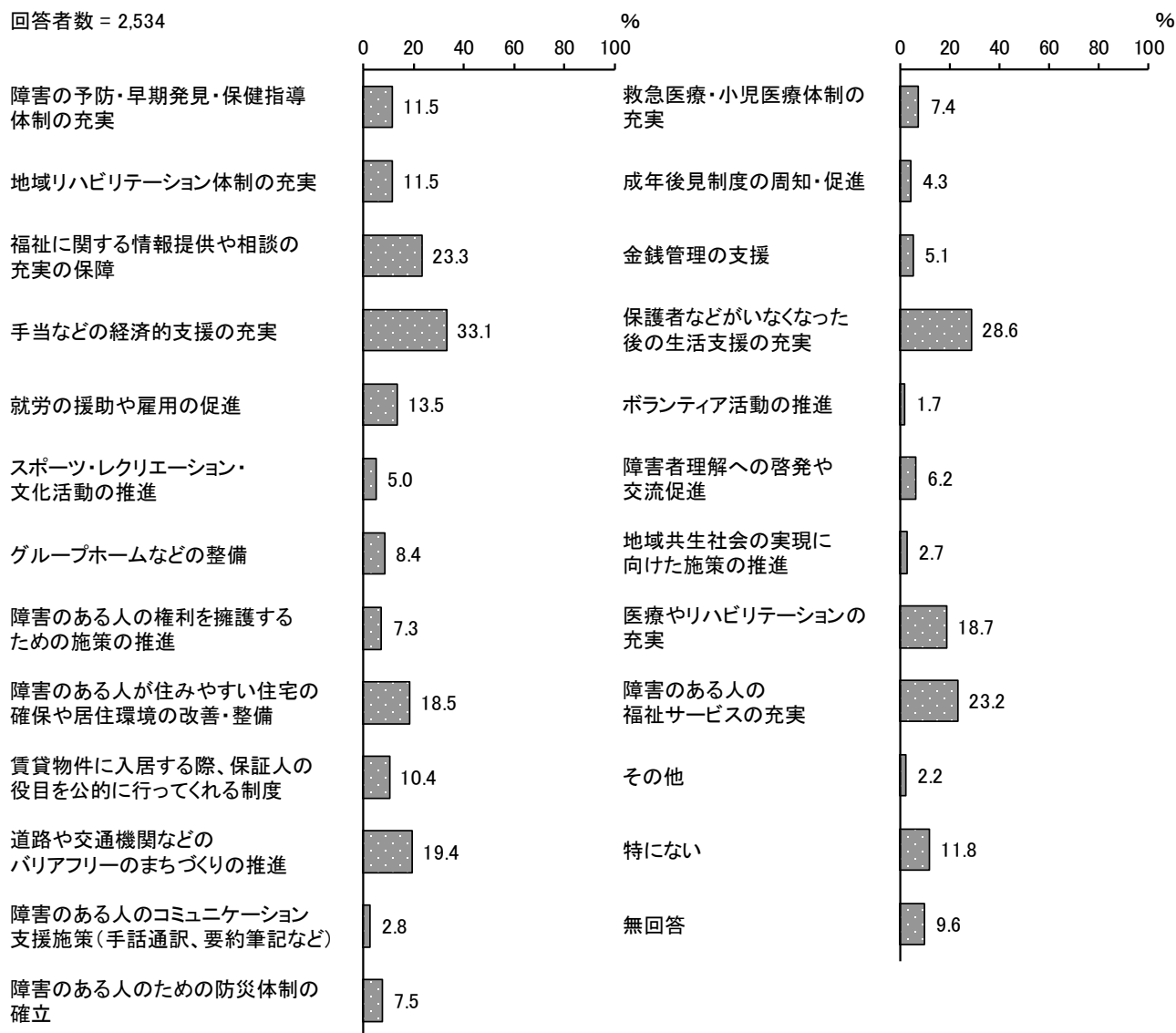
障害別でみると、他に比べ、精神障害で「今まで知らなかった」の割合が、知的障害、高次脳機能障害で「今まで知らなかったが、利用したい」の割合が高くなっています。



問 65. これから特に力を入れてほしい（優先的に実施してほしい）障害者施策はどのようなことですか。（5つまでに○）

「手当などの経済的支援の充実」の割合が33.1%と最も高く、次いで「保護者などがなくなった後の生活支援の充実」の割合が28.6%、「福祉に関する情報提供や相談の充実の保障」の割合が23.3%となっています。

回答者数 = 2,534



障害者

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、発達障害で「就労の援助や雇用の促進」の割合が、知的障害で「グループホームなどの整備」「保護者などがなくなった後の生活支援の充実」の割合が高くなっています。また、精神障害で「賃貸物件に入居する際、保証人の役目を公的に行ってくれる制度」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障害の予防・早期発見・保健指導体制の充実	地域リハビリテーション体制の充実	福祉に関する情報提供や相談の充実の保障	手当などの経済的支援の充実	就労の援助や雇用の促進	スポーツ・レクリエーション・文化活動の推進	グループホームなどの整備	障害のある人の権利を擁護するための施策の推進	障害のある人が住みやすい住宅の確保や居住環境の改善・整備	賃貸物件に入居する際、保証人の役目を公的に行ってくれる制度	道路や交通機関などのバリアフリーのまちづくりの推進	障害のある人のコミュニケーション支援施策(手話通訳、要約筆記など)
身体障害	1,496	11.0	14.6	22.9	29.8	8.7	5.1	5.9	4.9	17.5	7.1	24.7	3.5
知的障害	253	6.3	2.8	24.5	33.2	14.2	3.6	38.3	9.5	26.5	8.3	8.7	2.0
精神障害	430	13.3	3.3	27.7	44.7	26.0	6.3	6.3	12.6	21.6	25.1	6.7	1.6
発達障害	177	9.6	2.8	29.4	41.2	38.4	5.6	24.9	16.4	19.8	14.1	4.5	1.7
高次脳機能障害	58	5.2	19.0	20.7	27.6	12.1	—	13.8	3.4	13.8	8.6	22.4	1.7
難病	281	16.7	18.9	27.8	38.4	12.1	4.3	4.3	6.0	21.7	9.3	29.5	2.8
その他	89	19.1	13.5	23.6	32.6	6.7	—	5.6	9.0	14.6	6.7	20.2	3.4

区分	障害のある人のための防災体制の確立	救急医療・小児医療体制の充実	成年後見制度の周知・促進	金銭管理の支援	保護者などがなくなった後の生活支援の充実	ボランティア活動の推進	障害者理解への啓発や交流促進	地域共生社会の実現に向けた施策の推進	医療やリハビリテーションの充実	障害のある人の福祉サービスの充実	その他	特にない	無回答
身体障害	8.7	8.2	3.2	3.3	23.2	1.5	4.1	2.1	21.1	24.4	1.7	13.2	10.4
知的障害	7.9	5.1	14.6	12.6	64.0	1.2	9.9	4.0	8.7	25.7	2.8	5.9	8.3
精神障害	4.2	6.3	4.7	8.1	33.5	1.6	10.2	3.0	15.8	22.6	3.3	9.8	6.0
発達障害	7.3	5.6	10.2	14.7	57.1	1.1	15.3	4.0	8.5	24.3	3.4	2.8	5.6
高次脳機能障害	12.1	6.9	5.2	5.2	25.9	1.7	5.2	3.4	31.0	22.4	3.4	12.1	10.3
難病	8.2	11.7	2.1	2.5	29.2	2.1	4.6	4.3	30.2	22.8	2.1	8.5	6.4
その他	10.1	5.6	5.6	2.2	31.5	—	11.2	2.2	20.2	23.6	5.6	9.0	3.4

問 66. 最後に、あなたは、生活している中で、どのようなことで困ることがありますか。将来への不安も含めて、ご自由にお書きください。

「相談」が 256 件、「障害福祉サービス」が 185 件と多くなっています。

分類回答	件数
1. 生涯学習、文化・スポーツ・レクリエーション活動	4
2. 雇用・就業	100
(1) 一般企業での就業	35
(2) 福祉的就労	65
3. 保健・医療	87
(1) 健康づくりと病気・障害の早期発見・早期対応	14
(2) 医療	73
4. 福祉サービス	192
(1) 障害福祉サービス	185
(2) その他在宅福祉サービス	7
5. 相談・情報提供	288
(1) 相談	256
(2) 情報	32
6. 地域福祉	94
(1) 障害理解・福祉教育	75
(2) 住民同士の支え合い	19
7. 生活環境	182
(1) バリアフリー・ユニバーサルデザイン	70
(2) 防犯・防災対策	23
(3) 外出・コミュニケーション支援	89
8. 障害者施策推進体制	17
(1) 障害者の権利擁護	11
(2) 障害者施策推進体制の整備	6
9. その他	74

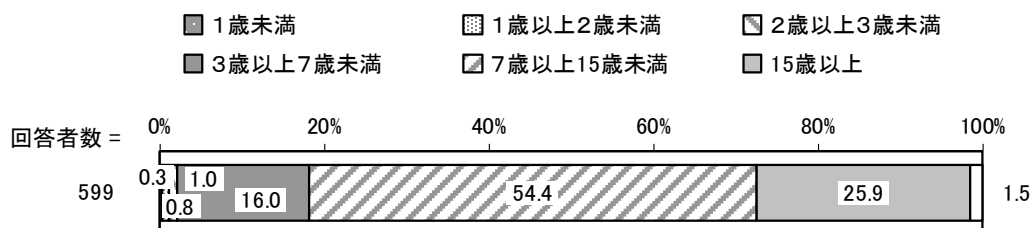
障害児（18歳未満）

2 障害児（18歳未満）調査

（1）回答者属性

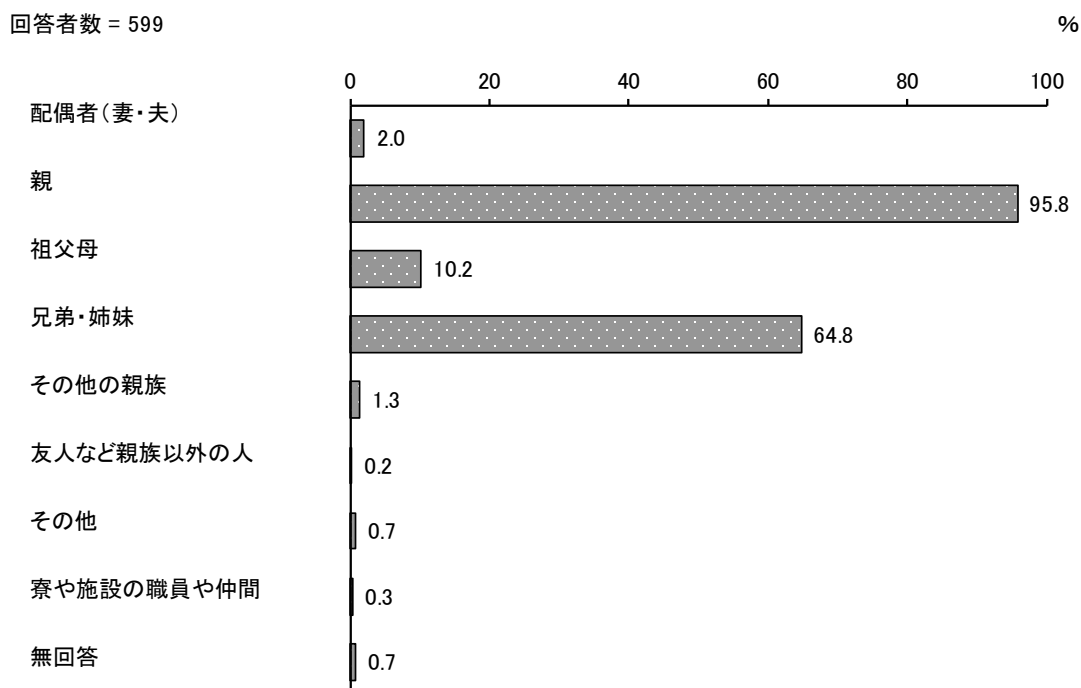
問1. あなたの年齢（□の中に数字を記入）

「7歳以上15歳未満」の割合が54.4%と最も高く、次いで「15歳以上」の割合が25.9%、「3歳以上7歳未満」の割合が16.0%となっています。



問2. 現在一緒に住んでいる方はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

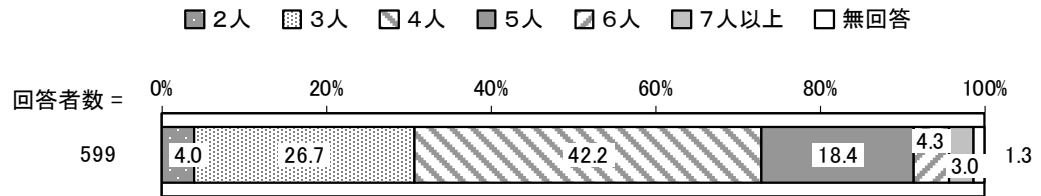
「親」の割合が95.8%と最も高く、次いで「兄弟・姉妹」の割合が64.8%、「祖父母」の割合が10.2%となっています。



障害児

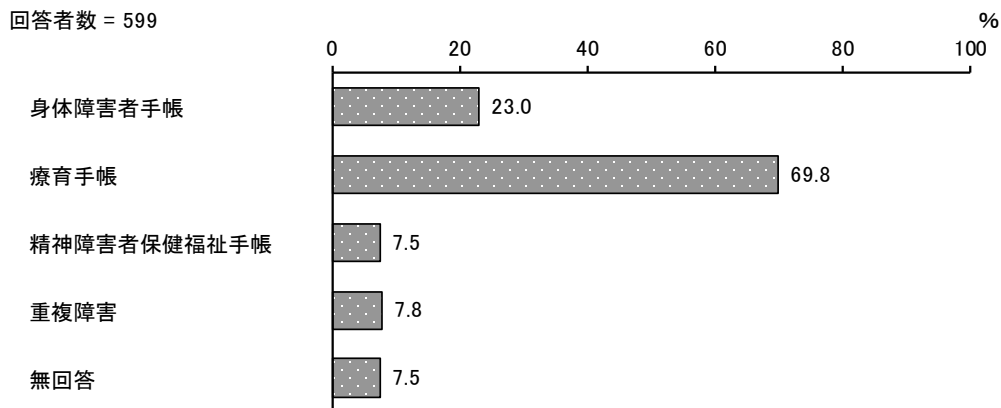
問3. 現在、一緒に住んでいる方は何人ですか。あなたご自身を含めた人数を記入してください。

「4人」の割合が42.2%と最も高く、次いで「3人」の割合が26.7%、「5人」の割合が18.4%となっています。



問4. どの手帳をお持ちですか。お持ちの手帳の種類と等級もしくは障害の程度をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

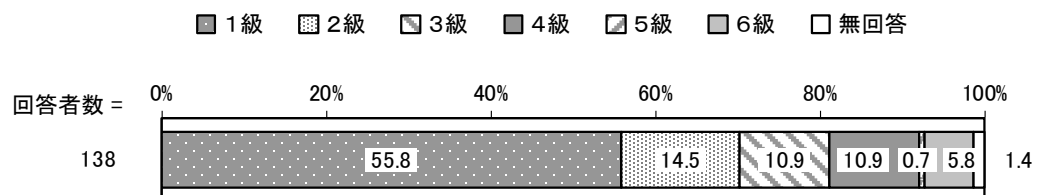
「療育手帳」の割合が69.8%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」の割合が23.0%となっています。



※ 各手帳所持者の数値には、重複障害者の数値も含まれています。

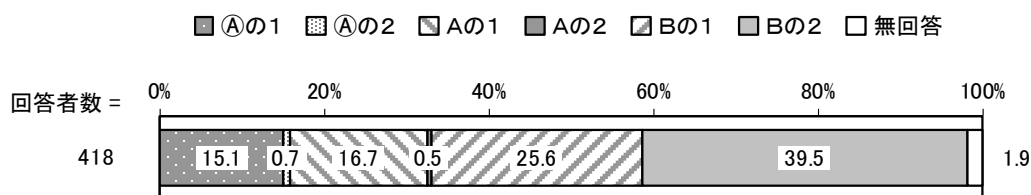
身体障害者手帳

「1級」の割合が55.8%と最も高く、次いで「2級」の割合が14.5%、「3級」、「4級」の割合が10.9%となっています。



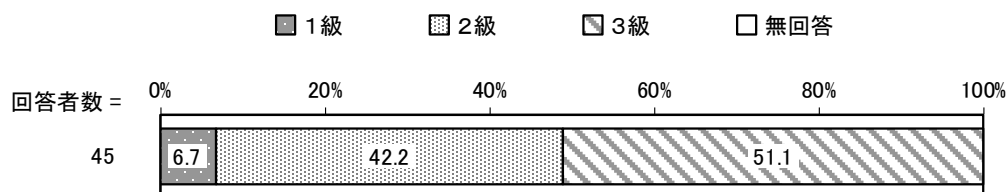
療育手帳

「Bの2」の割合が39.5%と最も高く、次いで「Bの1」の割合が25.6%、「Aの1」の割合が16.7%となっています。



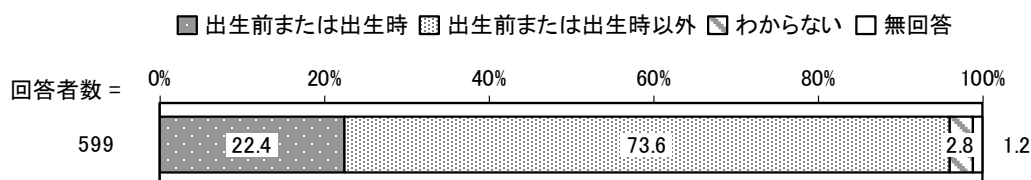
精神障害者保健福祉手帳

「3級」の割合が51.1%と最も高く、次いで「2級」の割合が42.2%となっています。



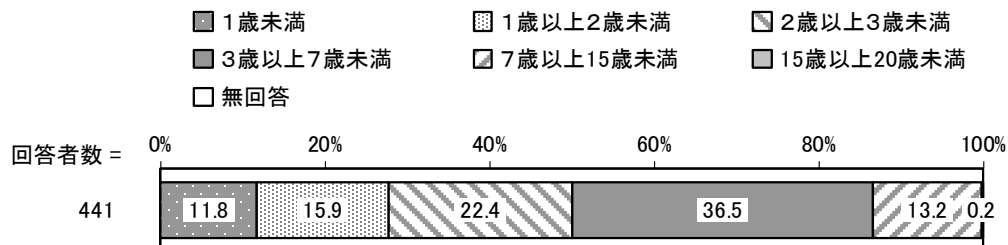
問5. あなたに障害があるとわかったのはいつごろですか。(1つに○)

「出生前または出生時以外」の割合が73.6%と最も高く、次いで「出生前または出生時」の割合が22.4%となっています。



障害があるとわかった時期

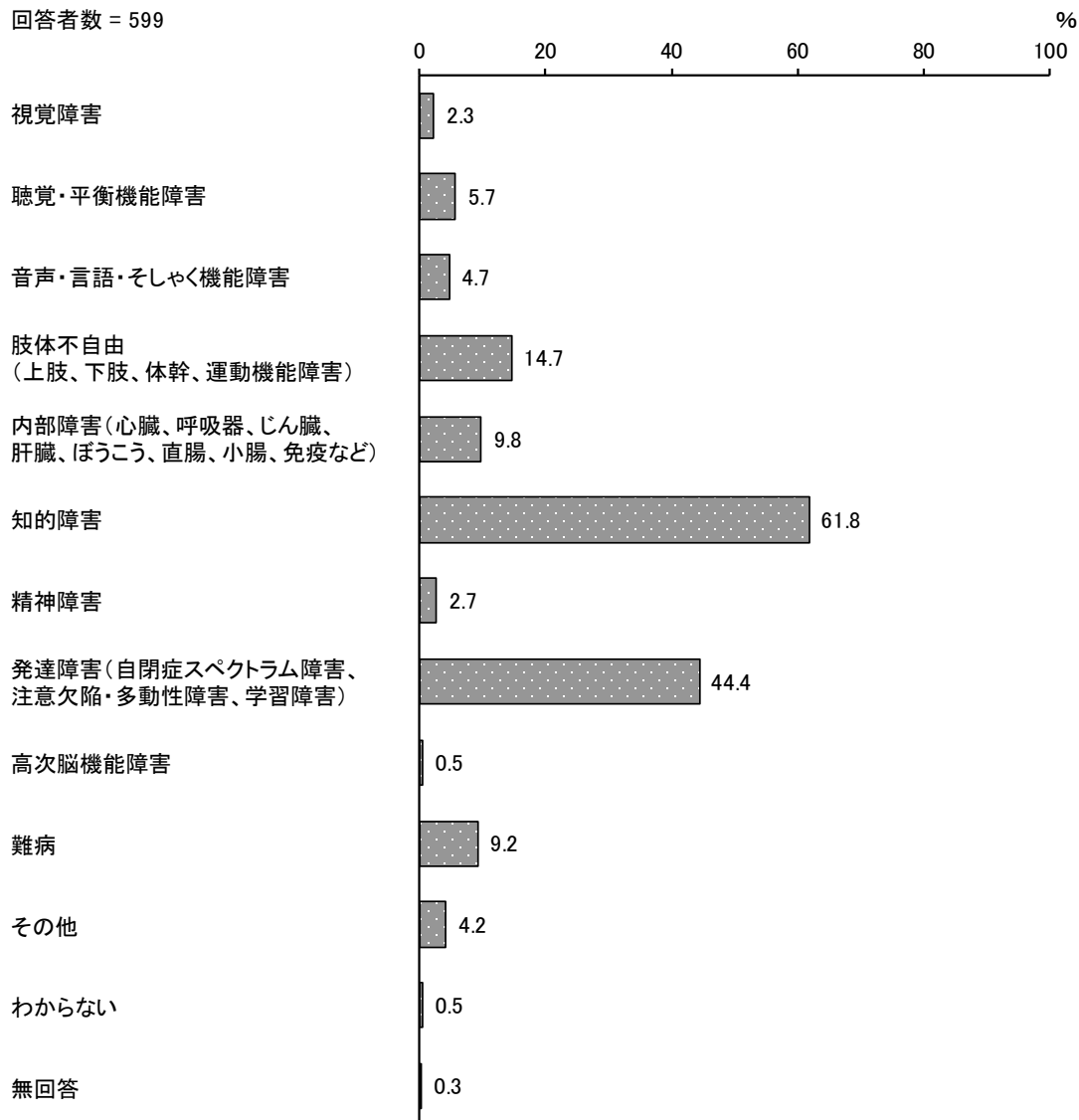
「3歳以上7歳未満」の割合が36.5%と最も高く、次いで「2歳以上3歳未満」の割合が22.4%、「1歳以上2歳未満」の割合が15.9%となっています。



障害児

問6. あなたの障害や病気の種類は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

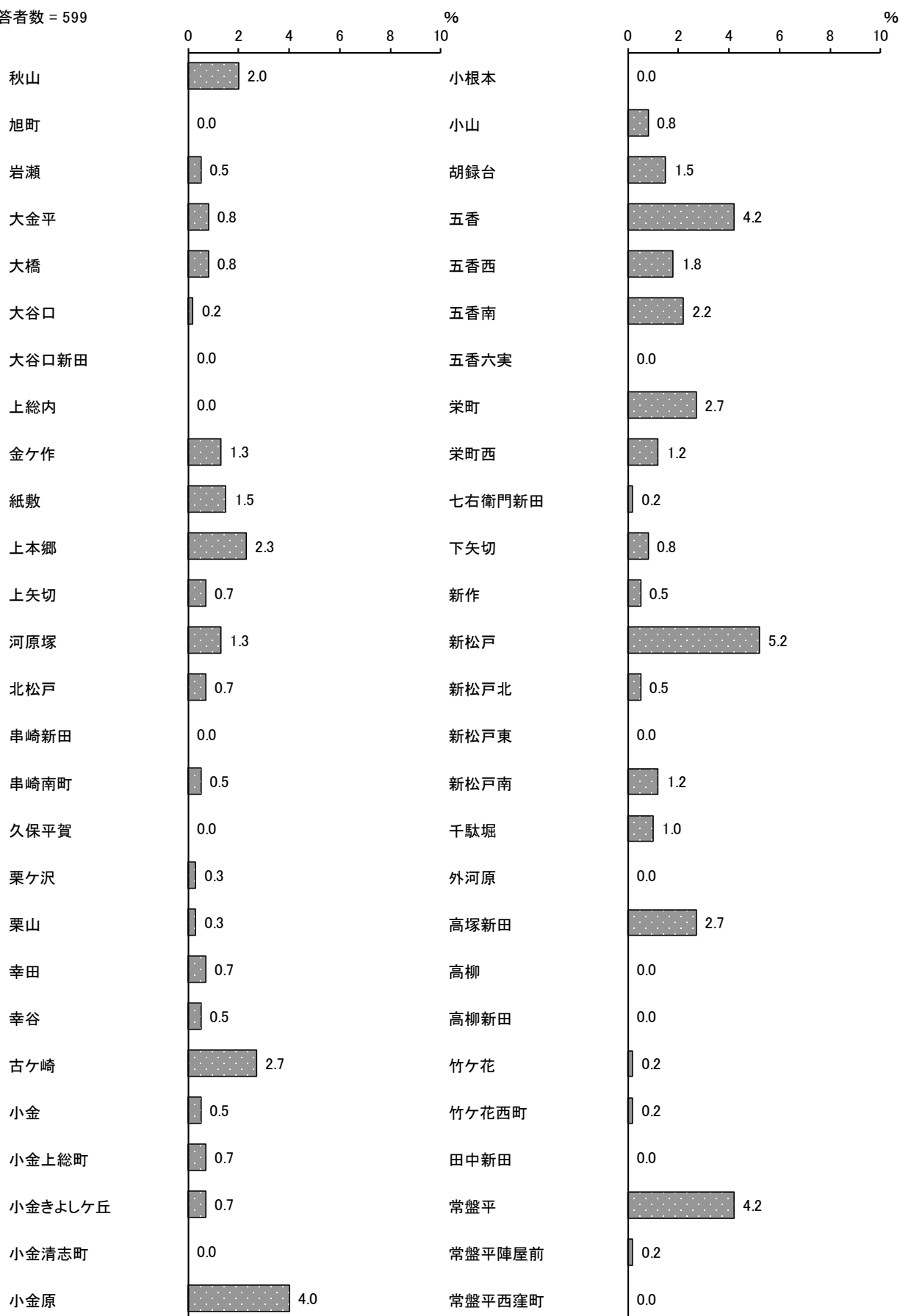
「知的障害」の割合が61.8%と最も高く、次いで「発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害）」の割合が44.4%、「肢体不自由（上肢、下肢、体幹、運動機能障害）」の割合が14.7%となっています。



問7. あなたのお住まいの地域を教えてください。(1つに○)

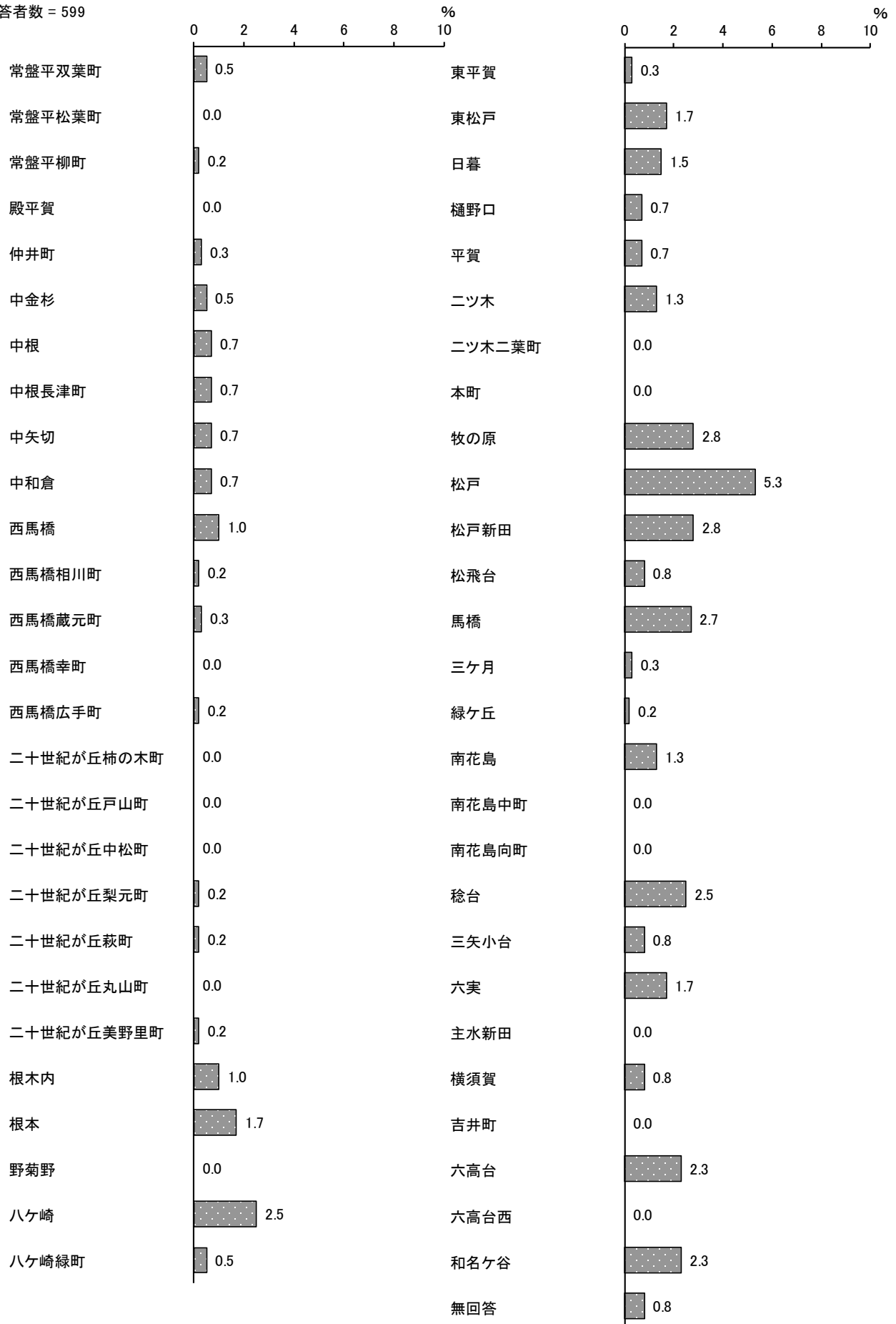
「松戸」の割合が5.3%と最も高く、次いで「新松戸」の割合が5.2%、「五香」「常盤平」の割合が4.2%となっています。

回答者数 = 599



障害児

回答者数 = 599

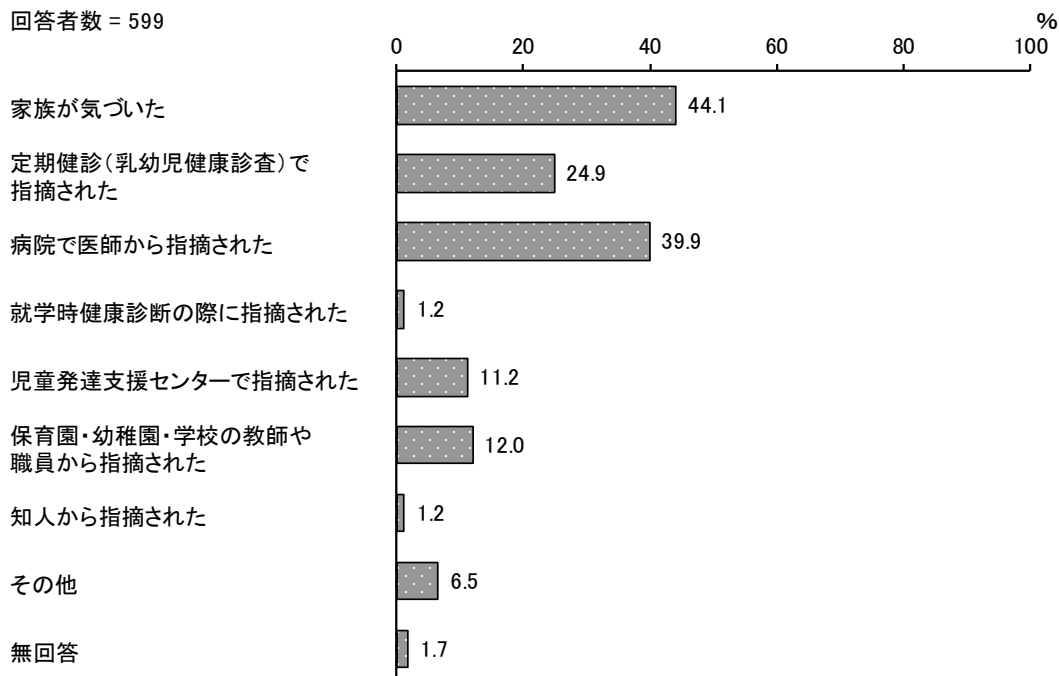


(問7 続き)

問8. あなたに障害があるとわかったきっかけは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「家族が気づいた」の割合が44.1%と最も高く、次いで「病院で医師から指摘された」の割合が39.9%、「定期健診（乳幼児健康診査）で指摘された」の割合が24.9%となっています。

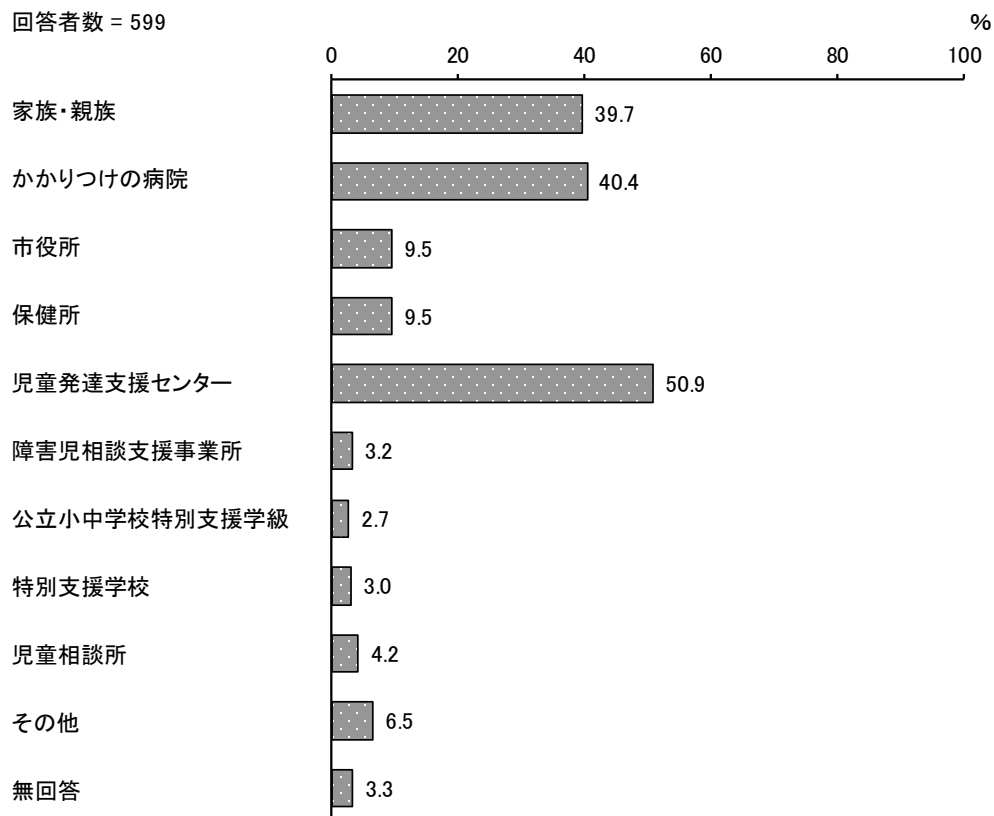
回答者数 = 599



障害児

問9. あなたに障害があるとわかったとき誰に（どこに）相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

「児童発達支援センター」の割合が50.9%と最も高く、次いで「かかりつけの病院」の割合が40.4%、「家族・親族」の割合が39.7%となっています。

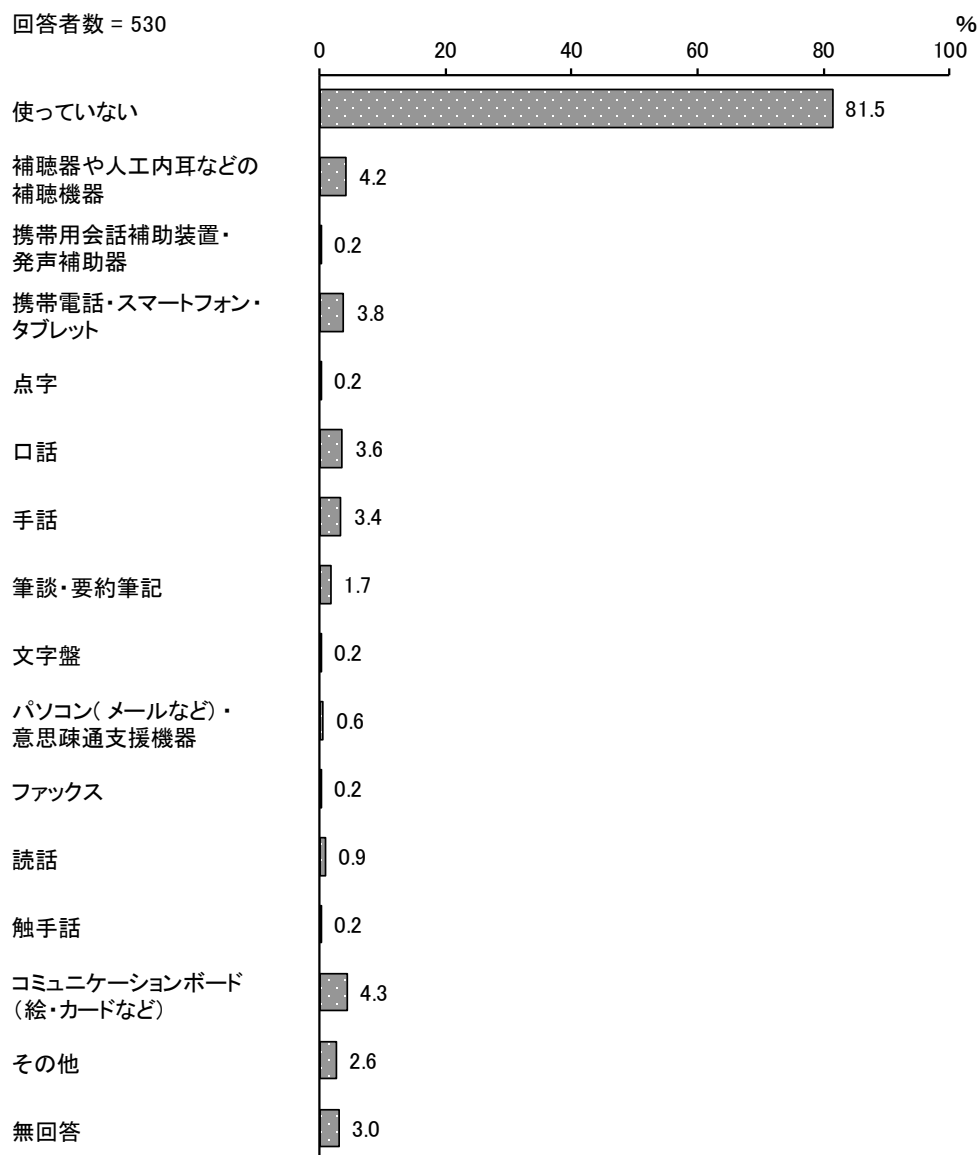


(2) コミュニケーション手段について

ご本人が6歳以上の場合のみ、お答えください。6歳未満の方は問12へお進みください。

問10. あなたは、意思の伝達を図る場合、特別な技術や用具を使っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「使っていない」の割合が81.5%と最も高くなっています。



障害児

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、聴覚・平衡機能障害で「補聴器や人工内耳などの補聴機器」「口話」「手話」の割合が高くなっています。

単位：％

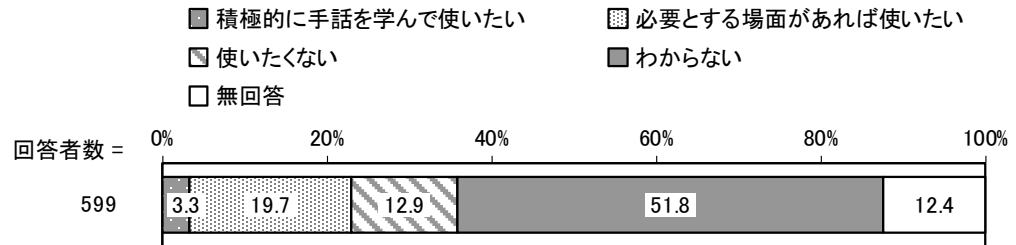
区分	回答者数 (件)	使っていない	補聴器や人工内耳などの 補聴機器	携帯用会話補助装置・ 発声補助器	携帯電話・スマートフォン・ タブレット	点字	口話	手話	筆談・ 要約筆記
視覚障害	10	90.0	10.0	—	—	—	—	—	—
聴覚・平衡機能障害	24	8.3	79.2	4.2	20.8	—	45.8	45.8	12.5
音声・言語・そしゃく機能障害	23	78.3	4.3	—	—	—	—	—	—
肢体不自由(上肢、下肢、 体幹、運動機能障害)	65	76.9	3.1	—	3.1	—	1.5	4.6	—
内部障害(心臓、呼吸器、 じん臓、肝臓、ぼうこう、 直腸、小腸、免疫など)	48	75.0	6.3	—	4.2	—	—	2.1	—
知的障害	343	83.1	1.2	—	2.3	0.3	2.3	2.0	1.7
精神障害	14	78.6	—	—	7.1	—	7.1	14.3	—
発達障害 (自閉症スペクトラム障害、 注意欠陥・多動性障害、 学習障害)	246	82.9	—	—	3.7	—	2.0	2.0	1.2
高次脳機能障害	2	100.0	—	—	—	—	—	—	—
難病	42	73.8	—	—	7.1	—	4.8	7.1	—
その他	21	95.2	—	—	—	—	—	—	—
わからない	3	66.7	—	—	33.3	—	—	—	—

区分	文字盤	意思疎通支援機器 パソコン(メールなど) ・	ファックス	読話	触手話	コミュニケーションボード (絵・カードなど)	その他	無回答
視覚障害	—	—	—	—	—	—	—	—
聴覚・平衡機能障害	—	8.3	4.2	16.7	—	12.5	—	—
音声・言語・そしゃく機能障害	4.3	—	—	4.3	—	8.7	4.3	—
肢体不自由(上肢、下肢、 体幹、運動機能障害)	1.5	—	—	1.5	—	6.2	3.1	4.6
内部障害(心臓、呼吸器、 じん臓、肝臓、ぼうこう、 直腸、小腸、免疫など)	—	—	—	—	—	—	2.1	10.4
知的障害	0.3	0.3	—	—	0.3	5.5	3.5	2.6
精神障害	—	—	—	—	—	7.1	—	—
発達障害 (自閉症スペクトラム障害、 注意欠陥・多動性障害、 学習障害)	0.4	0.4	—	—	0.4	5.7	3.3	2.4
高次脳機能障害	—	—	—	—	—	—	—	—
難病	—	—	—	2.4	—	9.5	2.4	2.4
その他	—	—	—	—	4.8	4.8	—	—
わからない	—	—	—	—	—	—	—	—

障害児

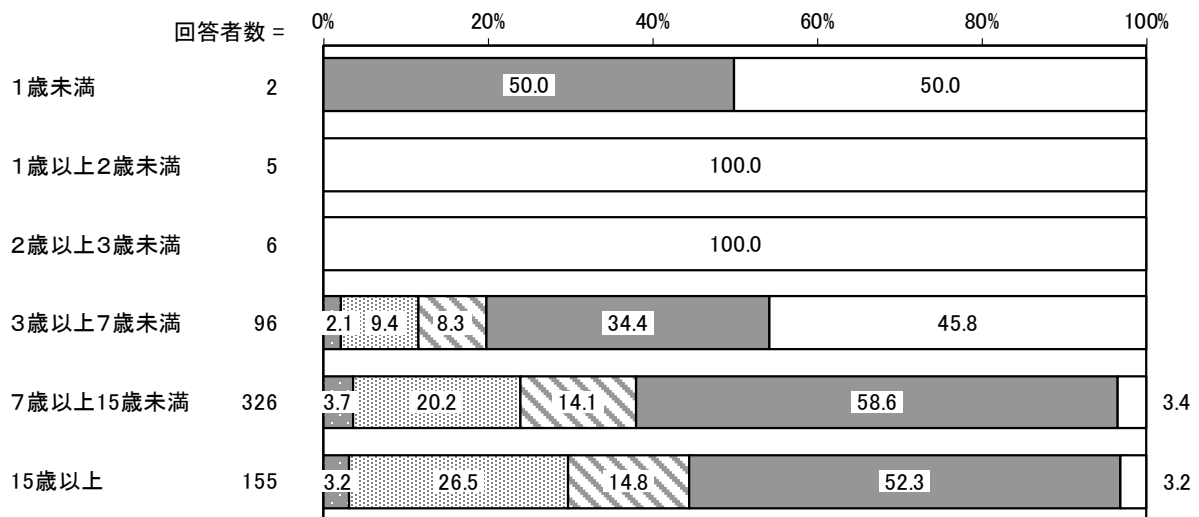
問 11. あなたはコミュニケーションの手段として手話を使ってみたいと思いますか。
(1つに○)

「必要とする場面があれば使いたい」の割合が 19.7%、「使いたくない」の割合が 12.9%となっています。



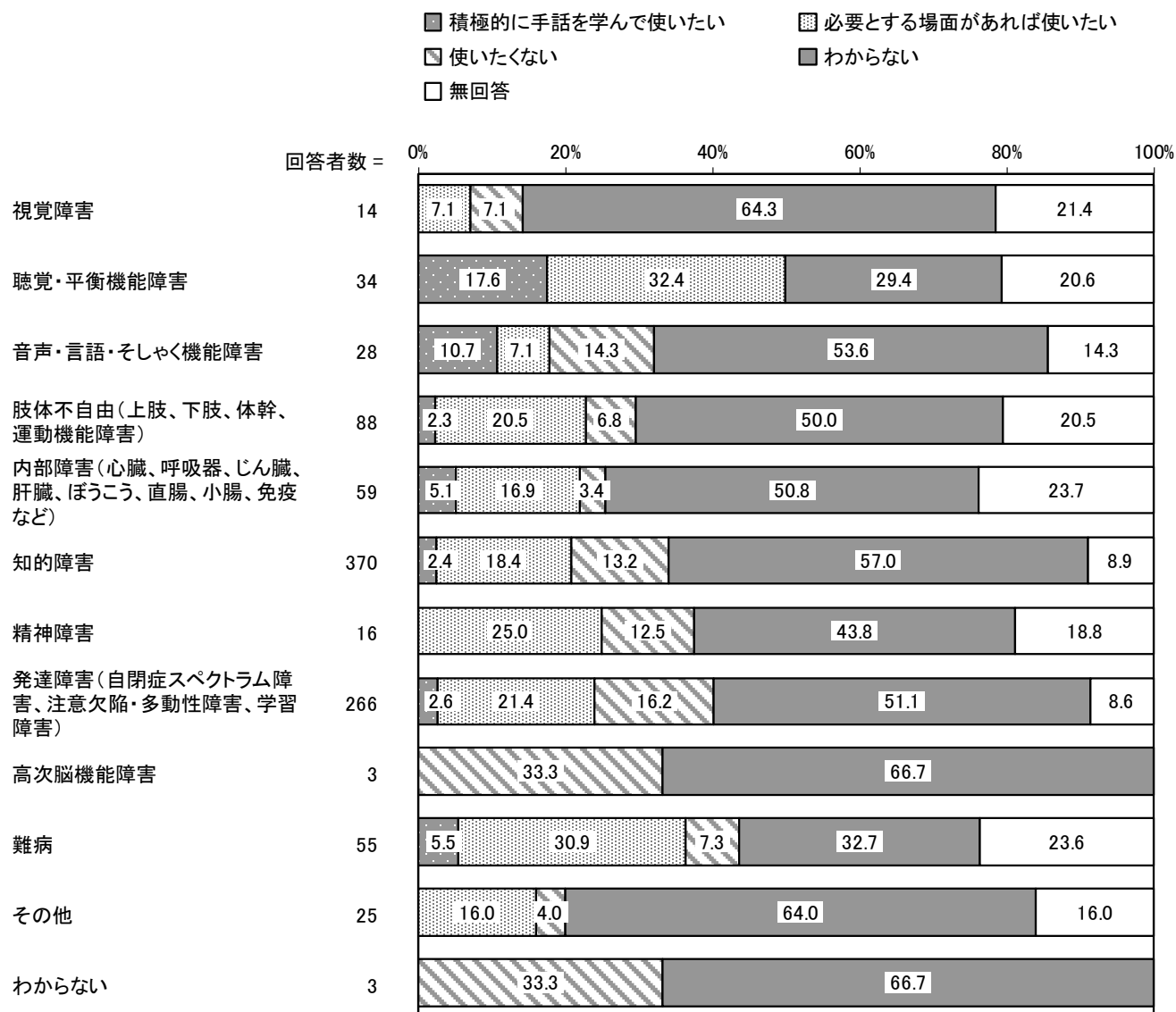
【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、15歳以上で「必要とする場面があれば使いたい」の割合が高くなっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、聴覚・平衡機能障害で「積極的に手話を学んで使いたい」の割合が、聴覚・平衡機能障害、難病で「必要とする場面があれば使いたい」の割合が高くなっています。また、高次脳機能障害、わからないで「使いたくない」の割合が高くなっています。

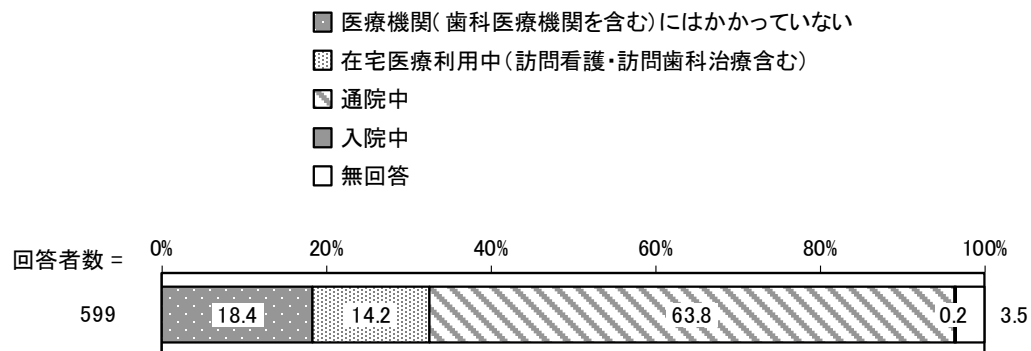


障害児

(3) 健康と医療について

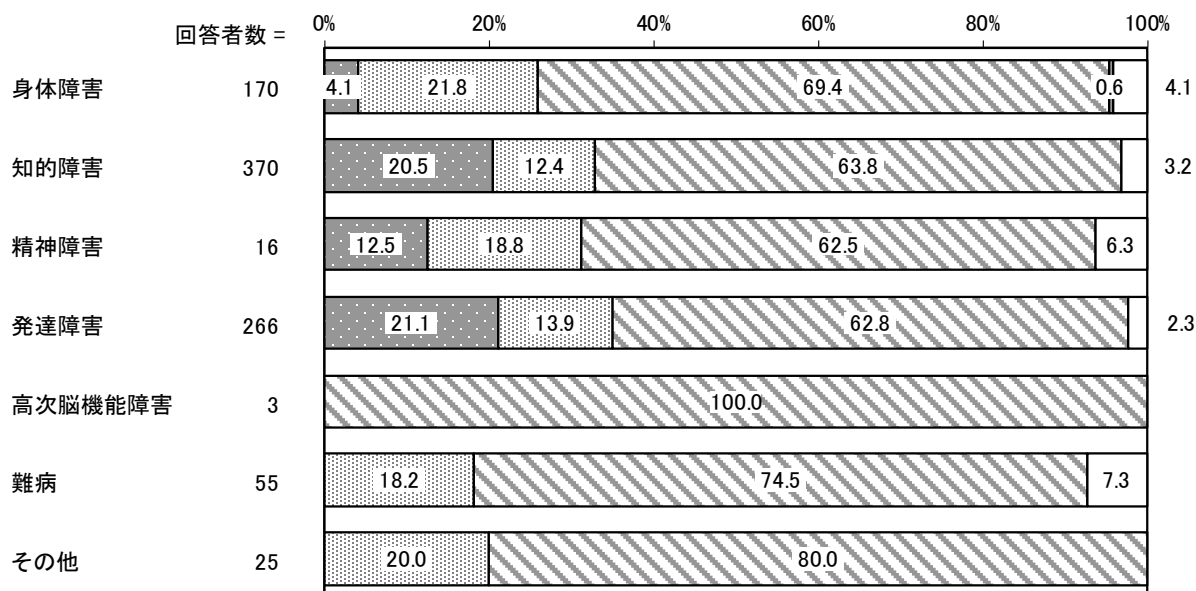
問 12. あなたの医療機関の利用状況は次のうちどれですか。(1つに○)

「通院中」の割合が63.8%と最も高く、次いで「医療機関(歯科医療機関を含む)にはかかっていない」の割合が18.4%、「在宅医療利用中(訪問看護・訪問歯科治療含む)」の割合が14.2%となっています。



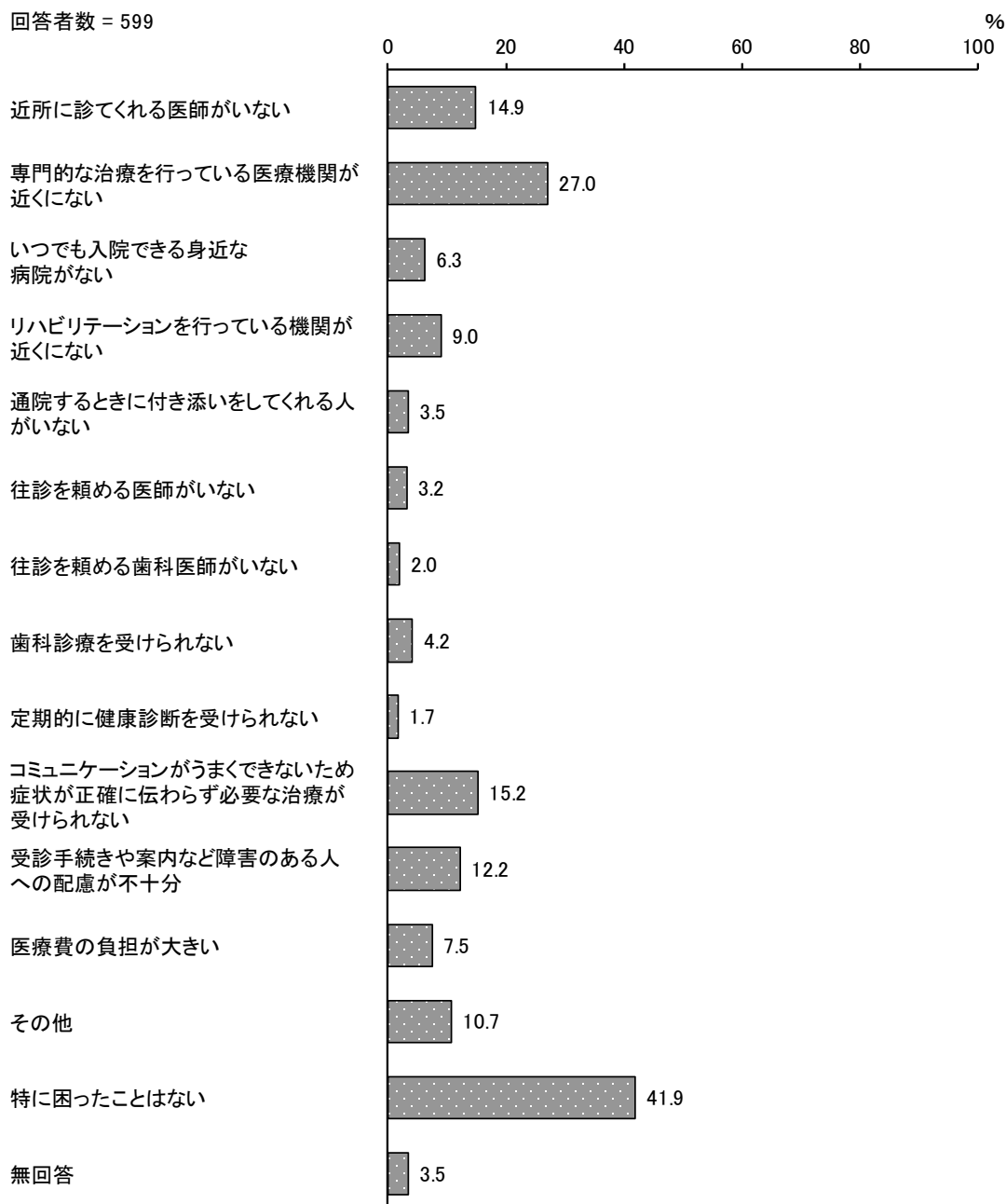
【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病、その他で「通院中」の割合が、知的障害、発達障害で「医療機関(歯科医療機関を含む)にはかかっていない」の割合が高くなっています。



問 13. あなたは、健康管理や医療について困ったり、不便に思うことがありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「特に困ったことはない」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「専門的な治療を行っている医療機関が近くにない」の割合が 27.0%、「コミュニケーションがうまくできないため症状が正確に伝わらず必要な治療が受けられない」の割合が 15.2%となっています。



障害児

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病で「専門的な治療を行っている医療機関が近くにない」「いつでも入院できる身近な病院がない」の割合が、精神障害で「往診を頼める歯科医師がいない」の割合が高くなっています。

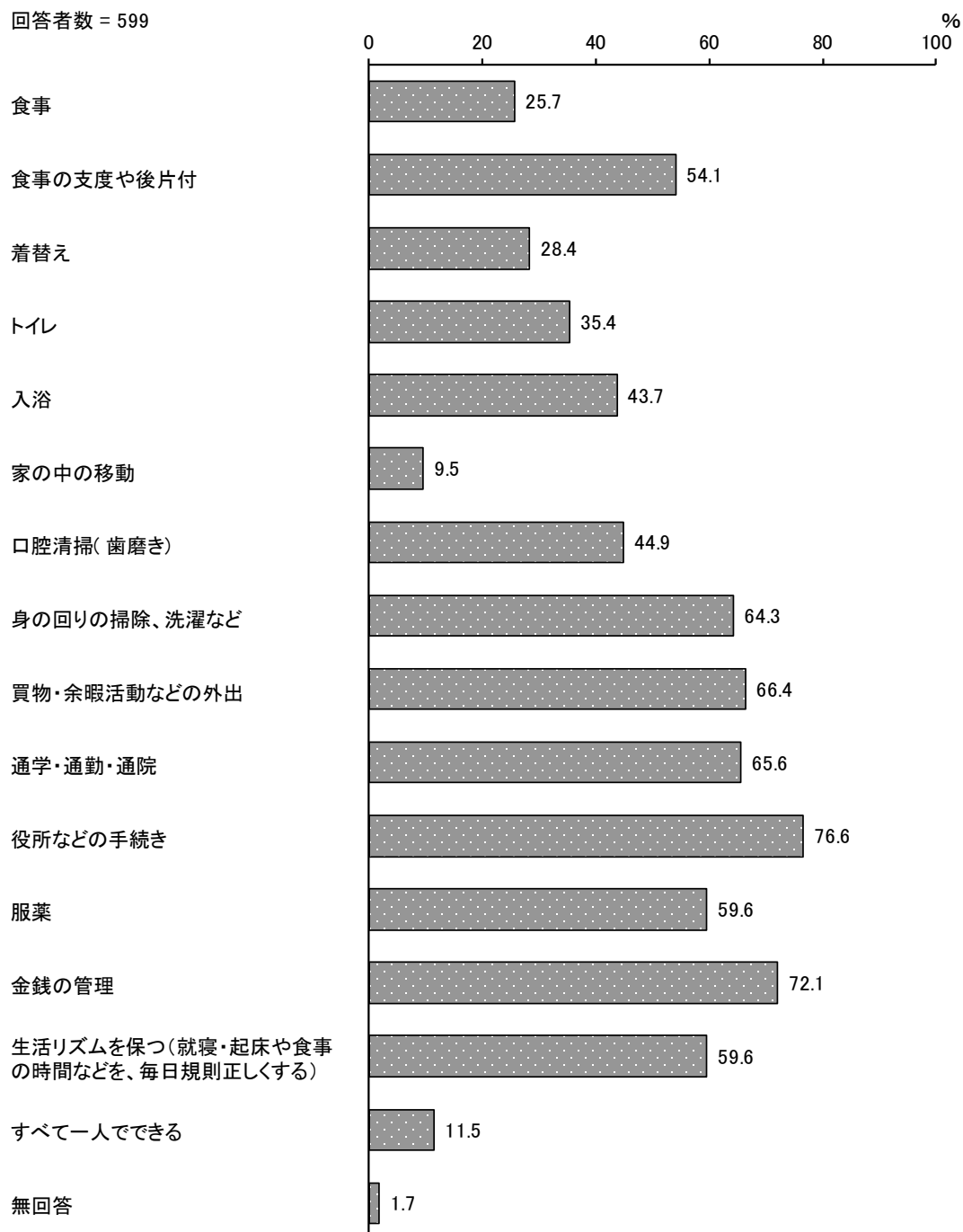
単位：％

区分	回答者数(件)	近所に診てくれる医師がいない	専門的な治療を行っている医療機関が近くにない	いつでも入院できる身近な病院がない	リハビリテーションを行っている機関が近くにない	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない	往診を頼める医師がいない	往診を頼める歯科医師がいない	歯科診療を受けられない	定期的健康診断を受けられない	症状が正確に伝わらず必要な治療を受けられない	コミュニケーションがうまくできないため	受診手続きや案内など障害のある人への配慮が不十分	医療費の負担が大きい	その他	特に困ったことはない	無回答
身体障害	170	15.3	32.9	10.6	14.7	4.1	5.3	4.7	4.1	0.6	10.6	12.4	11.8	14.7	33.5	3.5	
知的障害	370	14.1	25.9	5.1	10.5	4.3	3.8	3.0	4.9	2.7	19.2	14.6	5.9	11.9	39.7	2.7	
精神障害	16	18.8	31.3	12.5	18.8	6.3	6.3	12.5	6.3	6.3	12.5	18.8	12.5	6.3	43.8	—	
発達障害	266	17.3	29.3	6.4	8.6	4.5	4.9	3.4	6.8	2.6	22.6	16.2	6.0	10.5	38.0	3.0	
高次脳機能障害	3	—	—	—	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—	—	66.7	33.3	—	
難病	55	21.8	43.6	18.2	10.9	5.5	10.9	7.3	5.5	3.6	9.1	18.2	12.7	12.7	20.0	3.6	
その他	25	12.0	24.0	8.0	8.0	—	—	—	4.0	4.0	16.0	12.0	12.0	32.0	24.0	4.0	

(4) 日常生活について

問 14. 次の中で、誰かに手伝ってもらう必要がある項目はありますか。なお、補装具や特別な技術、用具などを使用してできる場合、「一人でできる」とします。
(あてはまるものすべてに○)

「役所などの手続き」の割合が 76.6%と最も高く、次いで「金銭の管理」の割合が 72.1%、「買物・余暇活動などの外出」の割合が 66.4%となっています。



障害児

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「食事」「家の中の移動」「生活リズムを保つ（就寝・起床や食事の時間などを、毎日規則正しくする）」の割合が高くなっています。

単位：％

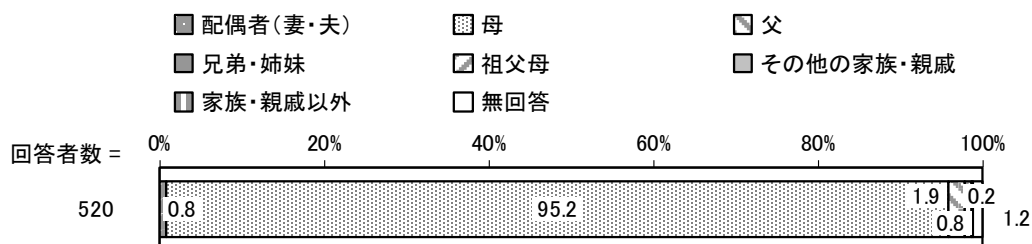
区分	回答者数 (件)	食事	食事の支度や後片付	着替え	トイレ	入浴	家の中の移動	口腔清掃(歯磨き)	身の回りの掃除、洗濯など	買物・余暇活動などの外出	通学・通勤・通院	役所などの手続き	服薬	金銭の管理	生活リズムを保つ(就寝・起床や食事の時間などを、毎日規則正しくする)	すべて一人でできる	無回答
身体障害	170	45.9	59.4	46.5	51.2	55.3	25.9	52.4	63.5	67.1	70.6	73.5	64.1	64.7	57.1	12.9	2.9
知的障害	370	25.9	61.4	31.6	40.8	51.4	8.1	54.1	71.6	77.0	73.0	83.8	66.2	83.8	69.2	5.4	1.4
精神障害	16	56.3	68.8	56.3	31.3	62.5	31.3	50.0	68.8	62.5	75.0	62.5	68.8	62.5	75.0	12.5	—
発達障害	266	26.7	57.1	27.1	33.8	42.1	4.5	46.6	72.9	71.4	66.9	83.1	63.5	78.9	67.7	8.6	0.4
高次脳機能障害	3	33.3	66.7	33.3	—	33.3	—	—	33.3	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	—
難病	55	47.3	61.8	45.5	52.7	56.4	20.0	52.7	69.1	69.1	70.9	74.5	70.9	72.7	60.0	10.9	—
その他	25	36.0	72.0	60.0	60.0	72.0	12.0	60.0	76.0	76.0	80.0	80.0	80.0	68.0	68.0	8.0	4.0

問 14 で何らかの手助けを受けていると答えた方（「1. 食事」～「14. 生活リズムを保つ（就寝・起床や食事の時間などを、毎日規則正しくする）」のうち1つでも○と答えた方）におたずねします。

問 15. 普段、主にあなたの介助（手助け）をしている方はどなたですか。介助時間の長い方から順に、下の欄から2人まで選び、次の口に番号を記入してください。

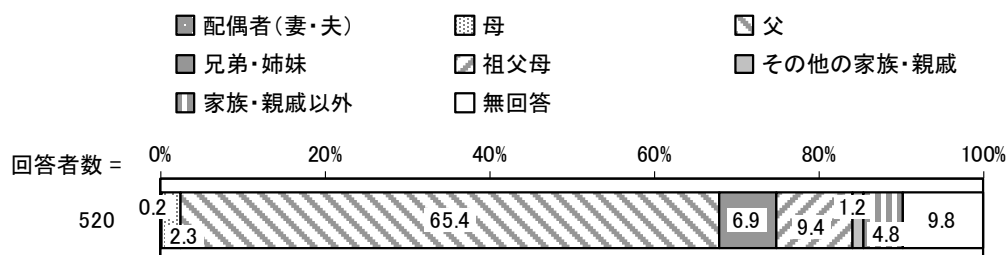
①一番長い方

「母」の割合が95.2%と最も高くなっています。



②次に長い方

「父」の割合が65.4%と最も高くなっています。

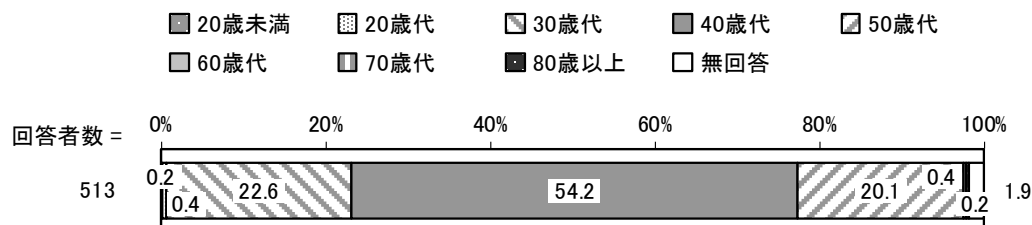


障害児

問 15 で①または②において、「1. 配偶者（妻・夫）」～「6. その他の家族・親戚」に○をつけた方におたずねします。

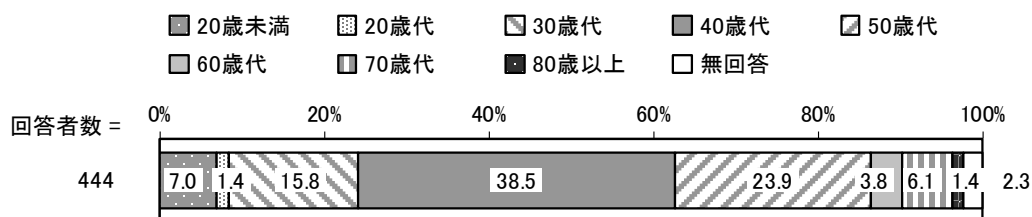
問 16. 介助をしている方は何歳代ですか。あてはまるものをそれぞれ選び、次の□の中に番号を記入してください。

「40 歳代」の割合が 54.2%と最も高く、次いで「30 歳代」の割合が 22.6%、「50 歳代」の割合が 20.1%となっています。



②に記入した方

「40 歳代」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「50 歳代」の割合が 23.9%、「30 歳代」の割合が 15.8%となっています。

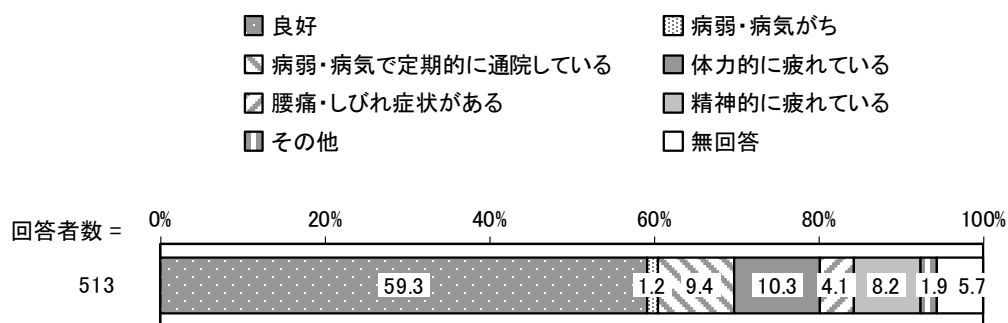


問 15 で①または②において、「1. 配偶者（妻・夫）」～「6. その他の家族・親戚」に○をつけた方におたずねします。

問 17. 介助をしている方の健康状態はいかがですか。あてはまるものをそれぞれ選び、次の口の中に番号を記入してください。

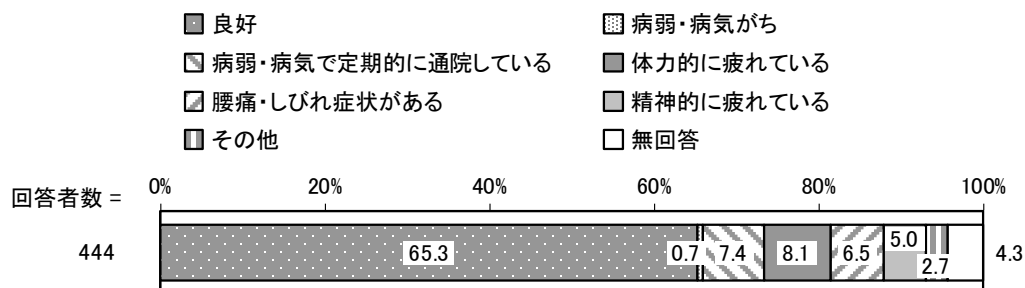
①の方

「良好」の割合が 59.3%と最も高く、次いで「体力的に疲れている」の割合が 10.3%となっています。



②の方

「良好」の割合が 65.3%と最も高くなっています。

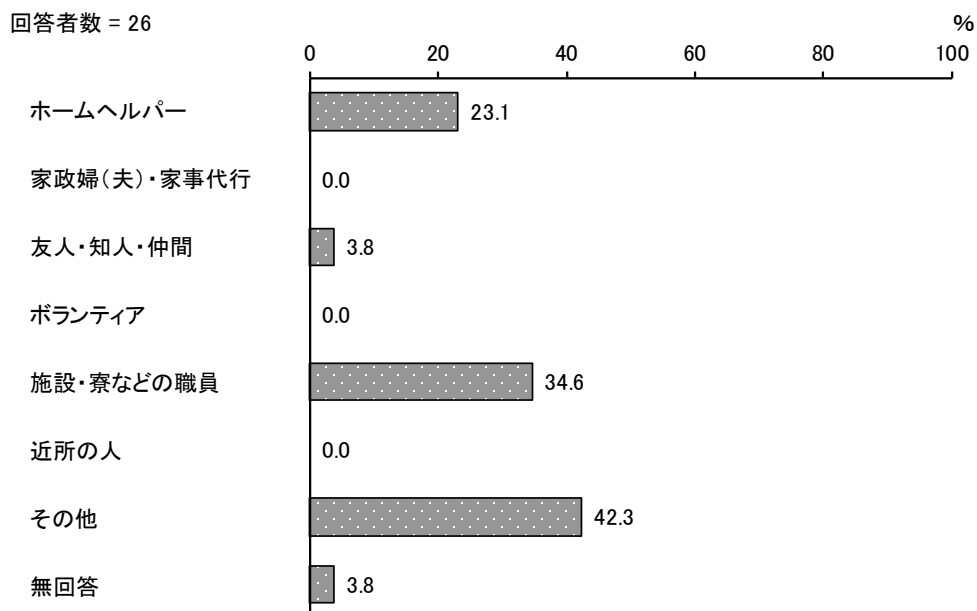


障害児

問 15 で「7. 家族・親戚以外」に○をつけた方におたずねします。

問 18. 介助をしている方はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

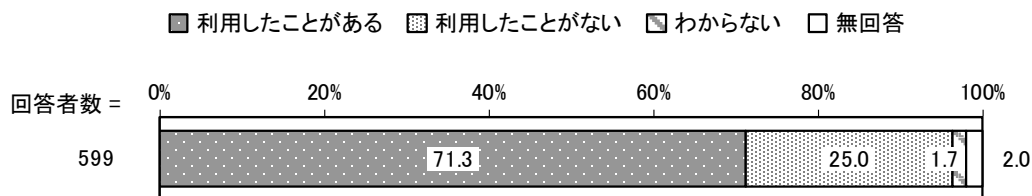
「施設・寮などの職員」の割合が 34.6%と最も高く、次いで「ホームヘルパー」の割合が 23.1%となっています。



(5) 障害福祉サービスの利用について

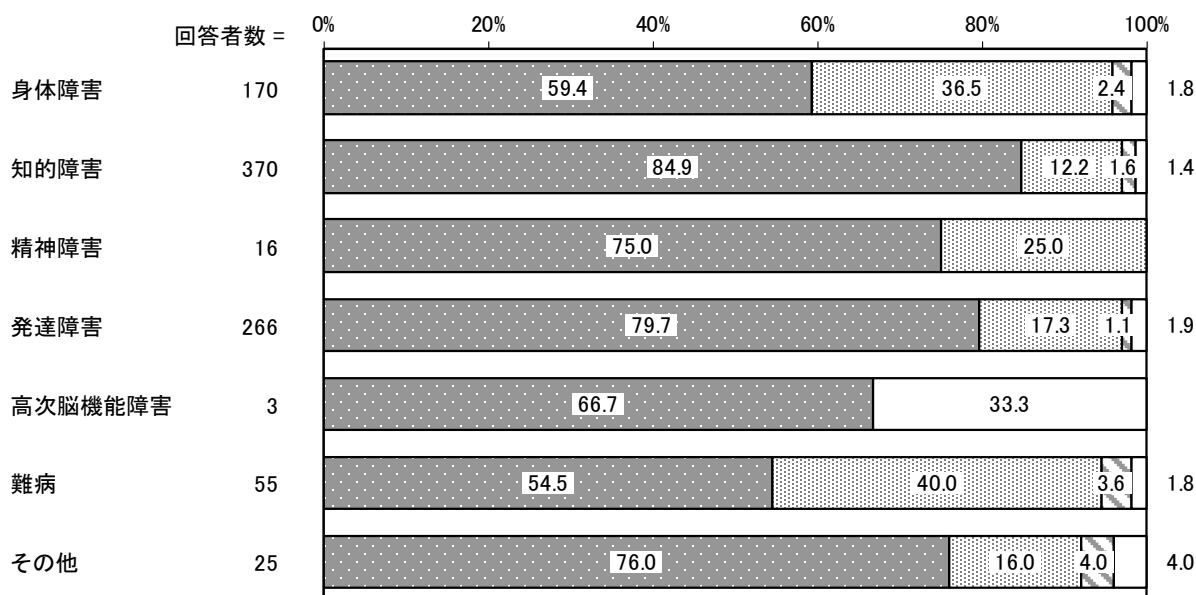
問 19. 過去1年の間に、障害福祉サービス等（8～9ページ1～29のサービス）を利用したことがありますか。

「利用したことがある」の割合が71.3%と最も高く、次いで「利用したことがない」の割合が25.0%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。



障害児

問 20. A・B・C欄について、以下のとおりそれぞれ教えてください。

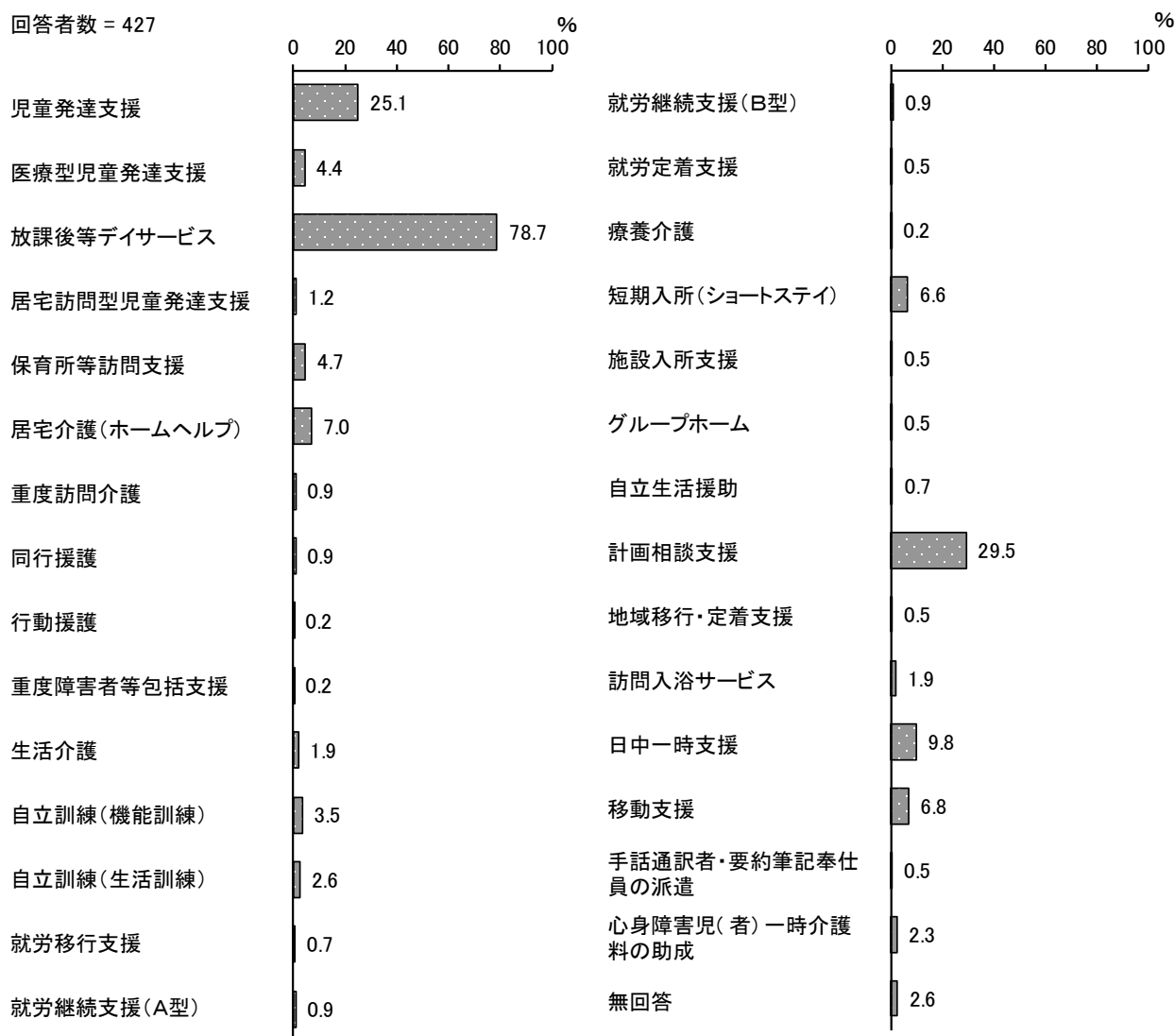
問 19 で「1. 利用したことがある」に○をつけた方におたずねします。

A欄：現在(過去1年の間)、利用しているサービスを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

利用状況 (あてはまるものすべてに○)

「放課後等デイサービス」の割合が78.7%と最も高く、次いで「計画相談支援」の割合が29.5%、「児童発達支援」の割合が25.1%となっています。

回答者数 = 427



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病で「医療型児童発達支援」の割合が、精神障害で「放課後等デイサービス」の割合が高くなっています。また、難病で「居宅介護（ホームヘルプ）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等 デイサービス	居宅訪問型 児童発達支援	保育所等 訪問支援	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援 護	行動援 護	重度障 害者等 包括支 援	生活介 護	自立訓練 (機能訓 練)	自立訓練 (生活訓 練)	就労移 行支援	就労継 続支援 (A型)
身体障害	101	38.6	14.9	65.3	1.0	10.9	21.8	4.0	3.0	1.0	1.0	5.0	11.9	6.9	1.0	1.0
知的障害	314	20.4	3.5	84.7	1.6	4.1	5.7	0.3	0.3	0.3	0.3	2.2	3.5	2.5	1.0	0.6
精神障害	12	16.7	8.3	91.7	8.3	—	8.3	—	8.3	—	—	—	—	—	—	—
発達障害	212	24.5	1.9	83.0	2.4	3.3	4.2	0.5	0.9	0.5	0.5	1.4	1.9	1.4	0.5	1.4
高次脳機能障害	2	50.0	—	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
難病	30	33.3	23.3	63.3	3.3	—	33.3	—	3.3	—	—	6.7	10.0	10.0	—	—
その他	19	21.1	—	73.7	—	—	10.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—

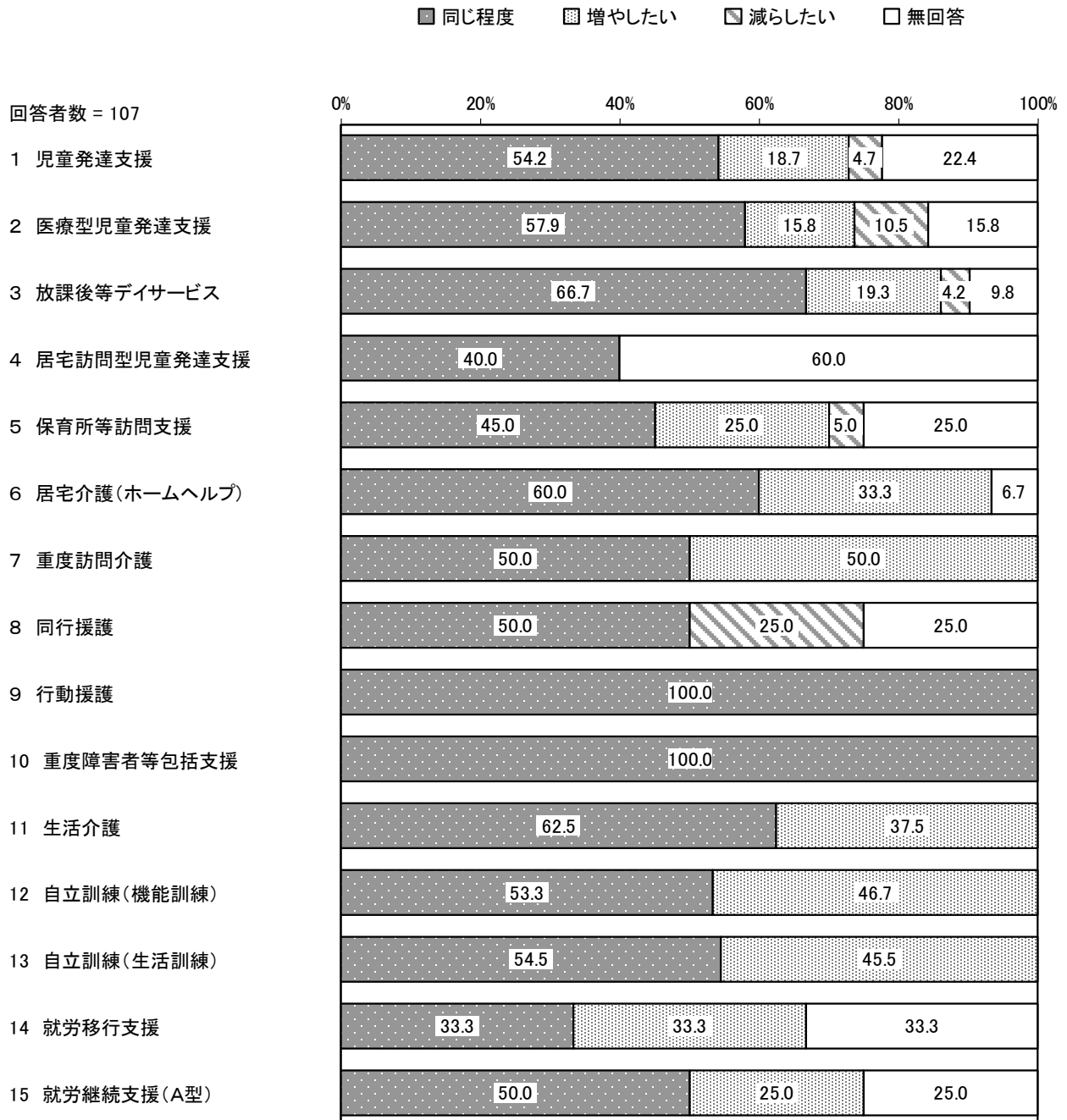
区分	就労継 続支援 (B型)	就労定 着支援	療養介 護	短期入 所(ショ ートス テイ)	施設入 所支援	グルー プホー ム	自立生 活援助	計画相 談支援	地域移 行・定 着支援	訪問入 浴サー ビス	日中一 時支援	移動支 援	手話通 訳者・ 要約筆 記奉仕 員の派 遣	心身障 害児(者) 一時介 護料の 助成	無回 答
身体障害	1.0	1.0	1.0	16.8	1.0	1.0	2.0	41.6	2.0	6.9	10.9	14.9	2.0	7.9	2.0
知的障害	1.0	0.6	0.3	6.7	0.6	0.6	1.0	31.2	0.3	2.2	10.5	6.1	0.3	2.5	2.5
精神障害	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—	8.3	16.7	16.7	—	8.3	—
発達障害	0.9	0.5	0.5	5.2	0.9	0.9	0.9	26.4	0.5	1.4	9.9	6.6	0.5	1.4	0.5
高次脳機能障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
難病	—	—	—	13.3	—	—	—	46.7	—	10.0	6.7	23.3	—	3.3	6.7
その他	—	—	—	15.8	—	—	—	42.1	—	—	15.8	10.5	—	5.3	—

障害児

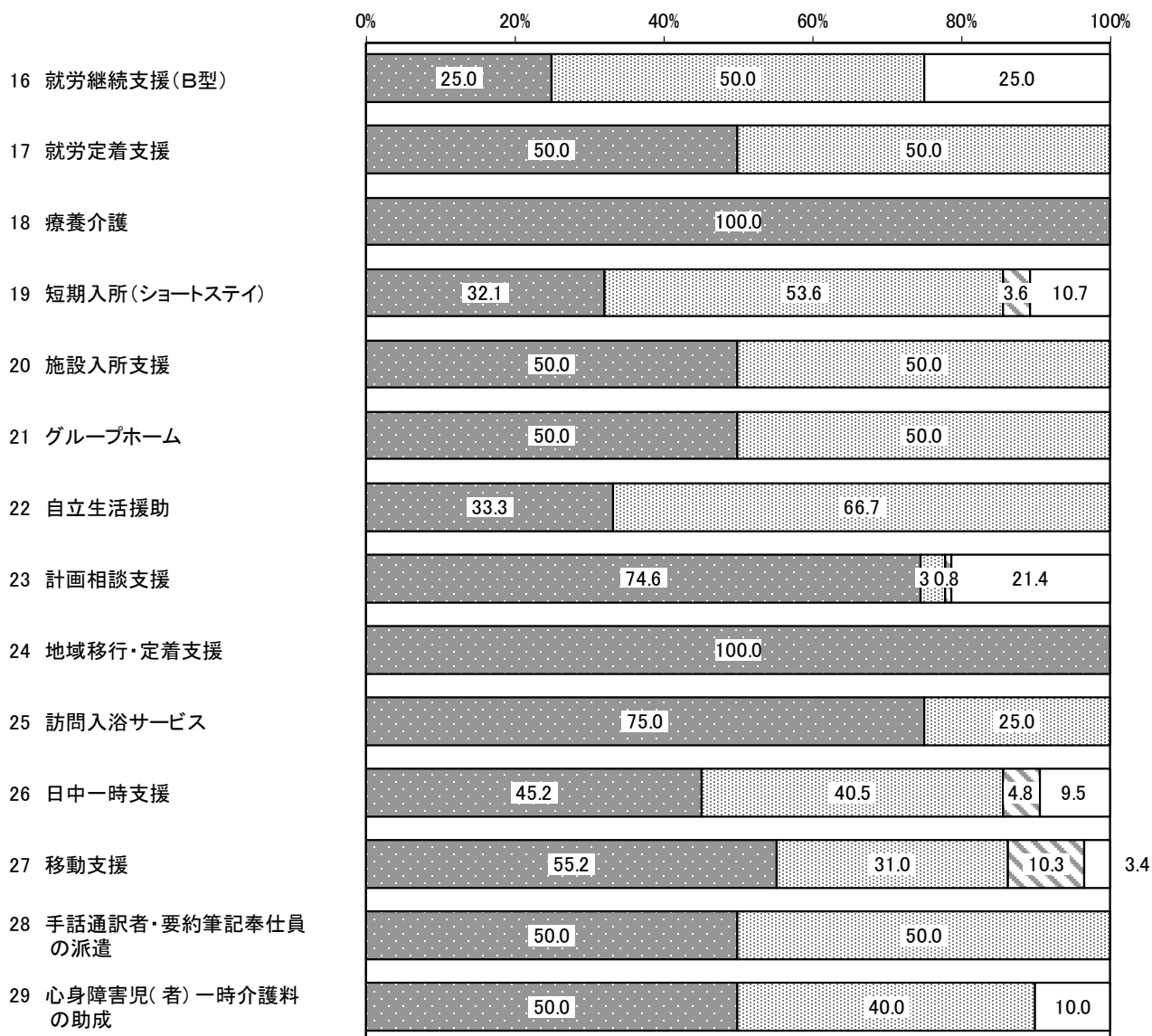
B欄：現在使用しているサービスで、今後3年間、どのくらい利用したいですか。
(各項目1つに○)

今後3年間の利用希望

『9 行動援護』『10 重度障害者等包括支援』『18 療養介護』『24 地域移行・定着支援』で、「同じ程度」の割合が高くなっています



■ 同じ程度 ▨ 増やしたい ▩ 減らしたい □ 無回答



(問 20 B 続き)

障害児

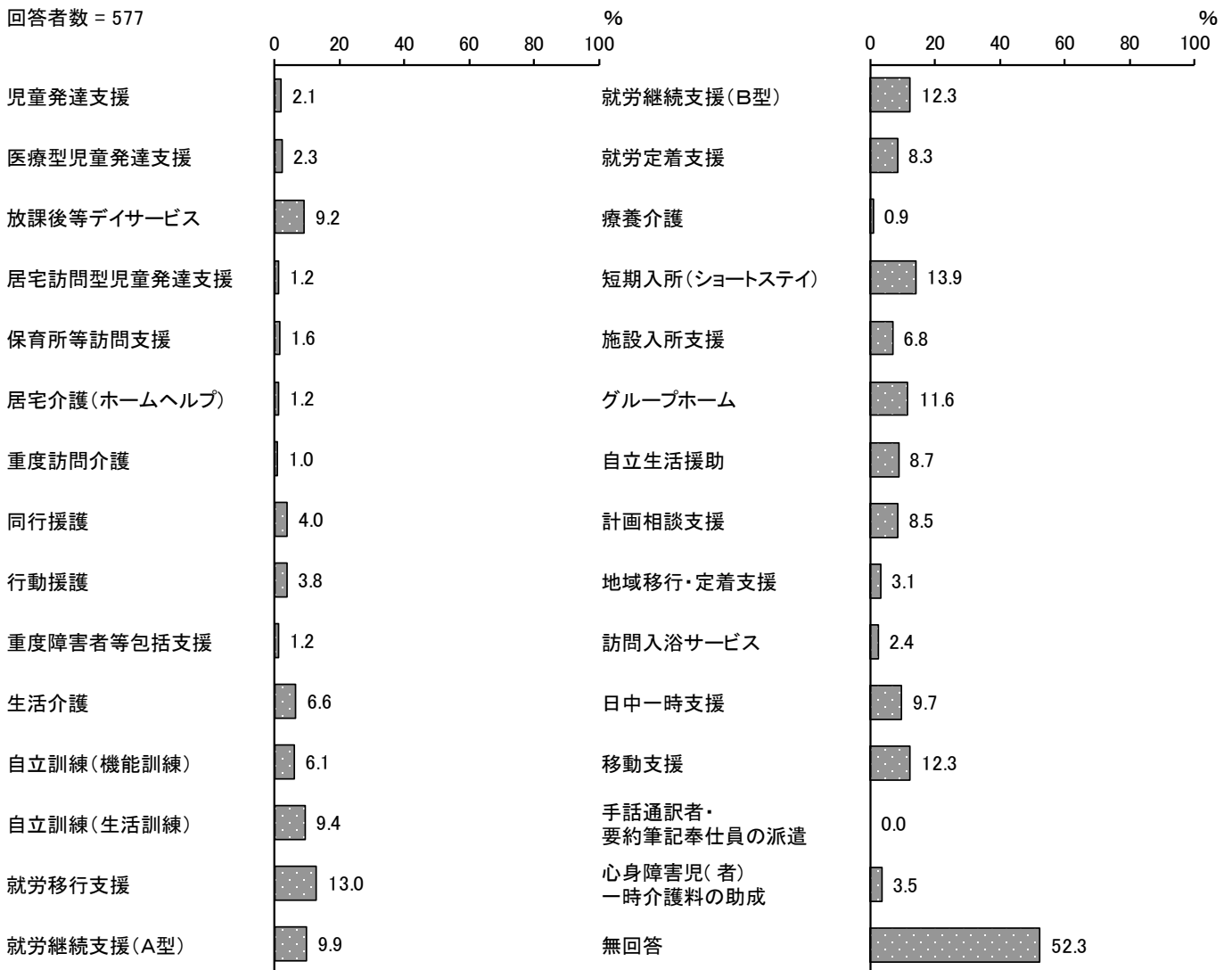
問 19 で「1. 利用したことがある」「2. 利用したことがない」に○をつけた方におたずねします。

C 欄：現在利用していないサービスで、今後利用したいサービスを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

利用していないサービスの利用意向（あてはまるものすべてに○）

「短期入所（ショートステイ）」の割合が 13.9%と最も高く、次いで「就労継続支援（A型）」の割合が 13.0%、「就労継続支援（B型）」、「移動支援」の割合が 12.3%となっています。

回答者数 = 577



障害児

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「短期入所（ショートステイ）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障害者等包括支援	生活介護	自立訓練（機能訓練）	自立訓練（生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援（A型）
身体障害	163	1.2	3.7	9.2	1.8	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	2.5	9.2	7.4	7.4	6.1	4.9
知的障害	359	2.5	3.1	8.6	1.4	0.8	1.7	1.4	4.7	4.2	1.4	9.2	6.4	9.7	16.2	12.0
精神障害	16	—	—	18.8	—	—	—	6.3	6.3	6.3	6.3	12.5	6.3	—	18.8	18.8
発達障害	258	3.1	2.7	9.3	0.8	1.2	0.8	0.8	5.0	5.4	1.2	7.8	8.1	13.6	16.3	12.4
高次脳機能障害	2	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—	50.0	100.0	—	—
難病	52	1.9	1.9	9.6	1.9	3.8	3.8	5.8	3.8	3.8	3.8	9.6	1.9	—	5.8	5.8
その他	23	—	—	21.7	—	4.3	4.3	4.3	—	—	—	4.3	4.3	4.3	4.3	8.7

区分	就労継続支援（B型）	就労定着支援	療養介護	短期入所（ショートステイ）	施設入所支援	グループホーム	自立生活援助	計画相談支援	地域移行・定着支援	訪問入浴サービス	日中一時支援	移動支援	手話通訳者・要約筆記奉仕員の派遣	心身障害児（者）一時介護料の助成	無回答
身体障害	6.1	4.3	1.8	14.7	7.4	8.0	6.7	6.7	2.5	7.4	12.3	16.6	—	5.5	55.2
知的障害	15.0	10.0	1.1	16.7	8.1	14.2	10.0	9.7	3.6	2.5	12.5	15.3	—	4.5	47.4
精神障害	12.5	—	—	25.0	18.8	18.8	6.3	—	6.3	—	12.5	12.5	—	6.3	50.0
発達障害	14.7	10.1	0.8	16.3	7.0	12.4	9.3	10.5	4.7	1.6	10.5	14.0	—	3.5	47.3
高次脳機能障害	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—	50.0	100.0	—	50.0	—
難病	5.8	5.8	3.8	15.4	9.6	7.7	3.8	5.8	3.8	5.8	17.3	11.5	—	7.7	57.7
その他	8.7	8.7	—	17.4	21.7	8.7	4.3	—	—	8.7	17.4	17.4	—	—	47.8

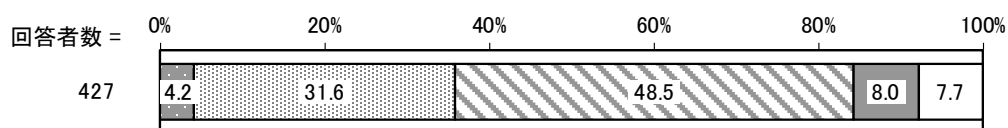
障害児

問 19 で「1. 利用したことがある」に○をつけた方におたずねします。

問 21. 障害福祉サービス（1～29 のサービス）を利用するにあたっては、サービス等利用計画の作成が必要になります。あなたは、どのようにサービス等利用計画を作成していますか。（1つに○）

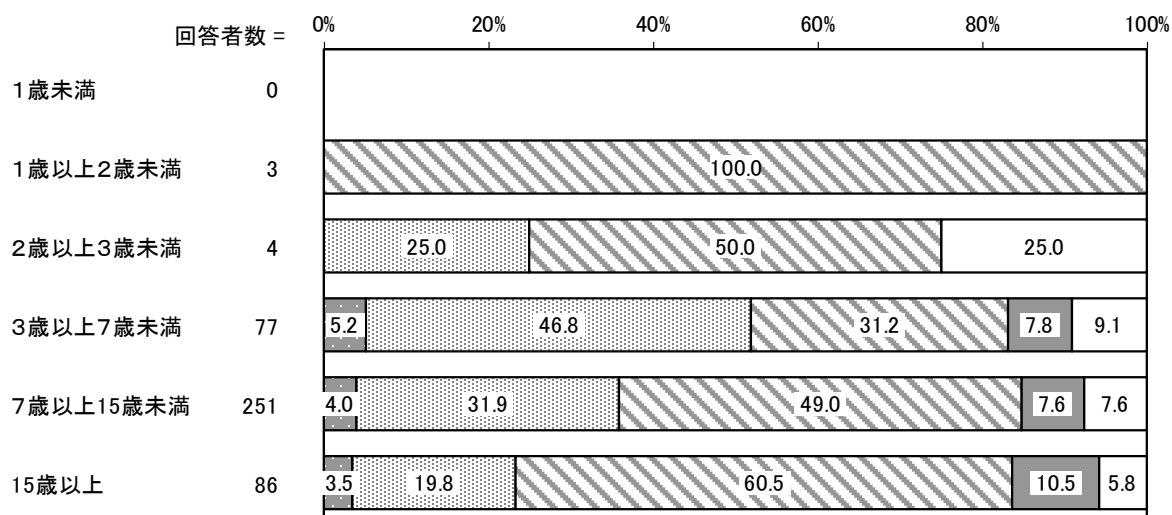
「現在、相談支援専門員に作成してもらっている」の割合が 48.5%と最も高く、次いで「以前から、自分で作成している（セルフプラン）」の割合が 31.6%となっています。

- 以前、相談支援専門員に作成してもらったことがあるが、現在は自分で作成している(セルフプラン)
- ▨ 以前から、自分で作成している(セルフプラン)
- ▩ 現在、相談支援専門員に作成してもらっている
- わからない
- 無回答



【年齢別】

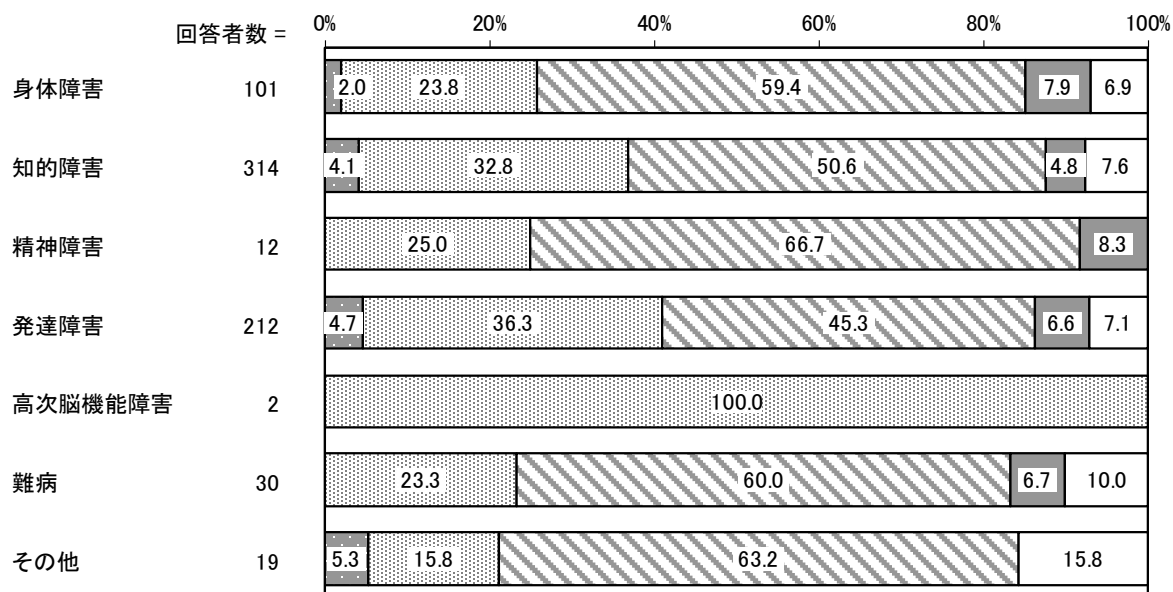
年齢別で見ると、他に比べ、3歳以上7歳未満で「以前から、自分で作成している（セルフプラン）」の割合が、15歳以上で「現在、相談支援専門員に作成してもらっている」の割合が高くなっています。



【障害別】

障害別でみると、知的障害、発達障害で「以前から、自分で作成している（セルフプラン）」の割合が高くなっています。

- 以前、相談支援専門員に作成してもらったことがあるが、現在は自分で作成している(セルフプラン)
- ▨ 以前から、自分で作成している(セルフプラン)
- ▩ 現在、相談支援専門員に作成してもらっている
- わからない
- 無回答

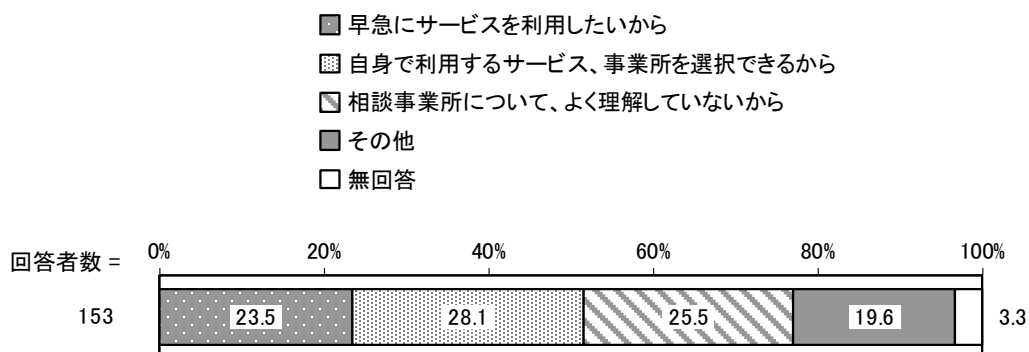


障害児

問 21 で「1. 以前、相談支援専門員に作成してもらったことがあるが、現在は自分で作成している（セルフプラン）」「2. 以前から、自分で作成している（セルフプラン）」に○をつけた方におたずねします。

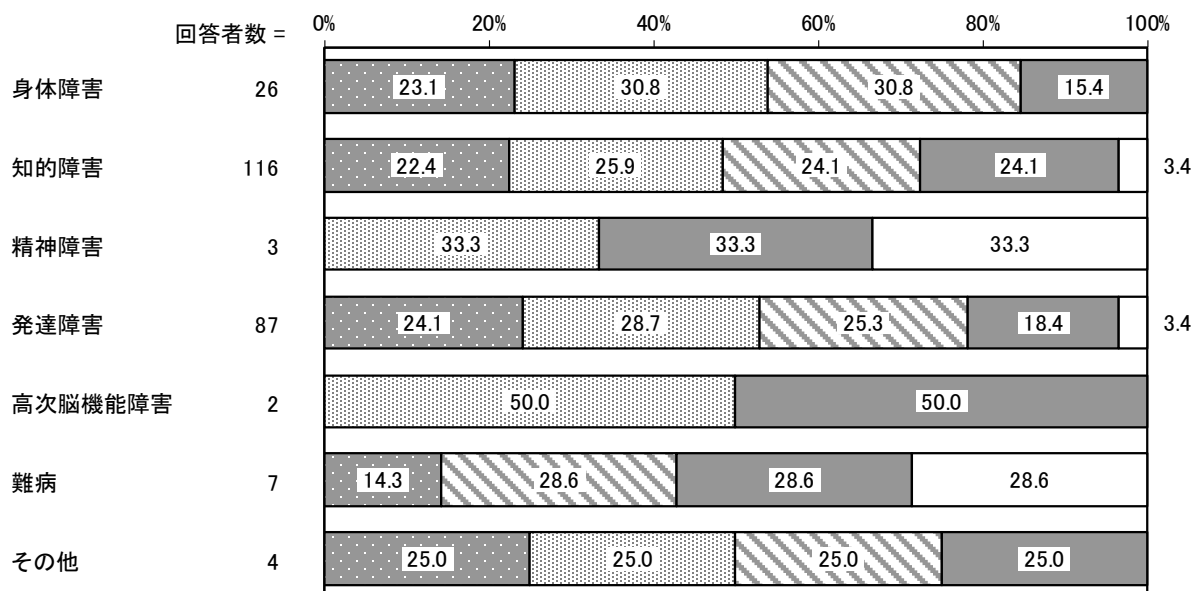
問 22. セルフプランを作成している理由は何ですか。（1つに○）

「自身で利用するサービス、事業所を選択できるから」の割合が 28.1%と最も高く、次いで「相談事業所について、よく理解していないから」の割合が 25.5%、「早急にサービスを利用したいから」の割合が 23.5%となっています。



【障害別】

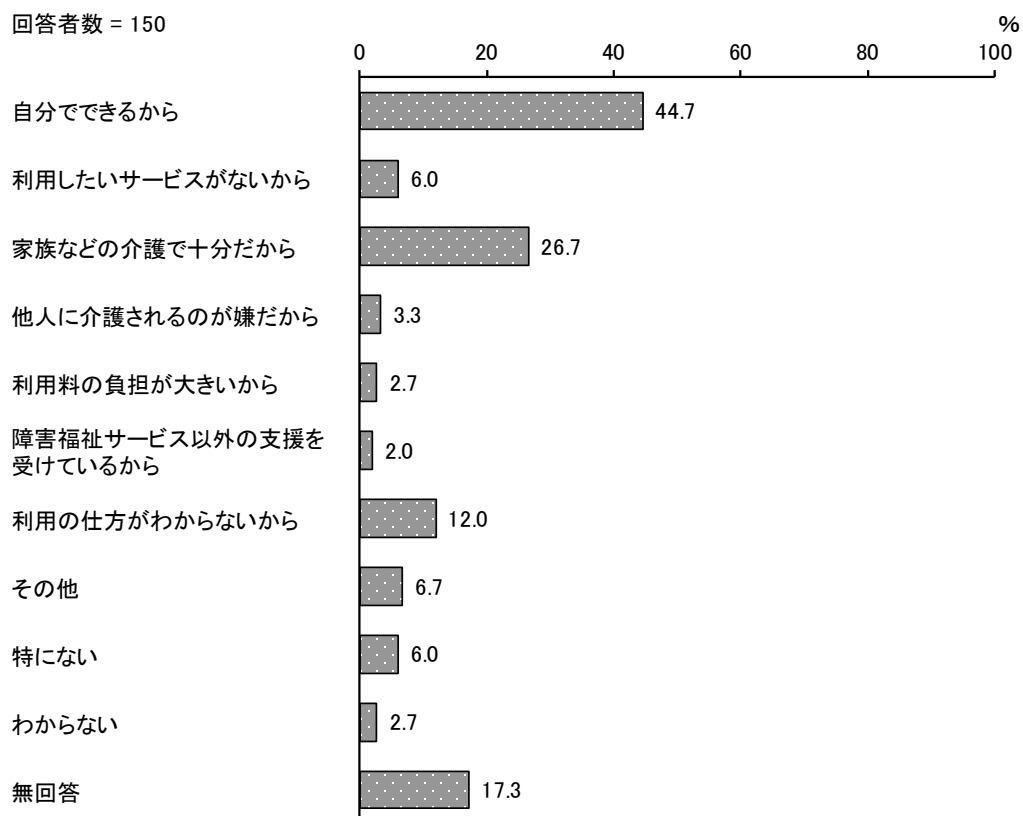
障害別でみると、他に比べ、身体障害で「相談事業所について、よく理解していないから」の割合が高くなっています。



問 19 で「2. 利用したことがない」に○をつけた方におたずねします。

問 23. あなたが障害福祉サービス等（1～29 のサービス）を利用していない理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「自分でできるから」の割合が 44.7%と最も高く、次いで「家族などの介護で十分だから」の割合が 26.7%、「利用の仕方がわからないから」の割合が 12.0%となっています。



障害児

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「家族などの介護で十分だから」の割合が高くなっています。

単位：％

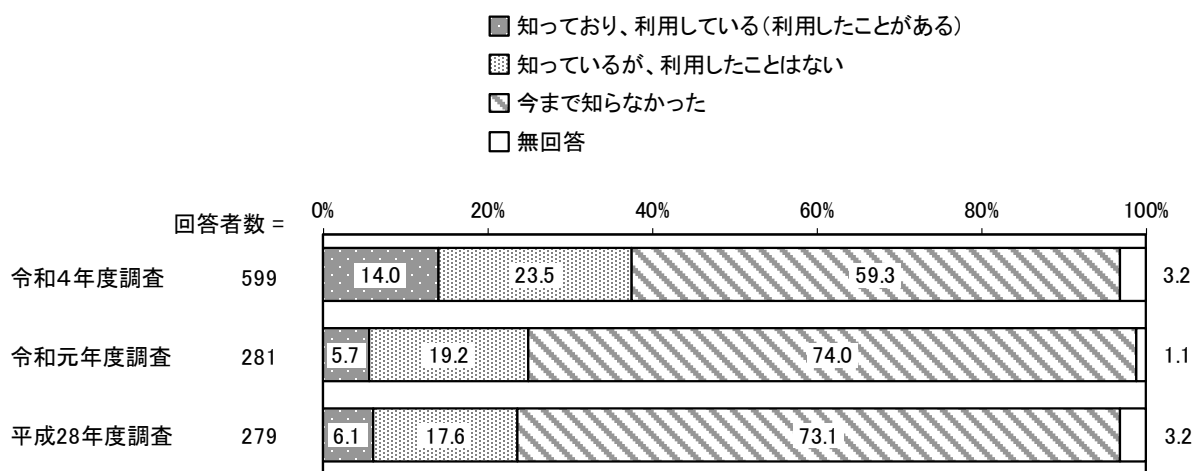
区分	回答者数 (件)	自分でできるから	利用したいサービスがないから	家族などの介護で十分だから	他人に介護されるのが嫌だから	利用料の負担が大きいから	障害福祉サービス以外の支援を受けているから	利用の仕方がわからないから	その他	特にない	わからない	無回答
身体障害	62	48.4	8.1	35.5	1.6	—	3.2	12.9	4.8	3.2	1.6	12.9
知的障害	45	33.3	6.7	24.4	4.4	4.4	2.2	20.0	11.1	8.9	2.2	13.3
精神障害	4	25.0	—	75.0	—	—	—	—	—	—	—	—
発達障害	46	37.0	6.5	23.9	6.5	4.3	—	15.2	13.0	8.7	4.3	17.4
高次脳機能障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
難病	22	50.0	4.5	27.3	—	4.5	9.1	9.1	4.5	—	—	18.2
その他	4	50.0	—	25.0	—	—	—	—	25.0	—	—	25.0

(6) 相談支援について

問 24. 松戸市では障害者等から虐待・差別を含む障害分野の相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行う窓口として基幹相談支援センターを設置しています。
 あなたはお住まいの地域の基幹相談支援センターを知っていますか。(1つに○)

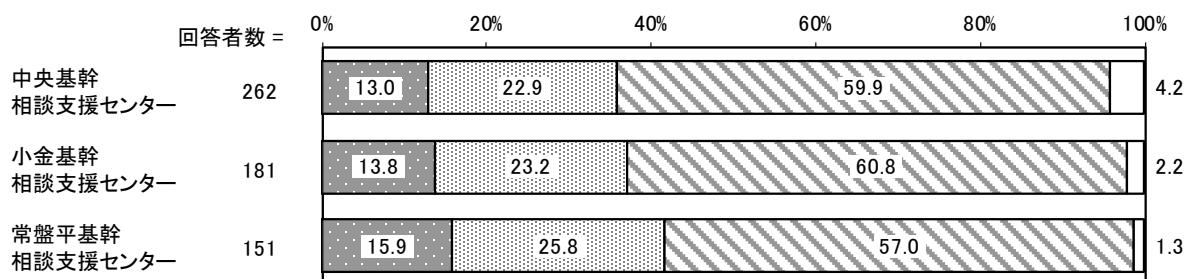
「今まで知らなかった」の割合が 59.3%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」の割合が 23.5%、「知っており、利用している (利用したことがある)」の割合が 14.0%となっています。

令和元年度と比較すると、「知っており、利用している (利用したことがある)」の割合が増加しています。一方、「今まで知らなかった」の割合が減少しています。



【基幹別】

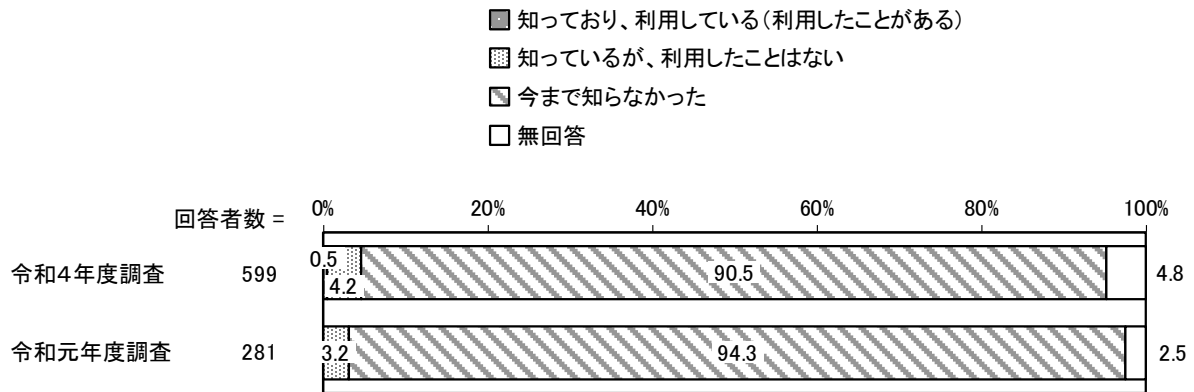
基幹別でみると、大きな差異はみられません。



障害児

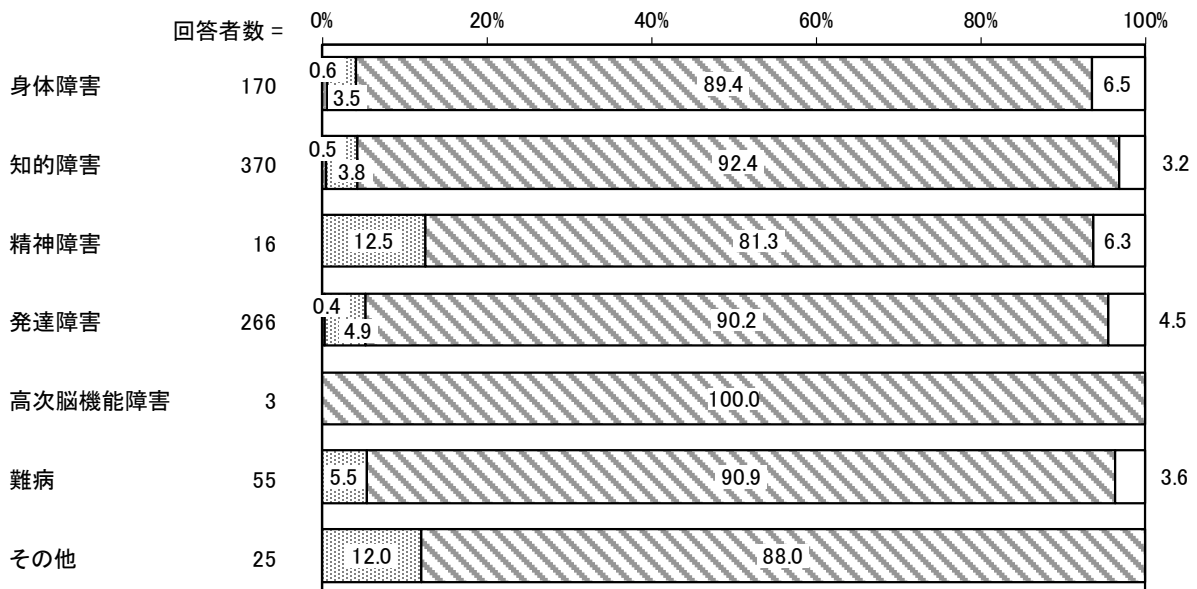
問 25. 松戸市では、高齢者総合相談窓口を拡充し、平成 30 年度から「福祉まるごと相談窓口」を設置しています。福祉に関する困りごと（ダブルケアの相談・サービスや制度を知りたい・どこに相談してよいかわからないなど）の相談窓口です。専門職と一緒に考え、必要なサービスを紹介したり、担当の課におつなぎしたりしています。あなたは、「福祉まるごと相談窓口」を知っていますか。（1つに○）

「今まで知らなかった」の割合が 90.5%と最も高くなっています。
令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害別】

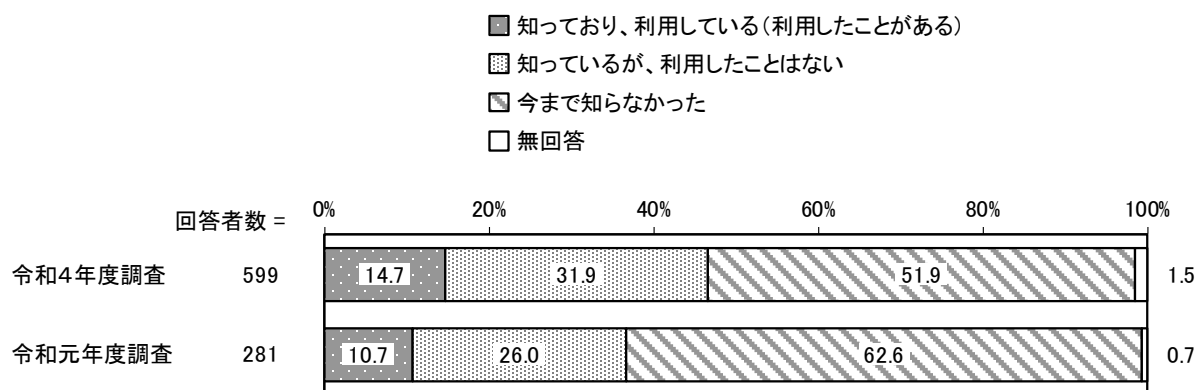
障害別でみると、他に比べ、精神障害、その他で「知っているが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



問 26. 松戸市では、障害のある子どもが、乳幼児期から成人期までのライフステージごとに一貫した支援が受けられるように、成育歴、関係機関、通院している医療機関などを記録して整理できる「ライフサポートファイル」を配布しています。あなたは、「ライフサポートファイル」を知っていますか。(1つに○)

「今まで知らなかった」の割合が51.9%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」の割合が31.9%、「知っており、利用している(利用したことがある)」の割合が14.7%となっています。

令和元年度と比較すると、「知っているが、利用したことはない」の割合が増加しています。一方、「今まで知らなかった」の割合が減少しています。

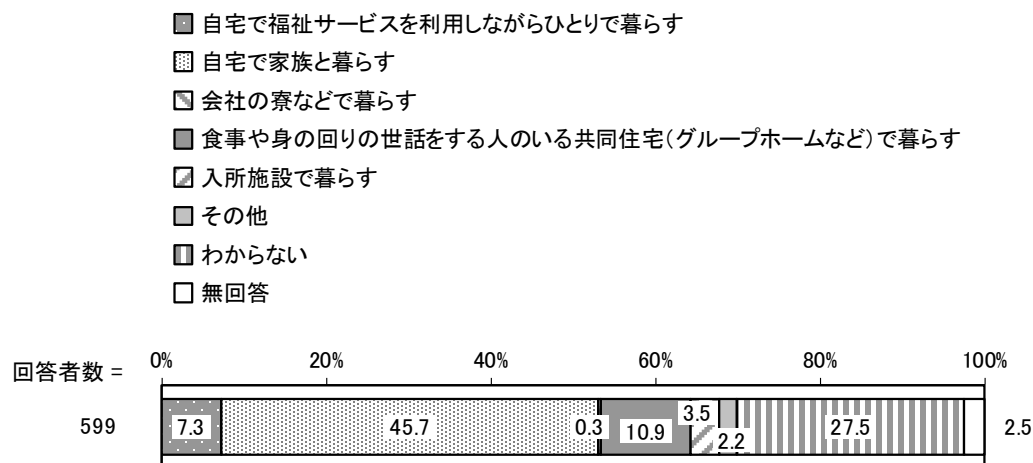


障害児

(7) 現在や将来の生活について

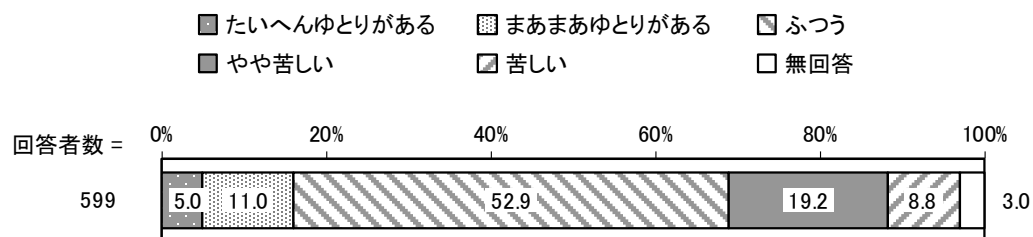
問 27. 将来（おとなになったあと）あなたはどのような生活をしたいと思いますか。
（もっともあてはまるもの1つに○）

「自宅で家族と暮らす」の割合が45.7%と最も高く、次いで「食事や身の回りの世話をする人のいる共同住宅（グループホームなど）で暮らす」の割合が10.9%となっています。



問 28. あなたは、現在の暮らしの状況（家計の状況）について、どのように感じていますか。（1つに○）

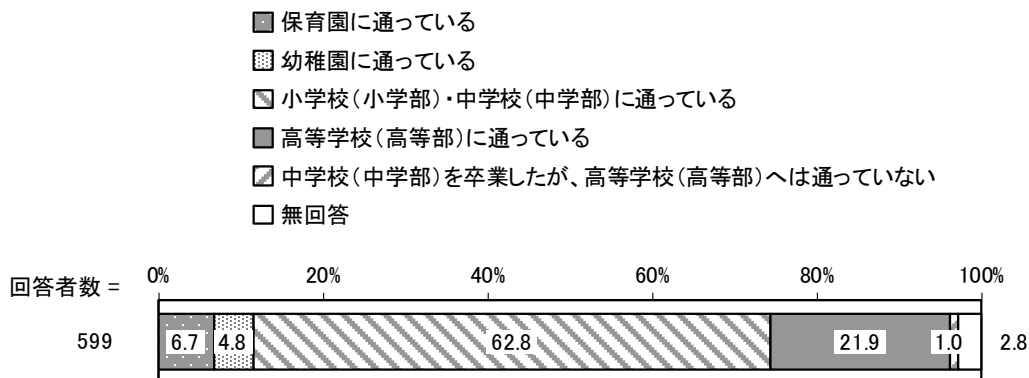
「たいへんゆとりがある」と「まあまあゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”の割合が、16.0%、「ふつう」の割合が52.9%、「やや苦しい」と「苦しい」をあわせた“苦しい”の割合が28.0%となっています。



(8) 日中の過ごし方について

問 29. 現在の就学状況を教えてください。(1つに○)

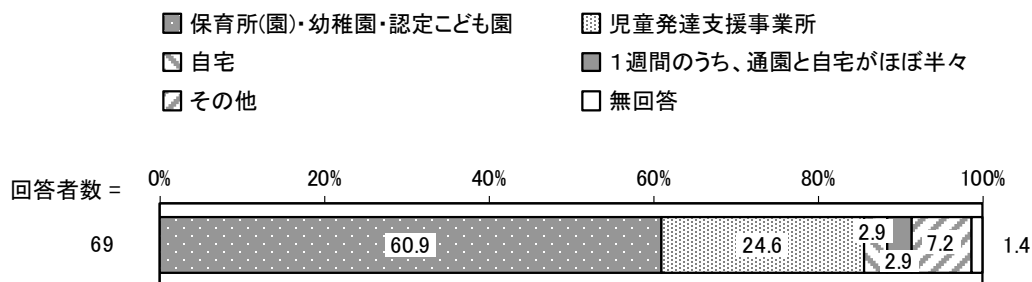
「小学校(小学部)・中学校(中学部)に通っている」の割合が62.8%と最も高く、次いで「高等学校(高等部)に通っている」の割合が21.9%となっています。



問 29 で「1. 保育園に通っている」「2. 幼稚園に通っている」に○をつけた方におたずねします。

問 30. 現在、あなたは日中をおもにどこで過ごしていますか。(1つに○)

「保育所(園)・幼稚園・認定こども園」の割合が60.9%と最も高く、次いで「児童発達支援事業所」の割合が24.6%となっています。

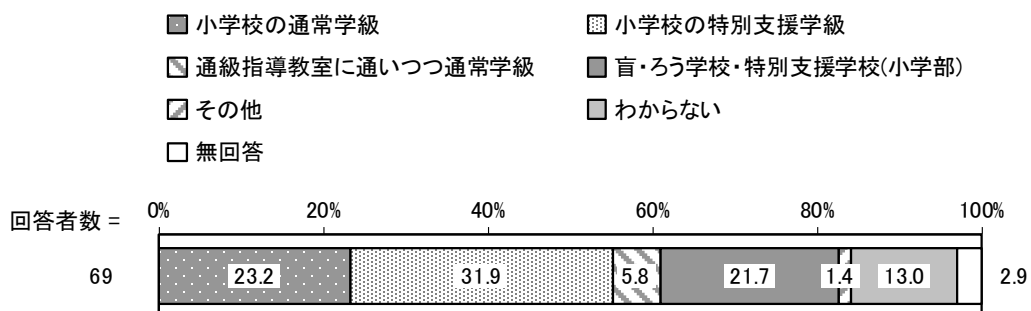


障害児

問 29 で「1. 保育園に通っている」「2. 幼稚園に通っている」に○をつけた方におたずねします。

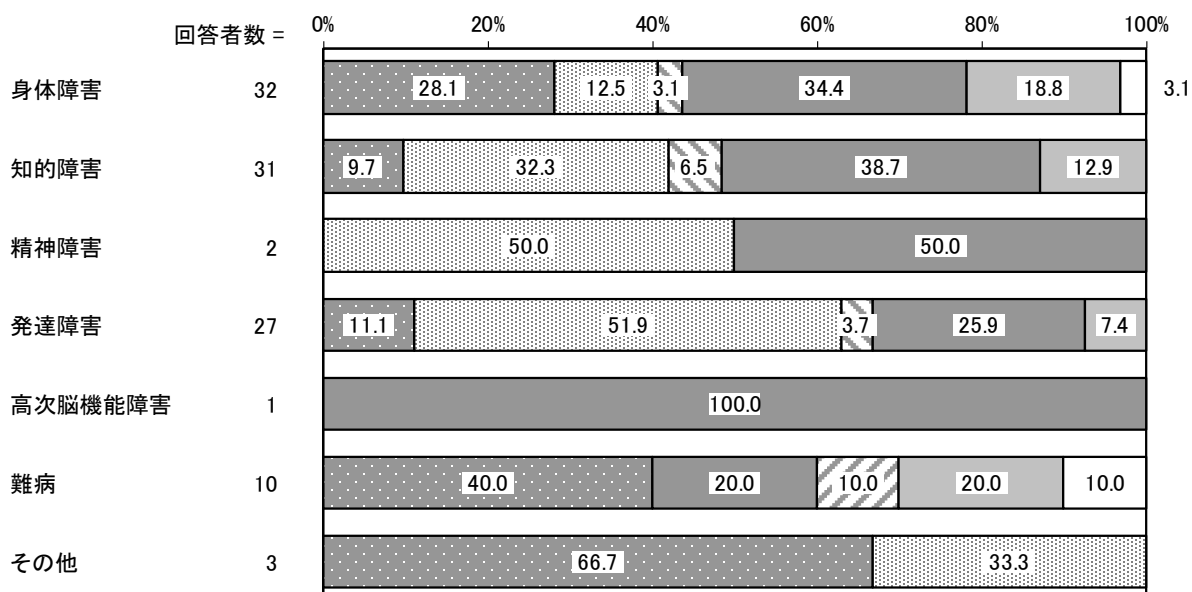
問 31. あなたが将来、小学校(小学部)に入学するとき、どの学校・学級に通いたと思いますか。(1つに○)

「小学校の特別支援学級」の割合が 31.9%と最も高く、次いで「小学校の通常学級」の割合が 23.2%、「盲・ろう学校・特別支援学校(小学部)」の割合が 21.7%となっています。



【障害別】

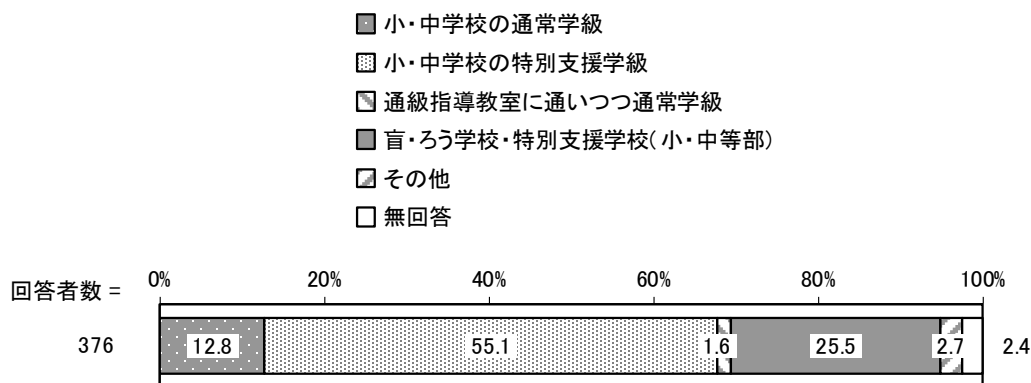
障害別で見ると、他に比べ、難病で「小学校の通常学級」の割合が高くなっています。



問 29 で「3. 小学校（小学部）・中学校（中学部）に通っている」に○をつけた方におたずねします。

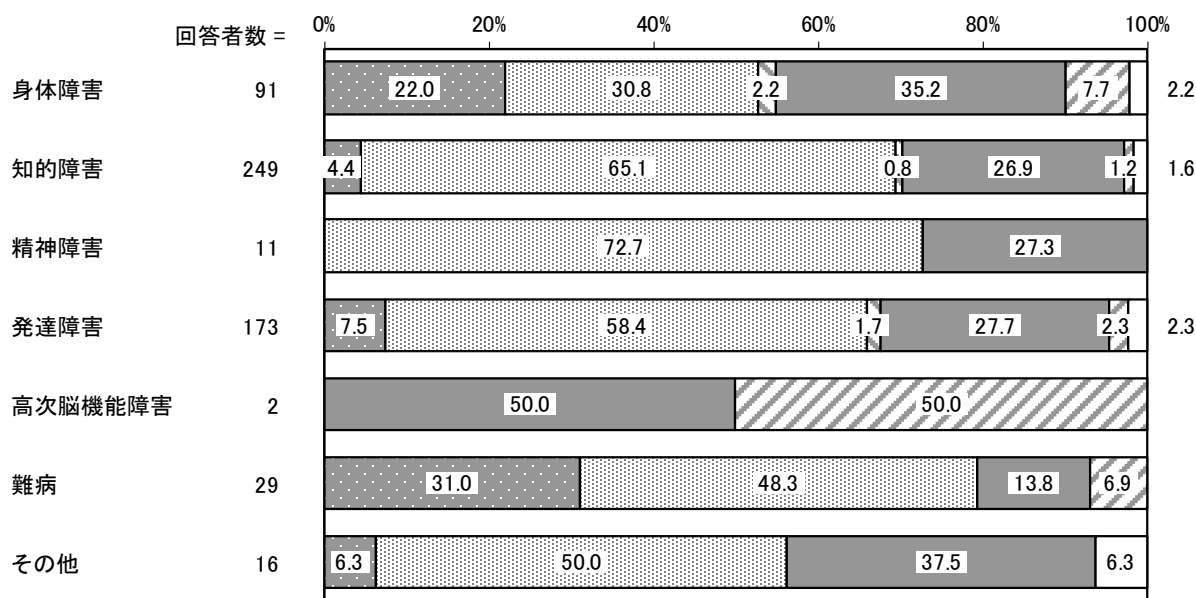
問 32. あなたは、日中をおもにどこで過ごしていますか。（1つに○）

「小・中学校の特別支援学級」の割合が 55.1%と最も高く、次いで「盲・ろう学校・特別支援学校(小・中等部)」の割合が 25.5%、「小・中学校の通常学級」の割合が 12.8%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害、精神障害、発達障害において「小・中学校の通常学級」の割合が低くなっています。



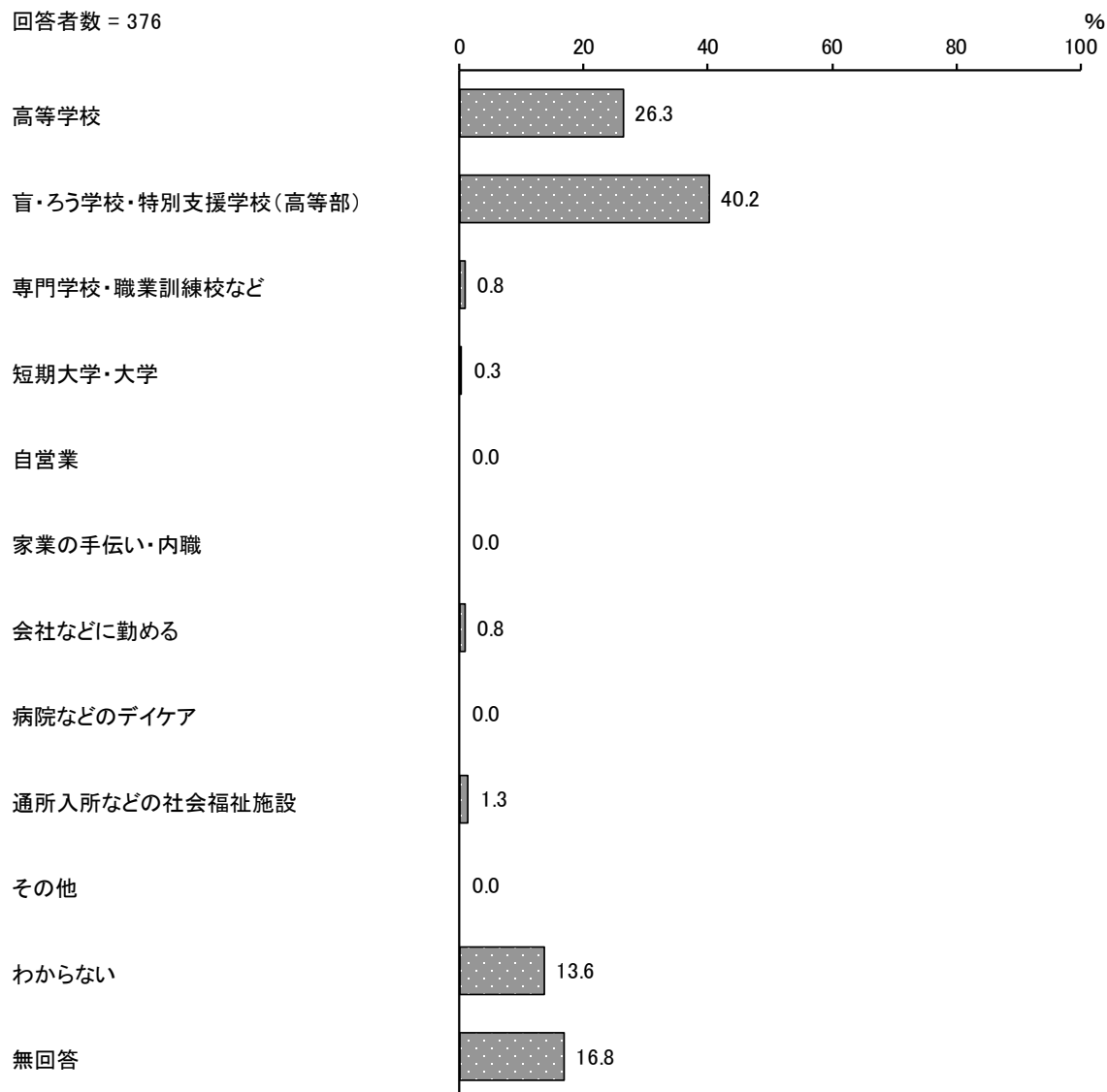
障害児

問 29 で「3. 小学校（小学部）・中学校（中学部）に通っている」に○をつけた方におたずねします。

問 33. あなたは、将来（中学校を卒業後）、日中をどこで（どのように）過ごしたいですか。（1つに○）

「盲・ろう学校・特別支援学校（高等部）」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「高等学校」の割合が 26.3%となっています。

回答者数 = 376



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害、発達障害で「盲・ろう学校・特別支援学校（高等部）」の割合が高くなっています。

単位：％

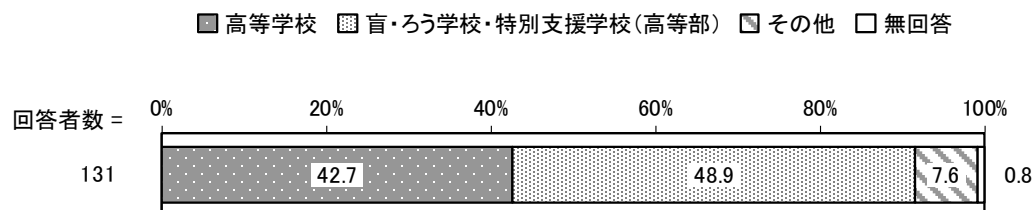
区分	回答者数 (件)	高等学校	盲・ろう学校・特別支 援学校(高等部)	専 門 学 校 ・ 職 業 訓 練 校 な ど	短期大学・大学	自 営 業	家 業 の 手 伝 い ・ 内 職	会 社 な ど に 勤 め る	病 院 な ど の デ イ ケ ア	福 祉 施 設 ・ 通 所 入 所 な ど の 社 会	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
身体障害	91	27.5	33.0	1.1	—	—	—	1.1	—	3.3	—	19.8	14.3
知的障害	249	18.9	47.4	1.2	—	—	—	0.4	—	1.6	—	12.9	17.7
精神障害	11	18.2	27.3	—	—	—	—	—	—	—	—	18.2	36.4
発達障害	173	28.3	43.9	1.2	—	—	—	1.2	—	0.6	—	9.2	15.6
高次脳機能障害	2	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
難病	29	34.5	34.5	—	3.4	—	—	3.4	—	6.9	—	10.3	6.9
その他	16	6.3	50.0	—	—	—	—	6.3	—	—	—	12.5	25.0

障害児

問 29 で「4. 高等学校（高等部）に通っている」に○をつけた方におたずねします。

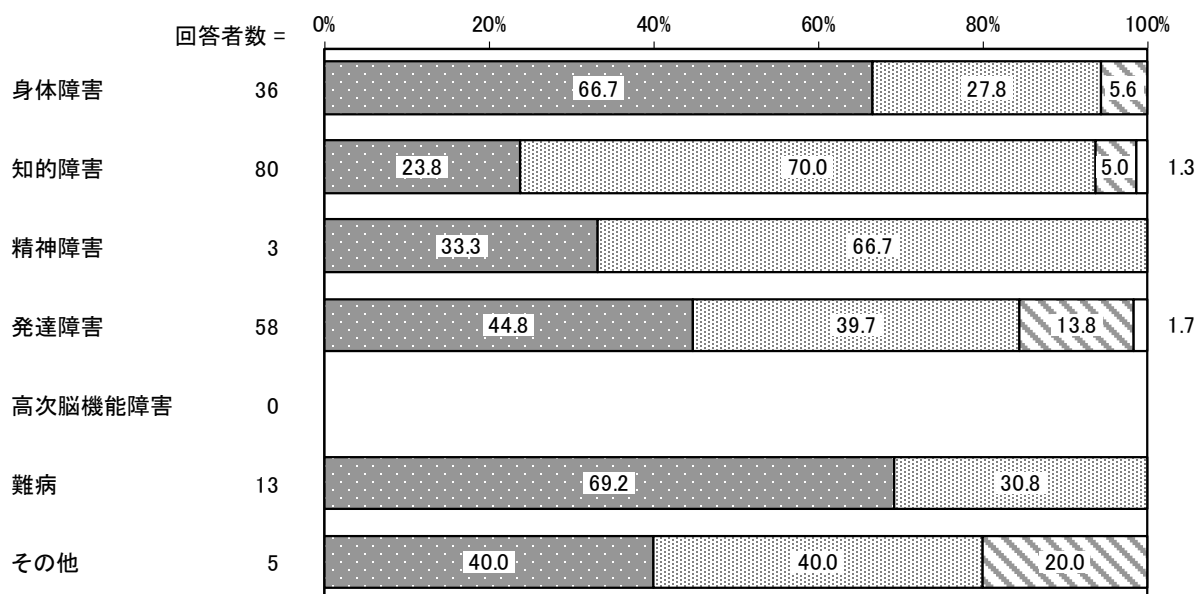
問 34. あなたは、日中をおもにどこで過ごしていますか。（1つに○）

「高等学校」の割合が 42.7%、「盲・ろう学校・特別支援学校（高等部）」の割合が 48.9%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、身体障害、難病で「高等学校」の割合が高くなっています。

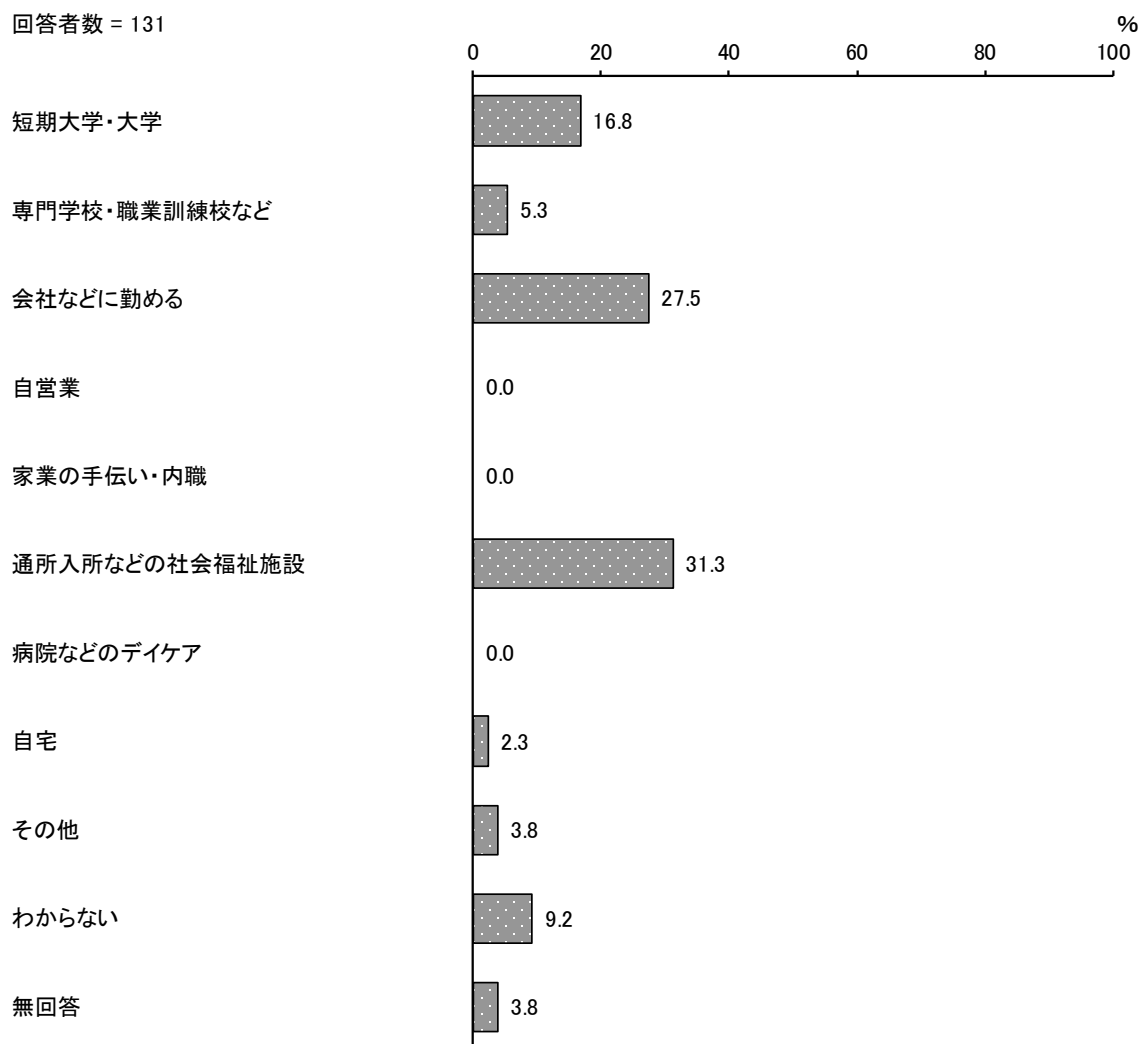


問 29 で「4. 高等学校（高等部）に通っている」に○をつけた方におたずねします。

問 35. あなたは、将来（高等学校（高等部）を卒業後）、日中をどこで（どのように）過ご
 したいですか。（1つに○）

「通所入所などの社会福祉施設」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「会社などに勤める」の割合が 27.5%、「短期大学・大学」の割合が 16.8%となっています。

回答者数 = 131



障害児

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「短期大学・大学」の割合が、知的障害で「通所入所などの社会福祉施設」の割合が高くなっています。

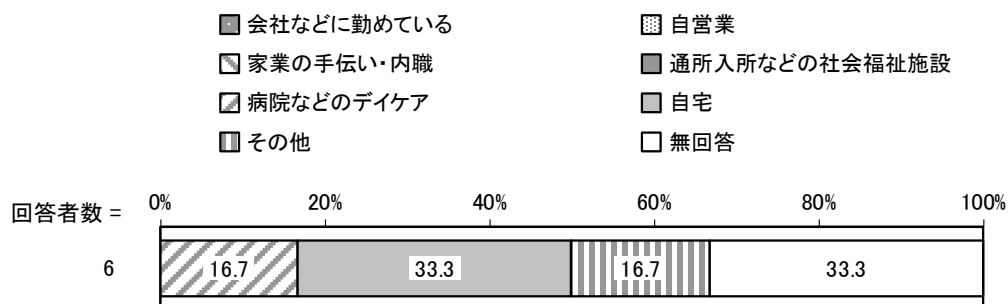
単位：％

区分	回答者数 (件)	短期大学・大学	専門学校・職業訓練校など	会社などに勤める	自営業	家業の手伝い・内職	通所入所などの社会福祉施設	病院などのデイケア	自宅	その他	わからない	無回答
身体障害	36	41.7	5.6	5.6	—	—	36.1	—	—	—	8.3	2.8
知的障害	80	1.3	3.8	31.3	—	—	47.5	—	3.8	3.8	3.8	5.0
精神障害	3	—	—	33.3	—	—	66.7	—	—	—	—	—
発達障害	58	10.3	1.7	34.5	—	—	31.0	—	3.4	5.2	10.3	3.4
高次脳機能障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
難病	13	30.8	7.7	15.4	—	—	38.5	—	—	—	7.7	—
その他	5	20.0	—	40.0	—	—	20.0	—	—	—	20.0	—

問 29 で「5. 中学校（中学部）を卒業したが、高等学校（高等部）へは通っていない」に○をつけた方におたずねします。

問 36. あなたは、日中どのように過ごしていますか。（1つに○）

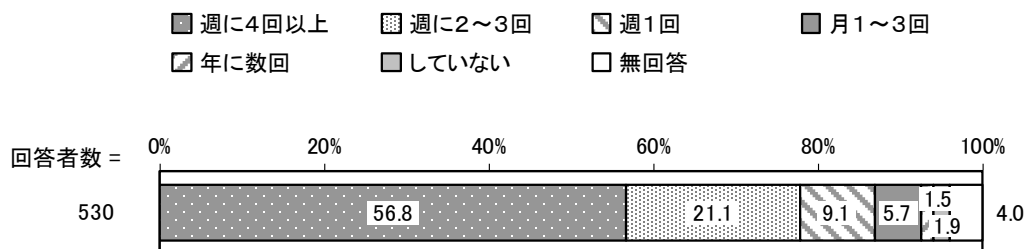
「自宅」が2件となっています。「病院などのデイケア」が1件となっています。



(9) 外出（社会参加等）について

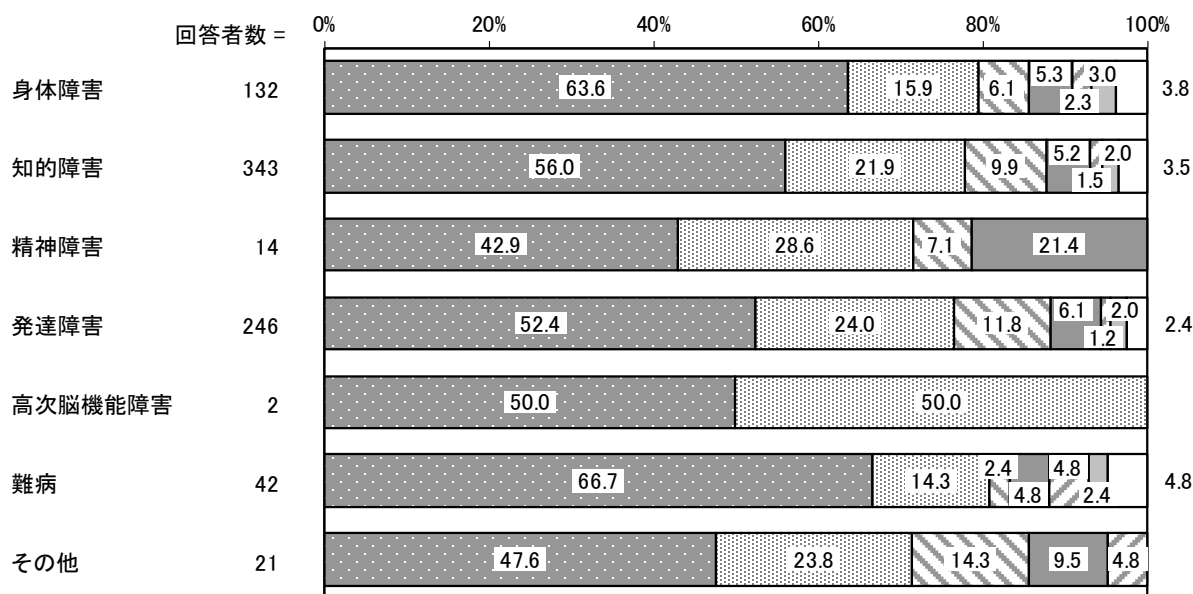
問 37. あなたが外出する頻度はどれくらいですか。隣近所へ行く、買い物、通院などを含みます。（1つに○）

「週に4回以上」の割合が56.8%と最も高く、次いで「週に2～3回」の割合が21.1%となっています。



【障害別】

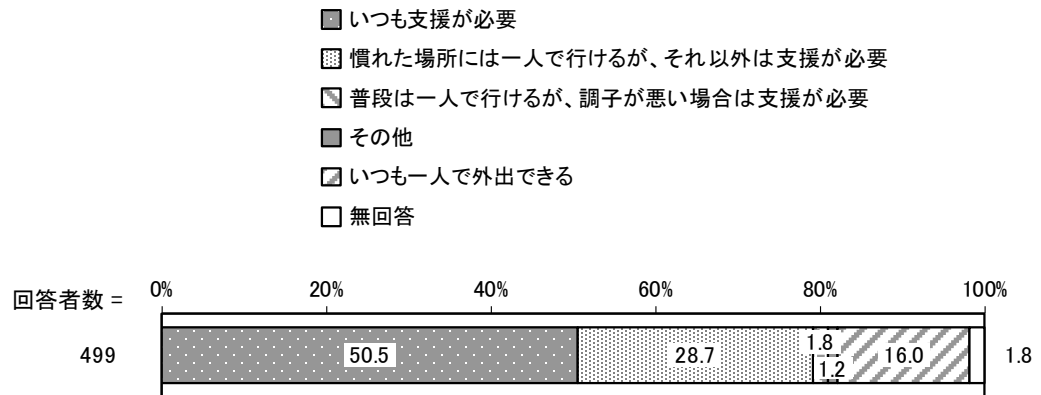
障害別でみると、他に比べ、精神障害で「月1～3回」の割合が高くなっています。



障害児

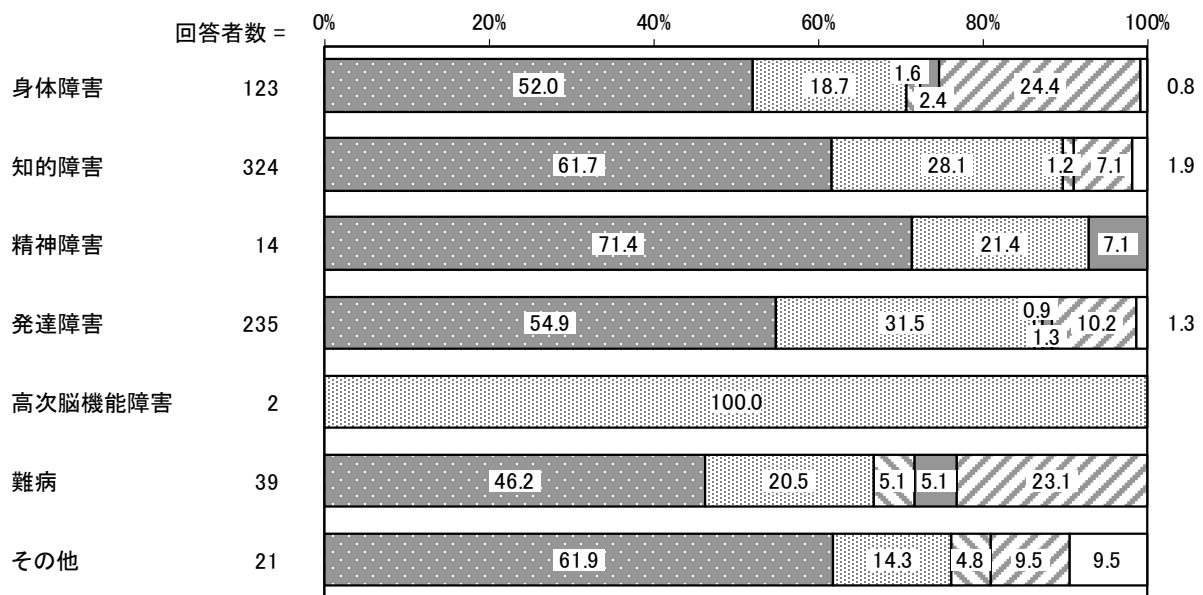
問 38. あなたは、外出をするときに支援が必要ですか。(1つに○)

「いつも支援が必要」の割合が 50.5%と最も高く、次いで「慣れた場所には一人で行けるが、それ以外は支援が必要」の割合が 28.7%、「いつも一人で外出できる」の割合が 16.0%となっています。



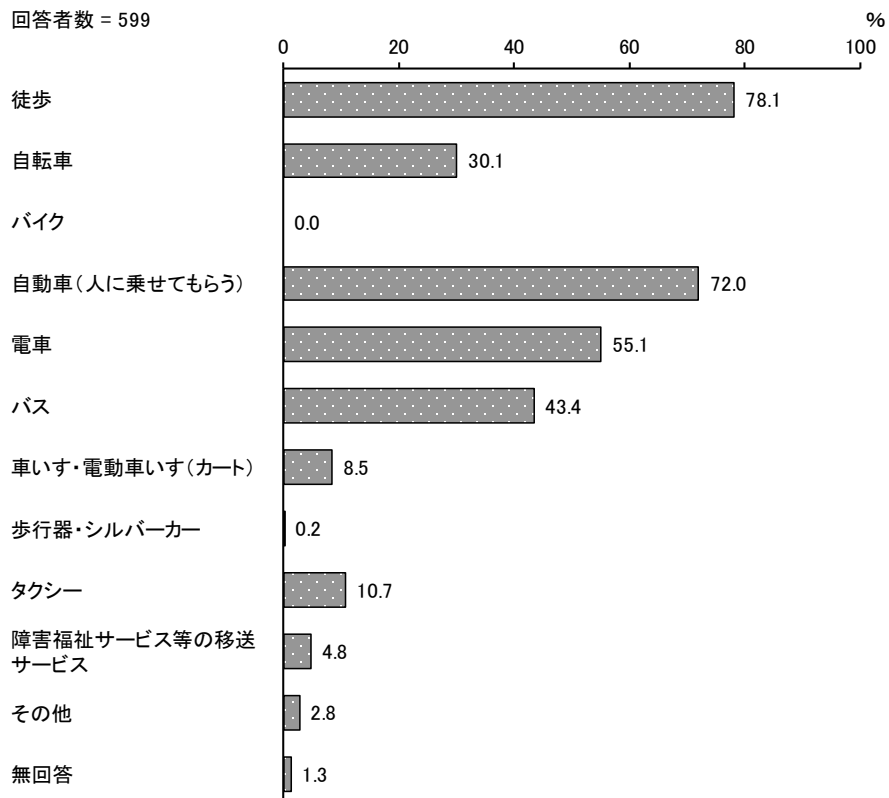
【障害別】

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「いつも支援が必要」の割合が高くなっています。



問 39. あなたが外出するときに利用している交通手段は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「徒歩」の割合が78.1%と最も高く、次いで「自動車(人に乗せてもらう)」の割合が72.0%、「電車」の割合が55.1%となっています。



障害児

【障害別】

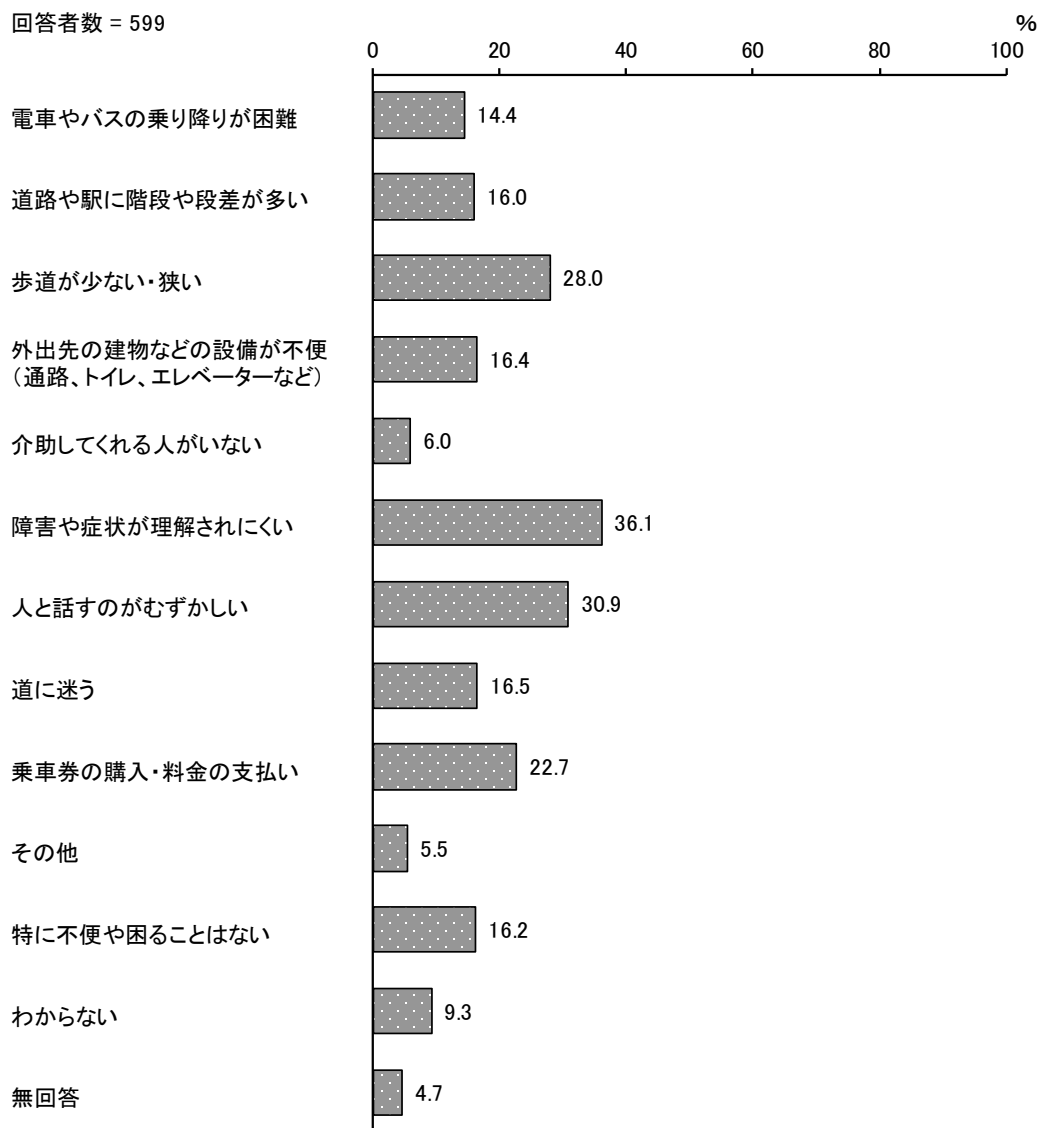
障害別でみると、他に比べ、発達障害で「徒歩」の割合が、精神障害で「タクシー」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	徒歩	自転車	バイク	自動車(人に乗せてもらう)	電車	バス	車いす・電動車いす(カート)	歩行器・シルバーカー	タクシー	障害福祉サービス等の移送サービス	その他	無回答
身体障害	170	55.3	21.2	—	78.2	41.8	31.2	26.5	0.6	8.8	2.4	6.5	2.4
知的障害	370	79.7	25.7	—	75.1	52.2	43.8	8.6	—	12.4	6.2	1.6	0.8
精神障害	16	62.5	12.5	—	68.8	62.5	37.5	25.0	—	18.8	—	—	—
発達障害	266	85.3	34.2	—	71.4	62.8	47.0	3.8	—	13.5	5.6	1.9	0.8
高次脳機能障害	3	66.7	33.3	—	66.7	66.7	33.3	—	—	—	33.3	—	—
難病	55	58.2	25.5	—	72.7	45.5	34.5	30.9	—	9.1	3.6	5.5	1.8
その他	25	60.0	28.0	—	84.0	36.0	20.0	16.0	—	12.0	12.0	—	—

問 40. 外出のとき、困ることがありますか。ここでは、特に市内のことについて教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「障害や症状が理解されにくい」の割合が 36.1%と最も高く、次いで「人と話すのがむずかしい」の割合が 30.9%、「歩道が少ない・狭い」の割合が 28.0%となっています。



障害児

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、発達障害で「障害や症状が理解されにくい」の割合が高くなっています。

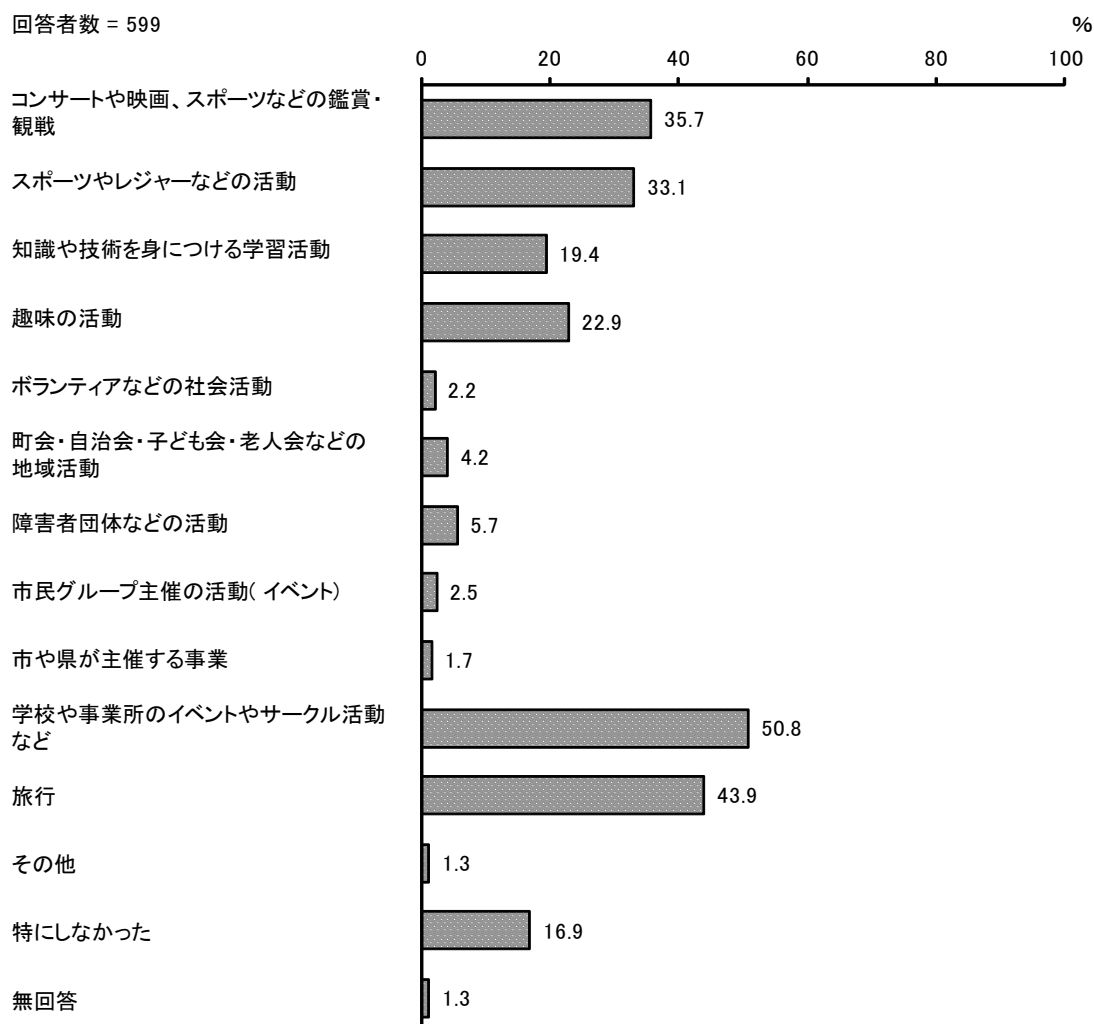
単位：％

区分	回答者数 (件)	電車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	歩道が少ない・狭い	外出先の建物などの設備が不便 (通路、トイレ、エレベーターなど)	介助してくれる人がいない	障害や症状が理解されにくい	人と話すのがむずかしい	道に迷う	乗車券の購入・料金の支払い	その他	特に不便や困ることはない	わからない	無回答
身体障害	170	27.1	37.1	37.1	30.0	6.5	28.2	15.3	8.2	15.3	9.4	17.6	8.8	5.9
知的障害	370	16.2	15.9	30.3	17.6	7.6	40.5	36.5	19.5	27.3	5.7	11.9	9.7	4.6
精神障害	16	18.8	18.8	31.3	25.0	12.5	37.5	12.5	18.8	25.0	6.3	12.5	12.5	6.3
発達障害	266	12.8	9.0	28.2	13.2	6.4	48.9	38.3	21.4	28.6	4.9	12.4	9.0	3.8
高次脳機能障害	3	—	33.3	33.3	—	—	33.3	33.3	66.7	66.7	—	—	—	—
難病	55	27.3	32.7	38.2	34.5	12.7	30.9	9.1	9.1	10.9	9.1	16.4	9.1	9.1
その他	25	24.0	28.0	32.0	28.0	4.0	56.0	36.0	16.0	24.0	8.0	12.0	8.0	4.0

(10) 地域活動や文化・スポーツ活動、交流などについて

問 41. この1年間に、あなたは趣味や学習、スポーツなどの活動をしましたか。
(あてはまるものすべてに○)

「学校や事業所のイベントやサークル活動など」の割合が50.8%と最も高く、次いで「旅行」の割合が43.9%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・観戦」の割合が35.7%となっています。



障害児

【障害別】

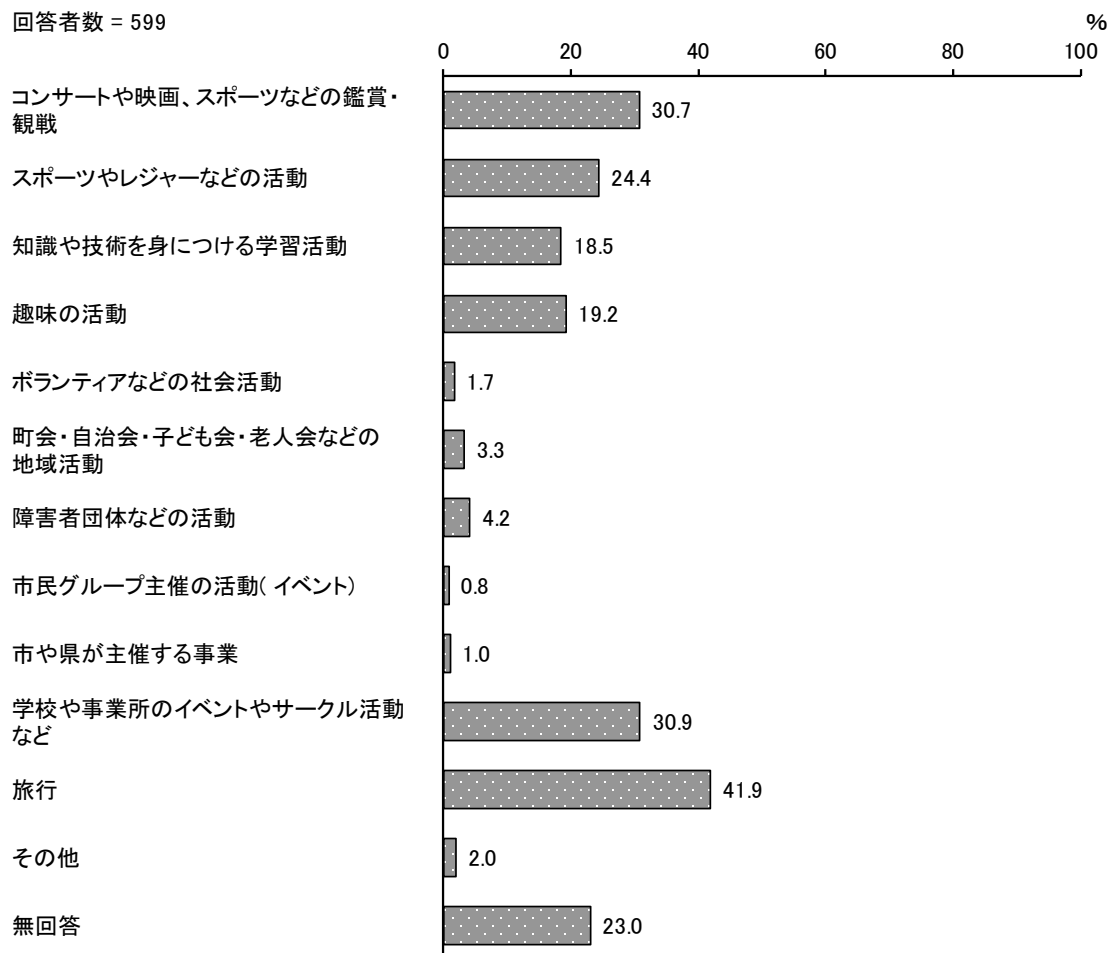
障害別でみると、他に比べ、精神障害で「障害者団体などの活動」「学校や事業所のイベントやサークル活動など」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	観戦 コンサートや映画、 スポーツなどの鑑賞・	スポーツやレジャー などの活動	知識や技術を身につける 学習活動	趣味の活動	ボランティアなどの 社会活動	町会・自治会・子ども会・ 老人会などの 地域活動	障害者団体などの活動	市民グループ主催の活動 (イベント)	市や県が主催する事業	学校や事業所のイベントや サークル活動 など	旅行	その他	特にしなかった	無回答
身体障害	170	35.9	28.2	15.9	18.8	2.9	2.9	2.9	3.5	2.4	50.0	45.3	1.2	20.6	1.8
知的障害	370	32.4	33.2	17.3	19.5	1.1	4.1	7.8	2.7	1.4	54.1	42.7	0.8	16.2	1.4
精神障害	16	43.8	37.5	12.5	18.8	—	—	12.5	—	—	62.5	43.8	6.3	25.0	—
発達障害	266	31.6	34.2	20.7	24.8	2.3	4.1	5.6	1.5	1.5	51.1	43.2	1.5	17.7	0.8
高次脳機能 障害	3	66.7	—	—	33.3	—	—	—	—	—	66.7	33.3	—	—	—
難病	55	38.2	36.4	16.4	14.5	1.8	3.6	3.6	5.5	1.8	47.3	43.6	1.8	20.0	1.8
その他	25	8.0	16.0	8.0	12.0	4.0	—	4.0	4.0	—	48.0	40.0	—	32.0	—

問 42. 今後はどのような活動をしたいと思いますか。現在から引き続き行う場合も含めてお答えください。(3つまでに○)

「旅行」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「学校や事業所のイベントやサークル活動など」の割合が 30.9%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・観戦」の割合が 30.7%となっています。



障害児

【障害別】

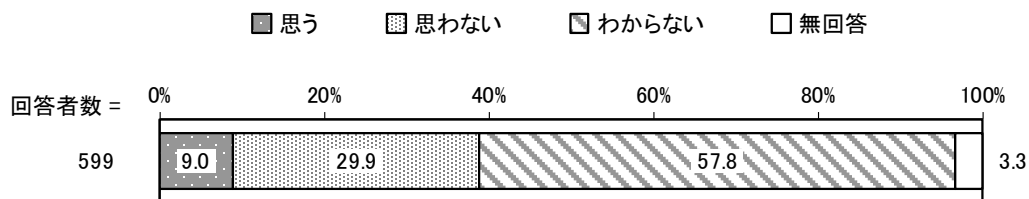
障害別で見ると、他に比べ、身体障害で「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・観戦」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・観戦	スポーツやレジャーなどの活動	知識や技術を身につける学習活動	趣味の活動	ボランティアなどの社会活動	町会・自治会・子ども会・老人会などの地域活動	障害者団体などの活動	市民グループ主催の活動(イベント)	市や県が主催する事業	学校や事業所のイベントやサークル活動など	旅行	その他	無回答
身体障害	170	34.7	18.2	13.5	17.6	1.2	3.5	4.1	0.6	1.2	32.4	47.6	2.4	24.1
知的障害	370	28.4	26.2	18.4	17.0	1.1	3.2	5.4	1.1	1.1	33.8	41.1	2.2	23.2
精神障害	16	31.3	25.0	18.8	6.3	—	6.3	—	—	6.3	31.3	43.8	—	31.3
発達障害	266	29.7	26.7	22.2	22.6	1.9	3.8	4.5	0.8	1.5	33.8	42.1	0.8	19.9
高次脳機能障害	3	100.0	33.3	—	33.3	—	—	—	—	—	66.7	33.3	—	—
難病	55	21.8	18.2	5.5	7.3	3.6	7.3	3.6	1.8	3.6	32.7	41.8	7.3	32.7
その他	25	16.0	20.0	20.0	24.0	4.0	4.0	20.0	—	—	40.0	44.0	8.0	12.0

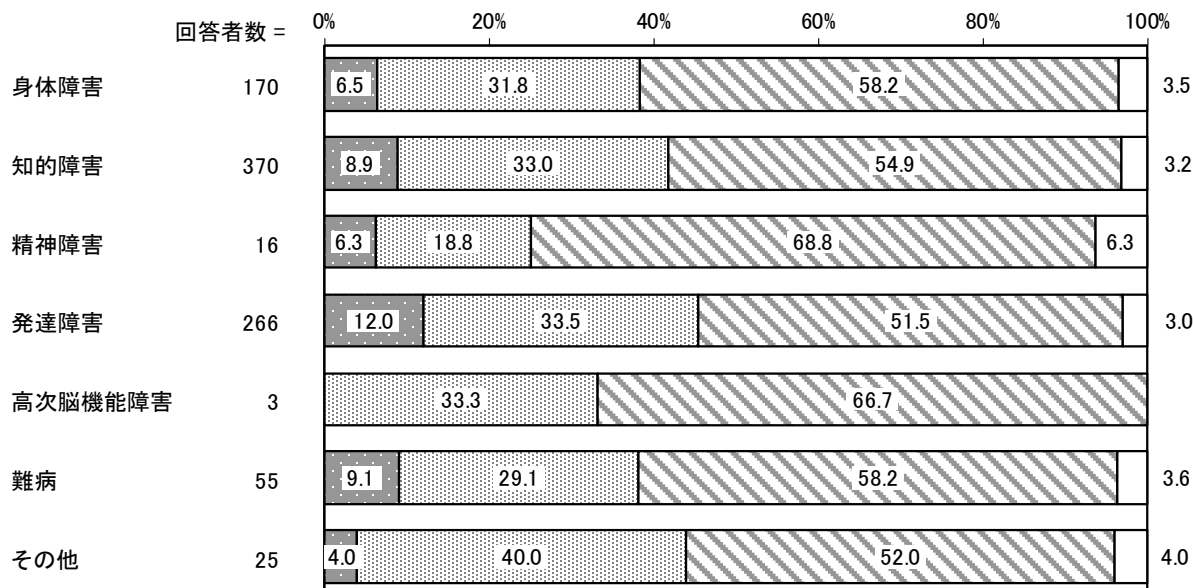
問 43 障害のある人が気軽に外出したり、地域の行事に参加できるなど、松戸市は「障害のある人にとって社会参加しやすいまち」だと思いますか。(1つに○)

「思わない」の割合が29.9%、「思う」の割合が9.0%となっています。



【障害別】

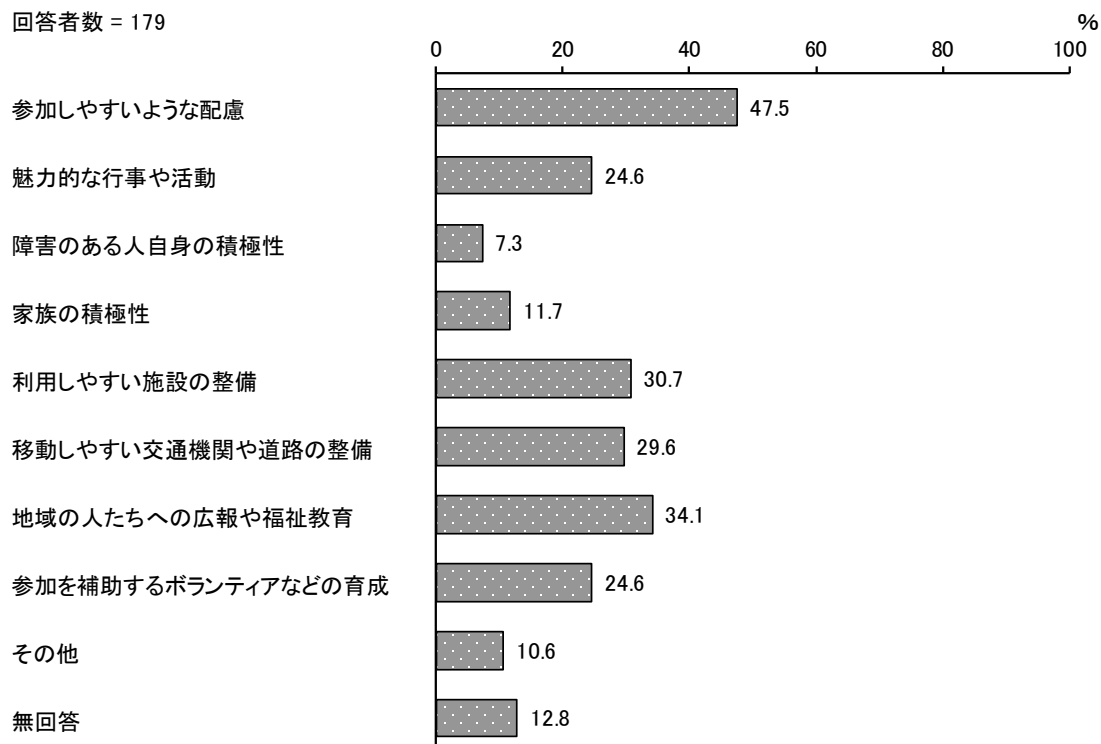
障害別でみると、他に比べ、発達障害で「思う」の割合が高くなっています。



障害児

問 44 「障害のある人にとって社会参加しやすいまち」だと思わない理由として、充実していないことや不足していることは何ですか。（3つまでに○）

「参加しやすいような配慮」の割合が47.5%と最も高く、次いで「地域の人たちへの広報や福祉教育」の割合が34.1%、「利用しやすい施設の整備」の割合が30.7%となっています。



【障害別】

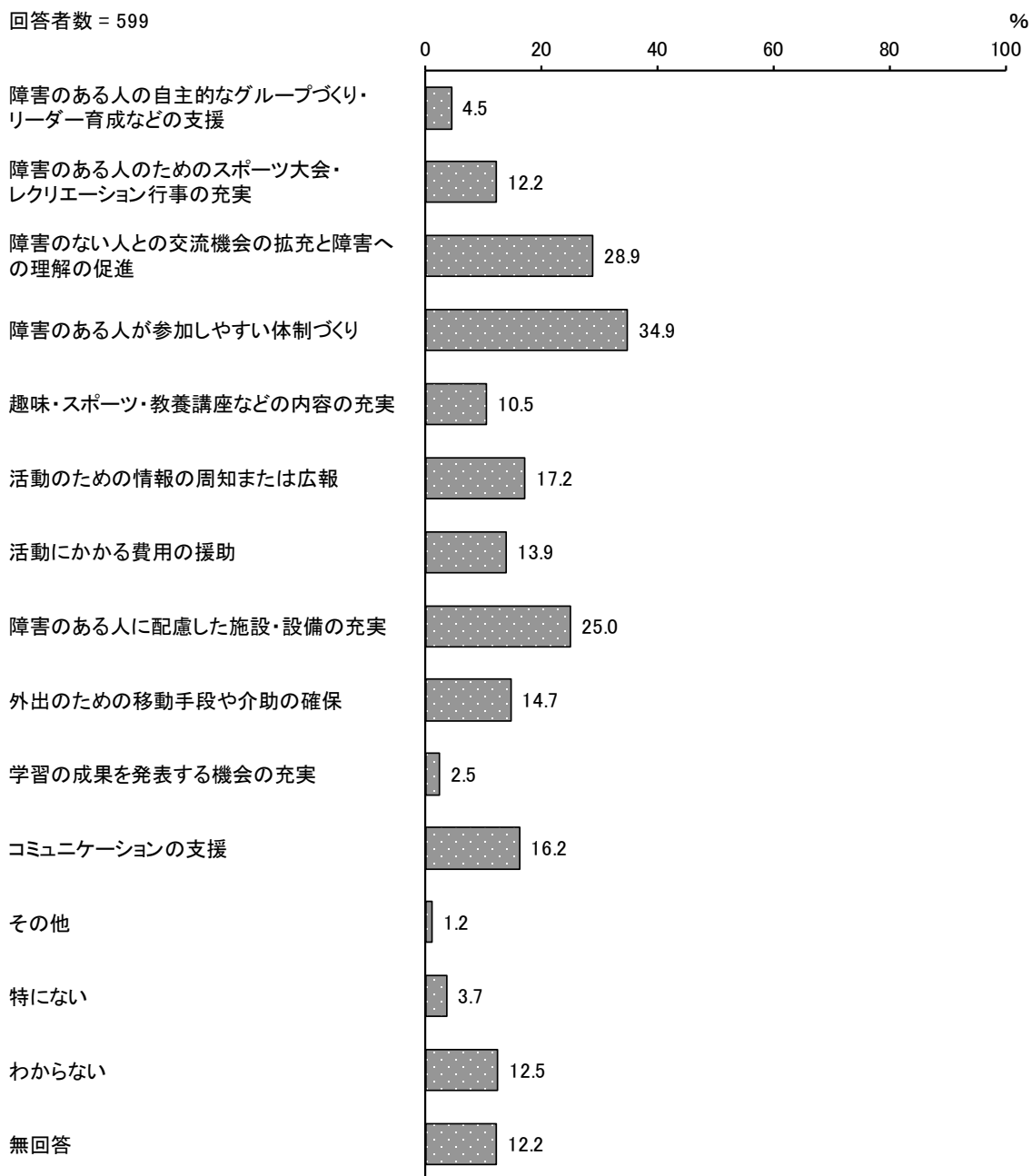
障害別でみると、他に比べ、発達障害、その他で「魅力的な行事や活動」の割合が高くなっています。また、難病で「移動しやすい交通機関や道路の整備」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	参加しやすいような配慮	魅力的な行事や活動	障害のある人自身の積極性	家族の積極性	利用しやすい施設の整備	移動しやすい交通機関や道路の整備	地域の人たちへの広報や福祉教育	参加を補助するボランティアなどの育成	その他	無回答
身体障害	54	46.3	16.7	3.7	7.4	35.2	42.6	25.9	20.4	13.0	16.7
知的障害	122	51.6	25.4	7.4	13.1	28.7	30.3	32.0	28.7	8.2	12.3
精神障害	3	33.3	66.7	—	—	66.7	33.3	—	33.3	—	—
発達障害	89	43.8	30.3	4.5	12.4	30.3	22.5	36.0	24.7	9.0	15.7
高次脳機能障害	1	—	100.0	—	—	100.0	—	100.0	—	—	—
難病	16	25.0	18.8	6.3	—	50.0	50.0	31.3	31.3	6.3	18.8
その他	10	30.0	40.0	—	—	60.0	40.0	30.0	30.0	—	20.0

問 45. 障害のある人の文化・スポーツ活動などをより一層活発にするために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

「障害のある人が参加しやすい体制づくり」の割合が34.9%と最も高く、次いで「障害のない人との交流機会の拡充と障害への理解の促進」の割合が28.9%、「障害のある人に配慮した施設・設備の充実」の割合が25.0%となっています。



障害児

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病で「外出のための移動手段や介助の確保」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	リーダー育成などの支援	障害のある人の自主的なグループづくり・レクリエーション行事の充実	障害のある人のためのスポーツ大会・への理解の促進	障害のない人との交流機会の拡充と障害	障害のある人が参加しやすい体制づくり	趣味・スポーツ・教養講座などの内容の充実	活動のための情報の周知または広報	活動にかかる費用の援助	障害のある人に配慮した施設・設備の充実	外出のための移動手段や介助の確保	学習の成果を発表する機会の充実	コミュニケーションの支援	その他	特にない	わからない	無回答
身体障害	170	5.3	12.4	26.5	38.2	8.8	18.2	12.4	34.7	22.9	—	7.6	1.2	4.1	9.4	12.4	
知的障害	370	4.1	14.3	29.5	34.3	11.4	15.7	15.1	23.5	14.3	3.2	15.9	0.8	2.2	11.9	14.3	
精神障害	16	6.3	12.5	25.0	37.5	12.5	12.5	18.8	37.5	25.0	—	18.8	—	—	6.3	12.5	
発達障害	266	3.8	10.9	29.7	35.7	10.5	17.3	15.0	21.8	14.3	3.4	21.8	0.8	2.3	10.9	15.0	
高次脳機能障害	3	33.3	33.3	33.3	—	33.3	100.0	—	—	33.3	33.3	—	—	—	—	—	
難病	55	9.1	12.7	29.1	30.9	9.1	10.9	10.9	32.7	30.9	3.6	3.6	1.8	5.5	12.7	9.1	
その他	25	4.0	12.0	20.0	28.0	20.0	20.0	20.0	24.0	16.0	4.0	12.0	4.0	—	20.0	8.0	

(11) 障害のある人への権利擁護について

問 46. あなたは、障害があることが原因で、日常生活の中で下記のような人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特にない」の割合が 64.8%と最も高くなっています。

回答者数 = 599



障害児

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて低い」「電車や施設の利用を断られた」「賃貸物件への入居や移転のとき、障害を理由に断られた」の割合が高くなっています。

単位：％

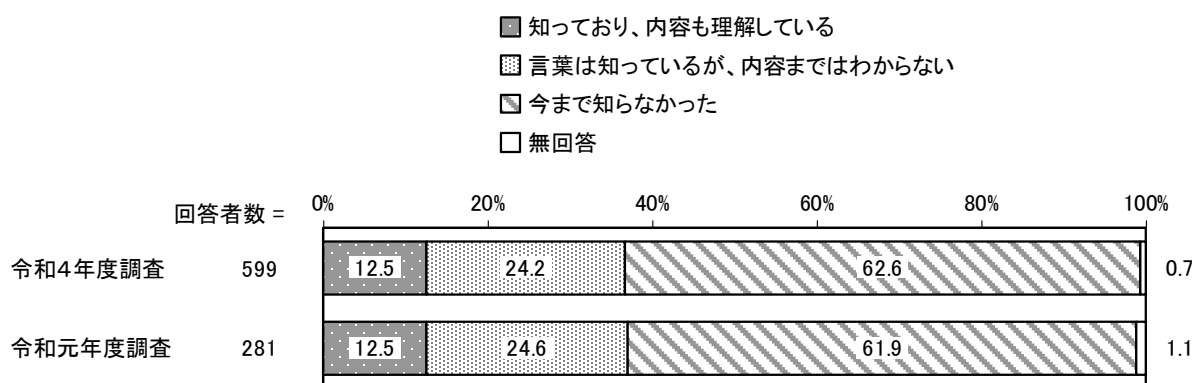
区分	回答者数(件)	希望した学校に入学できなかった	希望する仕事に就けなかった	職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて低い	障害を理由に退職を迫られた	電車や施設の利用を断られた	親族の冠婚葬祭への出席を断られた、開催を知らされなかった	家族や施設の人から暴力による虐待を受けた	家族が退院を許可しなかった	家族が治療・受診させなかった
身体障害	170	11.8	1.2	0.6	—	4.1	1.8	1.2	1.2	—
知的障害	370	8.1	0.8	0.5	0.3	3.0	2.4	1.9	0.5	—
精神障害	16	—	6.3	12.5	6.3	12.5	6.3	6.3	—	—
発達障害	266	8.3	0.8	1.1	0.8	3.8	2.6	3.0	0.4	—
高次脳機能障害	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
難病	55	10.9	1.8	1.8	1.8	3.6	3.6	3.6	3.6	—
その他	25	4.0	—	—	—	4.0	8.0	4.0	4.0	—

区分	周りの人や施設の人から性的な嫌がらせを受けた	知らない間に預金が引き出されるなど、自分の財産が侵害された	賃貸物件への入居や移転のとき、障害を理由に断られた	食堂やホテルなどで利用を断られた	医療機関から受診や治療を断られた	歯科医療機関から受診や治療を断られた	その他	特にない	無回答
身体障害	—	—	0.6	2.4	7.6	2.9	14.7	61.2	4.7
知的障害	0.8	0.3	1.4	2.2	8.4	5.9	13.0	60.0	4.6
精神障害	—	6.3	12.5	—	12.5	—	6.3	56.3	6.3
発達障害	0.8	0.4	1.5	1.9	10.2	5.6	12.4	60.9	3.4
高次脳機能障害	—	—	—	—	—	—	33.3	66.7	—
難病	—	1.8	3.6	3.6	12.7	1.8	14.5	56.4	3.6
その他	—	—	—	—	—	4.0	20.0	72.0	—

問 47. 平成 28 年 4 月 1 日から差別解消法」が施行されました。この法律では、国や市区町村といった行政機関や、会社やお店などの民間事業者が、「障害を理由とする差別」をなくし、すべての人が障害のあるなしにかかわらず、お互いに人格と個性を尊重しあいながら共に生きる社会をつくることを目指しています。あなたは、「障害者差別解消法」を知っていますか。(1つに○)

「今まで知らなかった」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「言葉は知っているが、内容まではわからない」の割合が 24.2%、「知っており、内容も理解している」の割合が 12.5%となっています。

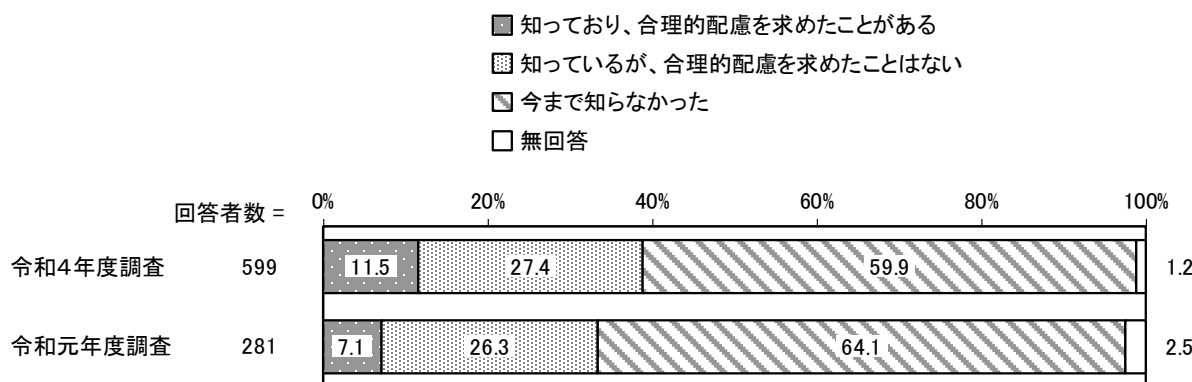
令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



問 48. 障害者差別解消法では、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること(合理的配慮の提供)を求めています。あなたは、合理的配慮を知っていますか。また、合理的配慮を求めたことがありますか。(1つに○)

「今まで知らなかった」の割合が 59.9%と最も高く、次いで「知っているが、合理的配慮を求めたことはない」の割合が 27.4%、「知っており、合理的配慮を求めたことがある」の割合が 11.5%となっています。

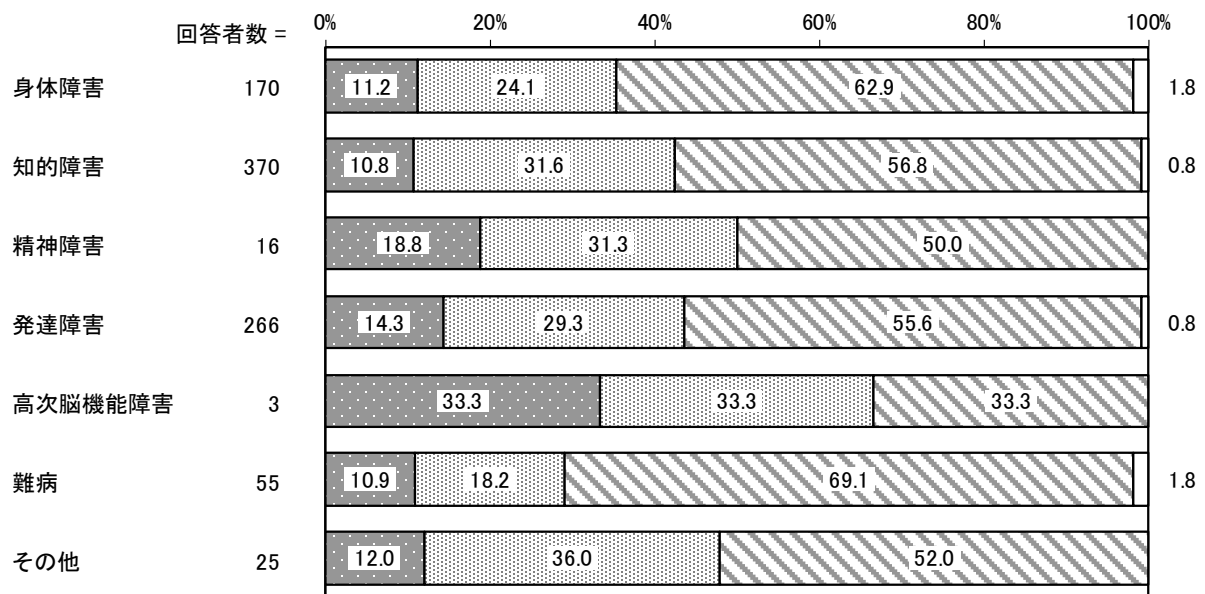
令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



障害児

【障害別】

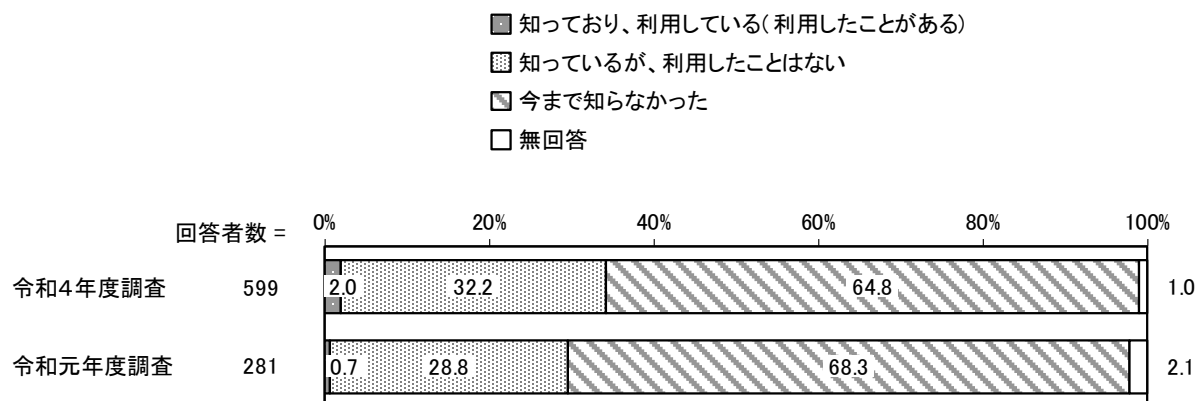
障害別で見ると、他に比べ、難病で「今まで知らなかった」の割合が高くなっています。



問 49. 松戸市では、障害者虐待防止・障害者差別相談センターを設置し、障害のある人に対する虐待や差別の相談を受け付けています。あなたは、通報・相談窓口※について知っていますか。(1つに○)

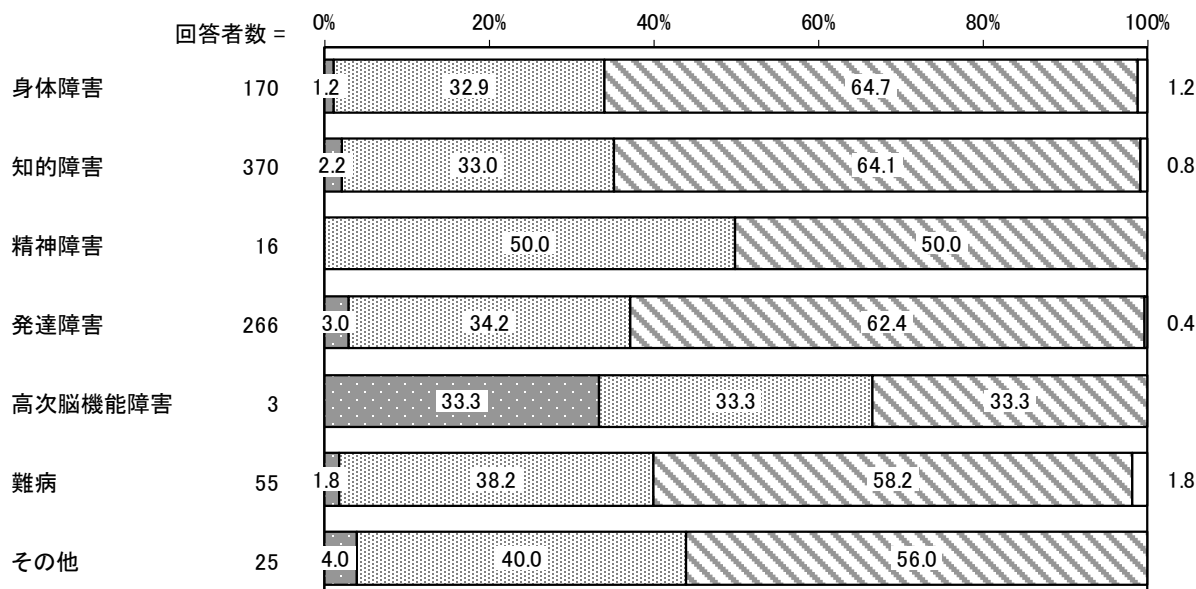
「今まで知らなかった」の割合が64.8%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」の割合が32.2%となっています。

令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「知っているが、利用したことはない」の割合が高くなっています。

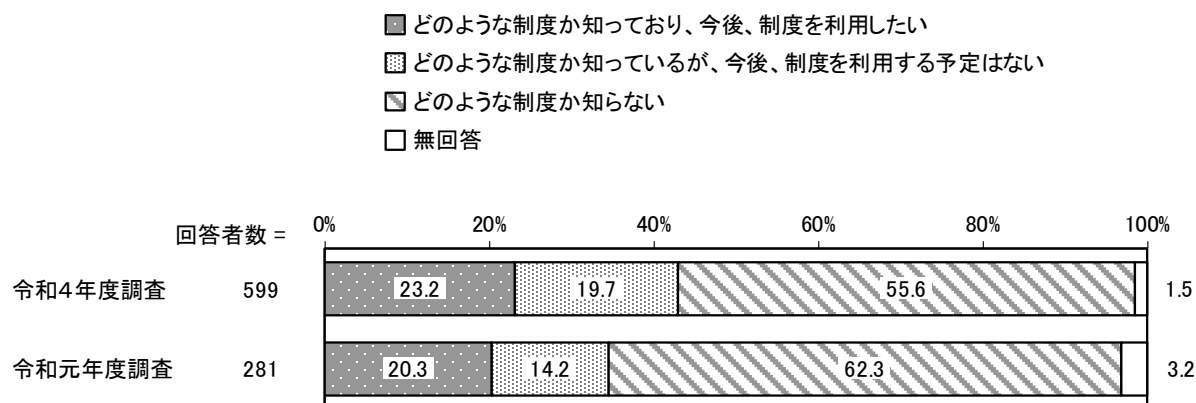


障害児

問 50. 障害や加齢などにより判断能力が十分でない人の権利を守る「成年後見制度」を知っていますか。また、利用したいですか。(1つに○)

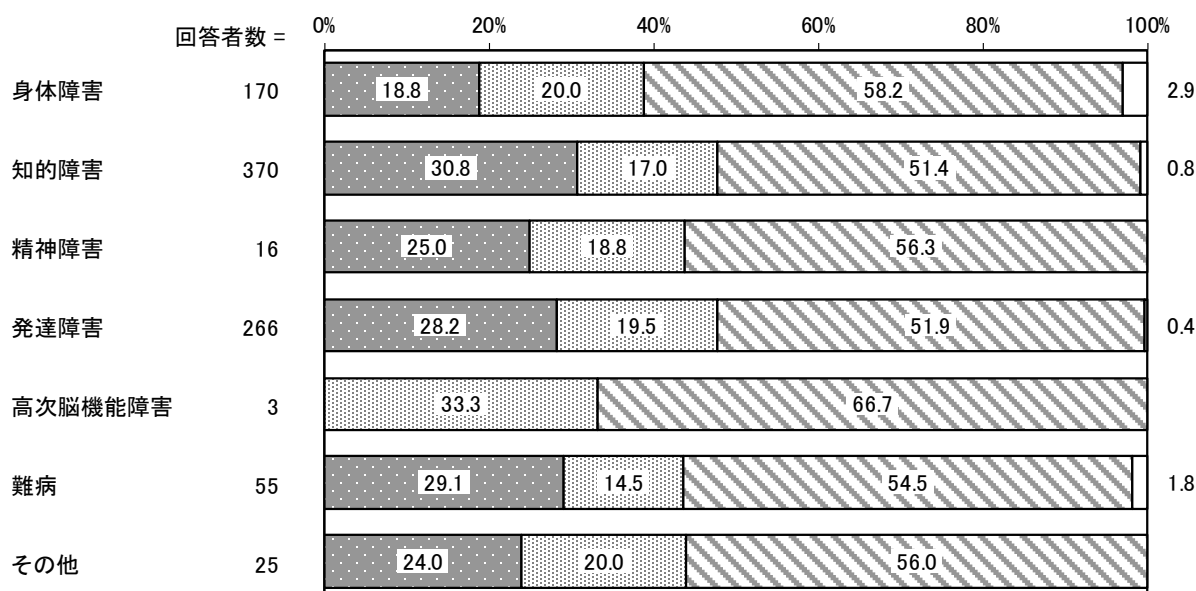
「どのような制度か知らない」の割合が55.6%と最も高く、次いで「どのような制度か知っており、今後、制度を利用したい」の割合が23.2%、「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」の割合が19.7%となっています。

令和元年度と比較すると、「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」の割合が増加しています。一方、「どのような制度か知らない」の割合が減少しています。



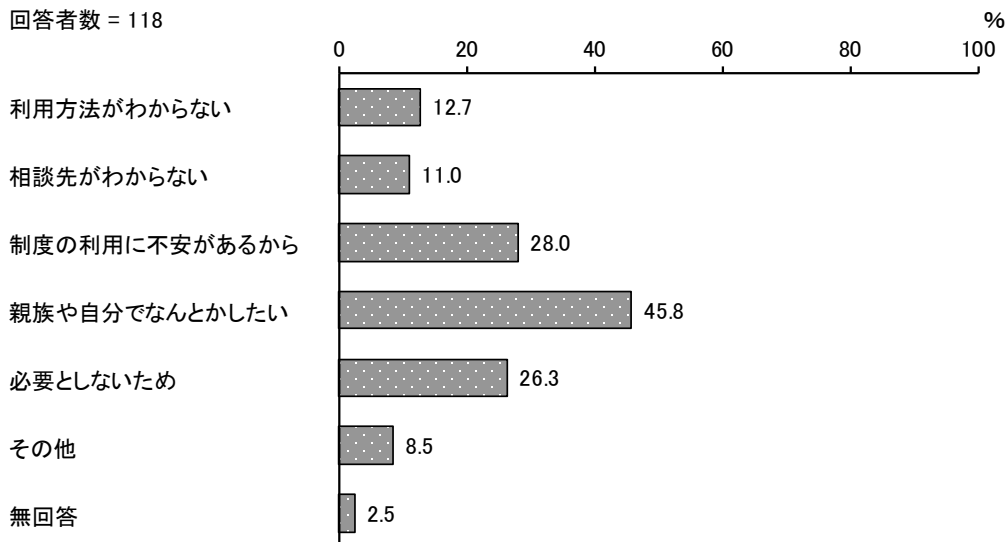
【障害別】

障害別でみると、他に比べ、知的障害、難病で「どのような制度か知っており、今後、制度を利用したい」の割合が高くなっています。



問 51. 利用しない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

「親族や自分でなんとかしたい」の割合が45.8%と最も高く、次いで「制度の利用に不安があるから」の割合が28.0%、「必要としないため」の割合が26.3%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「必要としないため」の割合が高くなっています。

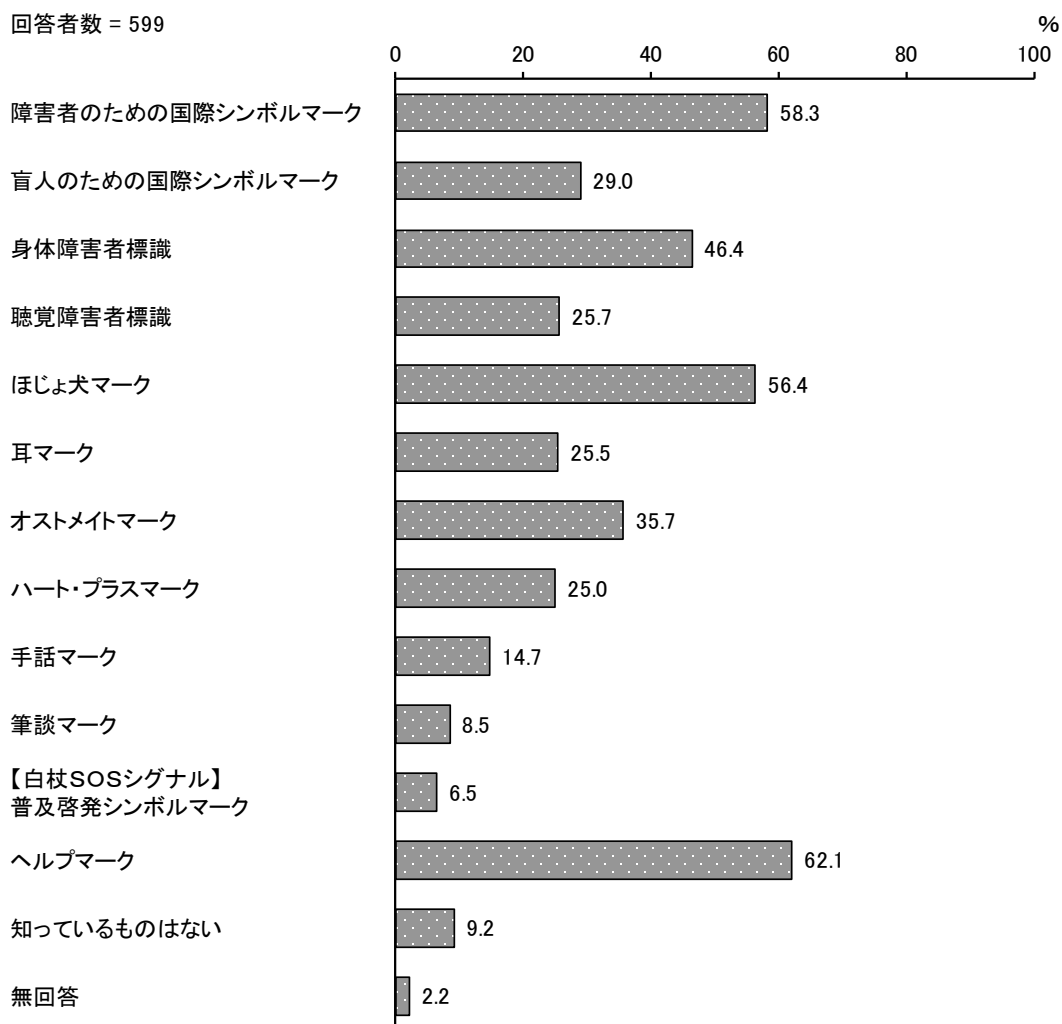
単位：%

区分	回答者数 (件)	利用方法がわからない	相談先がわからない	制度の利用に不安があるから	親族や自分でなんとかしたい	必要としないため	その他	無回答
身体障害	34	8.8	11.8	17.6	50.0	32.4	5.9	2.9
知的障害	63	15.9	12.7	31.7	54.0	12.7	12.7	3.2
精神障害	3	—	—	33.3	66.7	—	—	—
発達障害	52	13.5	17.3	34.6	55.8	21.2	3.8	3.8
高次脳機能障害	1	—	—	—	100.0	—	—	—
難病	8	12.5	—	12.5	50.0	37.5	12.5	—
その他	5	20.0	20.0	20.0	60.0	20.0	20.0	—

障害児

問 52 障害のある人に関するマーク・標識で知っているものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

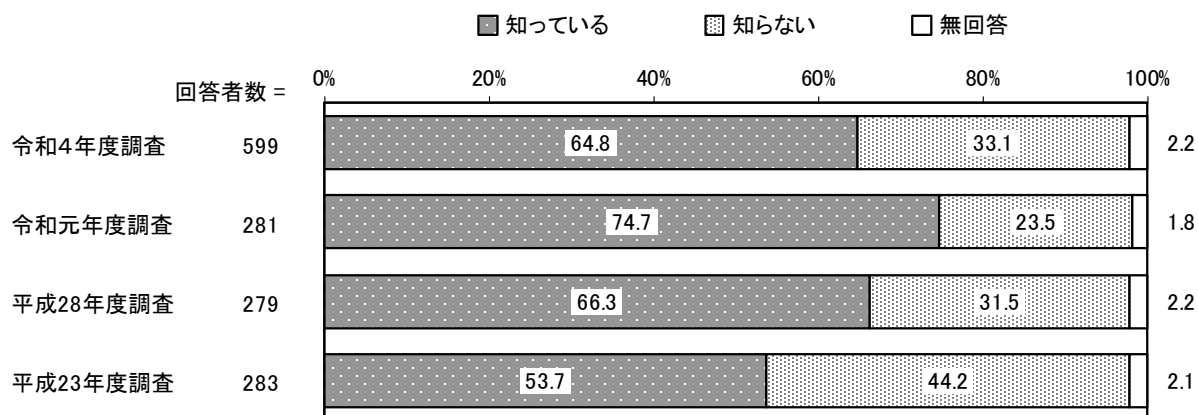
「ヘルプマーク」の割合が 62.1%と最も高く、次いで「障害者のための国際シンボルマーク」の割合が 58.3%、「ほじょ犬マーク」の割合が 56.4%となっています。



(12) 防災対策について

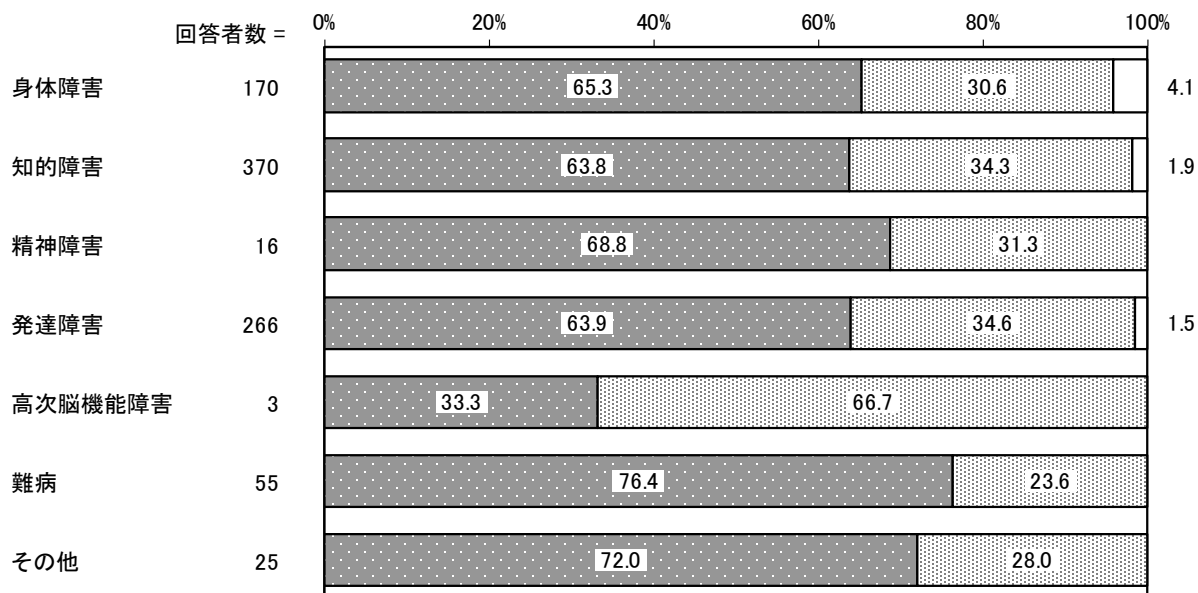
問 53. あなたは、災害時（火事や地震などのとき）の避難所・避難場所を知っていますか。（どちらかに○）

「知っている」の割合が64.8%、「知らない」の割合が33.1%となっています。
 令和元年度と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。一方、「知っている」の割合が減少しています。



【障害別】

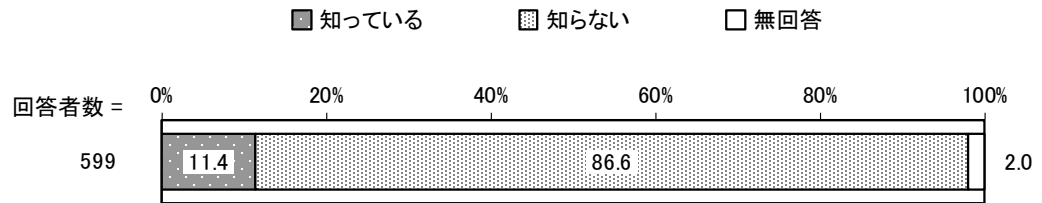
障害別でみると、他に比べ、難病、その他で「知っている」の割合が、知的障害、発達障害で「知らない」の割合が高くなっています。



障害児

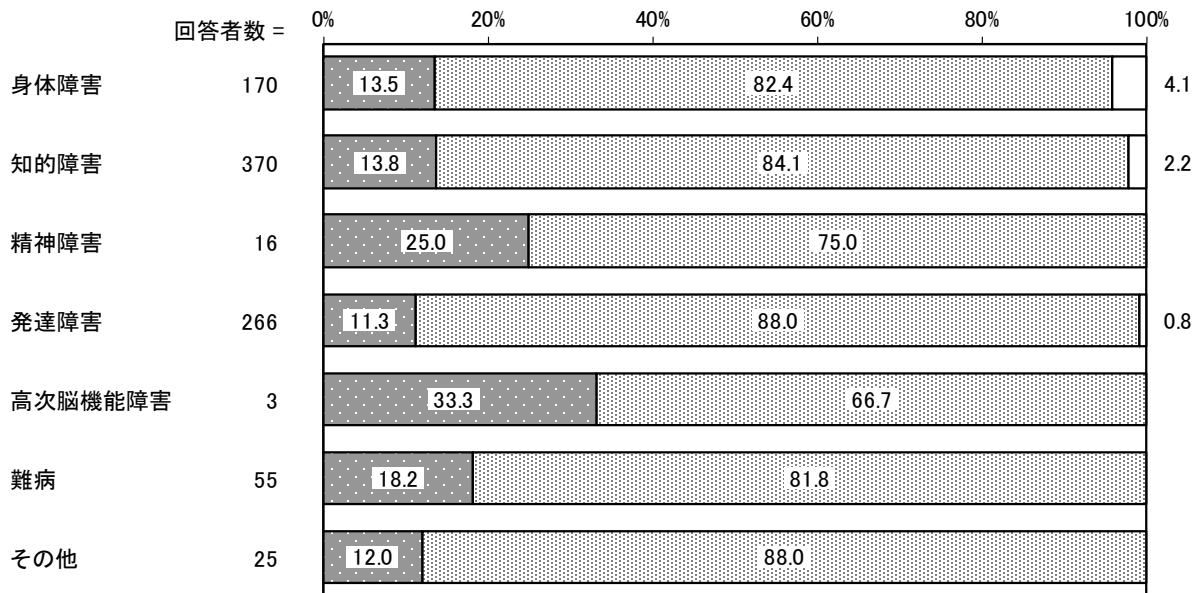
問 54. あなたは、福祉避難所の所在を知っていますか。(どちらかに○)

「知っている」の割合が 11.4%、「知らない」の割合が 86.6%となっています。



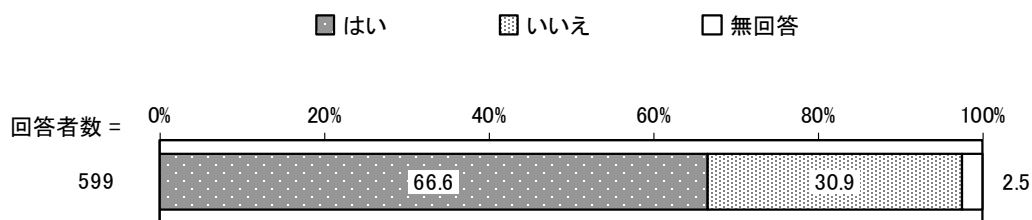
【障害別】

障害別でみると、他に比べ、発達障害、その他で「知らない」の割合が、精神障害で「知っている」の割合が高くなっています。



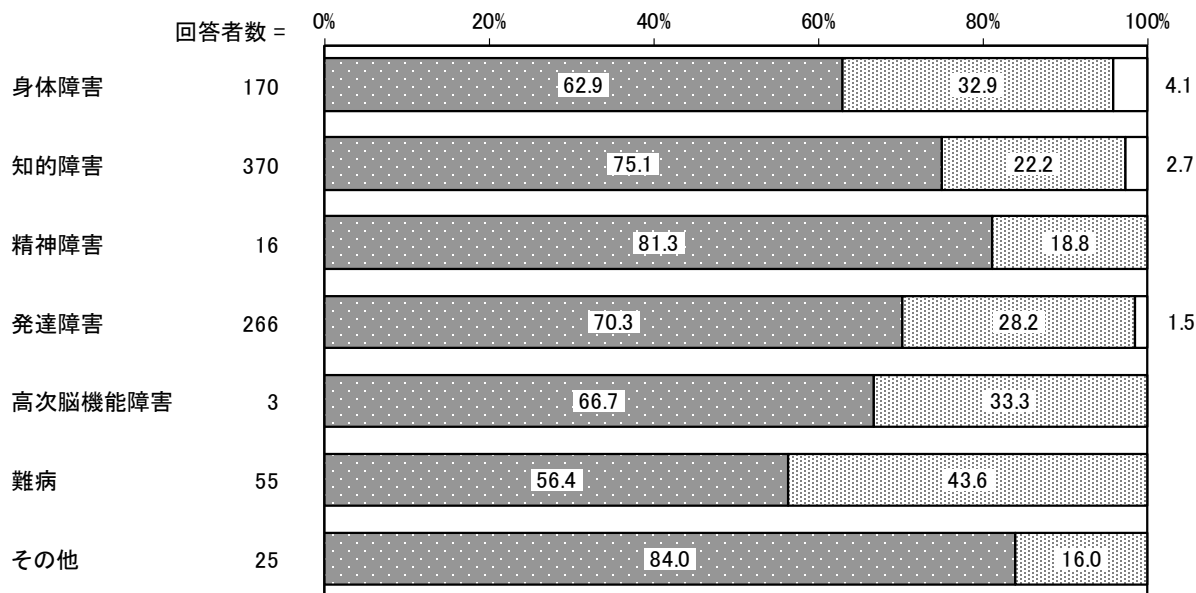
問 55. 避難するときに支援が必要ですか。(どちらかに○)

「はい」の割合が 66.6%、「いいえ」の割合が 30.9%となっています。



【障害別】

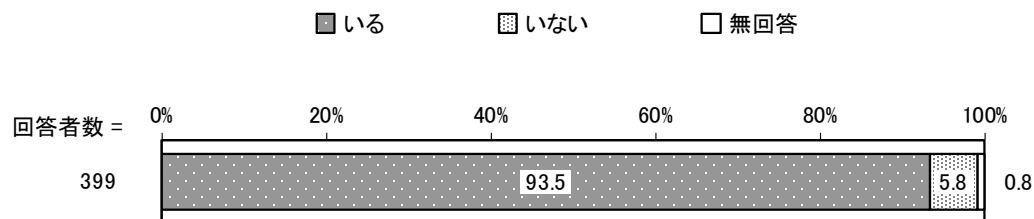
障害別でみると、他に比べ、精神障害、その他で「はい」の割合が、難病で「いいえ」の割合が高くなっています。



障害児

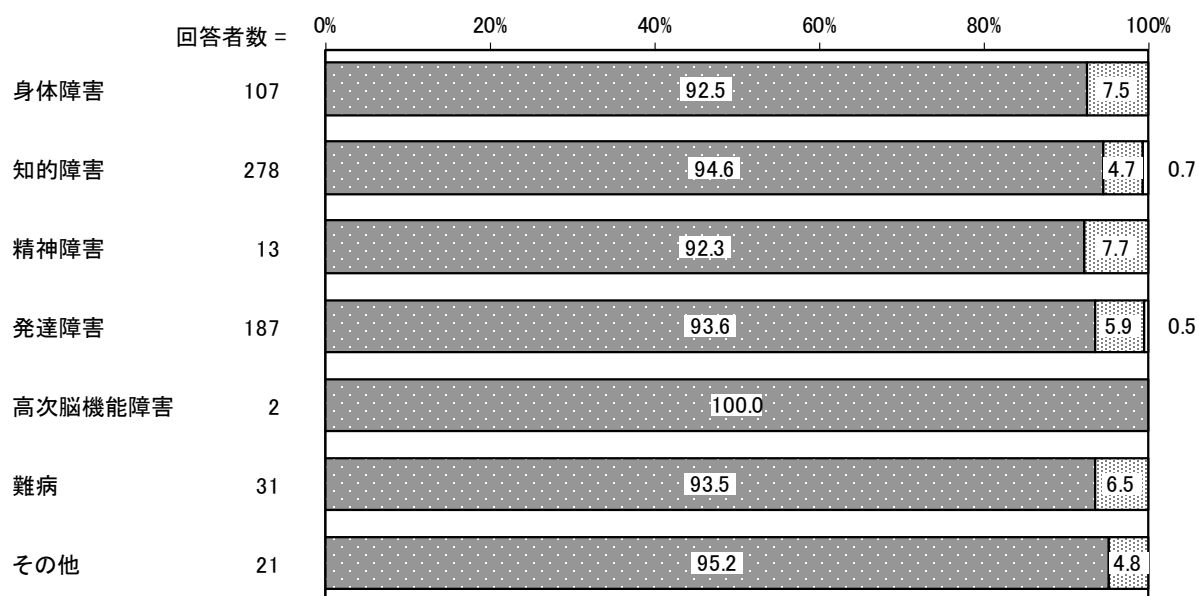
[昼間]

「いる」の割合が93.5%、「いない」の割合が5.8%となっています。



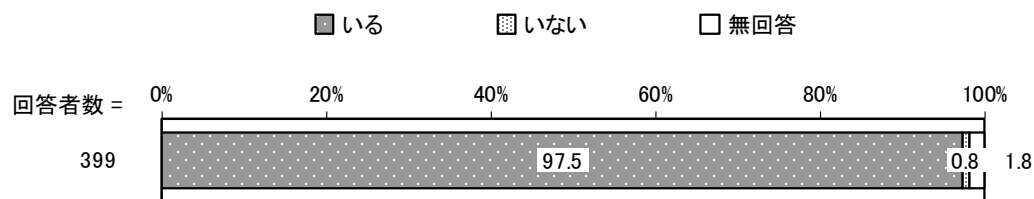
【障害別】

障害別でみると、大きな差異はみられません。



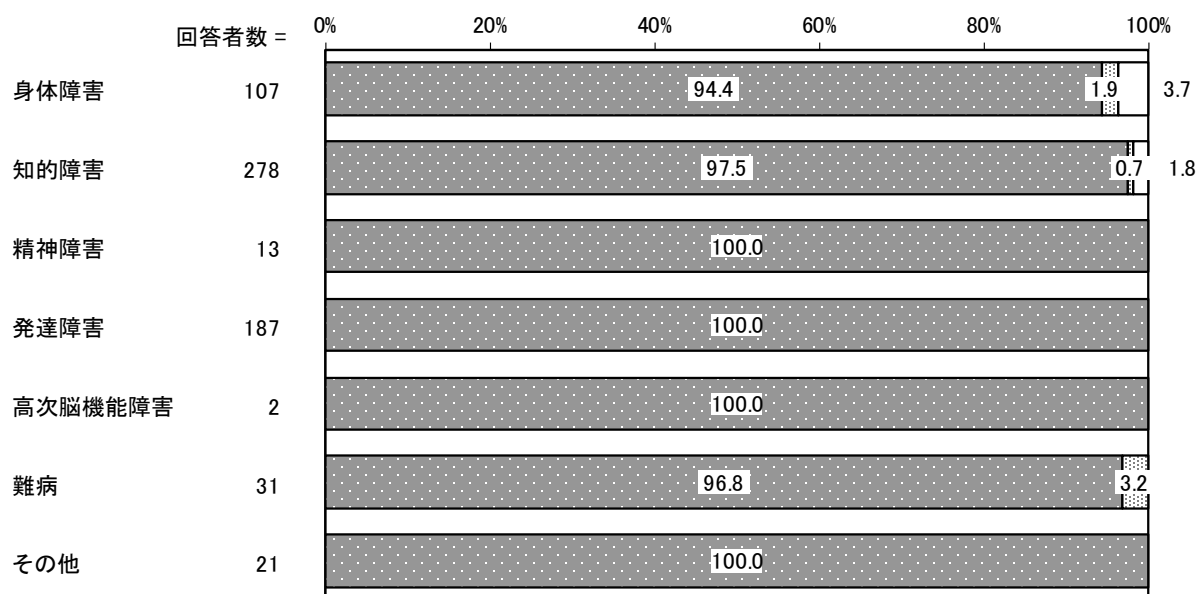
【夜間】

「いる」の割合が97.5%、「いない」の割合が0.8%となっています。



【障害別】

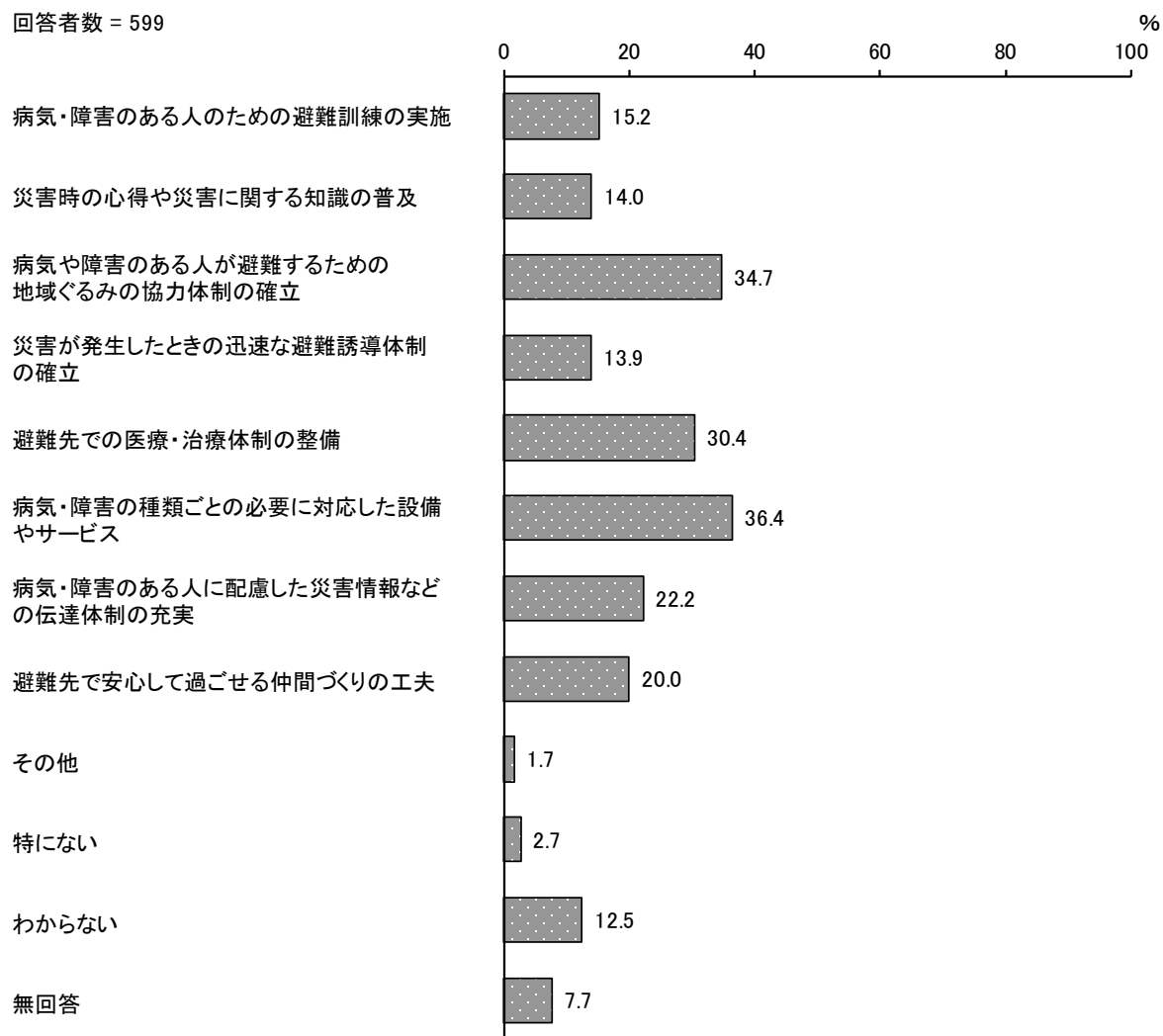
障害別で見ると、大きな差異はみられません。



障害児

問 57. あなたは、災害時に備えてどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。
(3つまでに○)

「病気・障害の種類ごとの必要に対応した設備やサービス」の割合が 36.4%と最も高く、次いで「病気や障害のある人が避難するための地域ぐるみの協力体制の確立」の割合が 34.7%、「避難先での医療・治療体制の整備」の割合が 30.4%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「病気・障害のある人のための避難訓練の実施」「災害時の心得や災害に関する知識の普及」の割合が、難病で「避難先での医療・治療体制の整備」の割合が高くなっています。また、身体障害で「病気・障害のある人に配慮した災害情報などの伝達体制の充実」の割合が高くなっています。

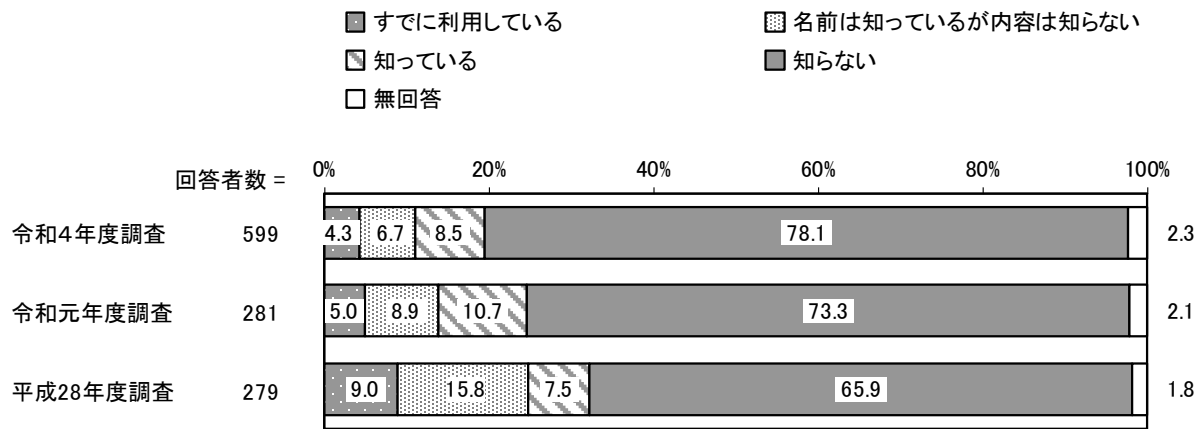
単位：%

区分	回答者数(件)	病気・障害のある人のための避難訓練の実施	災害時の心得や災害に関する知識の普及	病気や障害のある人が避難するための地域ぐるみの協力的体制の確立	災害が発生したときの迅速な避難誘導体制の確立	避難先での医療・治療体制の整備	病気・障害の種類ごとの必要に対応した設備やサービス	病気・障害のある人に配慮した災害情報などの伝達体制の充実	避難先で安心して過ごせる仲間づくりの工夫	その他	特になし	わからない	無回答
身体障害	170	12.9	9.4	35.3	13.5	44.1	45.9	27.6	14.1	2.9	2.4	6.5	7.1
知的障害	370	16.8	13.0	37.6	13.8	27.3	37.6	21.1	22.4	1.6	2.7	12.2	7.8
精神障害	16	25.0	25.0	37.5	12.5	37.5	50.0	18.8	31.3	—	—	6.3	—
発達障害	266	13.9	16.9	34.6	15.8	25.6	35.7	21.1	24.8	1.9	2.3	14.7	6.4
高次脳機能障害	3	100.0	—	66.7	33.3	33.3	33.3	—	33.3	—	—	—	—
難病	55	20.0	10.9	32.7	9.1	61.8	45.5	20.0	14.5	1.8	3.6	5.5	7.3
その他	25	20.0	16.0	44.0	—	40.0	44.0	12.0	12.0	—	—	12.0	16.0

障害児

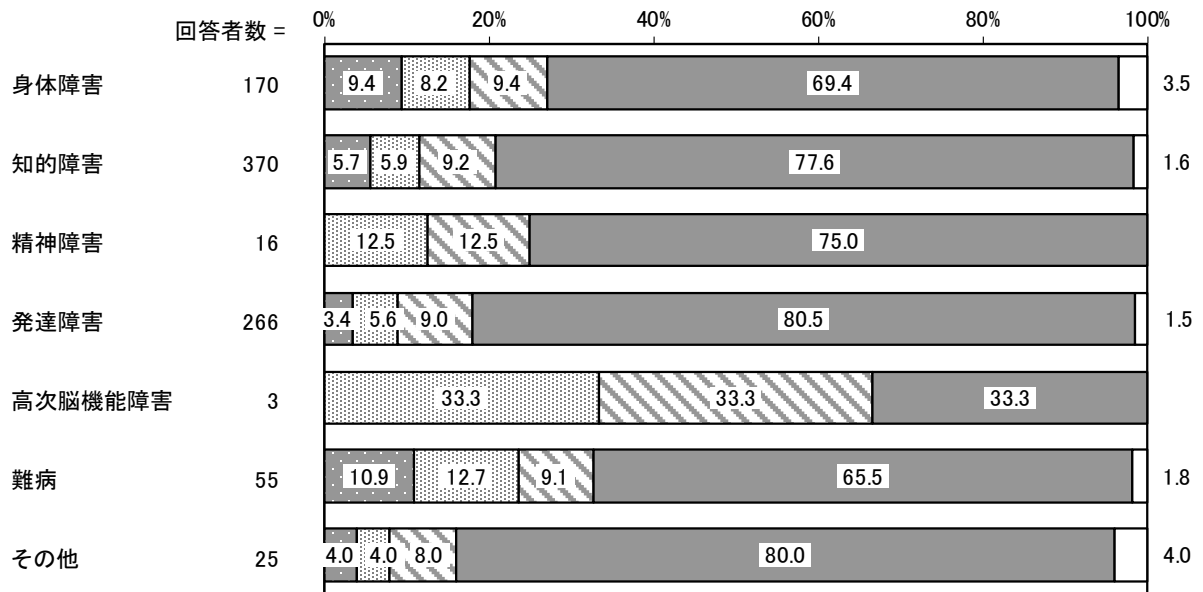
問 58. あなたは、避難行動要支援者避難支援制度を知っていますか。(1つに○)

「知らない」の割合が78.1%と最も高くなっています。
令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害別】

障害別で見ると、他に比べ、発達障害、その他で「知らない」の割合が高くなっています。

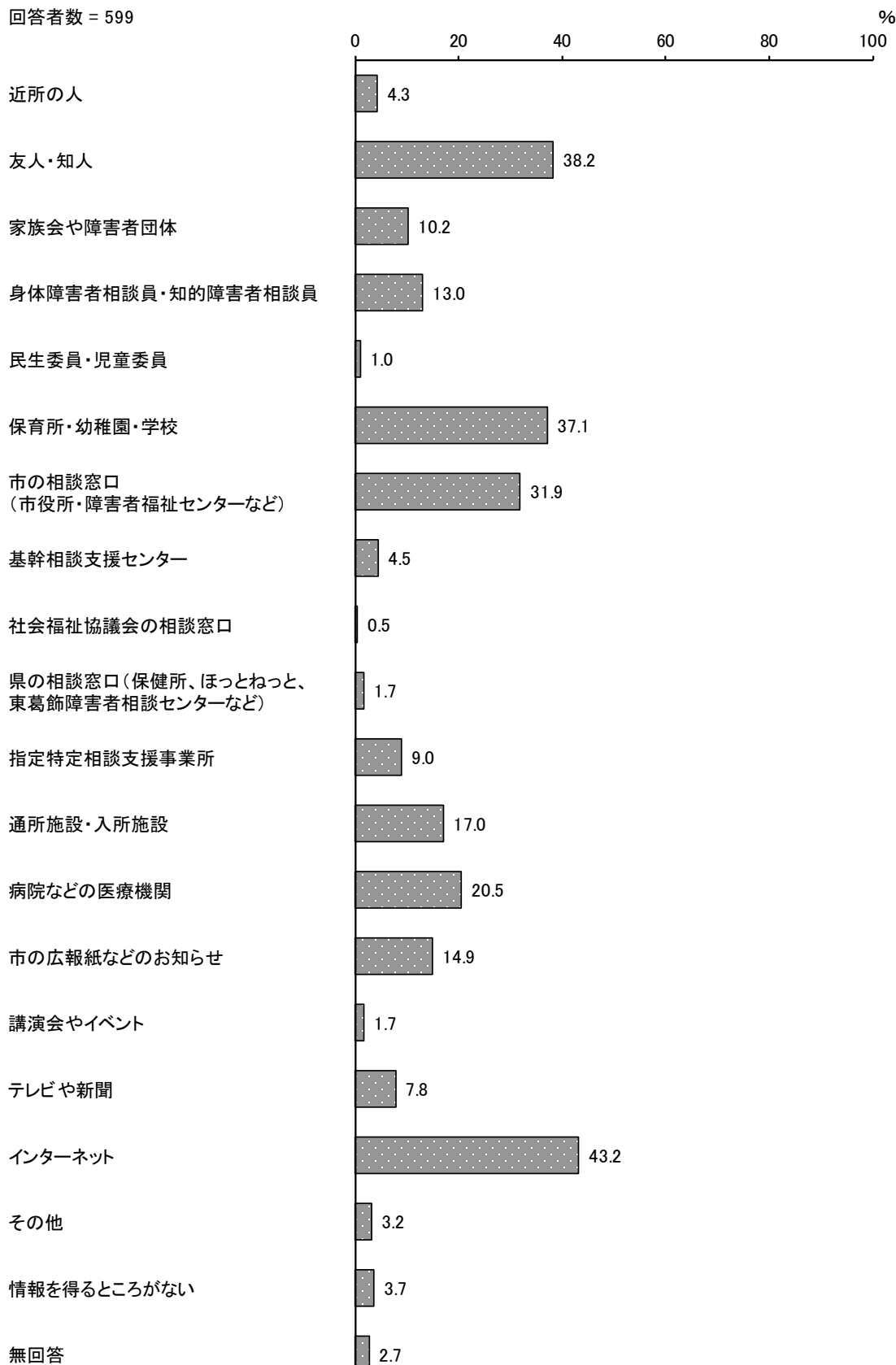


(13) 相談、情報提供や今後望まれる施策などについて

問 59. あなたやご家族の方は、福祉サービスに関し、必要な情報をどこで得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

「インターネット」の割合が43.2%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が38.2%、「保育所・幼稚園・学校」の割合が37.1%となっています。

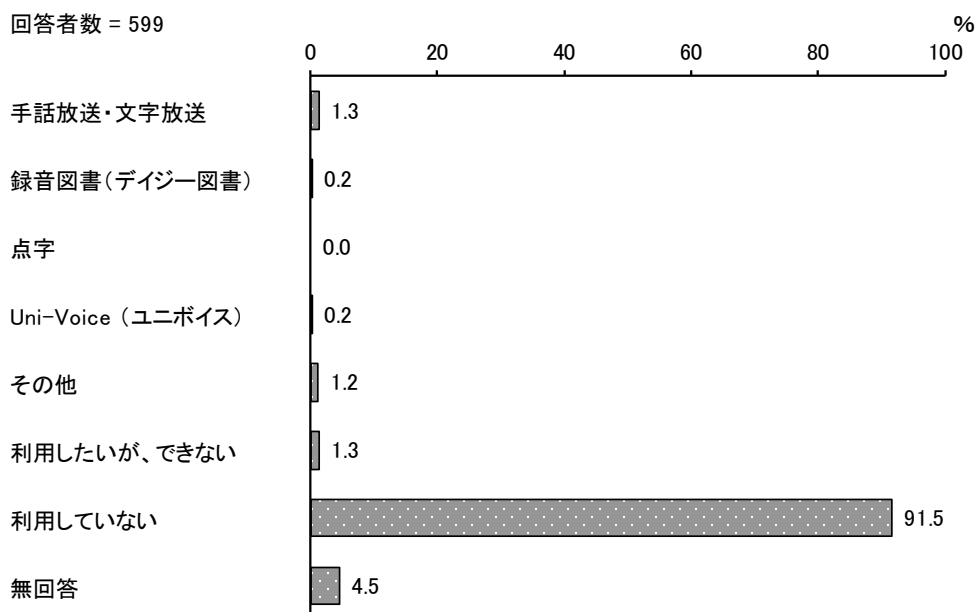
回答者数 = 599



障害児

問 60. あなたが障害福祉サービスに関し、必要な情報を得る際、利用している（したことがある）媒体・サービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

「利用していない」の割合が91.5%と最も高くなっています。



【障害別】

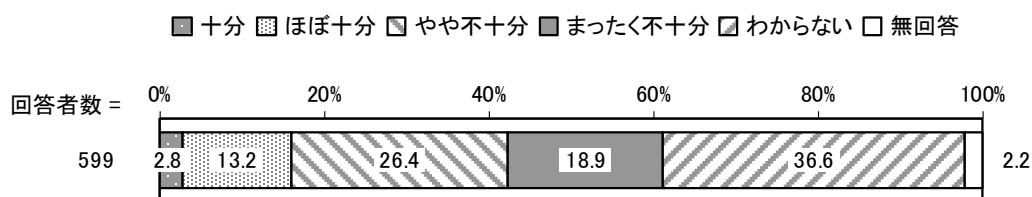
障害別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	手話放送・文字放送	録音図書(デージー図書)	点字	Uni-Voice (ユニボイス)	その他	利用したいが、できない	利用していない	無回答
身体障害	170	4.1	—	—	—	—	1.2	87.6	7.1
知的障害	370	0.3	0.3	—	0.3	1.4	1.9	91.6	4.6
精神障害	16	—	—	—	—	—	—	87.5	12.5
発達障害	266	0.8	0.4	—	0.4	1.5	1.9	92.9	2.6
高次脳機能障害	3	—	—	—	—	—	—	100.0	—
難病	55	—	—	—	—	—	—	90.9	9.1
その他	25	—	—	—	—	4.0	—	96.0	—

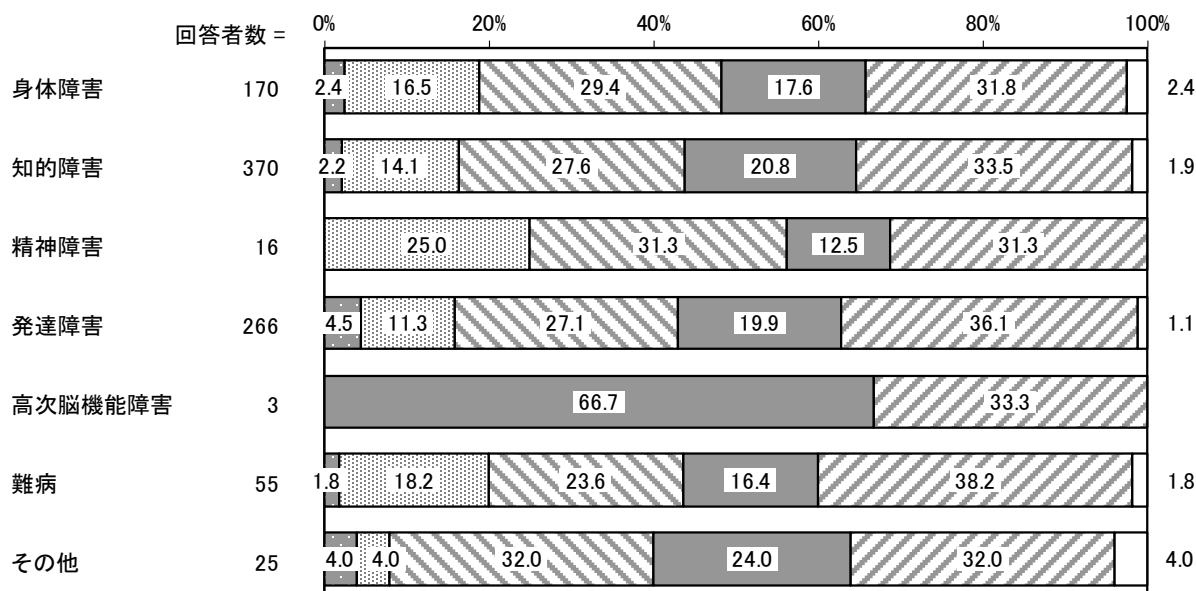
問 61 現在、障害者の福祉に関する情報の入手方法は、あなたにとって十分ですか。
 (1つに○)

「やや不十分」の割合が 26.4%、「まったく不十分」の割合が 18.9%となっています。



【障害別】

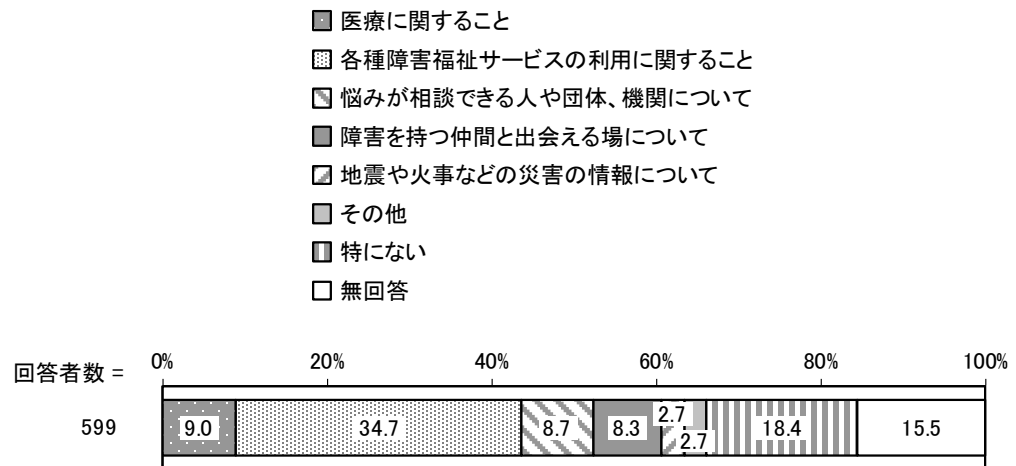
障害別で見ると、他に比べ、精神障害で「十分」と「ほぼ十分」をあわせた“十分”の割合が高くなっています。



障害児

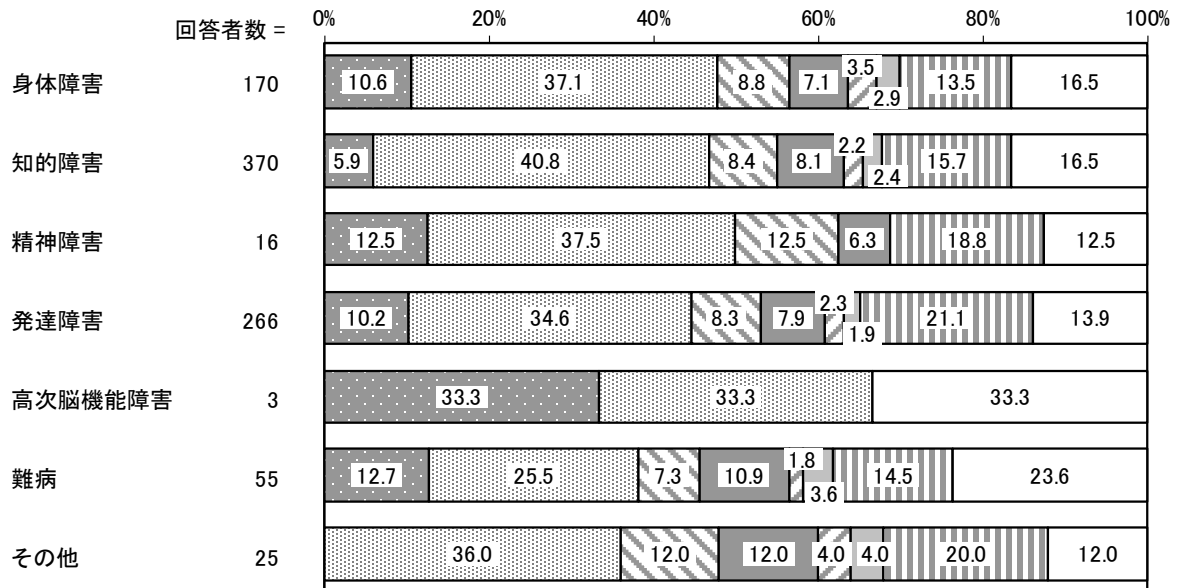
問 62 あなたが現在、知りたい情報は何ですか。(もっともあてはまるもの1つに○)

「各種障害福祉サービスの利用に関すること」の割合が34.7%と最も高く、次いで「特にない」の割合が18.4%となっています。



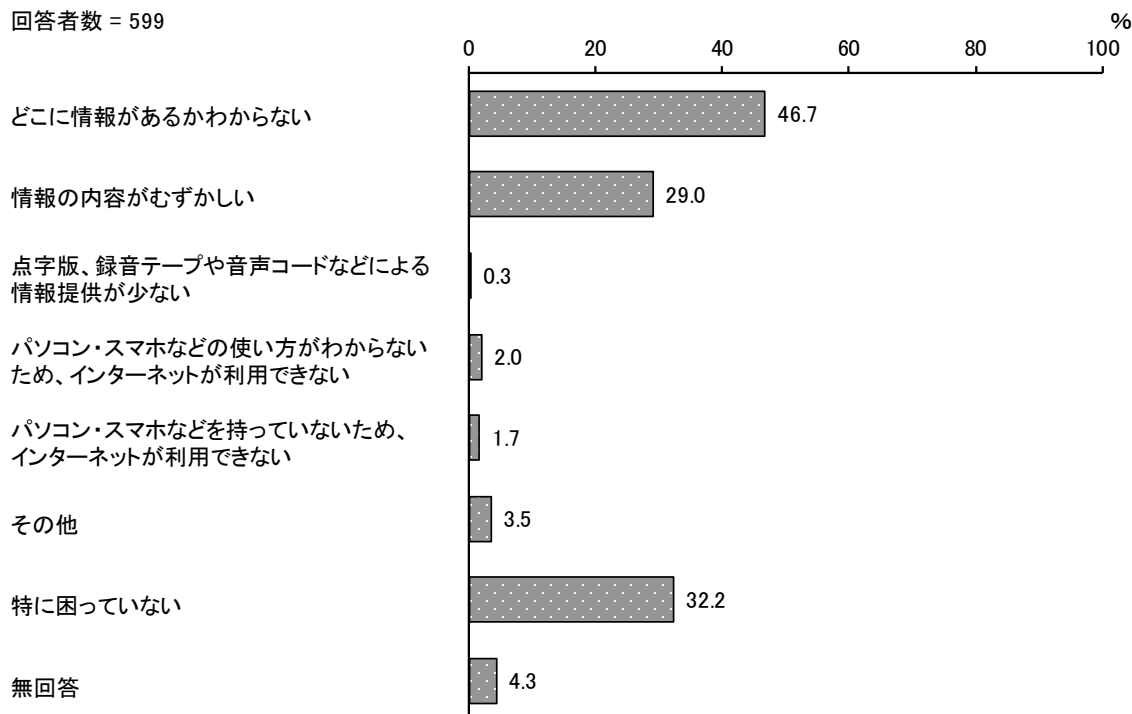
【障害別】

障害別で見ると、他に比べ、知的障害と精神障害で「各種障害福祉サービスの利用に関すること」の割合が高くなっています。



問 63 福祉に関する情報の入手についてあなたが困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「どこに情報があるかわからない」の割合が46.7%と最も高く、次いで「特に困っていない」の割合が32.2%、「情報の内容がむずかしい」の割合が29.0%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病で「情報の内容がむずかしい」の割合が、精神障害で「特に困っていない」の割合が高くなっています。

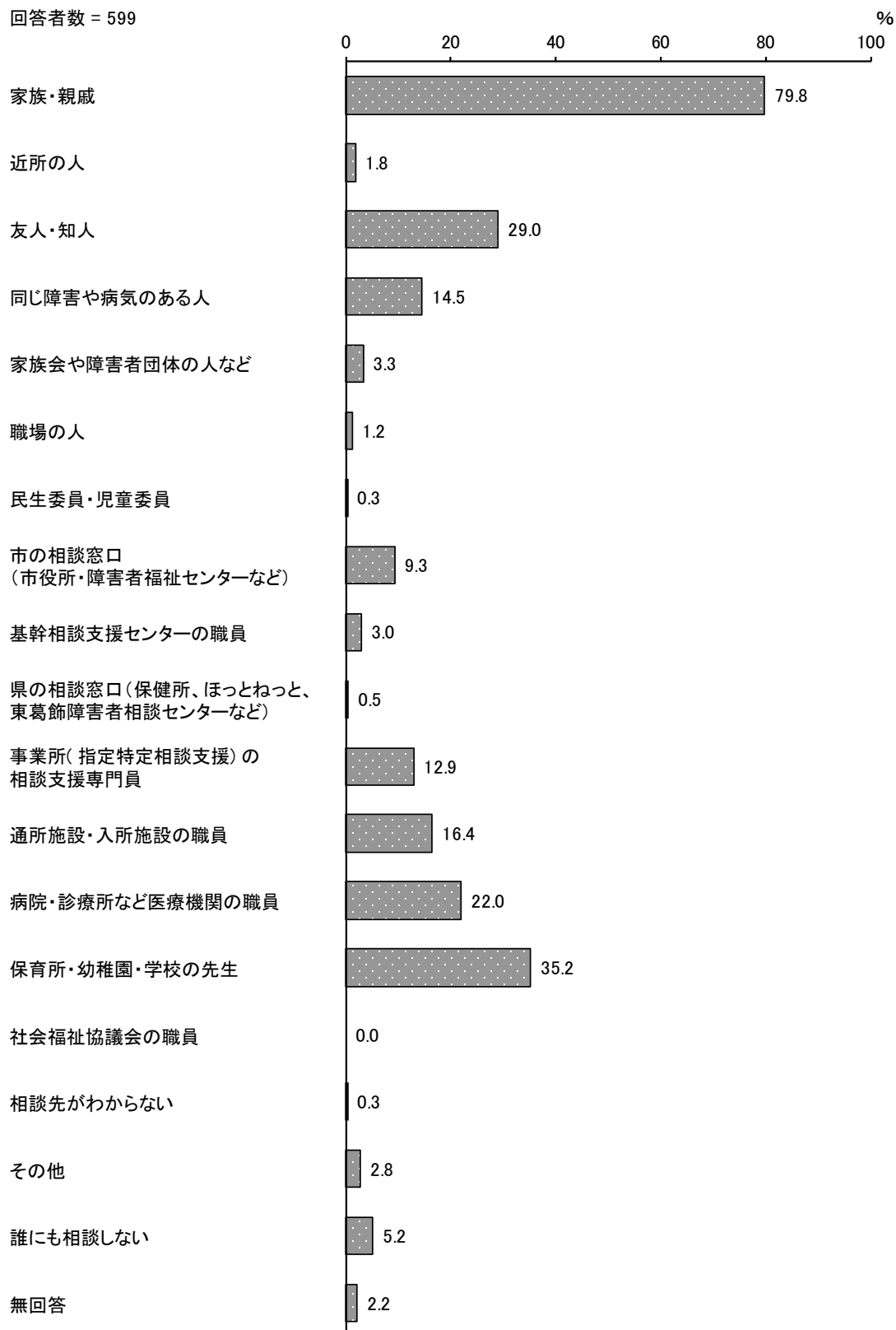
単位：%

区分	回答者数 (件)	どこに情報があるかわからない	情報の内容がむずかしい	点字版、録音テープや音声コードなどによる情報提供が少ない	パソコン・スマホなどの使い方がわからないため、インターネットが利用できない	パソコン・スマホを持っていないため、インターネットが利用できない	その他	特に困っていない	無回答
身体障害	170	53.5	32.9	1.2	2.4	1.2	2.9	27.6	5.3
知的障害	370	47.6	30.8	—	2.4	1.1	3.2	29.2	4.3
精神障害	16	31.3	31.3	—	—	—	6.3	43.8	6.3
発達障害	266	46.6	32.7	—	1.5	1.9	4.1	30.1	3.0
高次脳機能障害	3	66.7	—	—	—	—	—	33.3	—
難病	55	41.8	41.8	—	1.8	—	—	34.5	5.5
その他	25	52.0	28.0	—	—	—	4.0	32.0	8.0

障害児

問 64. あなたは、ふだん、心配事について誰（どこ）に相談していますか。
（あてはまるものすべてに○）

「家族・親戚」の割合が79.8%と最も高く、次いで「保育所・幼稚園・学校の先生」の割合が35.2%、「友人・知人」の割合が29.0%となっています。



【障害別】

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「友人・知人」「市の相談窓口（市役所・障害者福祉センターなど）」の割合が高くなっています。

単位：％

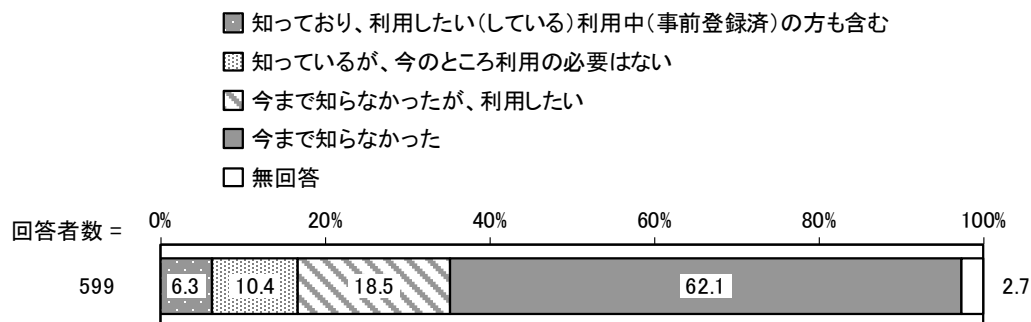
区分	回答者数 (件)	家族・親戚	近所の人	友人・知人	同じ障害や病気のある人	家族会や障害者団体の人など	職場の人	民生委員・児童委員	市の相談窓口（市役所・障害者福祉センターなど）	基幹相談支援センターの職員
身体障害	170	78.2	1.8	32.9	17.6	4.1	1.2	0.6	11.2	3.5
知的障害	370	78.4	2.4	28.6	15.9	4.3	0.5	0.3	11.4	4.3
精神障害	16	81.3	—	50.0	18.8	6.3	6.3	—	25.0	—
発達障害	266	81.2	1.5	24.8	10.9	3.0	1.1	—	9.0	2.6
高次脳機能障害	3	66.7	33.3	33.3	—	—	—	—	—	—
難病	55	80.0	—	38.2	21.8	1.8	7.3	—	14.5	3.6
その他	25	80.0	—	28.0	24.0	8.0	—	—	—	—

区分	県の相談窓口（保健所、ほっとねっと、東葛飾障害者相談センターなど）	事業所（指定特定相談支援）の相談支援専門員	通所施設・入所施設の職員	病院・診療所など医療機関の職員	保育所・幼稚園・学校の先生	社会福祉協議会の職員	相談先がわからない	その他	誰にも相談しない	無回答
身体障害	1.2	12.4	18.2	37.1	28.8	—	0.6	2.4	4.7	3.5
知的障害	0.5	16.5	19.5	18.9	41.9	—	0.3	2.4	4.9	1.6
精神障害	6.3	18.8	18.8	43.8	37.5	—	—	—	—	—
発達障害	0.4	16.5	19.9	18.4	40.2	—	—	3.8	4.9	0.8
高次脳機能障害	—	—	33.3	33.3	33.3	—	—	—	—	—
難病	3.6	14.5	21.8	47.3	27.3	—	1.8	1.8	3.6	1.8
その他	—	12.0	20.0	24.0	36.0	—	—	4.0	12.0	—

障害児

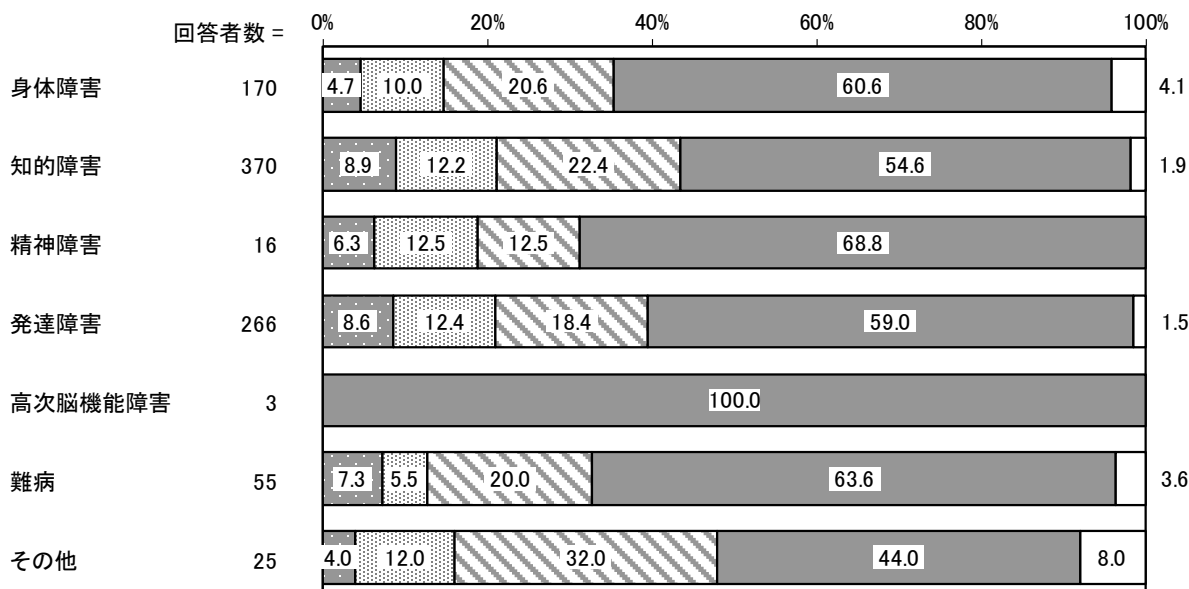
問 65 市では、緊急事態への対応として、介護者（ご家族等）の急病や事故などの、やむを得ない理由により、残された本人が生活を維持できない場合などの緊急時に、事前登録をしている方に対し、概ね1週間、短期入所等へ入所できる「緊急一時支援」を行っています。知っていますか。（1つに○）

「今まで知らなかった」の割合が62.1%と最も高く、次いで「今まで知らなかったが、利用したい」の割合が18.5%、「知っているが、今のところ利用の必要はない」の割合が10.4%となっています。



【障害別】

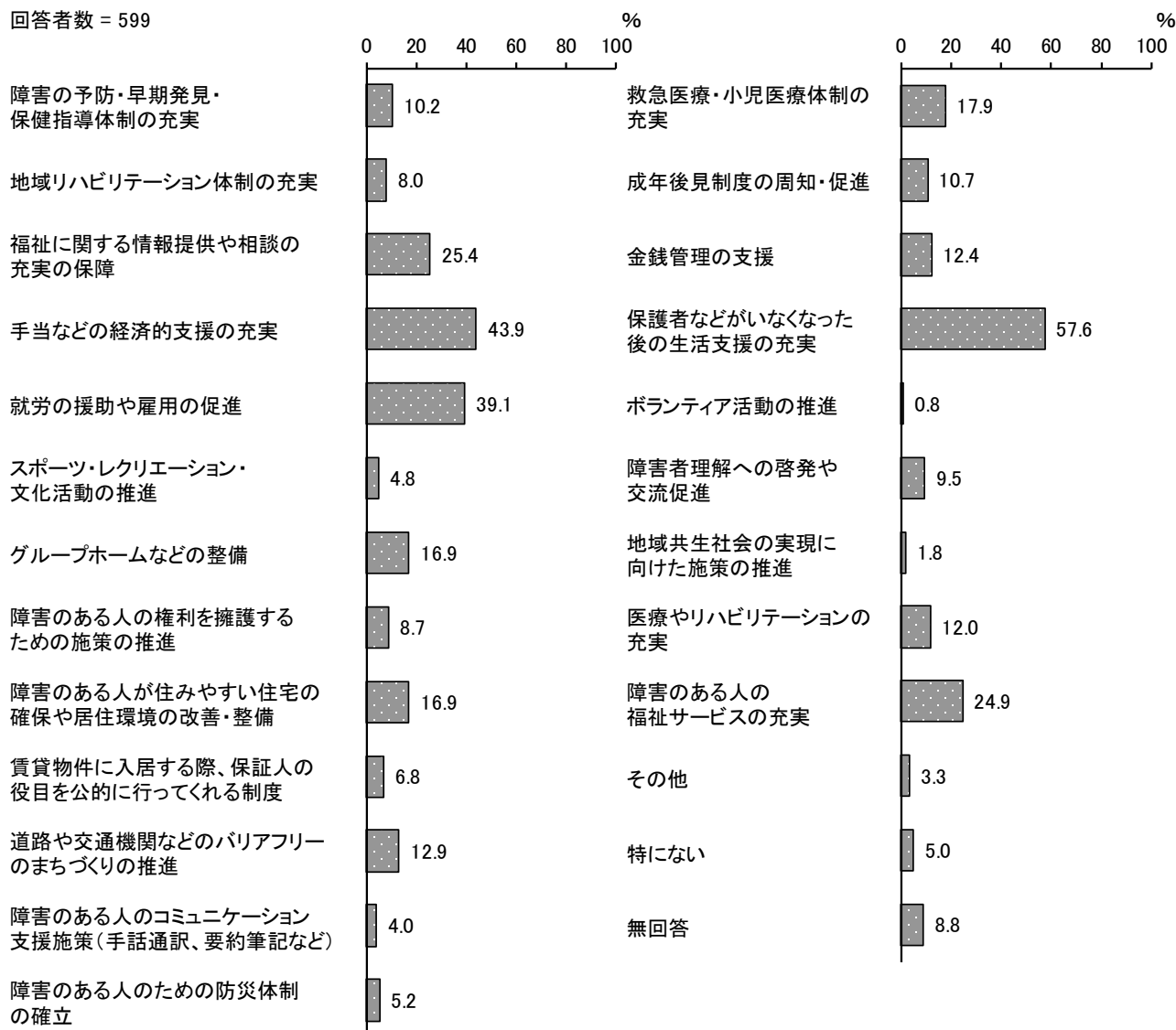
障害別で見ると、他に比べ、精神障害で「今まで知らなかった」の割合が高くなっています。



問 66. これから特に力を入れてほしい（優先的に実施してほしい）障害者施策はどのようなことですか。（5つまでに○）

「保護者などがなくなった後の生活支援の充実」の割合が 57.6%と最も高く、次いで「手当などの経済的支援の充実」の割合が 43.9%、「就労の援助や雇用の促進」の割合が 39.1%となっています。

回答者数 = 599



障害児

【障害別】

障害別でみると、他に比べ、難病で「手当などの経済的支援の充実」の割合が、知的障害で「グループホームなどの整備」の割合が高くなっています。また、精神障害で「地域リハビリテーション体制の充実」「障害のある人のコミュニケーション支援施策（手話通訳、要約筆記など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	障害の予防・早期発見・保健指導体制の充実	地域リハビリテーション体制の充実	福祉に関する情報提供や相談の充実の保障	手当などの経済的支援の充実	就労の援助や雇用の促進	文化活動の推進	スポーツ・レクリエーション・	グループホームなどの整備	障害のある人の権利を擁護するための施策の推進	障害のある人が住みやすい住宅の確保や居住環境の改善・整備	賃貸物件に入居する際、保証人の役目を公的に行ってくれる制度	道路や交通機関などのバリアフリーのまちづくりの推進	障害のある人のコミュニケーション支援施策（手話通訳、要約筆記など）
身体障害	170	11.8	10.0	23.5	47.1	26.5	2.9	11.8	7.6	14.7	4.1	29.4	7.1	
知的障害	370	7.3	10.0	25.4	42.4	43.5	4.6	23.0	8.9	18.4	7.6	12.2	1.4	
精神障害	16	12.5	25.0	31.3	50.0	25.0	—	6.3	12.5	25.0	6.3	18.8	12.5	
発達障害	266	9.8	7.1	27.8	45.1	41.4	4.9	17.3	9.8	18.0	7.9	7.9	3.0	
高次脳機能障害	3	—	66.7	33.3	33.3	—	—	33.3	—	—	—	—	—	
難病	55	16.4	12.7	25.5	60.0	27.3	1.8	12.7	7.3	10.9	5.5	32.7	3.6	
その他	25	8.0	8.0	24.0	28.0	40.0	4.0	16.0	16.0	16.0	—	16.0	4.0	

区分	障害のある人のための防災体制の確立	救急医療・小児医療体制の充実	成年後見制度の周知・促進	金銭管理の支援	保護者などがいなくなった後の生活支援の充実	ボランティア活動の推進	障害者理解への啓発や交流促進	地域共生社会の実現に向けた施策の推進	医療やリハビリテーションの充実	福祉サービスの充実	その他	特にない	無回答
身体障害	7.6	28.8	7.6	5.3	50.0	1.2	9.4	1.8	21.2	24.1	4.7	2.4	6.5
知的障害	5.4	14.1	13.0	15.4	65.7	0.5	9.7	2.4	11.4	25.9	2.7	3.2	9.7
精神障害	12.5	12.5	—	6.3	68.8	—	—	6.3	25.0	25.0	—	—	12.5
発達障害	4.5	12.8	12.4	15.0	63.2	0.4	9.0	1.5	7.5	27.4	2.3	5.6	9.4
高次脳機能障害	—	33.3	—	—	66.7	—	—	—	33.3	—	—	33.3	—
難病	10.9	32.7	9.1	3.6	54.5	3.6	7.3	—	23.6	12.7	7.3	3.6	3.6
その他	4.0	16.0	12.0	4.0	76.0	—	12.0	4.0	4.0	48.0	8.0	—	4.0

問 67. 最後に、あなたは、生活している中で、どのようなことで困ることがありますか。将来への不安も含めて、ご自由にお書きください。

「相談」が 107 件と多くなっています。

分類回答	件数
1. 療育・教育	30
(1) 障害児の療育・保育	13
(2) 障害児教育	15
(3) 生涯学習、文化・スポーツ・レクリエーション活動	2
2. 雇用・就業	27
(1) 一般企業での就業	6
(2) 福祉的就労	21
3. 医療	11
4. 障害福祉サービス	44
5. 相談・情報提供	124
(1) 相談	107
(2) 情報	17
6. 障害理解・福祉教育	35
7. 生活環境	28
(1) バリアフリー・ユニバーサルデザイン	12
(2) 防犯・防災対策	1
(3) 外出・コミュニケーション支援	15
8. 障害者施策推進体制	46
(1) 障害者の権利擁護	17
(2) 障害者施策推進体制の整備	29
9. その他	25

障害児

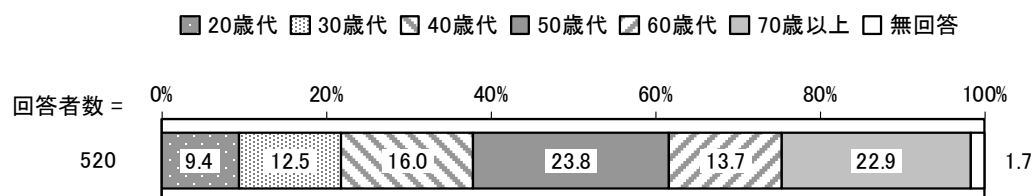
市 民

3 市民調査

(1) 回答者属性

問1. あなたの年齢（□の中に数字を記入）

「50歳代」の割合が23.8%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が22.9%、「40歳代」の割合が16.0%となっています。

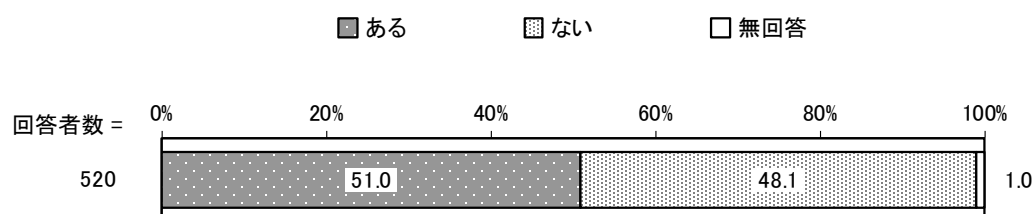


市民

(2) 障害のある人との交流などについて

問2. あなたは、今までに障害のある人と日常生活の中でふれあう機会がありましたか。(どちらかに○)

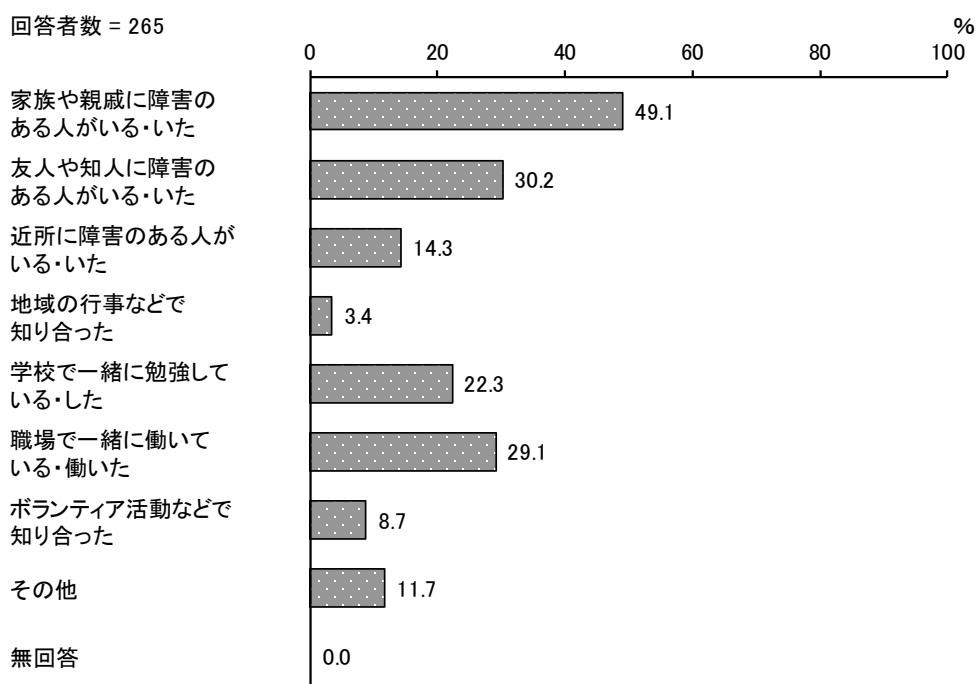
「ある」の割合が51.0%、「ない」の割合が48.1%となっています。



問2で「1. ある」と回答した方にお伺いします。

問3. そのきっかけはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

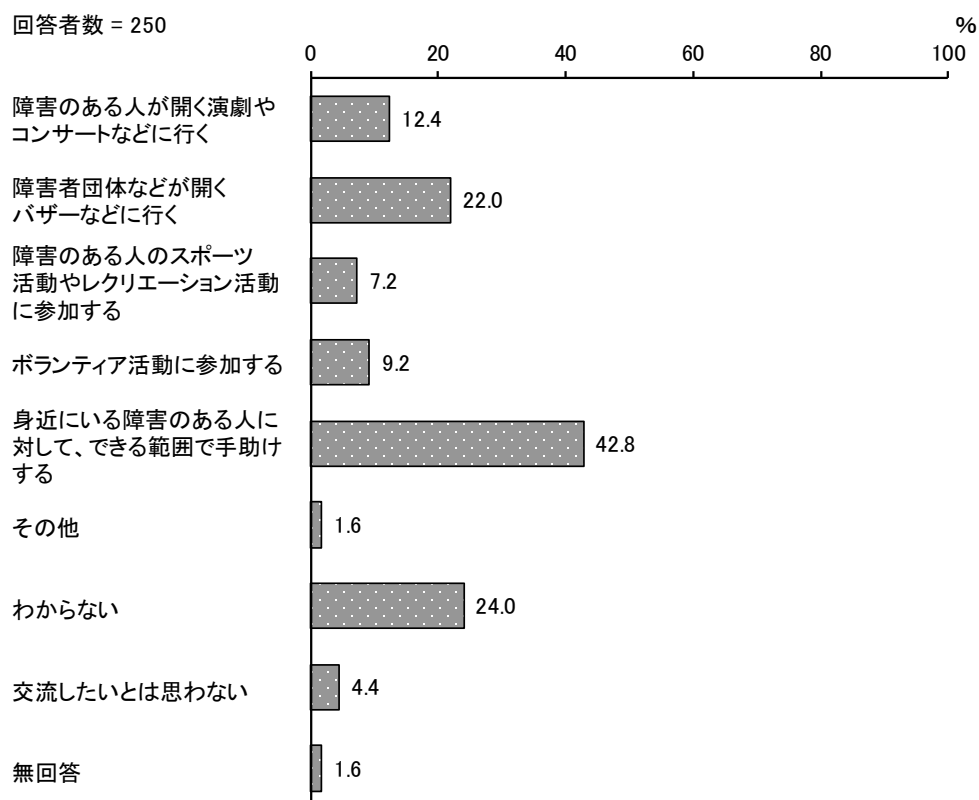
「家族や親戚に障害のある人がいる・いた」の割合が49.1%と最も高く、次いで「友人や知人に障害のある人がいる・いた」の割合が30.2%、「職場で一緒に働いている・働いた」の割合が29.1%となっています。



問2で「2. ない」と回答した方におたずねします。

問4. あなたが今後、機会があれば障害のある人と交流してみたいと思うのはどのような場面ですか。あてはまるものに○印をつけてください。(2つまでに○)

「身近にいる障害のある人に対して、できる範囲で手助けする」の割合が42.8%と最も高く、次いで「障害者団体などが開くバザーなどに行く」の割合が22.0%となっています。



市民

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30歳代で「障害のある人のスポーツ活動やレクリエーション活動に参加する」の割合が、20歳代、40歳代、50歳代で「身近にいる障害のある人に対して、できる範囲で手助けする」の割合が高くなっています。

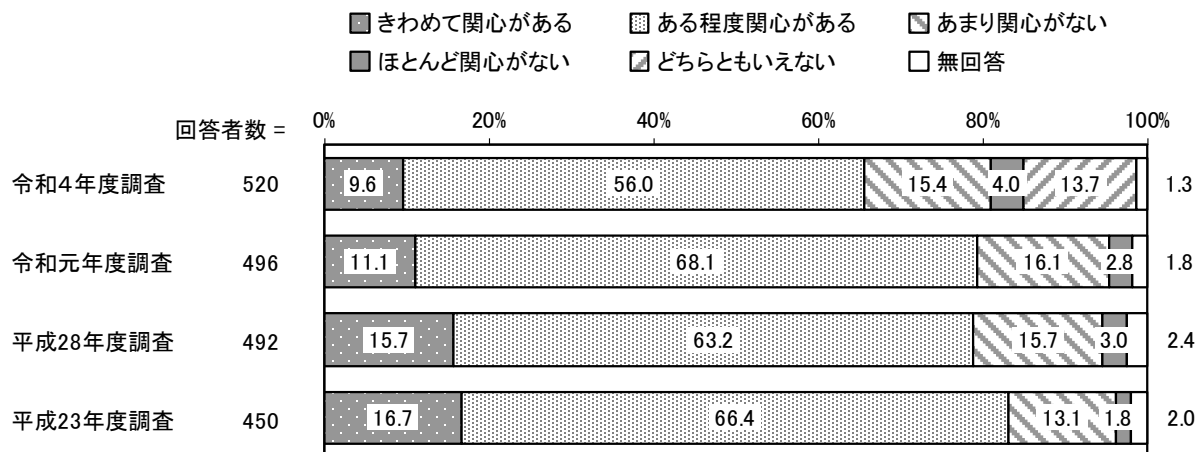
単位：％

区分	回答者数(件)	障害のある人が開く演劇やコンサートなどに行く	障害者団体などが開くバザーなどに行く	障害のある人のスポーツ活動やレクリエーション活動に参加する	ボランティア活動に参加する	身近にいる障害のある人に対して、できる範囲で手助けする	その他	わからない	交流したいとは思わない	無回答
20歳代	24	16.7	16.7	8.3	16.7	50.0	—	16.7	—	8.3
30歳代	25	20.0	24.0	16.0	12.0	32.0	4.0	8.0	12.0	—
40歳代	37	13.5	18.9	8.1	13.5	56.8	—	18.9	2.7	—
50歳代	50	8.0	22.0	4.0	8.0	52.0	4.0	24.0	2.0	2.0
60歳代	28	10.7	28.6	10.7	7.1	35.7	—	25.0	3.6	—
70歳以上	83	12.0	22.9	4.8	6.0	33.7	1.2	33.7	6.0	—

問5. あなたは、障害のある人に関する番組やニュースなどに、関心をお持ちですか。(1つに○)

「きわめて関心がある」と「ある程度関心がある」をあわせた“関心がある”の割合が65.6%、「あまり関心がない」と「ほとんど関心がない」をあわせた“関心がない”の割合が19.4%、「どちらともいえない」の割合が13.7%となっています。

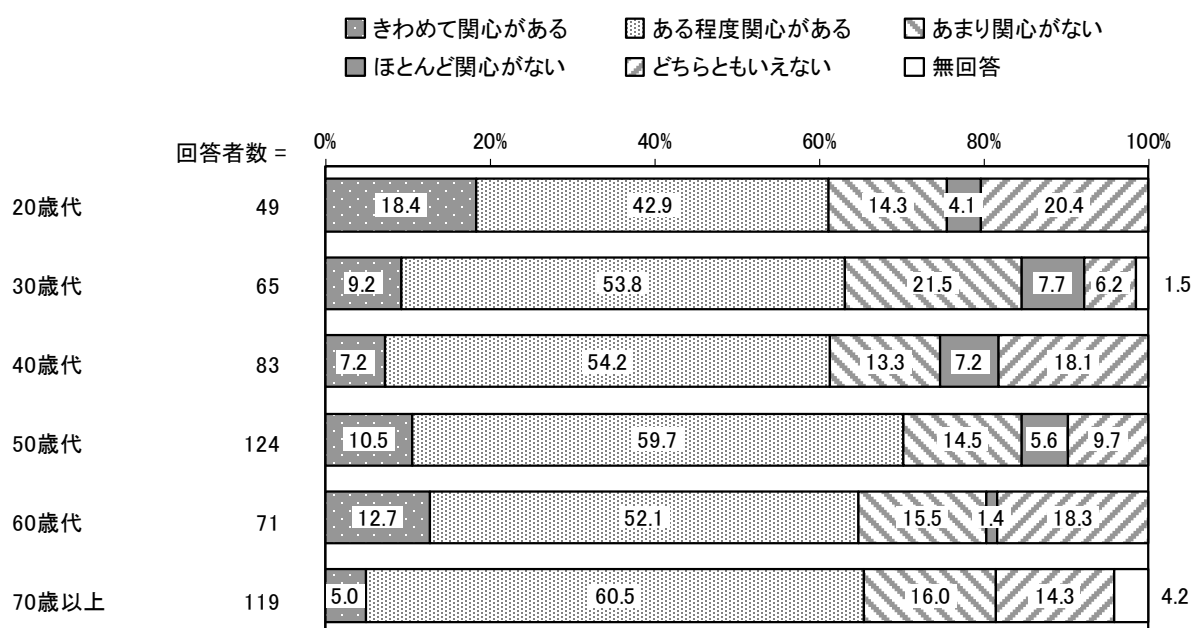
令和元年度と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、「ある程度関心がある」の割合が減少しています。



※過去の調査で「どちらともいえない」の選択肢はありませんでした。

【年齢別】

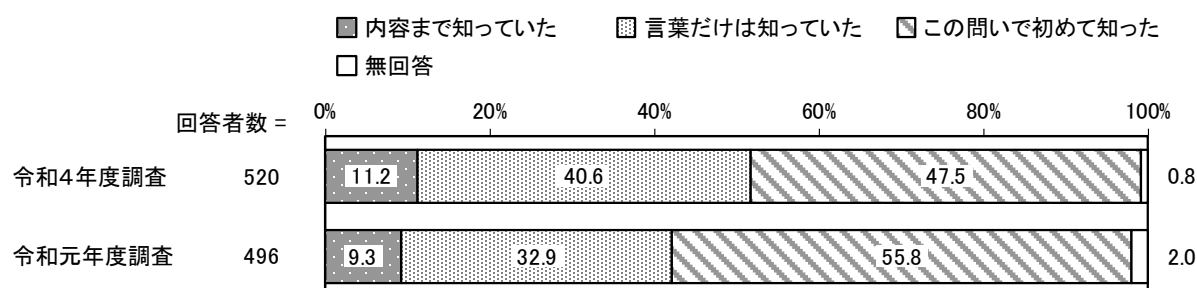
年齢別でみると、他に比べ、50歳代で“関心がある”の割合が、30歳代で“関心がない”の割合が高くなっています。



問6. 「社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、住民一人ひとりが地域、暮らし、生きがいを共に創り、高めあうことができる社会」のことを「地域共生社会」と言います。あなたは、この言葉を知っていましたか。(1つに○)

「この問いで初めて知った」の割合が47.5%と最も高く、次いで「言葉だけは知っていた」の割合が40.6%、「内容まで知っていた」の割合が11.2%となっています。

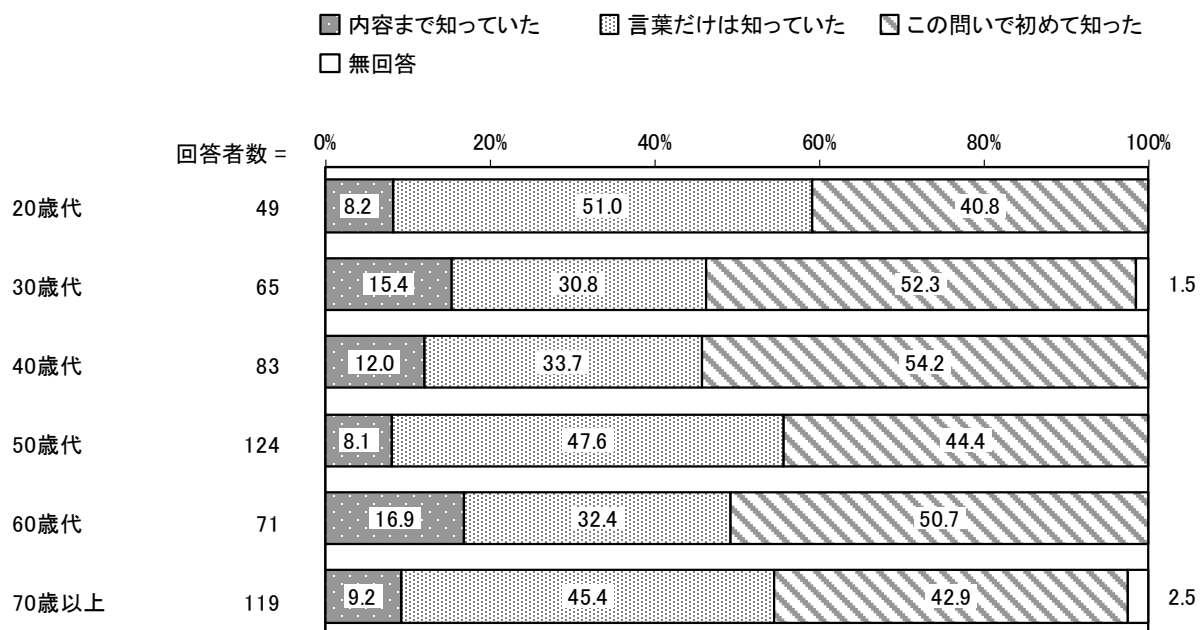
令和元年度と比較すると、「言葉だけは知っていた」の割合が増加しています。一方、「この問いで初めて知った」の割合が減少しています。



市民

【年齢別】

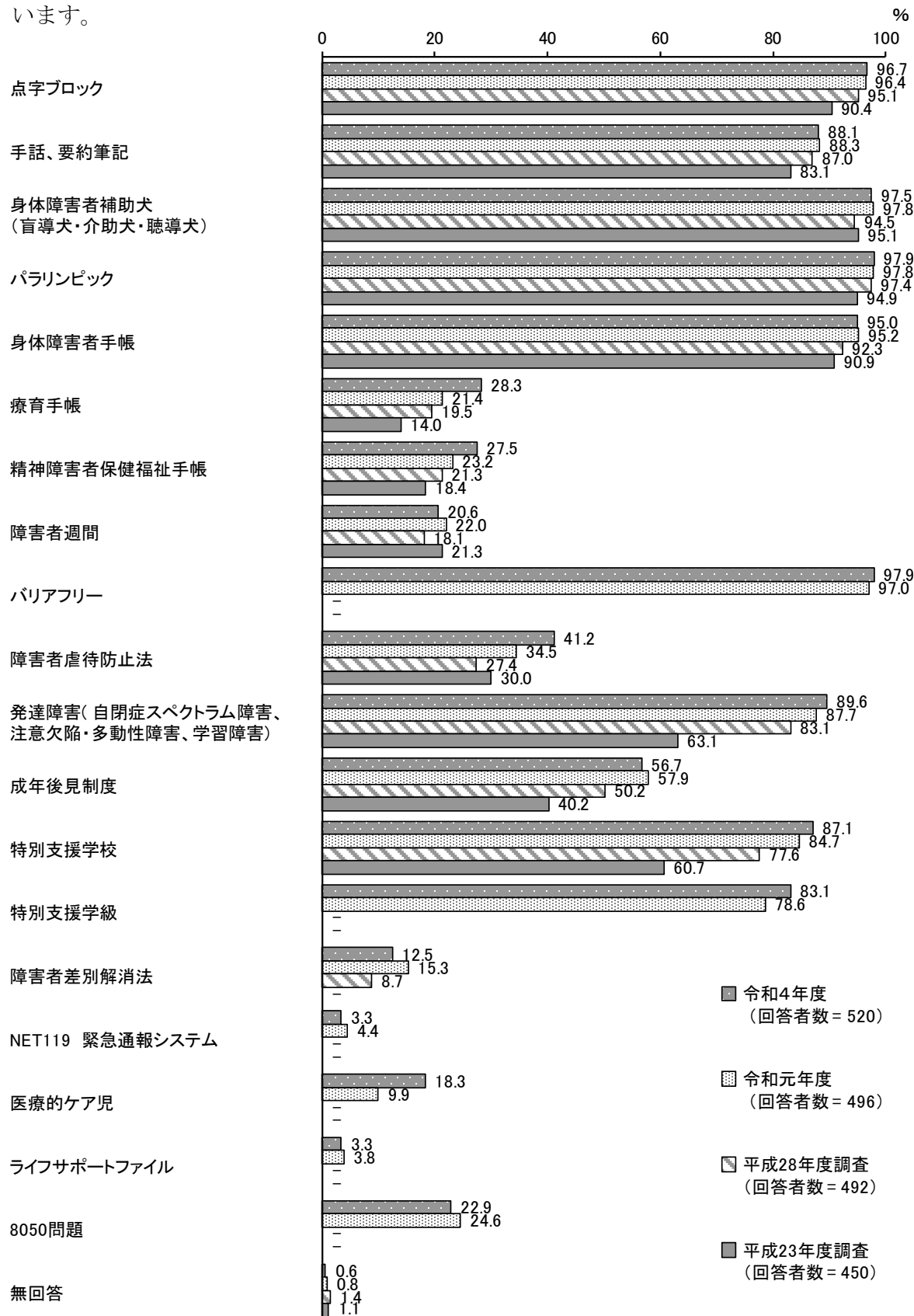
年齢別で見ると、他に比べ、20歳代で「言葉だけは知っていた」の割合が高くなっています。



問7. あなたは、次にあげる障害者施策や福祉施策の用語をご存知ですか。
(知っているものすべてに○)

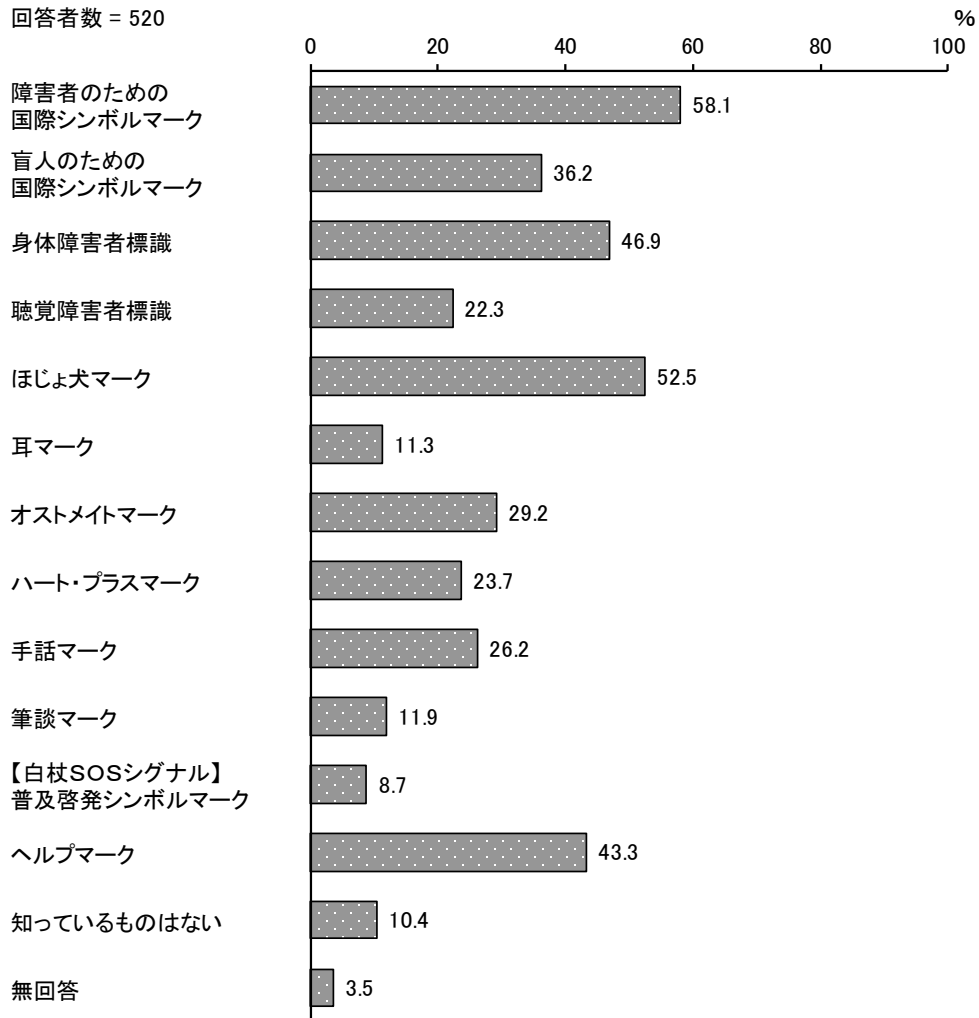
「パラリンピック」、「バリアフリー」の割合が97.9%と最も高く、次いで「身体障害者補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）」の割合が97.5%となっています。

令和元年度と比較すると、「療育手帳」「障害者虐待防止法」「医療的ケア児」の割合が増加しています。



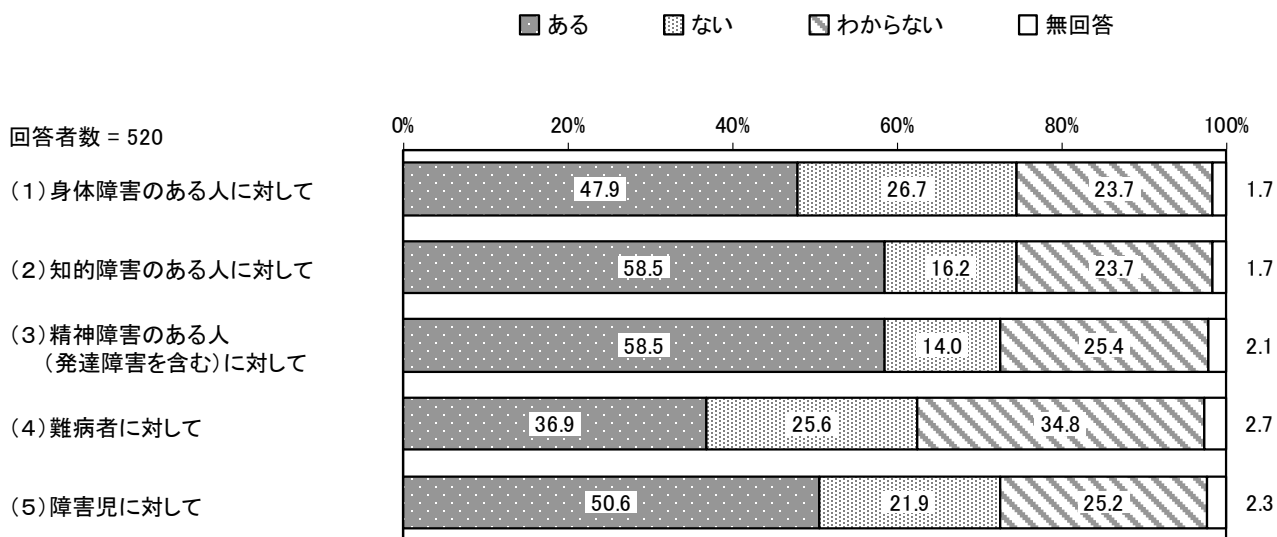
問8. 障害のある人に関するマーク・標識で知っているものはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「障害者のための国際シンボルマーク」の割合が58.1%と最も高く、次いで「ほじょ犬マーク」の割合が52.5%、「身体障害者標識」の割合が46.9%となっています。



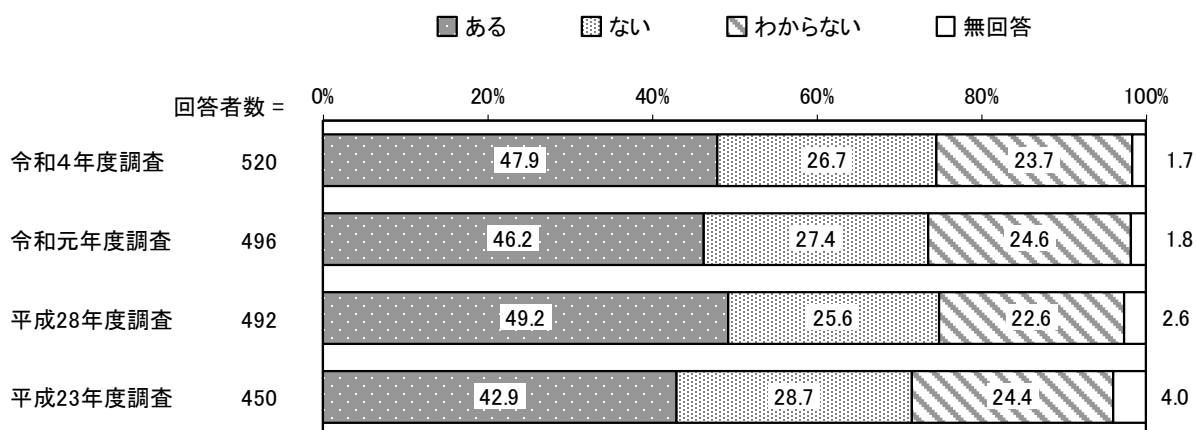
問9. あなたは、地域社会の中に障害のある人への差別・偏見があると思いますか。
(それぞれ1つずつに○)

『(2) 知的障害のある人に対して』『(3) 精神障害のある人(発達障害を含む)に対して』で「ある」の割合が、『(1) 身体障害のある人に対して』『(4) 難病者に対して』で「ない」の割合が高くなっています。



(1) 身体障害のある人に対して

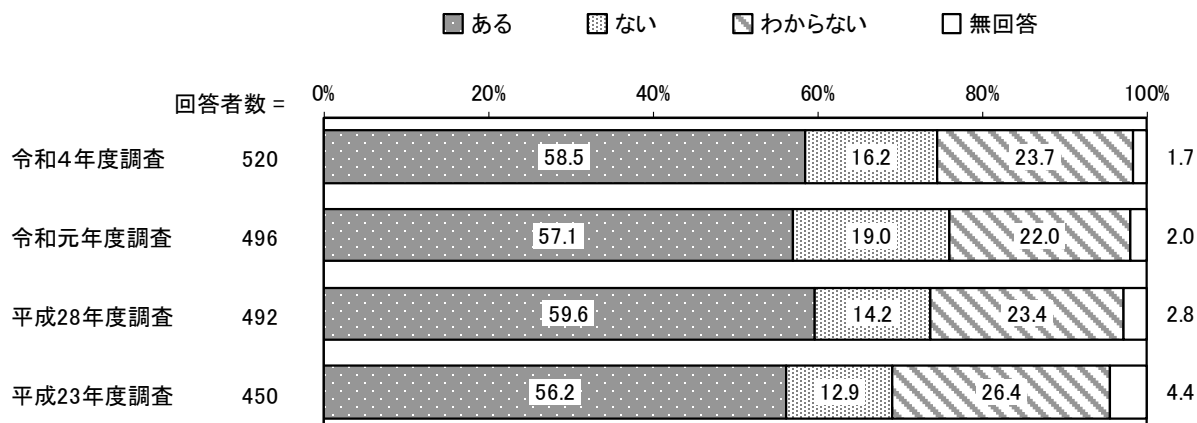
令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



市民

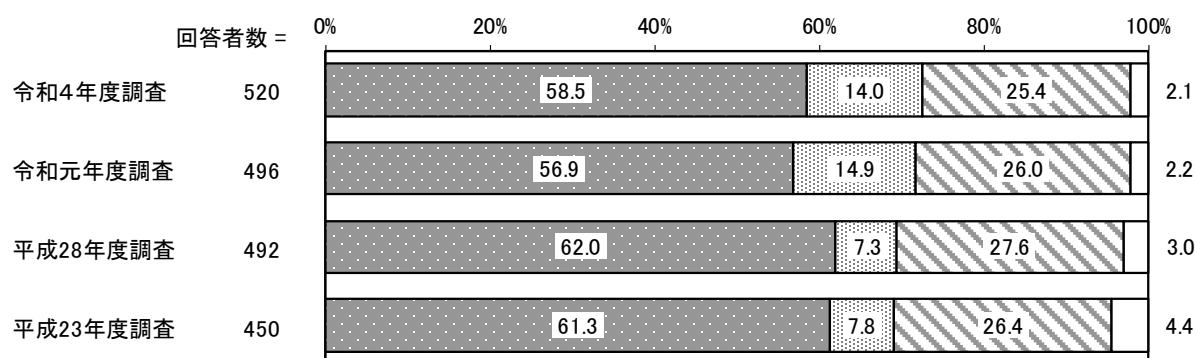
(2) 知的障害のある人に対して

令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



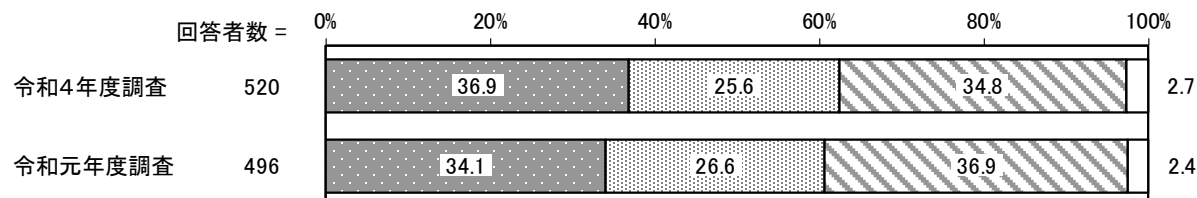
(3) 精神障害のある人(発達障害を含む)に対して

令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



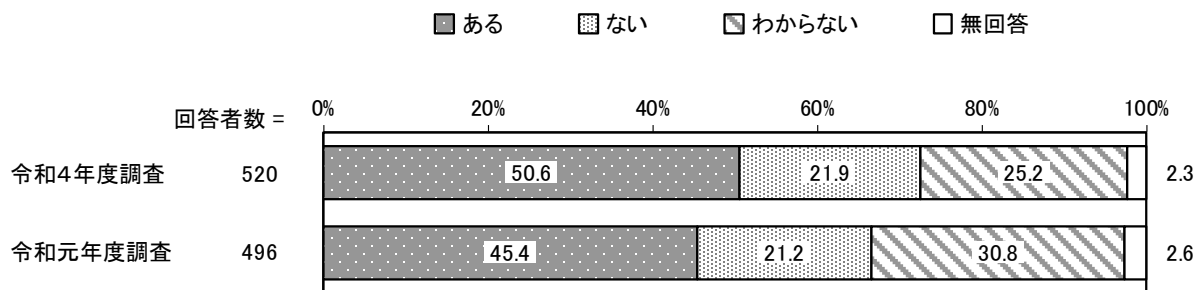
(4) 難病者に対して

令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



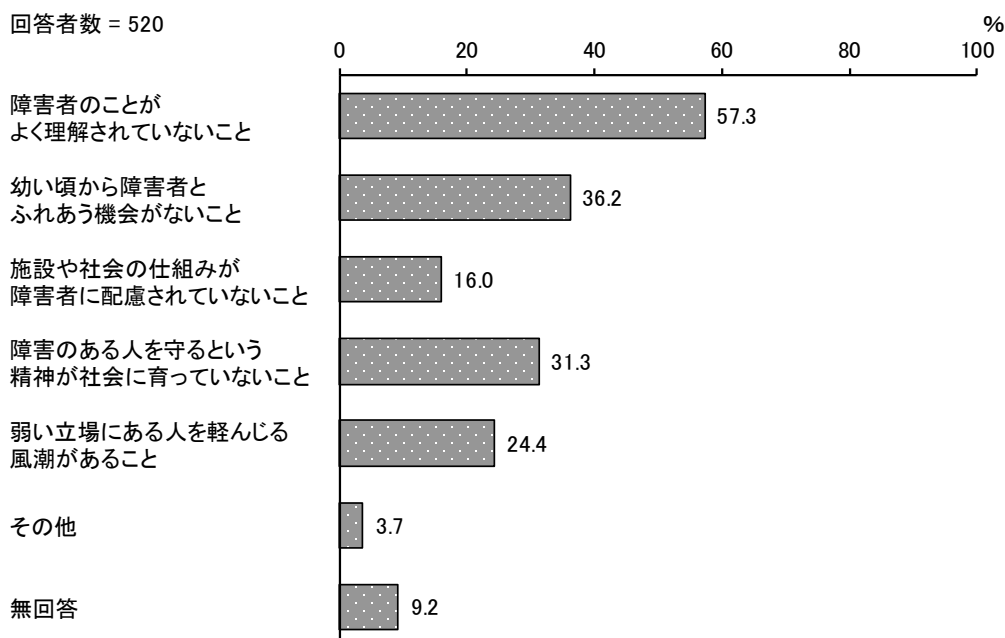
(5) 障害児に対して

令和元年度と比較すると、「ある」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



問 10. 差別・偏見の生まれる理由は何であると思いますか。(2つまでに○)

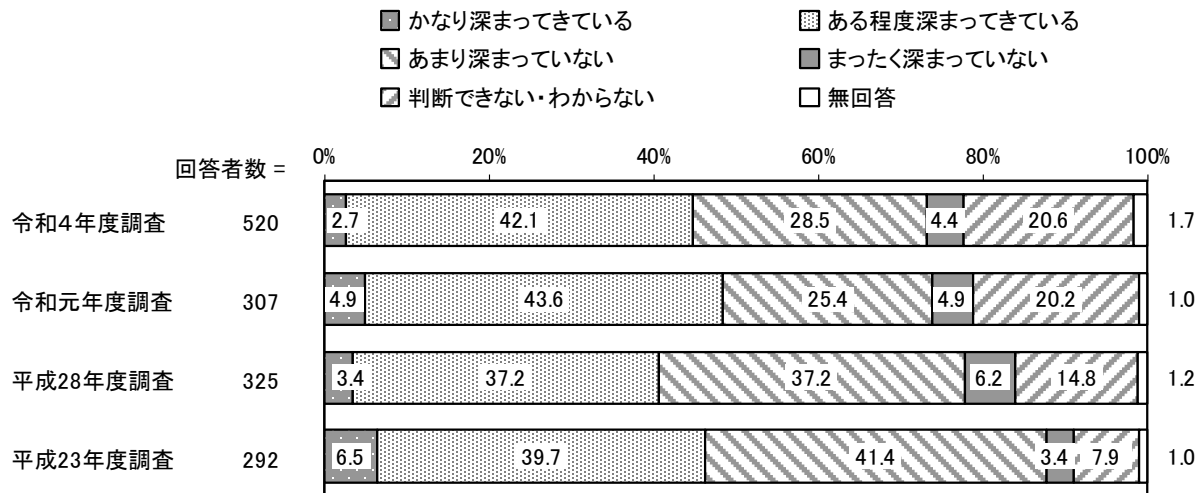
「障害者のことがよく理解されていないこと」の割合が57.3%と最も高く、次いで「幼い頃から障害者とふれあう機会がないこと」の割合が36.2%、「障害のある人を守るとい精神が社会に育っていないこと」の割合が31.3%となっています。



市民

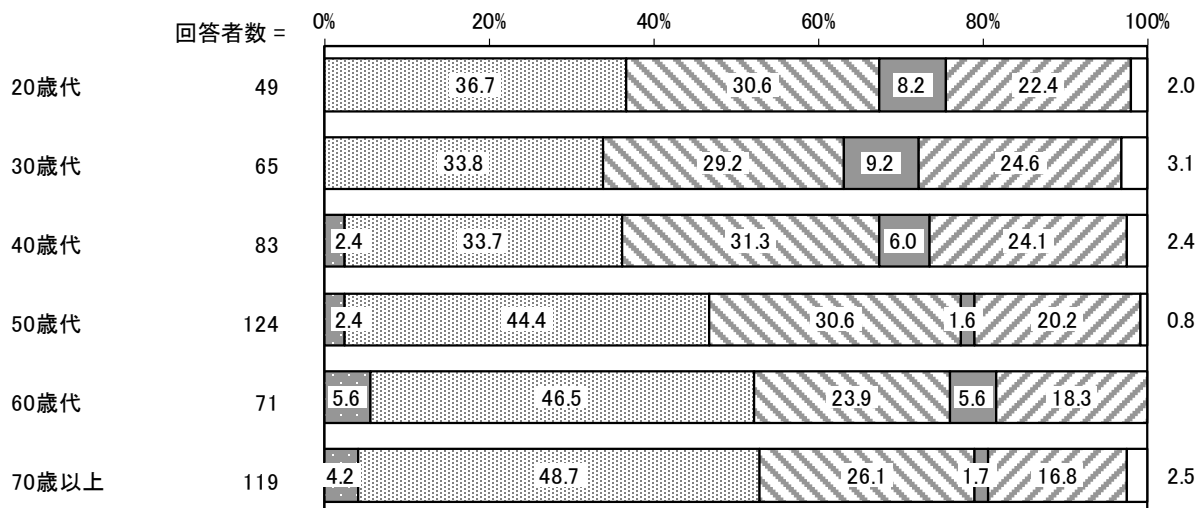
問 11. ここ数年、障害のある人たちに対する理解は深まってきていると思いますか。
(1つに○)

「かなり深まってきている」と「ある程度深まってきている」をあわせた“深まってきている”の割合が 44.8%、「あまり深まっていない」と「まったく深まっていない」をあわせた“深まっていない”の割合が 32.9%、「判断できない・わからない」の割合が 20.6%となっています。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、60歳代、70歳以上で“深まってきている”の割合が、20歳代、30歳代、40歳代で“深まっていない”の割合が高くなっています。

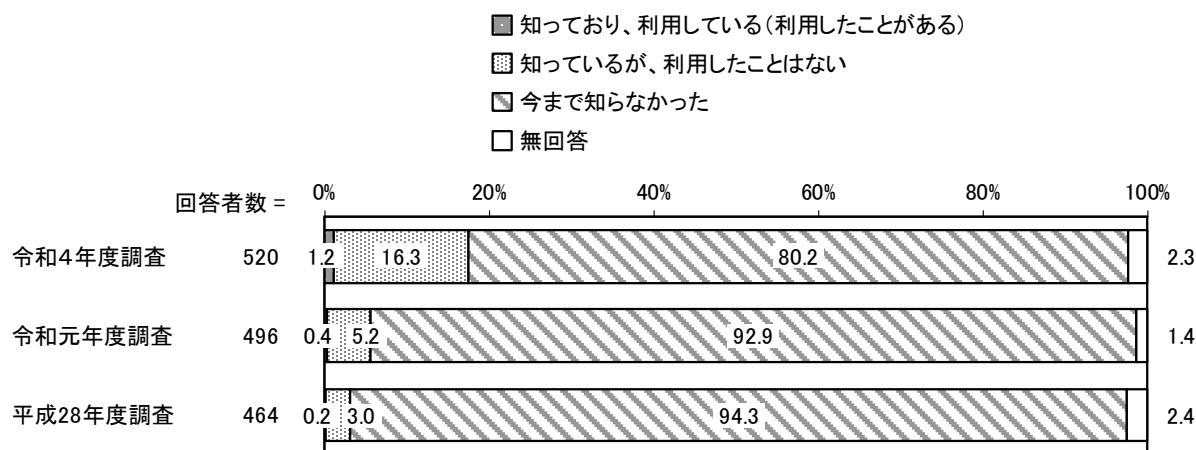


(3) 障害者相談支援について

問 12. 松戸市では障害者等からの虐待・差別を含む障害分野の相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行う窓口として基幹相談支援センターを設置しています。あなたはお住まいの地域の基幹相談支援センターを知っていますか。(1つに○)

「今まで知らなかった」の割合が80.2%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」の割合が16.3%となっています。

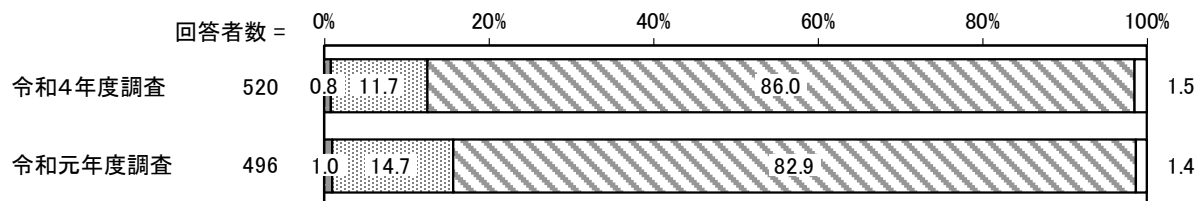
令和元年度と比較すると、「知っているが、利用したことはない」の割合が増加しています。一方、「今まで知らなかった」の割合が減少しています。



問 13. 松戸市では、高齢者総合相談窓口を拡充し、平成30年度から「福祉まるごと相談窓口」を設置しています。福祉に関する困りごと（ダブルケアの相談・サービスや制度を知りたい・どこに相談してよいかわからないなど）の相談窓口です。専門職と一緒に考え、必要なサービスを紹介したり、担当の課におつなぎしています。あなたは、「福祉まるごと相談窓口」を知っていますか。(1つに○)

「今まで知らなかった」の割合が86.0%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」の割合が11.7%となっています。

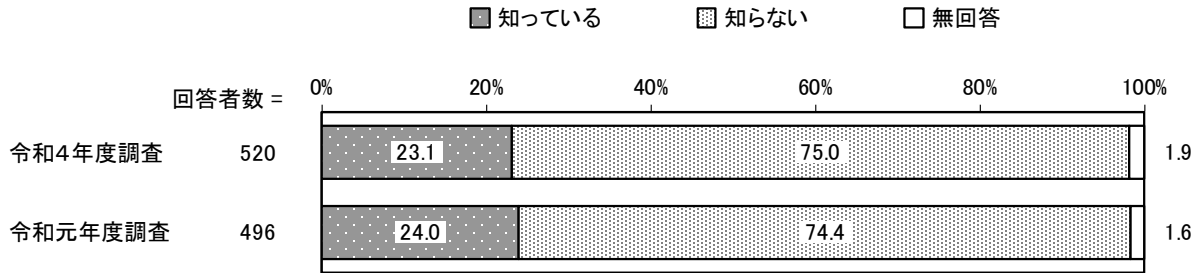
令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



市民

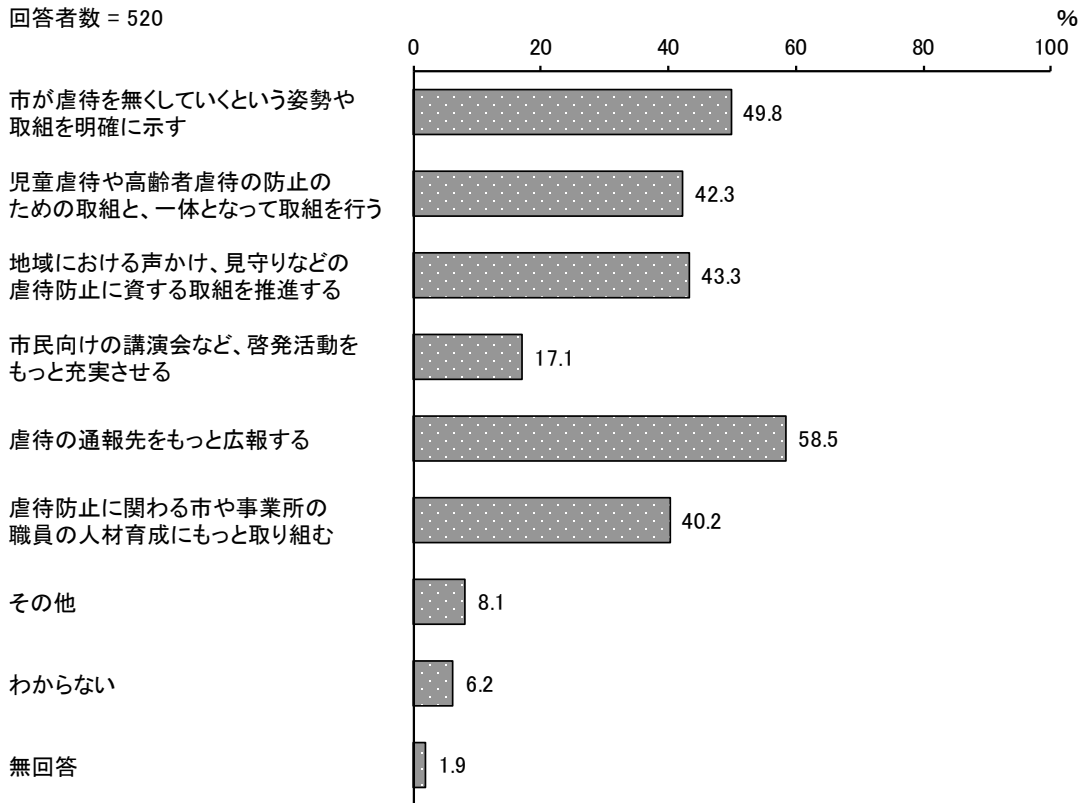
問 14. 障害者虐待防止法では、家族、施設の職員、雇用主から障害者が虐待を受けていることに気づいた人は、市の窓口に通報することが義務付けられています。松戸市の通報窓口は、「障害者虐待防止・障害者差別相談センター」です。あなたは、「障害者虐待に気付いた人の通報義務」について知っていますか。（1つに○）

「知っている」の割合が 23.1%、「知らない」の割合が 75.0%となっています。
令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



問 15. 松戸市において、障害者虐待の防止をさらに推進するために、どのようなことをすればよいと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

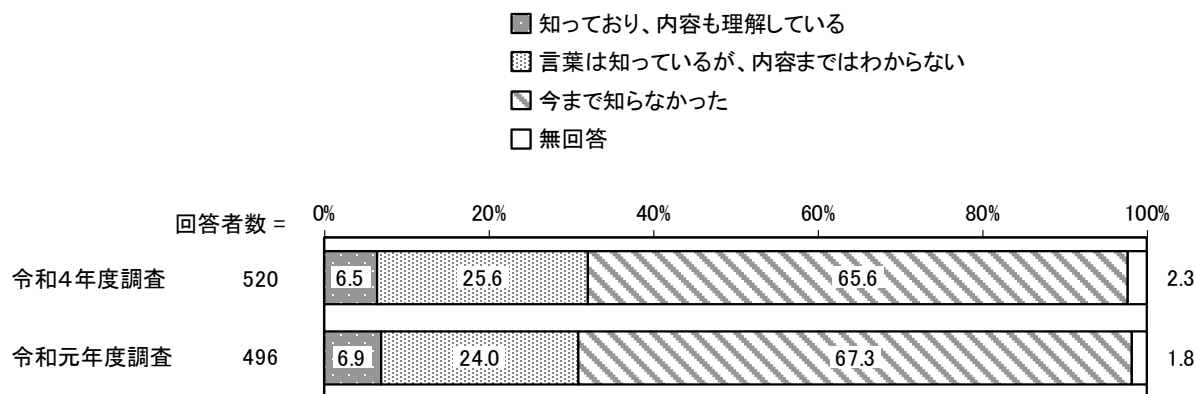
「虐待の通報先をもっと広報する」の割合が 58.5%と最も高く、次いで「市が虐待を無くしていくという姿勢や取組を明確に示す」の割合が 49.8%、「地域における声かけ、見守りなどの虐待防止に資する取組を推進する」の割合が 43.3%となっています。



問 16. 平成 28 年 4 月 1 日から「障害者差別解消法」が施行されました。この法律では、国や市区町村といった行政機関や、会社やお店などの民間事業者が、「障害を理由とする差別」をなくし、すべての人が障害のあるなしにかかわらず、お互いに人格と個性を尊重しあいながら共に生きる社会をつくることを目指しています。あなたは、「障害者差別解消法」を知っていますか。(1つに○)

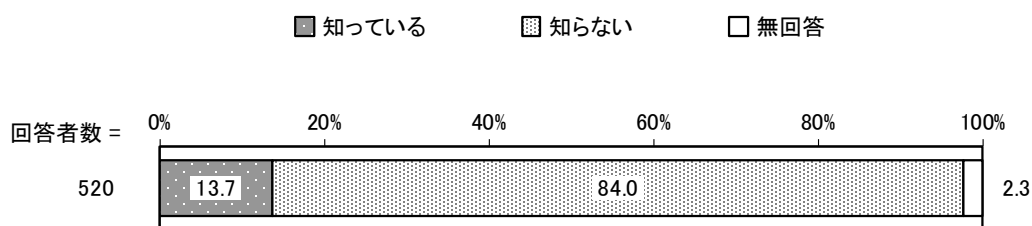
「今まで知らなかった」の割合が 65.6%と最も高く、次いで「言葉は知っているが、内容まではわからない」の割合が 25.6%となっています。

令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



問 17. 障害者差別解消法では、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること(合理的配慮の提供)を求めています。あなたは、合理的配慮を知っていますか。(1つに○)

「知っている」の割合が 13.7%、「知らない」の割合が 84.0%となっています。



市民

(4) 地域での福祉活動について

問 18. あなたは、今後、障害のある人の支援について、誰が主体になって取り組むのが望ましいとお考えですか。3つまで選び、重要と思う順番に「1」「2」「3」の数字を入れてください。

『第1位』で「行政」の割合が、『第2位』で「障害福祉サービス事業所」の割合が高くなっています。また、『第3位』で「ボランティア」の割合が高くなっています。

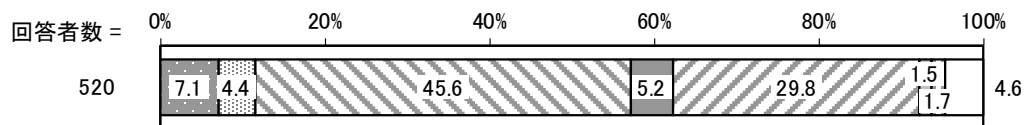
単位：%

区分	回答者数(件)	障害当事者(障害のある人本人やその家族、親族)	行政	隣近所の人	友人・知人	ボランティア	障害福祉サービス事業所	その他	無回答
第1位	520	21.5	55.8	1.5	0.6	0.4	11.7	1.0	7.5
第2位	520	11.2	19.6	5.4	2.5	6.9	45.2	0.6	8.7
第3位	520	21.9	8.7	9.0	5.8	22.3	20.4	1.7	10.2

問 19. あなたは福祉を充実させるために、地域でどのようなことをしたいと思いますか。(1つに○)

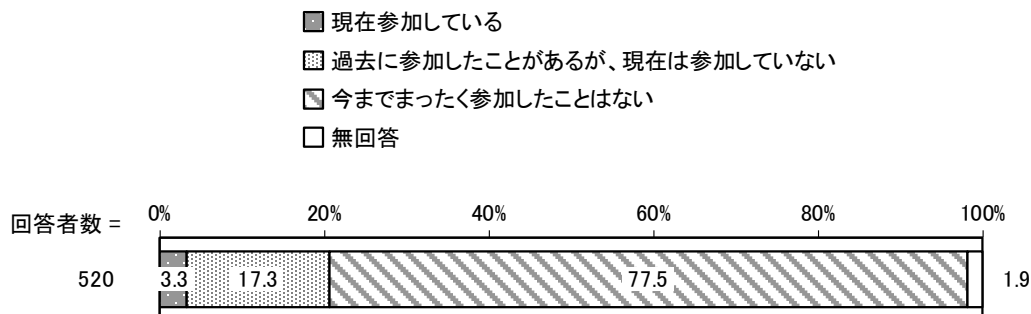
「ボランティア活動に参加することは難しいが、援助が必要な友人や知人などにできる限りのことをしたい」の割合が45.6%と最も高く、次いで「自分のことで手一杯なので、今のところは何もできない」の割合が29.8%となっています。

- 施設や地域でのボランティア活動に参加したい
- 専門的な資格を取り、職業として福祉に関わりたい
- ボランティア活動に参加することは難しいが、援助が必要な友人や知人などにできる限りのことをしたい
- 福祉活動の資金を援助したい(募金や寄付など)
- 自分のことで手一杯なので、今のところは何もできない
- 地域での福祉活動に関心がない
- その他
- 無回答



問 20. 現在、あなたは障害のある人やお年寄りなどのためのボランティア活動に参加していますか、または、参加したことがありますか。(1つに○)

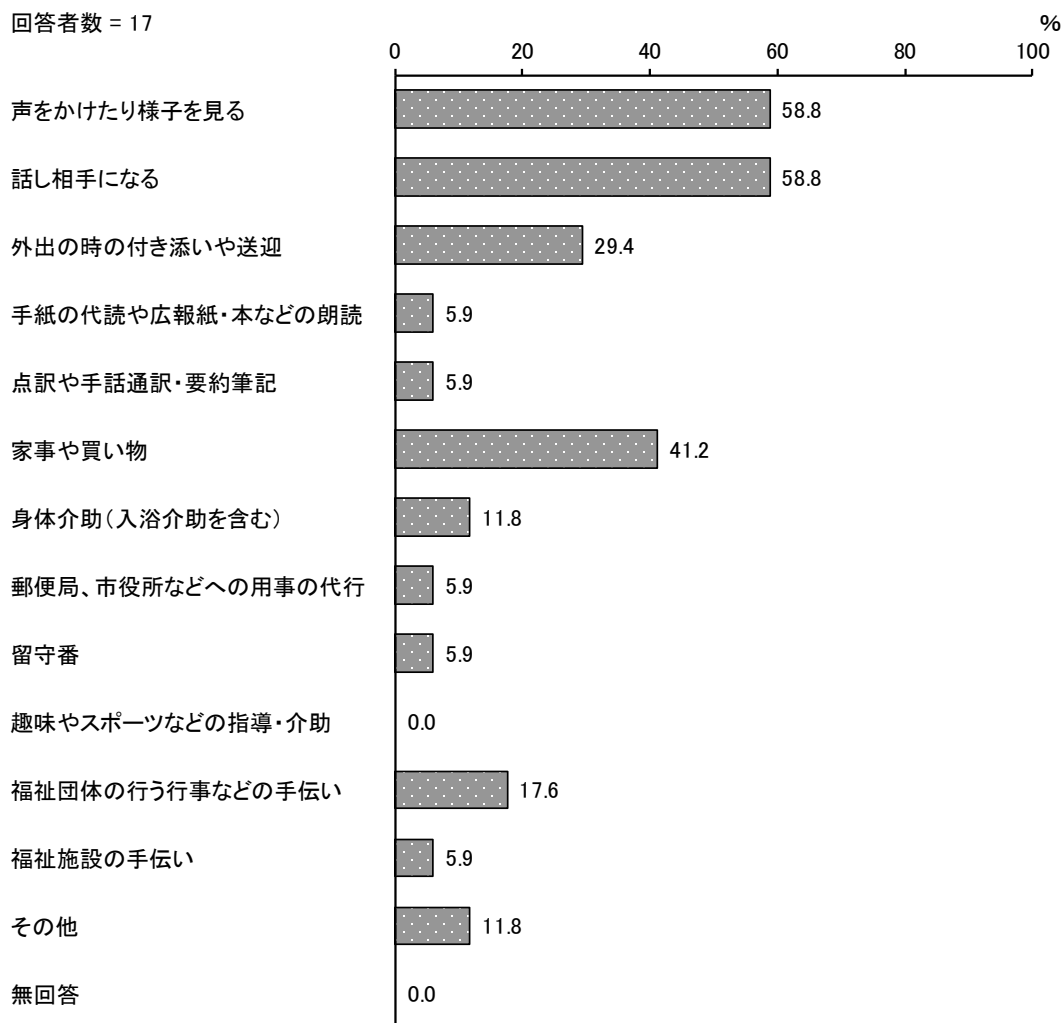
「今までまったく参加したことはない」の割合が77.5%と最も高く、次いで「過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」の割合が17.3%となっています。



問 20 で「1. 現在参加している」と回答した方におたずねします。

問 21. それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

「声をかけたり様子を見る」、「話し相手になる」の割合が58.8%と最も高く、次いで「家事や買い物」の割合が41.2%となっています。



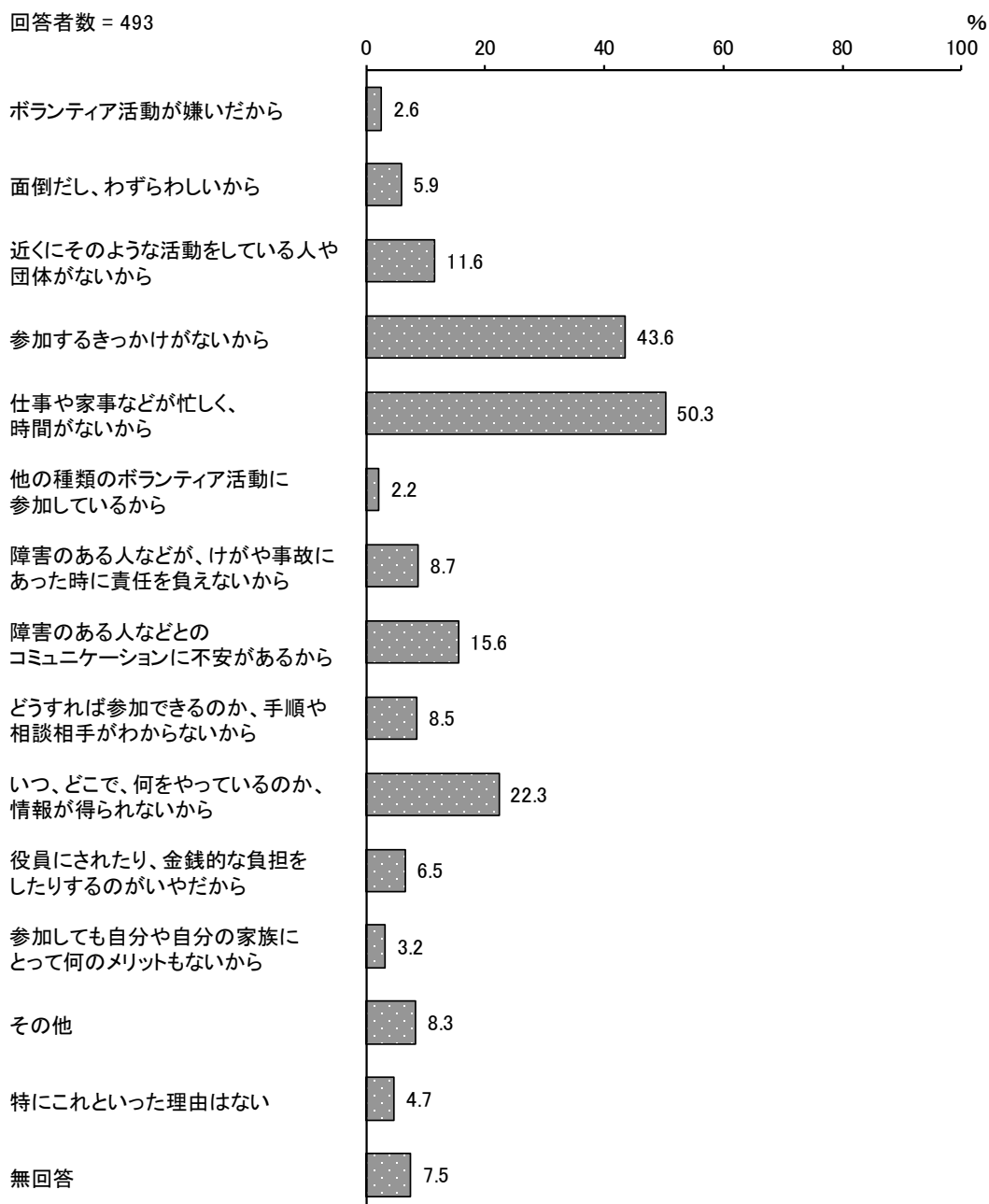
単位：%

市民

問 20 で「2. 過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」または「3. 今までまったく参加したことはない」と回答した方におたずねします。

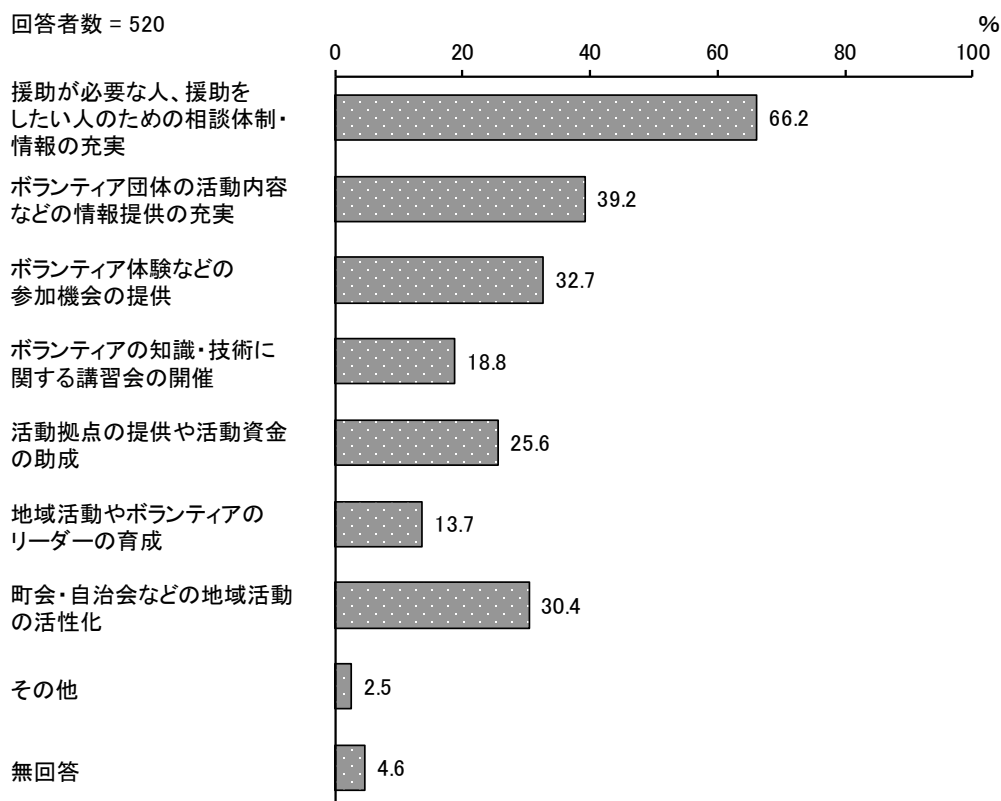
問 22. あなたが参加していない主な理由は何ですか。(3つまでに○)

「仕事や家事などが忙しく、時間がないから」の割合が 50.3%と最も高く、次いで「参加するきっかけがないから」の割合が 43.6%、「いつ、どこで、何をやっているのか、情報が得られないから」の割合が 22.3%となっています。



問 23. 地域での助け合いやボランティア活動を活発にするためには、どのようなことが必要であると思いますか。(3つまでに○)

「援助が必要な人、援助をしたい人のための相談体制・情報の充実」の割合が66.2%と最も高く、次いで「ボランティア団体の活動内容などの情報提供の充実」の割合が39.2%、「ボランティア体験などの参加機会の提供」の割合が32.7%となっています。

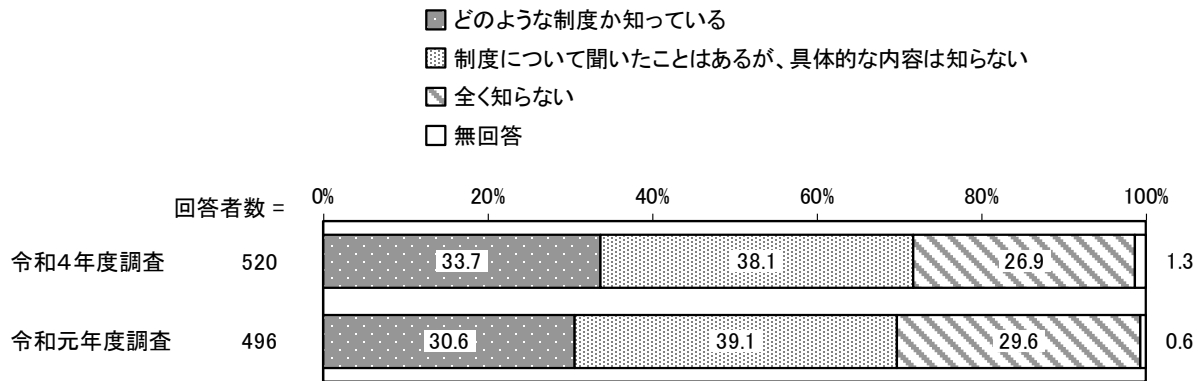


市民

問 24. 障害や高齢化などにより判断能力が十分でない方の権利を守る「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○)

「制度について聞いたことはあるが、具体的な内容は知らない」の割合が 38.1%と最も高く、次いで「どのような制度か知っている」の割合が 33.7%、「全く知らない」の割合が 26.9%となっています。

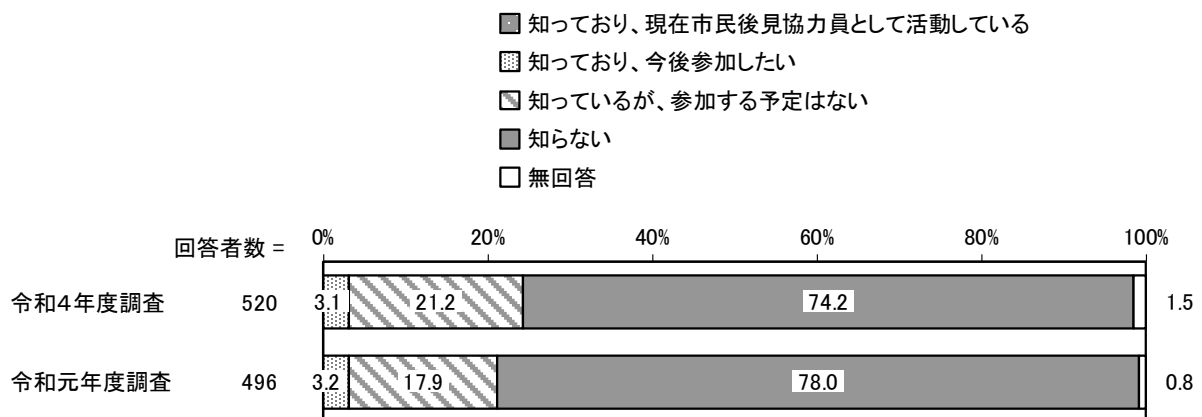
令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



問 25. 専門職協力員（弁護士、司法書士、社会福祉士など）とペアを組んで、法人後見においてボランティアで活動する「市民後見協力員」について、現在、松戸市で養成講座を実施しております。この制度または講座について、知っていますか。また、今後ご参加いただけますか。(1つに○)

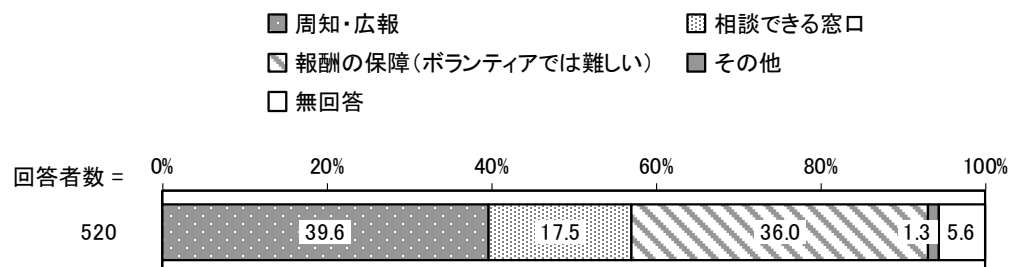
「知らない」の割合が 74.2%と最も高く、次いで「知っているが、参加する予定はない」の割合が 21.2%となっています。

令和元年度と比較すると、大きな変化はみられません。



問 26. 市民後見協力員を増やしていくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(一番重要だと思うものに○)

「周知・広報」の割合が 39.6%と最も高く、次いで「報酬の保障(ボランティアでは難しい)」の割合が 36.0%、「相談できる窓口」の割合が 17.5%となっています。

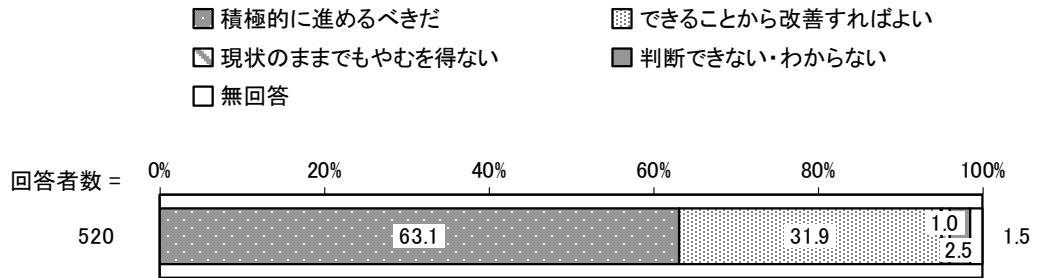


市民

(5) 福祉のまちづくりについて

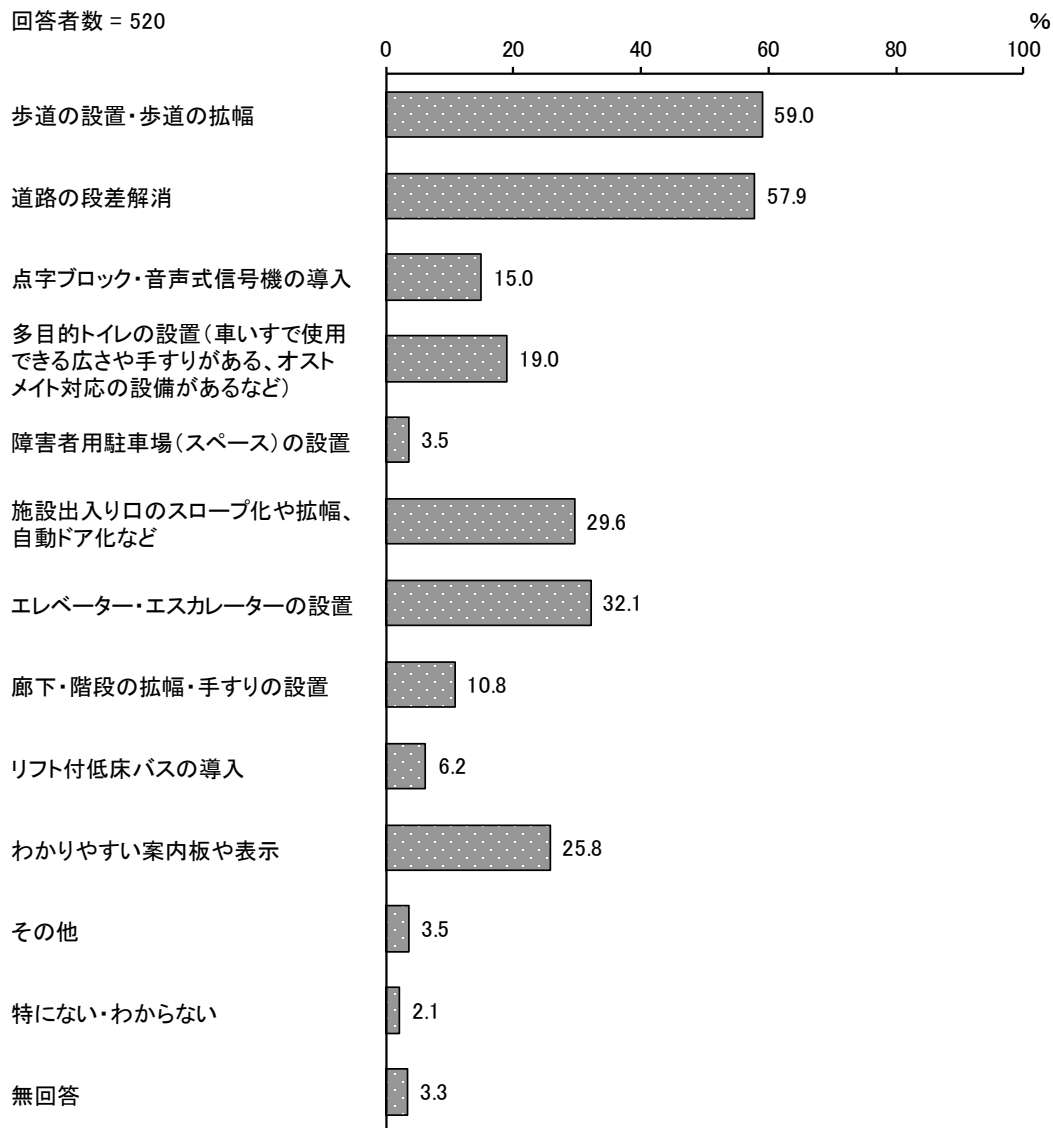
問 27. 「公共施設や道路、交通機関などといった生活環境を改善し、障害のある人やお年寄り、子どもなどが移動しやすく、社会参加しやすいようなまちづくりを進めよう」(＝「バリアフリーのまちづくり」という考え方や動きが各地で見られるようになりました。このようなまちづくりの考え方について、どのように思いますか。(1つに○)

「積極的に進めるべきだ」の割合が 63.1%と最も高く、次いで「できることから改善すればよい」の割合が 31.9%となっています。



問 28. 市内の公共施設や道路、交通機関について、障害のある人やお年寄り、子どもなどのために改善する必要があると思うのはどのような点ですか。（3つまでに○）

「歩道の設置・歩道の拡幅」の割合が59.0%と最も高く、次いで「道路の段差解消」の割合が57.9%、「エレベーター・エスカレーターの設置」の割合が32.1%となっています。

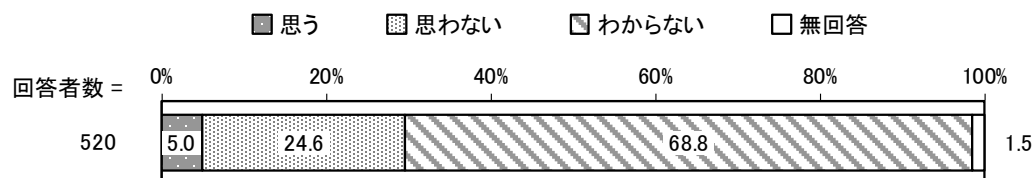


市民

(6) 障害のある人への福祉について

問 29. 障害のある人が気軽に外出したり、地域の行事に参加できるなど、松戸市は「障害のある人にとって社会参加しやすいまち」だと思いますか。(1つに○)

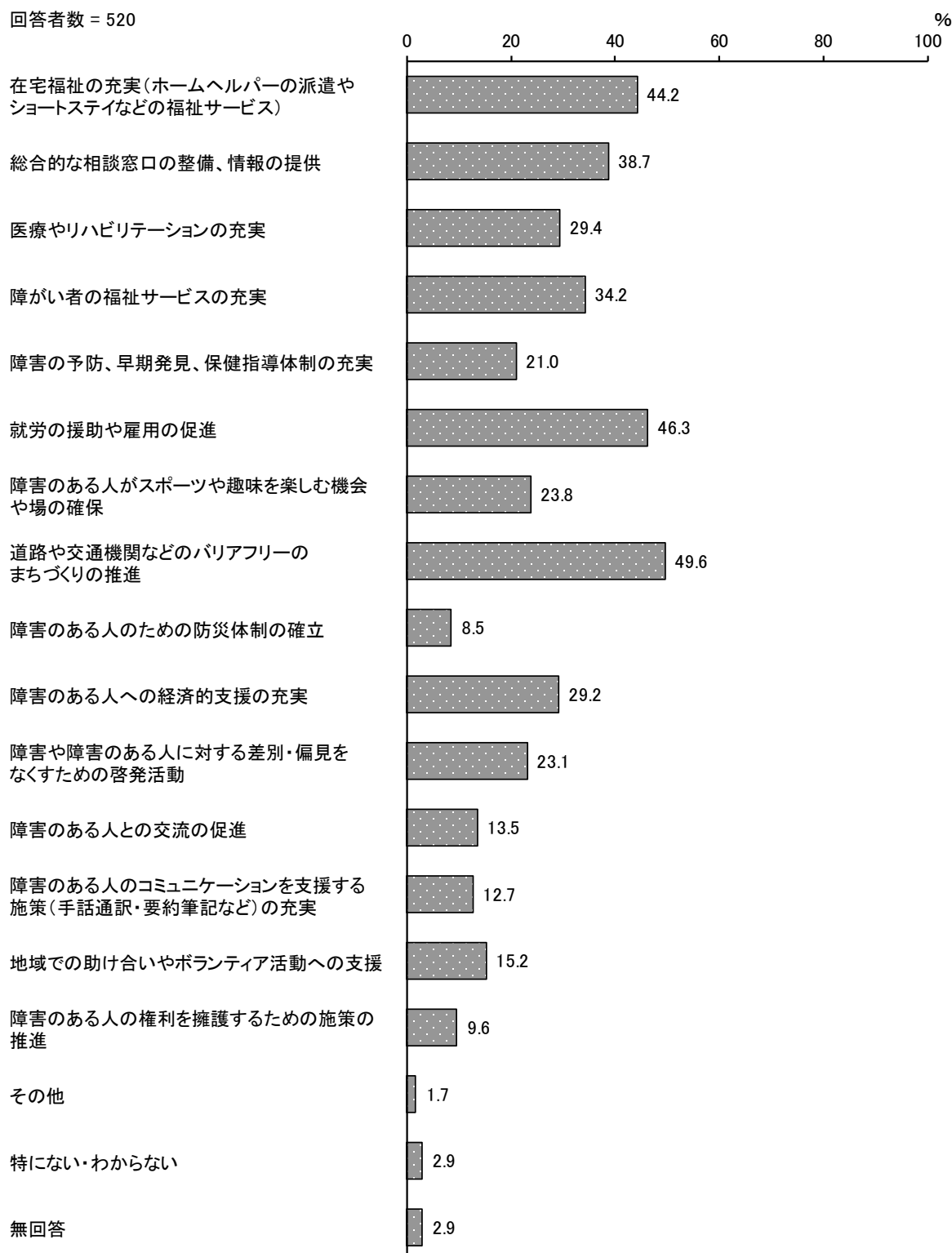
「思わない」の割合が24.6%、「思う」の割合が5.0%となっています。



問 30. 障害のある人のために、市はどのようなことに力を入れる必要があると思いますか。(5つまでに○)

「道路や交通機関などのバリアフリーのまちづくりの推進」の割合が49.6%と最も高く、次いで「就労の援助や雇用の促進」の割合が46.3%、「在宅福祉の充実(ホームヘルパーの派遣やショートステイなどの福祉サービス)」の割合が44.2%となっています。

回答者数 = 520

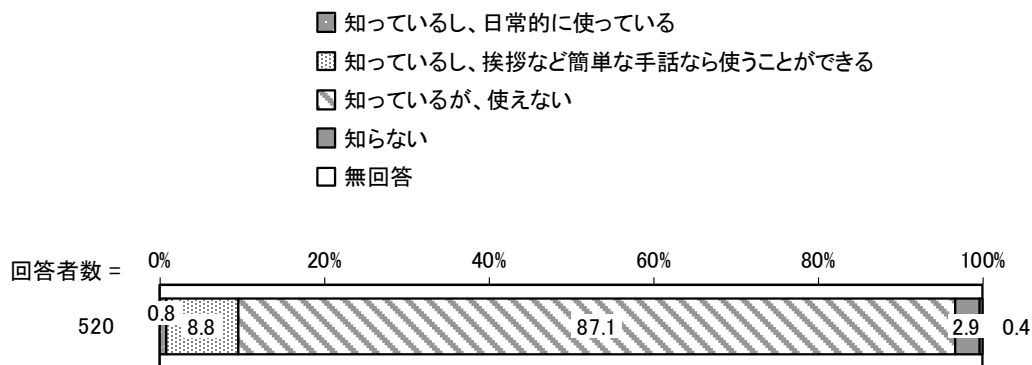


市民

(7)「手話」について

問 31. あなたは「手話」ということばを知っていますか。(1つに○)

「知っているが、使えない」の割合が87.1%と最も高くなっています。



問 31 にて「1. 知っているし、日常的に使っている」「2. 知っているし、挨拶など簡単な手話なら使うことができる」「3. 知っているが、使えない」と回答した方にお伺いします。

問 32. 「手話」を知ったきっかけは何ですか。(1つに○)

「テレビ（ドラマ、ニュースなど）」の割合が67.8%と最も高く、次いで「学校・サークル活動」の割合が13.9%となっています。

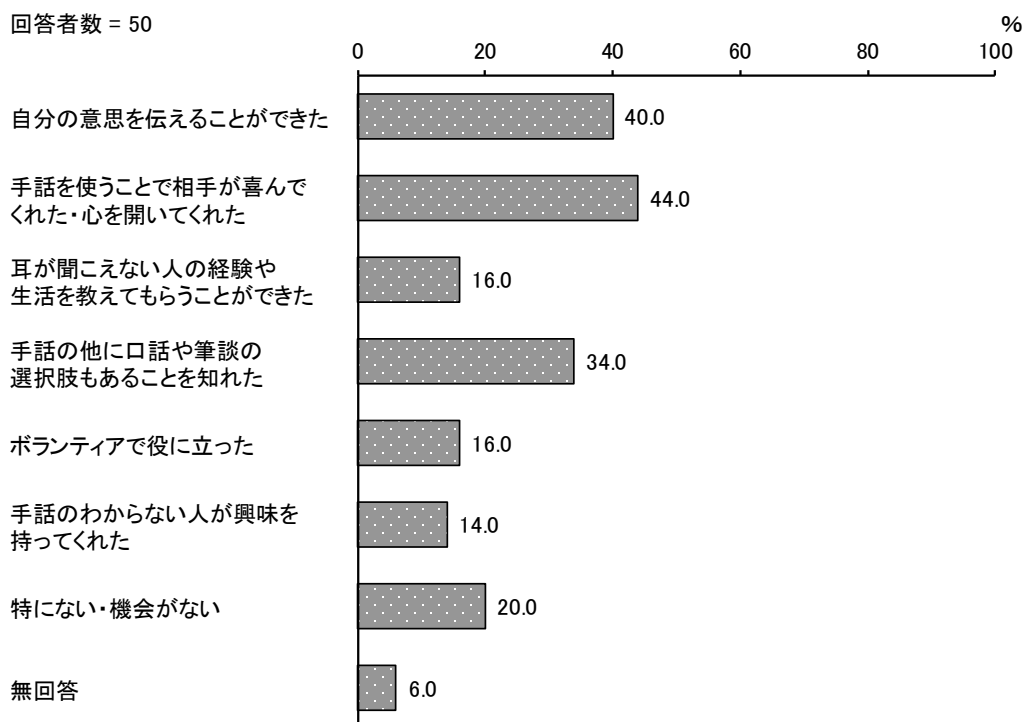
単位：%

回答者数 (件)	テレビ(ドラマ、ニュースなど)	イベント(講演会など)	学校・サークル活動	職場	病院	その他	無回答
503	67.8	2.2	13.9	3.4	0.6	2.4	9.7

問 31 にて「1. 知っているし、日常的に使っている」「2. 知っているし、挨拶など簡単な手話なら使うことができる」と回答した方にお伺いします。

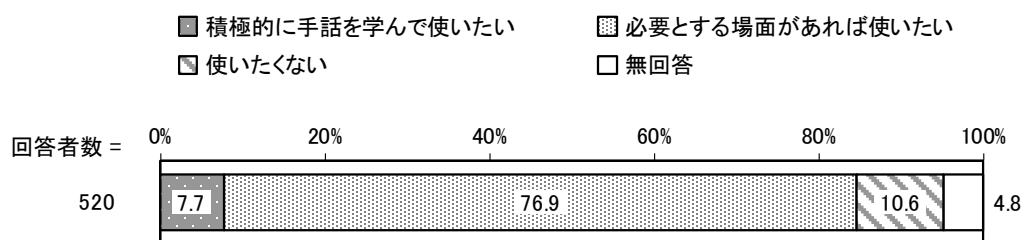
問 33. 実際に手話を使って良かったと思えたことがあれば教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

「手話を使うことで相手が喜んでくれた・心を開いてくれた」の割合が 44.0%と最も高く、次いで「自分の意思を伝えることができた」の割合が 40.0%、「手話の他に口話や筆談の選択肢もあることを知れた」の割合が 34.0%となっています。



問 34. あなたはコミュニケーションの手段として手話を使ってみたいと思いますか。
(1つに○)

「必要とする場面があれば使いたい」の割合が 76.9%と最も高く、次いで「使いたくない」の割合が 10.6%となっています。

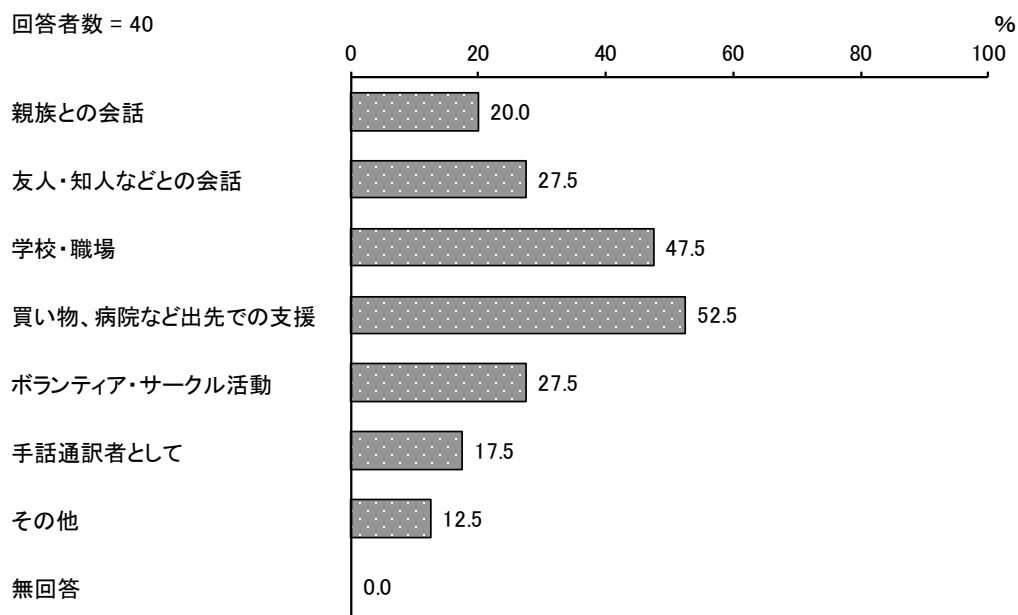


市民

問 34 にて「1. 積極的に手話を学んで使いたい」と回答した方にお伺いします。

問 35. どのような理由・場面で手話を使ってみたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「買い物、病院など出先での支援」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「学校・職場」の割合が 47.5%、「友人・知人などとの会話」、「ボランティア・サークル活動」の割合が 27.5%となっています。



問 36. 最後に、今までお伺いしたことの他に、ご意見・ご要望・ご感想などがありましたら、お聞かせください。

「障害理解・福祉教育」が 37 件と多くなっています。

分類回答	件数
1. 療育・教育	9
(1) 障害児の療育・保育	2
(2) 障害児教育	2
(3) 生涯学習、文化・スポーツ・レクリエーション活動	5
2. 雇用・就業	4
(1) 一般企業での就業	1
(2) 福祉的就労	3
3. 保健・医療	5
(1) 健康づくりと病気・障害の早期発見・早期対応	2
(2) 医療	3
4. 福祉サービス	13
(1) 障害福祉サービス	11
(2) その他在宅福祉サービス	2
5. 相談・情報提供	20
(1) 相談	9
(2) 情報	11
6. 地域福祉	46
(1) 障害理解・福祉教育	37
(2) 住民同士の支え合い	9
7. 生活環境	31
(1) バリアフリー・ユニバーサルデザイン	22
(2) 防犯・防災対策	7
(3) 外出・コミュニケーション支援	2
8. 障害者施策推進体制	11
(1) 障害者の権利擁護	2
(2) 障害者施策推進体制の整備	9
9. その他	10

市民

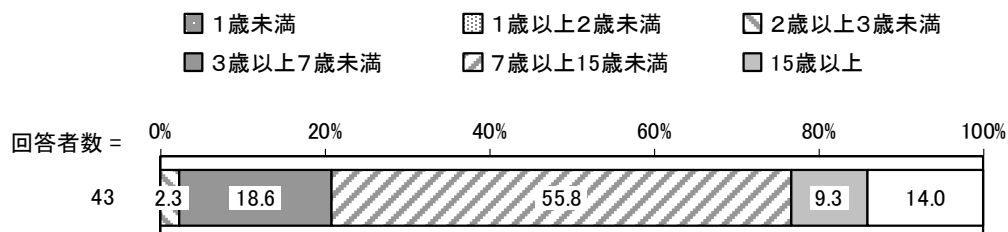
医療的ケア児

4 医療的ケア児実態・ニーズ調査

(1) 医療的ケアが必要なお子様について

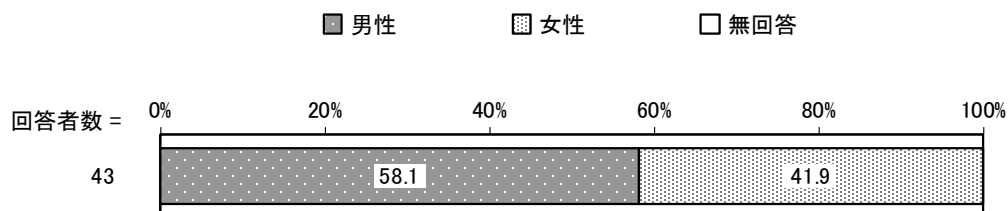
問1 ご本人の年齢 *令和4年8月1日現在

「7歳以上15歳未満」の割合が55.8%と最も高く、次いで「3歳以上7歳未満」の割合が18.6%となっています。



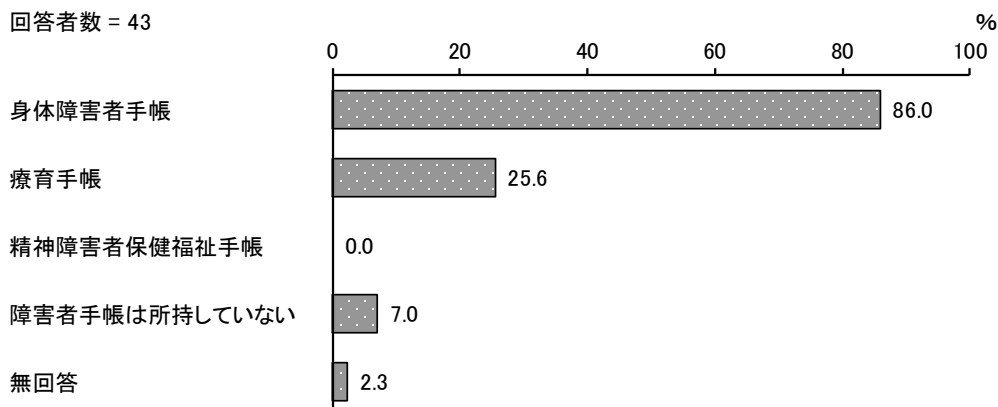
問2 ご本人の性別 (あてはまるものいずれかに○)

「男性」の割合が58.1%、「女性」の割合が41.9%となっています。



問3 お子さんがお持ちの障害者手帳及びそれぞれの等級について、お答えください (あてはまるもの全てに○)

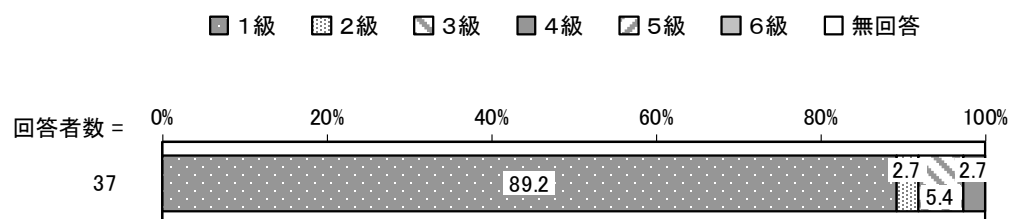
「身体障害者手帳」の割合が86.0%と最も高く、次いで「療育手帳」の割合が25.6%となっています。



医療的ケア児

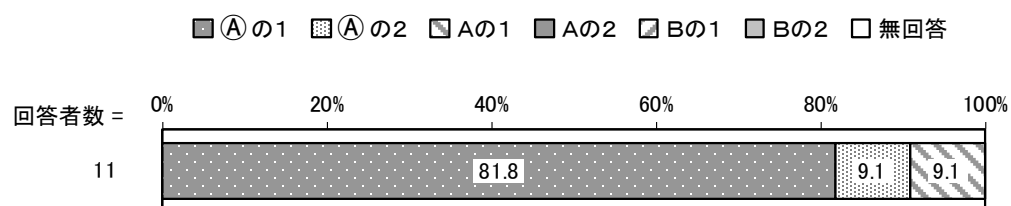
身体障害者手帳の等級

「1級」の割合が89.2%と最も高くなっています。



療育手帳の等級

「Aの1」の割合が81.8%と最も高くなっています。



精神障害者保健福祉手帳の等級

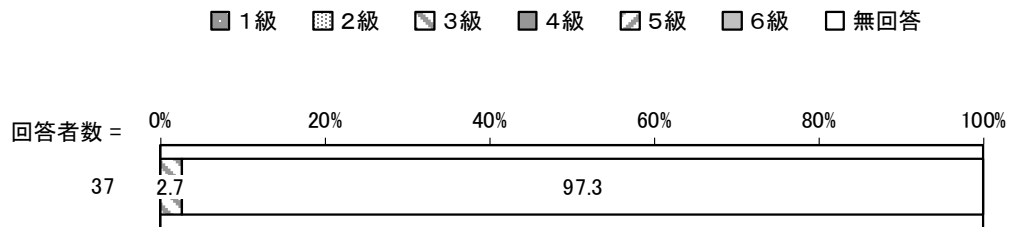
有効回答がありませんでした。

問3で「1. 身体障害者手帳」と答えた方にお聞きします

問4 障害の種類及びそれぞれの等級について、お答えください
(あてはまるもの全てに○)

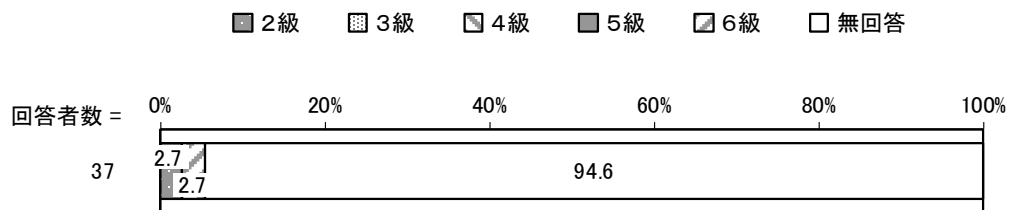
視覚障害

「3級」の割合が2.7%と最も高くなっています。



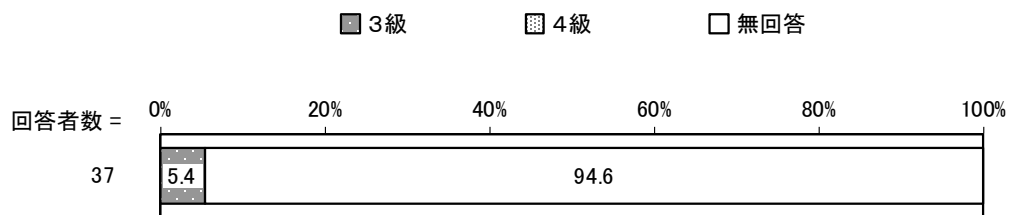
聴覚・平衡機能障害

「2級」、「6級」の割合が2.7%と最も高くなっています。



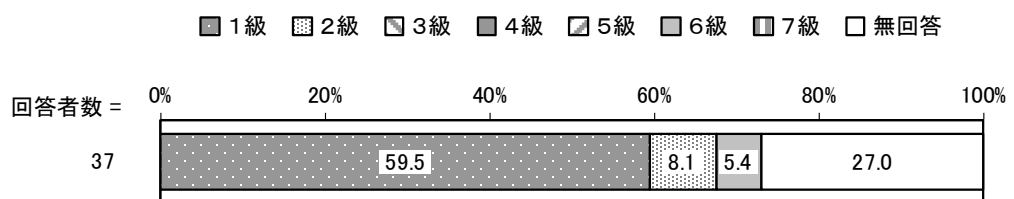
音声・言語・そしゃく機能障害

「3級」の割合が5.4%、「4級」の割合が0.0%となっています。



肢体不自由（上肢）

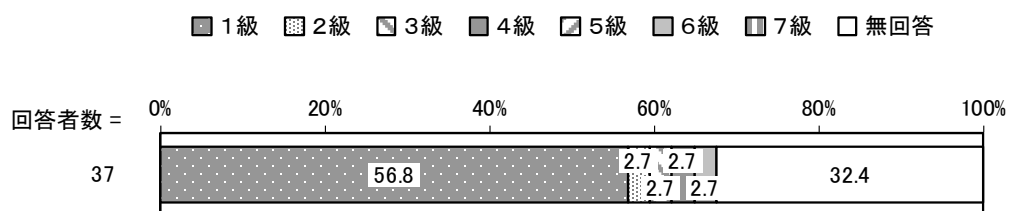
「1級」の割合が59.5%と最も高くなっています。



医療的ケア児

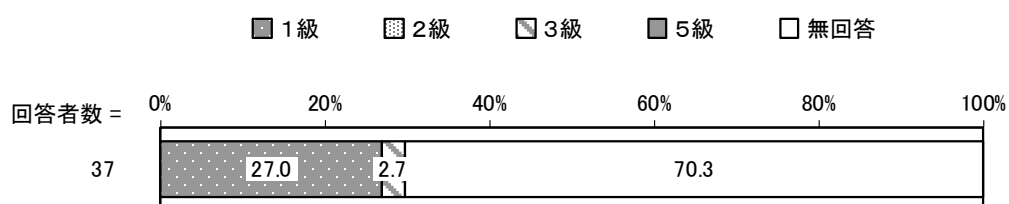
肢体不自由（下肢）

「1級」の割合が56.8%と最も高くなっています。



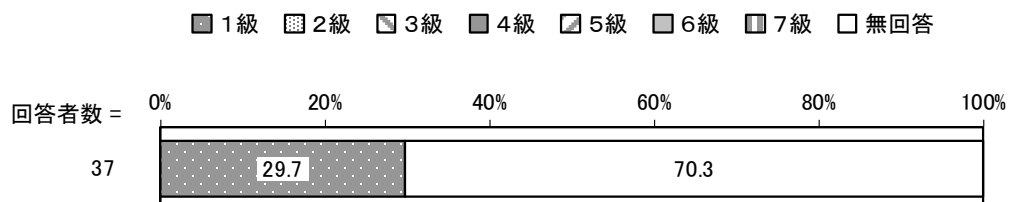
肢体不自由（体幹）

「1級」の割合が27.0%と最も高くなっています。



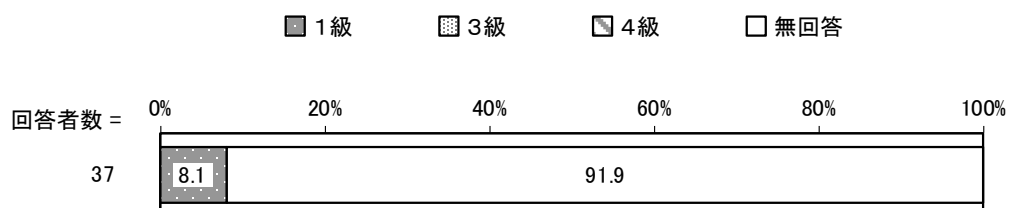
肢体不自由（運動機能障害）

「1級」の割合が29.7%と最も高くなっています。



内部障害（心臓機能障害）

「1級」の割合が8.1%と最も高くなっています。

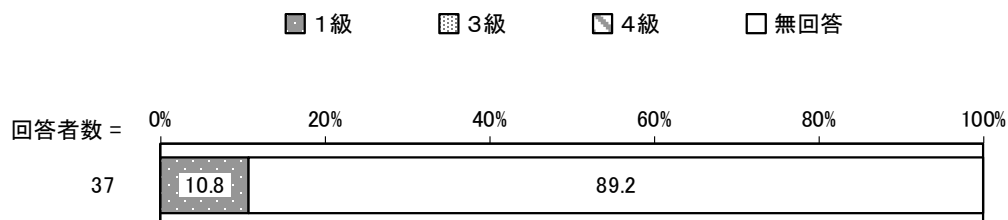


内部障害（じん臓機能障害）

有効回答がありませんでした。

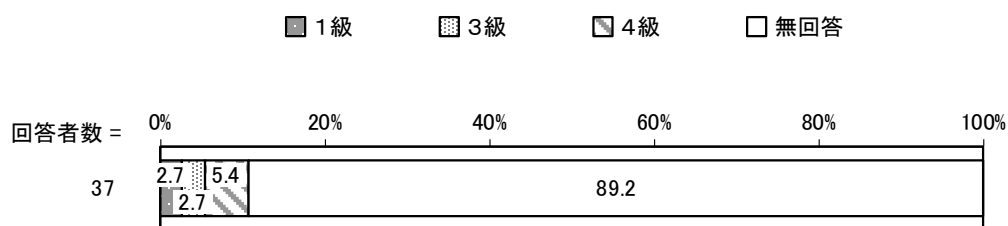
内部障害（呼吸器機能障害）

「1級」の割合が10.8%と最も高くなっています。



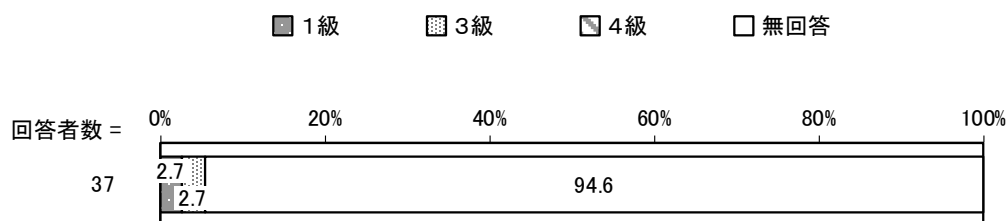
内部障害（膀胱又は直腸機能障害）

「4級」の割合が5.4%と最も高くなっています。



内部障害（小腸機能障害）

「1級」、「3級」の割合が2.7%と最も高くなっています。



内部障害（ヒト免疫不全機能障害）

有効回答がありませんでした。

内部障害（肝臓機能障害）

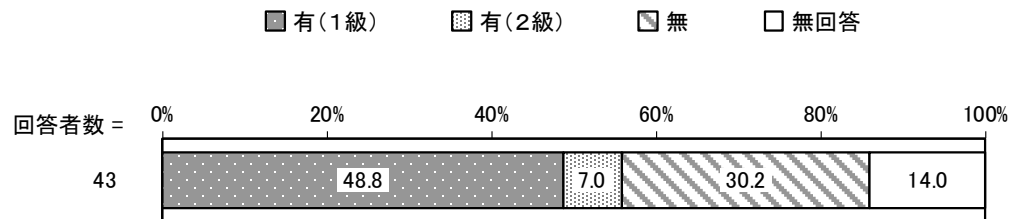
有効回答がありませんでした。

医療的ケア児

問5 それぞれの手当等の受給状況について、お答えください
(あてはまるもの全てに○)

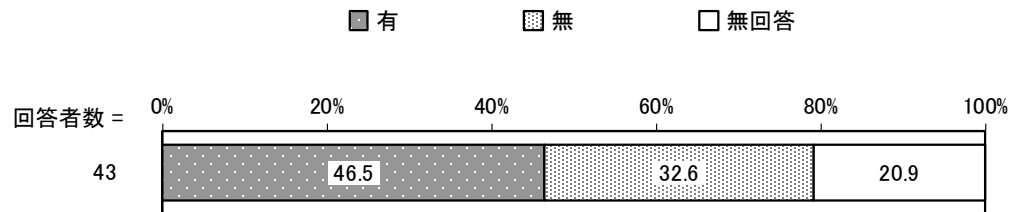
特別児童扶養手当

「有（1級）」の割合が48.8%と最も高く、次いで「無」の割合が30.2%となっています。



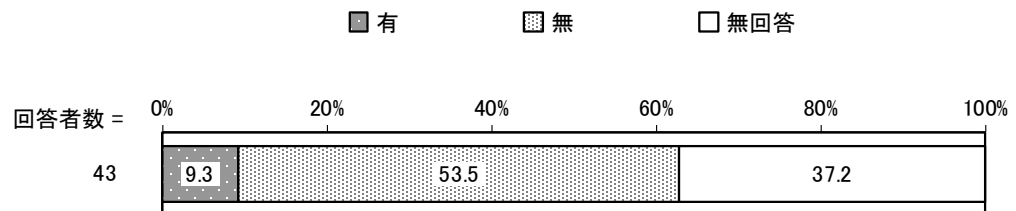
障害児福祉手当

「有」の割合が46.5%、「無」の割合が32.6%となっています。



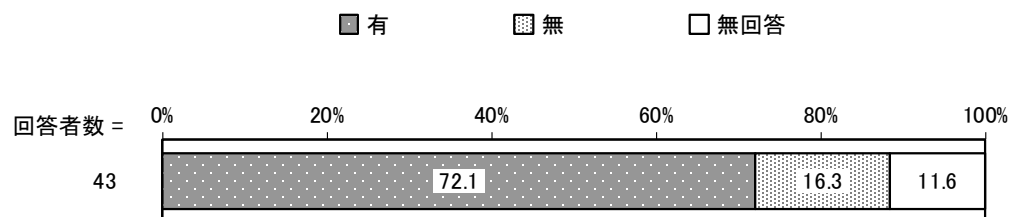
心身障害児福祉手当

「有」の割合が9.3%、「無」の割合が53.5%となっています。



小児慢性特定疾患受給者証

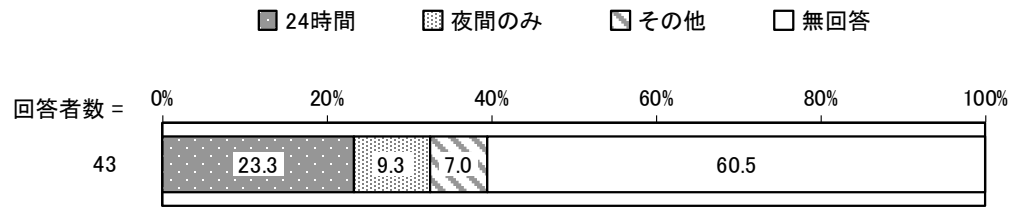
「有」の割合が72.1%、「無」の割合が16.3%となっています。



問6 必要とする医療的ケアについて、お答えください（あてはまるもの全てに○）

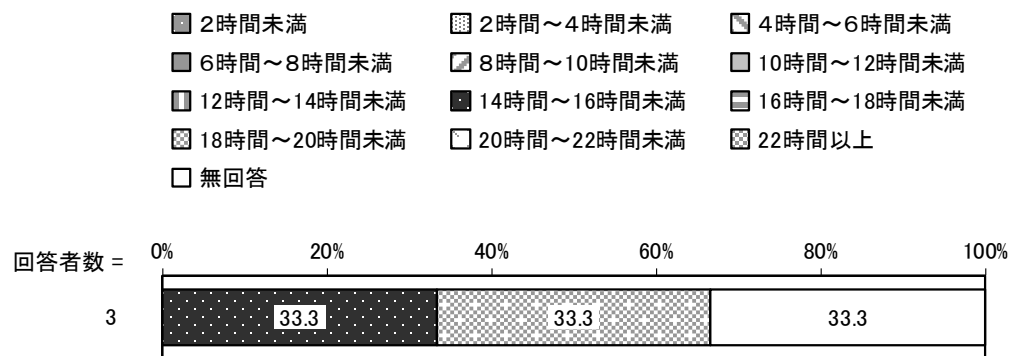
人工呼吸器管理

「24時間」の割合が23.3%、「夜間のみ」の割合が9.3%となっています。



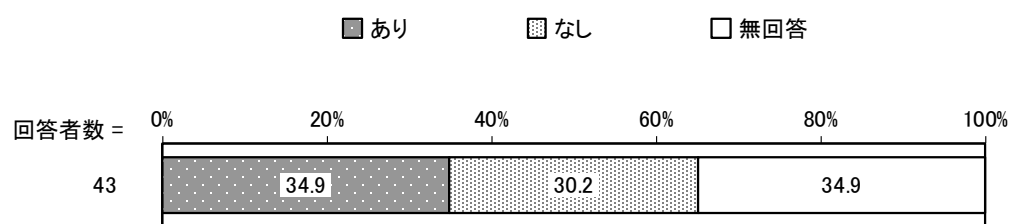
1日あたりの時間（人工呼吸器管理）

「14時間～16時間未満」、「18時間～20時間未満」が1件となっています。



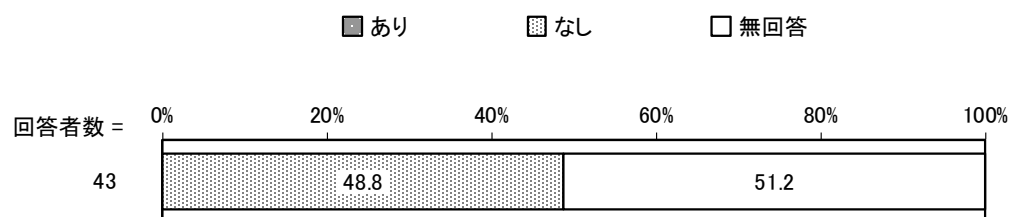
気管切開

「あり」の割合が34.9%、「なし」の割合が30.2%となっています。



経鼻咽頭エアウェイ

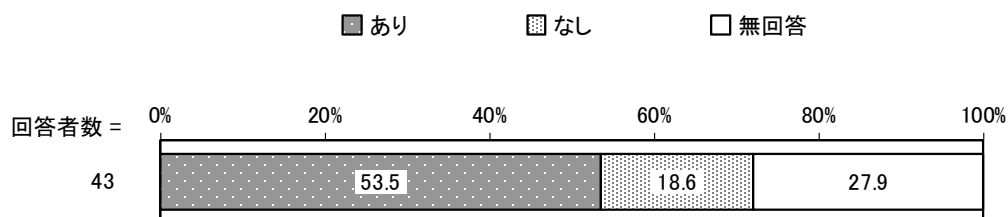
有効回答がありませんでした。



医療的ケア児

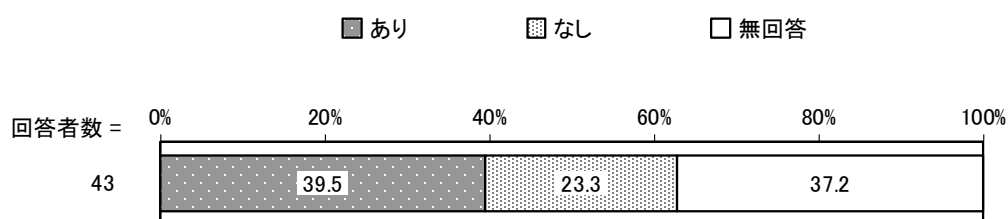
在宅酸素

「あり」の割合が53.5%、「なし」の割合が18.6%となっています。



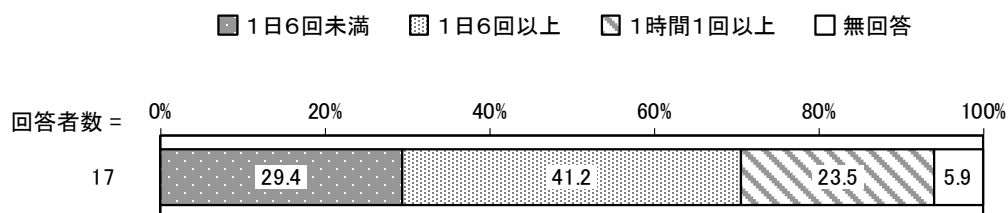
喀痰吸引（口腔、鼻腔）

「あり」の割合が39.5%、「なし」の割合が23.3%となっています。



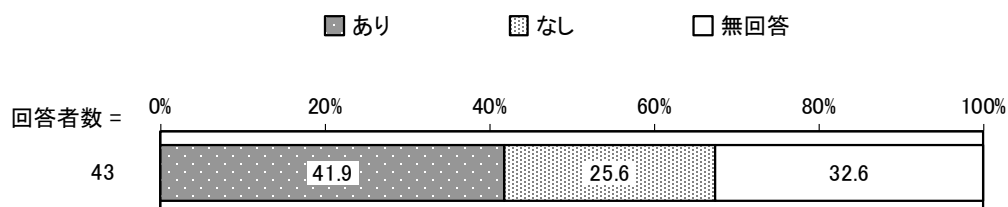
喀痰吸引あり

「1日6回以上」の割合が41.2%と最も高く、次いで「1日6回未満」の割合が29.4%、「1時間1回以上」の割合が23.5%となっています。



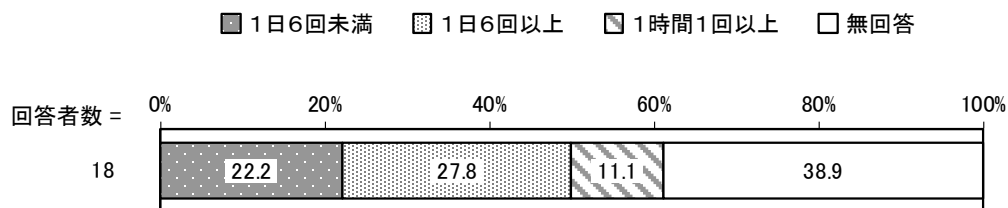
喀痰吸引（気管カニューレ）

「あり」の割合が41.9%、「なし」の割合が25.6%となっています。



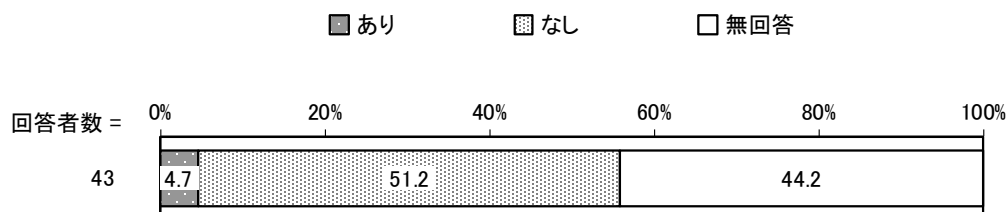
喀痰吸引（気管カニューレ）あり

「1日6回以上」の割合が27.8%と最も高く、次いで「1日6回未満」の割合が22.2%、「1時間1回以上」の割合が11.1%となっています。



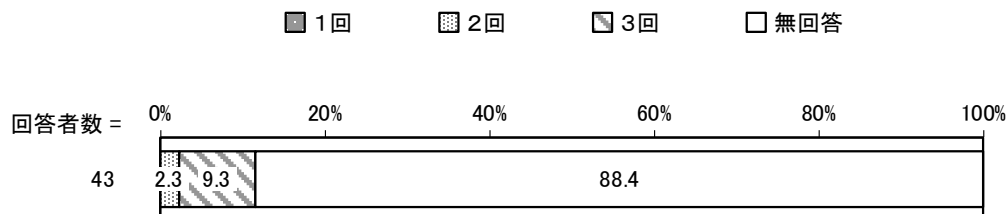
中心静脈栄養（IVH）

「あり」の割合が4.7%、「なし」の割合が51.2%となっています。



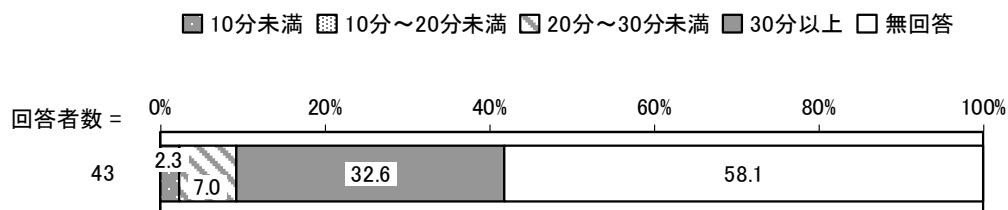
1日あたり回数（経管栄養（胃ろう・腸ろう・経鼻））

「3回」の割合が9.3%と最も高くなっています。



1回あたりの時間（経管栄養（胃ろう・腸ろう・経鼻））

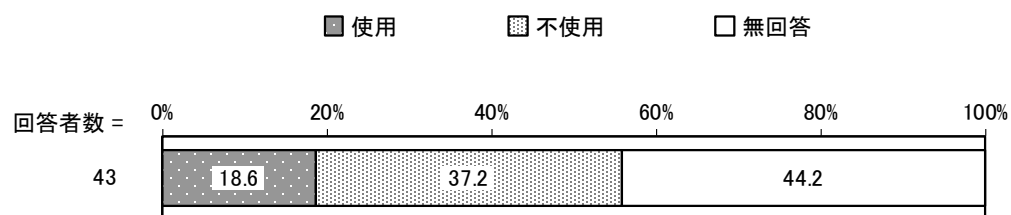
「30分以上」の割合が32.6%と最も高くなっています。



医療的ケア児

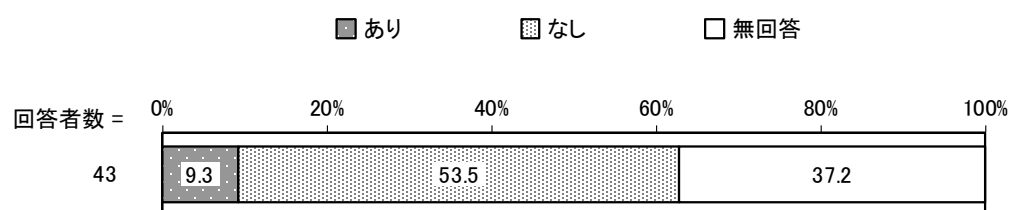
持続注入ポンプ使用（経管栄養（胃ろう・腸ろう・経鼻））

「使用」の割合が18.6%、「不使用」の割合が37.2%となっています。



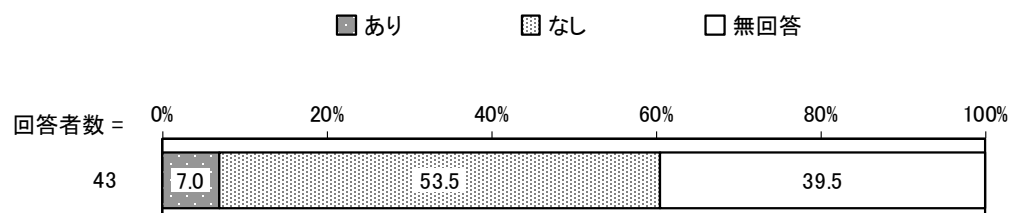
導尿

「あり」の割合が9.3%、「なし」の割合が53.5%となっています。



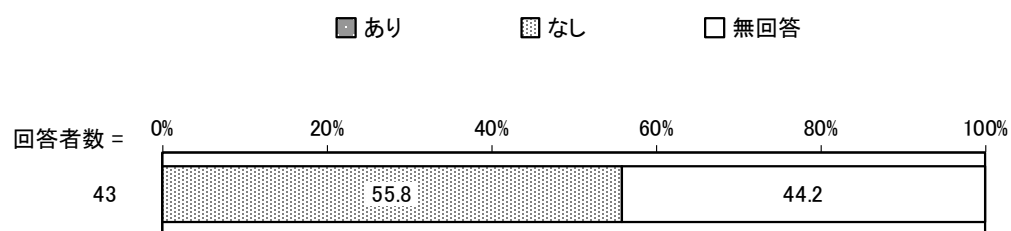
人工肛門（ストマ）

「あり」の割合が7.0%、「なし」の割合が53.5%となっています。



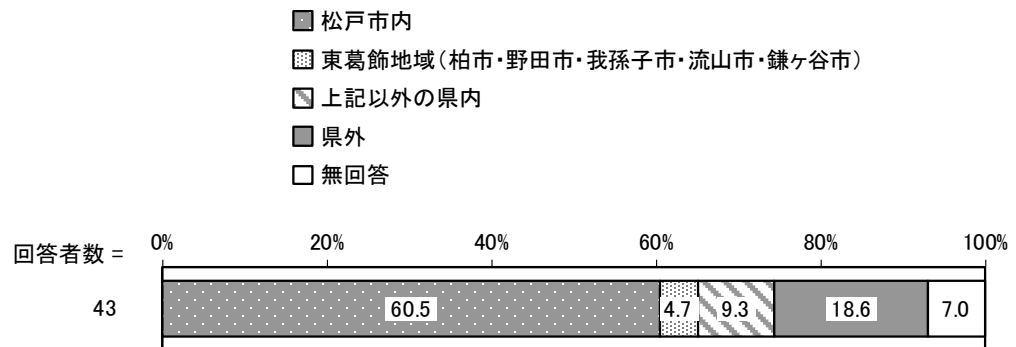
腹膜透析

「なし」の割合が55.8%となっています。



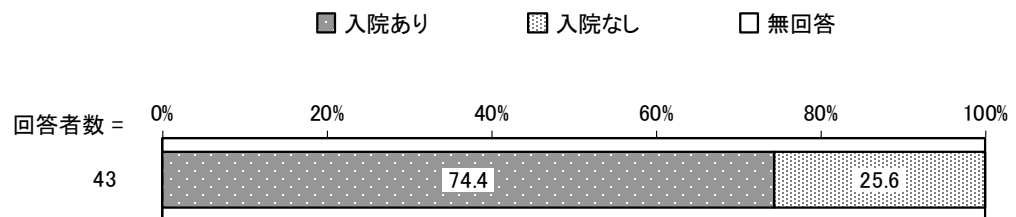
問7 医療的ケアについて受診する医療機関名等について、お答えください
(あてはまるものいずれかに○)

「松戸市内」の割合が60.5%と最も高く、次いで「県外」の割合が18.6%となっています。



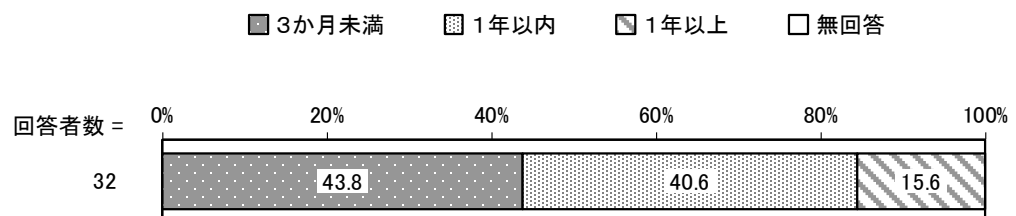
問8 出生時の新生児集中治療室 (NICU) への入院はありましたか
(あてはまるものいずれかに○)

「入院あり」の割合が74.4%、「入院なし」の割合が25.6%となっています。



入院あり

「3か月未満」の割合が43.8%と最も高く、次いで「1年以内」の割合が40.6%、「1年以上」の割合が15.6%となっています。

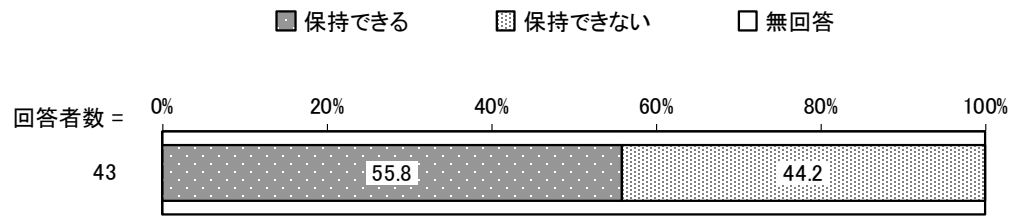


医療的ケア児

問9 心身の状態について、お答えください（あてはまるもの全てに○）

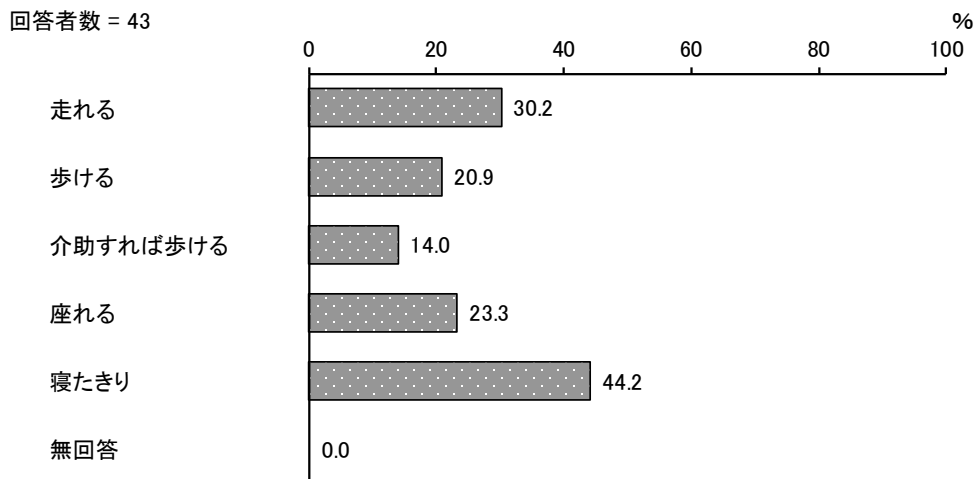
1) 自力での座位保持

「保持できる」の割合が55.8%、「保持できない」の割合が44.2%となっています。



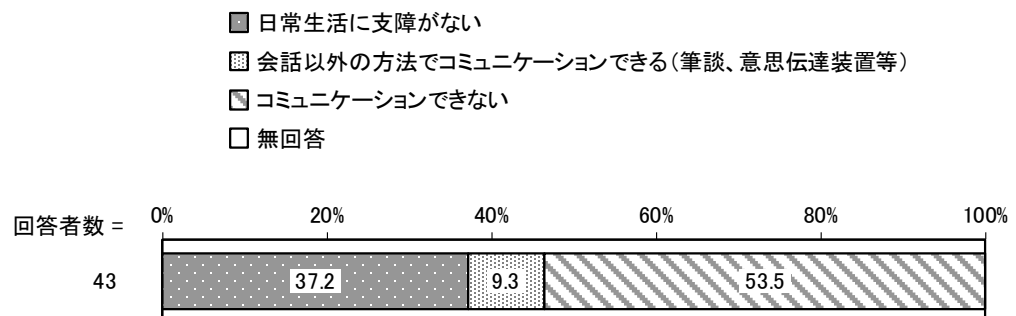
2) 運動機能

「寝たきり」の割合が44.2%と最も高く、次いで「走れる」の割合が30.2%、「座れる」の割合が23.3%となっています。



3) コミュニケーション

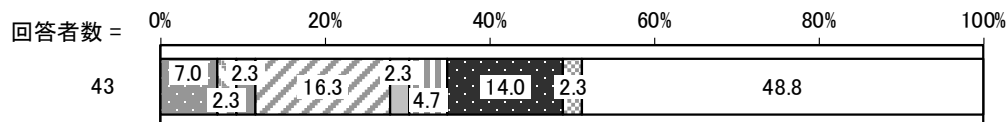
「コミュニケーションできない」の割合が53.5%と最も高く、次いで「日常生活に支障がない」の割合が37.2%となっています。



問 10 日中の活動場所はどこですか（あてはまるものいずれかに○）

「小学校（通常級・特別支援級）」の割合が 16.3%と最も高く、次いで「特別支援学校（小学部・中学部・高等部）」の割合が 14.0%となっています。

- 自宅
- 保育園
- 幼稚園
- 児童発達支援施設
- 小学校（通常級・特別支援級）
- 中学校（通常級・特別支援級）
- 高等学校
- 特別支援学校（小学部・中学部・高等部）
- 放課後等デイサービス
- 通所事業所（生活介護等）
- 放課後児童クラブ
- その他
- 無回答

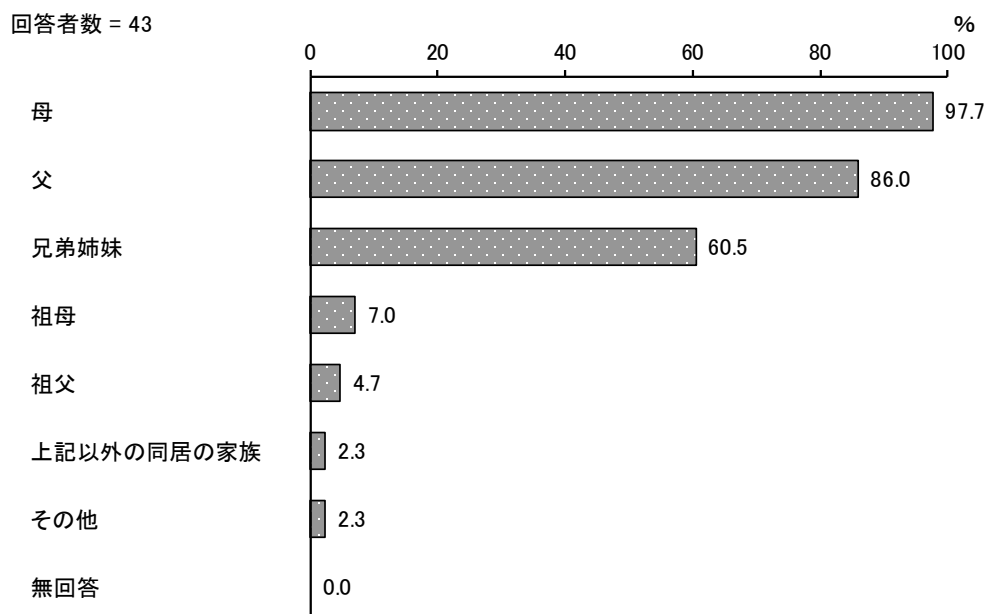


医療的ケア児

(2) ご家族について

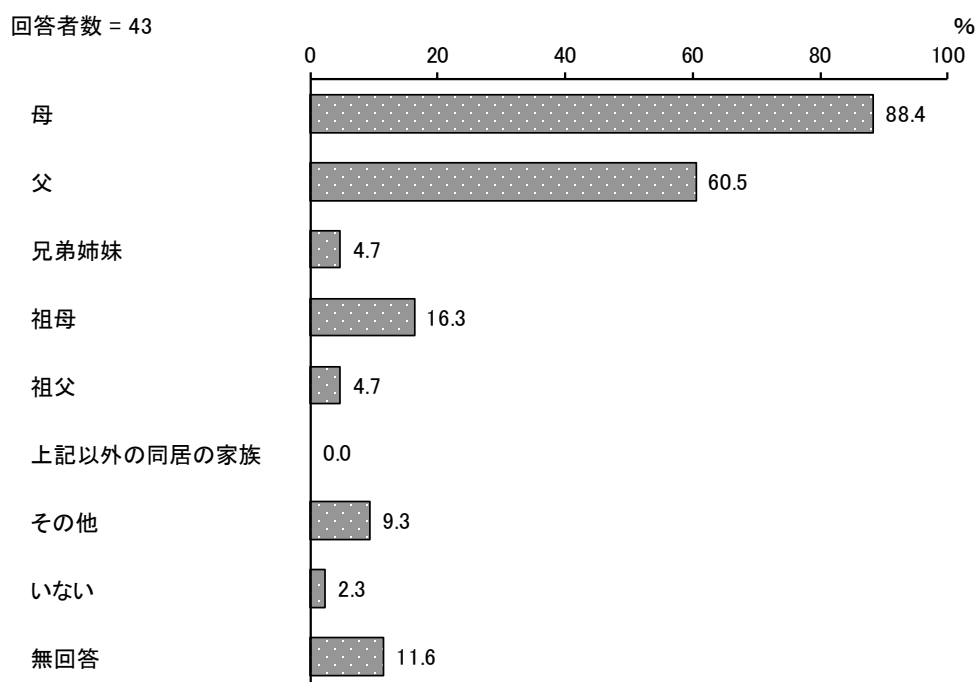
問11 現在、ご本人と一緒に住んでいる方はどなたですか（あてはまるもの全てに○）

「母」の割合が97.7%と最も高く、次いで「父」の割合が86.0%、「兄弟姉妹」の割合が60.5%となっています。



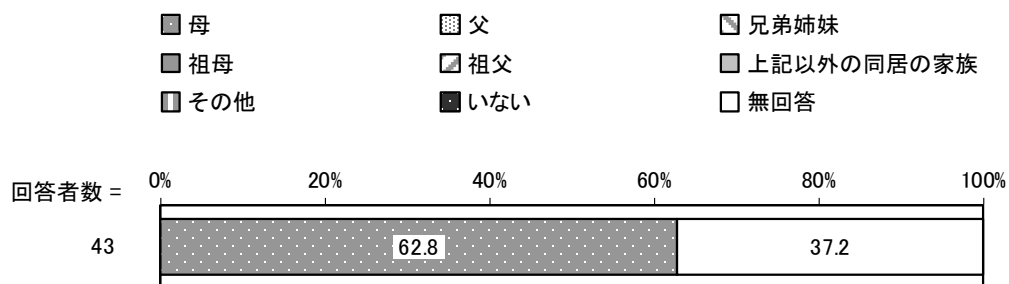
問12 自宅で医療的ケアを行う方はどなたですか（あてはまるもの全てに○）

「母」の割合が88.4%と最も高く、次いで「父」の割合が60.5%、「祖母」の割合が16.3%となっています。



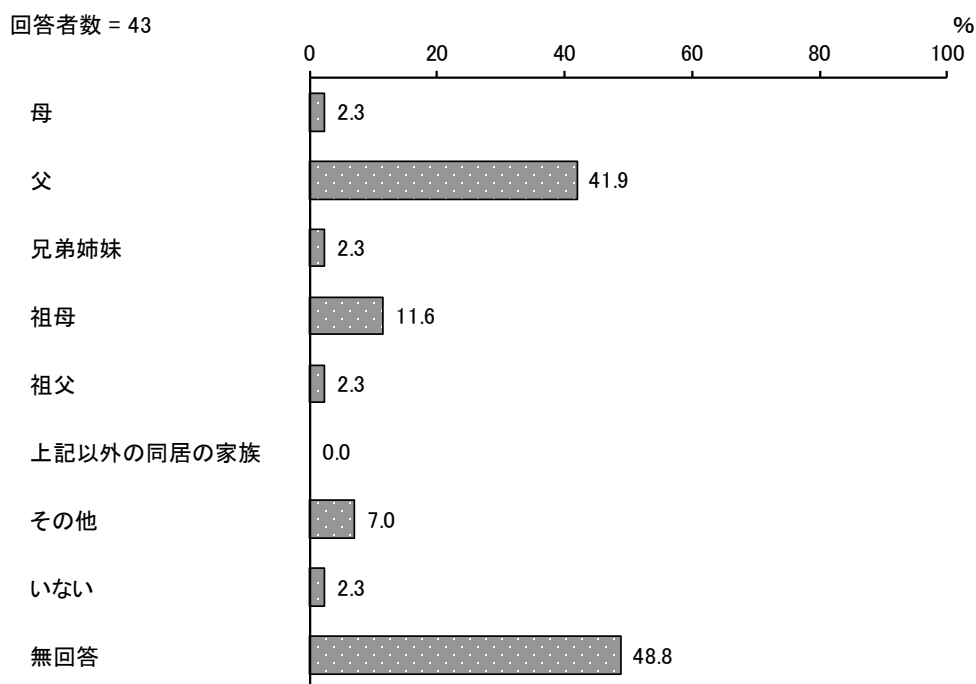
上記のうち「主たる介護者」である方

「母」の割合が62.8%と最も高くなっています。



上記のうち「従たる介護者」である方

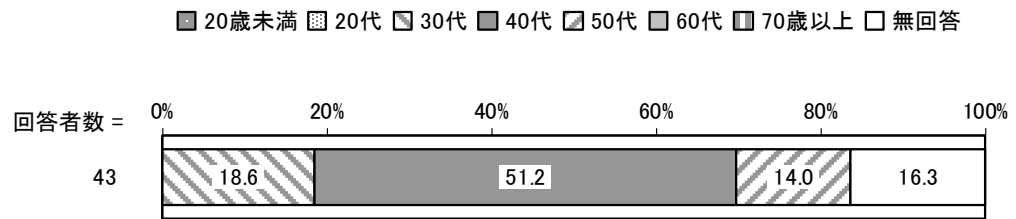
「父」の割合が41.9%と最も高く、次いで「祖母」の割合が11.6%となっています。



医療的ケア児

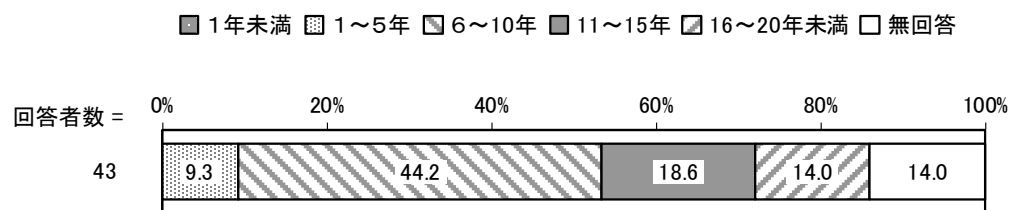
問 13 「主たる介護者」の年齢はいくつですか（あてはまるものいずれかに○）

「40代」の割合が51.2%と最も高く、次いで「30代」の割合が18.6%、「50代」の割合が14.0%となっています。



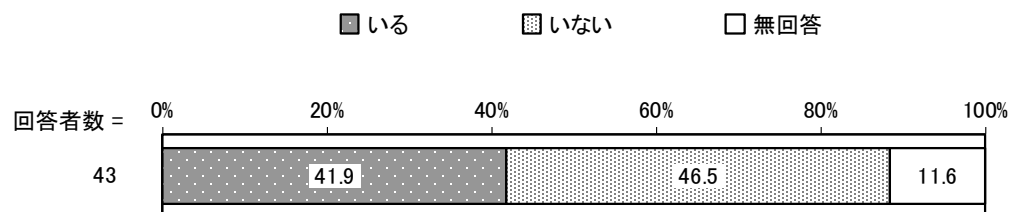
問 14 医療的ケアの継続年数について、お答えください（あてはまるものいずれかに○）

「6～10年」の割合が44.2%と最も高く、次いで「11～15年」の割合が18.6%、「16～20年未満」の割合が14.0%となっています。



問 15 家族による医療的ケアが困難な場合、代わりにケアを依頼できる相手はいますか（あてはまるものいずれかに○）

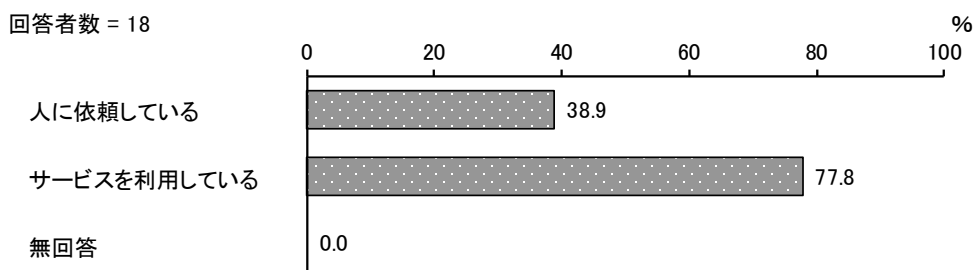
「いる」の割合が41.9%、「いない」の割合が46.5%となっています。



問 15 で「1. いる」と答えた方にお聞きします

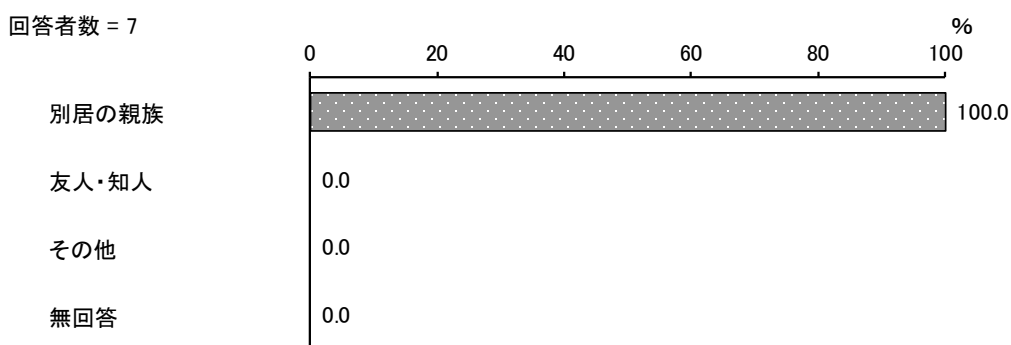
問 16 依頼できる相手はどなたですか（あてはまるもの全てに○）

「人に依頼している」の割合が 38.9%、「サービスを利用している」の割合が 77.8%となっています。



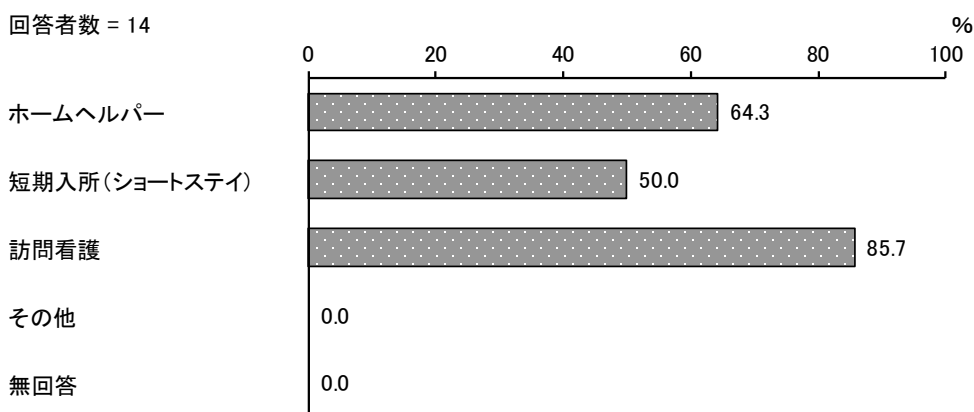
人に依頼している

「別居の親族」が 7 件、「友人・知人」が 0 件となっています。



サービスを利用している

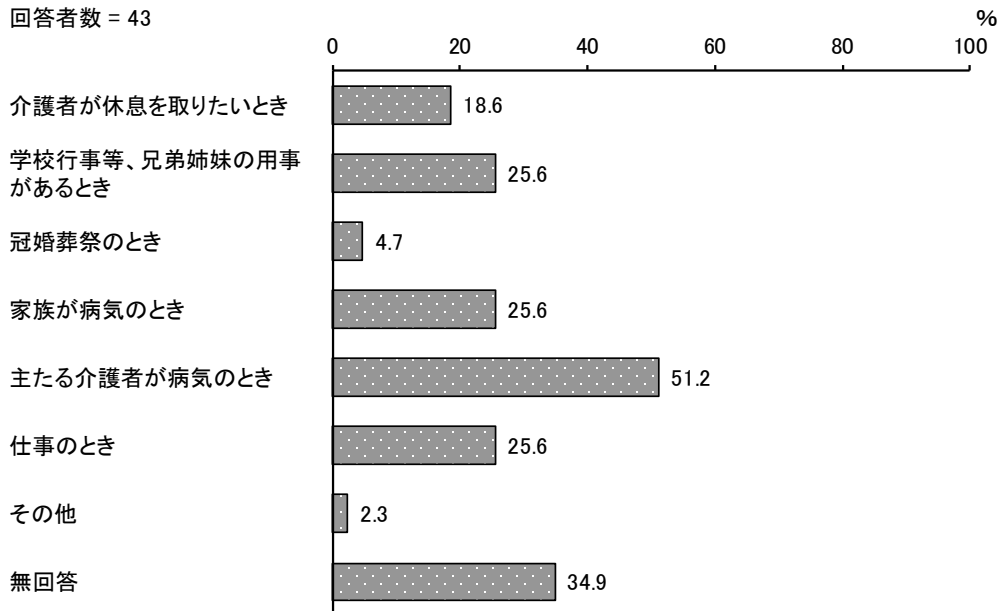
「訪問看護」の割合が 85.7%と最も高く、次いで「ホームヘルパー」の割合が 64.3%、「短期入所（ショートステイ）」の割合が 50.0%となっています。



医療的ケア児

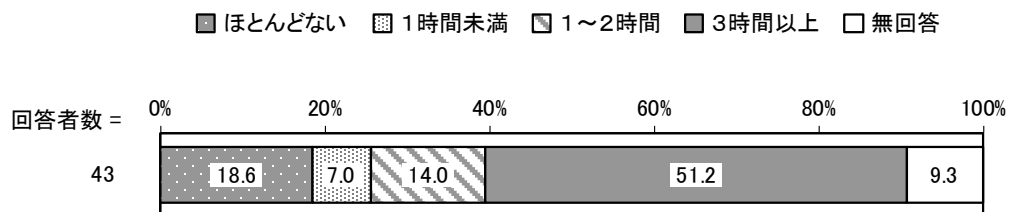
問 17 医療的ケアの代わりに依頼したいと感じるときはいつですか (あてはまるもの3つまでに○)

「主たる介護者が病気の時」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「学校行事等、兄弟姉妹の用事があるとき」、「家族が病気の時」、「仕事の時」の割合が 25.6%となっています。



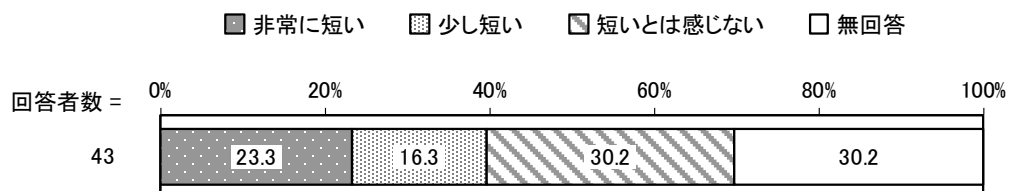
問 18 「主たる介護者」が1日の間に、医療的ケアを含む介護から離れられる平均時間はどのくらいですか (あてはまるものいずれかに○)

「3時間以上」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「ほとんどない」の割合が 18.6%、「1～2時間」の割合が 14.0%となっています。



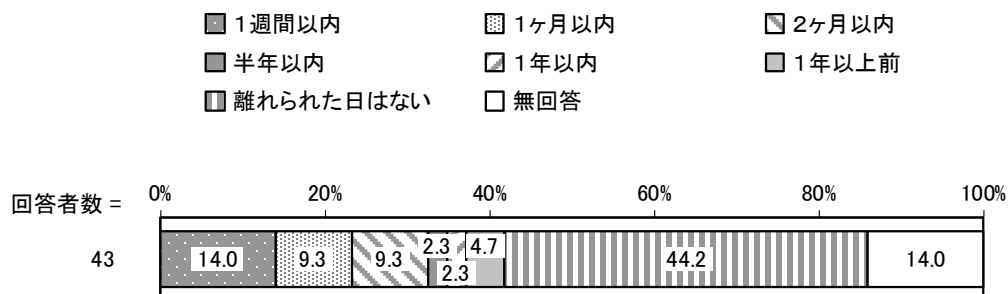
その時間の長さについてどう感じますか

「短いとは感じない」の割合が 30.2%と最も高く、次いで「非常に短い」の割合が 23.3%、「少し短い」の割合が 16.3%となっています。



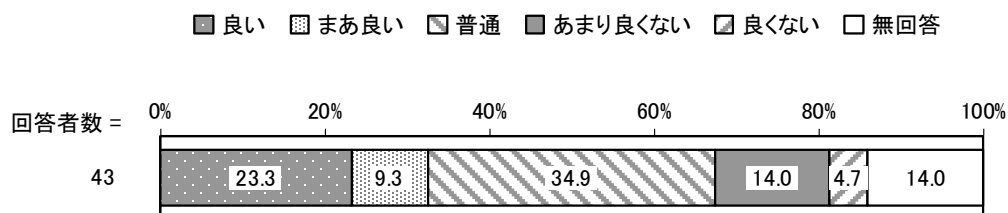
問 19 「主たる介護者」が医療的ケアを含む介護から、丸1日（24時間）離れることができた直近の日数はどのくらいですか（あてはまるものいずれかに○）

「離れられた日はない」の割合が 44.2%と最も高く、次いで「1週間以内」の割合が 14.0%となっています。



問 20 「主たる介護者」の、現在の健康状態について、お答えください（あてはまるものいずれかに○）

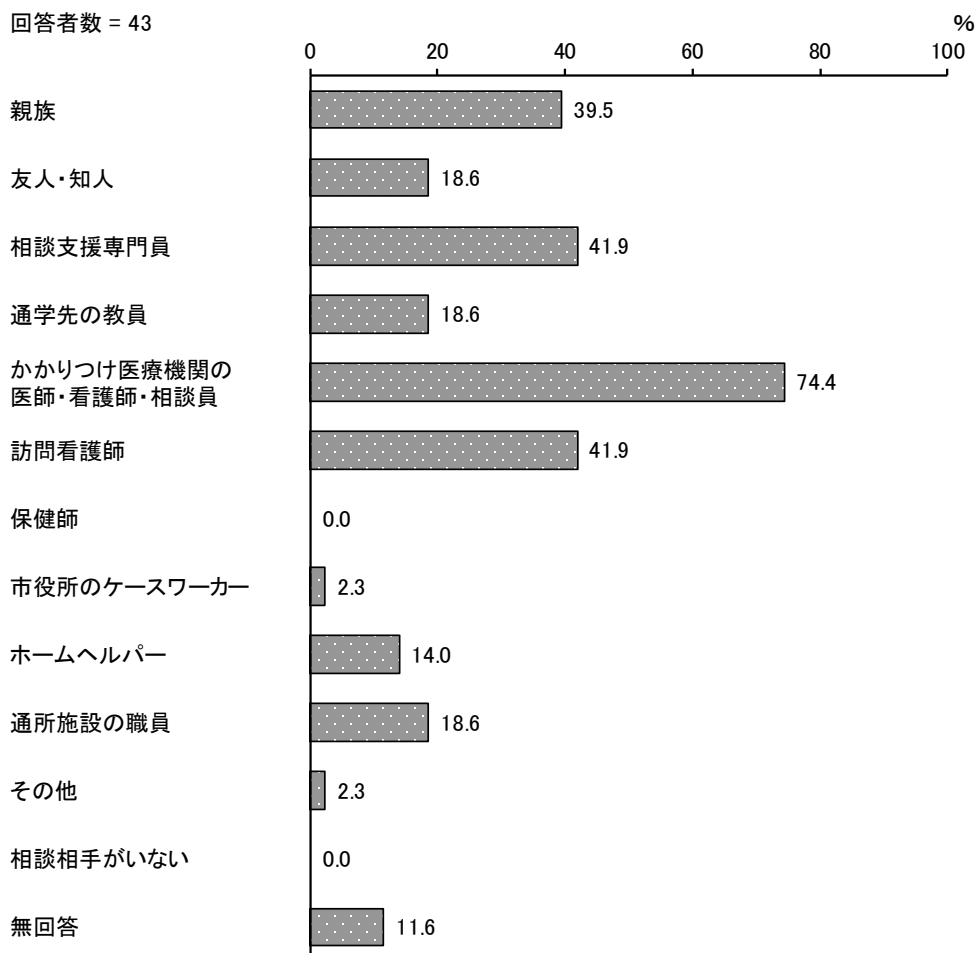
「良い」と「まあ良い」をあわせた“良い”の割合が 32.6%、「普通」の割合が 34.9%、「あまり良くない」と「良くない」をあわせた“良くない”の割合が 18.7%となっています。



医療的ケア児

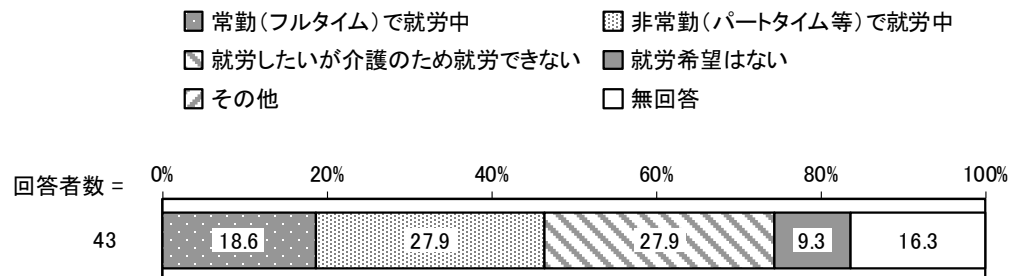
問 21 医療的ケアについて、相談できる家族以外の相手について、お答えください
(あてはまるもの全てに○)

「かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員」の割合が74.4%と最も高く、次いで「相談支援専門員」、「訪問看護師」の割合が41.9%となっています。



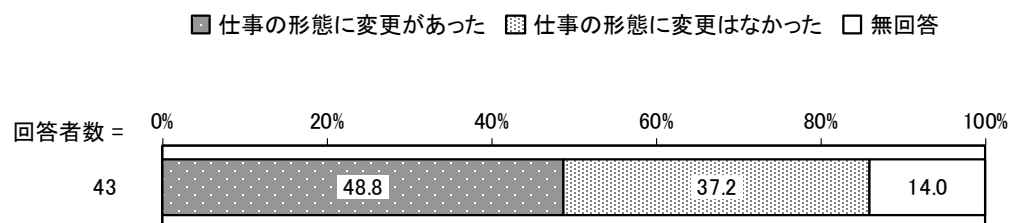
問 22 「主たる介護者」の、現在の就労状況について、お答えください
(あてはまるものいずれかに○)

「非常勤（パートタイム等）で就労中」、「就労したいが介護のため就労できない」の割合が27.9%と最も高く、次いで「常勤（フルタイム）で就労中」の割合が18.6%となっています。



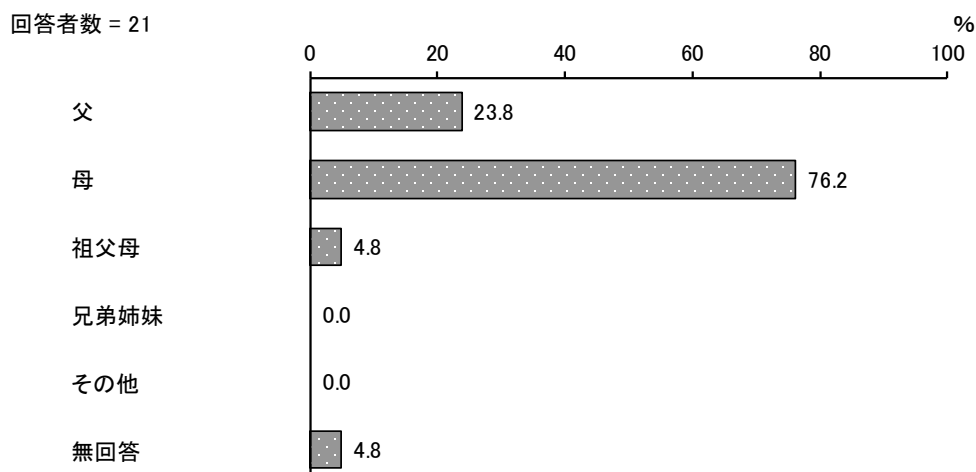
問 23 医療的ケアが必要なことによる、家族の仕事の形態（常勤・非常勤、フルタイム・短時間労働等）への影響がありましたか
(あてはまるものに○、変更があった場合は内容を記述)

「仕事の形態に変更があった」の割合が48.8%、「仕事の形態に変更はなかった」の割合が37.2%となっています。



変更のあった家族

「母」の割合が76.2%と最も高く、次いで「父」の割合が23.8%となっています。



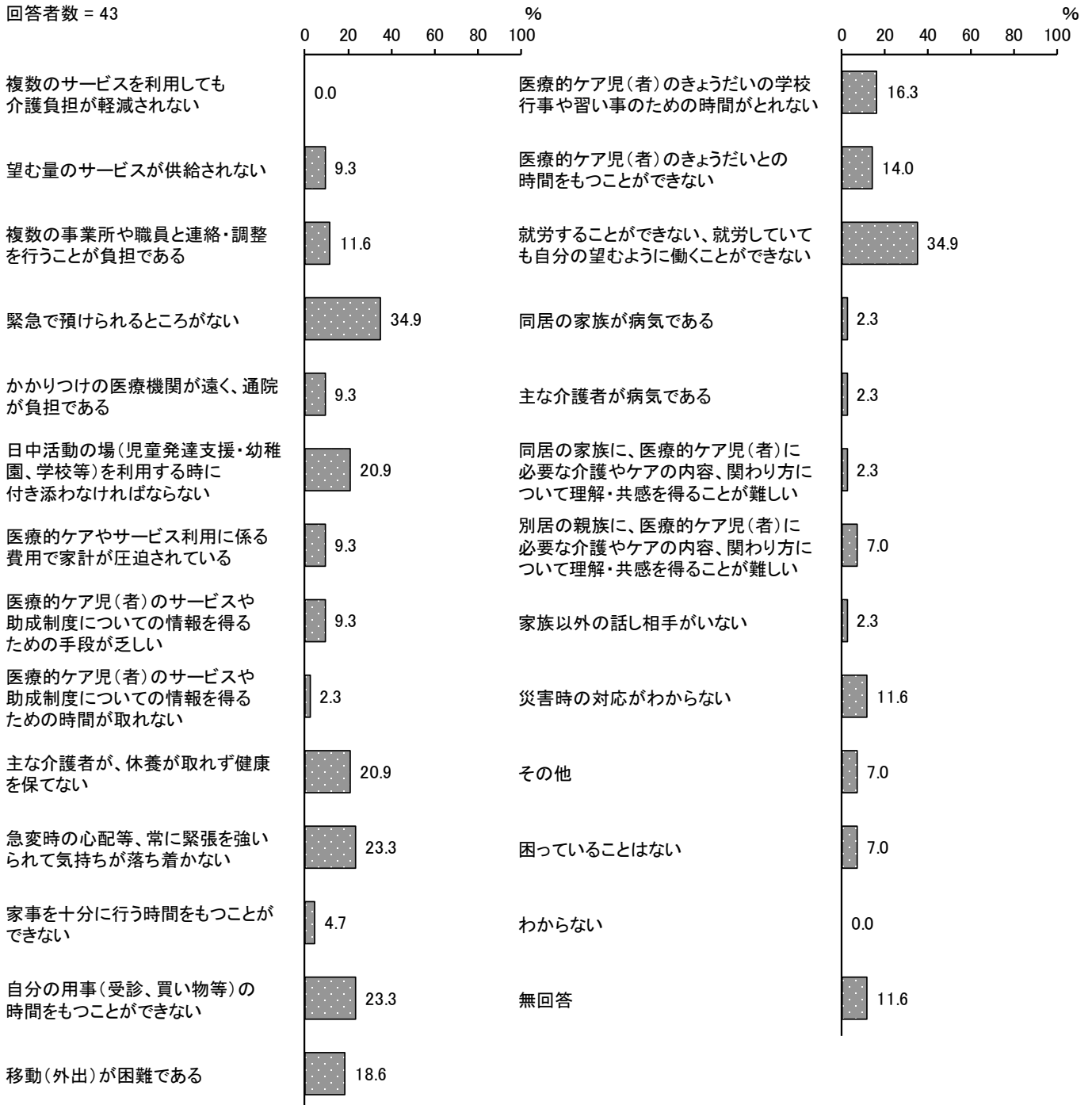
医療的ケア児

(3) 医療的ケアに伴う家族の不安等について

問 24 医療的ケアの必要なお子さまとの生活を送るうえで、主たる介護者の方は、どのようなことに困っていますか。(あてはまるもの5つまでに○)

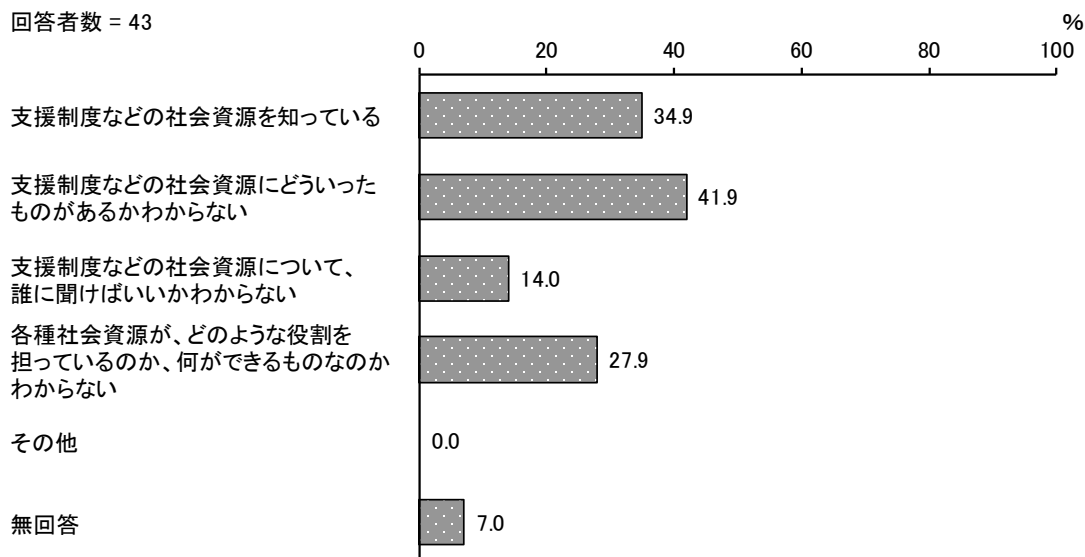
「緊急で預けられるところがない」、「就労することができない、就労していても自分の望むように働くことができない」の割合が34.9%と最も高く、次いで「急変時の心配等、常に緊張を強いられて気持ちが落ち着かない」、「自分の用事(受診、買い物等)の時間をもつことができない」の割合が23.3%となっています。

回答者数 = 43



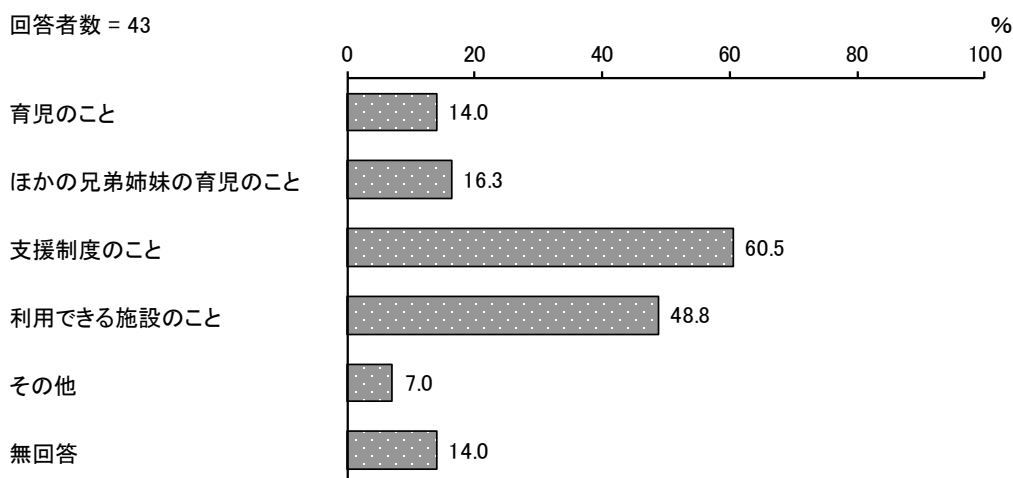
問 25 制度等の社会資源（支援制度、施設、設備、法律、団体等）について、知っていますか。（あてはまるもの全てに○）

「支援制度などの社会資源にこういったものがあるかわからない」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「支援制度などの社会資源を知っている」の割合が 34.9%、「各種社会資源が、どのような役割を担っているのか、何ができるものなのかわからない」の割合が 27.9%となっています。



問 26 情報交換や相談したい内容について、お答えください（あてはまるもの全てに○）

「支援制度のこと」の割合が 60.5%と最も高く、次いで「利用できる施設のこと」の割合が 48.8%、「ほかの兄弟姉妹の育児のこと」の割合が 16.3%となっています。

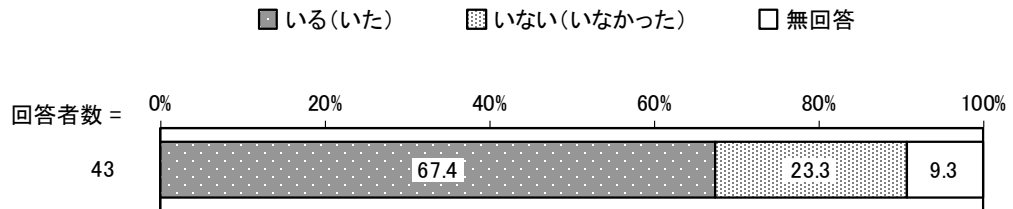


医療的ケア児

(4) サービス利用について

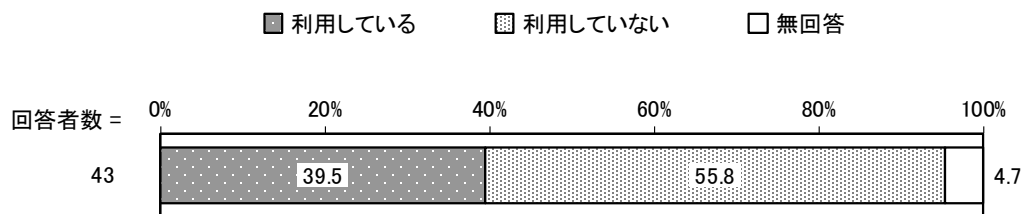
問 27 退院後在宅生活を始める際、サービス利用やその他のことについて相談できる相手はいます (いました) か (あてはまるものいずれかに○)

「いる (いた)」の割合が 67.4%、「いない (いなかった)」の割合が 23.3%となっています。



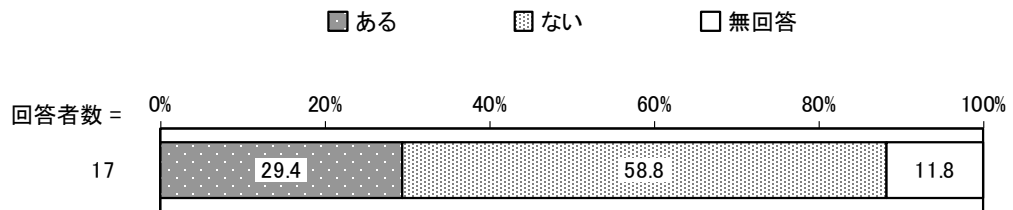
問 28 自宅でのホームヘルパーを利用していますか (あてはまるもの全てに○)

「利用している」の割合が 39.5%、「利用していない」の割合が 55.8%となっています。



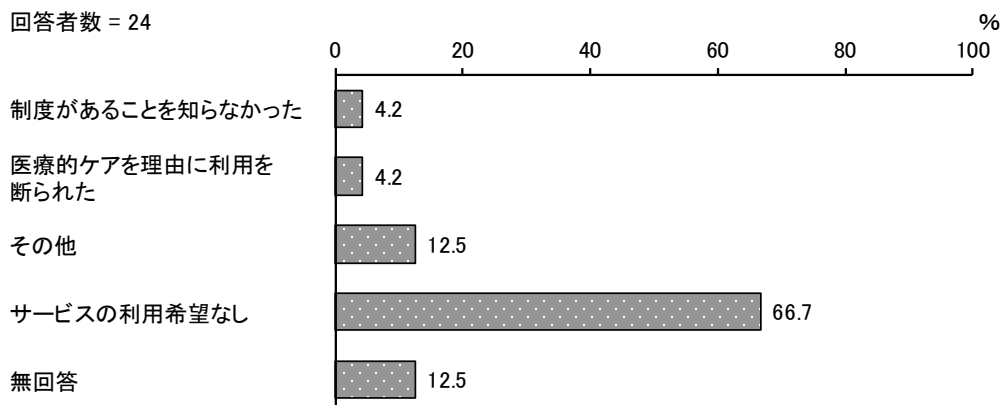
医療的ケアを理由に利用を断られたことが

「ある」の割合が 29.4%、「ない」の割合が 58.8%となっています。



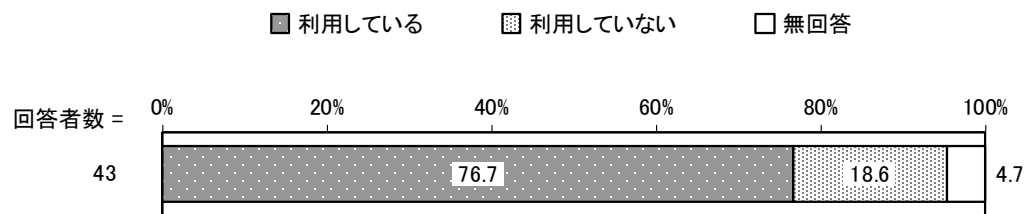
利用していない

「サービスの利用希望なし」の割合が 66.7%と最も高くなっています。



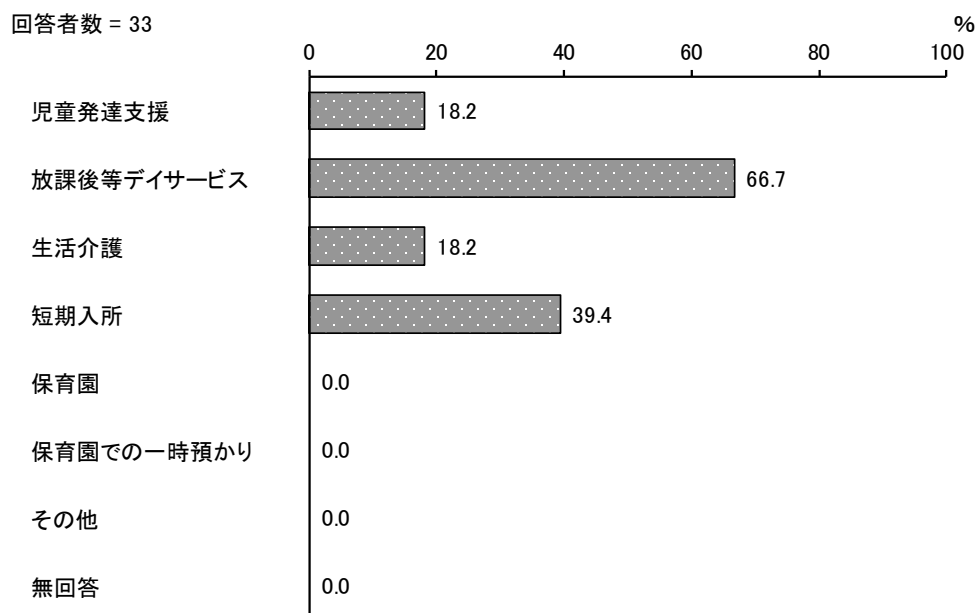
問 29 施設サービス等を利用していますか（あてはまるもの全てに○）

「利用している」の割合が 76.7%、「利用していない」の割合が 18.6%となっています。



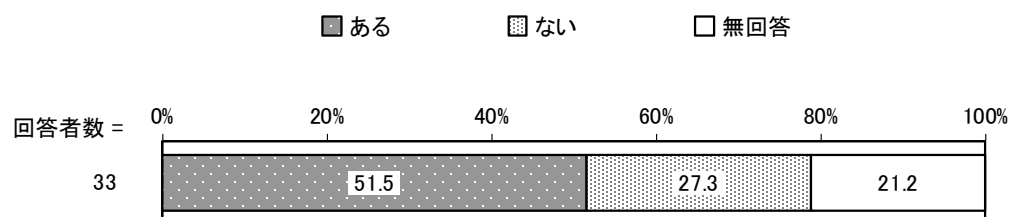
利用している

「放課後等デイサービス」の割合が 66.7%と最も高く、次いで「短期入所」の割合が 39.4%、「児童発達支援」、「生活介護」の割合が 18.2%となっています。



医療的ケアを理由に利用を断られたことが

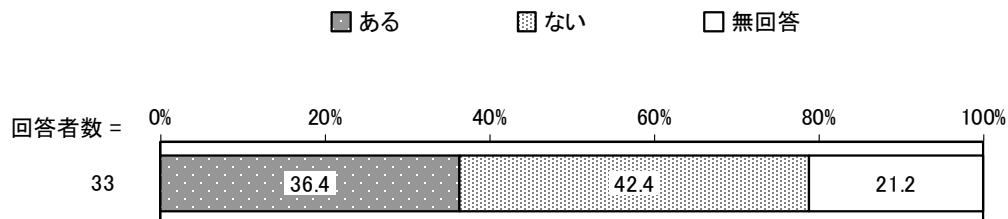
「ある」の割合が 51.5%、「ない」の割合が 27.3%となっています。



医療的ケア児

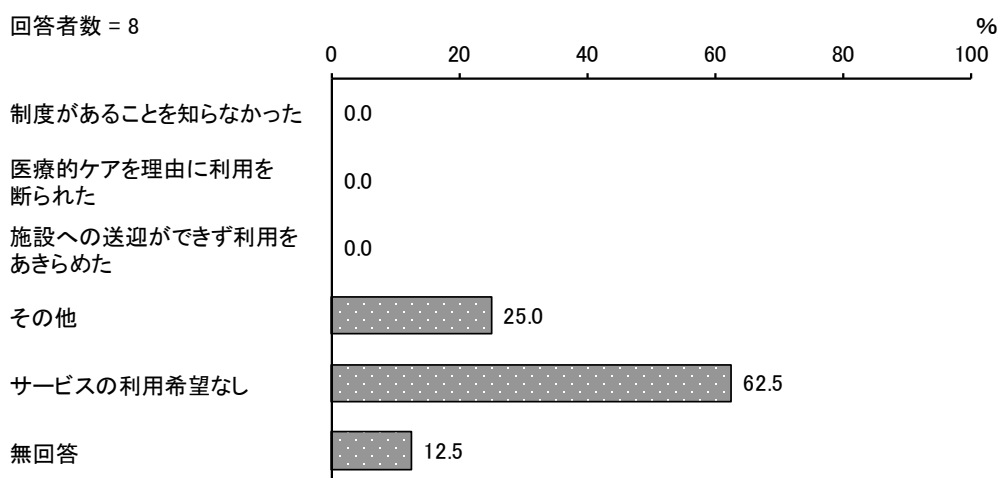
施設への送迎ができず利用をあきらめたことが

「ある」の割合が 36.4%、「ない」の割合が 42.4%となっています。



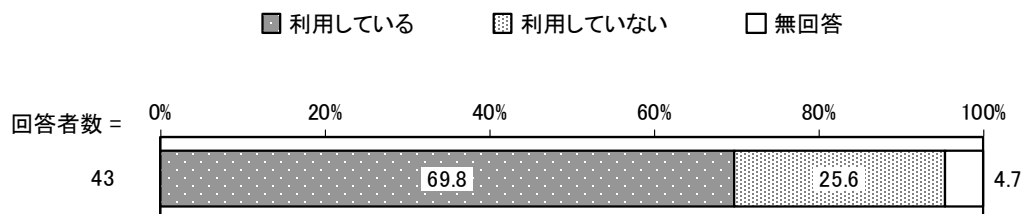
利用していない

「サービスの利用希望なし」が 62.5%となっています。



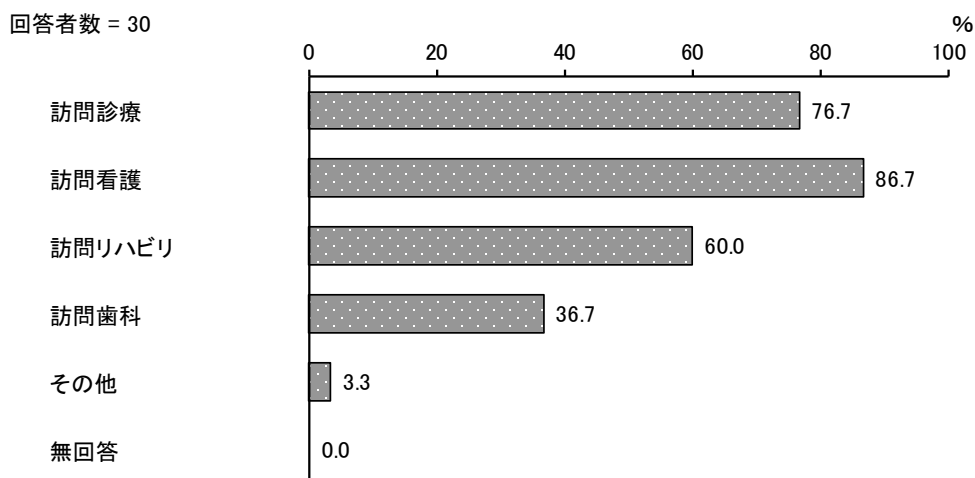
問 30 在宅医療サービスを利用していますか（あてはまるもの全てに○）

「利用している」の割合が 69.8%、「利用していない」の割合が 25.6%となっています。



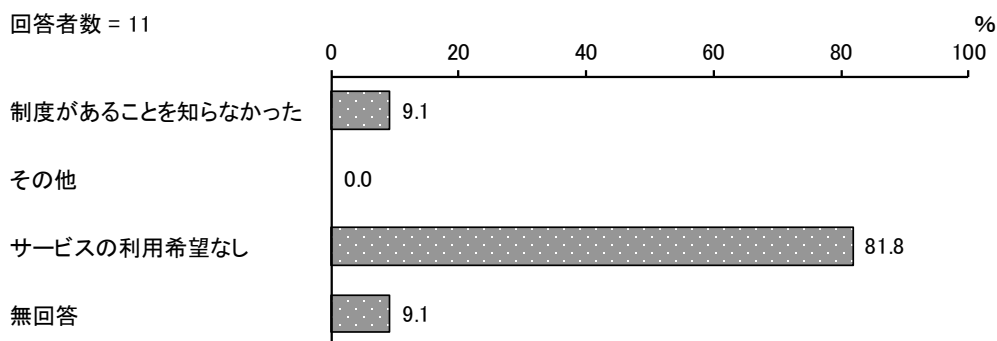
利用している

「訪問看護」の割合が86.7%と最も高く、次いで「訪問診療」の割合が76.7%、「訪問リハビリ」の割合が60.0%となっています。



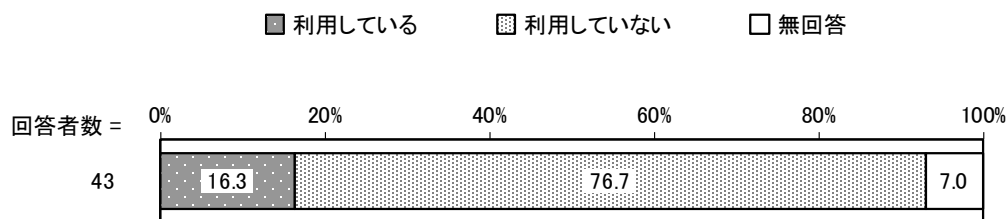
利用していない

「制度があることを知らなかった」の割合が9.1%、「サービスの利用希望なし」の割合が81.8%となっています。



問 31 外出時サービスを利用していますか（あてはまるもの全てに○）

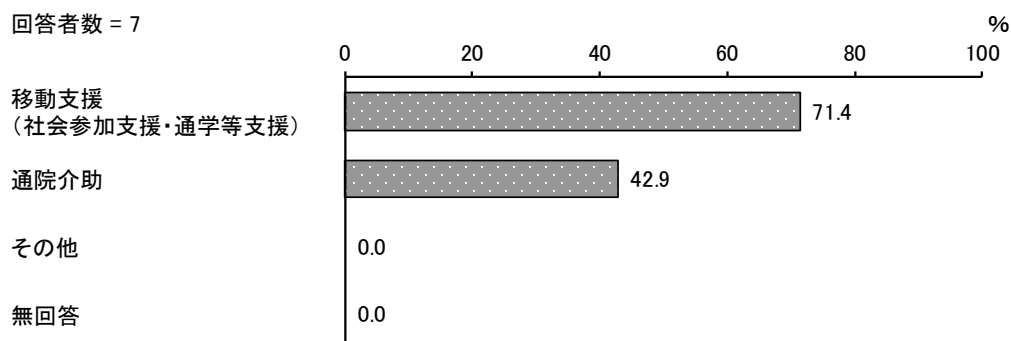
「利用している」の割合が16.3%、「利用していない」の割合が76.7%となっています。



医療的ケア児

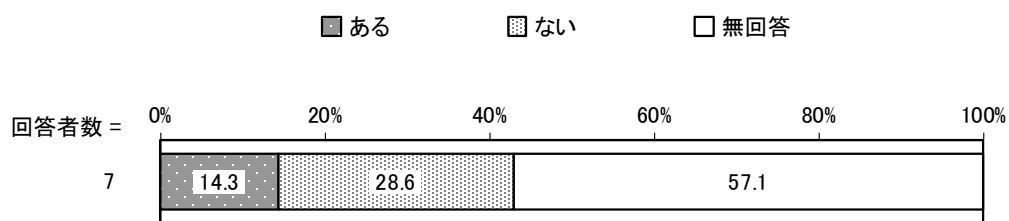
利用している

「移動支援（社会参加支援・通学等支援）」が5件、「通院介助」が3件となっています。



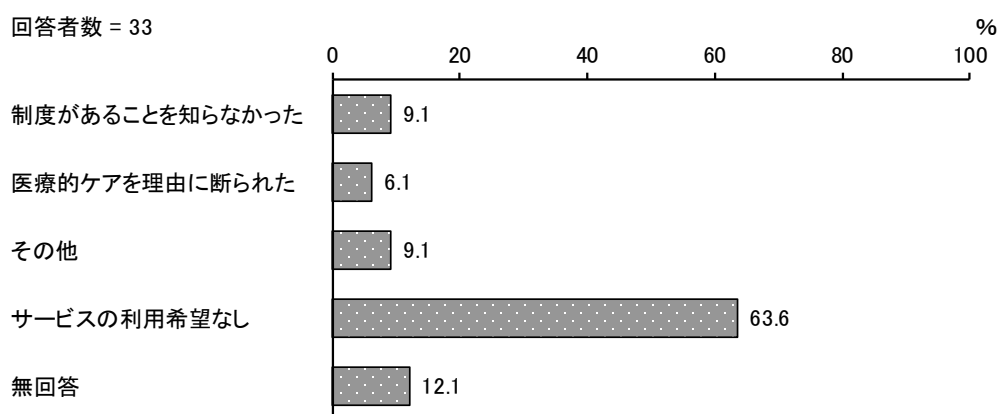
医療的ケアを理由に利用を断られたことが

「ある」が1件、「ない」が2件となっています。



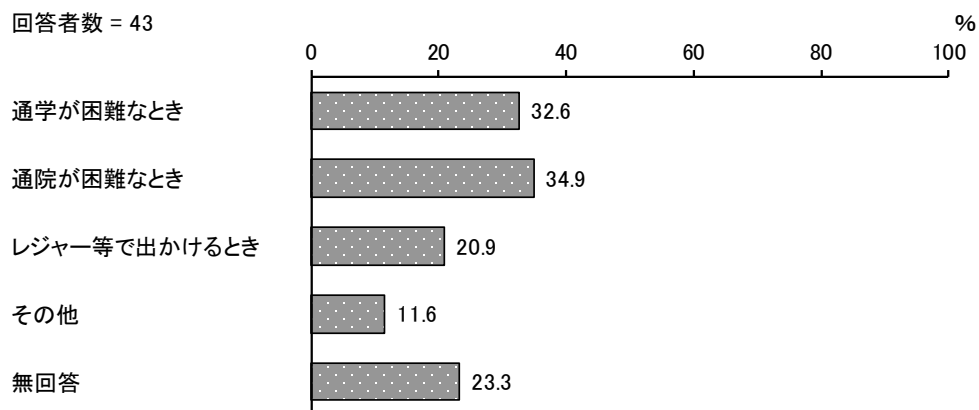
利用していない

「サービスの利用希望なし」の割合が63.6%と最も高くなっています。



問 32 介護者だけでは手が足りず、外出時サービスが必要だと感じるときはいつですか
(あてはまるもの全てに○)

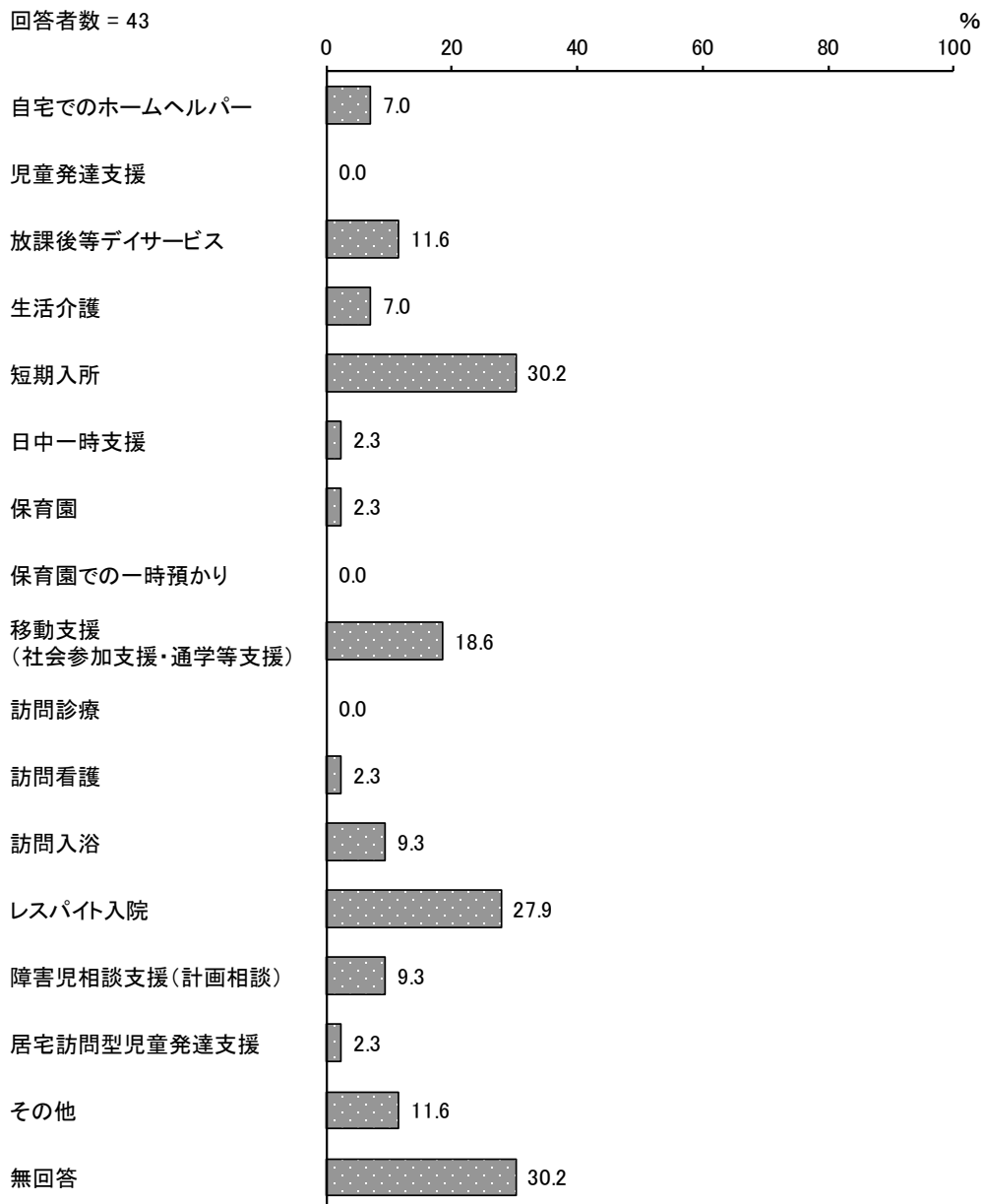
「通院が困難なとき」の割合が 34.9%と最も高く、次いで「通学が困難なとき」の割合が 32.6%、「レジャー等で行かせるとき」の割合が 20.9%となっています。



医療的ケア児

問 33 不足していると感じるサービスをお答えください
(あてはまるもの3つまでに○)

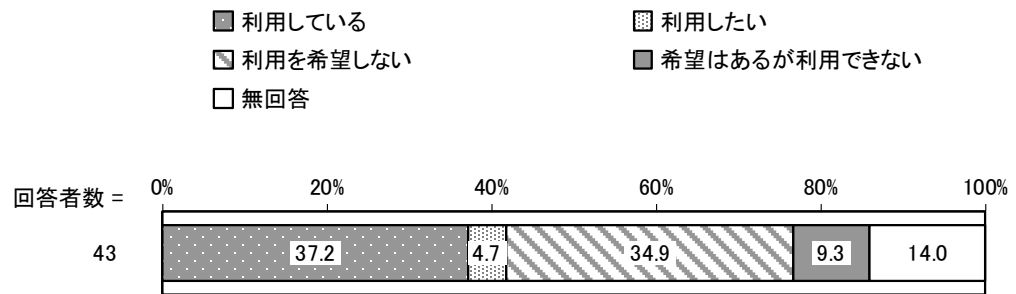
「短期入所」の割合が30.2%と最も高く、次いで「レスパイト入院」の割合が27.9%、「移動支援（社会参加支援・通学等支援）」の割合が18.6%となっています。



(5) ホームヘルパー等による医療的ケアについて

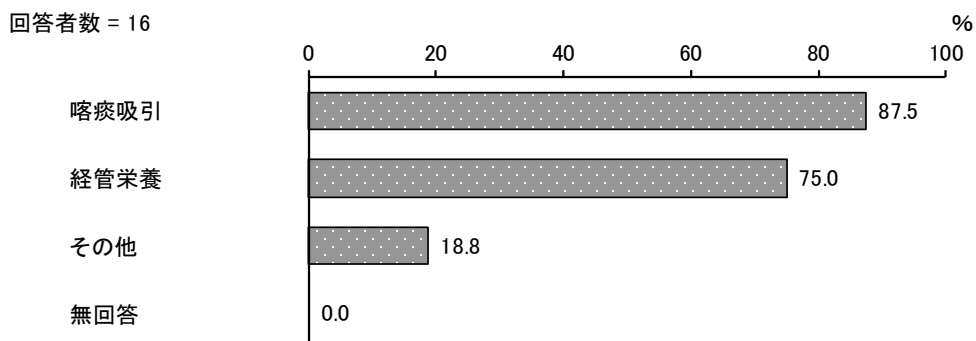
問 34 平成24年4月から、ヘルパー等の介護職員が喀痰吸引や経管栄養等の医療的ケアを行えるようになりました。上記のような、医療職ではないヘルパー等による医療的ケアを利用していますか（あてはまるもの全てに○）

「利用している」の割合が37.2%と最も高く、次いで「利用を希望しない」の割合が34.9%となっています。



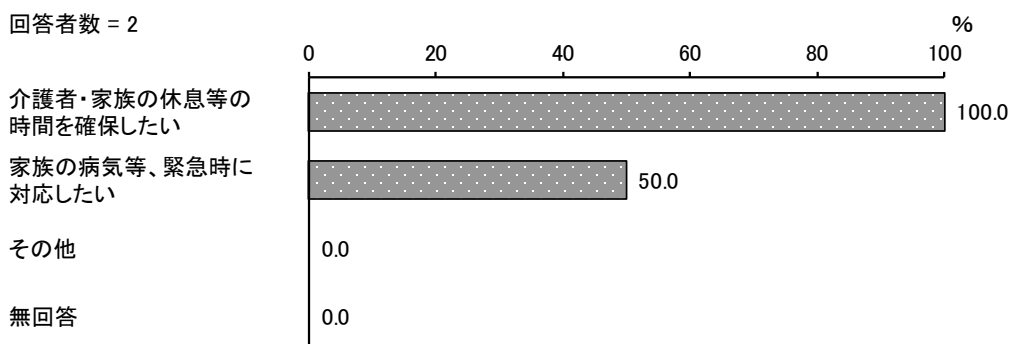
利用している

「喀痰吸引」の割合が87.5%、「経管栄養」の割合が75.0%となっています。



利用したい

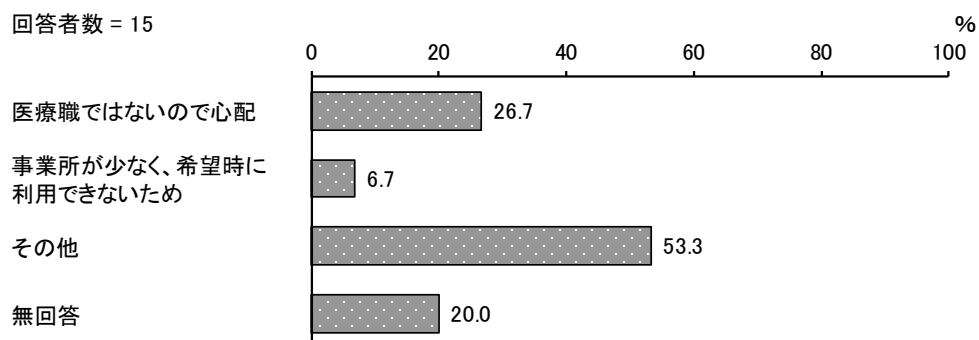
「介護者・家族の休息等の時間を確保したい」が2件、「家族の病気等、緊急時に対応したい」が1件となっています。



医療的ケア児

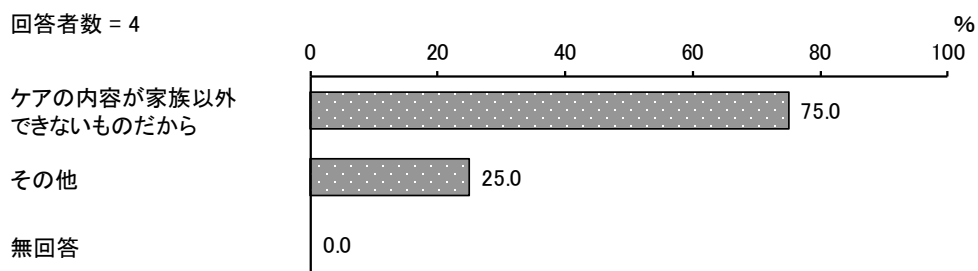
利用を希望しない

「医療職ではないので心配」の割合が 26.7%、「事業所が少なく、希望時に利用できないため」の割合が 6.7%となっています。



希望はあるが利用できない

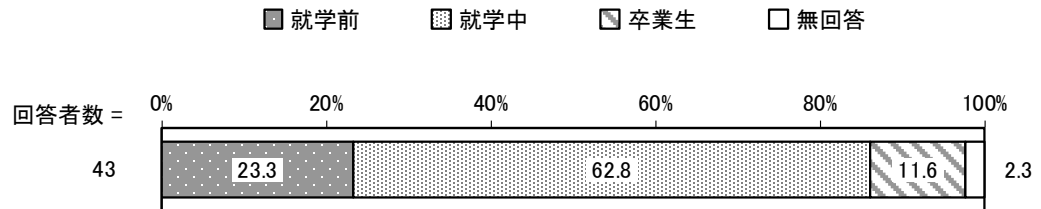
「ケアの内容が家族以外できないものだから」が 3 件となっています。



(6) 医療的ケア児に対する教育・保育支援について

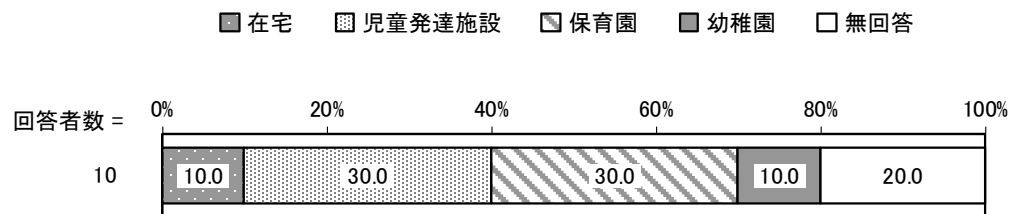
問 35 現在の、就学等の状況をお答えください（それぞれあてはまるものに○）

「就学中」の割合が62.8%と最も高く、次いで「就学前」の割合が23.3%、「卒業生」の割合が11.6%となっています。



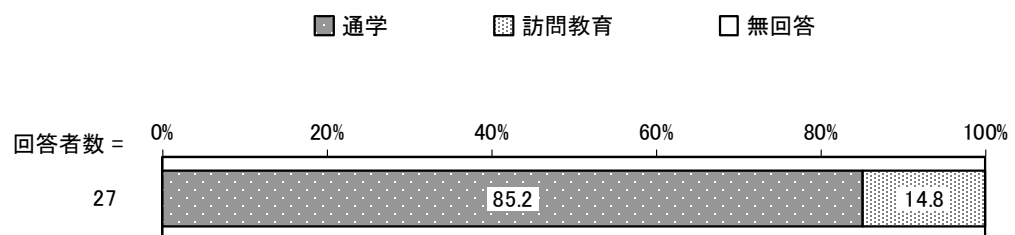
就学前

「児童発達施設」、「保育園」の割合が30.0%と最も高く、次いで「在宅」、「幼稚園」の割合が10.0%となっています。



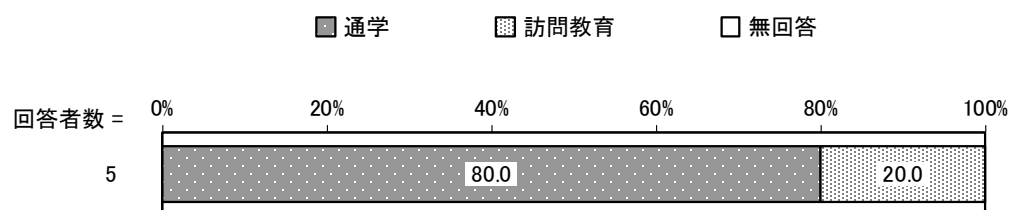
就学中

「通学」の割合が85.2%、「訪問教育」の割合が14.8%となっています。



卒業生

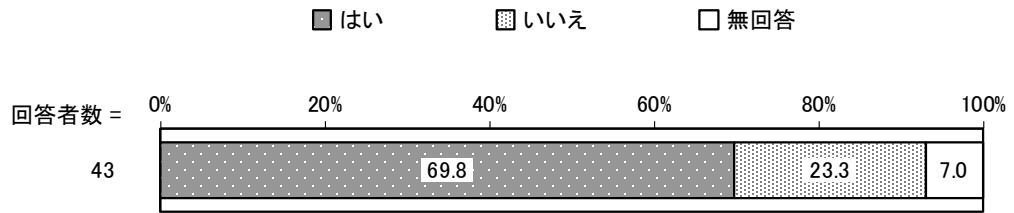
「通学」が4件、「訪問教育」が1件となっています。



医療的ケア児

問 36 現在の、就学等の形態は、希望通りのものですか
(あてはまるものいずれかに○)

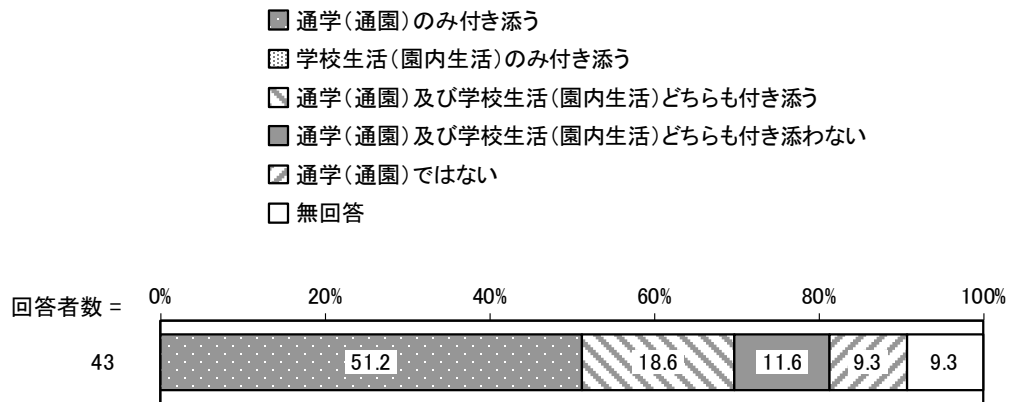
「はい」の割合が69.8%、「いいえ」の割合が23.3%となっています。



※ここからの設問は、既に卒業された方は就学当時の状況についてご回答ください。
また、就学前の方は施設・園内生活、通園についてご回答ください。

問 37 学校生活（園内生活）・通学（通園）における、保護者等の付き添いはありますか
(あてはまるものいずれかに○)

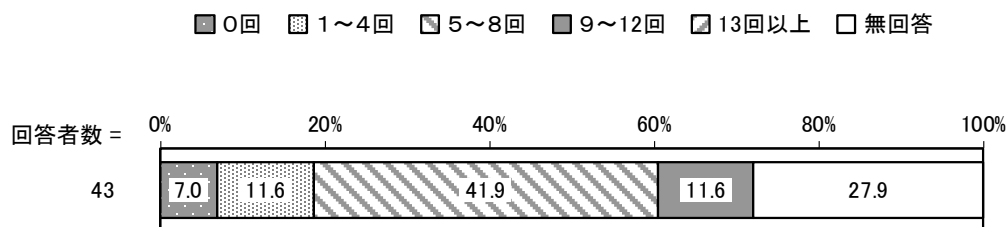
「通学（通園）のみ付き添う」の割合が51.2%と最も高く、次いで「通学（通園）及び学校生活（園内生活）どちらも付き添う」の割合が18.6%、「通学（通園）及び学校生活（園内生活）どちらも付き添わない」の割合が11.6%となっています。



問 38 通学（通園）における、保護者等の付き添いの平均回数・人数をお答えください
（数字を記入）

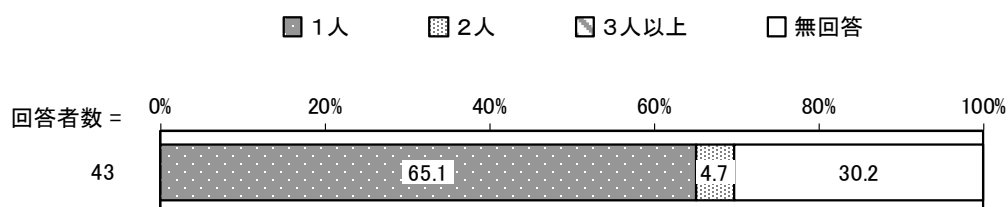
週の平均回数

「5～8回」の割合が41.9%と最も高く、次いで「1～4回」、「9～12回」の割合が11.6%となっています。



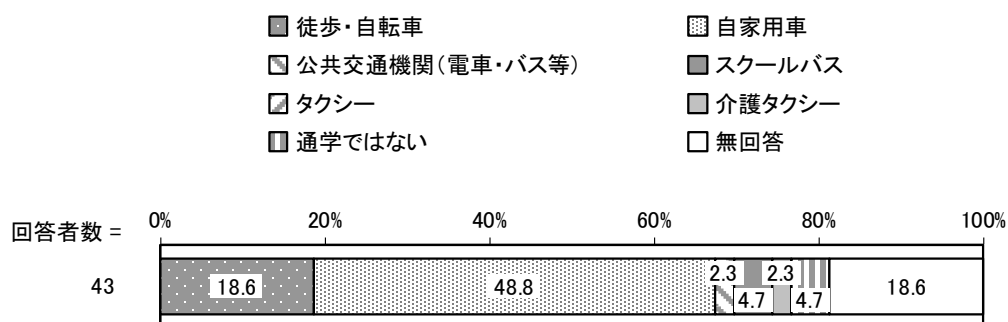
問 38 付添の人数

「1人」の割合が65.1%と最も高くなっています。



問 39 通学（通園）における、主な交通手段は何ですか
（あてはまるものいずれかに○）

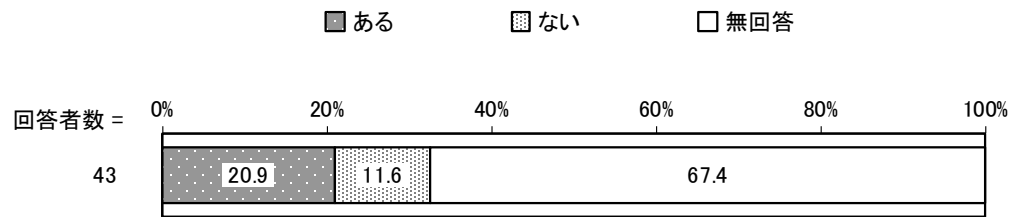
「自家用車」の割合が48.8%と最も高く、次いで「徒歩・自転車」の割合が18.6%となっています。



医療的ケア児

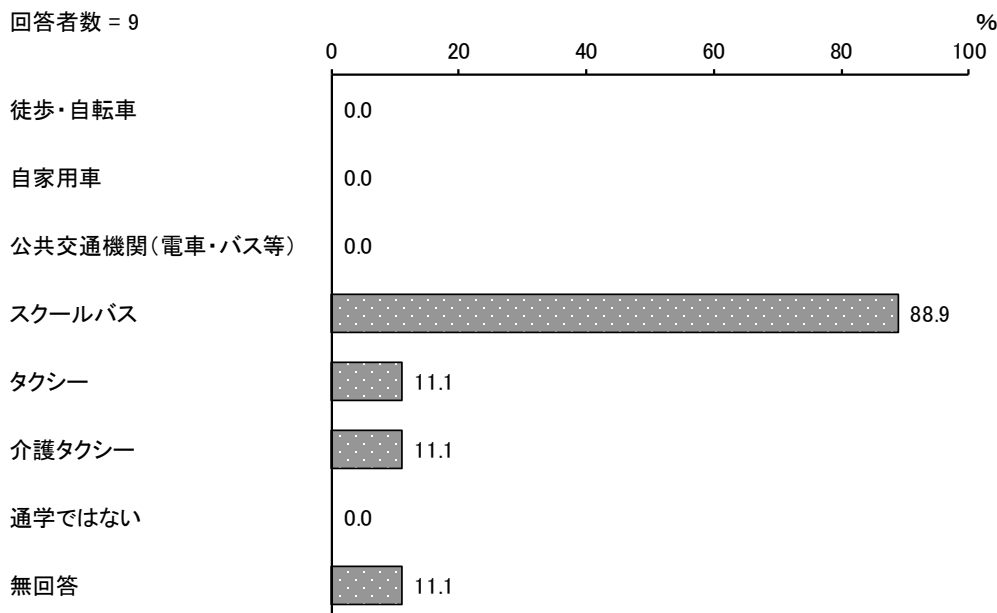
医療的ケアを理由に利用を断られたことが

「ある」の割合が 20.9%、「ない」の割合が 11.6%となっています。



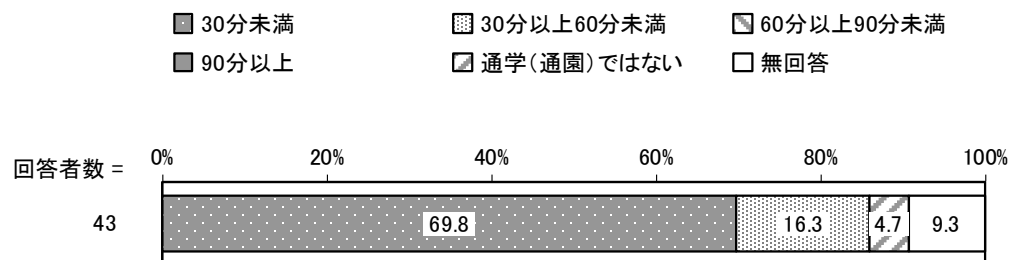
「ある」場合、断られた交通手段

「スクールバス」が 8 件となっています。「タクシー」、「介護タクシー」が 1 件となっています。



問 40 通学（通園）における、自宅から学校までの片道所要時間はどれだけですか（あてはまるものいずれかに○）

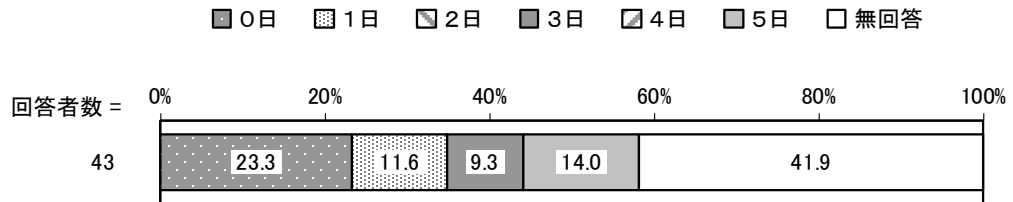
「30分未満」の割合が 69.8%と最も高く、次いで「30分以上 60分未満」の割合が 16.3%となっています。



問 41 学校生活（園内生活）における、保護者等の付き添いの日数・時間をお答えください（数字を記入）

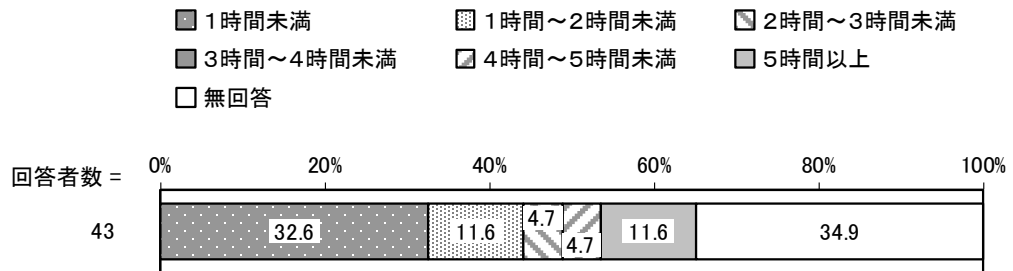
付添の日数（週あたり）

「0日」の割合が23.3%と最も高く、次いで「5日」の割合が14.0%、「1日」の割合が11.6%となっています。



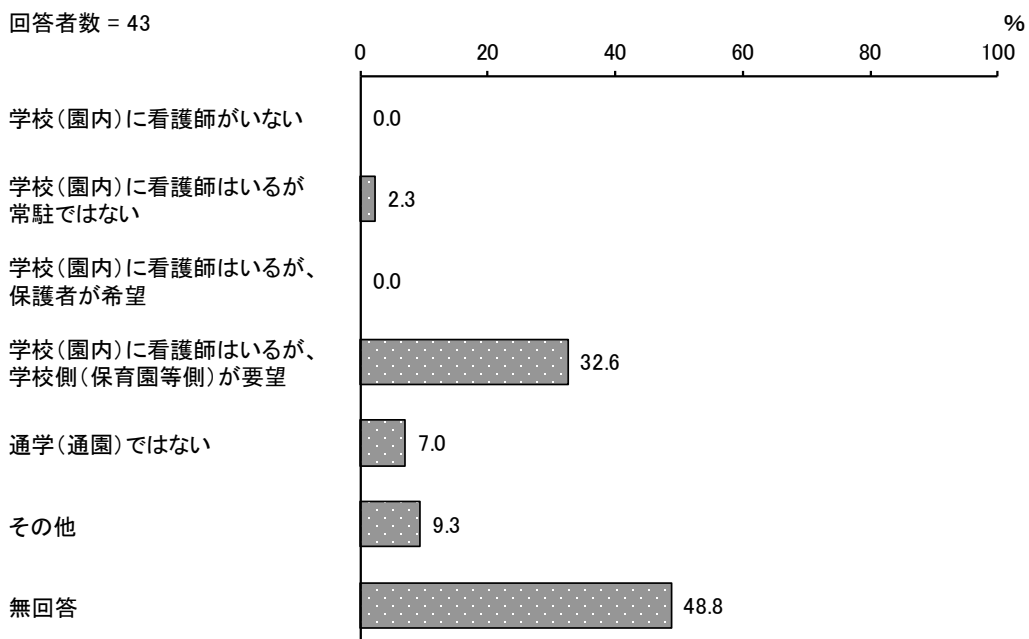
付添の時間（1日あたり）

「1時間未満」の割合が32.6%と最も高く、次いで「1時間～2時間未満」、「5時間以上」の割合が11.6%となっています。



問 42 学校生活（園内生活）における、保護者の付き添いの理由は何ですか（あてはまるもの全てに○）

「学校（園内）に看護師はいるが、学校側（保育園等側）が要望」の割合が32.6%と最も高くなっています。

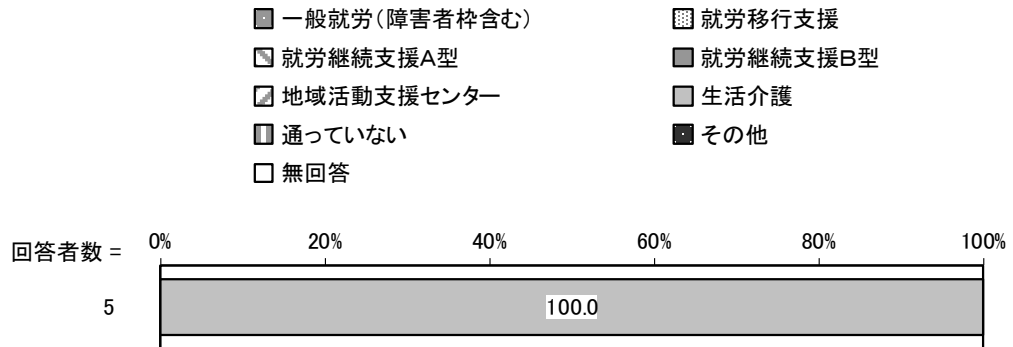


医療的ケア児

※問 43、問 44 の設問は卒業生の方のみお聞きします

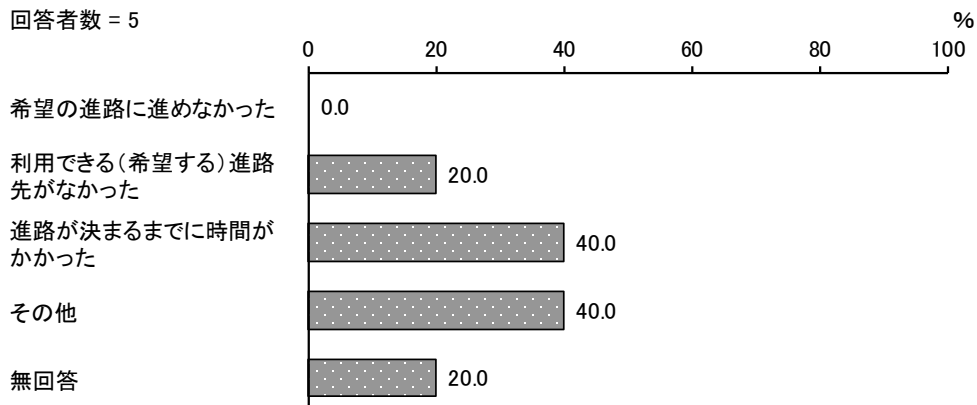
問 43 現在の就労・通所等の状況について、お答えください
(あてはまるものいずれかに○)

「生活介護」が5件となっています。



問 44 進路を決める際の、問題点は何ですか (あてはまるもの全てに○)

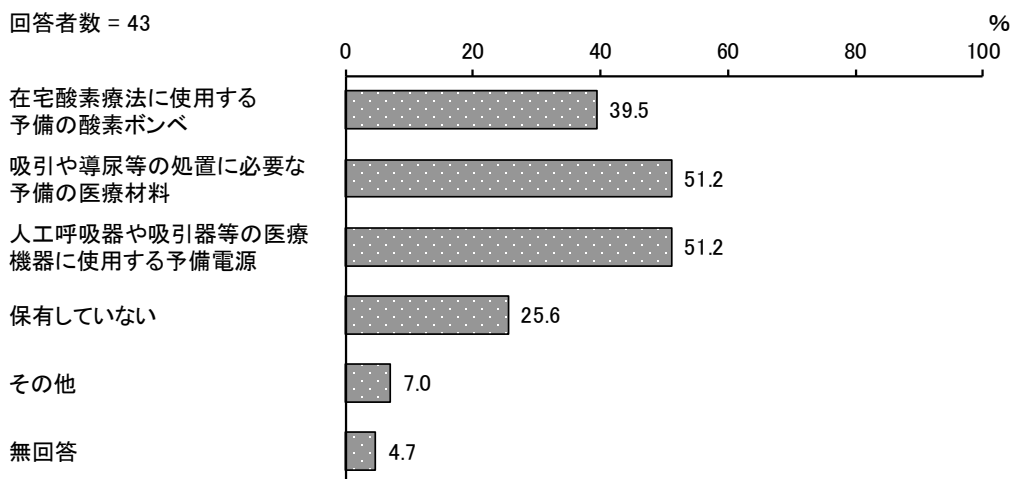
「進路が決まるまでに時間がかかった」が2件となっています。「利用できる(希望する)進路先がなかった」が1件となっています。



(7) 災害時・緊急時の対策について

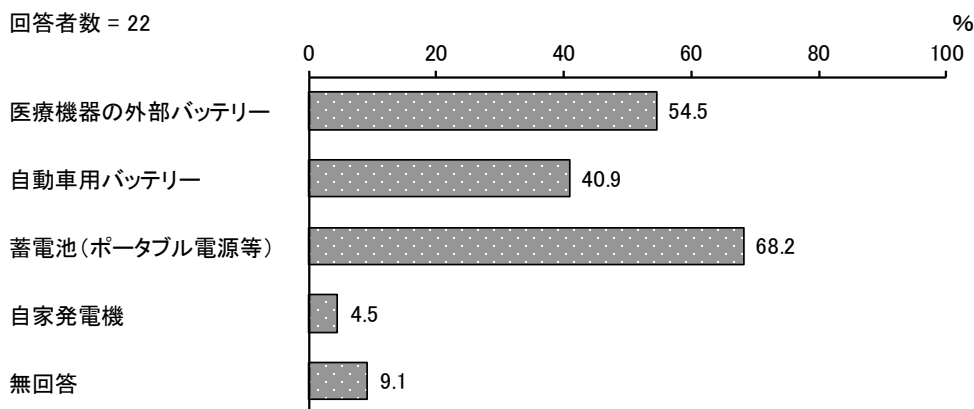
**問 45 災害用に保有している、医療的ケアに関する物品は何ですか
(あてはまるもの全てに○)**

「吸引や導尿等の処置に必要な予備の医療材料」、「人工呼吸器や吸引器等の医療機器に使用する予備電源」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「在宅酸素療法に使用する予備の酸素ボンベ」の割合が 39.5%となっています。



問 45 保有している人工呼吸器や吸引器等の医療機器に使用する予備電源

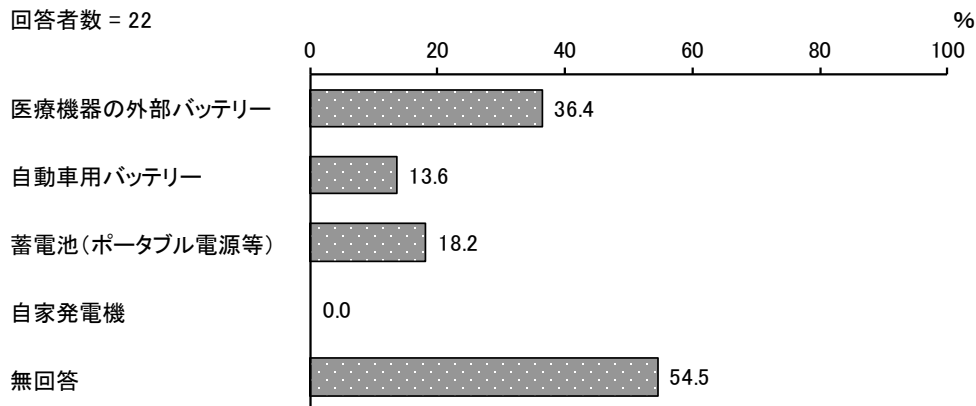
「蓄電池 (ポータブル電源等)」の割合が 68.2%と最も高く、次いで「医療機器の外部バッテリー」の割合が 54.5%、「自動車用バッテリー」の割合が 40.9%となっています。



医療的ケア児

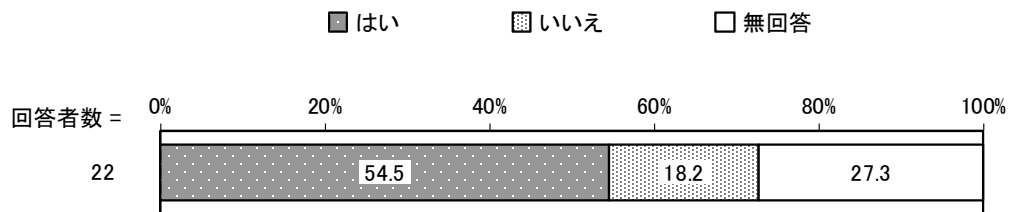
問 45 実際に使用した経験がある人工呼吸器や吸引器等の医療機器に使用する予備電源

「医療機器の外部バッテリー」の割合が 36.4%と最も高く、次いで「蓄電池（ポータブル電源等）」の割合が 18.2%、「自動車用バッテリー」の割合が 13.6%となっています。



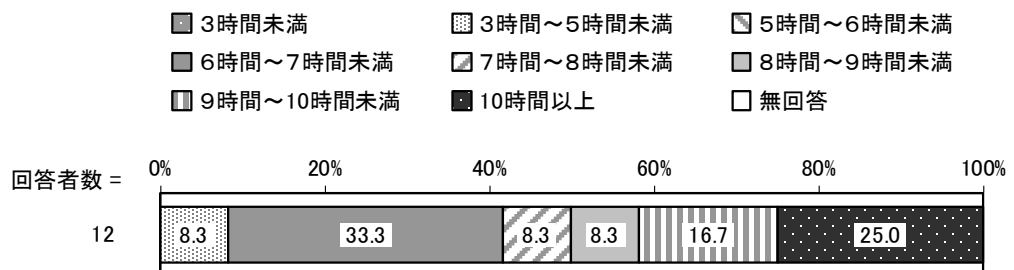
問 45 人工呼吸器の内部バッテリー・外部バッテリーの総稼働時間を把握していますか

「はい」の割合が 54.5%、「いいえ」の割合が 18.2%となっています。



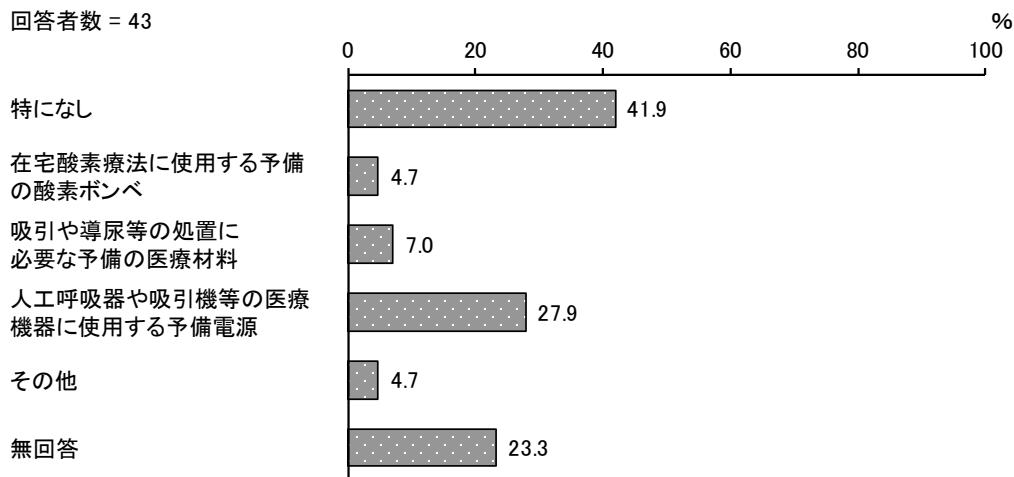
問 45 人工呼吸器の内部バッテリー・外部バッテリーの総稼働時間

「6時間～7時間未満」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「10時間以上」の割合が 25.0%、「9時間～10時間未満」の割合が 16.7%となっています。



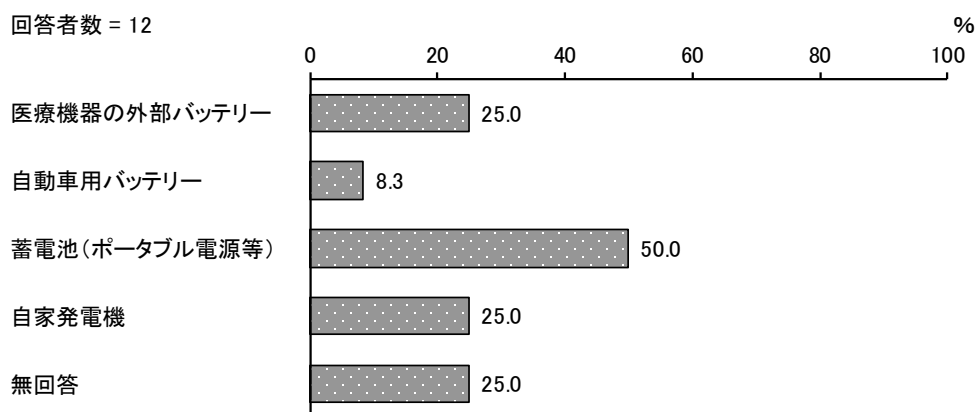
問 46 災害用に保有していないが、必要だと思うものは何ですか
(あてはまるもの全てに○)

「特になし」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「人工呼吸器や吸引機等の医療機器に使用する予備電源」の割合が 27.9%となっています。



予備電源の内容

「蓄電池 (ポータブル電源等)」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「医療機器の外部バッテリー」、「自家発電機」の割合が 25.0%となっています。

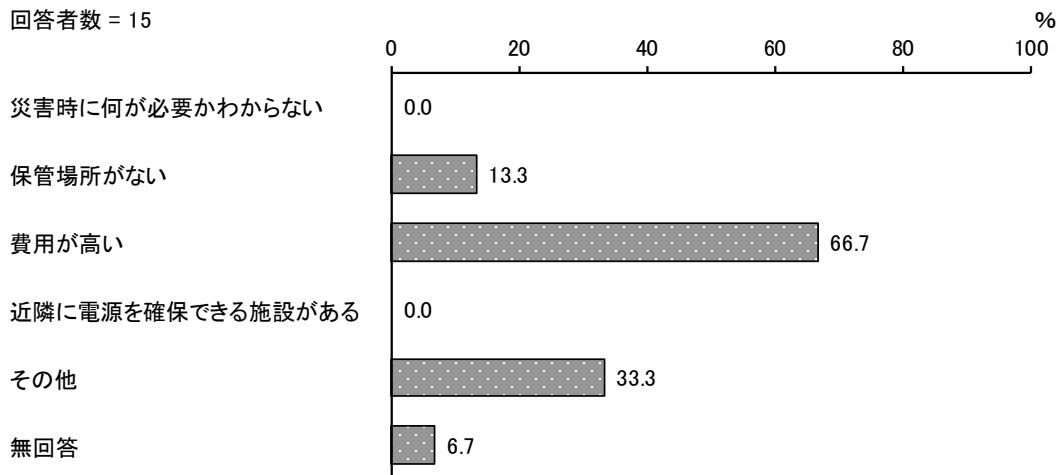


医療的ケア児

問 46 で 2 から 5（保有していないが必要なものがある）と答えた方にお聞きします

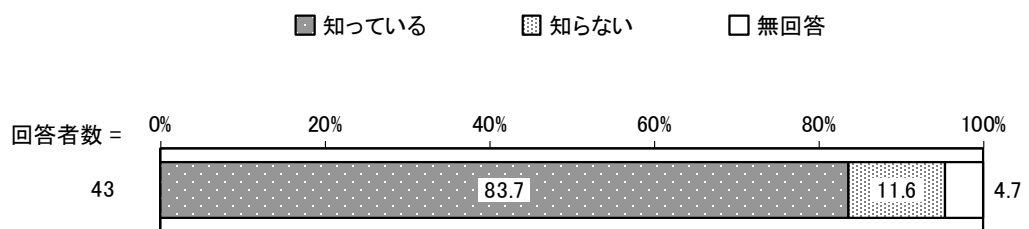
問 47 災害時備品を、保有していない理由について教えてください
（あてはまるもの全てに○）

「費用が高い」の割合が 66.7%と最も高く、次いで「保管場所がない」の割合が 13.3%となっています。



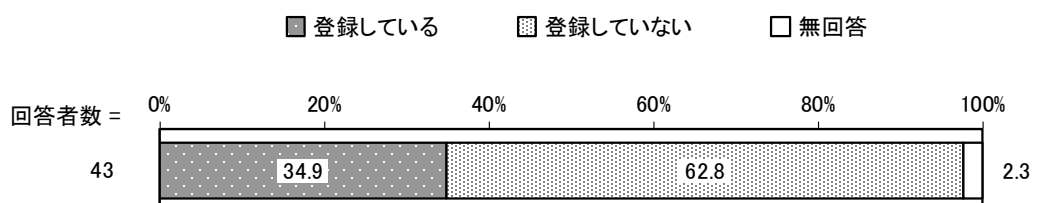
問 48 災害時（火事や地震などのとき）の避難所・避難場所を知っていますか
（あてはまるものいずれかに○）

「知っている」の割合が 83.7%、「知らない」の割合が 11.6%となっています。



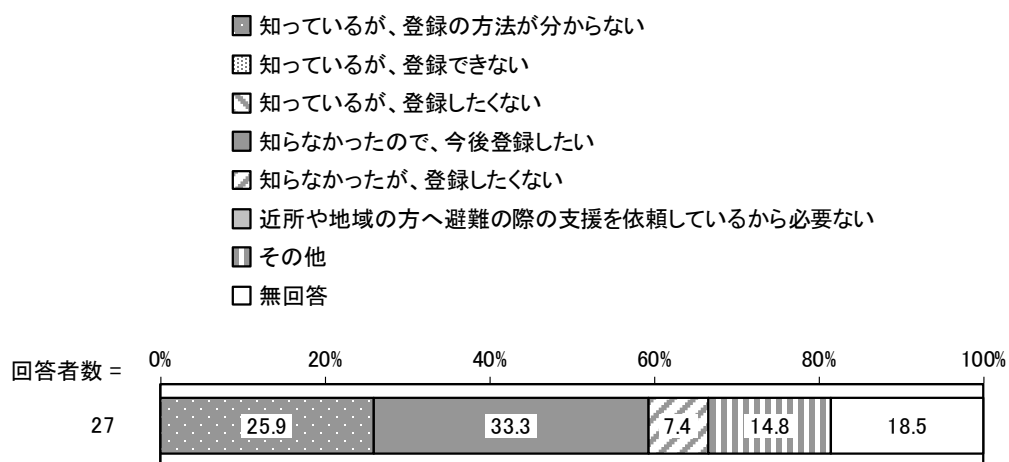
問 49 避難行動要支援者避難支援制度を知っていますか
（あてはまるものいずれかに○）

「登録している」の割合が 34.9%、「登録していない」の割合が 62.8%となっています。



登録していない理由

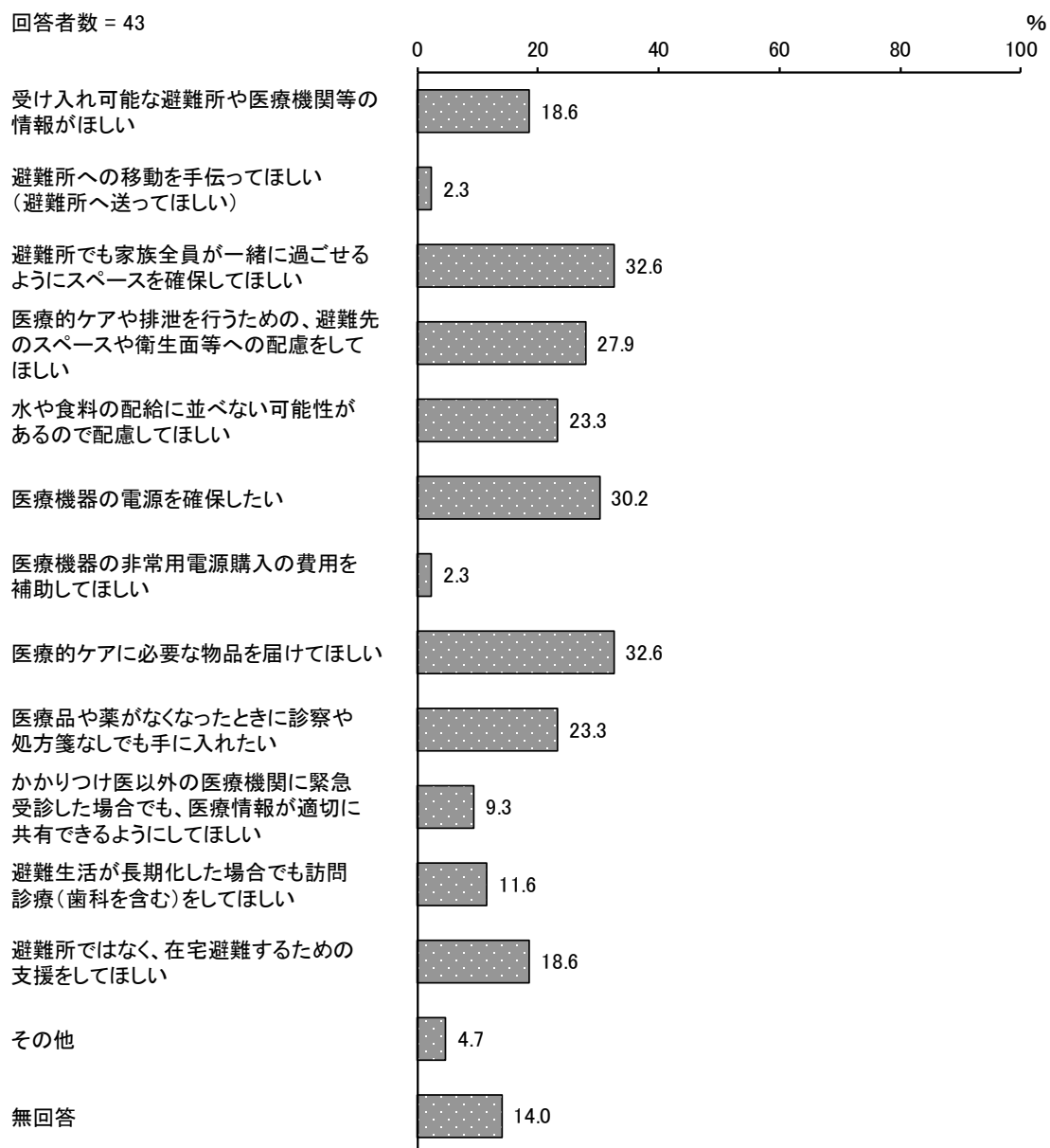
「知らなかったのですが、今後登録したい」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「知っているが、登録の方法が分からない」の割合が 25.9%となっています。



医療的ケア児

問 50 災害時に備えて、どのようなことを支援してほしいですか (優先順位の高いもの3つまでに○)

「避難所でも家族全員と一緒に過ごせるようにスペースを確保してほしい」、「医療的ケアに必要な物品を届けてほしい」の割合が 32.6%と最も高く、次いで「医療機器の電源を確保したい」の割合が 30.2%となっています。



問 51 その他、医療的ケアに関する家族、サービス利用、教育・保育等について感じていること、困っていることや不安なこと等がありましたらご記入ください

「医療児ケアの預け入れについて」が11件と多くなっています。

分類回答	件数
1. 医療児ケアの預け入れについて	11
2. 入浴サービスについて	1
3. 移動について	2
4. 手当について	3
5. 自宅ケア補助について	1
6. 将来への不安について	4

問 52 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、心配なことや不安なことがありましたら、ご記入ください

「感染時などの不安について」が9件と多くなっています。

分類回答	件数
1. 感染時などの不安について	9
2. 介護者の人材育成について	1
3. 緊急時の受け入れ先について	1
4. その他	1

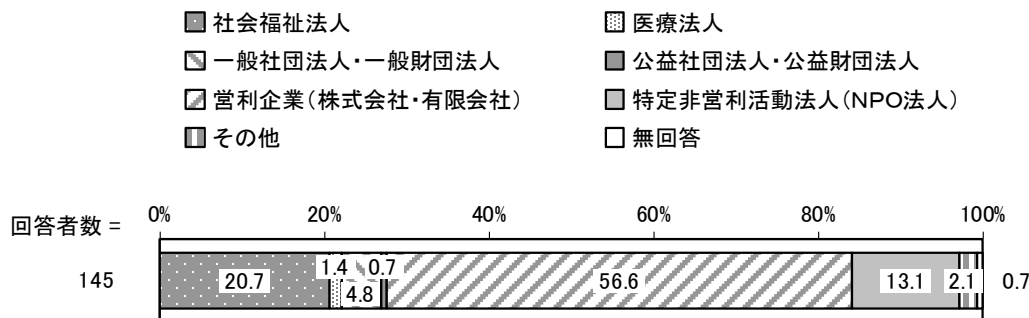
事業所

5 障害福祉サービス事業所調査

(1) 貴事業所の概要について

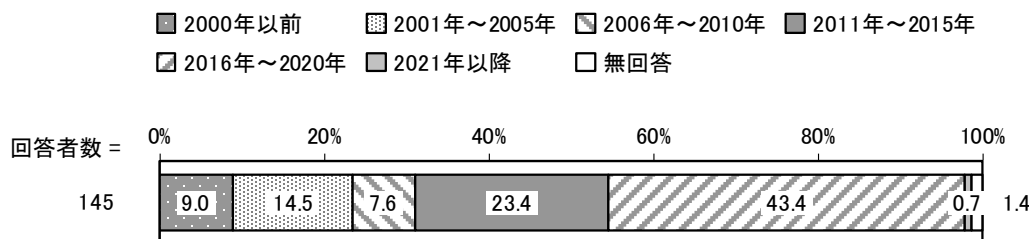
問1. 貴事業所の運営主体の種別はどれにあたりますか。(あてはまるもの1つに○)

「営利企業（株式会社・有限会社）」の割合が56.6%と最も高く、次いで「社会福祉法人」の割合が20.7%、「特定非営利活動法人（NPO法人）」の割合が13.1%となっています。



問2. 貴事業所の開業年はいつですか。(あてはまるもの1つに○)

「2016年～2020年」の割合が43.4%と最も高く、次いで「2011年～2015年」の割合が23.4%、「2001年～2005年」の割合が14.5%となっています。

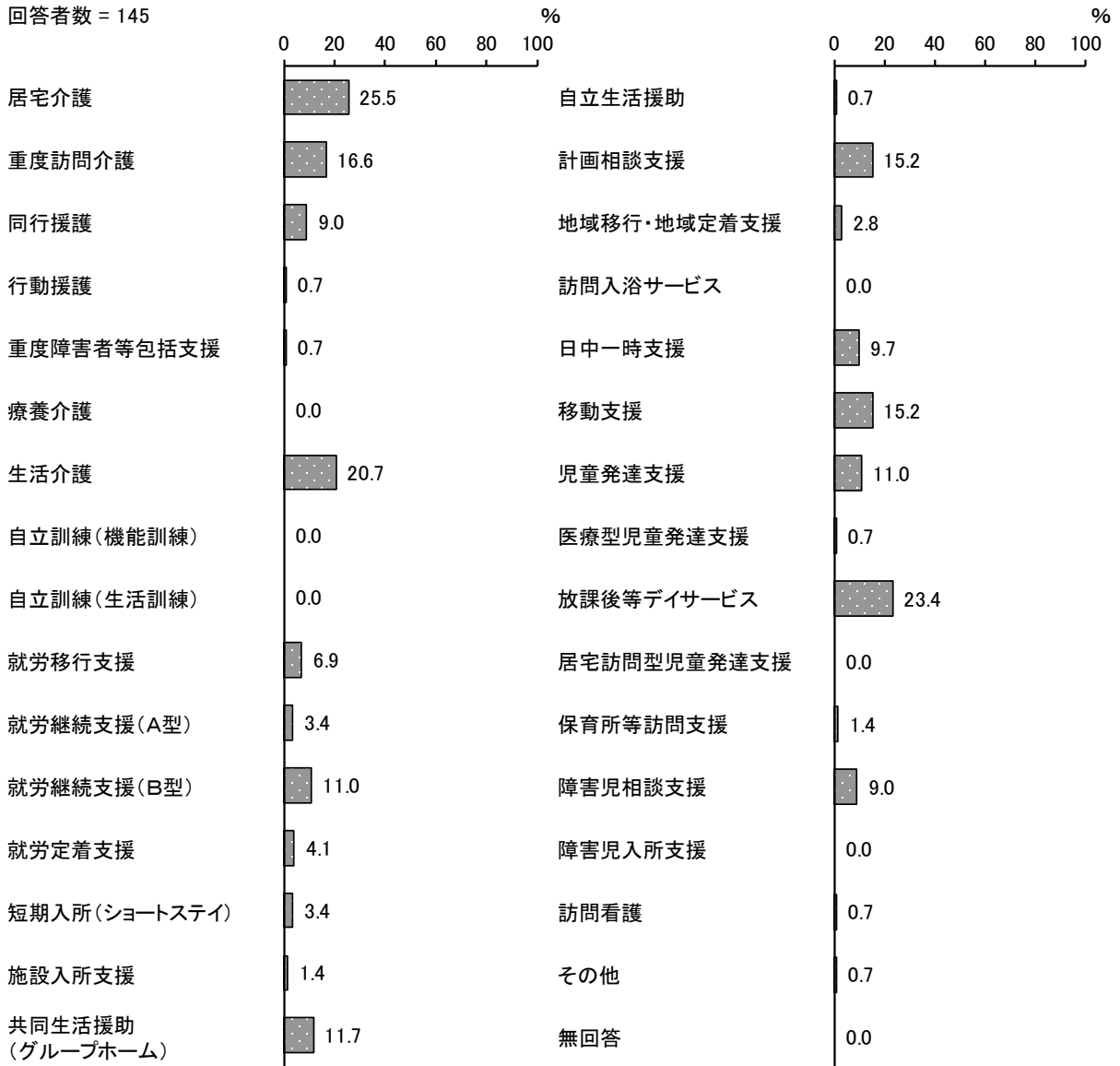


事業所

問3. 貴事業所で提供している障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービスはどれにあたりますか（あてはまるもの全てに○）

「居宅介護」の割合が25.5%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」の割合が23.4%、「生活介護」の割合が20.7%となっています。

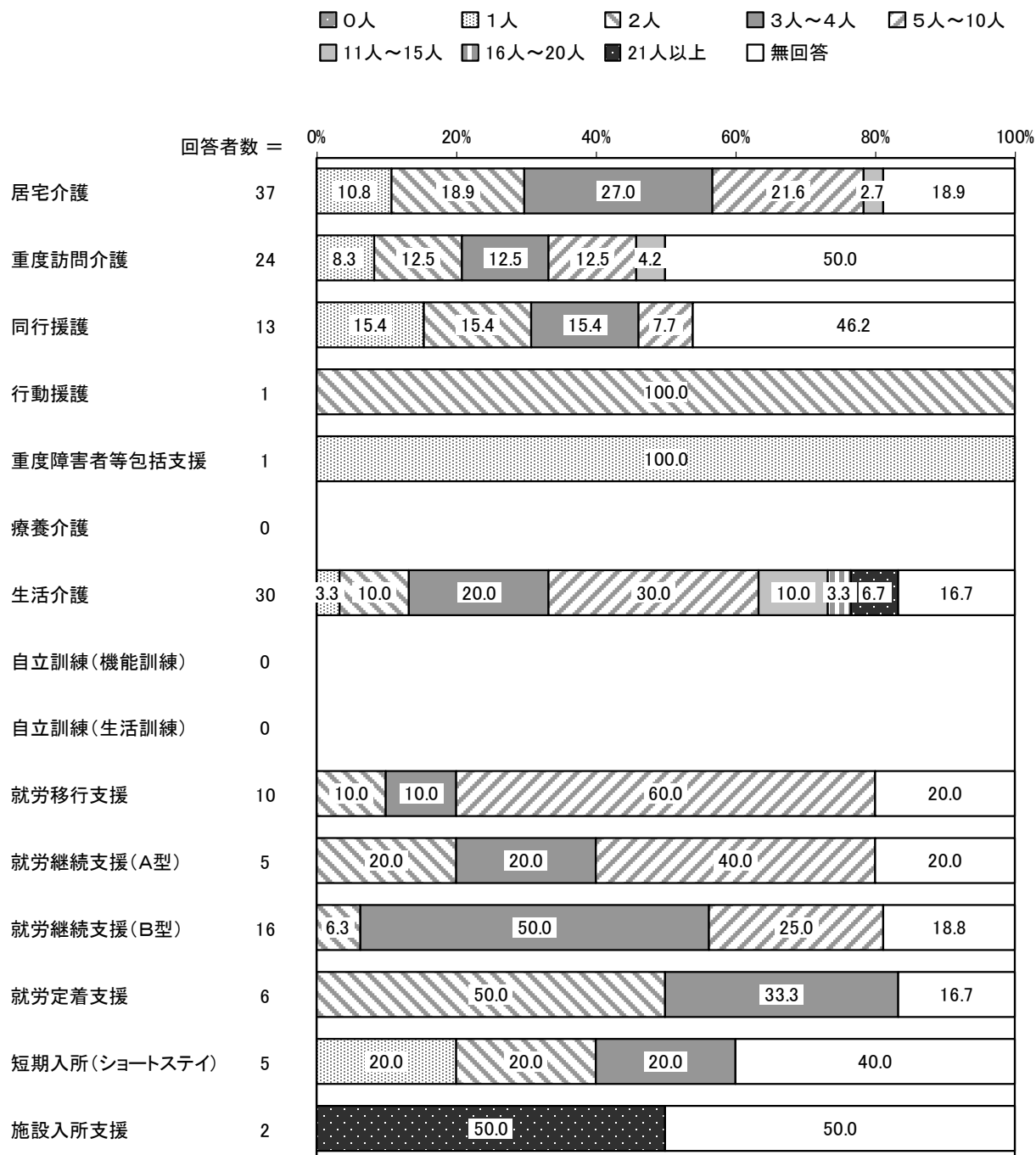
回答者数 = 145



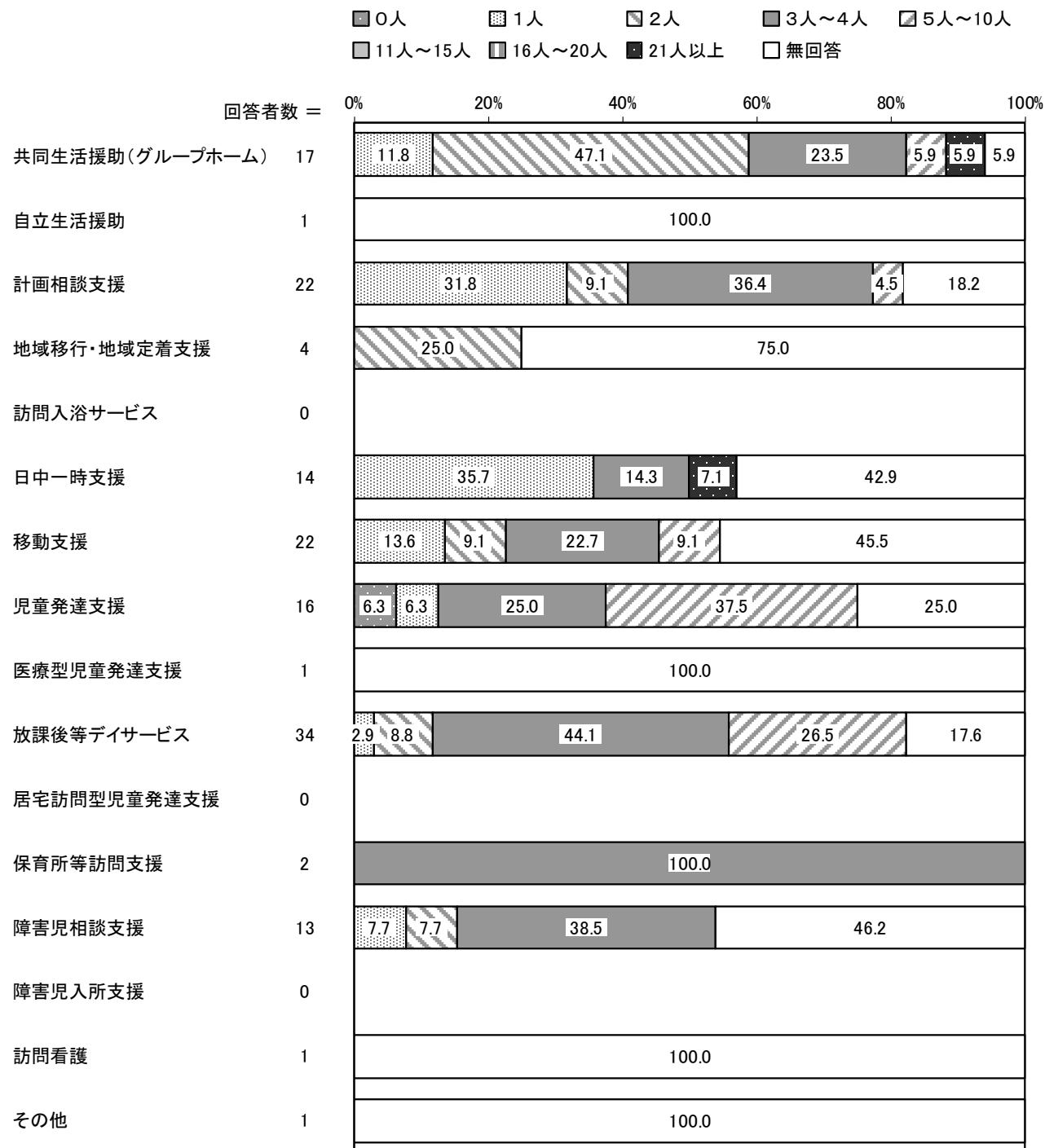
問4. 令和4年4月1日時点の貴事業所の従業員数をサービス種類ごとにご記入ください。

正規職員

『日中一時支援』で「1人」の割合が、『就労継続支援（B型）』で「3人～4人」の割合が高くなっています。また、『就労移行支援』で「5人～10人」の割合が高くなっています。



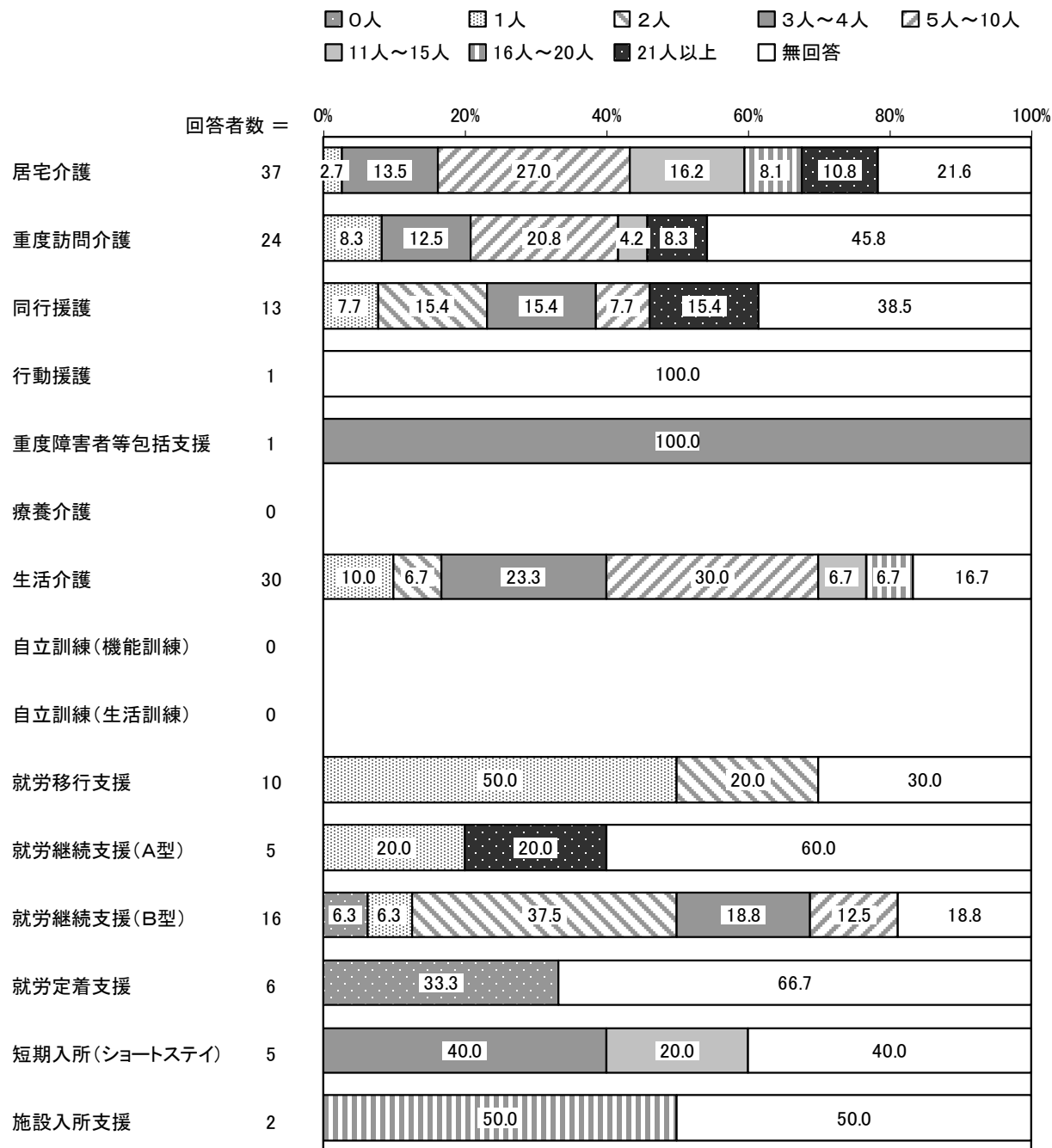
事業所



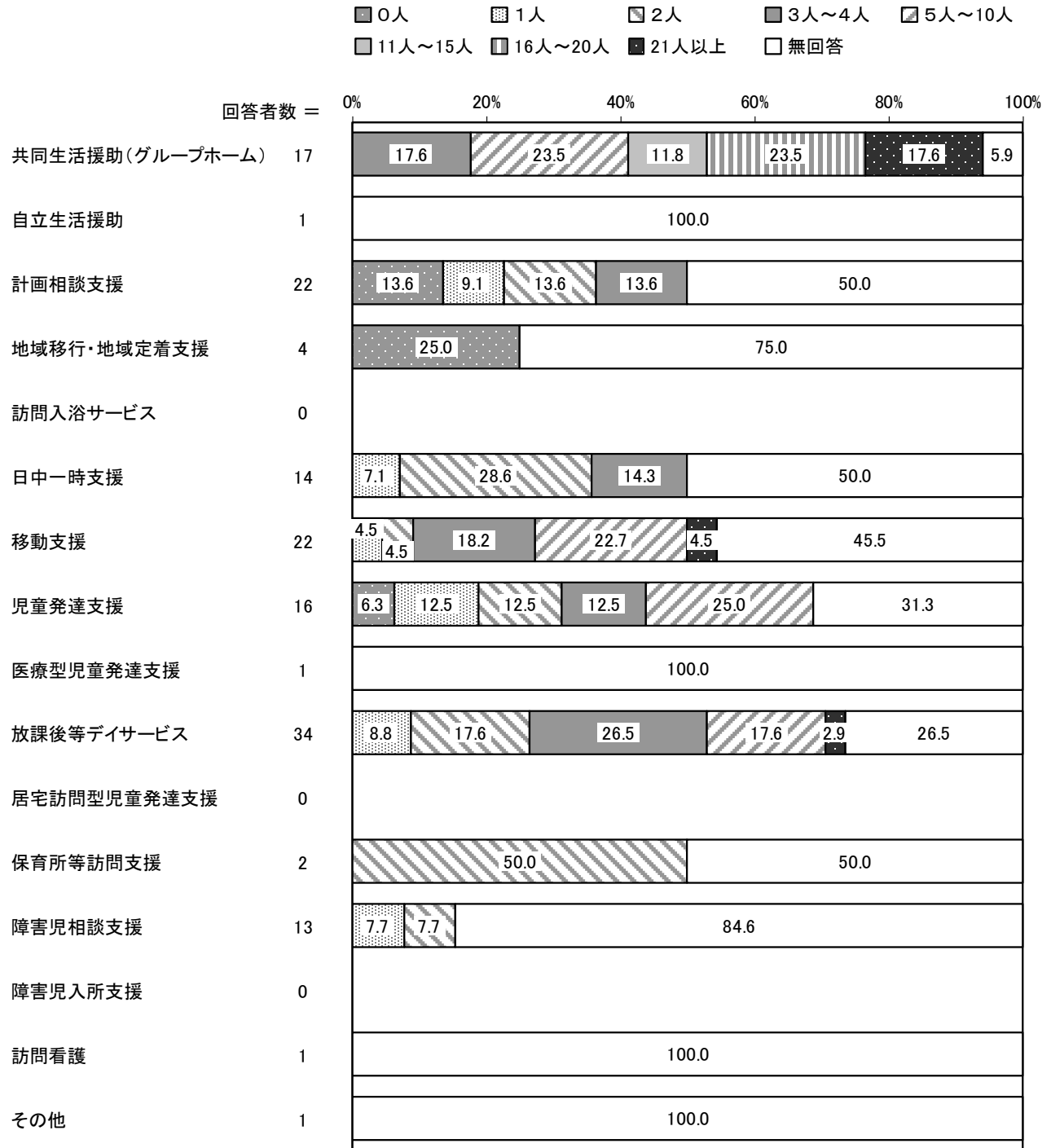
(正規職員続き)

非正規職員（嘱託、契約、臨時、パート等）

『就労移行支援』で「1人」の割合が、『就労継続支援（B型）』で「2人」の割合が高くなっています。また、『共同生活援助（グループホーム）』で「16人～20人」の割合が高くなっています。



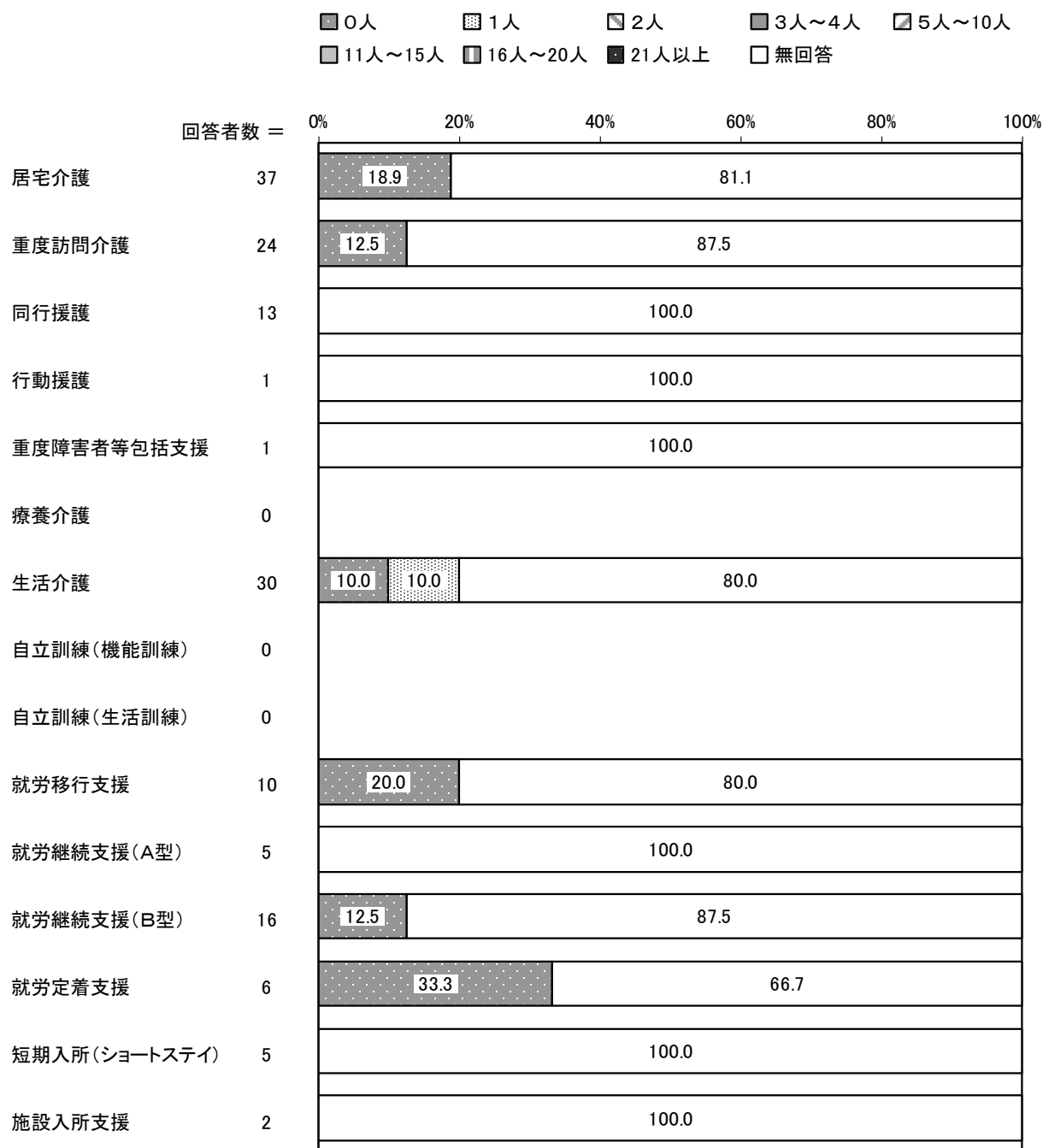
事業所



(非正規職員(嘱託、契約、臨時、パート等) 続き)

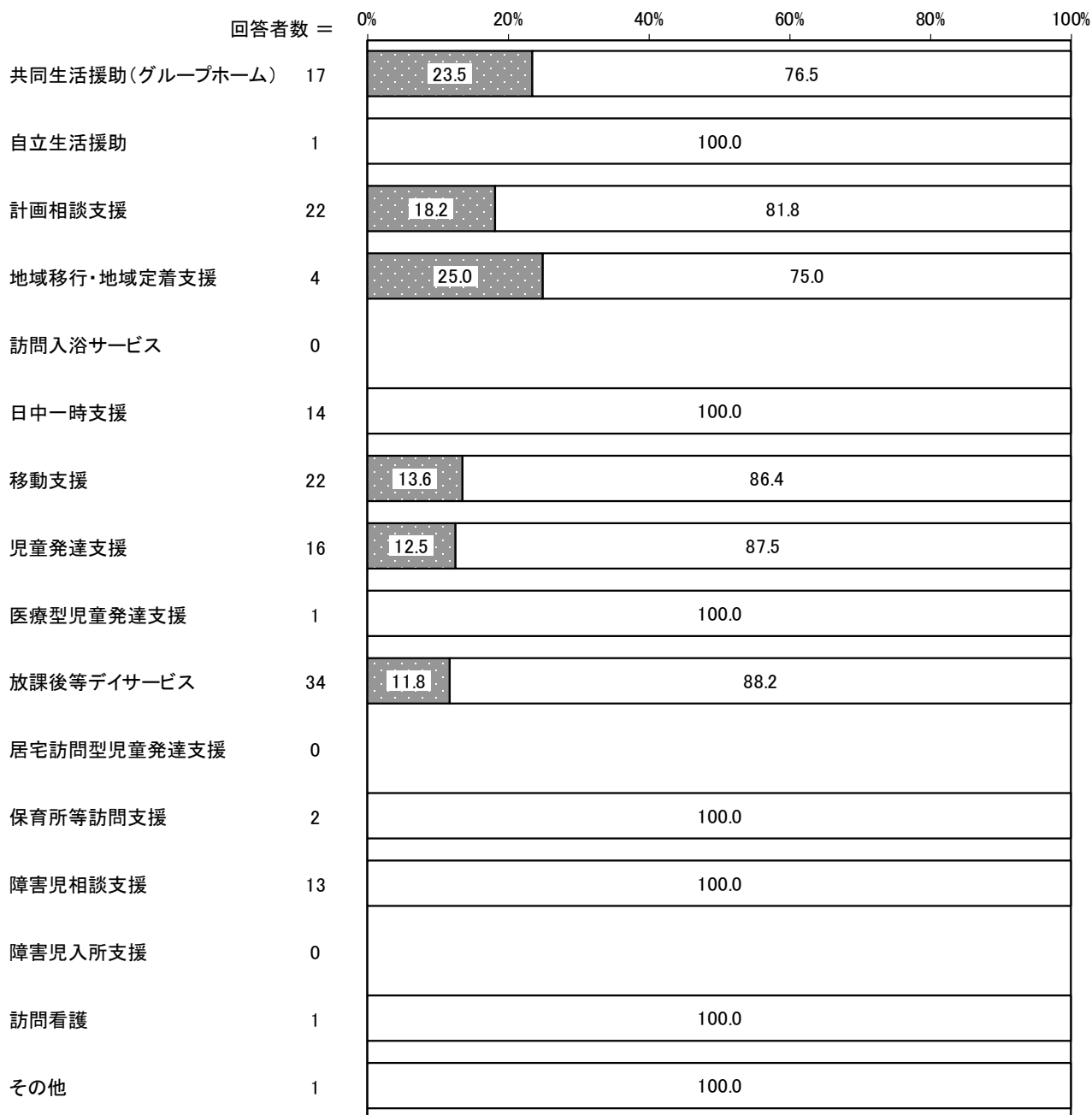
非正規職員（派遣職員）

『生活介護』で「1人」の割合が高くなっています。



事業所

■ 0人 ■ 1人 ■ 2人 ■ 3人~4人 ■ 5人~10人
 ■ 11人~15人 ■ 16人~20人 ■ 21人以上 □ 無回答

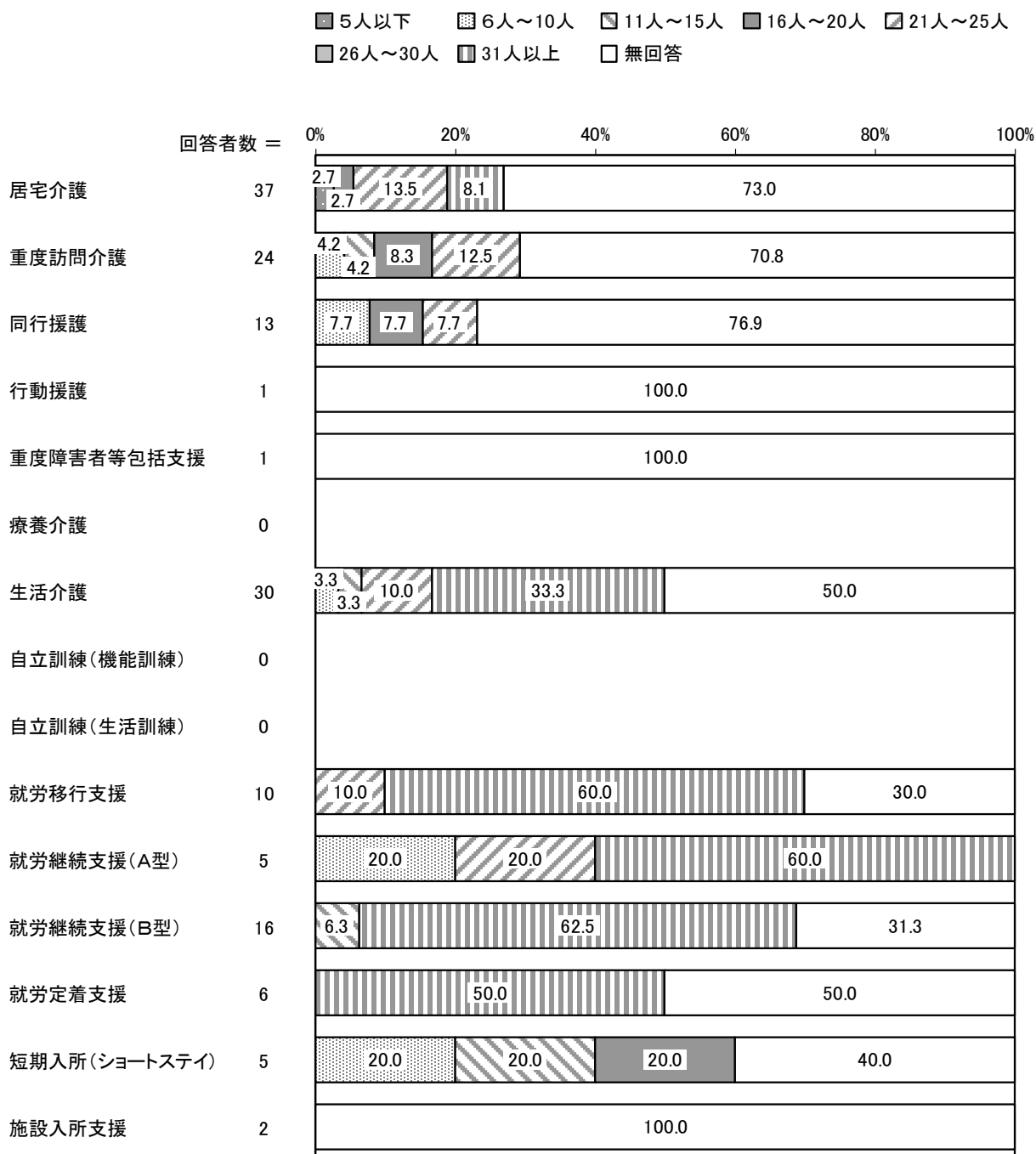


(非正規職員 (派遣職員) 続き)

問5. 貴事業所が提供している障害のある人（障害児）に対するサービス種類名、サービス種類ごとの令和3年4月1日～令和4年3月31日における利用者（うち松戸市民人数）を実人数でご記入ください。なお、重複障害は主たる障害で計上してください。

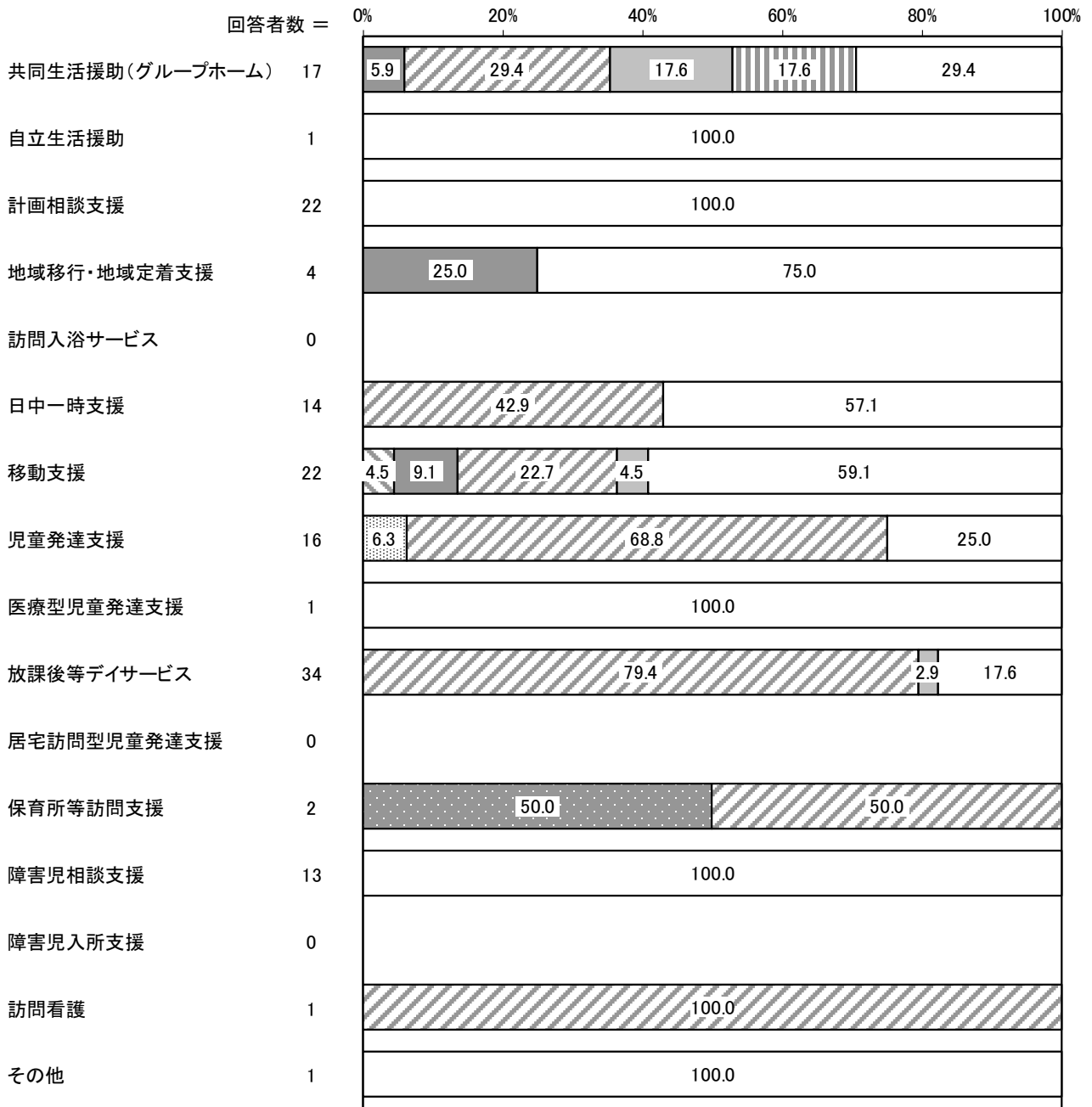
定員

『共同生活援助（グループホーム）』で「26人～30人」の割合が、『放課後等デイサービス』で「21人～25人」の割合が高くなっています。



事業所

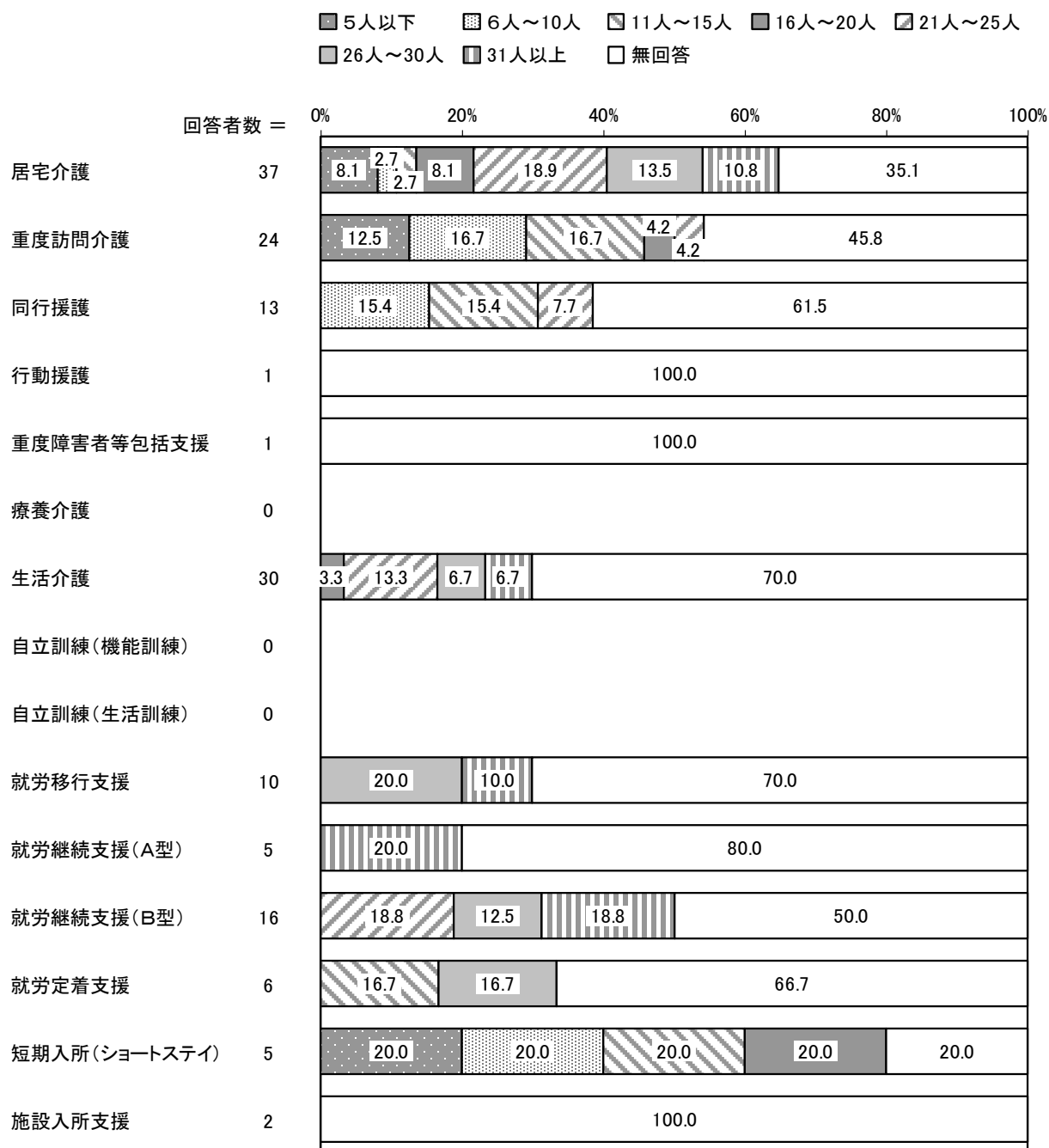
■ 5人以下 ▨ 6人～10人 ▩ 11人～15人 ■ 16人～20人 ▩ 21人～25人
 ■ 26人～30人 ▩ 31人以上 □ 無回答



(定員 続き)

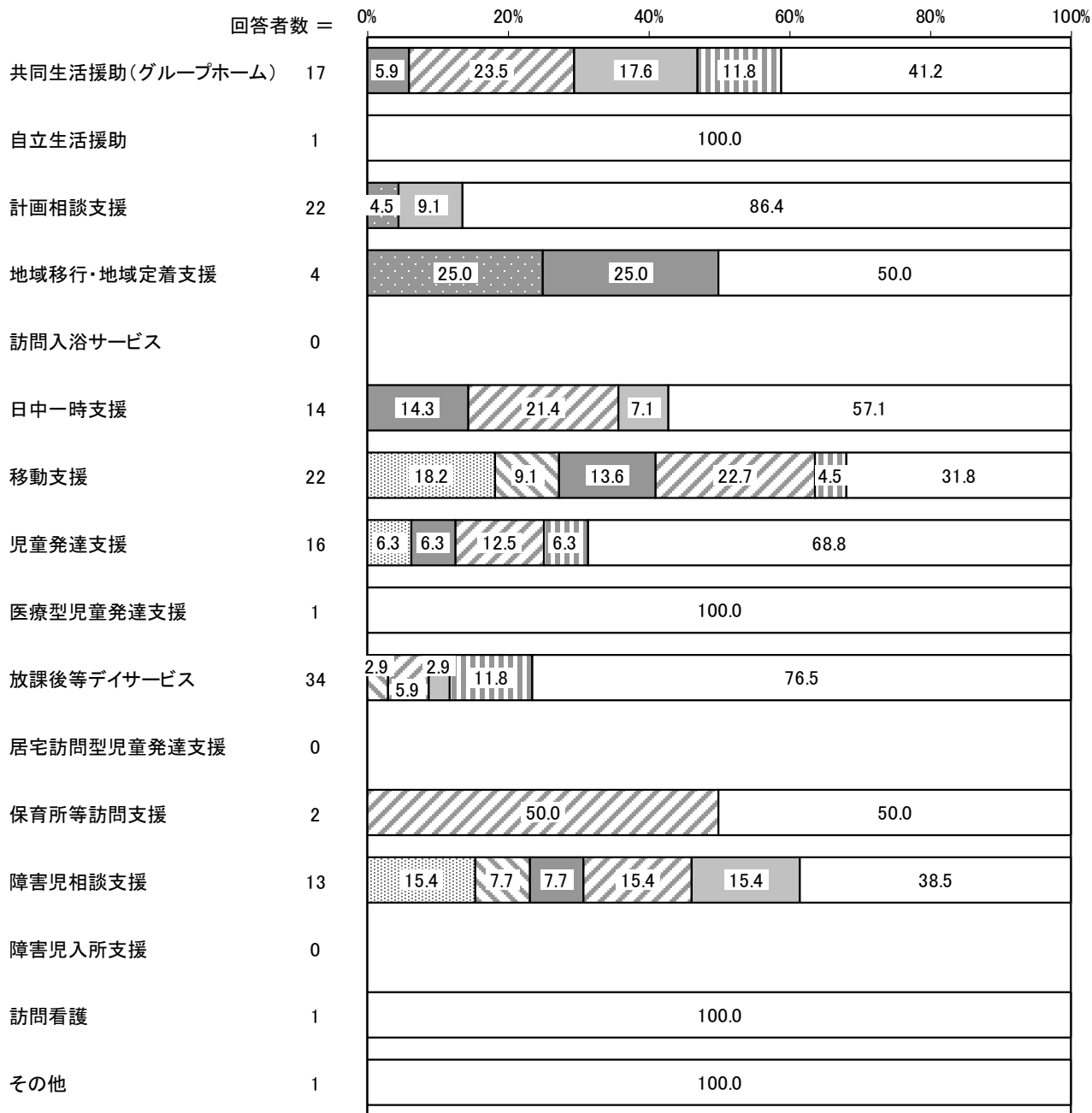
利用者数

『就労継続支援（B型）』で「31人以上」の割合が、『日中一時支援』で「16人～20人」の割合が高くなっています。



事業所

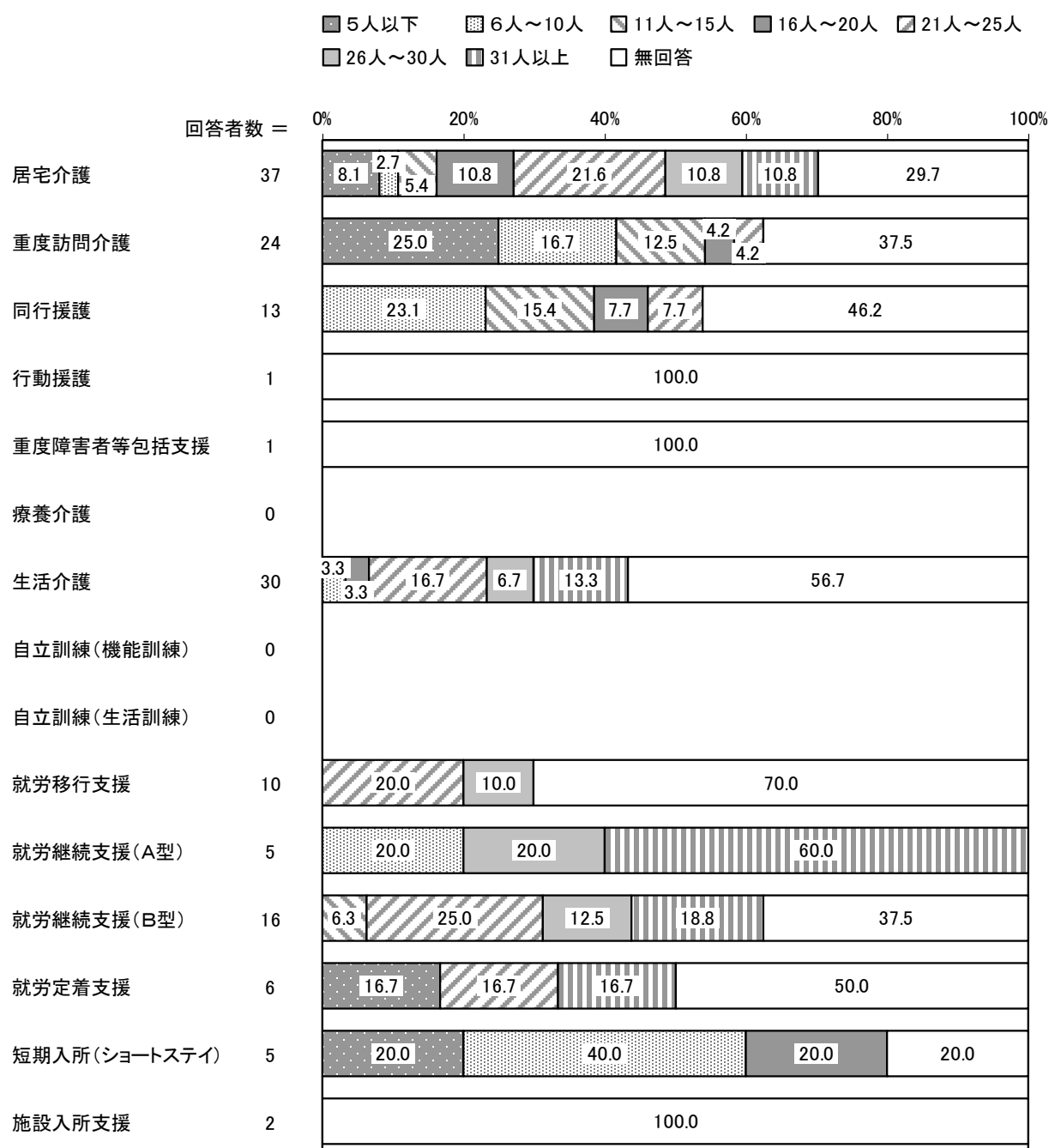
■ 5人以下 ■ 6人～10人 ■ 11人～15人 ■ 16人～20人 ■ 21人～25人
 ■ 26人～30人 ■ 31人以上 □ 無回答



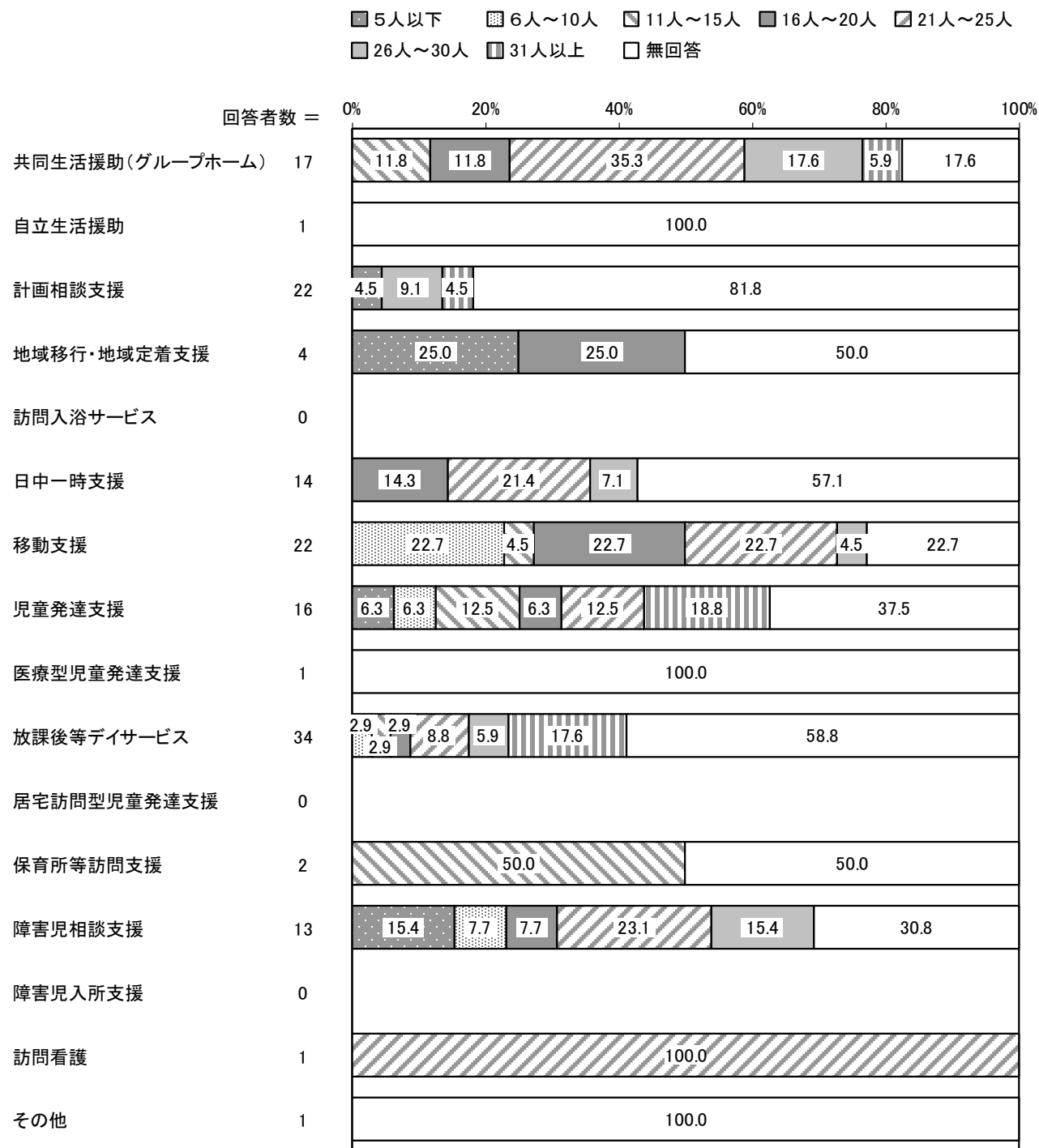
(利用者数 続き)

松戸市民の人数

『重度訪問介護』で「5人以下」の割合が、『共同生活援助（グループホーム）』で「21人～25人」の割合が高くなっています。また、『移動支援』で「6人～10人」の割合が高くなっています。



事業所

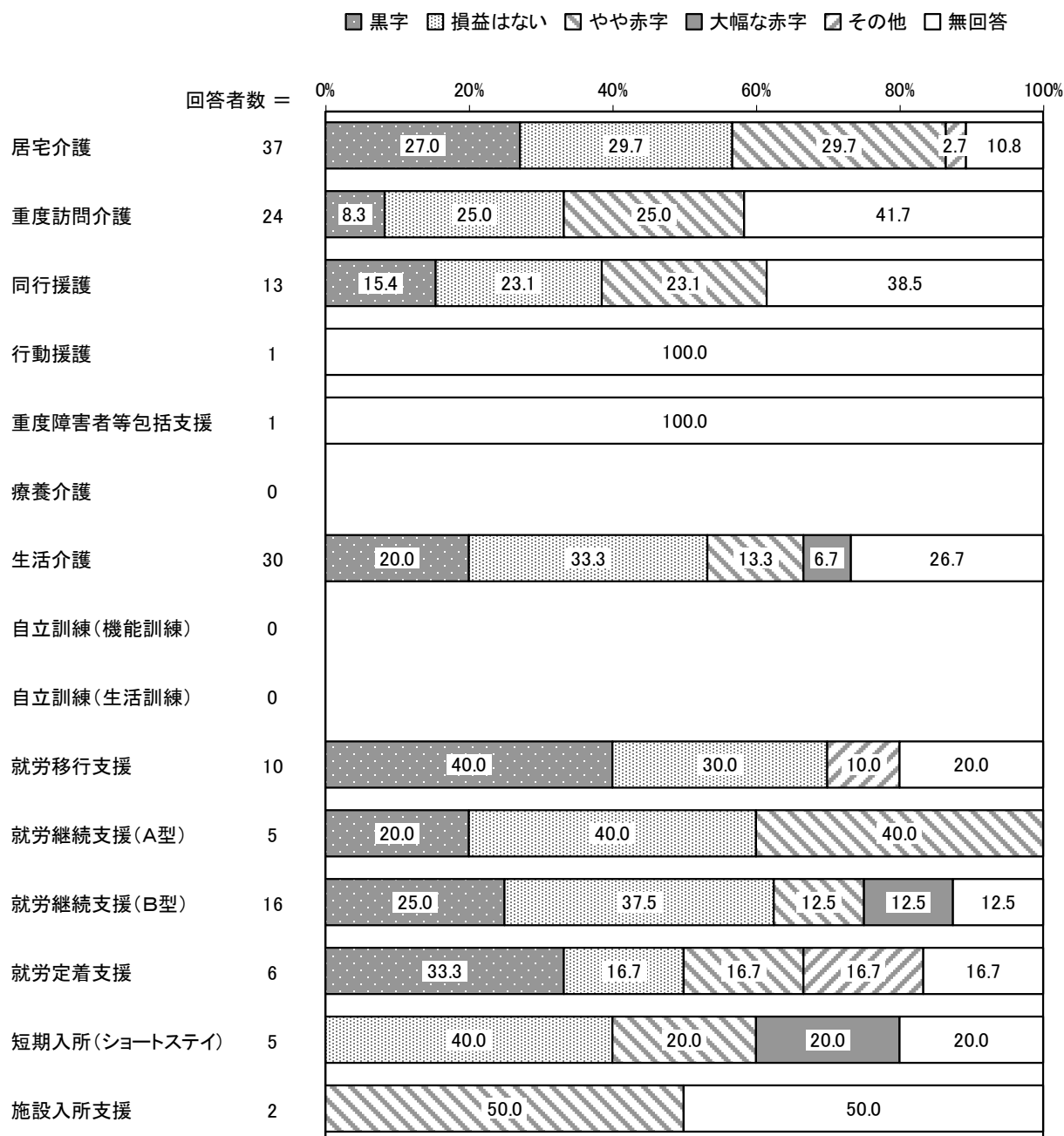


(松戸市民の人数 続き)

(2) 事業所の運営状況等について

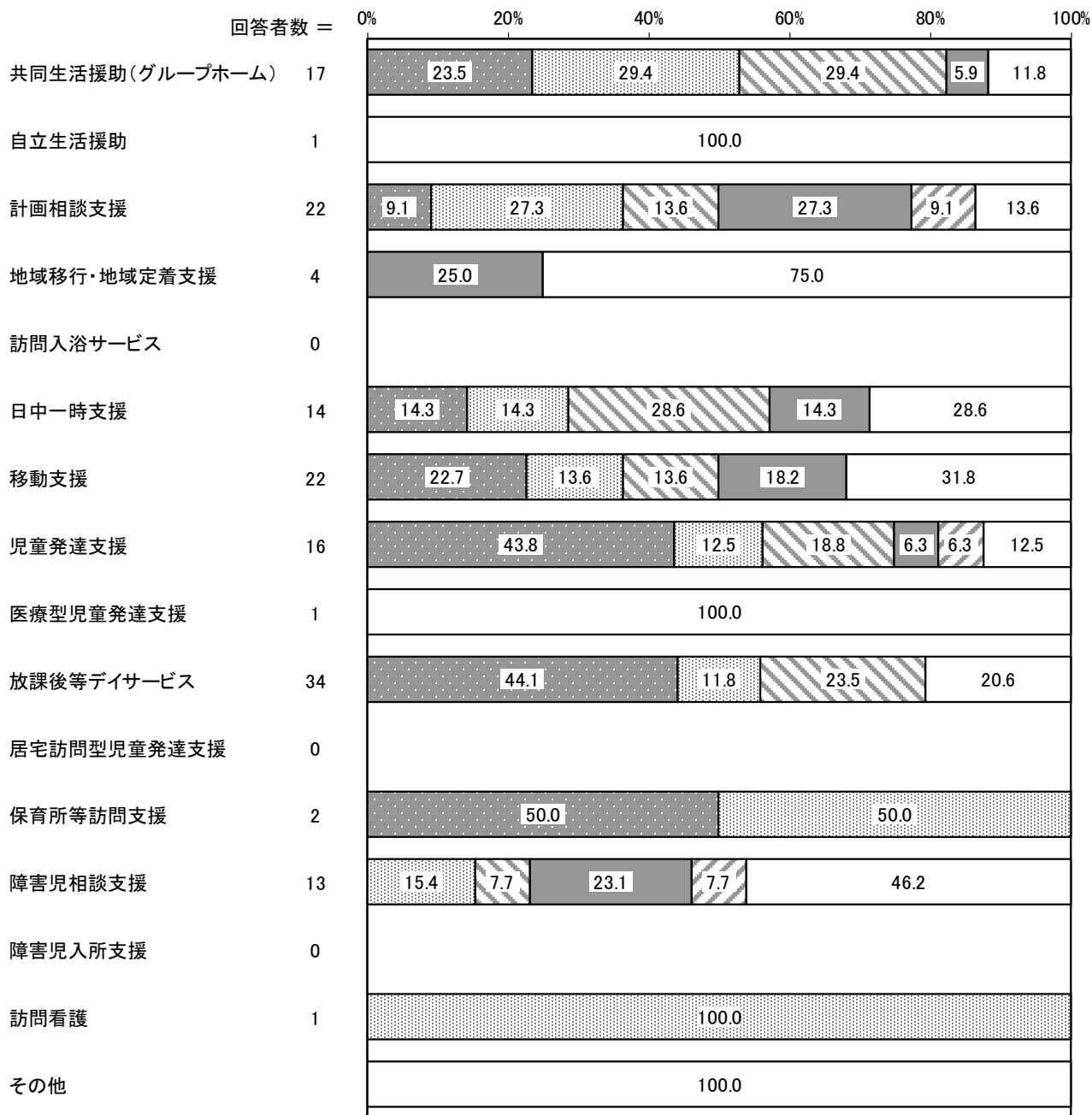
問6. 貴事業所の令和3年度の事業の収支はどのような状況ですか。
(サービス種類ごとにあてはまるもの1つに○)

就労系事業所や障害児に係る事業所については「黒字」または「損益はない」と回答している割合が高く、一方で計画相談支援、障害児相談支援については「大幅な赤字」と回答している割合が高くなっています。



事業所

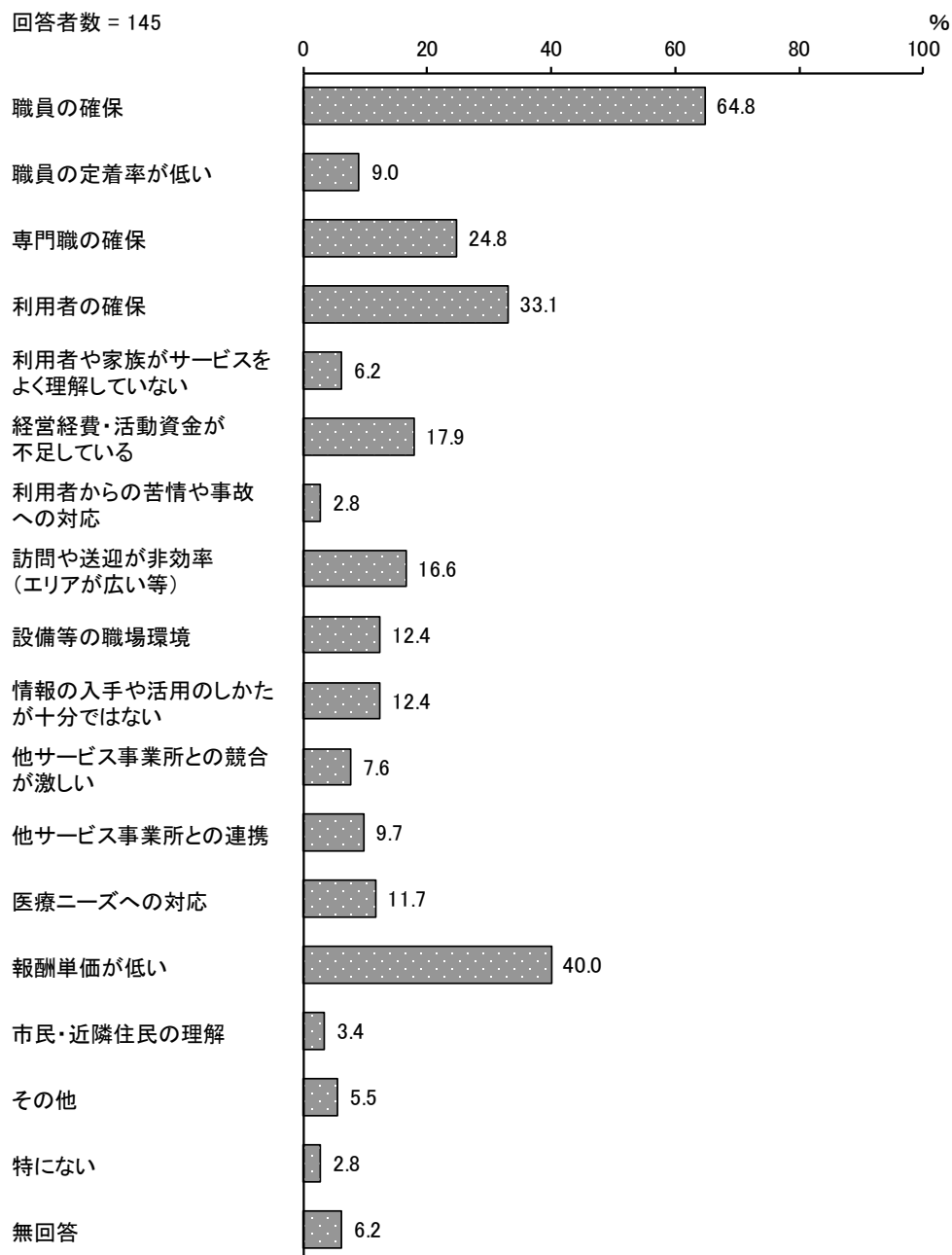
■ 黒字 ■ 損益はない ■ やや赤字 ■ 大幅な赤字 ■ その他 □ 無回答



(事業の収支 続き)

問7. 貴事業所において、運営上の課題はどのようなことですか。
(あてはまるもの4つまでに○)

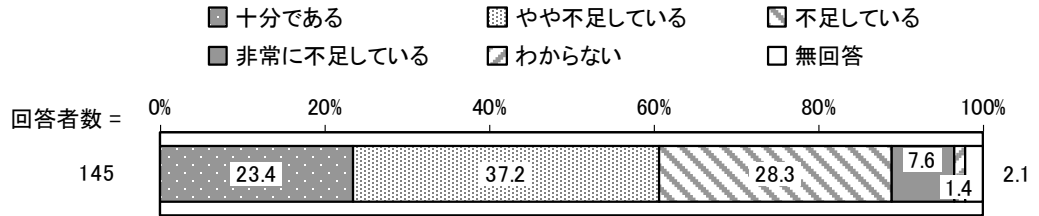
「職員の確保」の割合が64.8%と最も高く、次いで「報酬単価が低い」の割合が40.0%、「利用者の確保」の割合が33.1%となっています。



事業所

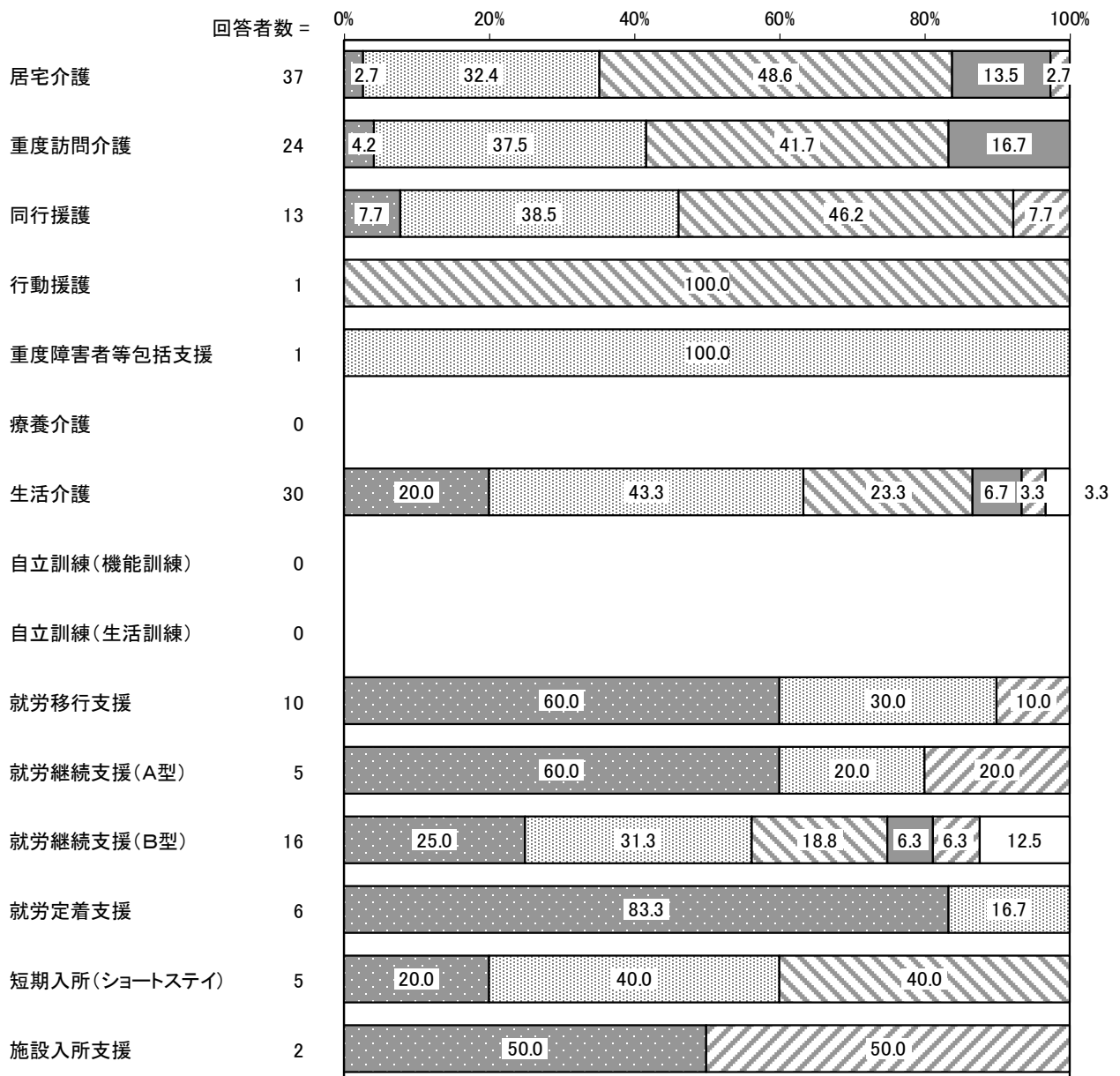
問8 貴運営法人及び貴事業所では業務量に対する職員（人手）の充足具合はいかがですか。（あてはまるもの1つに○）

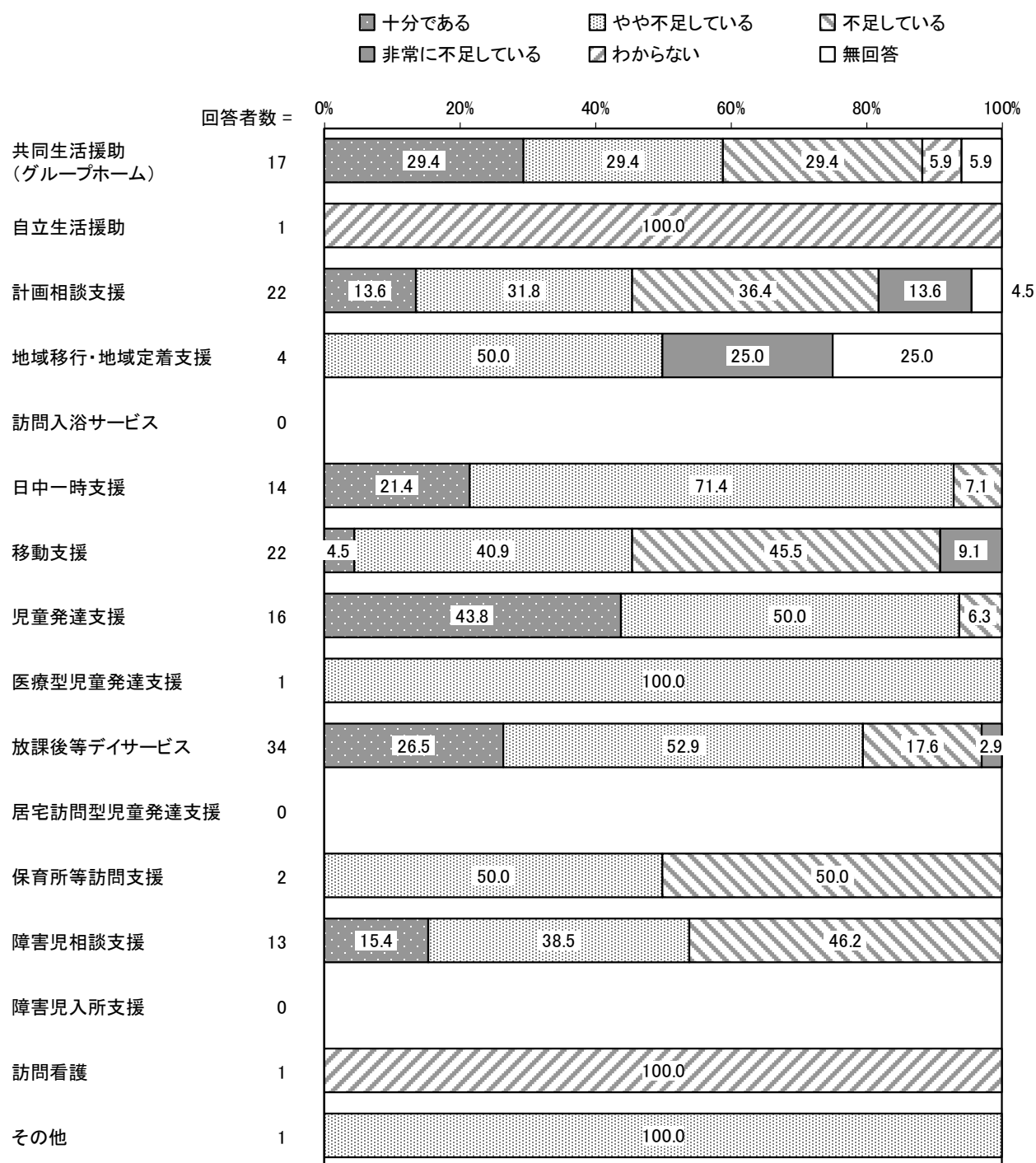
「やや不足している」の割合が37.2%と最も高く、次いで「不足している」の割合が28.3%、「十分である」の割合が23.4%となっています。



【障害福祉サービス・障害児サービス別】

就労系事業所において、職員の充足具合は「十分である」と回答している割合が高く、一方で相談支援に係る事業所や居宅介護等の介護に係る事業所については「やや不足している」、「不足している」と回答している割合が高くなっています。





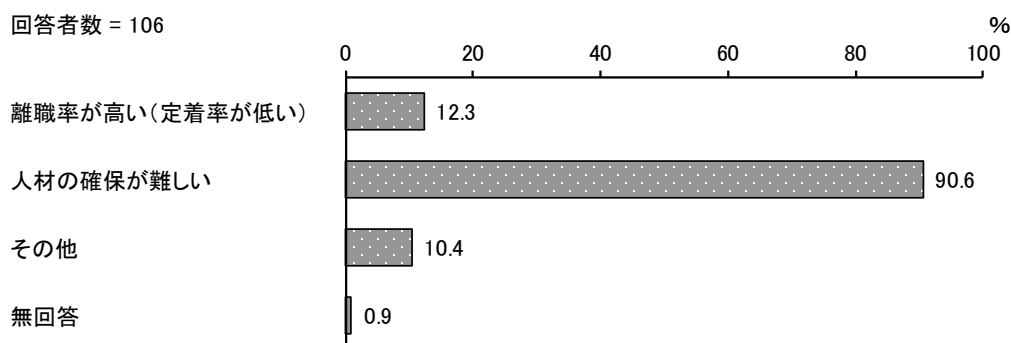
(問8 障害福祉サービス・障害児サービス別 続き)

事業所

問8で「2. やや不足している」「3. 不足している」「4. 非常に不足している」と回答した事業所におたずねします。

問9 不足と感じる理由について教えてください。(あてはまるもの2つまでに○)

「離職率が高い(定着率が低い)」の割合が12.3%、「人材の確保が難しい」の割合が90.6%となっています。



【障害福祉サービス・障害児サービス別】

障害福祉サービス・障害児サービス別でみると、他に比べ、日中一時支援で「離職率が高い(定着率が低い)」の割合が、同行援護で「人材の確保が難しい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	離職率が高い(定着率が低い)	人材の確保が難しい	その他	無回答
居宅介護	35	5.7	88.6	5.7	2.9
重度訪問介護	23	8.7	82.6	8.7	4.3
同行援護	11	—	90.9	9.1	—
行動援護	1	—	100.0	—	—
重度障害者等包括支援	1	—	100.0	—	—
療養介護	—	—	—	—	—
生活介護	22	13.6	81.8	31.8	—
自立訓練(機能訓練)	—	—	—	—	—
自立訓練(生活訓練)	—	—	—	—	—
就労移行支援	3	33.3	66.7	—	—
就労継続支援(A型)	1	—	100.0	—	—
就労継続支援(B型)	9	—	100.0	—	—
就労定着支援	1	100.0	—	—	—

事業所

単位：%

区分	回答者数 (件)	離職率が高い(定着 率が低い)	人材の確保が難し い	その他	無回答
短期入所(ショートステイ)	4	—	100.0	—	—
施設入所支援	—	—	—	—	—
共同生活援助(グループホーム)	10	10.0	100.0	—	—
自立生活援助	—	—	—	—	—
計画相談支援	18	—	88.9	16.7	—
地域移行・地域定着支援	3	—	100.0	—	—
訪問入浴サービス	—	—	—	—	—
日中一時支援	11	27.3	72.7	36.4	—
移動支援	21	—	85.7	9.5	4.8
児童発達支援	9	11.1	88.9	11.1	—
医療型児童発達支援	1	—	—	100.0	—
放課後等デイサービス	25	24.0	80.0	20.0	—
居宅訪問型児童発達支援	—	—	—	—	—
保育所等訪問支援	2	—	100.0	—	—
障害児相談支援	11	—	100.0	9.1	—
障害児入所支援	—	—	—	—	—
訪問看護	—	—	—	—	—
その他	1	—	—	100.0	—

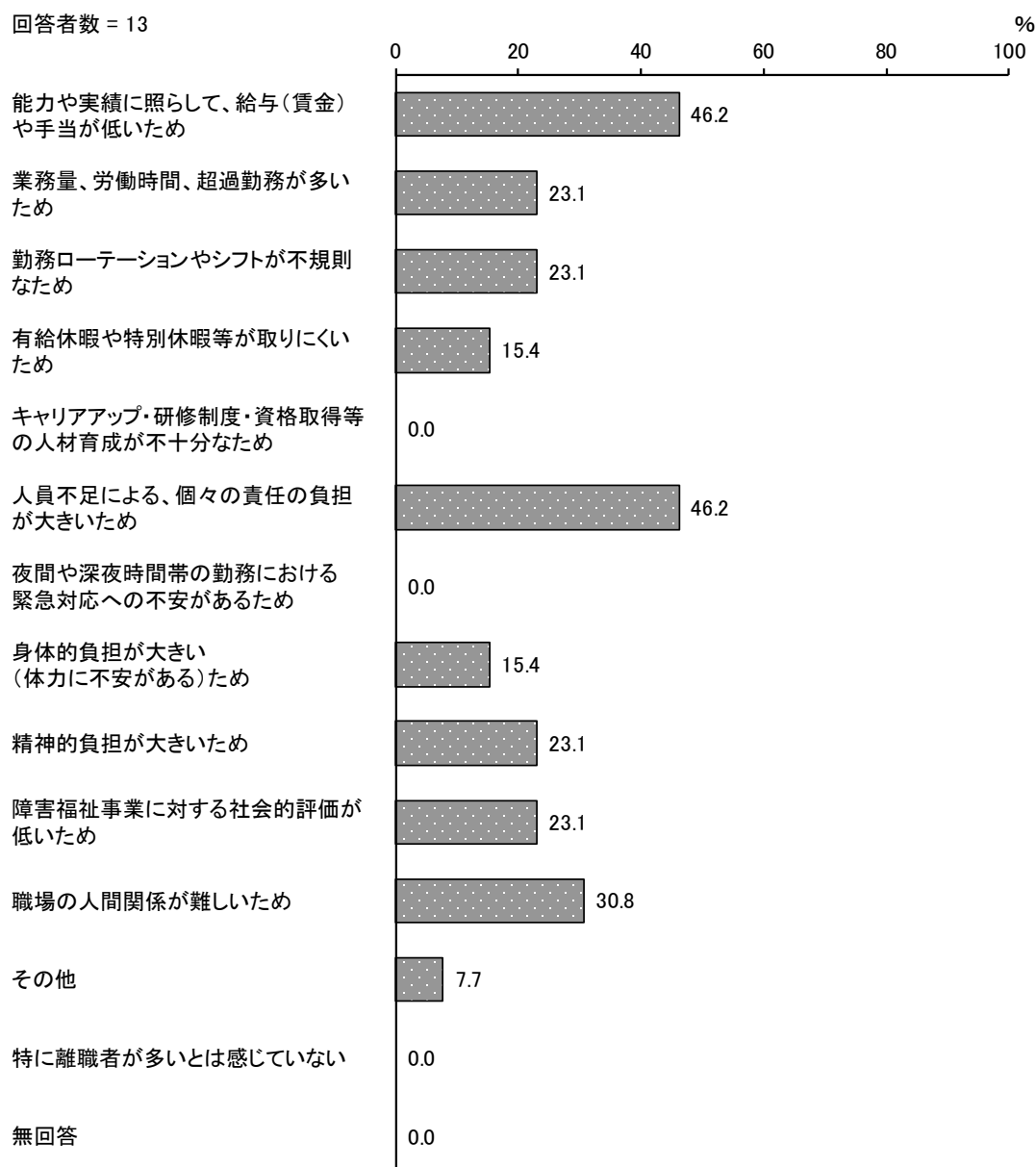
(問9 障害福祉サービス・障害児サービス別 続き)

事業所

問9で「1. 離職率が高い（定着率が低い）」と回答した事業所におたずねします。

問10. 貴事業所から離職する理由のうち、主な理由はどのようなことだと思われますか。（あてはまるもの全てに○）

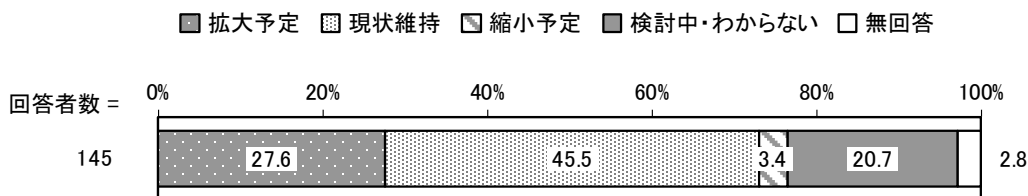
「能力や実績に照らして、給与（賃金）や手当が低いため」、「人員不足による、個々の責任の負担が大きいため」の割合が46.2%と最も高く、次いで「職場の人間関係が難しいため」の割合が30.8%となっています。



(3) サービス提供について

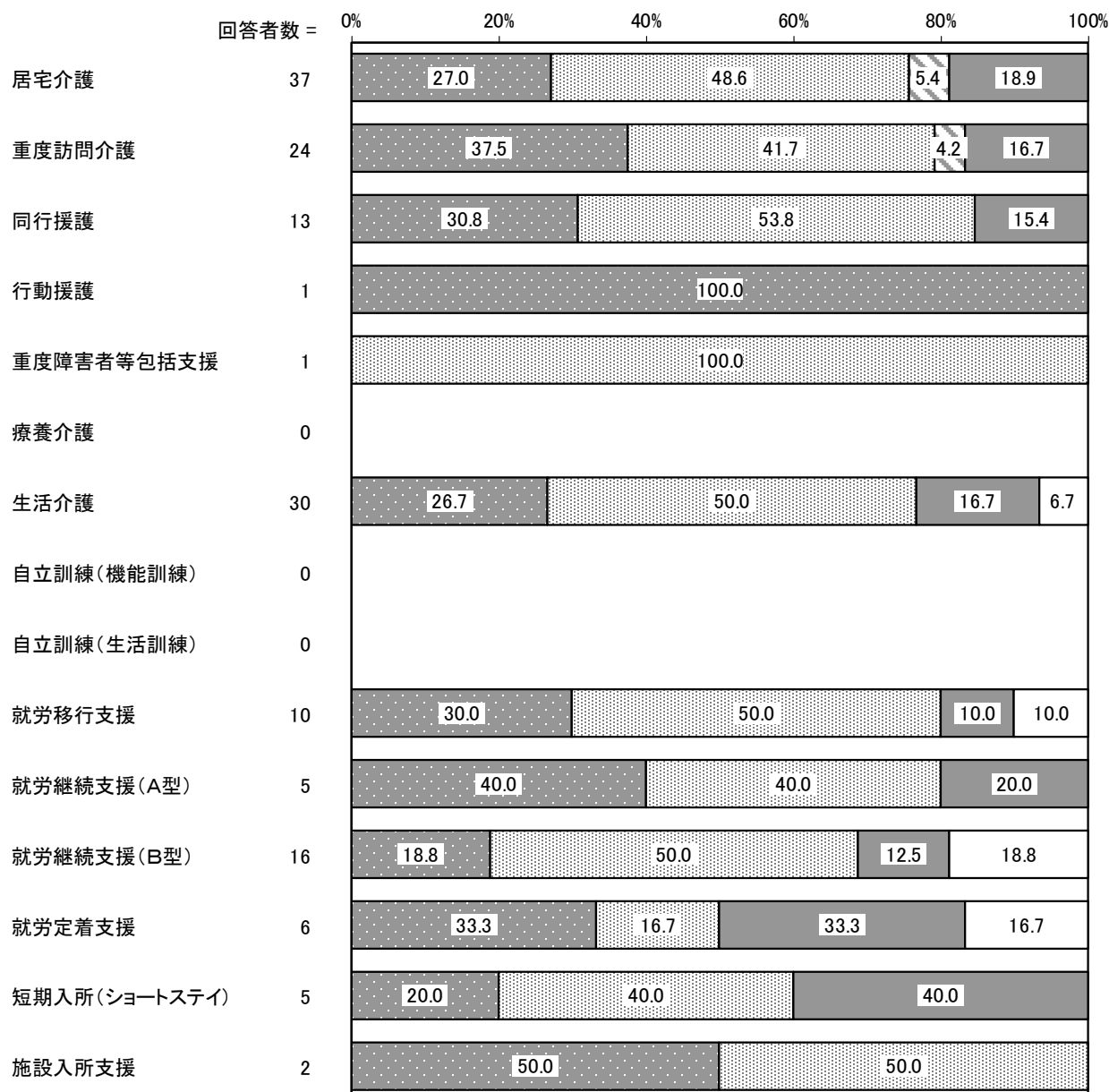
問 11. 今後3年間の事業拡大予定についてどのように検討されていますか。
(あてはまるもの1つに○)

「現状維持」の割合が45.5%と最も高く、次いで「拡大予定」の割合が27.6%、「検討中・わからない」の割合が20.7%となっています。



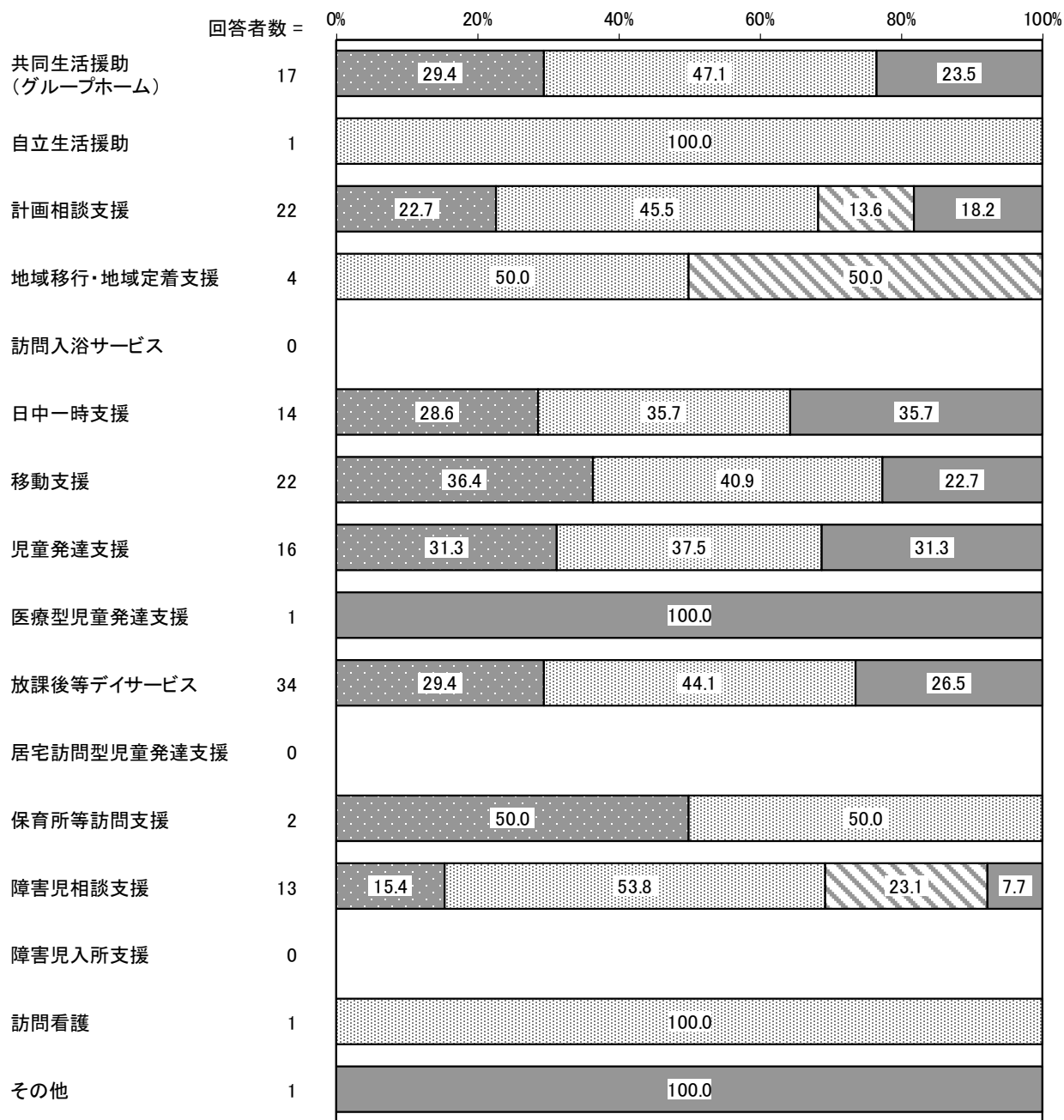
【障害福祉サービス・障害児サービス別】

障害福祉サービス・障害児サービス別でみると、「縮小予定」と回答した事業所の形態は居宅介護、重度訪問介護、地域移行・地域定着支援、相談系事業所となっています。



事業所

■ 拡大予定 ■ 現状維持 ■ 縮小予定 ■ 検討中・わからない □ 無回答



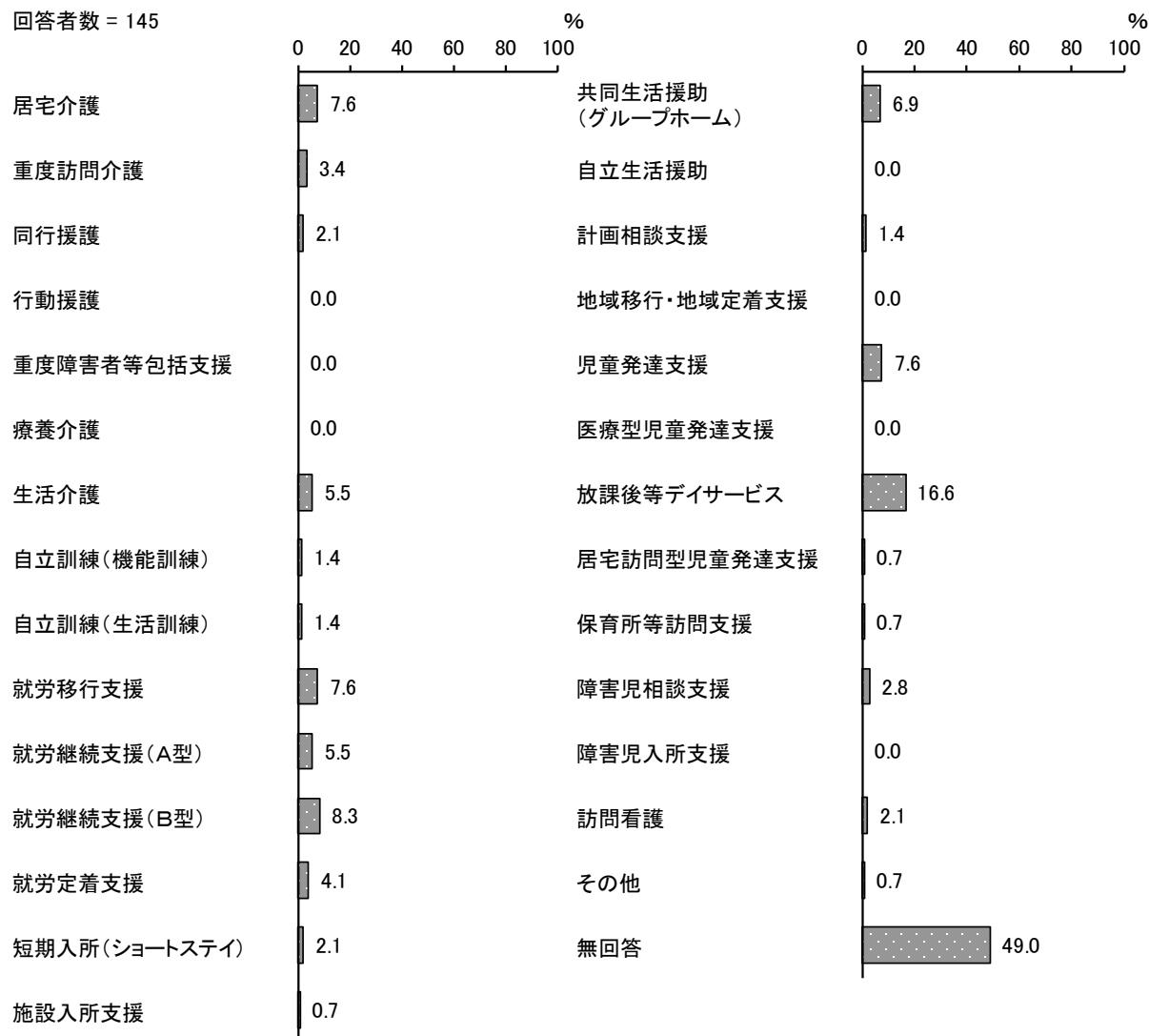
(問 11 障害福祉サービス・障害児サービス別 続き)

問 12. 貴事業所が提供しているサービス種類の市内事業所数の充足状況についてお伺いいたします。サービス種類ごとに記入ください。

充足している（現状維持でいい）

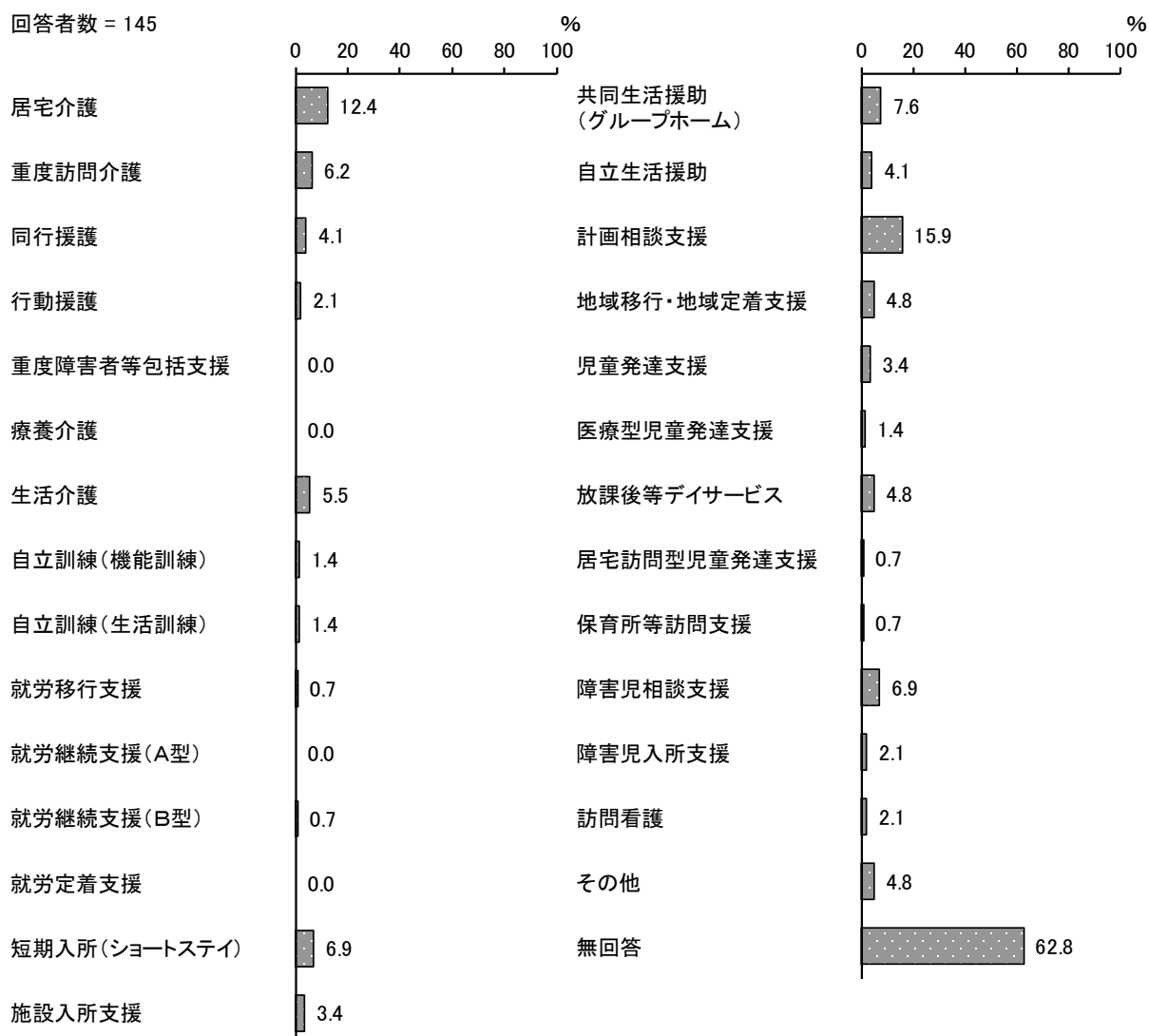
「放課後等デイサービス」の割合が 16.6%と最も高くなっています。

回答者数 = 145



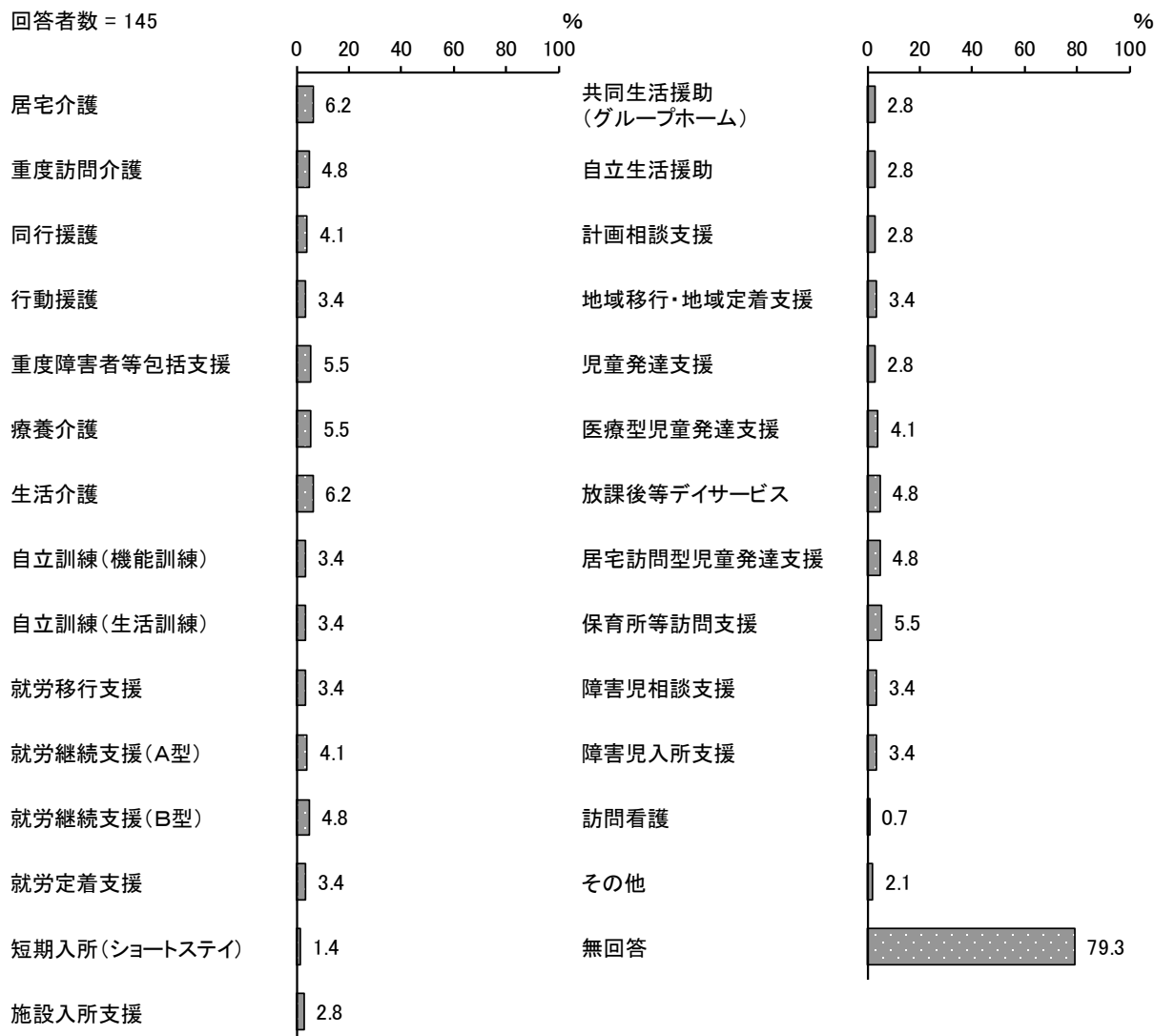
事業所 不足している

「計画相談支援」の割合が15.9%と最も高く、次いで「居宅介護」の割合が12.4%となっています。



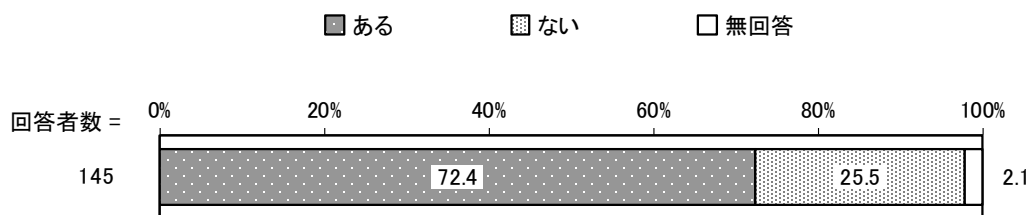
わからない

「居宅介護」、「生活介護」の割合が6.2%と最も高くなっています。



問 13. 過去1年間において、利用者からの依頼に対して、受け入れ（サービス提供）ができなかったことはありますか。（あてはまるもの1つに○）

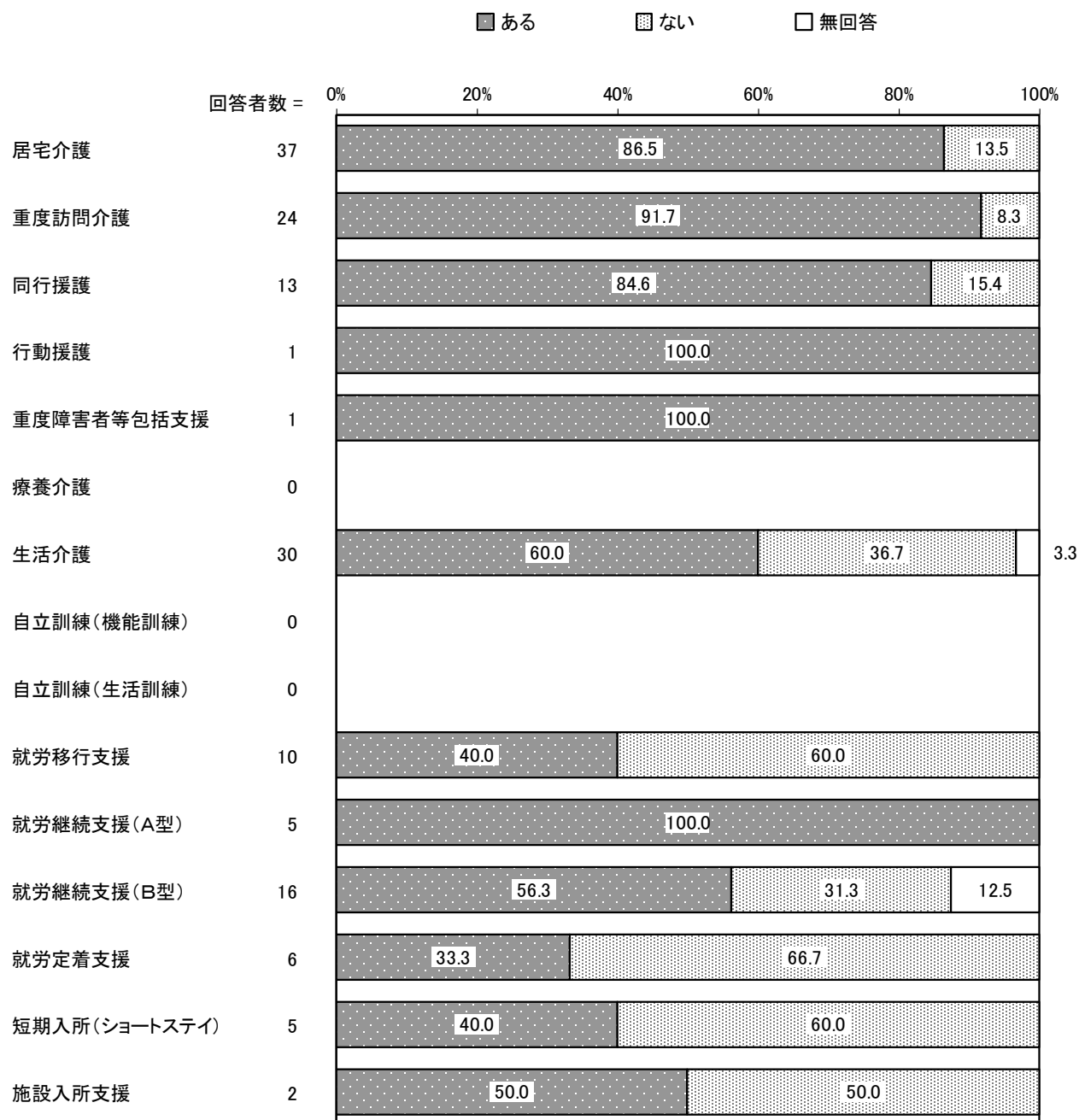
「ある」の割合が72.4%、「ない」の割合が25.5%となっています。

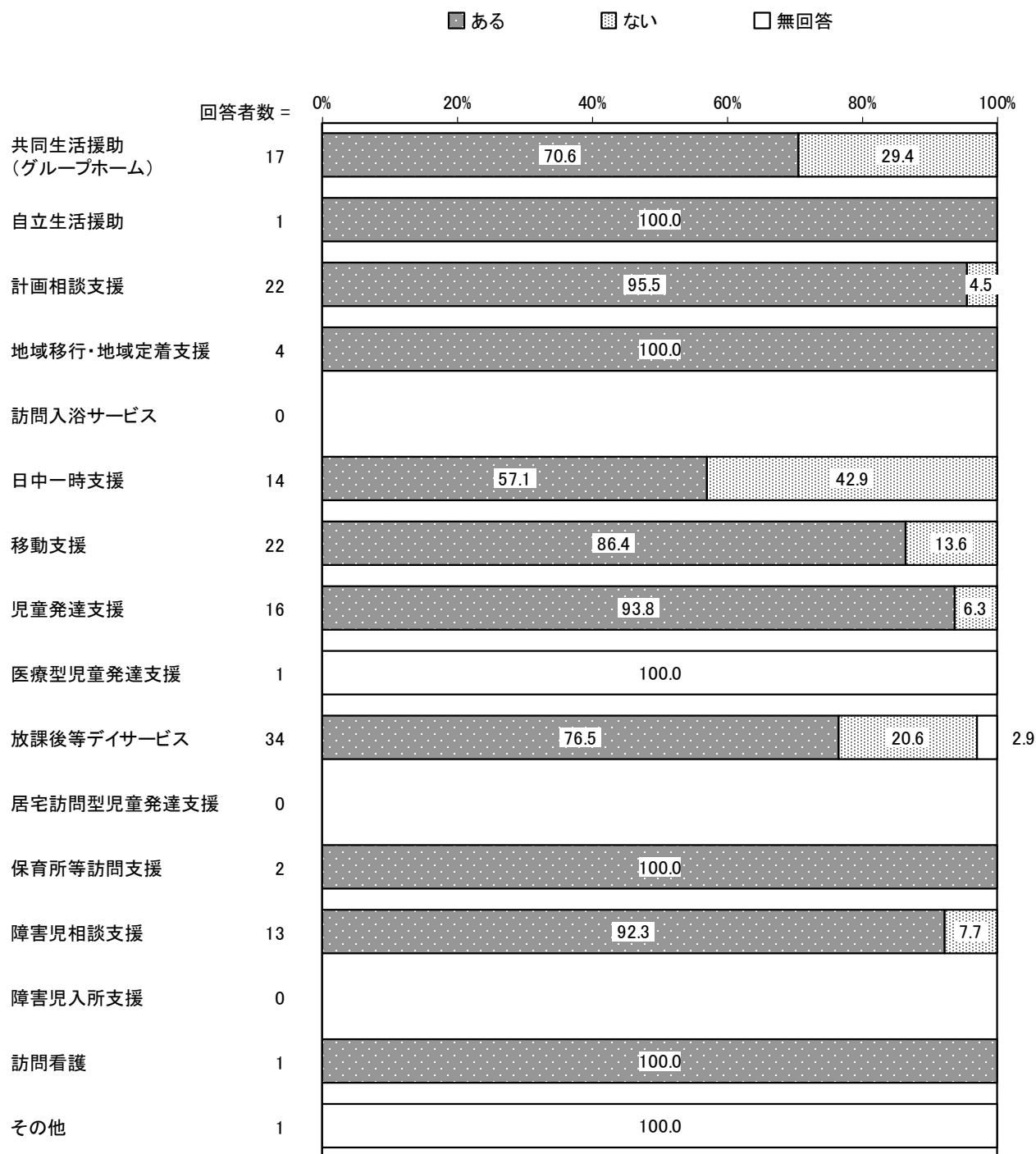


事業所

【障害福祉サービス・障害児サービス別】

障害福祉サービス・障害児サービス別でみると、他に比べ、計画相談支援で「ある」の割合が、就労移行支援で「ない」の割合が高くなっています。





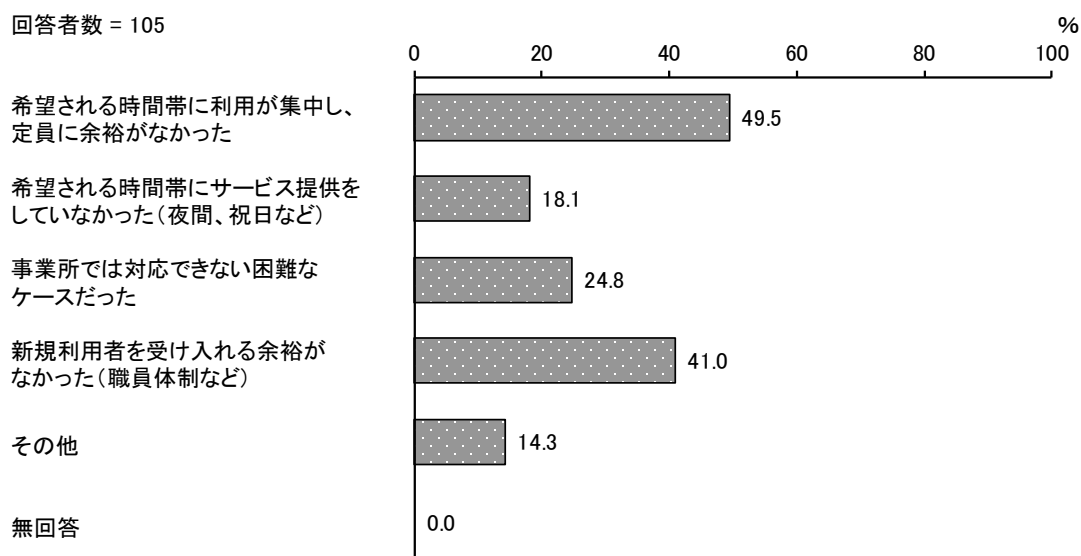
(問 13 障害福祉サービス・障害児サービス別 続き)

事業所

問13で「1. ある」と回答した事業所におたずねします。

問14. その理由を下記の選択肢から選んでください。(あてはまるもの全てに○) また、「3. 事業所では対応できない困難なケースだった」を選択された場合は、具体的な内容を下記の記入欄にお書きください。

「希望される時間帯に利用が集中し、定員に余裕がなかった」の割合が49.5%と最も高く、次いで「新規利用者を受け入れる余裕がなかった(職員体制など)」の割合が41.0%、「事業所では対応できない困難なケースだった」の割合が24.8%となっています。



【障害福祉サービス・障害児サービス別】

障害福祉サービス・障害児サービス別でみると、他に比べ、移動支援で「希望される時間帯に利用が集中し、定員に余裕がなかった」「希望される時間帯にサービス提供をしていなかった（夜間、祝日など）」の割合が、生活介護で「事業所では対応できない困難なケースだった」の割合が高くなっています。また、障害児相談支援で「新規利用者を受け入れる余裕がなかった（職員体制など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	希望される時間帯に利用が集中し、定員に余裕がなかった	希望される時間帯にサービス提供をしていなかった（夜間、祝日など）	事業所では対応できない困難なケースだった	新規利用者を受け入れる余裕がなかった（職員体制など）	その他	無回答
居宅介護	32	78.1	40.6	21.9	50.0	3.1	—
重度訪問介護	22	77.3	36.4	18.2	45.5	4.5	—
同行援護	11	72.7	36.4	18.2	27.3	9.1	—
行動援護	1	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—
重度障害者等包括支援	1	100.0	100.0	100.0	—	—	—
療養介護	—	—	—	—	—	—	—
生活介護	18	27.8	22.2	38.9	38.9	22.2	—
自立訓練（機能訓練）	—	—	—	—	—	—	—
自立訓練（生活訓練）	—	—	—	—	—	—	—
就労移行支援	4	25.0	—	50.0	—	25.0	—
就労継続支援（A型）	5	40.0	—	40.0	—	40.0	—
就労継続支援（B型）	9	33.3	22.2	33.3	11.1	—	—
就労定着支援	2	50.0	—	100.0	—	—	—
短期入所（ショートステイ）	2	50.0	50.0	—	50.0	50.0	—
施設入所支援	1	100.0	—	—	—	—	—

事業所

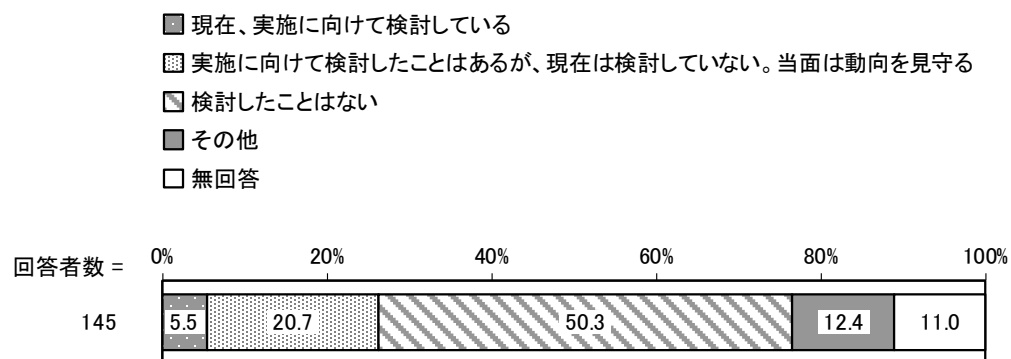
単位：％

区分	回答者数 (件)	希望される時間帯に 利用が集中し、定員に余裕が なかった	希望される時間帯に サービス提供をしていな かった(夜間、祝日など)	事業所では対応できない 困難なケースだった	新規利用者を受け入れる 余裕がなかった (職員体制など)	その他	無回答
共同生活援助 (グループホーム)	12	33.3	8.3	25.0	41.7	8.3	—
自立生活援助	1	100.0	—	—	—	—	—
計画相談支援	21	23.8	14.3	19.0	66.7	9.5	—
地域移行・地域定着支援	4	—	25.0	—	100.0	—	—
訪問入浴サービス	—	—	—	—	—	—	—
日中一時支援	8	75.0	25.0	12.5	37.5	25.0	—
移動支援	19	89.5	47.4	21.1	42.1	5.3	—
児童発達支援	15	86.7	20.0	6.7	6.7	13.3	—
医療型児童発達支援	—	—	—	—	—	—	—
放課後等デイサービス	26	61.5	15.4	11.5	34.6	26.9	—
居宅訪問型児童発達支援	—	—	—	—	—	—	—
保育所等訪問支援	2	50.0	50.0	—	—	—	—
障害児相談支援	12	25.0	8.3	16.7	75.0	8.3	—
障害児入所支援	—	—	—	—	—	—	—
訪問看護	1	100.0	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—

(問 14 障害福祉サービス・障害児サービス別 続き)

問 15. 共生型サービスの実施に関して、検討していますか。
(あてはまるもの1つに○)

「検討したことはない」の割合が50.3%と最も高く、次いで「実施に向けて検討したことはあるが、現在は検討していない。当面は動向を見守る」の割合が20.7%となっています。

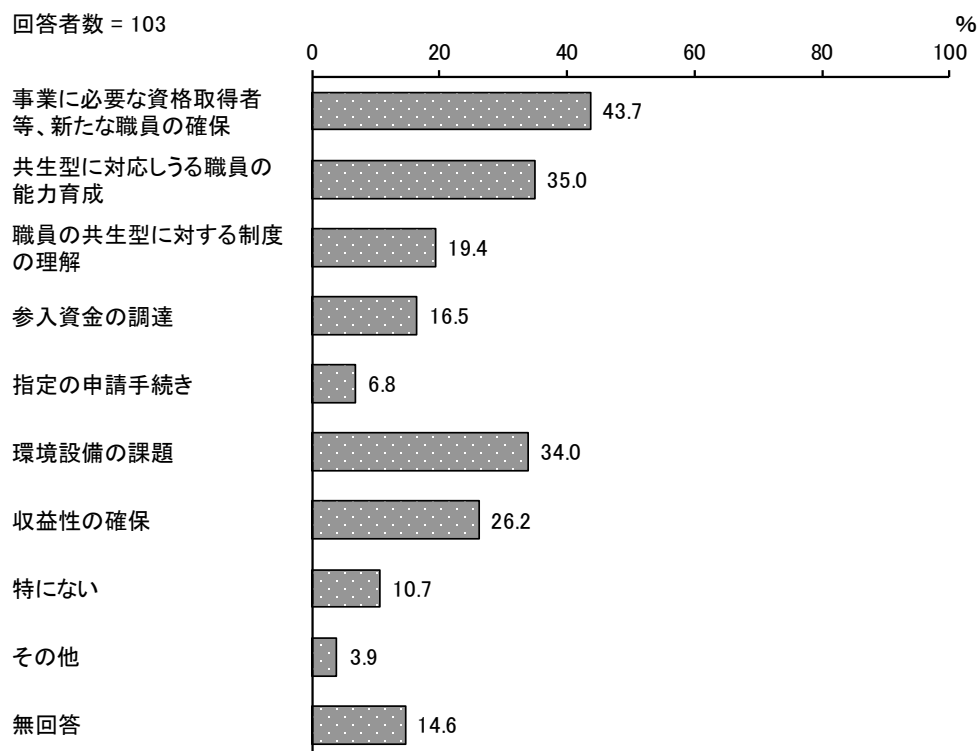


事業所

問 15 で「2. 実施に向けて検討したことはあるが、現在は検討していない。当面は動向を見守る」
「3. 検討したことはない」と回答した事業所におたずねします。

問 16. 共生型サービスに参入を検討する上で課題となることは何ですか。
(あてはまるもの3つまでに○)

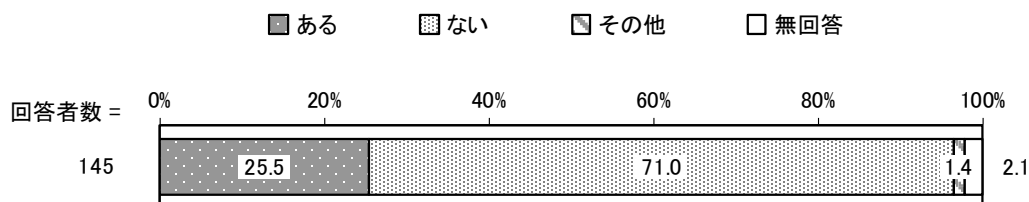
「事業に必要な資格取得者等、新たな職員の確保」の割合が 43.7%と最も高く、次いで「共生型に対応しうる職員の能力育成」の割合が 35.0%、「環境設備の課題」の割合が 34.0%となっています。



(4) 障害のある人の虐待防止について

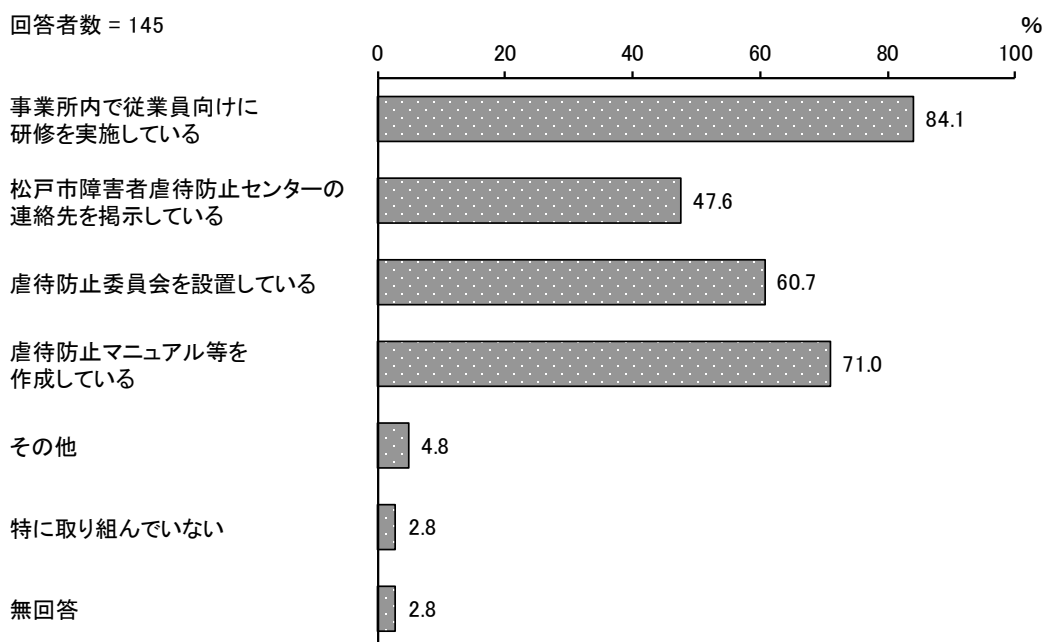
問 17. これまでに貴事業所で虐待に対応されたことはありましたか。
(あてはまるもの1つに○)

「ある」の割合が25.5%、「ない」の割合が71.0%となっています。



問 18. 貴事業所では、どのようにして虐待防止に取り組まれているかをお答えください。(あてはまるもの全てに○)

「事業所内で従業員向けに研修を実施している」の割合が84.1%と最も高く、次いで「虐待防止マニュアル等を作成している」の割合が71.0%、「虐待防止委員会を設置している」の割合が60.7%となっています。

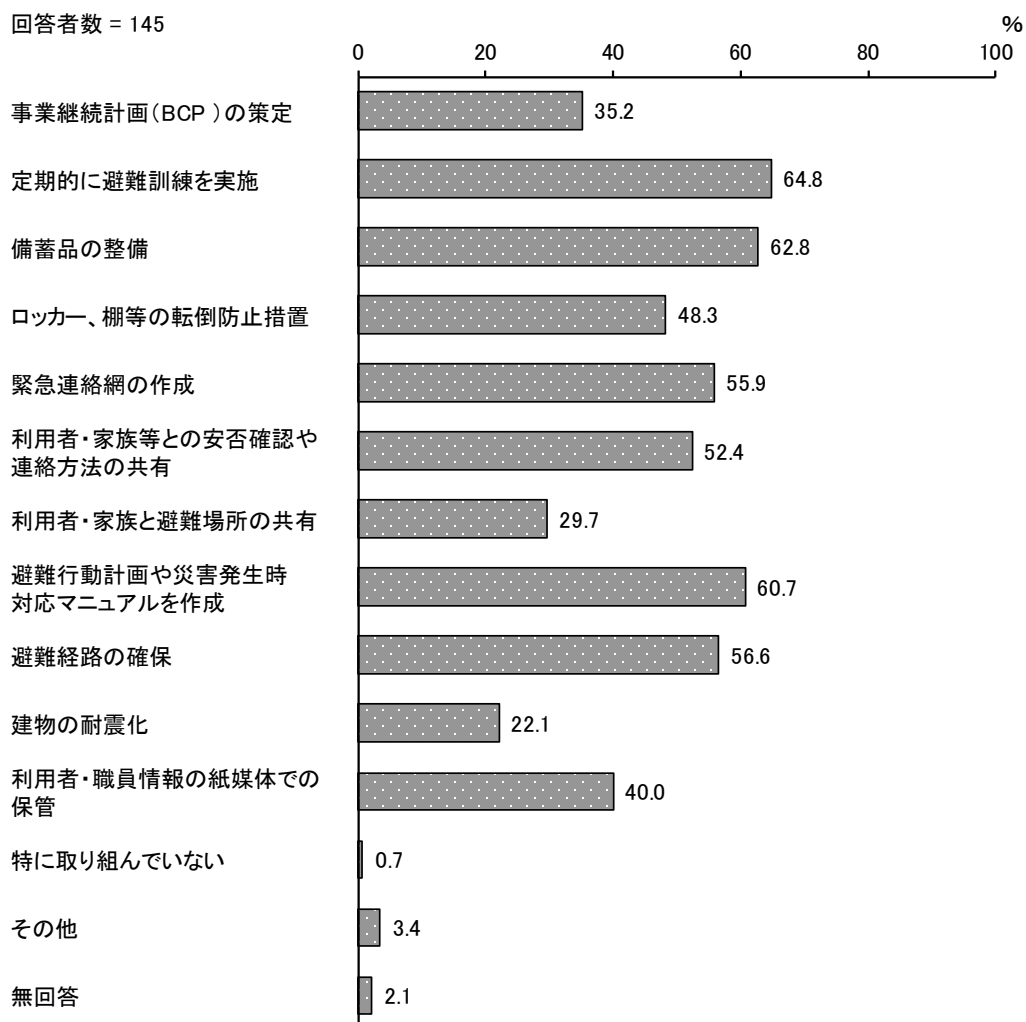


事業所

(5) 災害時の対策について

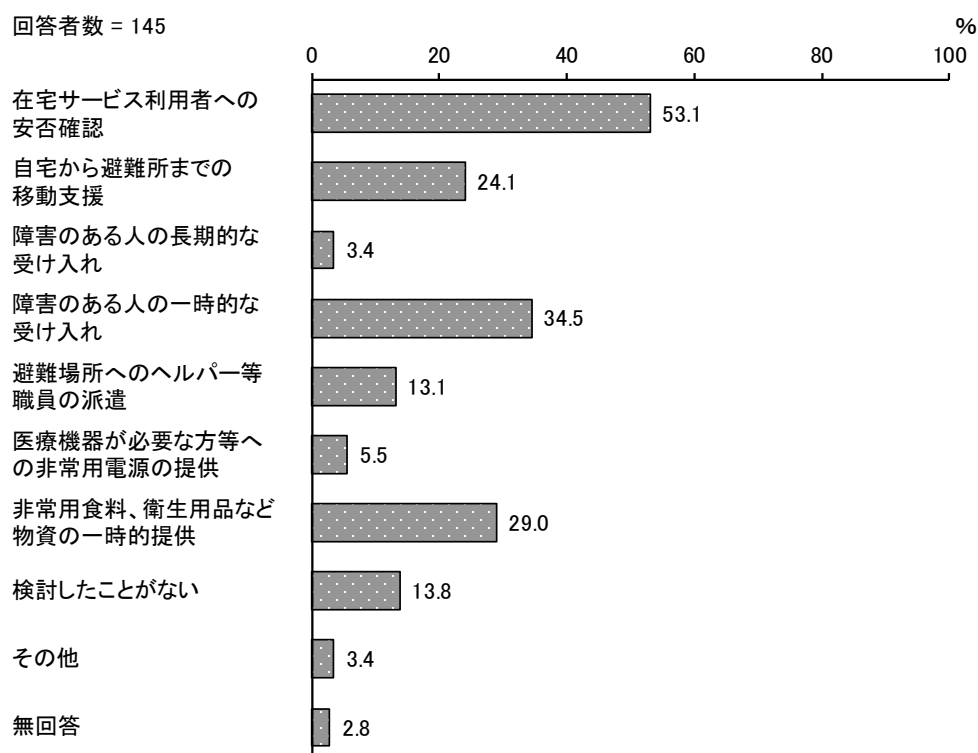
問 19. 貴事業所では災害時の対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるもの全てに○)

「定期的に避難訓練を実施」の割合が 64.8%と最も高く、次いで「備蓄品の整備」の割合が 62.8%、「避難行動計画や災害発生時対応マニュアルを作成」の割合が 60.7%となっています。



問 20. 災害時に障害のある人への支援において協力できることはどのようなことですか。(あてはまるもの全てに○)

「在宅サービス利用者への安否確認」の割合が 53.1%と最も高く、次いで「障害のある人の一時的な受け入れ」の割合が 34.5%、「非常用食料、衛生用品など物資の一時的提供」の割合が 29.0%となっています。

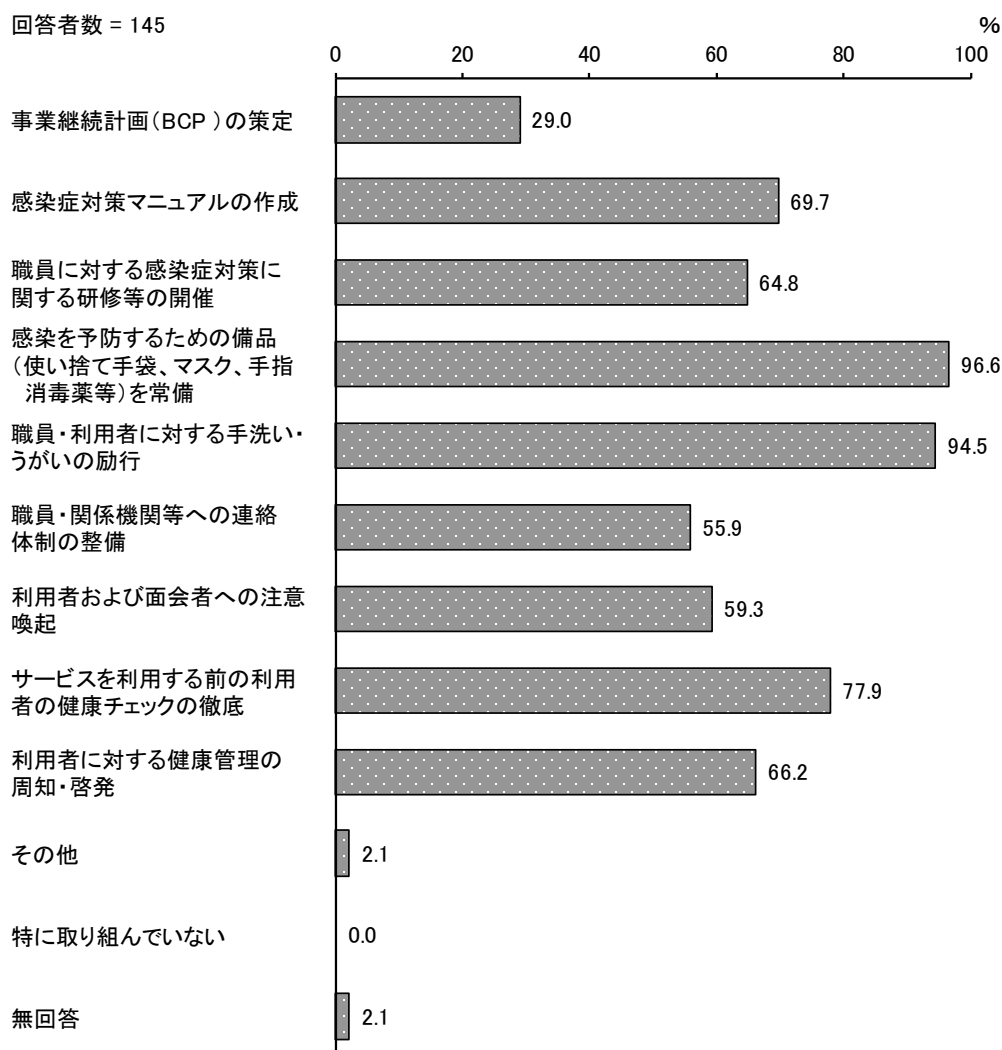


事業所

(6) 感染症対策について

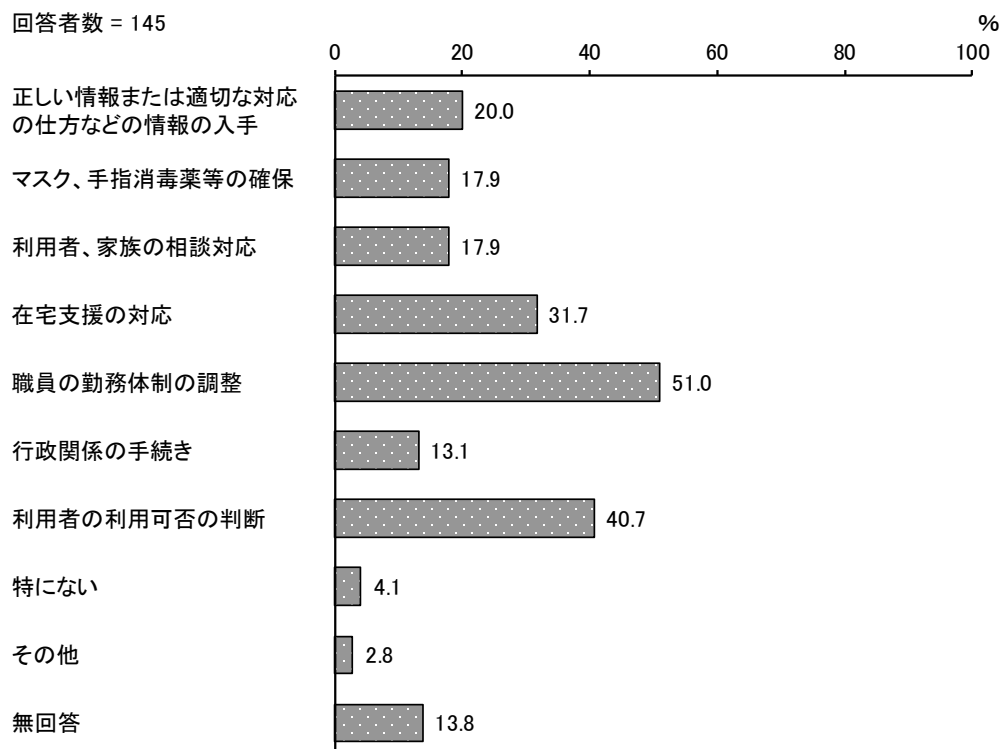
問 21. 貴事業所では感染症対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるもの全てに○)

「感染を予防するための備品（使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等）を常備」の割合が 96.6%と最も高く、次いで「職員・利用者に対する手洗い・うがいの励行」の割合が 94.5%、「サービスを利用する前の利用者の健康チェックの徹底」の割合が 77.9%となっています。



問 22. 今般の新型コロナウイルスの対策で、困ったことはどのようなことですか。
(あてはまるもの3つまでに○)

「職員の勤務体制の調整」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「利用者の利用可否の判断」の割合が 40.7%、「在宅支援の対応」の割合が 31.7%となっています。

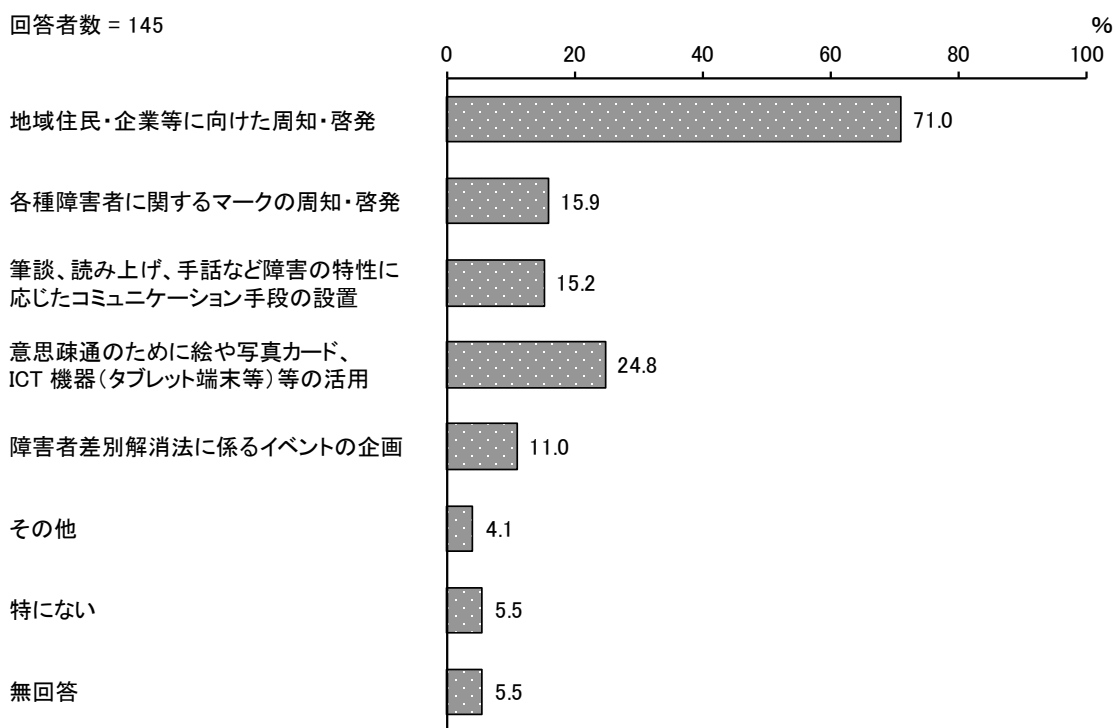


事業所

(7) 障害のある人の差別解消について

問 23. 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために事業所として特に必要なことは何だと思われますか。(あてはまるもの2つまでに○)

「地域住民・企業等に向けた周知・啓発」の割合が71.0%と最も高く、次いで「意思疎通のために絵や写真カード、ICT 機器(タブレット端末等)等の活用」の割合が24.8%、「各種障害者に関するマークの周知・啓発」の割合が15.9%となっています。

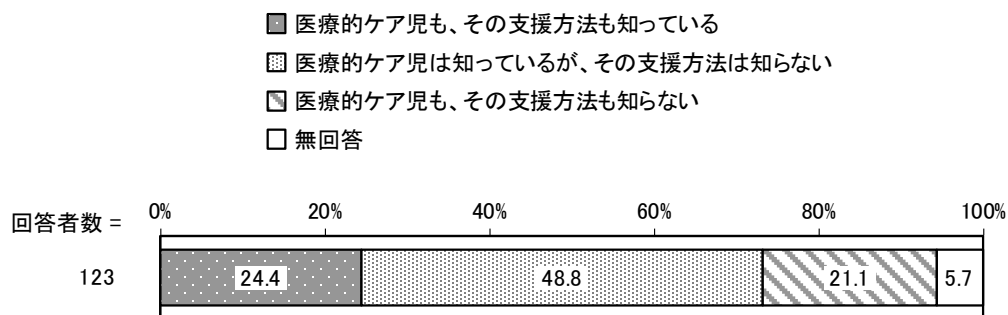


（8）医療的ケア児への支援の実施について

相談支援事業所は問 41 にお進みください。

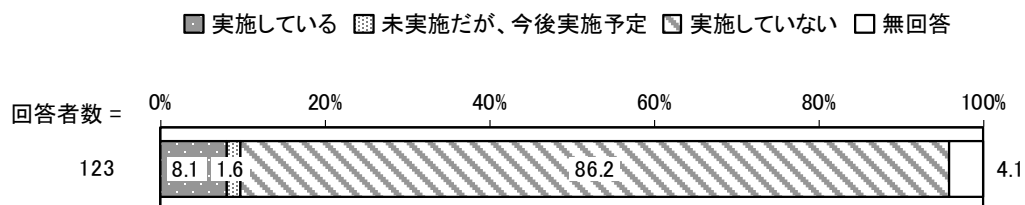
問 24. 医療的ケア児やその支援方法について知っていますか。
（あてはまるもの 1 つに○）

「医療的ケア児は知っているが、その支援方法は知らない」の割合が 48.8% と最も高く、次いで「医療的ケア児も、その支援方法も知っている」の割合が 24.4%、「医療的ケア児も、その支援方法も知らない」の割合が 21.1% となっています。



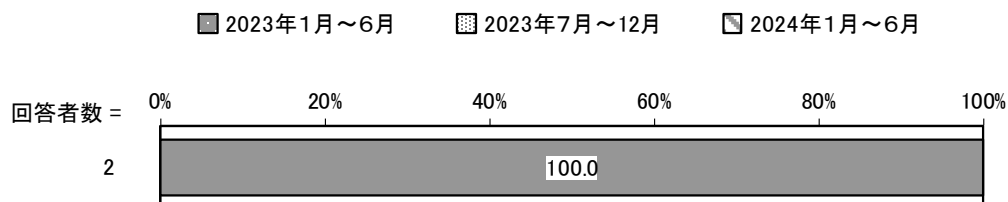
問 25. 貴事業所において、医療的ケア児に対する支援を実施していますか。
（あてはまるもの 1 つに○）

「実施していない」の割合が 86.2% と最も高くなっています。



医療的ケア児に対する支援予定時期

「2024 年 7 月～12 月」が 2 件となっています。



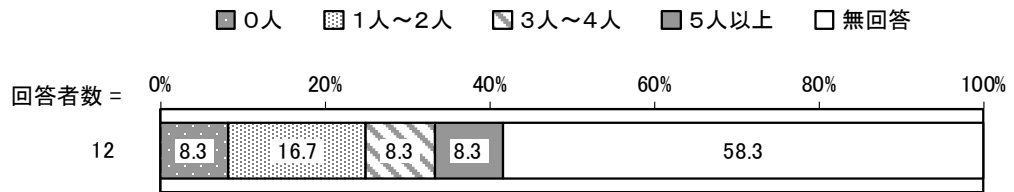
事業所

【医療的ケアを実施又は実施予定の事業所への質問です】

問 26. 医療的ケアを実施している児童の人数についてお答え下さい。(実施予定の場合は、現段階での予定人数をお答えください)

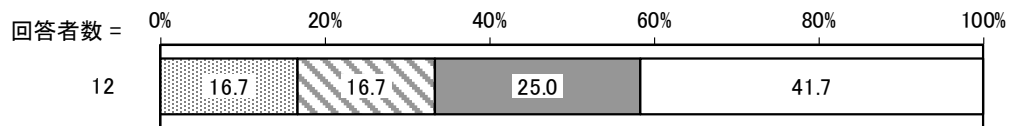
未就学児

「1人～2人」の割合が16.7%と最も高くなっています。



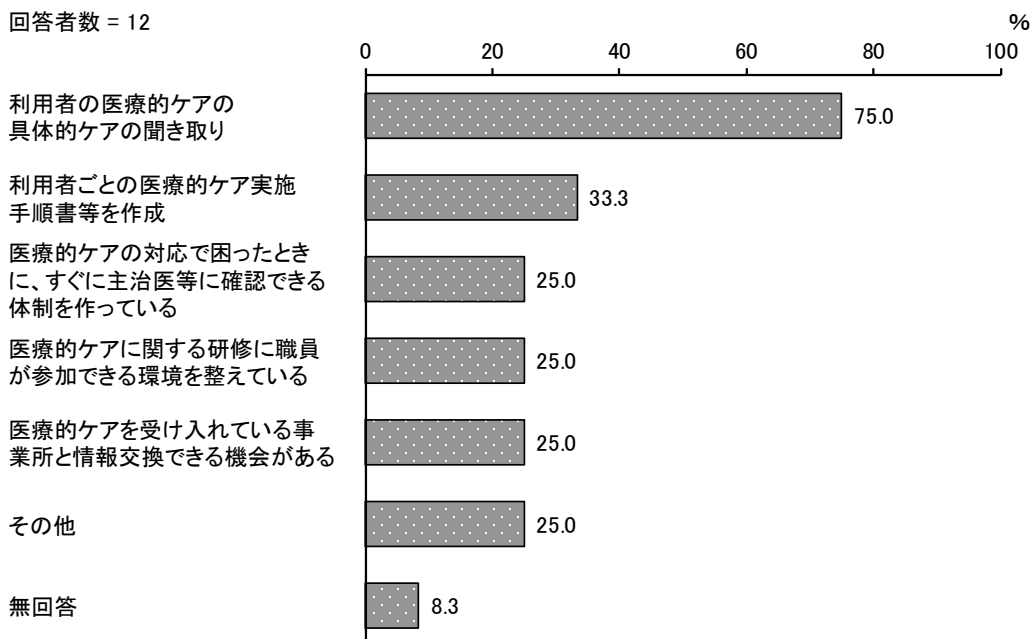
就学後～20歳未満

「5人以上」の割合が25.0%と最も高く、次いで「1人～2人」、「3人～4人」の割合が16.7%となっています。



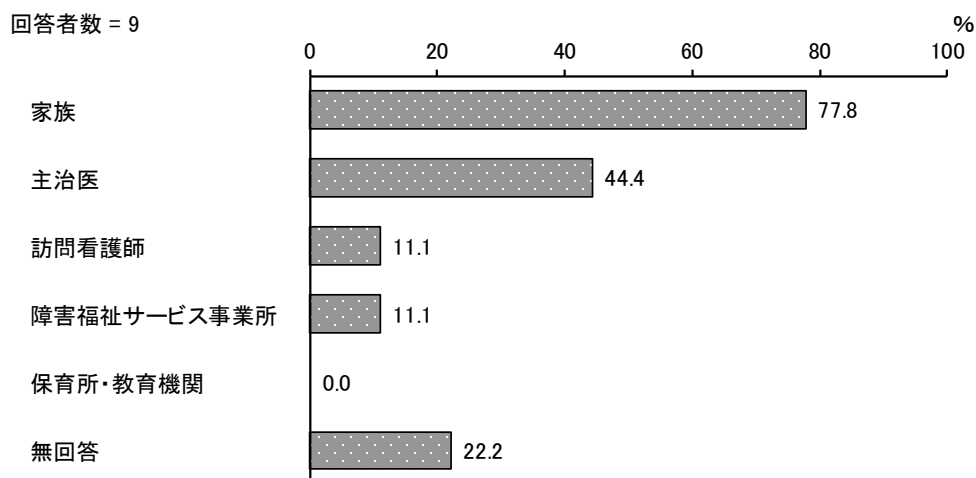
問 27. 医療的ケアを実施する（又は実施予定とする）ために、貴事業所では、どのような工夫を行っていますか。事業運営上の工夫等について、お答えください。（あてはまるもの全てに○）

「利用者の医療的ケアの具体的ケアの聞き取り」の割合が75.0%と最も高く、次いで「利用者ごとの医療的ケア実施手順書等を作成」の割合が33.3%、「医療的ケアの対応で困ったときに、すぐに主治医等に確認できる体制を作っている」、「医療的ケアに関する研修に職員が参加できる環境を整えている」の割合が25.0%となっています。



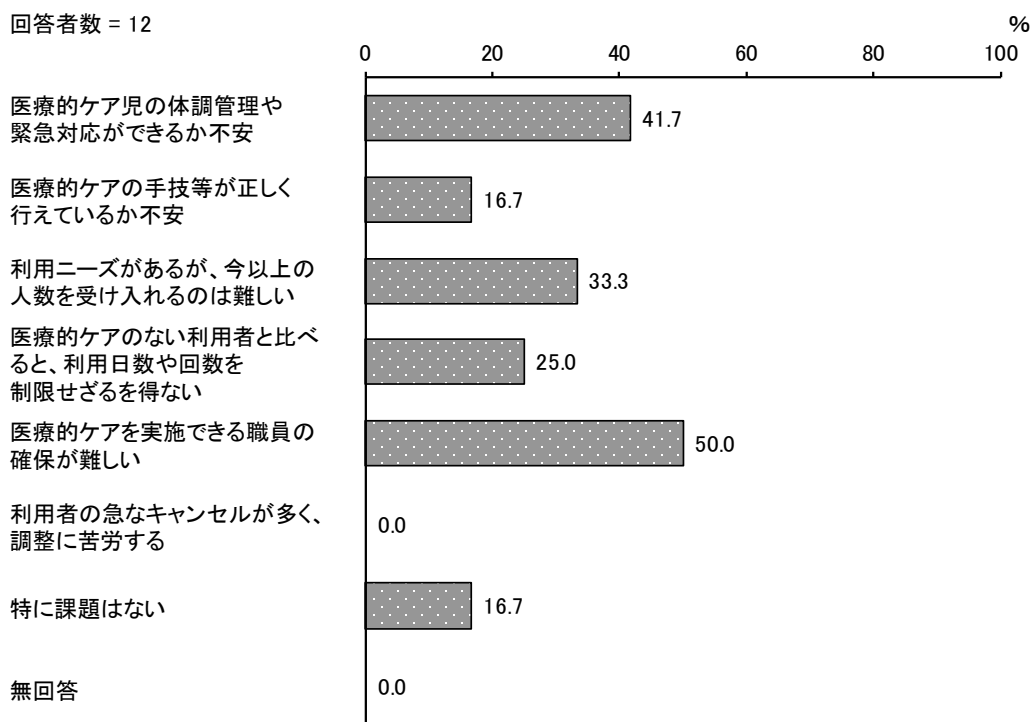
利用者の医療的ケアの具体的ケアの聞き取り

「家族」が7件となっています。「主治医」が4件、「訪問看護師」、「障害福祉サービス事業所」が1件となっています。



問 28. 医療的ケアの実施に当たって生じた事業運営への影響や、円滑な事業運営を図る上での課題などがあれば、お答えください。(あてはまるもの全てに○)

「医療的ケアを実施できる職員の確保が難しい」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「医療的ケア児の体調管理や緊急対応ができるか不安」の割合が 41.7%、「利用ニーズがあるが、今以上の人数を受け入れるのは難しい」の割合が 33.3%となっています。

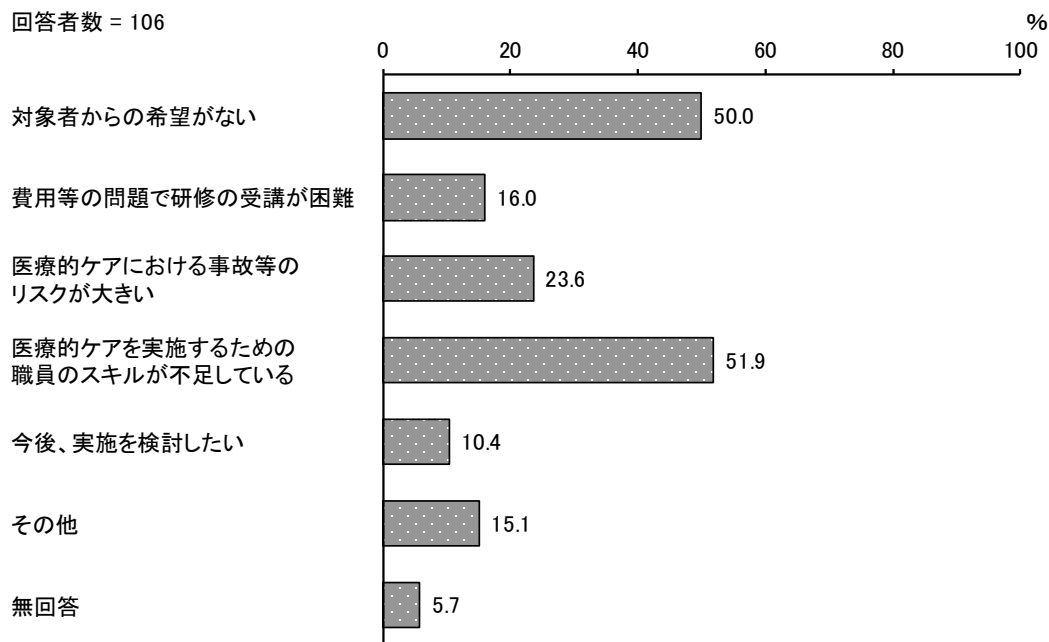


事業所

【実施していない事業所への質問です】

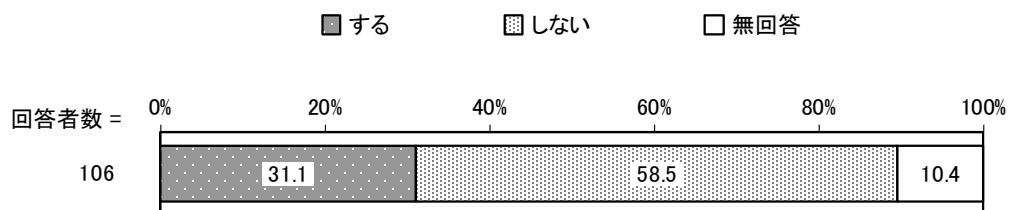
問 29. 医療的ケアを実施していない理由をお答え下さい。(あてはまるもの全てに○)

「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」の割合が 51.9%と最も高く、次いで「対象者からの希望がない」の割合が 50.0%、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」の割合が 23.6%となっています。



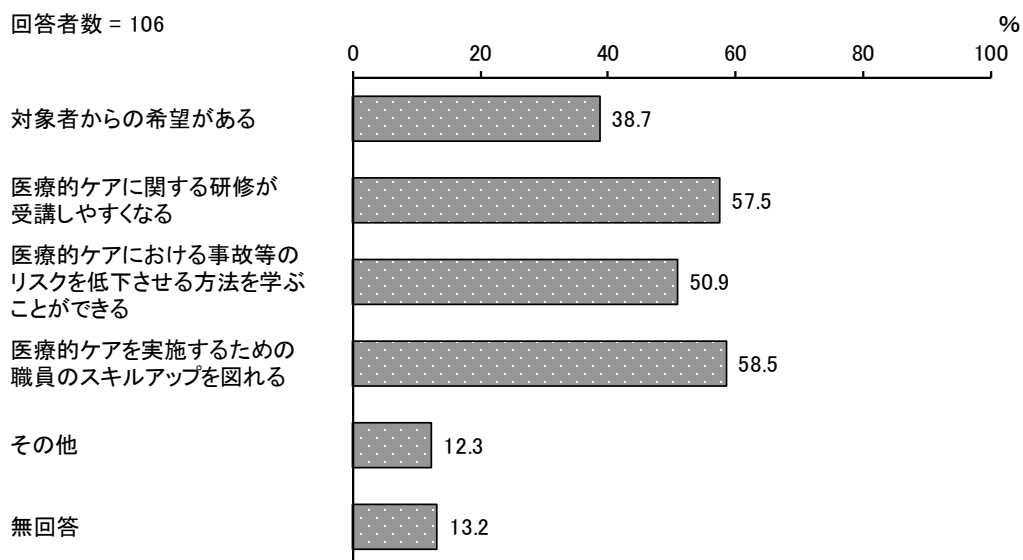
問 30. 利用者からの希望があれば実施を検討しますか。

「する」の割合が 31.1%、「しない」の割合が 58.5%となっています。



問 31. 今後、医療的ケアの実施を積極的に検討するためには、どのような事項が重要ですか。（あてはまるもの全てに○）

「医療的ケアを実施するための職員のスキルアップを図れる」の割合が 58.5%と最も高く、次いで「医療的ケアに関する研修が受講しやすくなる」の割合が 57.5%、「医療的ケアにおける事故等のリスクを低下させる方法を学ぶことができる」の割合が 50.9%となっています。

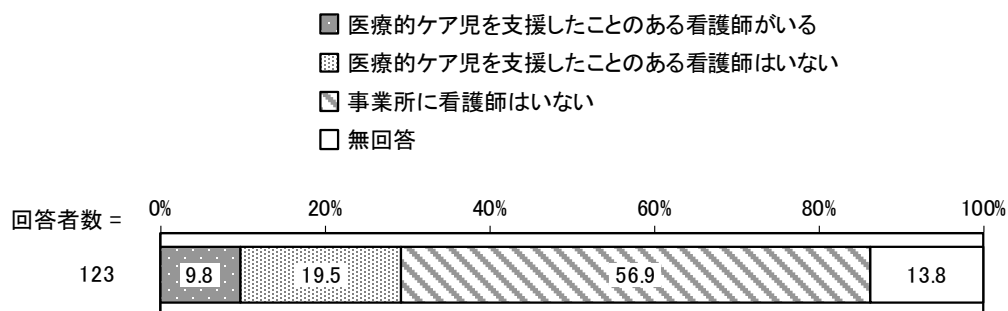


事業所

(9) 看護師による医療的ケア児への支援の実施について

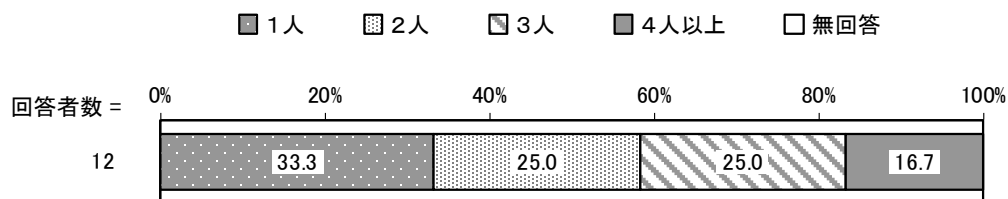
問 32. 貴事業所に、医療的ケア児を支援したことがある看護師がいますか。いる場合はその人数についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

「事業所に看護師はいない」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「医療的ケア児を支援したことがある看護師はいない」の割合が 19.5%となっています。



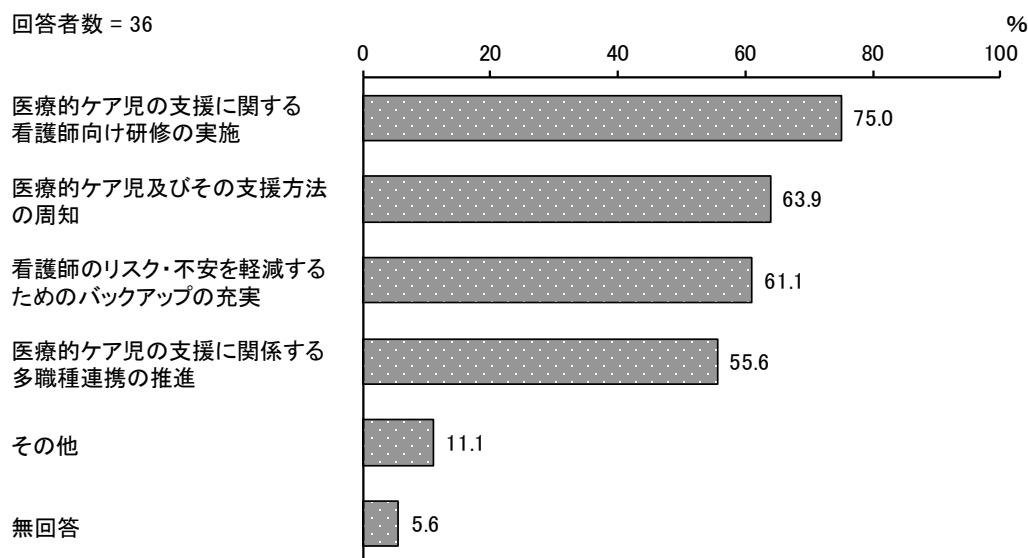
医療的ケア児を支援したことがある看護師の人数

「1人」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「2人」、「3人」の割合が 25.0%となっています。



問 33. 看護師による医療的ケア児支援を推進するためには、どのような対策が有効だと考えますか。(あてはまるもの全てに○)

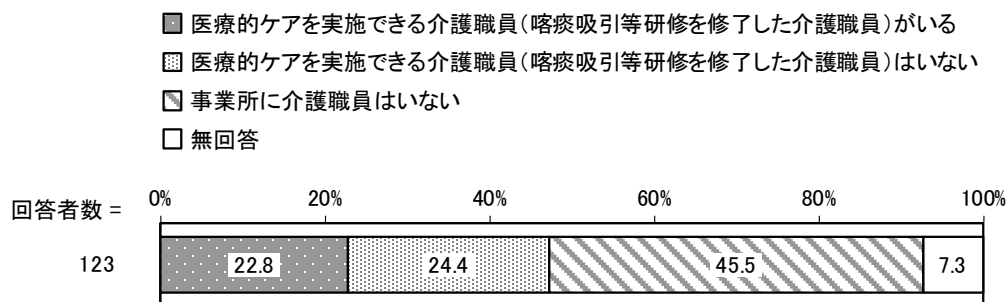
「医療的ケア児の支援に関する看護師向け研修の実施」の割合が 75.0%と最も高く、次いで「医療的ケア児及びその支援方法の周知」の割合が 63.9%、「看護師のリスク・不安を軽減するためのバックアップの充実」の割合が 61.1%となっています。



(10) 介護職員による医療的ケアの実施について

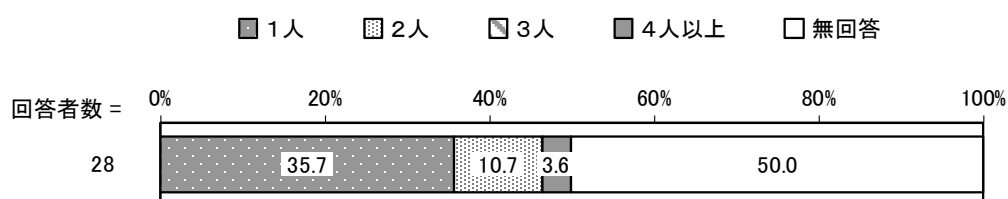
問 35. 貴事業所において、医療的ケアを実施できる介護職員（喀痰吸引等研修を修了した介護職員）がいますか。いる場合はその人数についてお答えください。
（あてはまるもの1つに○）

「事業所に介護職員はいない」の割合が45.5%と最も高く、次いで「医療的ケアを実施できる介護職員（喀痰吸引等研修を修了した介護職員）はいない。」の割合が24.4%、「医療的ケアを実施できる介護職員（喀痰吸引等研修を修了した介護職員）がいる」の割合が22.8%となっています。



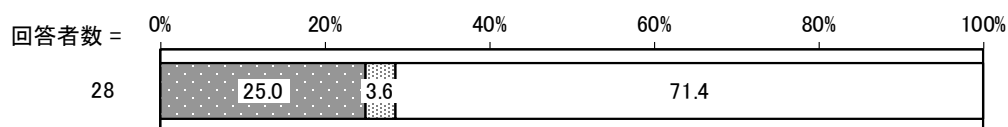
第1号不特定 人数

「1人」の割合が35.7%と最も高く、次いで「2人」の割合が10.7%となっています。



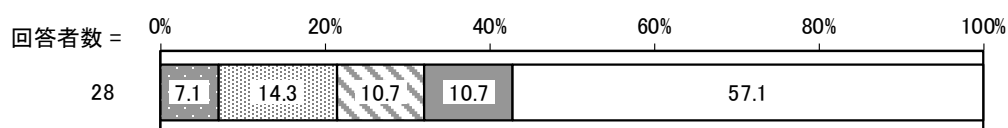
第2号不特定 人数

「1人」の割合が25.0%と最も高くなっています。



第3号特定 人数

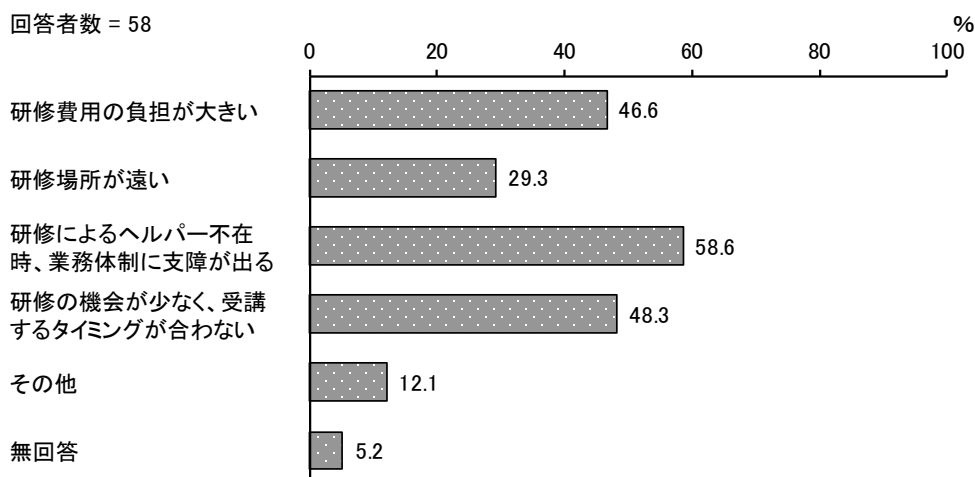
「2人」の割合が14.3%と最も高く、次いで「3人」、「4人以上」の割合が10.7%となっています。



事業所

問 36. 研修を受講する際、課題となることについてお答え下さい。
(あてはまるもの全てに○)

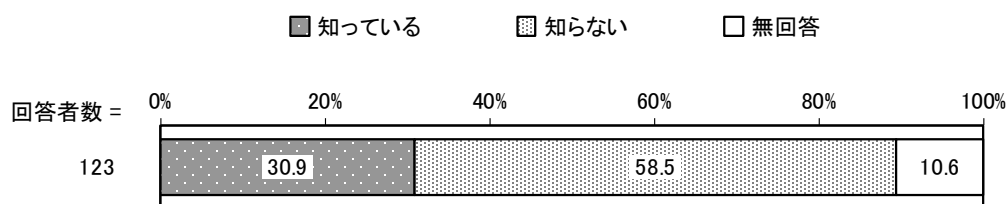
「研修によるヘルパー不在時、業務体制に支障が出る」の割合が 58.6%と最も高く、次いで「研修の機会が少なく、受講するタイミングが合わない」の割合が 48.3%、「研修費用の負担が大きい」の割合が 46.6%となっています。



(11) その他の医療的ケア児支援について

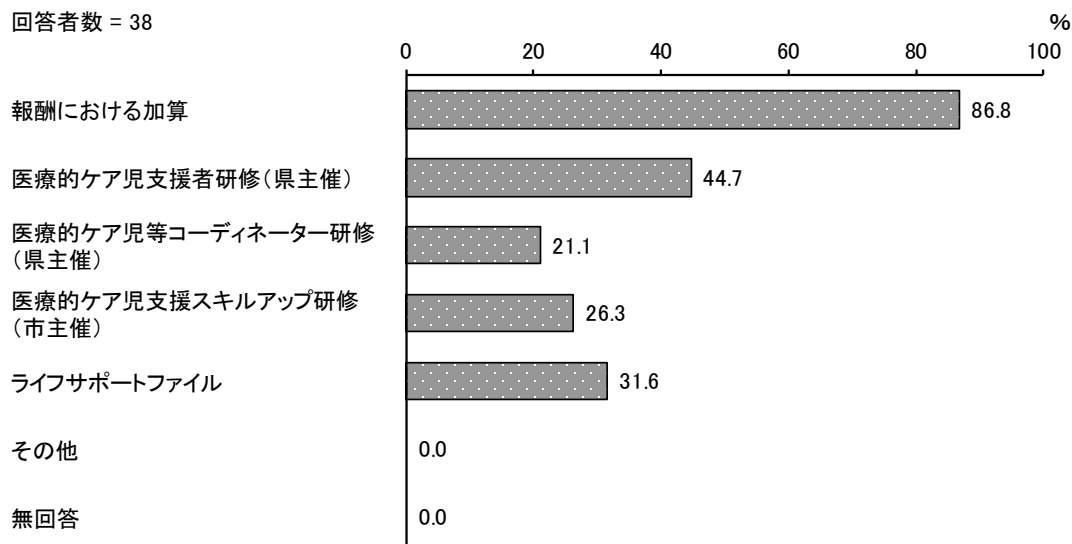
問 39. 医療的ケア児支援に対し実施されている制度上の支援をご存知ですか。

「知っている」の割合が 30.9%、「知らない」の割合が 58.5%となっています。



ご存知である支援の内容を回答ください（あてはまるもの全てに○）

「報酬における加算」の割合が 86.8%と最も高く、次いで「医療的ケア児支援者研修(県主催)」の割合が 44.7%、「ライフサポートファイル」の割合が 31.6%となっています。

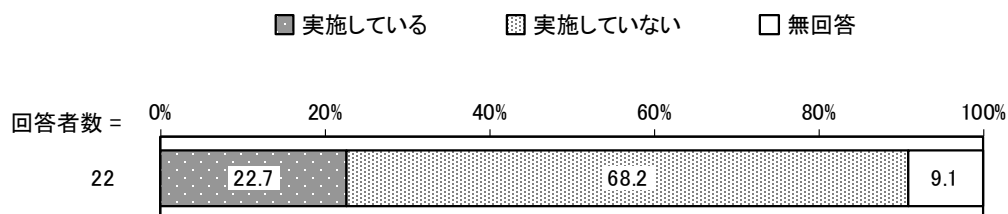


事業所

(12) 医療的ケア児の相談支援について

問 41. 現在、医療的ケア児者の相談支援を実施していますか。
(あてはまるもの1つに○)

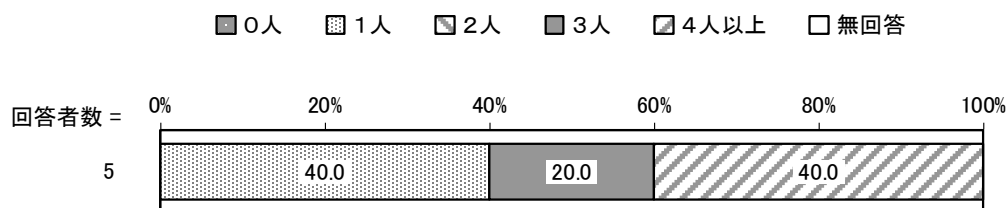
「実施している」の割合が22.7%、「実施していない」の割合が68.2%となっています。



問 42. 医療的ケア児者の計画相談を受けたことのある相談支援専門員の人数と、医療的ケア児者のサービス等利用計画作成数をお答えください。

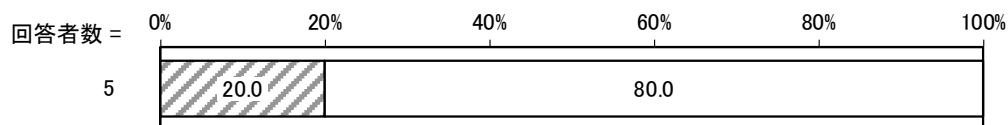
医療的ケア児者の計画相談を受けたことのある相談支援専門員人数

「1人」、「4人以上」が2件となっています。「3人」が1件となっています。



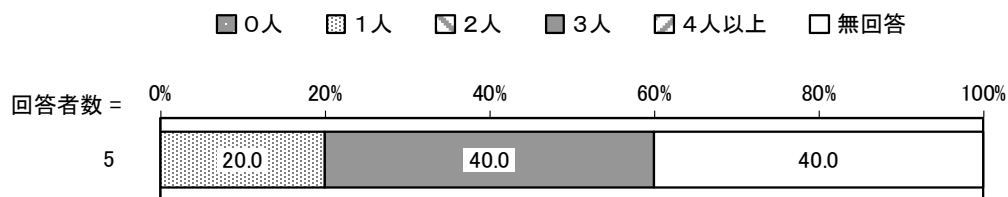
医療的ケア児者のサービス等利用計画作成人数

「4人以上」が1件となっています。



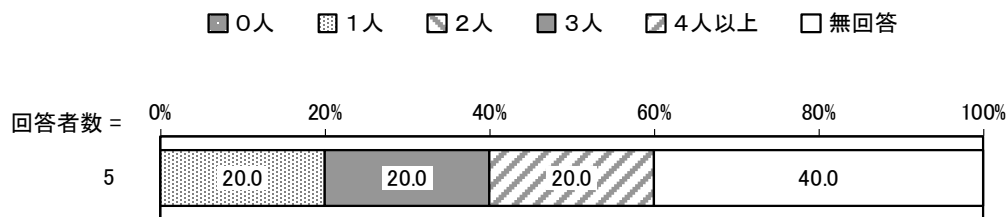
【内訳】0歳から就学前

「3人」が2件となっています。「1人」が1件となっています。



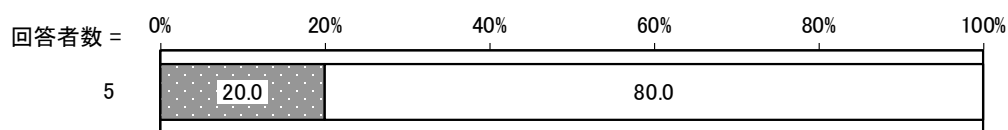
【内訳】 就学後～18 歳未満

「1人」、「3人」、「4人以上」が1件となっています。



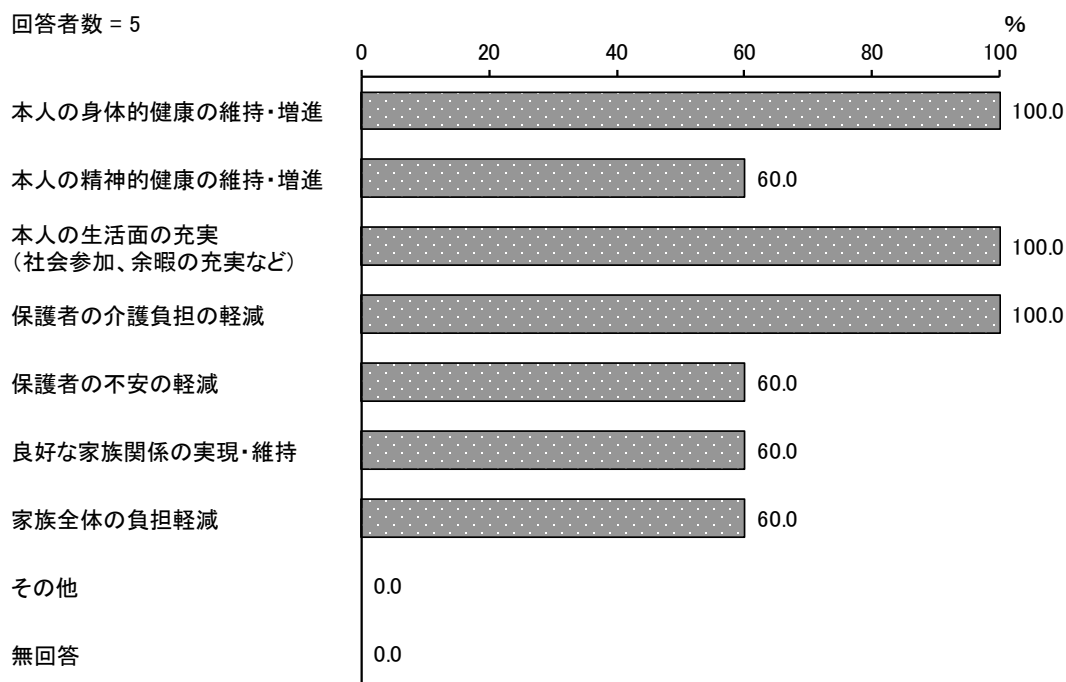
【内訳】 18 歳以上～20 歳未満

「0人」が1件となっています。



問 43. 計画作成にあたって重視する点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「本人の身体的健康の維持・増進」、「本人の生活面の充実（社会参加、余暇の充実など）」、「保護者の介護負担の軽減」が5件となっています。

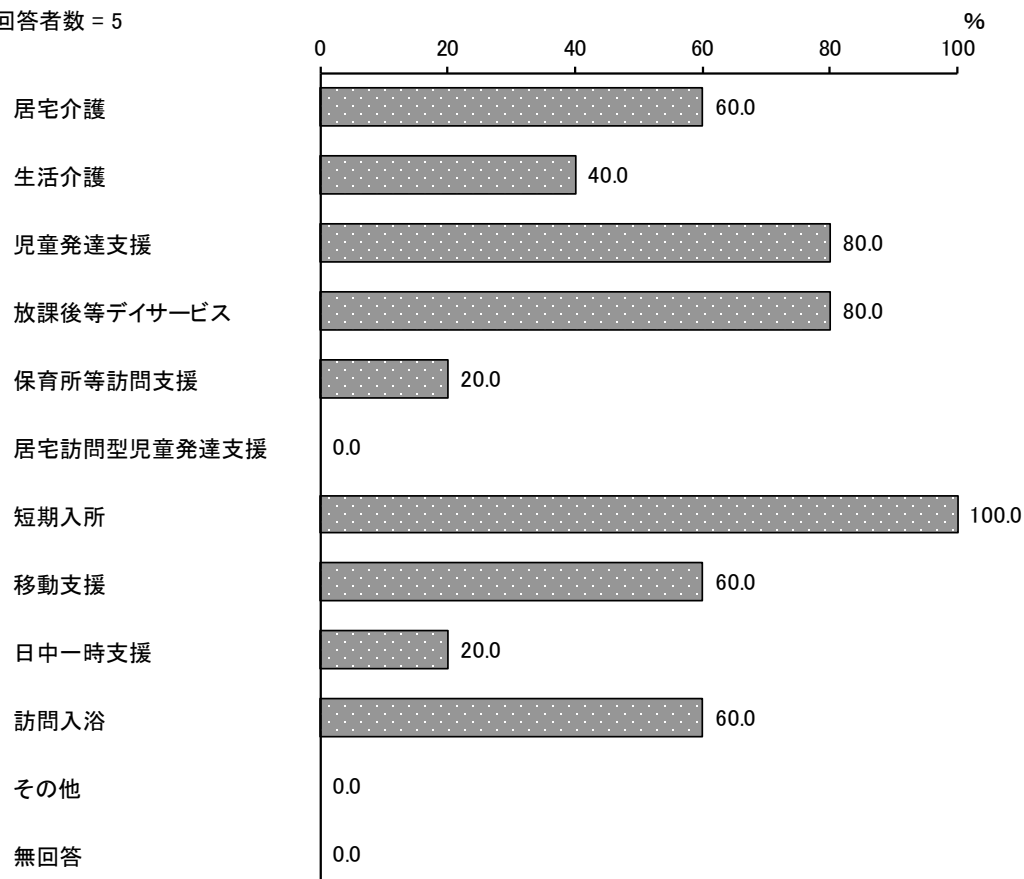


事業所

問 44. 作成した支援計画に記載したことがある福祉サービスは何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

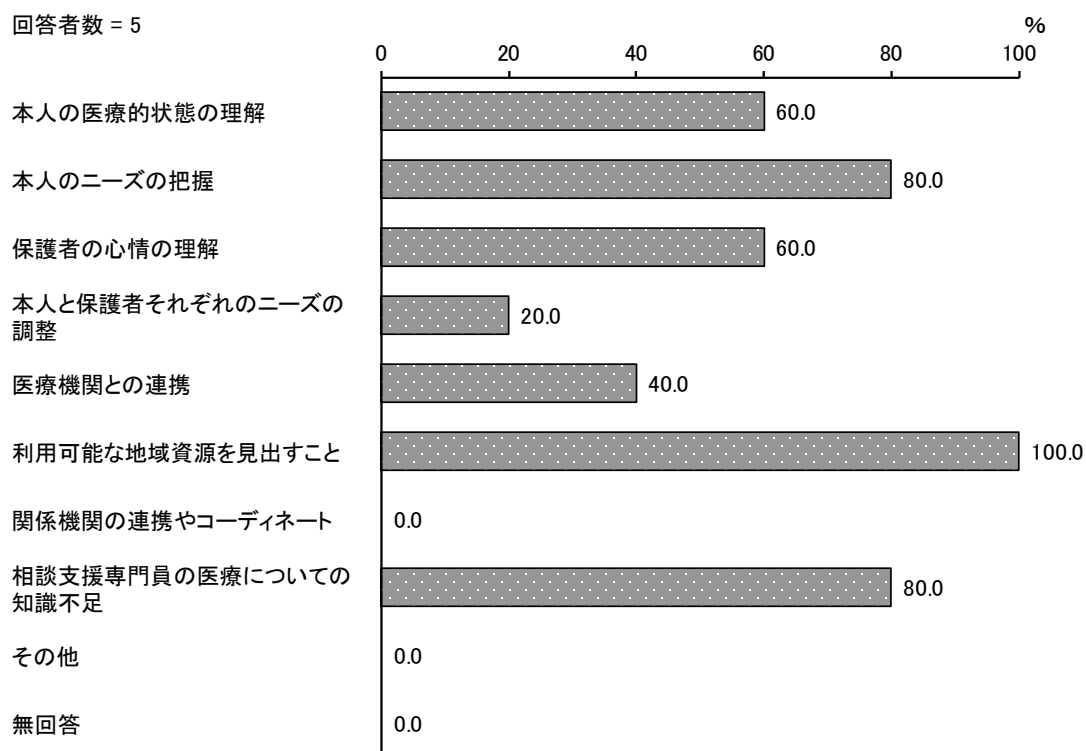
「短期入所」が5件となっています。「児童発達支援」、「放課後等デイサービス」が4件となっています。

回答者数 = 5



問 45. 計画作成にあたって困難に感じることは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「利用可能な地域資源を見出すこと」が5件となっています。「本人のニーズの把握」、「相談支援専門員の医療についての知識不足」が4件となっています。

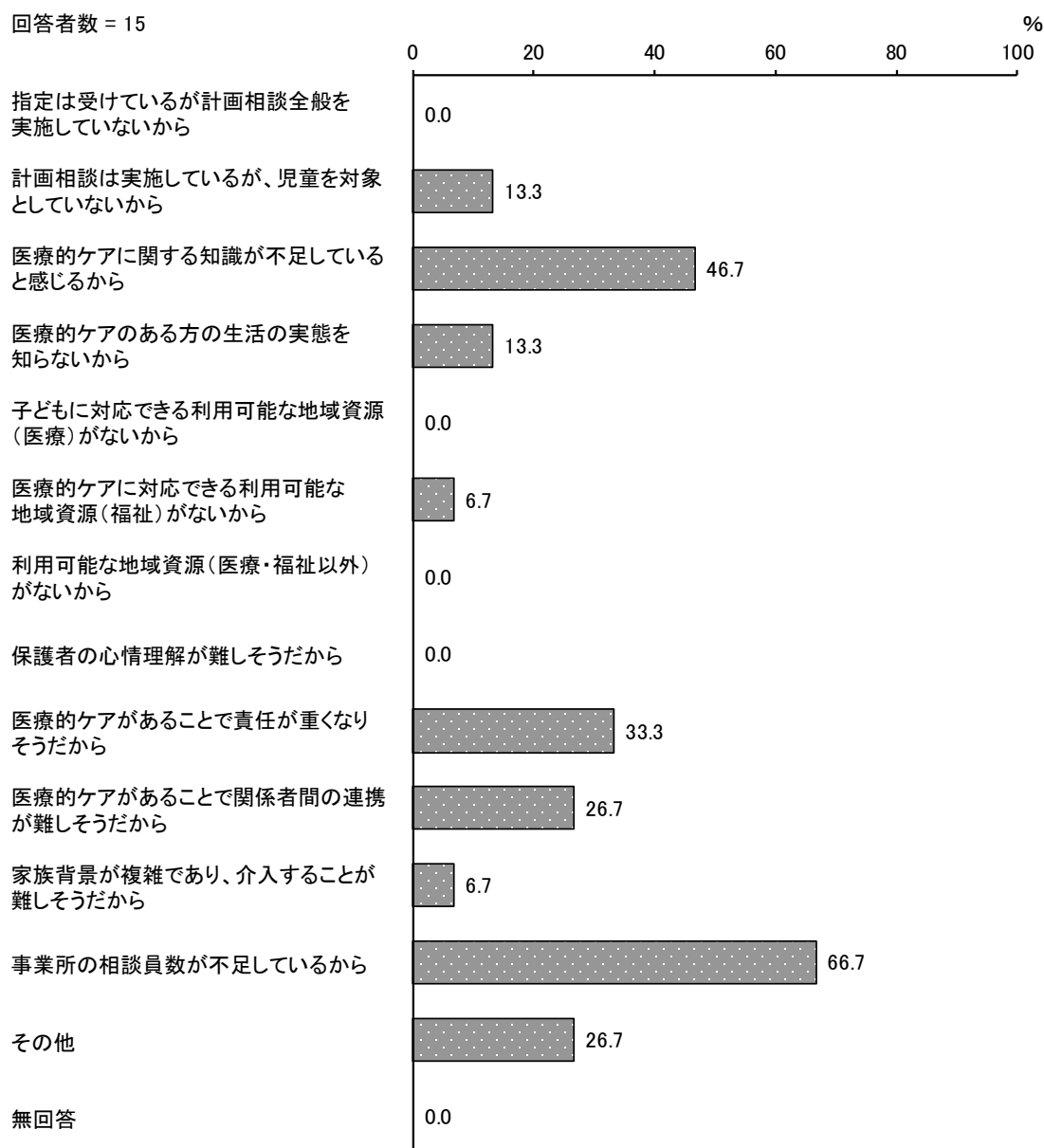


事業所

【問 46 は、問 41 で実施していないと回答した事業所への質問です】

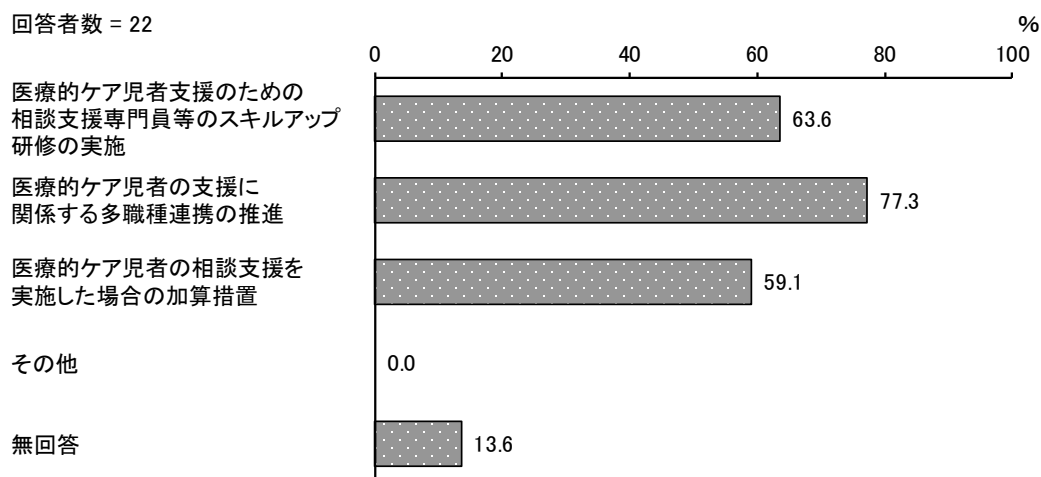
問 46. 実施していない理由としてあてはまるものをお答えください。
(あてはまるもの全てに○)

「事業所の相談員数が不足しているから」の割合が 66.7%と最も高く、次いで「医療的ケアに関する知識が不足していると感じるから」の割合が 46.7%、「医療的ケアがあることで責任が重くなりそうだから」の割合が 33.3%となっています。



問 47. 医療的ケア児者の相談支援を実施するために必要だと思う施策は何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

「医療的ケア児者の支援に関係する多職種連携の推進」の割合が 77.3%と最も高く、次いで「医療的ケア児者支援のための相談支援専門員等のスキルアップ研修の実施」の割合が 63.6%、「医療的ケア児者の相談支援を実施した場合の加算措置」の割合が 59.1%となっています。

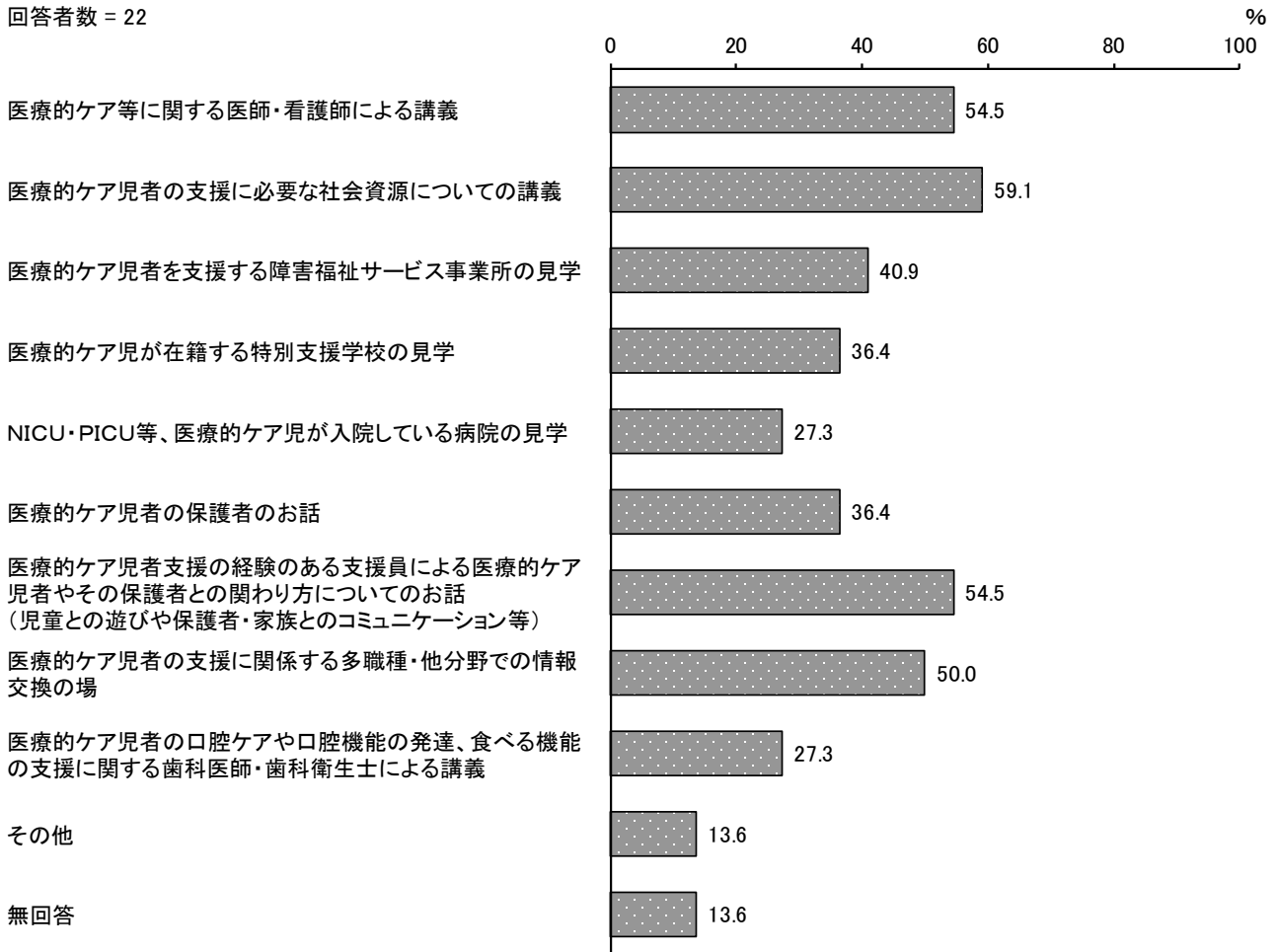


事業所

問 48. 医療的ケア児者の計画相談の実施を推進するにあたって、どのような研修が必要だと思いますか。また、どのようなことを学びたいですか。
(あてはまるもの全てに○)

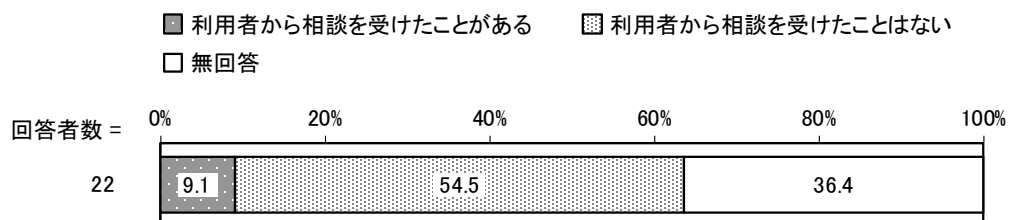
「医療的ケア児者の支援に必要な社会資源についての講義」の割合が 59.1%と最も高く、次いで「医療的ケア等に関する医師・看護師による講義」、「医療的ケア児者支援の経験のある支援員による医療的ケア児者やその保護者との関わり方についてのお話（児童との遊びや保護者・家族とのコミュニケーション等）」の割合が 54.5%となっています。

回答者数 = 22



問 50. 医療的ケア児者の計画作成にあたって、口腔ケアや食べる機能に対する支援について、利用者から相談を受けたことはありますか。(あてはまるもの1つに○)

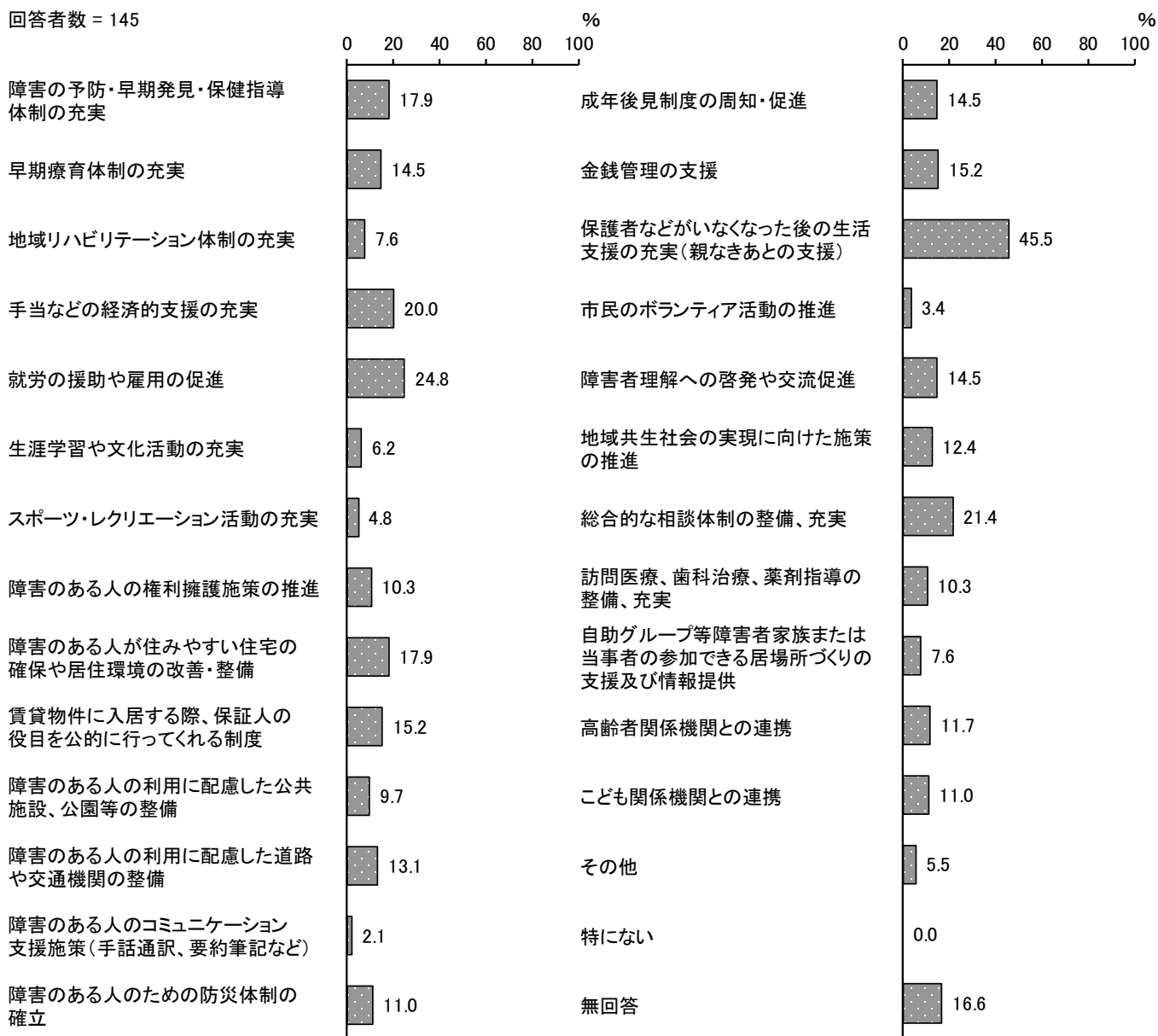
「利用者から相談を受けたことがある」の割合が 9.1%、「利用者から相談を受けたことはない」の割合が 54.5%となっています。



(13) 市への要望等について

問 53. 今後の障害福祉施策の充実に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるもの5つまでに○)

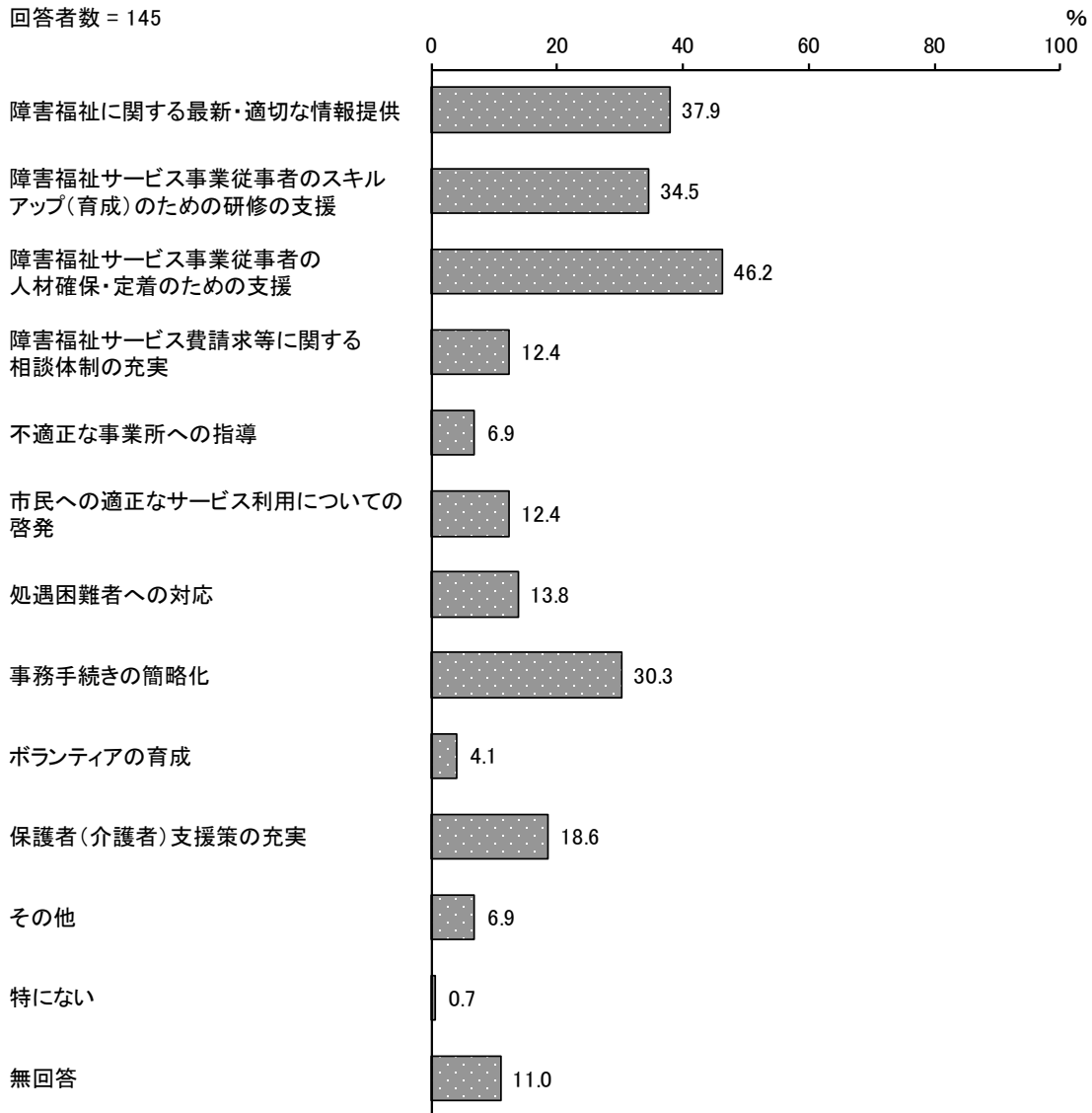
「保護者などがなくなった後の生活支援の充実（親なきあとの支援）」の割合が 45.5%と最も高く、次いで「就労の援助や雇用の促進」の割合が 24.8%、「総合的な相談体制の整備、充実」の割合が 21.4%となっています。



事業所

問 54. 貴事業所として市に対して望むことはどのようなことですか。
(あてはまるもの3つまでに○)

「障害福祉サービス事業従事者の人材確保・定着のための支援」の割合が46.2%と最も高く、次いで「障害福祉に関する最新・適切な情報提供」の割合が37.9%、「障害福祉サービス事業従事者のスキルアップ(育成)のための研修の支援」の割合が34.5%となっています。



＜自由記載欄＞市の障害福祉施策等に関してご意見がございましたらご自由にご記入ください。

「障害者施策推進体制の整備」が7件と多くなっています。

分類回答	件数
1. 療育・教育	3
(1) 障害児の療育・保育	1
(2) 障害児教育	2
2. 福祉的就労	2
3. 障害福祉サービス	5
4. 相談	2
5. 障害理解・福祉教育	2
6. 障害者施策推進体制の整備	7

Ⅲ 調査結果のまとめ

現行計画の施策体系の項目に沿ってアンケート調査結果を整理しています。

1 地域共生社会の実現に向けた相互理解の促進

(1) 市民意識について

- 障害者に関する番組やニュースなどに、関心のある市民の割合（「きわめて関心のある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合）は65.6%となっており、令和元年度調査より13.6ポイント減少しています。
- 「地域共生社会」の認知度（「内容まで知っていた」と「言葉だけは知っていた」を合わせた割合）は51.8%となっており、前回調査より9.6ポイント増加しています。一方、地域社会の中に障害者への差別・偏見があると思う市民は、身体障害者や障害児に対して約5割、知的障害・精神障害者に対して約6割となっています。また、障害者に対する理解は深まってきたと思う人は44.8%に止まっており、令和元年度調査より3.7ポイント減少しています。
- 市民の障害への関心や理解が進んでいるとは言い難く、障害者基本法や障害者差別解消法の目的とする共生社会の実現に向けて、市民の障害への理解、差別や偏見の解消のため、周知啓発をより一層充実していくことが必要です。

(2) 地域福祉活動について

- 身近な地域のボランティア活動を通して、障害のある人とない人が互いに理解しあい、共に生きていく地域共生社会の実現が求められます。
- 市民への調査結果をみると、ボランティア活動を活発にするために必要なこととして、「援助が必要な人、援助をしたい人のための相談体制・情報の充実」の割合が66.2%と最も高く、次いで「ボランティア団体の活動内容などの情報提供の充実」の割合が39.2%、「ボランティア体験などの参加機会の提供」の割合が32.7%となっています。参加意向のある市民を活動につなげていくため、活動にたいする情報提供や相談支援を充実し、ボランティア活動への参加促進を図るための仕組みが必要です。
- 地域ボランティア活動へ参加しない理由について、「参加するきっかけがないから」が43.6%、「いつ、どこで、何をやっているのか、情報が得られないから」が22.3%となっており、地域ボランティアに関する情報や活動の機会をより充実していくことが必要です。

(3) 権利擁護について

- 平成25年6月には、障害者差別解消法が公布、平成28年4月に施行され、障害者の権利擁護のための法整備が進んできている中で、市民への調査結果をみると、障害者差別解消法の認知度（内容まで知っている割合）は、障害者で6.5%、障害児で12.5%、市民で6.5%となっており、令和元年度調査と比べても変化がなく、十分な周知が図られていない状況です。
- 障害があることが原因で、日常生活の中で人権を損なう扱いを受けた経験がある人は、障害者で21.1%、障害児では31.0%となっています。障害者においては、特に精神障害者及び発

達障害者で4割程が人権を損なう扱いを受けた経験を受けており、その主な理由として精神障害者では希望する仕事に就けなかったり、労働条件や賃金において不当な扱いを受けたり、発達障害者では医療機関から受診や治療を断られたなどの意見があがっています。

- 合理的配慮の認知度は、19.7%となっており、令和元年度調査結果より3.8ポイント増加しています。また、合理的配慮を求めた人は4.1%となっています。
- 成年後見制度成年後見制度等の権利擁護にかかわる制度を活用しながら、本人の意思をできる限り尊重し、その能力を最大限生かして生活を送ることができるよう支援することが必要です。

2 ライフステージに応じた切れ目のない支援

(1) 療育について

- 障害児への調査結果をみると、障害があるとわかったきっかけとして、「家族が気づいた」の割合が44.1%と最も高く、次いで「病院で医師から指摘された」の割合が39.9%、「定期健診（乳幼児健康診査）で指摘された」の割合が24.9%となっています。そのため、障害や発達に遅れのある子どもに対しては、早期から発達段階に応じた支援を行っていくことが重要です。

(2) 教育について

- 本市では、障害のある子どもが、乳幼児期から成人期までのライフステージごとに一貫した支援が受けられるように、成育歴、関係機関、通院している医療機関などを記録して整理できる「ライフサポートファイル」を配布しています。「ライフサポートファイル」の認知度は46.6%、利用している割合は14.7%とともに令和元年度調査より増加しています。今後も利用促進に向け取り組んでいくことが必要です。
- 小学校に入学するとき、どの学校・学級に通いたいかについて「小学校の特別支援学級」の割合が31.9%と最も高く、次いで「小学校の通常学級」の割合が23.2%、「盲・ろう学校・特別支援学校(小学部)」の割合が21.7%となっています。
- 小学校(小学部)、中学校(中学部)に通っている人が、中学校を卒業後に希望している日中の過ごし方は、「盲・ろう学校・特別支援学校(高等部)」の割合が40.2%と最も高く、次いで「高等学校」の割合が26.3%となっています。
- 高等学校(高等部)に通っている人が、高等学校(高等部)を卒業後に希望している日中の過ごし方は、「通所入所などの社会福祉施設」の割合が31.3%と最も高く、次いで「会社などに勤める」の割合が27.5%、「短期大学・大学」の割合が16.8%となっています。
- 全体にみて、上級学校への進学を希望する人が多い傾向となっています。子どもたちが希望を持って生涯を過ごすことができるよう、就学前から卒業後にわたる切れ目のない教育指導や、進路選択における相談支援を行える体制を整えることが重要です。

(3) 医療的ケア児について

- 障害者の高齢化や障害の重度化、医療的ケア児や医療的ケアが必要な障害者、精神障害者、難病患者などへの支援の必要性を踏まえ、多様な障害特性にも配慮しつつ、保健・医療、福祉及びその他の施策の連携を推進することが必要となっています。[障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しについて(社会保障審議会 障害者部会 報告書 R4.6.13) (一部

抜粋]

- 医療的ケア児およびその保護者への調査結果をみると、家族による医療的ケアが困難な場合、代わりにケアを依頼できる相手がいる割合が41.9%である一方、相手がいない割合が46.5%となっています。また、依頼できる相手は、「サービスを利用している」の割合が77.8%、「人に依頼している」の割合が38.9%、となっています。
- 「主たる介護者」が医療的ケアを含む介護から、丸1日（24時間）離れることができた直近の日数について、「離れられた日はない」の割合が44.2%と最も高くなっており、介護者への負担が過多になっています。
- 医療的ケアの必要な子どもとの生活を送るうえで、主たる介護者の方が困っていることについて、「緊急で預けられるところがない」、「就労することができない、就労していても自分の望むように働くことができない」の割合が34.9%と最も高く、次いで「急変時の心配等、常に緊張を強いられて気持ちが落ち着かない」、「自分の用事（受診、買い物等）の時間をもつことができない」の割合が23.3%となっています。
- 制度等の社会資源（支援制度、施設、設備、法律、団体等）の認知度は34.9%となっており、「支援制度などの社会資源にどういったものがあるかわからない」の割合が41.9%「各種社会資源が、どのような役割を担っているのか、何ができるものなのかかわからない」の割合が27.9%と制度等の社会資源の周知が十分ではありません。
- 情報交換や相談したい内容について、「支援制度のこと」の割合が60.5%と最も高く、次いで「利用できる施設のこと」の割合が48.8%となっています。
- 事業所への調査結果をみると、医療的ケア児支援に対し実施されている制度上の支援の認知度は30.9%に止まっており、現在、医療的ケア児者の相談支援を実施している事業所は、「実施している」の割合が22.7%となっています。
- 医療的ケア児者の相談支援を実施するために必要だと思う施策は、「医療的ケア児者の支援に関係する多職種連携の推進」の割合が77.3%と最も高く、次いで「医療的ケア児者支援のための相談支援専門員等のスキルアップ研修の実施」の割合が63.6%、「医療的ケア児者の相談支援を実施した場合の加算措置」の割合が59.1%となっています。
- 医療的ケア児者の計画相談の実施を推進するにあたって、必要な研修については、「医療的ケア児者の支援に必要な社会資源についての講義」の割合が59.1%と最も高く、次いで「医療的ケア等に関する医師・看護師による講義」、「医療的ケア児者支援の経験のある支援員による医療的ケア児者やその保護者との関わり方についてのお話（児童との遊びや保護者・家族とのコミュニケーション等）」の割合が54.5%となっています。
- 医療的ケアが必要な児童が増えることが予測されるため、地域生活支援拠点の整備とあわせて、保健・医療・福祉・教育等の関係機関の一層の連携強化が必要となります。

3 生きがいをもった社会参加の促進について

(1) 障害者の就労について

- 現在、日中を主な過ごし方について、「家庭内で過ごしている」の割合が45.1%と最も高くなっています。また、在宅勤務や自営業も含め就労している人は22.9%となっています。家庭で過ごしている人を年代別でみると、健康上の理由や高齢などの理由で60歳代、70歳代

の半数以上が家庭内で過ごしている状況となっています。

- 現在の日中の過ごし方と将来の日中の過ごし方の希望をクロス集計した結果、現在は「家庭内で過ごしている」と回答したもののうち、17.2%は就労、通所等を将来希望していることが分かりました。
- 働きやすい労働条件について、「雇い主が病気や障害について理解したうえで雇ってくれる」の割合が29.3%と最も高く、次いで「体調に合わせて出勤日数や労働時間を調整できる」の割合が29.0%となっています。
- 障害者の雇用促進の充実に向け、障害者への理解や就労環境の改善促進に取り組んでいく必要があります。

(2) 地域とつながるスポーツ・文化活動等について

- 障害者のスポーツ・文化活動等について「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」や「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」が整備されており、施策の推進が図られています。
- 障害者が気軽に外出したり、地域の行事に参加できるなど、本市は「障害のある人にとって社会参加しやすいまち」だと思える割合は10.2%となっています。また、「障害のある人にとって社会参加しやすいまち」だと思わない理由として、「移動しやすい交通機関や道路の整備」の割合が45.0%と最も高く、次いで「参加しやすいような配慮」の割合が41.4%、「利用しやすい施設の整備」の割合が36.3%となっています。
- 障害者の文化・スポーツ活動などをより一層活発にするために必要なことについて、「障害のある人が参加しやすい体制づくり」の割合が23.1%と最も高く、次いで「障害のある人に配慮した施設・設備の充実」の割合が19.9%、「活動のための情報の周知または広報」が16.7%となっています。
- 生涯学習、文化・スポーツ活動などの体制を充実することは、障害者の生きがいや社会参加の促進につながります。障がいのある人とない人が相互の理解を深めるとともに、障害者の生活の質の向上を図り、能力や個性、「意欲に応じて積極的に社会参加できる環境づくり」が重要です。今後も、多様な交流機会づくりに努め、障害者の社会参加を促進し、その能力や個性を引き出すことができるよう、関係団体、地域組織等との連携を図っていく必要があります。

4 自立した地域生活の支援

(1) 障害の発症予防について

- 障害がわかった時期については、「70歳以上」の割合が17.5%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が14.0%、「50歳代」の割合が13.5%となっています。
- 障害や病気の種類については、「内部障害」の割合が25.9%と最も高く、次いで「肢体不自由」の割合が25.7%、「精神障害」の割合が17.0%となっており、障害や病気の早期発見、早期治療を行うとともに、障害の原因となる傷病の予防が必要です。
- 医療機関の利用状況をみると、「通院中」の割合が78.7%と最も高くなっています。また健康管理や医療について困ったり、不便に思うことについて、「特に困ったことはない」の割合が45.9%となっている一方で「医療費の負担が大きい」の割合が15.9%、「専門的な治療を

行っている医療機関が近くにない」の割合が 13.7%となっており、引き続き、医療費等の助成や健康維持・増進への推進が必要です。

(2) 障害福祉サービスについて

- 障害者の福祉サービスの利用状況をみると、「利用したことがある」割合が 23.8%となっており令和元年度調査と比べ、5.7 ポイント増加しています。また、今後 3 年間の障害福祉サービス等の利用意向をみると、各サービスにおいて、1 割から 4 割の人が増やしたいと考えています。
- 福祉サービスに対する多様なニーズや今後の利用が高い中、障害者の個々のニーズや実態に応じて適切な支援が行えるよう、居宅介護や生活介護、短期入所などの在宅サービスの量的・質的な充実が求められます。
- 障害者の介護者の状況を年齢別でみると、60 歳代以上の障害者の介護者で 60 歳以上の人の割合は約 7 割となっており、老々介護が顕著となっています。また、介護時間が一番長い人の健康状態を年齢別でみると、良好な人は 60 歳代で 37.0%、70 歳代で 27.7%、80 歳以上で 14.5%となっており、年齢が上がるにつれ良好な人が減少し、「病弱・病気で定期的に通院している」「体力的に疲れている」の割合が増加しており、老々介護者等への負担軽減に向けた支援に向けた取り組みの充実が必要です。

(3) 生活の安定のための支援について

- 障害者の現在の暮らしの状況について、「たいへんゆとりがある」と「まあまあゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”の割合が、11.2%、「ふつう」の割合が 48.1%、「やや苦しい」と「苦しい」をあわせた“苦しい”の割合が 36.5%となっています。
- これから特に力を入れてほしい障害者施策について、「手当などの経済的支援の充実」の割合が 33.1%と最も高く、次いで「保護者などがいなくなった後の生活支援の充実」の割合が 28.6%となっています。
- 障害者が地域で安心して生活していくためには、経済的に安定していることが重要であり、年金や手当の適正な支給や税の減免等、諸制度の周知を図っていく必要があります。

(4) 相談支援について

- 本市では障害者等から虐待・差別を含む障害分野の相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行う窓口として基幹相談支援センターを設置しており、その認知度をみると 23.2%となっており、令和元年度調査と比較すると、11.8 ポイント増加しています。
- 「福祉まるごと相談窓口」の認知度は、13.5%と 1 割程度となっています。
- 障害者の心配事についての相談先としては、「家族・親戚」の割合が 66.6%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 24.1%、「病院・診療所など医療機関の職員」の割合が 20.6%となっています。
- 個々の障害者のニーズや実態に応じて適切な支援が行えるよう、相談機関の周知・場の充実や、支援につなげる連携体制を強化し、相談体制を充実していくことが必要です。

(5) 情報アクセシビリティについて

- 障害者や家族の方の福祉サービスなどの必要な情報の入手先について「市の広報紙などのお知らせ」の割合が26.9%と最も高く、次いで「市の相談窓口（市役所・障害者福祉センターなど）」の割合が25.6%、「インターネット」の割合が24.4%となっています。
- 現在、障害者の福祉に関する情報の入手方法の満足度について、「十分」と「ほぼ十分」をあわせた“十分”の割合が16.3%、「やや不十分」と「まったく不十分」をあわせた“不十分”の割合が31.3%となっています。
- 現在、知りたい情報については、「特になし」を除いて、「各種障害福祉サービスの利用に関すること」の割合が21.3%、「医療に関すること」の割合が16.2%となっています。
- 福祉に関する情報の入手について困っていることとして、「どこに情報があるかわからない」の割合が39.5%と最も高く、次いで「情報の内容がむずかしい」の割合が15.5%となっています。障害者が、福祉サービスや生活に関する情報を、必要なときに手軽に入手することができるよう情報提供の充実が必要です。

5 安全・安心なまちづくりの推進

(1) 生活しやすいまちづくり

- 障害者の住まいの状況をみると、「持家（一戸建て）」の割合が50.4%と最も高く、次いで「持家（集合住宅）」の割合が16.2%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」の割合が15.1%となっています。
- また、将来の暮らし方の希望をみると、「自宅で家族と暮らす」の割合が41.9%と最も高く、次いで「自宅で福祉サービスを利用しながらひとりで暮らす」の割合が14.6%となっています。住まい別でみると、福祉施設（グループホームなどを含む）に入所している人で自宅での暮らしを希望する人は1割程度となっています。
- 地域生活支援拠点等については、地域生活の安心の確保を図るための緊急時の短期入所の受入体制の整備を図るとともに、入所施設や精神科病院等における地域移行のニーズの把握と働きかけの実施、地域移行支援や体験利用へのつなぎなどの地域移行の推進に向けた役割を担うことが重要となっています。[障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しについて（社会保障審議会 障害者部会 報告書 R4.6.13）（一部 抜粋）]本市では、緊急事態への対応として、介護者の急病や事故などの、やむを得ない理由により、残された本人が生活を維持できない場合などの緊急時に、事前登録をしている方に対し、概ね1週間、短期入所等へ入所できる「緊急一時支援」を行っており、その認知度と利用意向をみると、障害者で認知度は12.3%、利用意向は14.2%、障害児で認知度は16.7%、利用意向は24.8%となっています。
- 障害者で、外出をするときに支援の必要性について、「いつも支援が必要」の割合が17.7%、「普段は一人で行けるが、調子が悪い場合は支援が必要」の割合が10.8%となっています。
- 外出のとき、困ることについて、「特に不便や困ることはない」の割合が29.6%となっている一方、「道路や駅に階段や段差が多い」の割合が24.7%、「歩道が少ない・狭い」の割合が20.2%となっています。障害の有無にかかわらず誰でも利用しやすい公共施設や公共交通機関等、さらなるバリアフリー化やユニバーサルデザインを取り入れた整備を進めていくことが求められます。

(2) 防犯・防災及び感染症について

- 障害者の災害時の避難所・避難場所の認知度をみると、63.3%となっており、令和元年調査結果との変化はみられません。また、福祉避難所の所在の認知度をみると、10.3%となっています。
- 災害時に避難するときに支援が必要な人は、43.0%となっており、その内は、一緒に避難してくれる人がいる人は、昼間で63.6%、夜間で75.6%となっている一方で、一緒に避難してくれる人がいない人もいます。
- 避難行動要支援者支援制度の認知度をみると、令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。
- 災害時に備えて力を入れてほしいことについて「病気・障害の種類ごとの必要に対応した設備やサービス」「病気や障害のある人が避難するための地域ぐるみの協力体制の確立」、「避難先での医療・治療体制の整備」の意見が上位にあがっています。
- 災害発生時における避難行動に支援が必要な方に対して、地域の人々が協力して助け合う共助の推進に取り組むとともに、災害発生時の迅速かつ適切な情報提供、避難支援体制の強化、避難生活における安全・安心の確保等に向け取り組んでいくことが必要です。

(3) 感染症対策について

- 事業所では感染症対策について「感染を予防するための備品（使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等）を常備」、「職員・利用者に対する手洗い・うがいの励行」、「サービスを利用する前の利用者の健康チェックの徹底」等に取り組んでいます。
- 事業所において、今般の新型コロナウイルスの対策で、困ったことについて「職員の勤務体制の調整」の割合が51.0%と最も高く、次いで「利用者の利用可否の判断」の割合が40.7%、「在宅支援の対応」の割合が31.7%となっています。今後も、新しい生活様式等の感染拡大防止策の周知啓発に努め、感染症等の発生時に備えた対応が必要です。